佐賀県文化財調査報告書　第220集
小川内遺跡Ⅱ・小川内小学校遺跡
二〇一八年三月　佐賀県教育委員会

小川内（おがわち）遺跡Ⅱ・

小川内小学校（おがわちしょうがっこう）遺跡

– 福岡県営五ケ山ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 –

2018 年 3 月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書 第 220 集

小川内（おがわち）遺跡Ⅱ・小川内小学校（おがわちしょうがっこう）遺跡

– 福岡県営五ケ山ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 –

2018 年 3 月

佐賀県教育委員会

序

本書は、福岡県営五ケ山ダム建設に伴い平成 25 ～ 27 年度に佐賀県教育委員会が実施した吉野ヶ里町松隈に所在する小川内遺跡及び小川内小学校遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

小川内遺跡が所在する旧小川内集落は、脊振山の分水嶺を越えた吉野ヶ里町の最北端に位置していた集落です。古くは脊振山山岳信仰の舞台として、江戸時代には苗字・帯刀が許された「山内刀指し」として藩境や水路の警備にあたっていました。また、近年ではその地理的特性より、農山村の原風景を色濃く残した地区として注目されていました。

今回の発掘調査では、江戸時代の建物跡や桶埋設遺構等を検出し、往時の生活様式が明らかになるとともに、柿右衛門様式の色絵等、様々な遺物により城下町に類する生活水準にあったことが明らかとなりました。

本書の成果が文化財に対する認識や理解の向上、ひいては埋蔵文化財をとおした地域づくり・人づくりに貢献できれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査の実施に際しまして、深い御理解と多大な御協力を賜りました地元・関係各位に心より厚くお礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

佐賀県教育委員会

教育長　白水　敏光

例　言

1　本報告書は、福岡県営五ケ山ダム建設に伴い、平成 25 年 11 月から平成 27 年 3 月にかけて本調査を実施した佐賀県神崎郡吉野ヶ里町松隈字小川内字前田に所在する小川内遺跡 3 ～ 6 区及び同町松隈字古小川内に所在する小川内小学校遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　五ケ山ダムの事業主体である福岡県五ケ山ダム建設事務所の依頼を受け、佐賀県教育委員会文化財課が調査主体となり発掘調査、遺物・調査記録類の整理、報告書作成を実施した。

3　発掘調査は、佐賀県教育庁文化財課の管理の下、株式会社埋蔵文化財サポートシステムに発掘調査支援業務を委託して実施した。

4　発掘調査に当たっては、福岡県五ケ山ダム建設事務所、福岡県教育委員会文化財保護課、福岡県那珂川町教育委員会、地元各位、佐賀県吉野ヶ里町教育委員会の協力を得た。

5　調査記録の整理と報告書作成作業は、佐賀県教育委員会文化財課、佐賀県文化財調査研究資料室で実施し、遺物実測及びトレースの一部については株式会社埋蔵文化財サポートシステム、株式会社パスコ佐賀支店及び大信技術開発佐賀営業所に委託し、遺物図版編集及び出土木製品の保存処理については株式会社とっぺんに委託した。

6　調査を実施した小川内遺跡 3 ～ 6 区及び小川内小学校遺跡に関する調査記録類、出土遺物は佐賀県教育委員会にて保管している。

7　発掘調査及び報告書作成に当っては、佐賀県立九州陶磁文化館及び国立大学法人佐賀大学からご指導・ご助言を頂いた。また、出土した陶磁器類に関しては、大橋康二氏 (佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問) からご教示を賜った。

凡　例

1　小川内遺跡（遺跡番号吉野ヶ里 0001・中近世集落跡『佐賀県遺跡地図』2010　佐賀県教育委員会）の遺跡略号は「ＯＧＷ」(「佐賀県遺跡台帳」登録略語) であり、小川内小学校遺跡 (遺跡番号吉野ヶ里 0002・近世集落跡『佐賀県遺跡地図』2010 佐賀県教育委員会) の遺跡略号は「ＯＧＳ」(「佐賀県遺跡台帳」登録略語) とした。

2　遺構の種別表記は次のとおりである。

ＳＢ：掘立柱建物、ＳＫ：土坑・石組遺構、ＳＤ：溝跡、ＳＡ：柵列、ＳＷ：石垣、
ＳＦ：道路状遺構、ＳＥ：井戸、ＳＸ：桶埋設遺構・自然流路・造成土・不明遺構、
ＳＪ：土器埋設遺構、Ｐ：小穴・柱穴、

3　各遺構番号は、年度ごとに 0001 から連番とし、5 桁目の数字は調査区番号を付している。

4　土色及び土器等の胎土は「新版　標準土色帖 2001 年版」(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色表監修) による。

5　本報告書は日本測地系、平面直角座標系 2 系を使用し、磁気偏角は西偏 7 度 10 分 (2015.0 年値) である。

本文目次

第Ⅰ章　調査の経過・調査組織 …… 1 ～ 6
　1　調査の経過… ……1
　2　調査組織 ……4
第Ⅱ章　地理的・歴史的環境 ……7 ～ 11
　1　地理的環境 ……7
　2　歴史的環境 ……8
第Ⅲ章　小川内遺跡の概要 ……12 ～ 15
第Ⅳ章　小川内遺跡３区 ……16 ～ 39
　1　３区の調査概要 ……16
　2　３区の遺構と遺物 ……16
第Ⅴ章　小川内遺跡４区 ……40 ～ 41
　1　４区の調査 ……40
　2　４区の出土遺物 ……40
第Ⅵ章　小川内遺跡５区……42 ～ 124
　1　５区の調査概要 ……42
　2　５区の遺構と遺物 ……42
第Ⅶ章　小川内遺跡６区 ……125 ～ 219
　1　６区の調査概要 ……125
　2　６区の遺構と遺物 ……125
第Ⅷ章　小川内小学校遺跡 ……220 ～ 229
　1　小川内小学校遺跡の概要 ……220
　2　石垣の調査 ……220
　3　遺物包含層の確認 ……225
　4　小結 ……226

挿図目次

図１　調査対象地位置図……1
図２　五ケ山ダム計画平面図……3
図３　小川内遺跡周辺の遺跡分布図 (1/50,000) ……9
図４　小川内遺跡・小川内小学校遺跡位置図 (1/5,000) ……13
図５　小川内遺跡グリッド配置図 (1/2,000) ……14
図６　小川内遺跡調査区平坦面区割図 ……15
図７　小川内遺跡３区地形測量図 (1/1,000) ……17
図８　３区遺構配置図 (1/400) ……18
図９　石垣 SW30001-1・2 (1/100) ……20
図 10　石垣 SW30001-3・4・30002-1・2 (1/100) ……21
図 11　SA30003・SD3008・SX30011 (1/40) ……22
図 12　SY30004 (1/40) ……24
図 13　SY30005 (1/40) ……25
図 14　SY30006 (1/40) ……26

図 15　SY30007 (1/40) ……28
図 16　SY30009 (1/40) ……29
図 17　SY30010 (1/40) ……30
図 18　3 区の遺物実測図 1 (1/3) ……32
図 19　3 区の遺物実測図 2 (1/3、1/2)……33
図 20　大山祇神社地形測量図 (1/500)……35
図 21　大山祇神社石垣 A 立面図 (1/80) ……36
図 22　大山祇神社石垣 B・C・D・E・F 面立面図 (1/80) ……38
図 23　大山祇神社石垣 G・H・I・J 面立面図 (1/80)……39
図 24　4 区の遺物実測図 (1/3) ……40
図 25　4 区遺構配置図 (1/200) ……41
図 26　5 区地形測量図 (1/1,000) ……43
図 27　平坦面 5A-1(1/200) ……44
図 28　平坦面 5A-1　SX50006 土層図 (1/60)……45
図 29　平坦面 5A-1 の遺物実測図 1(1/3) ……47
図 30　平坦面 5A-1 の遺物実測図 2(1/3)……48
図 31　平坦面 5A-1 の遺物実測図 3(1/2) ……49
図 32　平坦面 5A-1 の遺物実測図 4(1/2) ……51
図 33　平坦面 5A-1　SB50202(1/80)、SK50222・223(1/40) ……52
図 34　平坦面 5A-1　SK50031・32・33(1/40)……54
図 35　平坦面 5A-1　SA50159・199・200・201(1/80)……55
図 36　平坦面 5A-1　SW50002・5(1/100)……57
図 37　平坦面 5A-1　SF50003(1/80) ……58
図 38　平坦面 5A-2(1/200)……60
図 39　平坦面 5A-4・5・7(1/200) ……61
図 40　平坦面 5A-6・8(1/200) ……63
図 41　平坦面 5A-6　SB50090(1/80)、SK50340、SE50135(1/40) ……65
図 42　平坦面 5A-6 の遺物実測図 (1/3、1/2、1/6) ……66
図 43　平坦面 5A-7　SB50060・70(1/80) ……68
図 44　平坦面 5A-7　SA50055、SK50105・113・123、SJ50065、SX50035(1/40)……70
図 45　平坦面 5A-7 の遺物実測図 1(1/3) ……71
図 46　平坦面 5A-7 の遺物実測図 2(1/2)……72
図 47　平坦面 5A-7　SE50030(1/40) ……74
図 48　平坦面 5A-9・10、5B-19(1/200)……75
図 49　平坦面 5B-11・12・13(1/200)……76
図 50　平坦面 5B-11・12　SK50230・231、SJ50228(1/40)、SA50236(1/80) ……79
図 51　平坦面 5B-11・12・13(1/3) ……80
図 52　平坦面 5B-12・13　SD50243・50244・50259、SA50195(1/80) ……81
図 53　平坦面 5B-14・17(1/200)……82
図 54　平坦面 5B-14　SX50383(1/80) ……84
図 55　平坦面 5B-14 の遺物実測図 1(1/3) ……86
図 56　平坦面 5B-14 の遺物実測図 2(1/3) ……87

図 57　平坦面 5B-14　SK50247 ～ 249・287・260・278・284、SJ50262(1/40)……89
図 58　平坦面 5B-14 の遺物実測図 3(1/3) ……90
図 59　平坦面 5B-14　SE50270・283(1/40)……92
図 60　平坦面 5B-14　SD50265(1/80) ……93
図 61　平坦面 5B-14　SD50281(1/40) ……94
図 62　平坦面 5B-14　SW50385・386(1/100)……96
図 63　平坦面 5B-14 の遺物実測図 4(1/3) ……98
図 64　平坦面 5B-14 の遺物実測図 5(1/3) ……99
図 65　平坦面 5B-14 の遺物実測図 6(1/2、1/1)……100
図 66　平坦面 5B-15・16(1/200) ……101
図 67　平坦面 5B-15　SK50310・313・319・320、SJ50296(1/40) ……103
図 68　平坦面 5B-16　SK50295・298、SJ50289(1/40)、SD50290(1/80)……104
図 69　平坦面 5B-15・16 の遺物実測図 (1/3・1/2) ……105
図 70　平坦面 5B-17　SK50268・269・275・277・279(1/40) ……108
図 71　平坦面 5B-17 の遺物実測図 1(1/3) ……109
図 72　平坦面 5B-17 の遺物実測図 2(1/3、1/2、1/6) ……110
図 73　平坦面 5B-18(1/200) ……112
図 74　平坦面 5B-18　SB50380(1/80、1/20) ……113
図 75　平坦面 5B-18　SA50398(1/20)、SK50325・343・345・365・379・384(1/40) ……115
図 76　平坦面 5B-18 の遺物実測図 1(1/3) ……117
図 77　平坦面 5B-18　SX50344(1/60)……119
図 78　平坦面 5B-18 の遺物実測図 2(1/3、1/2、1/1) ……120
図 79　平坦面 5B-18 の遺物実測図 3(1/4、1/10、1/2) ……121
図 80　平坦面 5B-18 の遺物実測図 4(1/5) ……122
図 81　平坦面 5B-19　SE50312(1/40)……124
図 82　小川内遺跡 6 区地形測量図 (1/1,000) ……126
図 83　平坦面 6-1(1/200)……127
図 84　平坦面 6-1　SB6001(1/80)……129
図 85　平坦面 6-1　SA60002(1/80)、SK6003・4・5(1/40) ……131
図 86　平坦面 6-1 の遺物実測図 1(1/3) ……132
図 87　平坦面 6-1 の遺物実測図 2(1/2、1/6) ……133
図 88　平坦面 6-2・3・4(1/200) ……135
図 89　平坦面 6-1・2 土層図 (1/60) ……137
図 90　平坦面 6-2 土層図 (1/60)……138
図 91　平坦面 6-2　SK60017・18(1/40)……139
図 92　平坦面 6-2 の遺物実測図 (1/3、1/1、1/2) ……140
図 93　平坦面 6-3 土層図 1(1/60) ……142
図 94　平坦面 6-3 土層図 2(1/60) ……143
図 95　平坦面 6-3 の遺物実測図 (1/3、1/2) ……144
図 96　平坦面 6-7(西)(1/200) ……146
図 97　平坦面 6-5・6・7(東)(1/200) ……147
図 98　平坦面 6-7(東)-2(1/200) ……148

図 99　平坦面 6-7　土層図 (1/60) ……149
図 100　平坦面 6-7　SB60019(1/80) ……151
図 101　平坦面 6-7 の遺物実測図 1(1/3) ……152
図 102　平坦面 6-7　SB60020(1/80) ……154
図 103　平坦面 6-7　SB60021(1/80) ……155
図 104　平坦面 6-7　SB60022(1/80)、SK60031・34(1/40) ……157
図 105　平坦面 6-7 の遺物実測図 2(1/3、1/2、1/6、1/1) ……158
図 106　平坦面 6-8(1/200) ……160
図 107　平坦面 6-8・9 土層図 (1/60) ……161
図 108　平坦面 6-8-2・3(1/200) ……162
図 109　平坦面 6-8-2　SW60105・106・107・108(1/100) ……163
図 110　平坦面 6-8 の遺物実測図 1(1/3) ……164
図 111　平坦面 6-8 の遺物実測図 2(1/3) ……165
図 112　平坦面 6-8 の遺物実測図 3(1/1、1/2、1/6)……166
図 113　平坦面 6-8-2 の遺物実測図 1(1/3) ……168
図 114　平坦面 6-8-2 の遺物実測図 2(1/3、1/6)……169
図 115　平坦面 6-8-2 の遺物実測図 3(1/3) ……170
図 116　平坦面 6-8-2・3 の遺物実測図 4(1/3、1/2、1/1、1/6) ……171
図 117　平坦面 6-9(1/200) ……172
図 118　平坦面 6-9-2(1/200) ……173
図 119　平坦面 6-9 の遺物実測図 1(1/3) ……175
図 120　平坦面 6-9 の遺物実測図 2(1/3) ……176
図 121　平坦面 6-9 の遺物実測図 3(1/2、1/1、1/6) ……177
図 122　平坦面 6-9-2 の遺物実測図 (1/1、1/2、1/6) ……178
図 123　平坦面 6-10・11・17(1/200) ……179
図 124　平坦面 6-10・17　トレンチ土層図 (1/60)、平坦面 6-12　SK60035(1/40) ……180
図 125　平坦面 6-12・13・14(1/200) ……182
図 126　平坦面 6-13　トレンチ 1・2 土層図 (1/60) ……183
図 127　平坦面 6-13　SB60036(1/80) ……185
図 128　平坦面 6-13　SB60037・60038(1/80) ……187
図 129　平坦面 6-13　SD60042・45・46・47(1/80)、SK60041(1/40) ……188
図 130　平坦面 6-13　SW60043・44(1/120)……189
図 131　平坦面 6-13 の遺物実測図 (1/3、1/2) …… 191
図 132　平坦面 6-15・16(1/200) ……193
図 133　平坦面 6-15・16　トレンチ土層図 (1/60)……195
図 134　平坦面 6-16　トレンチ土層図 2・SD600055(1/60) ……196
図 135　平坦面 6-16　SB60058(1/80) ……197
図 136　平坦面 6-16 の遺物実測図 1(1/3)……198
図 137　平坦面 6-16　SK60049・59、P64・69(1/40)……199
図 138　平坦面 6-16　SX60048(1/40) ……201
図 139　平坦面 6-16　SX60050・51(1/40)……202
図 140　平坦面 6-16　SX60052・53(1/40)……204

図 141　平坦面 6-16　SW60056(1/100) ……206
図 142　平坦面 6-16 の遺物実測図 2(1/3、1/2) ……207
図 143　平坦面 6-16 の遺物実測図 3(1/6、1/2) ……208
図 144　平坦面 6-16 の遺物実測図 4(1/2、1/6) ……209
図 145　平坦面 6-14・16 の遺物実測図 5(1/2、1/1) ……210
図 146　平坦面 6-17　SB60080(1/80) ……211
図 147　平坦面 6-17　SJ60082・84、SK60083・85・89(1/40) ……215
図 148　平坦面 6-17 の遺物実測図 (1/3、1/2、1/1)……216
図 149　平坦面 6-17　SX60088(1/40)……217
図 150　平坦面 6-17　SW60086・87・99・SA60081(1/80)……218
図 151　小川内小学校遺跡地形測量図 (1/500) ……221
図 152　小川内小学校遺跡周辺地形図 1(1/1,000) ……222
図 153　小川内小学校遺跡周辺地形図 2(1/500) ……223
図 154　小川内小学校遺跡遺構配置図 (1/200)……224
図 155　小川内小学校遺跡の遺物実測図 (1/3、1/2) ……226
図 156　試掘坑 3 東・トレンチ 1 北・1 南・2 南土層図 (1/60)……227
図 157　トレンチ 4 西・6 東・7 東土層図 (1/60) ……228

表目次

表 1　小川内遺跡出土遺構一覧表 (掘立柱建物) ……230
表 2　小川内遺跡出土遺構一覧表 (柵列) ……230
表 3　小川内遺跡出土遺構一覧表 (土坑) ……230 ～ 232
表 4　小川内遺跡出土遺構一覧表 (炭窯) ……232
表 5　小川内遺跡出土遺構一覧表 (甕埋設遺構) ……233
表 6　小川内遺跡出土遺構一覧表 (井戸) ……233
表 7　小川内遺跡出土遺構一覧表 (溝) ……233
表 8　小川内遺跡出土遺構一覧表 (不明遺構) ……234
表 9　小川内遺跡出土遺構一覧表 (石垣) ……234
表 10　小川内遺跡 3 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器) ……235 ～ 236
表 11　小川内遺跡 4 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器) ……236
表 12　小川内遺跡 5 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器) ……237 ～ 242
表 13　小川内遺跡 6 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器) ……243 ～ 248
表 14　小川内遺跡出土遺物観察表 (土製品) ……249
表 15　小川内遺跡出土遺物観察表 (鉄製品) ……250
表 16　小川内遺跡出土遺物観察表 (青銅製品) ……250
表 17　小川内遺跡出土遺物観察表 (銭貨) ……250
表 18　小川内遺跡出土遺物観察表 (石器・石製品) ……251
表 19　小川内遺跡出土遺物観察表 (石臼) ……252
表 20　小川内遺跡出土遺物観察表 (木製品) ……252
表 21　小川内小学校遺跡出土遺物観察表 (石器) ……253

写真図版目次

写真図版 1

1. 五ヶ山ダム（北から）
2. 五ヶ山ダム（南から）
3. 小川内遺跡遠景（南東から）

写真図版 2

1. 小川内遺跡遠景 (北西から)
2. 小川内遺跡調査前全景 (北から)
3. 小川内遺跡調査前全景

写真図版 3

1. 小川内遺跡 3 区全景
2. 小川内遺跡 3 区炭窯 1
3. 小川内遺跡 3 区炭窯 2

写真図版 4

1. 小川内遺跡 4 区全景
2. 小川内遺跡 5A 区全景
3. 小川内遺跡 5B 区全景

写真図版 5

1. 小川内遺跡　平坦面 5A-1 全景
2. 小川内遺跡　平坦面 5A-6・7 全景
3. 小川内遺跡　平坦面 5B-14 全景

写真図版 6

1. 小川内遺跡　平坦面 5B-18 全景
2. 小川内遺跡 6 区全景
3. 小川内遺跡 6 区西半全景

写真図版 7

1. 小川内遺跡　平坦面 6-1 ～ 3 全景
2. 小川内遺跡　平坦面 6-7 ～ 10 全景
3. 小川内遺跡　平坦面 6-1 全景

写真図版 8

1. 小川内遺跡　平坦面 6-7 全景
2. 小川内遺跡 6 区東半全景
3. 小川内遺跡　平坦面 6-12 ～ 14 全景

写真図版 9

1. 小川内遺跡　平坦面 6-16 全景
2. 小川内遺跡　平坦面 6-17 全景
3. 小川内遺跡全景 (合成)

写真図版 10

1. 3 区北側完掘状況 (東から）
2. 3 区完掘状況 (南東から)
3. 3 区完掘状況 (南東から ）
4. 3 区中央付近完掘状況 (東から)
5. 3 区中央付近完掘状況 (東から）
6. 3 区中央付近完掘状況 (東から)
7. 3 区南側完掘状況 (東から）
8. 3 区南側完掘状況 (南東から）

写真図版 11

1. 3 区 AP-33 区造成土ﾄﾚﾝﾁ（ 西から）
2. 3 区 .SW30001 西側 (北東から）
3. 3 区 SW30001 東側 (北西から）
4. 3 区 SW30001 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層 (西から）
5. 3 区 SW30002 石垣
6. 3 区 SW30002 石垣
7. 3 区 SA30003 完掘状況 (東から）
8. 3 区 SD30008 完掘状況 (西から)

写真図版 12

1. 3 区 SY30004・5・6 完掘状況 (西から）
2. 3 区 SY30004 検出状況 (北から）
3. 3 区 SY30004 床面検出状況 (北から ）
4. 3 区 SY30004 煙道部断面 (東から）
5. 3 区 SY30004 灰原土層 (東から）
6. 3 区 SY30004 完掘状況 (北から)
7. 3 区 SY30005 検出状況 (北から）
8. 3 区 SY30005 完掘状況 (北から）

写真図版 13

1. 3 区 SY30006 完掘状況 (北から）
2. 3 区 SY30006 土層 (東から）
3. 3 区 SY30006 煙道部断面 (東から）
4. 3 区 SY30007(北から）
5. 3 区 SY30007 南北土層 (東から）
6. 3 区 SY30007 煙道部 (北から）
7. 3 区 SY30009(北から）
8. 3 区 SY30009 南北土層 (東から)

写真図版 14

1. 3 区 SY30010(北から）
2. 3 区 SY30010 煙道部 完掘状況 (北から）
3. 3 区 SY30010 南北土層 (東から）
4. 3 区 SY30010 東西土層 (北から）
5. 3 区 SX30011 完掘状況 (北から）
6. 3 区作業風景
7. 3 区実測風景
8. 3 区全景 (北東から）

写真図版 15

1. 大山祇神社石垣 A (北東から）
2. 大山祇神社石垣 B (北西から）
3. 大山祇神社石垣 C (南西から）
4. 大山祇神社石垣 E (北東から）
5. 大山祇神社石垣 F (北から）
6. 大山祇神社石垣 G・H (南から）
7. 大山祇神社石垣 I (東から）
8. 大山祇神社石垣 J (北から）

写真図版 16

1. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 (南から）
2. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 a (西から）
3. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 b 検出 (東から）
4. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 b (西から）
5. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 c (西から）
6. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 d (北から）
7. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 2 断面 a (南から）
8. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 2 断面 b (西から)

写真図版 17

1. 4 区全景 (南東から)
2. 4 区東側完掘状況 (南西から）
3. 4 区東側完掘状況 (西から）
4. 4 区中央完掘状況 (北東から）
5. 4 区西側完掘状況 (南西から）
6. 4 区作業風景
7. 4 区作業風景
8. 4 区全景 (西から）

写真図版 18

1. 平坦面 5A-1 SX50006 6 層上面完掘状況 (南から)
2. 平坦面 5A-1 SX50006_6 層上面完掘状況 (北から)
3. 平坦面 5A-1 SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1 北壁 (南東から)
4. 平坦面 5A-1 SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2 西壁 (東から)
5. 平坦面 5A-1 SW50002 全景（南東から）
6. 平坦面 5A-1 SF50003 北側石垣（北から）
7. 平坦面 5A-1 SW50005 全景（南から）
8. 平坦面 5A-1 SB50202 (北西から）

写真図版 19

1. 平坦面 5A-1 SA50200・50201（北から)
2. 平坦面 5A-1 SK50031 土層断面（北から）
3. 平坦面 5A-1 SK50032 東西ﾍﾞﾙﾄ土層（北から)
4. 平坦面 5A-1 SK50033(西から)
5. 平坦面 5A-1 SD50148 土層断面 (南から)
6. 平坦面 5A-1 作業風景
7. 平坦面 5A-3 AH・AI － 6・7 検出状況 (西から)
8. 平坦面 5A-4 SK50106 東西ﾍﾞﾙﾄ土層 (南から)

写真図版 20

1. 平坦面 5A-6 SB50090(西から)
2. 平坦面 5A-6 SK50340 桶検出状況 (南から)
3. 平坦面 5A-6 SE50135 石組井戸 (北から)
4. 平坦面 5A-6 SE50135 井戸枠 (南から)
5. 平坦面 5A-7 SB50060(西から）
6. 平坦面 5A-7 SB50070（西から)
7. 平坦面 5A-7 SA50055(東から)
8. 平坦面 5A-7 SJ50065 埋甕 (南から)

写真図版 21

1. 平坦面 5A-7 SX50035 検出状況（東から）
2. 平坦面 5A-7 SX50035（南から）
3. 平坦面 5A-7 SE50030 石組井戸 (南から）
4. 平坦面 5A-7 SE50030 井戸枠（南から）
5. 平坦面 5B-11 AF-6 区遺構完掘状況（北から）
6. 平坦面 5B-11 SK50231（東から）
7. 平坦面 5B-11 SJ50228（北から）
8. 平坦面 5B-11 AF-6・7 区ﾄﾚﾝﾁ西壁 (東から)

写真図版 22

1. 平坦面 5B-12 SA50236(北から)
2. 平坦面 5B-12 SD50243・244(西から)
3. 平坦面 5B-12 SD50243 土層断面 (西から)
4. 平坦面 5B-12 SD50244 土層断面 (東から)
5. 平坦面 5B-13 AG-10 区検出状況 (南から)
6. 平坦面 5B-13 AG-10 区完掘状況 (南から)
7. 平坦面 5B-14 SW50385（東から）
8. 平坦面 5B-14 SW50386（南から)

写真図版 23

1. 平坦面 5B-14 SX50383 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層（北から）
2. 平坦面 5B-14 SX50383 ﾄﾚﾝﾁ 2 東壁（南西から）
3. 平坦面 5B-14 SK50260 検出状況（南から）
4. 平坦面 5B-14 SK50284 炭化物検出状況（北から）
5. 平坦面 5B-14 SJ50262 埋甕（東から）
6. 平坦面 5B-14 SE50270（東から）
7. 平坦面 5B-14 SE50283（東から）
8. 平坦面 5B-14 SD50265・281（西から）

写真図版 24

1. 平坦面 5B-15 SK50319 土層断面 (南から)
2. 平坦面 5B-15 SJ50296 土層断面 (西から)
3. 平坦面 5B-16 AN-14・15 区ﾄﾚﾝﾁ 2 土層 (東から)
4. 平坦面 5B-16 SD50290 土層断面 (東から)
5. 平坦面 5B-16 SK50295 炭化物検出状況 (東から)
6. 平坦面 5B-16 SJ50289(南から）
7. 平坦面 5B-17 SW50001 全景（東から）
8. 平坦面 5B-17 SK50268 土層断面（北から）

写真図版 25

1. 平坦面 5B-18 AP-17 区完掘状況（南西から）
2. 平坦面 5B-18 SB50380（西から）
3. 平坦面 5B-18 P50367 土層断面（南から）
4. 平坦面 5B-18 P50367 遺物出土状況（南から）
5. 平坦面 5B-18 SK50325 遺物出土状況（北から）
6. 平坦面 5B-18 SK50343（西から）
7. 平坦面 5B-18 SX50345(南から)
8. 平坦面 5B-18 SX50344 南北ﾍﾞﾙﾄ土層 (東から)

写真図版 26

1. 平坦面 5B-18 SX50344 東西ベルト土層 (南から)
2. 平坦面 5B-18 SA50398 (西から)
3. 平坦面 5B-18 SA50398 (北から)
4. 平坦面 5B-18 SA50398 杭 2 (東から)
5. 平坦面 5B-18 SA50398 杭 3 (東から)
6. 平坦面 5B-18 SA50398 杭 8 (北から)
7. 平坦面 5B-19 AR-20 区完掘状況 (西から)
8. 平坦面 5B-19 SE50312(北から)

写真図版 27

1. 平坦面 6-1 完掘状況 (南から)
2. 平坦面 6-1 トレンチ 1 (西から)
3. 平坦面 6-1 トレンチ 1 (西から)
4. 平坦面 6-1 SB60001(西から)
5. 平坦面 6-1 SB60001 No.2 (北から)
6. 平坦面 6-1 SB60001 No.5(西から)
7. 平坦面 6-1 SB60001 No.7 (南から)
8. 平坦面 6-1 SA6002(南から)

写真図版 28

1. 平坦面 6-1 SK60003 (南から)
2. 平坦面 6-1 SK60003 礫除去後 (南から)
3. 平坦面 6-1 SK60004 (東から)
4. 平坦面 6-1 SK60005 土層断面 (南から)
5. 平坦面 6-1 石垣 (北から)
6. 平坦面 6-1 石垣 (北から)
7. 平坦面 6-1 石垣 (北から)
8. 平坦面 6-1 石垣 (北から)

写真図版 29

1. 平坦面 6-2 完掘状況西側 (南から)
2. 平坦面 6-2 完掘状況 (北東から)
3. 平坦面 6-2 トレンチ 1 土層断面 (西から)
4. 平坦面 6-2 トレンチ 2 土層断面 (南から)
5. 平坦面 6-2 トレンチ 3 土層断面 (北西から)
6. 平坦面 6-2 トレンチ 4 土層断面 (東から)
7. 平坦面 6-2 トレンチ 5 土層断面 (東から)
8. 平坦面 6-2 トレンチ 6 西壁土層断面 (東から)

写真図版 30

1. 平坦面 6-2 トレンチ 7 西壁土層断面 (東から)
2. 平坦面 6-2 SK60017 完掘状況 (東から)
3. 平坦面 6-2 SK60018 (東から)
4. 平坦面 6-2 暗渠 (北東から)
5. 平坦面 6-2 石垣 (北から)
6. 平坦面 6-2 石垣 (北から)
7. 平坦面 6-2 石垣 (北から)
8. 平坦面 6-2 石垣 (北から)

写真図版 31

1. 平坦面 6-3 完掘状況 (西から)
2. 平坦面 6-3 完掘状況 (東から)
3. 平坦面 6-3 完掘状況 (西から)
4. 平坦面 6-3 トレンチ 1 南壁土層断面 (北から)
5. 平坦面 6-3 トレンチ 2 西壁土層断面（ 東から）
6. 平坦面 6-3 トレンチ 3 北壁土層断面（ 南から)
7. 平坦面 6-3 トレンチ 4 西壁土層断面（ 東から)
8. 平坦面 6-3 トレンチ 5 北壁土層断面 (南から)

写真図版 32

1. 平坦面 6-3 トレンチ 6 南壁土層 (北から)
2. 平坦面 6-3 石垣検出状況 (北から）
3. 平坦面 6-3 石垣検出状況 (北から)
4. 平坦面 6-3 石垣検出状況 (北から)
5. 平坦面 6-4 完掘状況 (西から)
6. 平坦面 6-5 完掘状況 (東から)
7. 平坦面 6-6 完掘状況 (南から)
8. 平坦面 6-6 石垣検出状況 (西から)

写真図版 33

1. 平坦面 6-7 完掘状況 (東から)
2. 平坦面 6-7 トレンチ 1 土層断面 (南西から)
3. 平坦面 6-7 トレンチ 2 東壁土層断面 (西から)
4. 平坦面 6-7 SB60019 ～ SB60022 (南から)
5. 平坦面 6-7 SB60019(西から)
6. 平坦面 6-7 SB60019No.6 土層断面 (北から)
7. 平坦面 6-7 SB60020 (西から)
8. 平坦面 6-7 SB60021 (西から)

写真図版 34

1. 平坦面 6-7 SB60022 (北から)
2. 平坦面 6-7 SK60026(北から)
3. 平坦面 6-7 SK60031(北から)
4. 平坦面 6-7 SK60032・33・34 (西から)
5. 平坦面 6-7 井戸 (東から)
6. 平坦面 6-7 石垣 (北東から)
7. 平坦面 6-7 石垣 (北東から)
8. 平坦面 6-7 石垣 (北東から)

写真図版 35

1. 平坦面 6-8 完掘状況 (西から)
2. 平坦面 6-8-2 完掘状況 (南から)
3. 平坦面 6-8-3 完掘状況 (南から)
4. 平坦面 6-8 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (西から)
5. 平坦面 6-8 石垣 (北東から)
6. 平坦面 6-8 石垣 (北から)
7. 平坦面 6-8-2 SW60105 ～ 108(北から)
8. 平坦面 6-8-2 SW60108(北から)

写真図版 36

1. 平坦面 6-8-2 SW60108(西から)
2. 平坦面 6-8-2 SW60105 ～ 108 (北から)
3. 平坦面 6-8-2 SW60105・106 (北から)
4. 平坦面 6-82 SW60105・106 (北から)
5. 平坦面 6-8-2 SW60106(南から)
6. 平坦面 6-8-2 SW60106 (北から)
7. 平坦面 6-8-3 SD60129 (北から)
8. 平坦面 6-8 井戸 (東から)

写真図版 37

1. 平坦面 6-9 完掘状況 (北西から)
2. 平坦面 6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (西から)
3. 平坦面 6-9-2 完掘状況 (西から)
4. 平坦面№ 6-9-2 SW60127(東から)
5. 平坦面 6-10 完掘状況 (北から)
6. 平坦面 6-10 ﾄﾚﾝﾁ 1 東壁土層 (西から)
7. 平坦面 6-12 完掘状況 (北から)
8. 平坦面 6-12 SK60035 土層断面 (南から)

写真図版 38

1. 平坦面 6-13 完掘状況 (南から)
2. 平坦面 6-13 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層断面 (北東から)
3. 平坦面 6-13 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層断面 (北から)
4. 平坦面 6-13 ﾄﾚﾝﾁ 2 南壁土層断面 (西から)
5. 平坦面 6-13 SB60036 (南から)
6. 平坦面 6-13 SB60037(南から)
7. 平坦面 6-13 SB60038(南から)
8. 平坦面 6-13 SB60038No.5 土層 (東から)

写真図版 39

1. 平坦面 6-13 SD60042･46･47 (西から)
2. 平坦面 6-13 SD60045 土層断面 (北から)
3. 平坦面 6-13 SK60040 (南から)
4. 平坦面 6-13 SK60041 タガ痕跡 (東から)
5. 平坦面 6-13 SK60041 (東から)
6. 平坦面 6-13 SW60043･44(東から)
7. 平坦面 6-13 SW60043･44(南から)
8. 平坦面 6-13 SW60043･44(北から)

写真図版 40

1. 平坦面 6-14 完掘状況 (南から)
2. 平坦面 6-14 ﾄﾚﾝﾁ 2 (北から)
3. 平坦面 6-14 石垣 (東から)
4. 平坦面 6-14 石垣 (東から)
5. 平坦面 6-15 完掘状況 (東から)
6. 平坦面 6-15 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層断面 (北から)
7. 平坦面 6-15 石垣 (東から)
8. 平坦面 6-15 石垣 (東から)

写真図版 41

1. 平坦面 6-16 完掘状況 (西から)
2. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (南から)
3. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 2 東壁土層断面 (西から)
4. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 3 北壁土層断面 (南から)
5. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 4 北壁土層断面 (南から)
6. 平坦面 6-16 SB60058 完掘状況 (北から)
7. 平坦面 6-16SB60058(東から)
8. 平坦面 6-16 SB60058No.1 椀出土状況 (南から)

写真図版 42

1. 平坦面 6-16 SK60049 焼土検出状況 (南から)
2. 平坦面 6-16 SK60059 土層断面 (南から)
3. 平坦面 6-16 SX60048 検出状況 (南西から)
4. 平坦面 6-16 SX60048 完掘状況 (南から)
5. 平坦面 6-16 遺構完掘状況 (北から)
6. 平坦面 6-16 SX60050 (西から)
7. 平坦面 6-16 SX60050 石積状況 (東から)
8. 平坦面 6-16 SX60051(西から)

写真図版 43

1. 平坦面 6-17 完掘状況 (北から)
2. 平坦面 6-17 ﾄﾚﾝﾁ 1 東壁土層断面 (西から)
3. 平坦面 6-17 SB60080 (東から)
4. 平坦面 6-17 SB60080No.4 土層断面 (東から)
5. 平坦面 6-17 SK60083 桶材検出状況 (東から)
6. 平坦面 6-17 SK60085 桶材検出状況 (東から)
7. 平坦面 6-17 SK60089 (東から)
8. 平坦面 6-17 SJ60082 土層断面 (南西から)

写真図版 44

1. 平坦面 6-17 SJ60084 (東から)
2. 平坦面 6-17 SX60088(北から)
3. 平坦面 6-17 SX60088(東から)
4. 平坦面 6-17 SX60088 土層断面 (北から)
5. 平坦面 6-17 SW60087(西から)
6. 平坦面 6-17 SW60086 (東から)
7. 平坦面 6-17 SW60086(東から)
8. 平坦面 6-17 SW60099 (東から)

写真図版 45

小川内遺跡の出土遺物 (土器)

写真図版 46

小川内遺跡の出土遺物 (土製品)

写真図版 47

小川内遺跡の出土遺物 (鉄製品)

写真図版 48

小川内遺跡の出土遺物 (青銅製品・銭貨)

写真図版 49

小川内遺跡の出土遺物 (石器・石製品)

写真図版 50

小川内遺跡の出土遺物 (砥石)

写真図版 51

小川内遺跡の出土遺物 (石臼・石製品)

写真図版 52

小川内遺跡の出土遺物 (木製品)

写真図版 53

1. 小川内小学校遺跡遠景 (北から)
2. 小川内小学校遺跡全景 (北東から)
3. 小川内小学校遺跡完掘状況 (東から)

写真図版 54

1. 試掘坑 No.3 東壁土 (西から)
2. ﾄﾚﾝﾁ 1 北壁土層 (南から)
3. ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層 (北から)
4. ﾄﾚﾝﾁ 2 南壁土層 (北から)
5. ﾄﾚﾝﾁ 3 完掘状況 (東から)
6. ﾄﾚﾝﾁ 4 拡張ﾄﾚﾝﾁ北壁土層 (南から)
7. ﾄﾚﾝﾁ 2・3 試掘抗 No.3 完掘状況 (西から)
8. 石垣検出状況 (北から)

写真図版 55

1. 基 7-a 層上面遺構完掘状況 (東から)
2. ﾄﾚﾝﾁ 5 完掘状況 (東から)
3. ﾄﾚﾝﾁ 6 完掘状況 (北から)
4. ﾄﾚﾝﾁ 7 東壁土層断面 (西から)
5. D･E- 4・ 5 区完掘状況 (北から)
6. ﾄﾚﾝﾁ 4 ～ 7 完掘状況 (北から)
7. 小川内小学校遺跡の出土遺物 (図 155-1)
8. 小川内小学校遺跡の出土遺物 (図 155-2 ～ 8)

第Ⅰ章　調査の経過・調査組織

1. 調査の経過

昭和 53 年 (1978) から 54 年 (1979)、福岡市は高度経済成長に伴う急速な都市化のうえ少雨が重なり、未曽有の大渇水をまねくこととなった。これを契機に異常渇水からの被害を回避する抜本的な対策として、福岡県筑紫郡那珂川町大字五ヶ山地内及び佐賀県神埼郡吉野ヶ里町松隈地内の那珂川に、通常の利水容量の他に渇水対策容量を併せ持つ堤高 102.5m、堤頂長 556m、総貯水量 40,200,000m^3(最終) の五ケ山ダムの建設が計画された。五ケ山ダムは那珂川水系那珂川では脊振ダム (1976 年竣工)、南畑ダム (1985 年竣工) に続く 3 番目のダムになる。

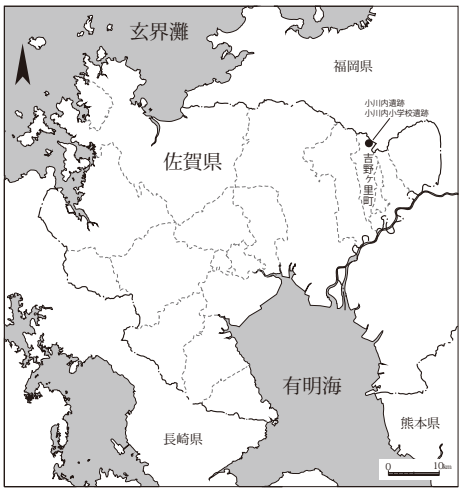


図 1　調査対象位置図

昭和 54 年 (1979) には予備調査を開始し、昭和 63 年 (1988) には建設事業が建設省 (現国土交通省) に採択されるに至った。平成 3 年 (1991)12 月にはダム基本設計会議においてダム軸 (位置) が決定され、本格的にダム建設が開始された。なお、ダムの湛水面積は 1.3ha に及ぶもので、福岡県側 42 世帯、佐賀県側 24 世帯が移転することとなった。

五ケ山ダム用地補償調査協定書が調印された平成 8 年 (1996)、五ケ山ダム建設の事業計画について最初の説明が福岡県から佐賀県文化財課に成された。これを受け、翌平成 9 年には関係部局で構成される「五ケ山ダム文化財調査連絡調整会議」及び「文化財担当者打合せ」を開催し、両者間の協議が開始した。なお、協議にあたっては、福岡県側の説明では水没予定地にある佐賀県天然記念物「小川内の杉 (昭和 31 年 3 月 1 日指定)」の取り扱いが十分示されておらず、五ケ山ダム内の埋蔵文化財発掘調査は小川内の杉の取り扱いを始めする諸問題が解決した段階で着手するとの方針で臨むこととなった。

平成 12 年 (2000) からは小川内地区での住民の生活や年中行事、自然などの写真や映像の記録撮影を実施してきたが、平成 14 年度 (2002) には用地取得を控え、民俗や建造物等の調査を早急に実施する必要があったため福岡県側にて「五ケ山ダム関係文化財調査指導委員会」を設置し、民族部門、自然部門、美術工芸部門、建造物部門において総合的に実施することとなった。調査は平成 17 年 (2005) 迄実施され、結果は平成 20 年 (2008) に「福岡県営五ケ山ダム関係文化財調査報告書 I『五ヶ山・小川内』(福岡県文化財調査報告書　第 215 集)」として刊行されている。

小川内集落移転完了後の平成 17 年には付替道路や予備付帯工事の開始及び小川内集落移転に準じて福岡県五ケ山ダム建設事務所長より確認調査の依頼がなされ、試掘調査を実施することとした。

平成 17 ～ 19 年度には、踏査結果をもとに対象を水没地区のみならず、付替え道路やヤード地、盛土部を含めて、工事が及ぶ地域全般において試掘調査を実施した。その結果、小川内集落跡地及び小川内小学校跡地の 2 ヶ所で新たに遺跡の存在を確認し、それぞれ小川内遺跡・小川内小学校遺跡として佐賀県遺跡台帳に登録した。

平成 20 年 11 月には本調査対象地である小川内遺跡の一部において県道早良・中原停車場線改良工事が計画され、福岡県五ケ山ダム建設事務所より文化財調査について協議が申し入れられた。協議の結果、埋蔵文化財発掘調査は小川内の杉等の諸問題が解決した段階で着手するという基本方針はあ

るものの、当該道路が生活道路であるため、その完成を早期に実現する必要があるとの観点から水没地域の文化財協議とは分離し、21 年度に埋蔵文化財発掘調査を実施することとした。

平成 21 年 10 月 26 日より佐賀県社会教育・文化財課による小川内遺跡の発掘調査を開始したが同年 11 月には福岡県五ケ山ダム建設事務所から設計変更に伴う協議依頼が成され、発掘調査は翌 22 年度まで継続された。この調査記録は平成 21 年度分を小川内遺跡 1 区、平成 22 年度分を 2 区として佐賀県文化財報告書第 189 集『小川内遺跡Ⅰ』が 2011 年 3 月に刊行されている。

平成 22 年には、政権交代による「できるだけダムに頼らない治水」への政策転換を進めるとの政策に基づき、国土交通省から各自治体へダム事業の検証に係る検討について指示された。これに伴いダム建設を前提とした文化財協議は一旦休止される。再開されたのは翌平成 23 年であり、国土交通省がダム事業の継続を決定したことによる。再開にあたってはまず、「小川内の杉に関する検討会」が設置され、協議の端緒に就いた。ただし、埋蔵文化財の協議については平成 24 年 3 月にダム建設工事の工程確認、調査期間と費用について説明するにとどまり、「小川内の杉」の取り扱いの行方を窺うしかなかった。

平成 25 年には「小川内の杉に関する検討会」において杉の移植可能との判断が下され、所有者等の同意が得られたことにより、基本方針に基づき埋蔵文化財においても具体的な協議がなされるようになった。2 月にダム建設の工程再確認、3 月には小川内遺跡の石垣の草刈・伐採を行い、4 月には文化財調査工程及び費用、期間について協議を行い、6 月補正にて予算措置をし、発掘調査は平成 25 年の秋口から開始して平成 27 年度末まで実施し、平成 28 年度から平成 29 年度にて調査報告書作成を行うこととなった。また、ダム建設工事の試験湛水及び完成に合わせた過密な日程であったため、発掘調査においては佐賀県教育委員会が調査主体となり調査支援委託業務を委託して実施することとした。

平成 25 年度の調査は 10 月 21 日より伐採、プレハブ設置、重機による表土剥ぎを実施し、11 月 1 日より作業員による発掘調査を開始した。調査は大山祇神社南側の旧耕作地を小川内遺跡 3 区 (4,000m^2)、大山祇神社西側の旧生活道路沿いに面する集落地を同 4 区 (400m^2) とし、「小川内の杉」の移植に先立って大山祇神社石垣についても併せて実施した。なお、調査期間は冬季であり、度重なる降雪に悩まされながらも 3 月 3 日で平成 25 年度分を終了した。

平成 26 年度の調査は佐賀県教育委員会監督者 3 名、受託者現場管理者 2 名体制で、6 月 2 日よりプレハブ設置、機材搬入、重機による表土剥ぎを実施し 6 月 11 日より作業員による遺構掘削を開始した。調査個所は平成 21・22 年度に実施した小川内遺跡 1・2 区東側で、平成 25 年度に調査した 4 区北側にあたり、小川内集落内を通る生活道路に西接する集落地を小川内遺跡 5 区 (9,011m^2) とした。なお、排土置場の制約から調査区内を東西に分割し、それぞれ 5A 区、5B 区として 5A 区調査終了後に排土を反転して 5B 区の調査にあたった。調査は縄文時代の包含層、中世の遺構面、近世の遺構面等を検出して、平成 27 年 2 月 27 日で終了した。

小川内の杉 (移植前)

平成 27 年度は佐賀県教育委員会監督員 4 名、受託現場管理者 2 名体制で調査を実施した。今年度はダム工事の進捗と小川内の杉の移植作業に合わせ、6 月 18 日より小川内小学校遺跡 (829m^2) の調査を実施した。確認調査結果より縄文の包含層の存在が想定されていたが、確認調査の試掘坑を

拡張したところ２次堆積との判断を得たため、新たに７つの試掘坑を設定し範囲の確認にとどめた。小川内小学校遺跡の掘削を終えた８月より小川内遺跡６区 (8,154m^2) の調査を開始した。６区は５区の西側にあたり、小川内集落中央に延びる丘陵を挟んで１・２区に対する位置にあたる。石垣によって構築された平坦面が棚状に重なる地形であるため各平坦面に番号を付けて実施した。調査は近世の遺構面を検出し、近世前半や中世の遺構を破壊して平坦面が築かれていることを確認して平成 28 年３月３日に終了した。

整理作業は佐賀県文化財調査研究資料室にて平成28･29年度を中心に実施した。なお､「小川内の杉」は発掘調査終了後の平成 28 年４月、原位置より 220m 南に新設された大山祇神社横に移植された。

図２　五ケ山ダム計画平面図

2. 調査組織

調査主体　佐賀県教育員会

平成 25 年度

発掘調査・整理	小川内遺跡 3・4 区 (調査：平成 25 年 11 月～平成 26 年 3 月)
総　　括	教育長　　川崎　俊広
	文化財課　課　長　松本　啓嗣
	文化財課　副課長　徳富　則久
	文化財課　副課長　森永　哲生
総　　務	文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　係　長　原崎　弘成
	文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　副主査　黒田　康裕
	文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　事　前田　亮太
調査・整理担当	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　幹　樋口　秀信
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　幹　五島　昌也
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　係　長　白木原　宜
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　査　塩田　寿子
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　査　古川　直樹
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　査　武谷　和彦
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　査　大庭　佐和子
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　副主査　御厨　廉平
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　文化財保護主事　村松　洋介
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　嘱　託　原田　保則
	文化財課　日々雇用職員　村里　育子、江副　朋子、鶴田　啓子
調査支援業務	株式会社埋蔵文化財サポートシステム
現場管理者	株式会社埋蔵文化財サポートシステム　中田　祐樹、磯村　康行
調査協力	福岡県五ヶ山ダム建設事務所、地元各位、吉野ヶ里町教育委員会

平成 26 年度

発掘調査・整理	小川内遺跡 5 区 (調査：平成 26 年 6 月～平成 27 年 3 月)
総　　括	教育長　　池田　英雄
	文化財課　課　長　松本　啓嗣
	文化財課　参　事　森田　孝志
	文化財課　副課長　石井　和裕
	文化財課　文化財調査担当　主　幹　小松　譲
総　　務	文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　幹　黒川　誠
	文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　副主査　黒田　康裕
	文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　事　中野　真一郎
調査・整理担当	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　幹　五島　昌也
	文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　主　査　古川　直樹
	文化財課　文化財調査担当　主　査　武谷　和彦

文化財課　文化財調査担当　主　事　野田　泰史
文化財課　文化財調査担当　嘱　託　岡田　有矢
文化財課　日々雇用職員　村里　育子、鶴田　啓子

調査支援業務　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
現場管理者　株式会社埋蔵文化財サポートシステム　小石　龍信、平島　義孝
調査協力　福岡県五ヶ山ダム建設事務所、地元各位

平成 27 年度

発掘調査・整理　小川内小学校遺跡 (調査：平成 27 年 6 月～平成 27 年 8 月)
小川内遺跡 6 区 (調査：平成 27 年 8 月～平成 28 年 3 月)
総　　括　教育長　池田　英雄（平成 27 年 4 月～平成 27 年 5 月）
古谷　宏（平成 27 年 6 月～平成 28 年 3 月）
文化財課　課　長　西原　幸一
文化財課　副課長　樋口　秀信
文化財課　副課長　山中　昭彦
総　　務　文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　幹　黒川　誠
文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　副主査　畑瀬　明日香
文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　事　中野　真一郎
文化財課　文化財調査担当　主　査　吉本　健一
調査・整理担当　文化財課　文化財調査担当　主　幹　小松　譲
文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　係　長　古川　直樹
文化財課　文化財調査担当　主　事　野田　泰史
文化財課　文化財調査担当　主　事　立石　和也
文化財課　文化財調査担当　嘱　託　岡村　太亮
文化財課　日々雇用職員　村里　育子、山浦　美香
調査支援業務　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
現場管理者　株式会社埋蔵文化財サポートシステム　小石　龍信、平島　義孝
調査協力　福岡県五ヶ山ダム建設事務所、地元各位、佐賀県立九州陶磁文化館
佐賀大学、有田町教育委員会

平成 28 年度

整理・報告書作成　平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
総　　括　教育長　古谷　宏
文化財課　課　長　西原　幸一
文化財課　参　事　徳富　則久
文化財課　副課長　山田　隆宏
文化財課　副課長　樋口　秀信
文化財課　文化財調査担当　主　幹　小松　譲
総　　務　文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　幹　黒川　誠

文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　査　畑瀬　明日香
文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　事　白浜　渚

整理・報告書作成　文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　係　長　古川　直樹
文化財課　文化財調査担当　主　事　加藤　裕一
文化財課　文化財調査担当　主　査　吉本　健一
文化財課　臨時職員　村里　育子、山浦　美香、桑原　廣子、奥　知恵子
皆越　弘子、光武　淳子、馬場　奈津美

出土土器図化　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
出土木製品図化　株式会社埋蔵文化財サポートシステム
出土木製品保存処理　株式会社とっぺん
協　力　福岡県五ヶ山ダム建設事務所、地元各位、佐賀県立九州陶磁文化館

平成 29 年度

整理・報告書作成　平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
総　括　教育長　白水　敏光
文化財課　課　長　江島　秀臣
文化財課　参　事　徳富　則久
文化財課　副課長　山田　隆宏
文化財課　副課長　樋口　秀信
文化財課　文化財調査担当　主　幹　小松　譲
総　務　文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　幹　今泉　和孝
文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　主　査　畑瀬　明日香
文化財課　吉野ヶ里遺跡担当　副主査　白浜　渚

整理・報告書作成　文化財課　文化財指導・世界遺産推進担当　係　長　古川　直樹
文化財課　文化財調査担当　非常勤職員　今村　悟
文化財課　文化財調査担当　主　査　吉本　健一
文化財課　臨時職員　村里　育子、山浦　美香、桑原　廣子、奥　知恵子
馬場　奈津美

出土遺物図化　株式会社パスコ　佐賀支店
株式会社大信技術開発　佐賀営業所
遺物図版編集　株式会社とっぺん
協　力　福岡県五ヶ山ダム建設事務所、地元各位、佐賀県立九州陶磁文化館

第 II 章　地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

小川内遺跡及び小川内小学校遺跡の所在する神埼郡吉野ヶ里町は、平成 18 年 (2006) に三田川町と東脊振町が合併して誕生した町である。町名の吉野ヶ里は条里制に基づく佳名地名で、特別史跡「吉野ヶ里遺跡」による。町域は南北約 16km、東西最大幅約 5km で南北に長い短冊状を成し、北部で福岡県那珂川町、東部で三養基郡みやき町と上峰町、西部と南部で神崎市と接する。北部は脊振山（標高 1,055m）を主峰とする脊振山地が東西に走り、中央部は脊振山地蛤岳 (標高 863m) に源を発する田手川の開析による山麓沖積地や河岸段丘が発達し、南部に向かって扇状地性低地が続き、田手川下流域である南部では三角州性低地が広がる。総面積は 43.94km^2、総人口は 16,163 人 (平成 29 年 12 月 1 日現在) である。

小川内遺跡が位置する旧小川内集落は吉野ヶ里町最北端の標高約 400m の脊振山山中に位置し、平均気温は平地より 5 度ほど低い準高冷地である。那珂川を挟んで福岡県東小川内集落に対峙し、かつては西小川内村とも称され、国境防備役を担った。これまで戸数は集落の氏神である大山祇神社の石段数を超えないという俗説を残し、20 数世帯で推移してきた小集落であった。分水嶺を超えた位置にあることより、従来は幅員が狭く峠越えの難所が多い国道 365 号線を使用せざるを得なかったが、平成 16 年のバイパス化及び東脊振トンネル (サザンカロード) 開通により往来が容易となっている。一方、小川内小学校遺跡は小川内集落の南西約 600m の字古小川内に所在し、その字名どおり、かつてはこの古小川内に小川内集落があったと伝わる。藩政時代の水争いにまつわる伝承の舞台である「稚児落としの滝」に近接し、福岡方面と隣接する大野集落との分岐点であり、大野集落の先には水争いの原因になった蛤岳がある。

脊振山地は西の十坊山 (標高 535m) から井原山 (標高 983m)、金山 (標高 967m)、脊振山、千石山 (528m) と東西方向から南東に屈曲する主峰列をもつ山塊である。その発生においては、この脊振山地は古生代石炭紀からペルム紀に形成された堆積岩が基になり、中生代三畳紀にかけて低温高圧の変成作用を受けた蛇紋岩を伴う三郡変成岩に、中生代白亜紀深成岩である糸島花崗閃緑岩や佐賀花崗岩が貫入して山地となった。さらに、この表面が長期間の浸食作用や削剥作用により小起伏の広い平坦面が生じ、これが再度隆起したとされる。これらの多数の摂理を有する花崗岩平坦面は度重なる断層作用を受け、ほぼ平行に走る複数の断層よって区切られ、両側に対して相対的に隆起すことにより山地塁や断層崖を創出した。これらの断層線に沿って河川が生じ、新生代第四期更新世後期にはこの河川が盆地性の谷底平野を形成した。小川内集落はこの谷底平野にできた河岸段丘上に位置している。

平成 18 年度にダム水没地区にあたる小川内集落は移転を完了したが、集落の正業は農業及び林業が主体であった。農業では稲作・小麦の栽培がおこなわれるとともに肥育牛の放牧や準高冷地の特性を生かしたトマト栽培も行われていた。一方、林業においては杉・檜の植林が相当の面積を占める。これは、明治末期から昭和初期にかけて盛んであった薪の販売や製炭用として自然植物が伐採され、開墾されたことに由来する。しかし、一帯は昭和 50 年には脊振・北山県立自然公園に指定され、公園内部には九州自然歩道が設けられ多くのハイカーが訪れている。また、樹高 40m、枝張り 15m、樹齢 700 ～ 800 年と伝わる大山祇神社の「小川内の杉」は昭和 31 年 (1956)、県天然記念物に指定されたが、五ヶ山ダム水没地域にあたるため、大山祇神社とともに移築された。近隣の千石山では千石山サザンカ自生北限地帯として昭和 32 年 (1957) に国の天然記念物に指定されている。

2　歴史的環境

脊振山南麓は脊振山から延びる段丘が発達し、遺跡分布密度の高い地域として知られている。これに対し、脊振山山地内ではこれまで大規模な開発が少なく調査例も限られてきたため「脊振千坊」と称される山岳寺院の一つである霊仙寺や脊振山経塚遺跡が知られる程度であった。しかし、近年の嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財調査や中近世城館跡分布調査により旧石器時代から近世にかけての遺跡が新たに発見され、山中の谷合を中心に遺跡の存在が明らかになってきている。

旧石器時代の遺跡は小川内遺跡の南東に位置する福岡県倉谷遺跡群の確認調査では細石刃と石核が採取されている。脊振山南麓まで目を向けると城原川右岸の城原四谷遺跡や八子三本黒木遺跡、八子四本黒木遺跡で散布が見られ、当該地周辺においても今後検出される可能性があるものと思われる。

縄文時代においては、本調査に先立って実施された県道早良中原停車場線の改良工事に伴う小川内遺跡１・２区の調査において、近世期の小穴への混入品であるが押型文土器（早期後葉）とサヌカイトの剥片が検出されている。また、福岡県板屋遺跡では溝、土坑、小穴を検出し、溝や土坑から押型文土器、包含層からは押型文土器や塞ノ神式土器（早期末葉）が出土している。また、五ケ山ダム建設に伴い福岡県により実施された五ケ山網取遺跡では早期の方形竪穴建物２基、１棟石器製作の作業場、後期と考えられる大型円形竪穴建物を含む竪穴建物２棟、方形土坑 14 基を検出している。包含層からは曽畑式（前期）や春日式（中期）等の土器も出土している。この那珂川の両岸一帯では縄文早期から前期にかけての遺跡を中心に展開していたものと考えられる。

脊振山麓における弥生時代から古墳時代前期の遺跡の確認は今までにない。古墳時代後期の須恵器が五ケ山網取遺跡と倉谷遺跡群で採取されているが、遺構の確認はされていない。

古代以降になると、脊振山山岳信仰に関する文献が見られるようになる。弁財天を乗せて山頂に舞い降りた龍が背びれを打ち振ったと伝わる伝承に由来する「脊振山」は、延喜元年 (901) 成立の『日本三大実録』貞観 12 年 (870)5 月 29 日の条に「筑前国正六位上背布利神並従五位下」とあるのを初出とするが、文保３年 (1319) 成立の『宴曲』所載「玉林苑」(下)「脊振山霊験　同并」では和同２年（709）のこととして源明天皇の時に湛譽（たんよ）上人に祈祷を行わせる等の記載が見られ、古くから山岳信仰の対象として宗教的権威を有していたことが窺える。

正安２年 (1300)3 月３日付「法橋長印置文写」には、「肥前国脊振山水上本坊并上宮本坊、・・」とあるように脊振山中は上宮、中宮、下宮を配する山岳信仰の一山組織を形成することとなる。

中宮霊仙寺跡では 1977 ～ 79 年に国道 385 建設に先立って発掘調査及び分布調査が実施され、坊跡６カ所にトレンチを設定し、経塚、墓地跡などが確認されている。経塚は全長約 40m の坊の土塁上に築かれ、経筒抜き跡と推定される連続する石槨遺構の他、削平を受けた礫槨と推定される石列中より陶製経筒も検出している。これらに伴い、陶製経筒の蓋に用いられた和鏡、瓦経、石造、石塔、陶磁器、銅銭等が出土し、12 世紀中頃から 13 世紀末頃のものとされている。墳墓は礫組で 37 基、内部主体で 70 基以上を検出し、13 世紀初頭から 15 世紀までのものと考えれている。

また、近年では城館調査で用いられる縄張り図を作成することにより寺域の平面構造はもちろんのこと、時代的変遷や階層性についても検討され、寺域内各地区で有力坊院が林立する状況が明らかとなっている。

脊振山山頂から南東約 300 m下った場所に脊振山経塚遺跡がある。昭和 61 年に 12 世紀前半代と思われる紙本経 18 巻を収めた青銅製経筒１点が土砂崩落に伴って発見され、緊急調査の実施により６基の経塚が明らかとなっている。さらに、翌年には重要範囲確認調査が行われ、新たに経塚６基、

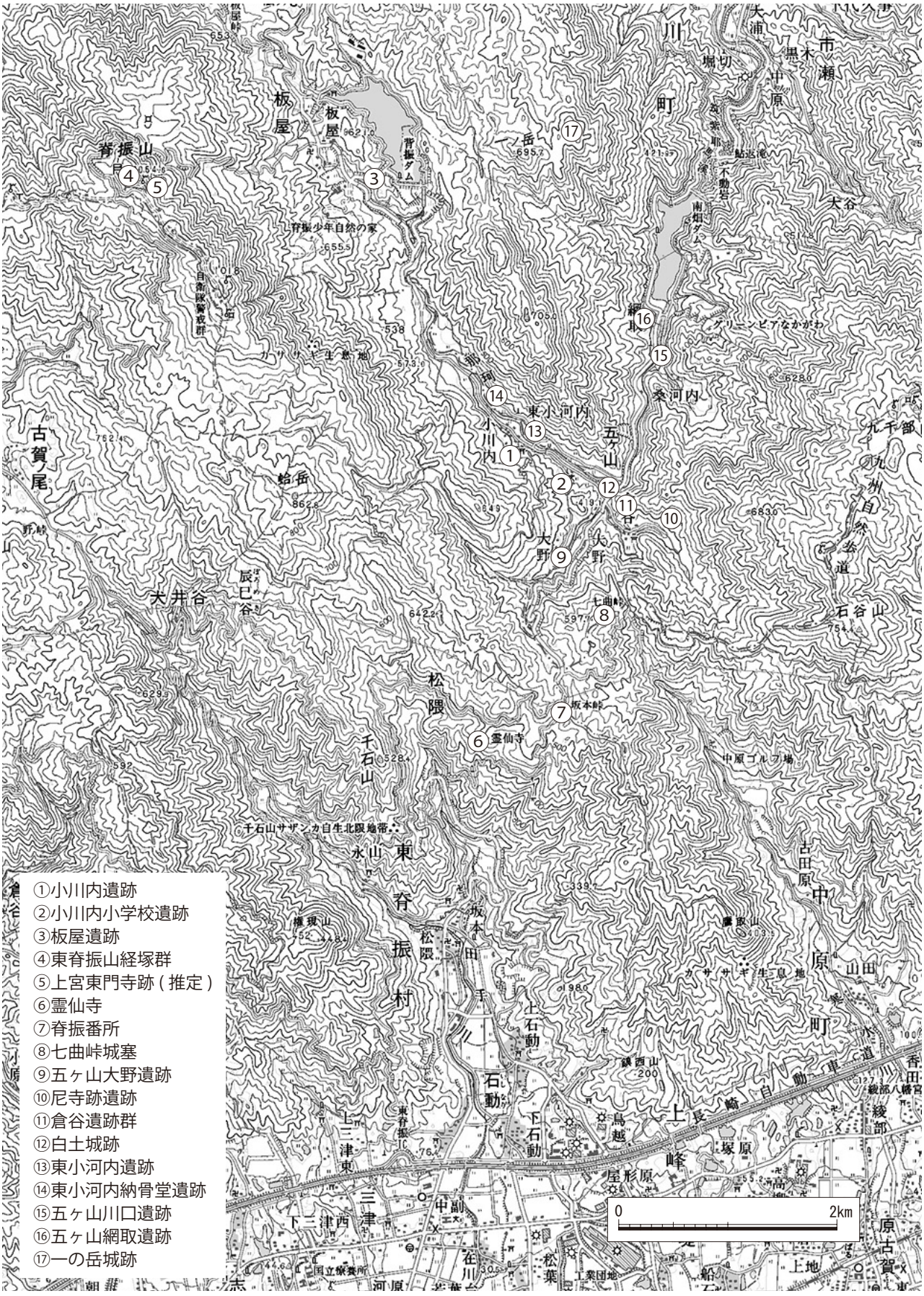


図 3　小川内遺跡周辺の遺跡分布図 (1/50,000)

積石墓を主体とする墳墓 39 基が確認されている。経塚からは青銅製経筒 1 基、陶製経筒 3 基、陶磁器、石製品等が出土し、12 世紀前半から 13 世紀初頭頃まで経塚の造営がなされ、13 世紀を中心に 14 ～ 15 世紀まで墳墓が造営さたことが判明している。また、これらの経塚は上宮東門寺に付属する可能性が示唆されている。

脊振山頂付近には上宮である東門寺が置かれていたが、所在地は判明していない。先述の縄張り図作成により、振山山頂から南東 500 m下った場所で、約 3.1ha にも及ぶ伽藍・坊跡と考えられる平坦面が確認されており、上宮東門寺 (近世東門寺多聞坊含) と解されている。

中世前半期に隆盛を極めたこれらの寺社は、独立した僧兵団を持たず、権威の裏付けは公権力に依存していたと考えられ、寺社の所領も十分管理できず、南北朝以降になると度々戦火に見舞われ、年不詳菊月十日付「東門寺衆徒申状」に「不可加修理、遅々春朝者一鉢底恒空日暮、冷々冬夕者三衣蓄至疎夜明」とあるように荒廃の一途を辿っていく。また、それを決定づけるのが秀吉による所領没収であった。

七曲峠城塞群は中近世城館分布調査により明らかにされた山城で、筑前肥前間の主要な山間道である坂本峠と七曲峠の中間に位置し、五ヶ山・小川内を一望できる山頂に設けられる。曲輪、土塁、堀切、竪堀が認められ、その造作状況より南北朝～室町期の山城と推定され、室町九州探題の拠点である綾部城との関連が指摘されている。

一の岳城跡は一の岳山頂に位置する筑紫氏の居城で、惟門は永禄 2 年 (1559) 大友軍侵攻の際、「殊ニ豊後衆大勢ニて候条、五ヶ山ニ被成御引籠候」と勝尾城を出て籠城したとされ、次代の広門が島津氏の侵攻に際して劣勢を覆したのも一の岳城とされる。また、支城として、七曲道と坂本道の分岐点である要衝の地に白土 (猫) 城が置かれている。なお、白土城は発掘調査が実施されたが明確な遺構は確認されていない。

東小河内遺跡の発掘調査では、同一平坦面上で 13 ～ 14 世紀と 15 ～ 16 世紀の 2 時期における、柵列と門を付設した館跡を検出している。前半の建物群には茶庭の可能性が推定される建物と溝が伴い、後半期の建物群には庭園遺構が伴う。15 ～ 16 世紀は緊張感の高まる時期で、近隣に設けられた山城等を背景に成立した集落と解されている。

五ヶ山網取遺跡では中近世の集落が確認されている。15 棟の掘立柱建物と 15 ～ 16 世紀を主体とする大規模な区画溝を検出し、溝はそれぞれ連結して集落全体を区画する可能性が指摘されている。この集落成立の背景として交通の要衝であること、上宮東門寺、中宮霊仙寺の近隣であることが挙げられ、これらに関与した集落と推定されている。

慶長期に入ると、藩祖鍋島直茂の庇護を受け、中宮水上坊の智足房仁周が上宮弁財天を皮切りに中宮十坊を再興し、下宮積翠寺があった場所に下宮修学院を整備した。さらに、中宮五戒坊の玄純により東福院を開基し、他の坊の再興を促した。なお、この復興については、秀吉の所領没収から時間的経過が短く、当該期に散見される旧勢力の解体・再編成により鍋島政権下に組み入れたものと考えられ、修学院第 2 世快舜が直茂の叔母の子であったことも脊振山衆徒の掌握を盤石のものとさせた。

天和 3 年 (1683) には「肥前弁財嶽 (国境) 争論」が勃発する。肥前国神埼郡久保山村と筑前国早良郡板谷村、椎原村、脇山村の百姓間で新田開発を巡る土地争いに端を発し、佐賀藩、福岡藩間で脊振山弁財嶽を含む周辺の藩境争いに発展し、福岡藩により幕府に提訴する事態となり、元禄 6 年 (1693) に幕府の裁定により佐賀藩の主張が認められることとなったものである。勝訴した佐賀藩に詳細な記録が残される。小川内も直接の当事者ではなかったが、福岡藩の主張する領土内に入ってお

り、その特異な立地故「肥前ヨリ境目峰分ケト申候へトモ、峰分ニ不相究、西小川内村ハ筑前ノ内ニ指入・・・」と、その疑念が生じている。

近年、この争論は単なる百姓同氏の土地争いではなく、争論以前から福岡藩の関与が窺えるとされる。非常に興味深い指摘であり、小川内においても天正年間に三瀬の城主神代大和守勝利の配下となり、百姓であっても山内武士として刀指しを許されたという。鍋島政権下でもそれは維持されるのであるが、出土遺物から見る限り、16 世紀の活動は低調で、17 世紀に入って活発化し 17 世紀後半から 18 世紀前半にかけてピークを迎え、城下町然とした出土遺物も見られるなど、単なる国境警備にとどまらない政治的関与が疑われる。小川内の東光寺が五戒坊東福院の末寺として元禄 4 年 (1691) に創建されるが、その銅鐘には寛文 9 年（1669 年）銘が鋳出されている。寺社町としての隠れ蓑を被った集落であったとするのは考え過ぎであろうか。

平成 21 ～ 22 年度に五カ山ダム建設により水没する県道早良中原停車場線の改良工事に伴って旧小川内集落西北域を 1 ・2 区として佐賀県教育委員会によって発掘調査が行われている。石垣により造成された平坦面上に、L 字状に配された 17 世紀後半から 18 世紀前半のものと思われる掘立柱建物 2 棟を検出し、あわせて井戸、集石遺構、土坑が確認されている。また、遺物は 16 世紀後半から近代の陶磁器等が出土しており、16 世紀後半～ 17 初頭では龍泉窯系青磁・景徳鎮系白磁・瀬戸美濃窯の天目茶碗等が検出され有力者の存在が指摘されている。また、18 世紀後半から 19 世紀代にかけても多量の遺物が存在し、継続して集落が営まれていたことが推察されている。

脊振番所跡は江戸期に置かれた藩境警備のために設置された 3 つの番所の 1 つで、坂本峠の霊仙寺の北東約 200m に位置し、国境に隣接せず約 250m の間隔を置いて設置されたものである。中近世城館分布調査で詳細が明らかとなっており、800m^2 を超える広大な平坦面を中心として数段の石垣で囲まれた平坦面や石段、高さ 1.5 ～ 2m、長さ 30m の長大な土塁等が確認され、厳重な構造であったことが確認されている。

参考・引用文献

・日本の地質「九州地方」編集委員会編　「日本の地質 9 九州地方」　共立出版株式会社　1992
・小川内誌編纂委員会編　「小川内誌」 佐賀県神埼郡東背振村小川内　1986
・佐賀県文化財調査報告書第 189 集「小川内遺跡Ⅰ」 佐賀県教育委員会　2011
・福岡県文化財調査報告第 215 集「五ヶ山・小川内」 福岡県教育委員会　2008
・福岡県文化財調査報告第 237 集「五ヶ山Ⅰ」 九州歴史資料館　2013
・福岡県文化財調査報告第 248 集「五ヶ山Ⅱ」 九州歴史資料館　2014
・福岡市埋蔵文化財調査報告書第 166 集「板谷・今津遺跡」 福岡市教育委員会編　1987
・東脊振村文化財調査報告書第 4 集「霊仙寺跡」 東脊振村教育委員会　1980
・脊振村文化財調査報告書第 1 集「脊振山経塚群」 脊振村教育委員会　1988
・東脊振村史編纂委員会編　「東脊振村史」 東背振村　1987
・吉野ヶ里町誌編纂委員会編　「吉野ヶ里町誌」 吉野ヶ里町　2008
・脊振村史編さん委員会編　「脊振村史」 脊振村　1994
・佐賀県文化財調査報告書第 201 集「佐賀県の中世城館　第 2 集 (三養基・神埼・佐賀地区)」 佐賀県教育委員会　2013
・佐賀県立図書館編　『佐賀県近世史料』第一編　第三巻　「寛元事記」乾、「寛元事記」坤　佐賀県立図書館　2011
・吉田　扶希子　「背振山信仰の源流　西日本地域を中心として」 中国書店　2014
・岡寺　良　「寺院遺構からみた脊振山の平面構造」第二回九州山岳霊場遺跡研究会資料集『脊振山系の山岳霊場遺跡　脊振山・雷山・怡土七ケ寺』 九州山岳霊場遺跡研究会　2012
・岡寺　良　「寺院遺構からみた脊振山上宮・東門寺跡と中宮霊仙寺跡の研究」『公益財団法人鍋島報效会研究助成　研究報告書　第 6 号』公益財団法人鍋島報效会　2014
・田中　由利子　「脊振弁財嶽国境争論と鍋島氏」『公益財団法人鍋島報效会研究助成　研究報告書　第 5 号』公益財団法人鍋島報效会　2011

第 III 章　小川内遺跡の概要

小川内集落は蛤岳から延びる山塊が集落中央部で低丘陵を成し、花崗岩の基盤層に刻まれたその低丘陵の両側の渓谷に端を発する山麓扇状地が複合して平面猪目形を成す緩斜面上に位置する。そのため、地盤には巨大な花崗岩の球状岩塊を多量に含み、集落造営時にはこれらを石垣の一部や造成土中に巧みに取り込み、階段状の平坦面を形成していた。この旧小川内集落を中心に小川内遺跡は展開する。

調査区は平成 17･18 年度に実施した確認調査をもとに、場所は明確に決定していなかったものの「小川内の杉」の移転に配慮して次のような区割、年次展開とした。

平成 21・22 年度に実施した 1・2 区に引き続き、大山祇神社南側丘陵上の旧耕作地 4,000m^2 を 3 区とし、工事用道路拡幅のため小川内集落内の旧生活道路 (「佐賀県道早良中原停車場線」) 沿いの集落地 400m^2 を 4 区、集落北半の旧生活道路沿いを 5 区、集落南半の尾根側を 6 区とした。さらに 5 区については排土置場の関係より、東西で 5A 区、5B 区に分け、6 区は 1・2 区の設定に準じて各平坦面に枝番を付した。また、図 5 のとおり国土座標 (日本測地系) に基づき、全区を包括するグリッドを設定した。

調査実施年度は、平成 25 年度に 3、4 区及び大山祇神社、平成 26 年度に 5 区、平成 27 年度に 6 区を実施した。調査にあたっては調査支援業務を委託し、受託者の現場管理者 2 名と委託者の監督者 1 ～ 2 名で調査にあたった。

各地区の調査概要は次のとおりである。

3 区の旧況は水田で、集落移転後数年余り経過していたため草木が繁茂する原野となっていた。調査の結果、当該地は切土、盛土、石垣による耕地化のため著しい削平が見られたが、炭焼窯 6 基、柵列 1 列、土坑状遺構 1 基、小穴群を確認した。炭焼窯については、削平を受けているものの一部では焚口や煙道等が残存し、構造の把握が可能であった。かつて林産業の一部として盛んに操業が行われており、近世～近代の所産と思われる。

4 区は旧集落跡で南北に細長い狭小な調査区である。工事用道路建設のため先んじて調査を実施したが、本来であれば 5 区の一角を成す場所である。調査区中央部では谷地形になっており、近代集落造成時に平坦に改変されていた。調査区東半の花崗岩の岩礫を含む風化土上で近世期と思われる小穴群を検出している。なお、3・4 区に伴って、区割りは行っていないが大山祇神社の石垣について図化し、その一部に試掘坑を設けて時期と構造の確認に努めた。

5 区では石垣構築による盛土造成が随所で確認され、盛土上で近世の掘立柱建物跡、柵列、甕埋設遺構を含む土坑、小穴等や近代まで下る可能性のある井戸、焼土坑、桶埋設遺構を検出した。これらからは初期の肥前産陶磁器のみならず、柿右衛門様式の色絵磁器をも含む多量の陶磁器が出土し、検出した遺構群が単なる山村ではないことが明らかとなった。また、盛土内では、中世の掘立柱建物、柵列を検出し、これまで多量の遺物のみしか検出できず、遺構が不明だった中世の一端を窺い知ることができた。

6 区では近世の掘立柱建物、土坑、溝状遺構、甕･桶埋設遺構、階段状遺構、池跡、小穴等を検出した。掘立柱建物の内 1 棟は創建時の東光寺と推定され、位置的にも、区割的にも集落の中心であるとが窺え、さらに掘立柱建物の多くは同所での建替えが見られることより村落内の居住域において、一定の序列や規制が働いていたことを垣間見せる結果となった。

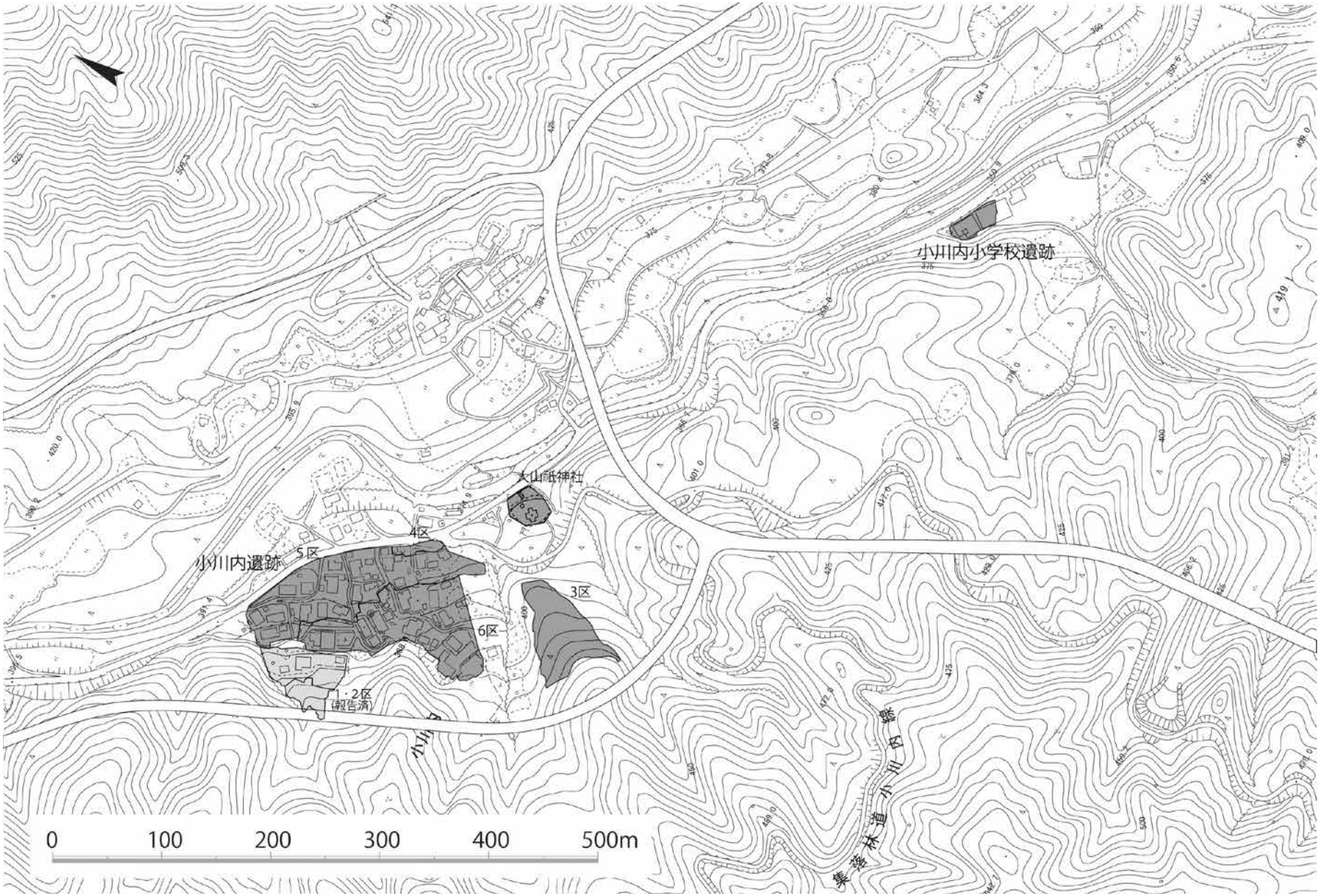


図 4　小川内遺跡・小川内小学校遺跡位置図 (1/5,000)

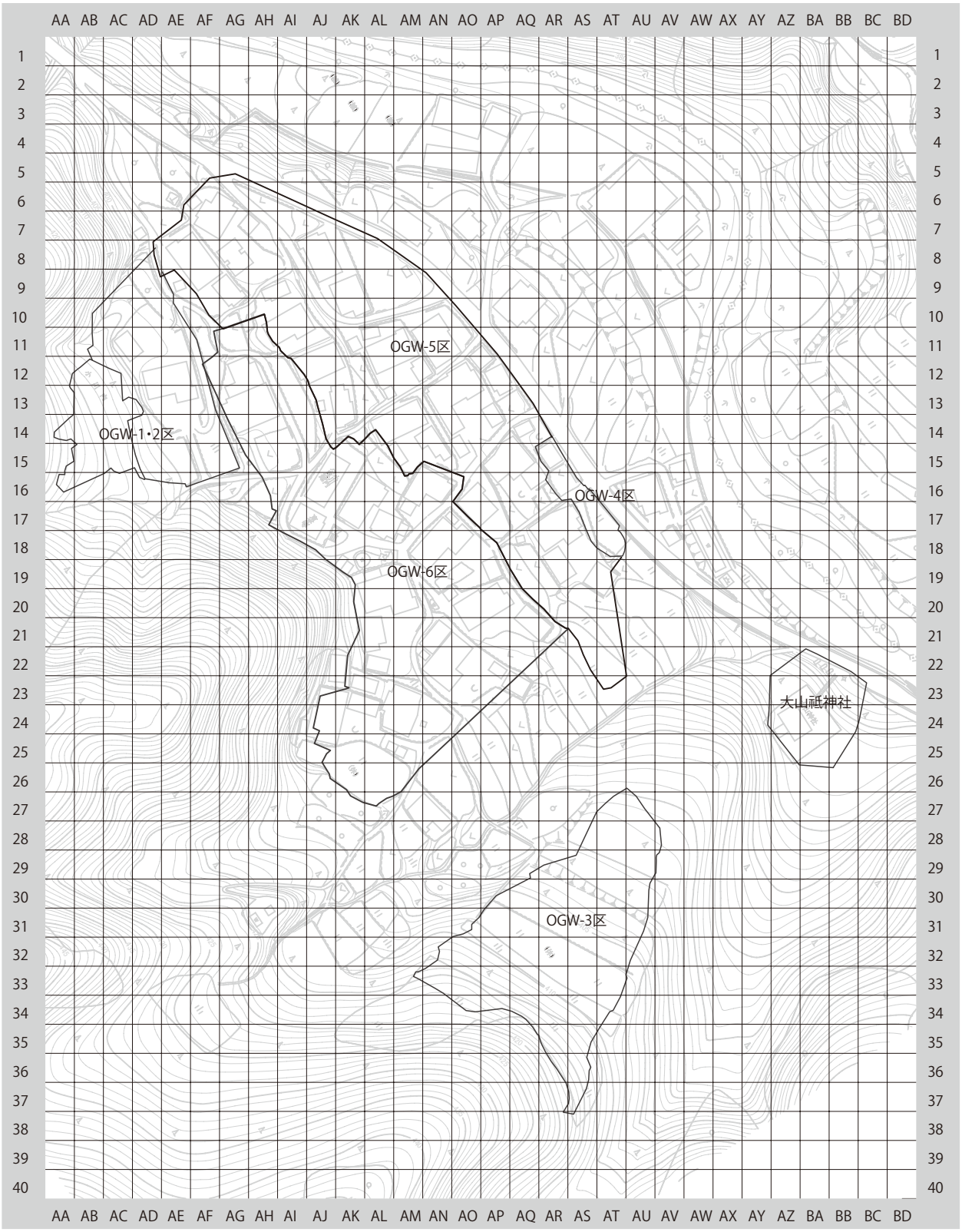


図 5　小川内遺跡グリッド配置図 (1/2,000)

図６　小川内遺跡調査区平坦面区割図

第Ⅳ章　小川内遺跡３区

1　３区の調査概要

小川内遺跡３区は旧県道早良・中原停車場線沿いの大山祇神社南側の標高 392m から 413m の段丘上にあり、旧小川内集落南側に位置する。平面形状は北東を頂点とする略三角形を呈し、長さ約 94m、最大幅 72m、面積 4,000m^2 を測る。旧状は水田であったものが後植林により針葉樹林及び荒地となっており、石垣や法面による階段状の地形となっていた。そのため調査に先んじて樹木伐採を実施し、その後調査を実施した。なお、平成 25 年度には併せて大山祇神社の石垣調査と 4 区の発掘調査も実施しており、大山祇神社の石垣調査については３区に続けて報告する。

３区の調査は、4 区や大山祇神社を含めて平成 25 年 11 月 1 日から平成 26 年３月３日まで実施した。３区はバックホウにより表土を除去するとともに石垣の調査から着手し、立面の図化・写真撮影、トレンチ掘削による裏土の調査を実施した。石垣調査終了後はバックホウにより石垣を除去し、人力にて下面の遺構検出・遺構掘削を行った。一方、大山祇神社石垣についても同様に図化・写真撮影の後、トレンチを設定して構築状況の確認を行った。

３区では、他の地区に比して、際立った平坦面を造成しておらず、集落地として利用されていないため遺構の種別は異なり、空白地が多く、一部の地区に遺構が集中する傾向にある。検出された遺構は石垣 2 面 (SW30001・2)、柵列 1 条 (SD30008)、土坑状遺構 (SX30011)、炭窯跡 6 基 (SY30004・5・6・7・9・10)、小穴である。このうち特に炭窯跡については比較的良好な残存状況で検出され、その立地から 2 群に分別でき、地域の主要な生業を考えるうえで重要な知見が得られた。なお、これらは遺構の性格上、出土遺物が少なく時期の特定は困難であるが、周辺状況から近世から近代にわたるものと考えられている。

大山祇神社は「山神社」とも称され、樹齢 700 ～ 800 年と伝わる杉の巨木を有し、旧小川内集落の「村社」として崇敬されてきた。平成 22 年度に境内及び社殿跡の試掘調査を実施しており、今回は境内北面の石垣を対象に図化及び 2 ヶ所にトレンチを設定して裏土の状況確認を行っている。

2　３区の遺構と遺物

SW30001 石垣 (図 9・10)

３区中央部に位置し、SW30002 と共に 2 段を構成する石垣であり、SW30001 は南側の上位段にあたる。畧線は３区を横断し、西端で隅角を持って南へ屈折し、わずかに延びる。３区横断部分では中央部が樹木伐採時に破壊されており、それを境に東側を 1 面、西側を 2 面と称し、西端の屈折箇所は中央の鏑を境に北から３面、4 面とした。全長は 61.5m、高さ 1.5 ～ 2.4m、畧線方向は N-62°-W を向く。この石垣により東西約 60m、南北約 14m、面積約 730m^2 の平面長方形の平坦面を保持する。

1 面の築石は花崗岩で、天端から 4 ・ 5 段目までは径 0.3m ～ 0.6m の割石が使用されおり、石積みは乱積であるが所々に目地が通る。この石材には幅 5 ～ 6cm（2 寸大）の矢穴やドリル痕がみられる。また、下位の築石は径 0.3 ～ 0.4m の割石を使用するが、厚さ 0.1m 以下の扁平な石材を多用する。これら上位と下位の境は石材の色調もさることながら、石材の形状、石積みの違いが比較的明瞭であり、少なくとも 1 度の改修を経たものと推定される。一方、2 面も 1 面同様の石材を使用するが、主体は布目崩しであり西側下位の数カ所に割石による乱積みが見られ、この石積みは３・4 面では上位まで達する。また、さらに上位に径 0.2 ～ 0.4m の自然石の粗割石を 1 ～３段積み足しており、これ

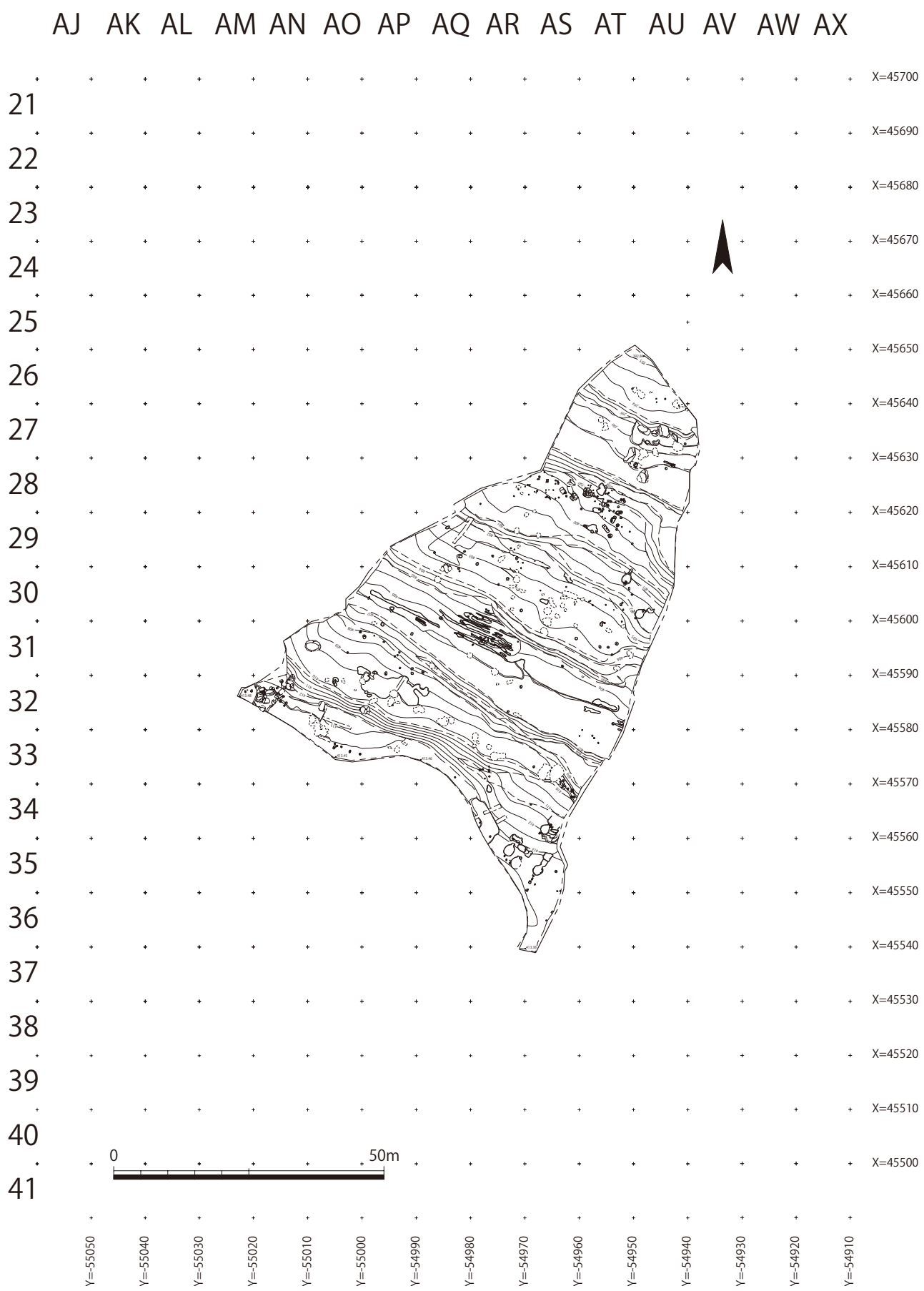


図 7　小川内遺跡 3 区地形測量図 (1/1,000)

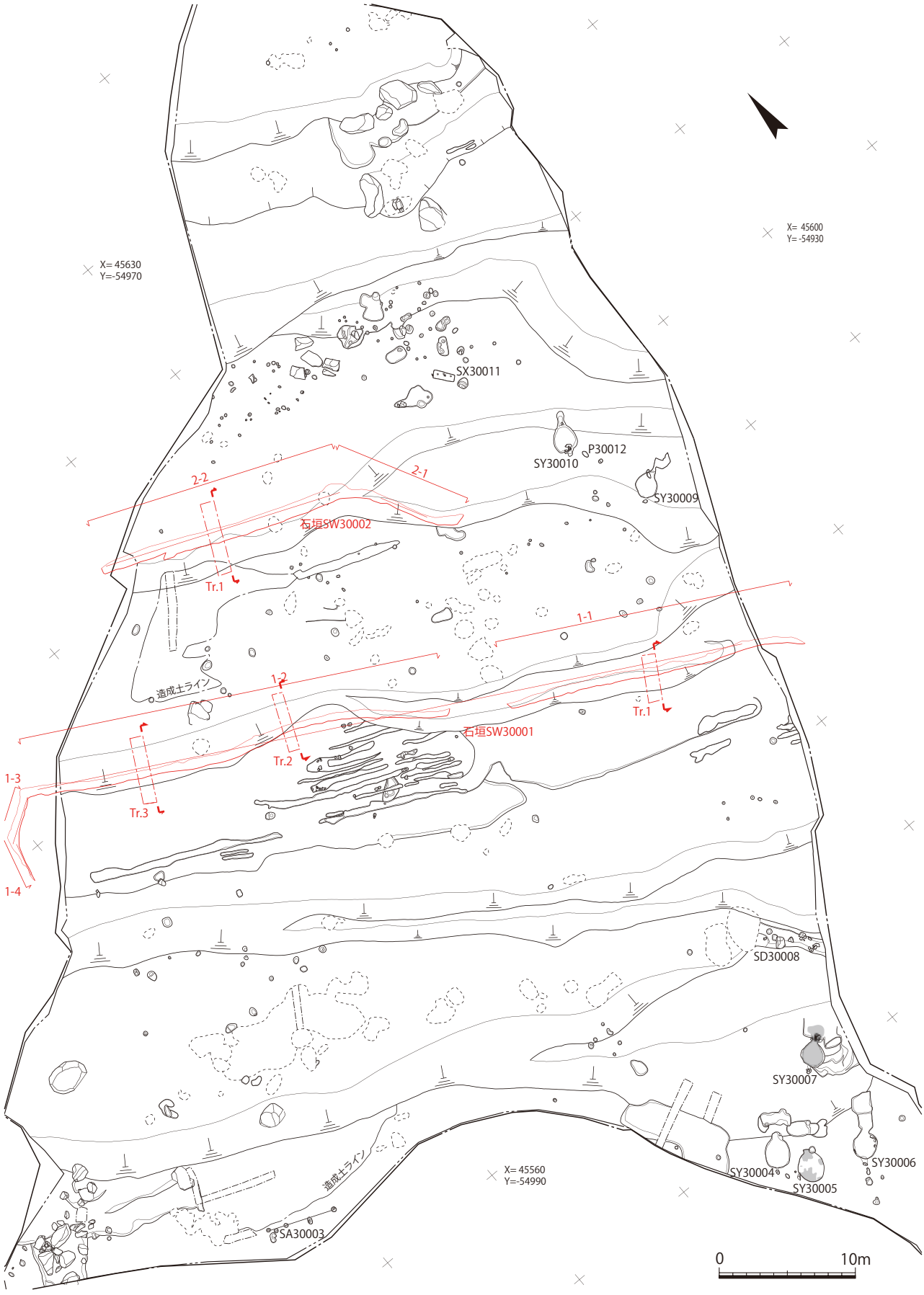


図 8　3 区遺構配置図 (1/400)

により天端高が１面とほぼ同位になっている。したがって、石垣崩落に伴って少なくとも２度以上の改修を経たものと思われる。

石垣塁線に直行して設けた３ヶ所のトレンチでは、裏グリ層等は認められず地山面がほぼ石垣裏に近接しており、小川内集落の平坦面造成のための石垣とは用途が異なり、花崗岩風化土である地山の崩落・流出を防ぐための石垣であったと推定される。

SW30002 石垣 (図 10)

３区中央部に位置し、SW30001 の下段にあたる石垣である。塁線は３区西端から中央付近までしか延びておらず、SW30001 石垣同様に樹木伐採時の重機進入の際に東側は破壊されたものと推定される。また、残存部途中の１ヶ所で折れが見られ、この折れから東側を１面、西側を２面として調査を実施した。残存長は約 29m、高さ 1.3 ～ 2.8m を測り、主軸方位は１面が N-28°-W、２面が N-68°-W を向く。この石垣により東西約 45m、南北約 14m、面積約 530m^2 程度の平面長方形の平坦面を保持していたものと思われる。

１面の築石は花崗岩で、東側より径 0.3 ～ 0.6m の割石を使用した布目崩し、径 0.2 ～ 0.4m の粗割石や野面石を使用した乱積み、0.4m 程度の割石を使用したいわゆる矢羽積と呼ばれる石積みと２～3m ごとに異なる。２面も築石は割石で、下位は長さ 0.4 ～ 0.7m の扁平な割石と径 0.2m 程度の粗割石を互層に積むが東にいくにしたがって乱れ、互層の横目地が崩れる。上位はドリル痕のある割石の布目崩しである。所により境が蛇行し､同様の石材を使用しながらも積み方の異なる部分が看取でき、何度も崩落、改修が繰り返されたことがわかる。

石垣塁線に直行して設けたトレンチでは、石垣裏は造成土とされるが堆積厚は薄く、整地層と考えられ、石垣除去後の掘削状況から見る限り、SW60001 石垣同様に風化花崗岩の地山の崩落・流出を防ぐための石垣であったと推定される。

SA30003 柵列 (図 11)

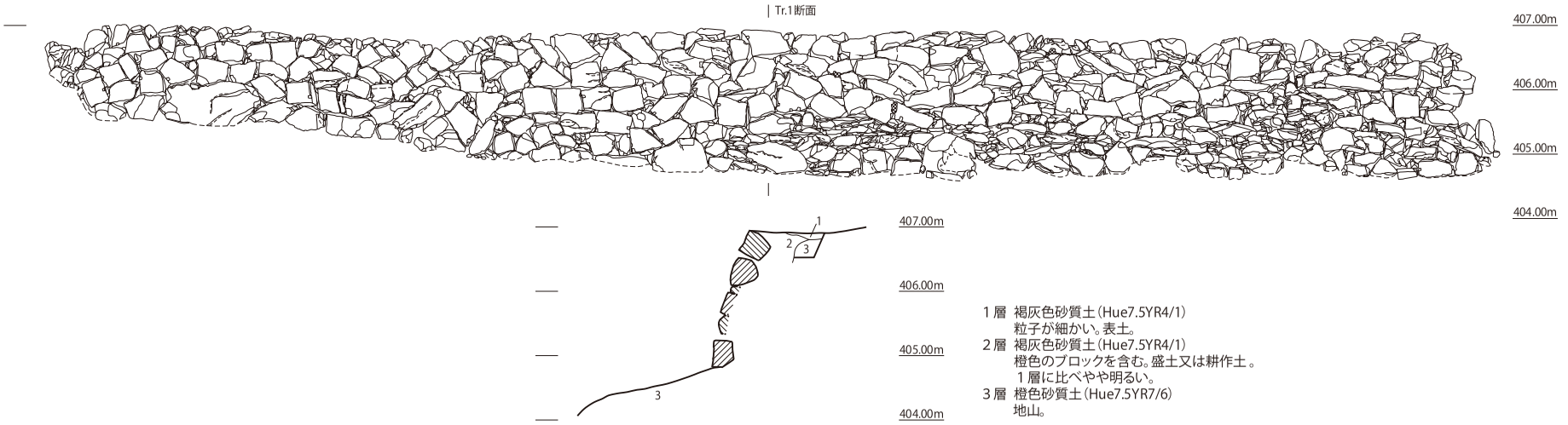
３区南端西側で標高 413.2 ～ 413.3m に位置する。５穴で構成され、柱穴の平面形は円形または楕円形を呈し、径 0.26 ～ 0.37m、深さ 0.09 ～ 0.13m、柱穴間は西から 0.6m-0.85m-1.76m-2.02m で全長 5.23 mを測り、主軸方位は N-70°-W を向く。P1 ～ 3、P5 で柱痕が確認され、埋土はやや暗めの青灰色を呈し、柱径は 0.10 ～ 0.16m と推定される。遺物は出土していないが、造成面上で検出されたことより近代以降の遺構と考えられる。

SD30008 溝跡 (図 11)

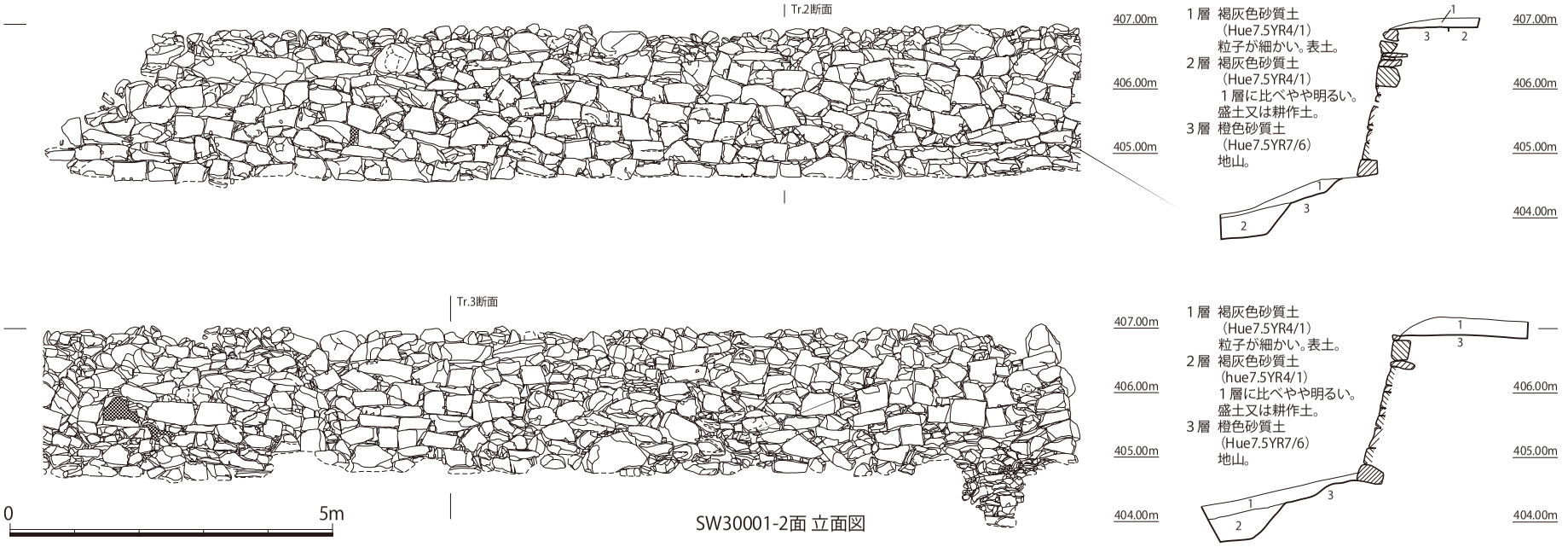
３区南域の南から２段目の平坦面上で、標高 409.21 ～ 409.8m に位置する。北西～南東方向に延びる溝で、北西端は撹乱に切られ、南東端は調査区外へと延びている。残存長 5.1m、幅 0.9 ～ 1.81m、検出面からの深さ 0.43m を測り、主軸方位は N-44°-E を向く。断面形状は逆台形状ないし U 字状を呈していたと思われるが、北側上部は後世の削平によりほぼ消失している。溝底面の高低差はわずか５cm 程であるが、西側の平坦面から集水し、東方の斜面地へ水を落とすための施設と考えられる。

出土遺物 (図 19)

48 は土師器の鍋で、口縁部が玉縁状を成す。内面は横方向のハケ目調整を施す。１層からの出土

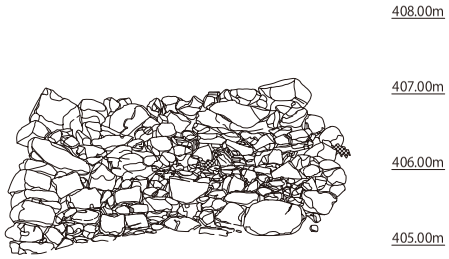


SW30001-1面 立面図

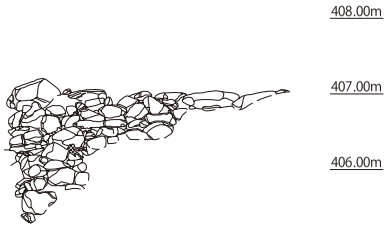


SW30001-2面 立面図

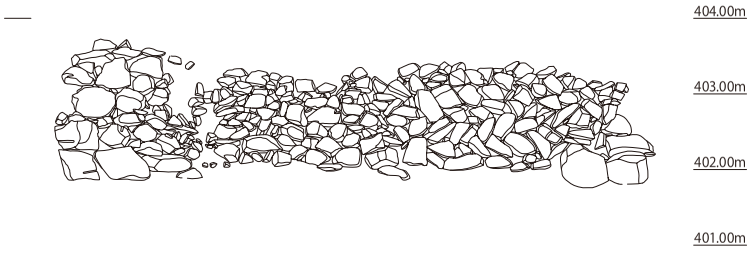
図９　石垣 SW30001−1・2 (1/100)



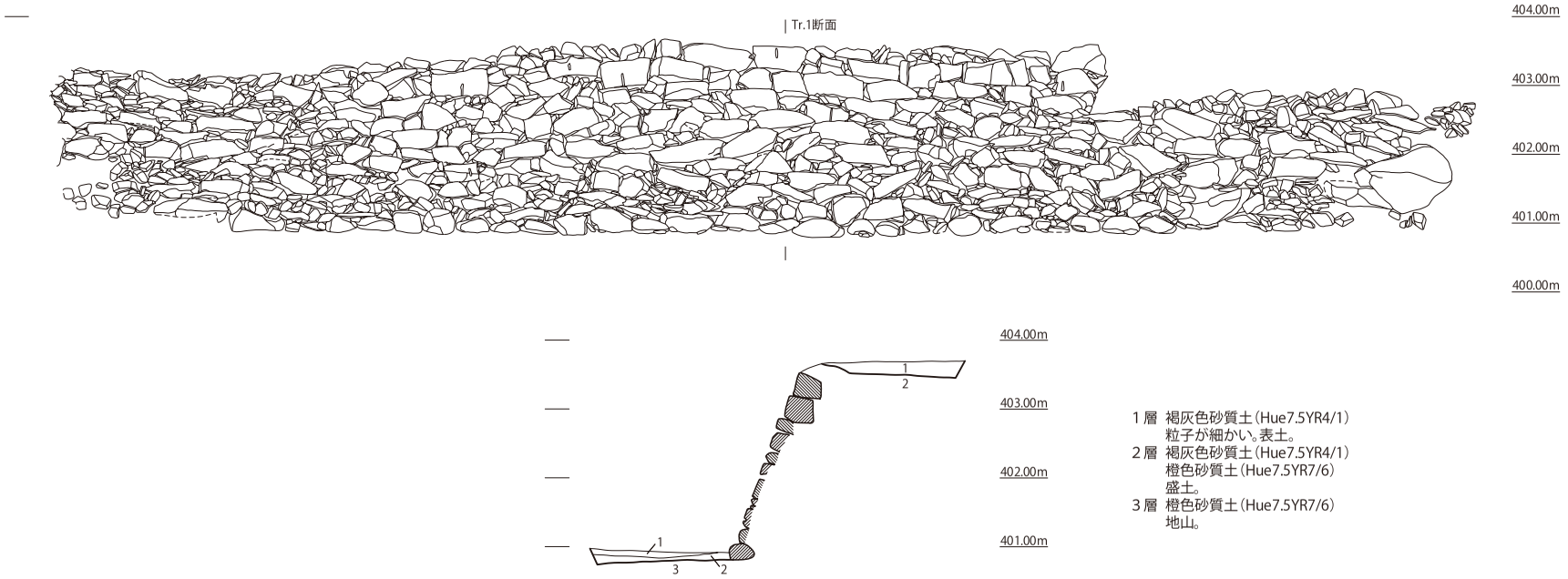
SW30001-3面 立面図



SW30001-4面 立面図



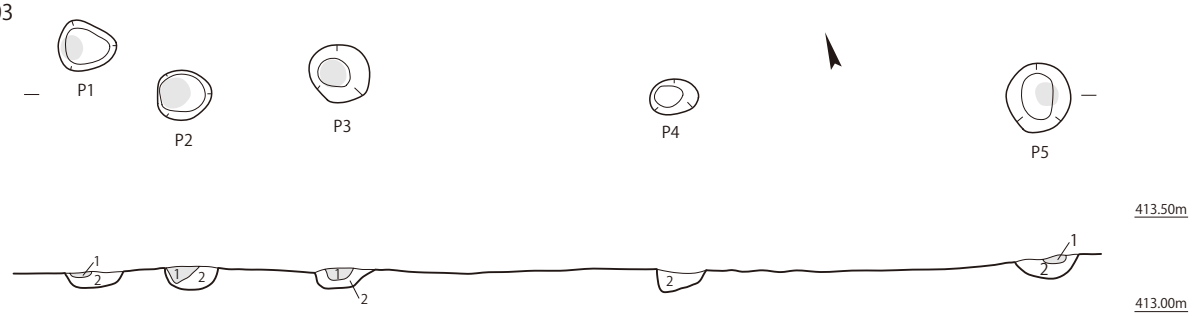
SW30002-1面 立面図



SW30002-2面 立面図

図 10　石垣 SW30001-3・4・30002-1・2 (1/100)

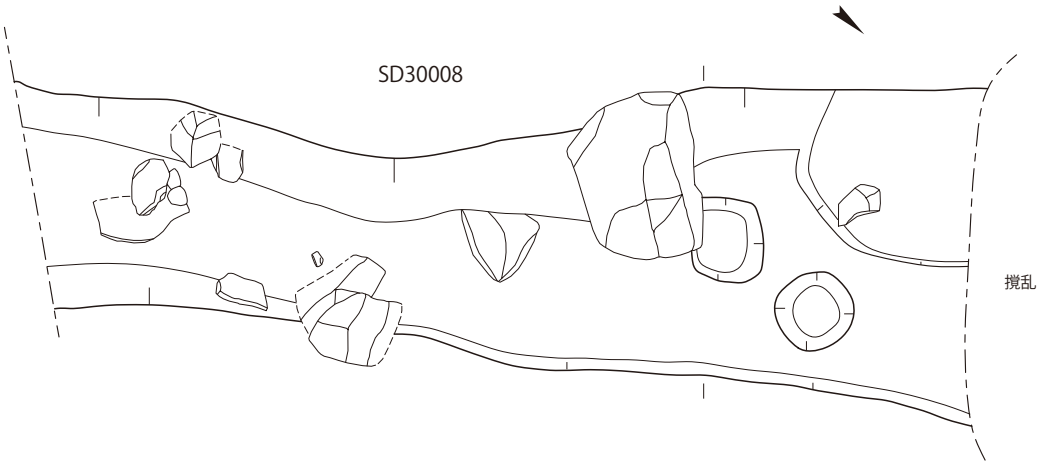
SA30003

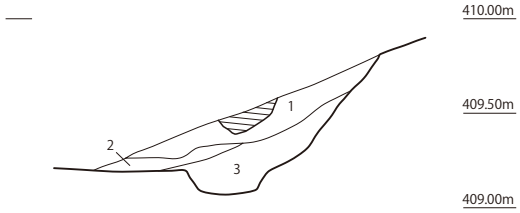


1層 青灰色粘質土（Hue5B5/1）
ややしまりがなく、粒子が粗めの粘性土。
痕と思われる。

2層 にぶい橙色砂質土（Hue7.5YR7/4）
ややしまりがあり、青灰色粘質ブロック土が多く混じる。

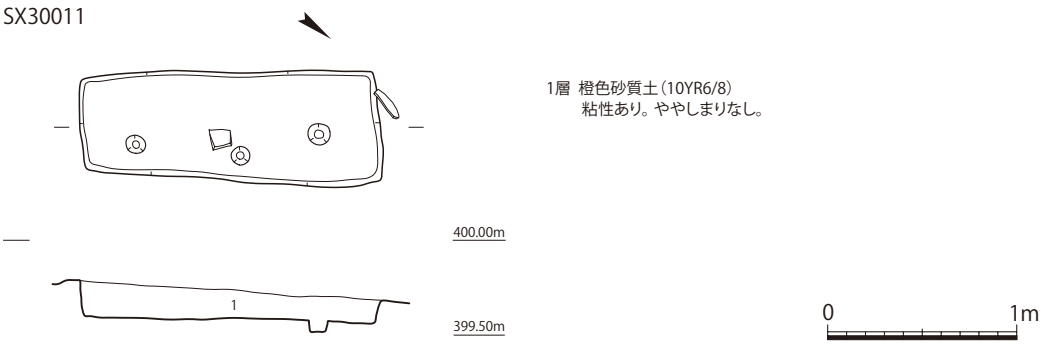
SD30008





1層 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4）
粒子が細かく、ややしまりがある。造成土。
2層 褐灰色砂質土（10YR6/1）
粒子が細かく、ややしまりがある。造成土。
3層 灰褐色砂質土（7.5YR6/2）
粒子がやや粗く、ややしまりがない。
SD8の遺構埋土（遺物を含む）。

SX30011



1層 橙色砂質土（10YR6/8）
粘性あり。ややしまりなし。

図 11　SA30003・SD3008・SX30011 (1/40)

であり、混入品と思われる。

SX30011(図 11)

３区中央部で、標高 399.68 ～ 399.79m に位置する。平面形は長方形で、長軸 1.6m、短軸 0.57m、深さ 0.20m を測る。底面に主軸方向に沿って、径 0.11m、深さ 0.07m 程度の小穴が 3 カ所に掘削される。小穴間の距離は東から 0.55m-0.44m となる。周辺には平面形状は異なるが土坑内底面に小穴を穿った遺構が散見され、用途は不明であるが同種の遺構を用いて同様の作業が繰り返し行われたと考えられる。

SY30004 炭窯 (図 12)

調査区南東端で、標高 413.13 ～ 413.43m に位置する炭窯である。SY30005、SY30006、SY30007 と共に一群を形成し、SY30004 から SY30006 炭窯の 3 基はほぼ並列する。平面楕円形の燃焼部の両端に小さく突出した焚口と煙道がそれぞれ付属する。平坦面縁辺部に設置され、焚口は北側斜面に開口する。煙道部を含めた長軸 3.11m、短軸 1.83m、平坦面からの深さ 0.41m を測り、主軸方位は N-37°-E を向く。断面形は長・短軸ともに逆台形状を成し、床面はほぼ平坦であるが、焚口及び煙道部の床面には僅かな窪みがみられ、煙道はトンネル状を呈する。焚口周辺及び側壁は著しく赤化し、床面直上には炭層が堆積する。炭層上部の堆積土には灰や炭が混入することより、操業後に人為的に埋め戻したものと推定される。

また、焚口前面には平面形が歪な長方形を呈する焼成副産物廃棄土坑を伴っており、長軸 2.41m、短軸 0.86m、深さ 0.46m を測る。内部には炭化物や焼土ブロックを含む黒褐色土が堆積するが、単層であることから 1 度の操業であったことが推察される。この土坑は SY3005 炭窯の土坑との間に重複関係があり前後関係が確認でき、SY30005 炭窯が先行することが判る。

なお、窯体下部構造や上屋等の関連施設は確認されていない。

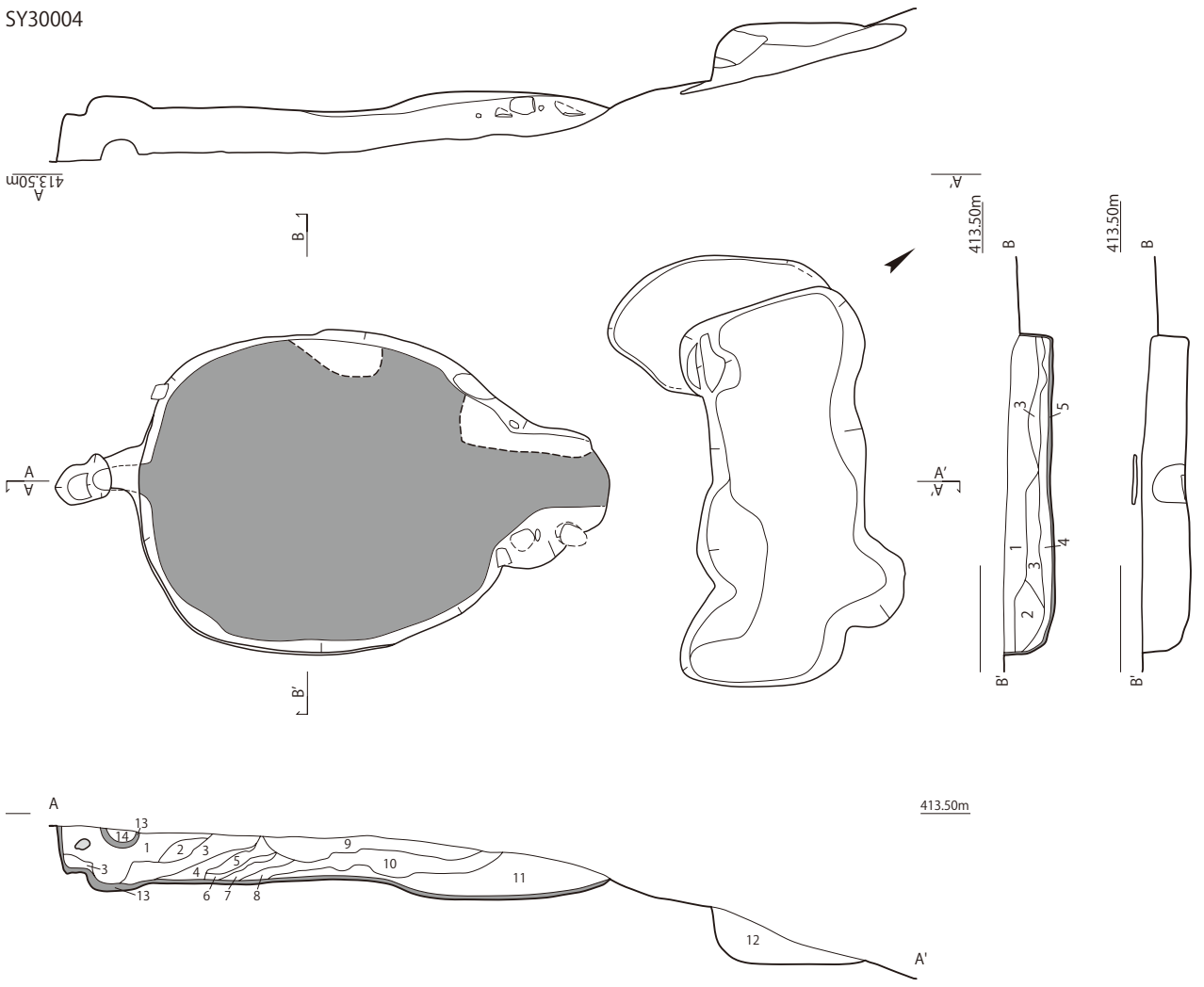
SY30005 炭窯 (図 13)

調査区南東端で、標高 413.4m に位置する炭窯であり、SY30004 と重複し、SY30005 と近接する。平坦面縁辺部に設置され、焚口は北側斜面に開口する。削平によりほぼ床面のみの検出のため詳細は不明であるが形状は SB3004 に類似し、平面楕円形の燃焼部の北側に焚口が認められる。煙道については確認できず、SY30005 で確認された様な窪み等についても検出できていない。長軸 2.5m、短軸 1.93m、深さ 0.04m を測り、主軸方位は N-37°-E を向く。床面はほぼ平坦である。燃焼部中央の削平は床面まで達しており、焚口及び窯尻周辺のみ床面の赤化と炭の堆積がみられた。

また、焚口前面には平面長楕円形の副産物廃棄土坑を伴っており、長軸 2.38m、短軸 1.12m、深さ 0.2m を測る。SY60004 に先行して構築されたもので、埋土は灰褐色を呈し、SY30004 と比して炭化物が少なく焼土や灰を含む。

SY30006 炭窯 (図 14)

調査区南東端で、標高 413.24 ～ 413.37m に位置する炭窯であり、SY30004・30005 に近接する。平坦面縁辺部に設置され、焚口は北側斜面に開口する。構造は平面楕円形の燃焼部北側に焚口を設け、その前面に方形の副産物廃棄土坑を設け、その間を溝状に掘削して焚口と廃棄土坑を接続する。また、窯尻にはトンネル状の煙道が付属する。全長 5.37m、深さ 0.33m で、各部位の長軸はそれぞれ煙道



A-A′
- 1層 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）　粘性あり。しまりあり。
  1cm程の炭化物を多量に含む。炭層。
- 2層 暗褐色砂質土（10YR3/3）　やや粘性あり。ややしまりあり。
  1cm以下の炭化物を多量に含む。
- 3層 黒褐色（7.5YR3/2）　しまりあり。焼土。
- 4層 明黄褐色砂質土（10YR6/8）　粘性あり。しまりあり。
- 5層 暗褐色砂質土（10YR3/4）　やや粘性あり。しまりあり。
  下部が黒色化している。
- 6層 褐色砂質土（7.5YR4/3）　やや粘性あり。ややしまりあり。
  下部が黒色化している。
- 7層 褐色砂質土（7.5YR4/4）　粘性あり。しまりあり。
- 8層 褐色砂質土（7.5YR4/3）　やや粘性あり。ややしまりあり。
  上部が黒色化している。
- 9層 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）　やや粘性あり。ややしまりあり。
- 10層 褐色砂質土（7.5YR4/6）　やや粘性あり。ややしまりあり。
- 11層 黄褐色砂質土（10YR5/6）　やや粘性あり。ややしまりあり。
  2cm程の炭化物を少量含む。
- 12層 にぶい褐色砂質土（10YR5/4）　やや粘性あり。ややしまりあり。
  焼土ブロックを含む。
- 13層 黒色炭層（N1.5/0）炭層
- 14層 にぶい赤褐色砂質土（5YR4/3）　粘性なし。ややしまりあり。

B-B′
- 1層 灰黄褐色砂質土（10YR4/2）　粘性あり。しまりあり。
  1～2cm程の炭化物を多量に含む。A-A′の９層に対応。
- 2層 黄褐色砂質土（10YR5/8）、暗赤褐色砂質土（5YR3/6）　粘性あり。しまりあり。
- 3層 黄褐色砂質土（10YR5/6）　やや粘性あり。ややしまりあり。
  2cm程の炭化物を少量含む。A-A′の10層に対応。
- 3′層 3と同じ。
- 4層 にぶい褐色砂質土（10YR5/4）　やや粘性あり。ややしまりあり。
  2cm以下の炭化物を多量に含む。A-A′の11層に対応。
- 5層 黒色炭層（N1.5/0）炭層。A-A′の13層に対応。

0　1m

図 12　SY30004 (1/40)

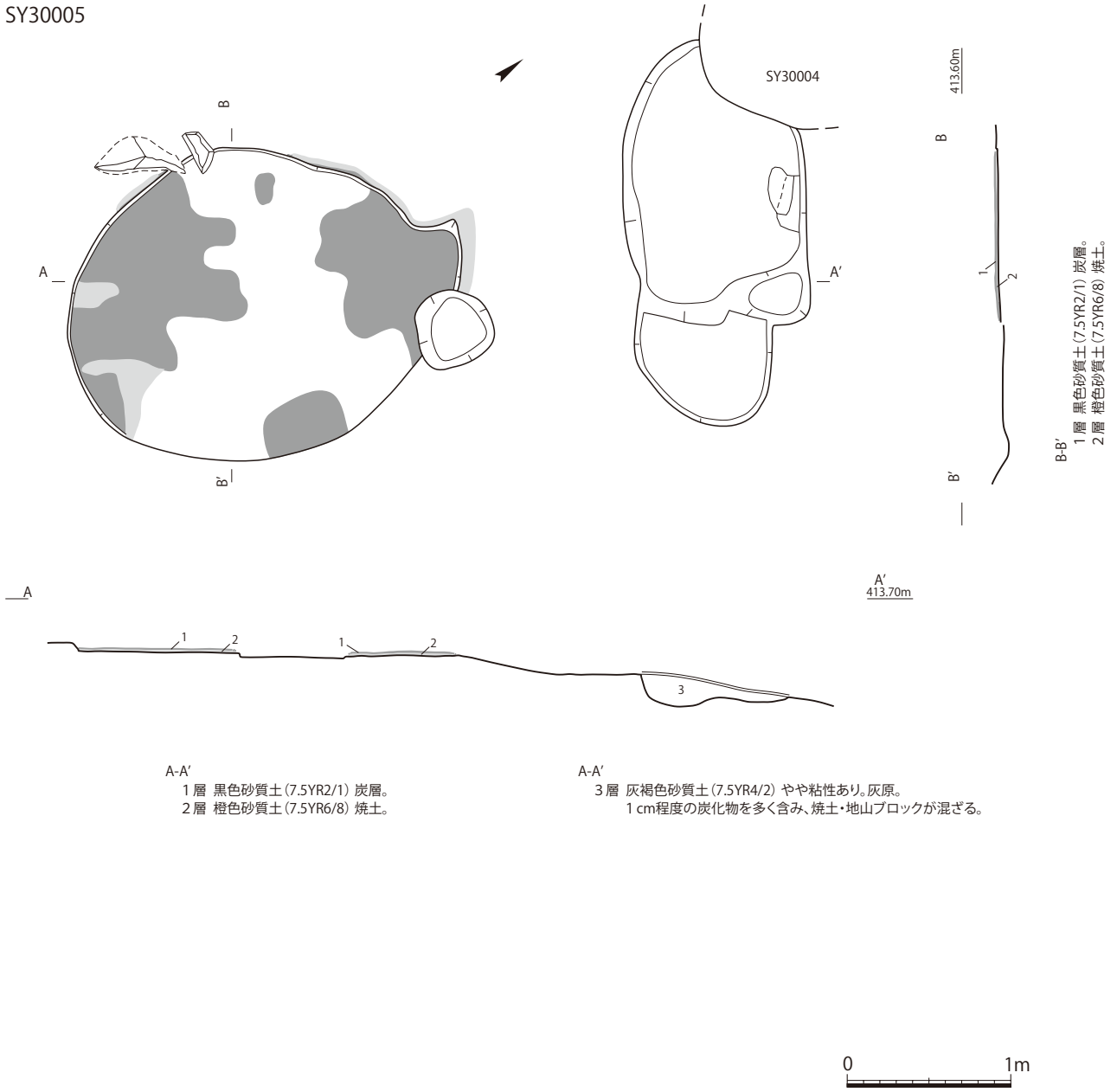
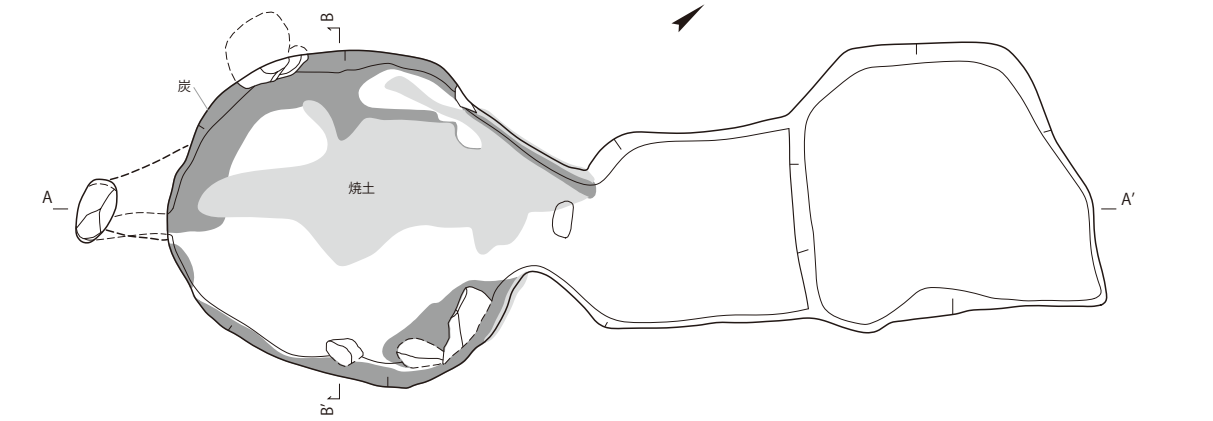
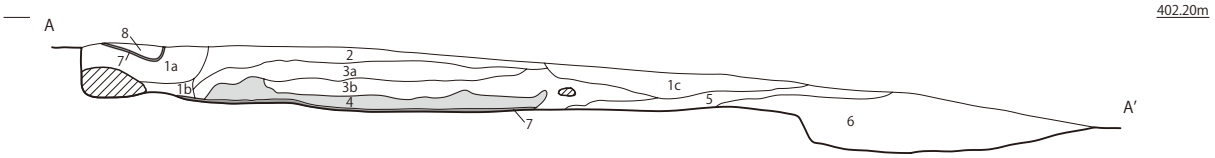
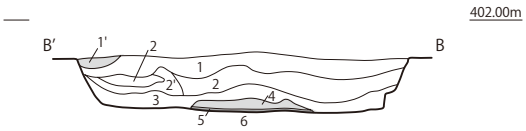


図 13　SY30005 (1/40)

SY30006







A-A′
- 1 a 層 褐色砂質土（7.5YR4/3） ややしまりなし。煙突部。
- 1 b 層 褐色砂質土（7.5YR4/3） ややしまりなし。焼土ブロックを含む。
- 1 c 層 灰褐色砂質土（7.5YR4/2） ややしまりなし。炭化物ブロックを含む。
- 2 層 灰褐色粘質土（7.5YR4/2） 粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
- 3 a 層 橙色粘質土（7.5YR6/8） 粘性あり。しまりあり。炭化物を少量含む。
- 3 b 層 橙色砂質土（7.5YR7/6） ややしまりなし。焼土ブロックを含む。
- 4 層 橙色砂質土（2.5YR6/8） 焼土。地山との間に炭化物の層あり。
- 5 層 灰褐色砂質土（7.5YR4/2） 炭の掻き出し。
- 6 層 にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4） ややしまりなし。
- 7 層 黒色砂質土（7.5YR6/4） 炭化した土。
- 8 層 明黄褐色砂質土（10YR7/6） ややしまりなし。

B-B′
- 1 層 灰褐色粘質土（7.5YR4/2） 粘性あり。しまりあり。
  炭化物を少量含む。A-A′の２に対応。
- 1 ′層 灰褐色粘質土（7.5YR4/2） 粘性あり。しまりあり。
  炭化物を少量含む。焼土ブロックを少量含む。
- 2 層 橙色粘質土（7.5YR6/8） 粘性あり。しまりあり。
  炭化物を少量含む。A-A′の3aに対応。
- 2 ′層 橙色粘質土（7.5YR6/8） 粘性あり。しまりあり。
  炭化物を少量含む。焼土ブロックを一部含む。
- 3 層 橙色砂質土（7.5YR7/6）ややしまりなし。ややしまりなし。
  焼土ブロックを含む。A-A′の3bに対応。
- 4 層 橙色砂質土（2.5YR6/8） 焼土。A-A′の４に対応。
- 5 層 黒色（2/1） 炭層。A-A′の７に対応。
- 6 層 明黄色砂質土（10YR7/6） ややしまりなし。地山。

図 14　SY30006 (1/40)

部 0.47m、焚口を含めた燃焼部 2.26m、溝状部分 1.08m、廃棄土坑 1.56m を測る。短軸も同様にそれぞれ 0.33m、1.76m、1.04m、1.51m を測り、主軸方位は N-38°-E を向く。断面形は長・短軸ともに逆台形状を成し、煙道から溝状部分にかけての床面はほぼ平坦であるが、焚口及び煙道部の床面には僅かな窪みが認められ、煙道部の窪みについては窯内ガスの排出を促す構造と思われる。また、燃焼部では床面直上には炭化物が堆積し、その上部に焼土層が見られることより天井部の窯壁を破壊・投入して埋め戻したものと考えられる。さらに溝状部分から廃棄土坑に向けて灰褐色土層が認められ、副産物を掻き出した痕跡と推定されており、副産物を廃棄した後埋め戻したことが推定できる。

SY50004･50005 炭窯と並列し､SX50005 が重複関係より SY50004 に先行することが判っているが､当該遺構については溝状遺構で焚口と廃棄土坑を接続しているという点において構造上の進歩が見られ、他の２基より後出する可能性が考えられる。

SY30007 炭窯 (図 15)

調査区南東端で、標高 411.57 ～ 412.2m に位置する炭窯である。SY30004・30005・30006 炭窯が設置される平坦面の北側斜面地に構築され、先の３基が構築される造成土の下から検出されていることより先行する時期の炭窯とされる。残存状況は３区で検出された炭窯のうち最も良好で、燃焼部の北側に焚口を設け、平面形は楕円形が連続する８の字、断面形は逆台形状を呈する。窯尻にはトンネル状の煙道が付属する。窯体規模は煙道を含めた長軸 2.98m､短軸 1.75m､深さ 1.06m を測り、主軸方位は N-56°-E を向く。焚口の両端には高さ約 0.5m の方柱状の立石が据えられ、煙道入口にも石材を門状に積み、補強される。床面直上には炭が堆積し、さらにその直上には炭化物を含む焼土の堆積が見られることより天井部の窯壁を投入して埋め戻したものと考えられる。また、焚口には方柱状の石材が散乱しており、燃焼時の閉塞石を廃棄したものと思われる。

窯体は斜面地に構築されているが、東側には階段状の地形が認められ、焚口周辺には平坦面が削り出されていることから通風に配慮しつつ作業場として構築したものと考えられる。

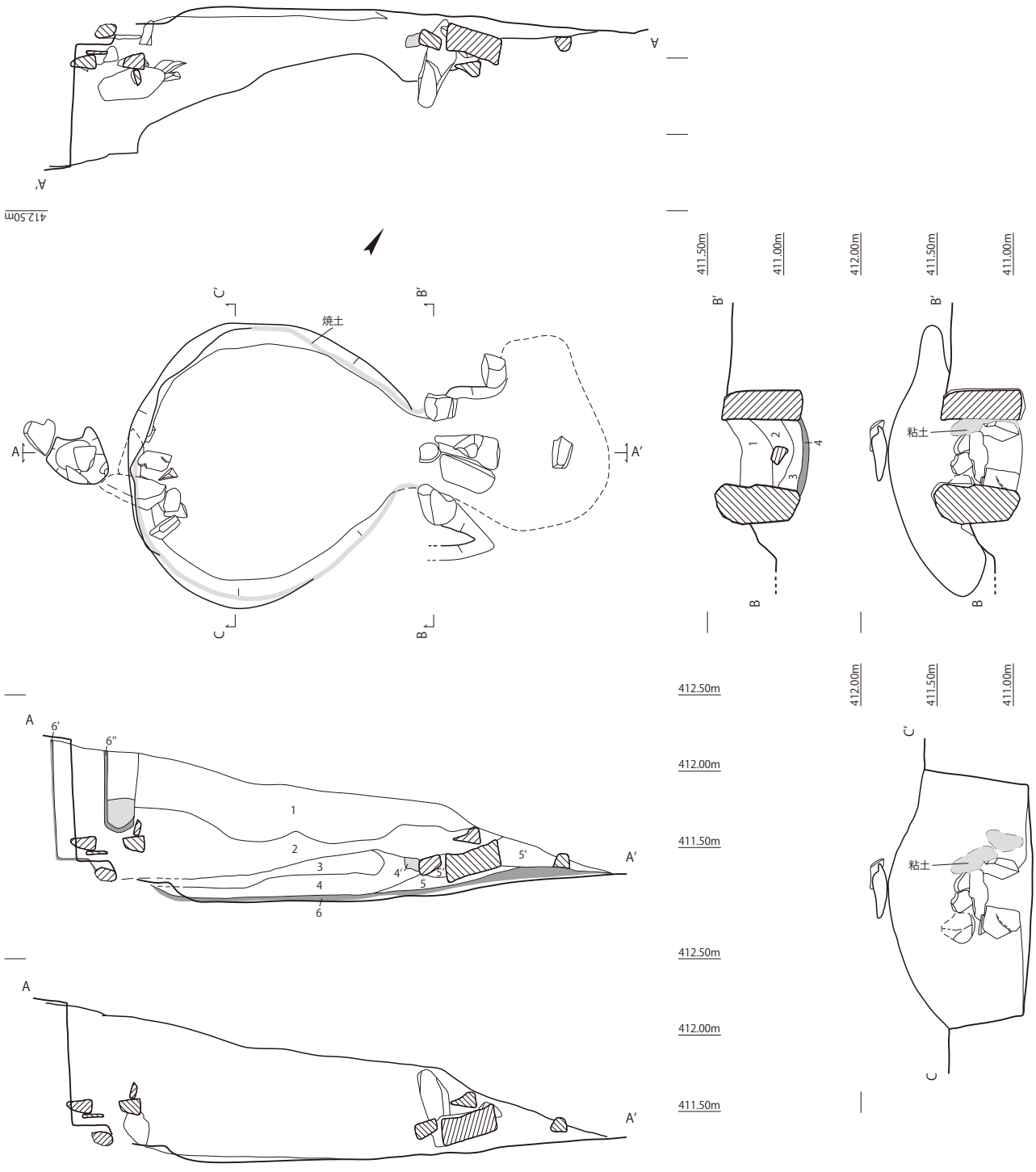
SY30009(図 16)

調査区南東域で、標高 401.58 ～ 401.98m に位置し、奥行約 4.5m の平坦面上に構築される。SY30010 炭窯と共に一群を成すものと考えられる。平面形は楕円形を呈し、北側には焚口、窯尻にはトンネル状の煙道を設ける。焚口北側には作業場もしくは通路の一部と考えられる溝状の平坦面が構築される。煙道を含めた長軸 2.38m、短軸 1.65m、深さ 0.4m を測る。主軸方位は N-54°-E と他の炭窯に比してやや東方を向く。内部には炭や焼土を含む埋土が堆積し人為的に埋め戻したものと考えられるが、窯尻付近の埋土中には扁平な石材が散乱し、SY30007 同様に煙道入口を石材で補強していたものと推定される。また、焚口の西側壁には小穴が穿たれ、内部より土師器の細片が出土している。焚口北側の平坦面には一部が黒化する焼石が散乱しており、閉塞石の名残とも推測される。

SY300010(図 17)

調査区南東域で、標高 400.4 ～ 401.2m に位置する。SY30009 と同一平坦面上にあたり、北側縁辺部に構築される。平面形は楕円形を呈し、長軸 2.35m、短軸 1.73m、深さ 0.49m を測る。主軸方位は N-22°-W を向く。焚口前面には長さ 1.03m、幅 0.52m の溝状の平坦面が付属する。煙道入口両端には立石が見られ、周囲には方柱状や扁平な石材が散乱しており、他の炭窯では煙道天井部を粘土

SY30007



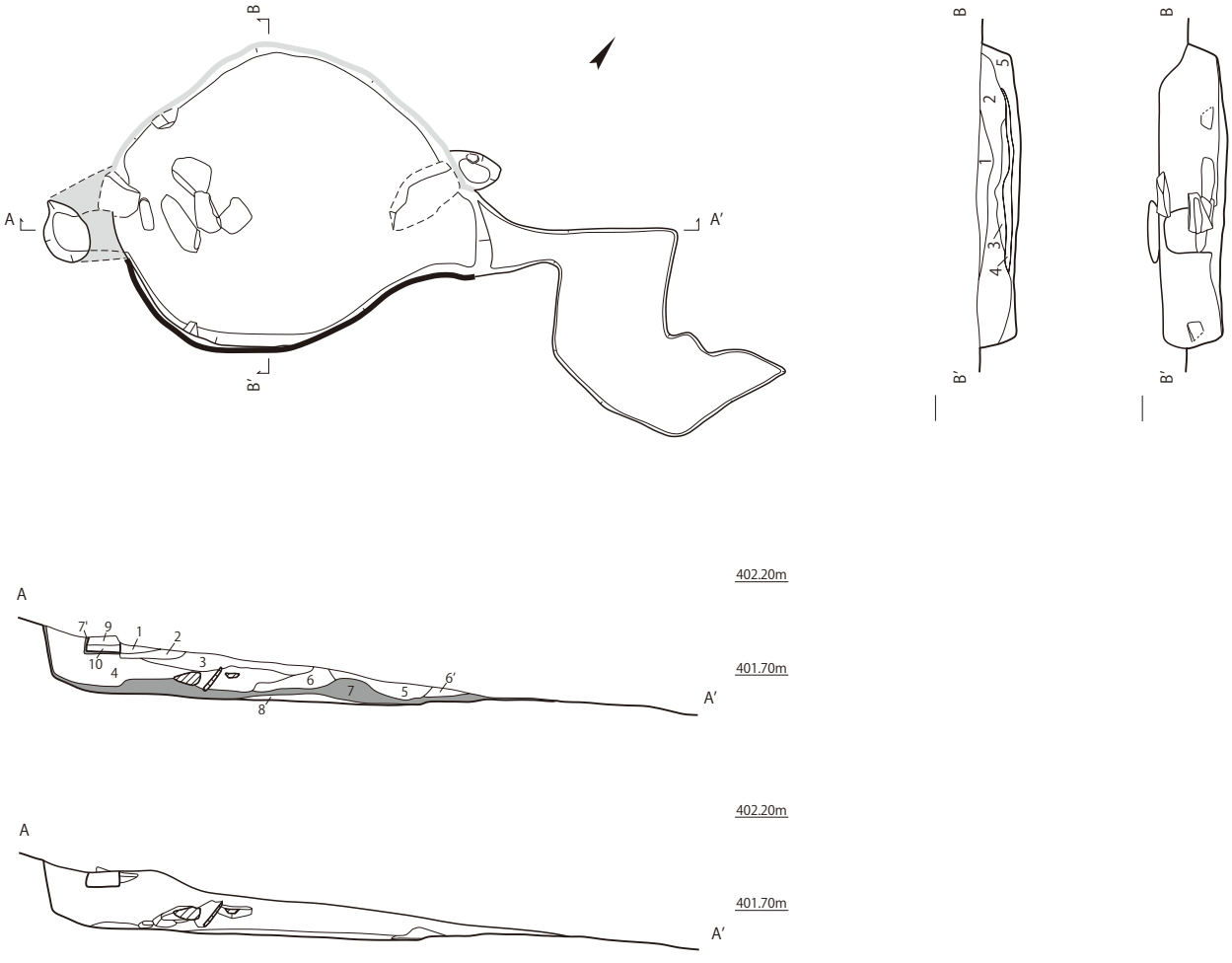
A-A′
- 1層 黄褐色砂質土（10YR5/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
- 2層 明黄褐色砂質土（10YR6/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
  焼土ブロックを含む。
- 3層 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4） やや粘性あり。ややしまりあり。
- 4層 赤褐色砂質土（10YR4/8） やや粘性あり。ややしまりあり。
- 4'層 赤褐色砂質土（5YR4/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
- 5層 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/3） やや粘性あり。しまりあり。
  炭化物を多量に含む
- 5'層 明黄褐色砂質土（10YR6/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
- 6層 黒色炭層（N1.5/0）
- 6'層 黒色炭層（N1.5/0）
- 6"層 黒色炭層（N1.5/0）

B-B′
- 1層 明黄褐色砂質土（10YR6/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
  焼土ブロックを含む。A-A′の２に対応。
- 2層 明黄褐色砂質土（10YR7/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
  A-A′の５′に対応。
- 3層 黄褐色砂質土（10YR5/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
  2cm以下の炭化物を少量含む。A-A′の５に対応。
- 4層 黒色炭層（N1.5/0） A-A′の６に対応。

0 1m

図 15　SY30007 (1/40)

SY30009



A-A′

1層 にぶい赤褐色砂質土（5YR4/4） 粘性あり。しまりあり。
2層 黒褐色砂質土（10YR3/2） 粘性あり。しまりあり。
3層 にぶい黄褐色砂質土（10YR4/3） やや粘性あり。ややしまりあり。
4層 赤褐色砂質土（5YR4/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
5層 赤褐色砂質土（2.5YR4/8） 粘性なし。ややしまりなし。焼土層。
6層 黄褐色砂質土（10YR5/6） 粘性あり。しまりあり。
6′層 6と同じ。
7層 灰黄褐色砂質土（10YR4/2） 粘性あり。しまりあり。炭層。
7′層 7と同じ。
8層 にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）、黄褐色砂質土（10YR5/6） やや粘性あり。しまりあり。
焼土ブロックを含む。
9層 黄褐色砂質土（10YR5/8） やや粘性あり。ややしまりあり。
10層 にぶい赤褐色砂質土（5YR4/3） 粘性なし。ややしまりあり。焼土。

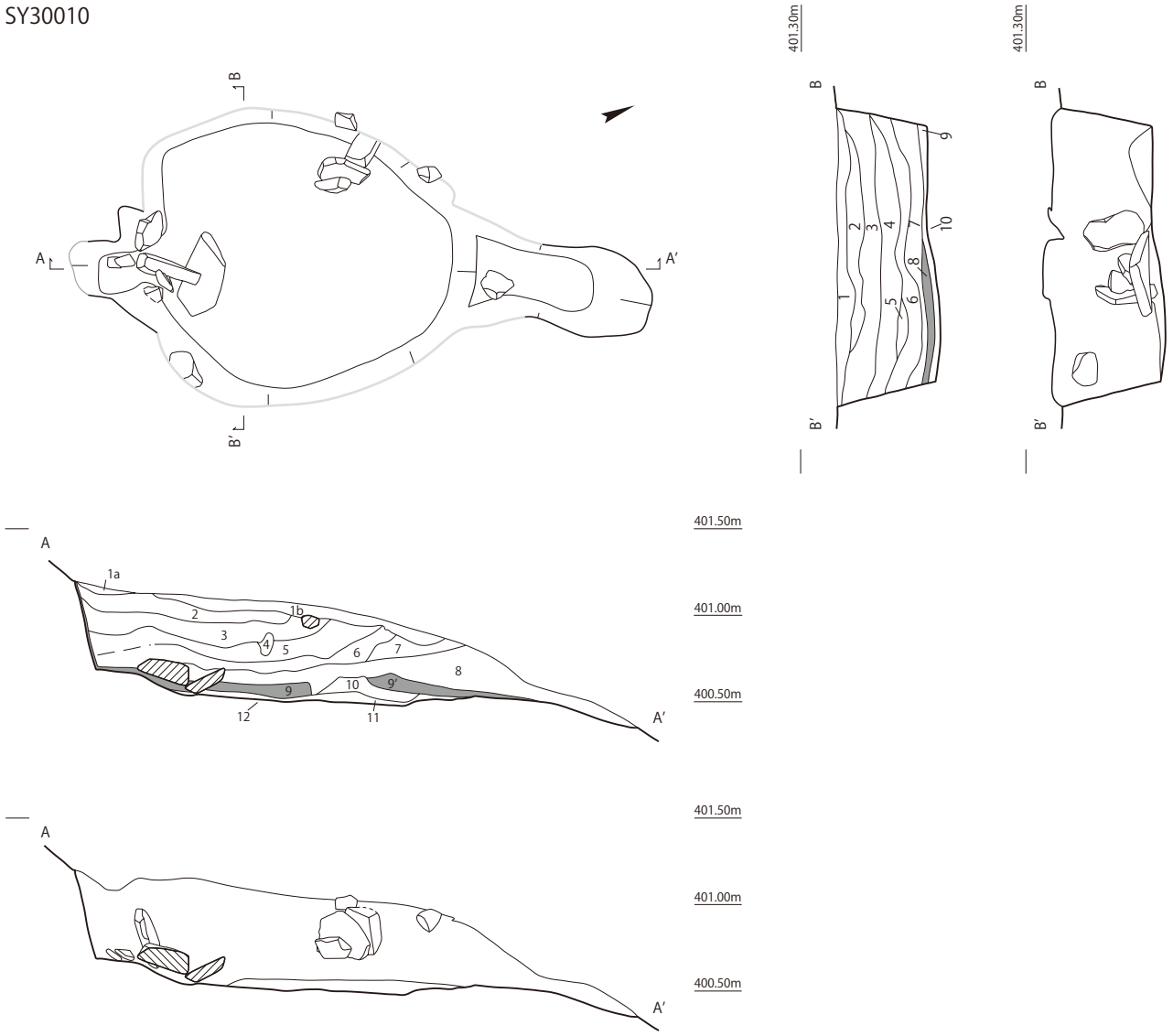
B-B′

1層 にぶい黄褐色砂質土（7.5YR4/3） やや粘性あり。ややしまりあり。A-A′の３に対応。
2層 赤褐色砂質土（10YR4/3） やや粘性あり。ややしまりあり。A-A′の４に対応。
3層 黄褐色砂質土（10YR5/6） 粘性あり。しまりあり。A-A′の６に対応。
4層 灰黄褐色砂質土（10YR4/2） 粘性あり。しまりあり。炭層。A-A′の７に対応。
5層 にぶい黄橙色砂質土（10YR6/4）、黄褐色砂質土（10YR5/6） やや粘性あり。しまりあり。
焼土ブロックを含む。
A-A′の８に対応。

0 1m

図 16　SY30009 (1/40)

SY30010



A-A′
- 1ａ層 褐色砂質土（10YR4/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
- 1ｂ層 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4） やや粘性あり。しまりあり。
- ２層 黒褐色砂質土（10YR2/2） やや粘性あり。ややしまりあり。
- ３層 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4） 粘性あり。しまりあり。
- ４層 黄褐色砂質土（10YR5/8） やや粘性あり。しまりあり。
- ５層 暗褐色砂質土（10YR3/3） やや粘性あり。ややしまりあり。
- ６層 黄褐色砂質土（10YR5/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
  ２cm程の炭化物を少量含む。
- ７層 黄褐色砂質土（10YR5/8） やや粘性あり。しまりあり。
- ８層 褐色砂質土（10YR4/6） やや粘性あり。しまりあり。
  焼土ブロックを多量に含む。
- ９層 黒色砂質土（7.5YR1.7/1） やや粘性あり。 しまりなし。炭層。
- ９'層 ９と同じ。
- 10層 明褐色砂質土（7.5YR5/8） 粘性なし。しまりなし。
  焼土ブロックを多量に含む。
- 11層 褐色砂質土（10YR4/4） やや粘性あり。ややしまりあり。
  ２cm程の炭化物を少量含む。
- 12層 明黄褐色砂質土（10YR6/6） 地山。

B-B′
- １層 にぶい黄褐色砂質土（10YR5/4） やや粘性あり。しまりあり。
  A-A′の1bに対応。
- ２層 黒褐色砂質土（10YR2/2） やや粘性あり。ややしまりあり。
  A-A′の２に対応。
- ３層 黄褐色砂質土（10YR5/8） やや粘性あり。しまりあり。
  A-A′の３に対応。
- ４層 暗褐色砂質土（10YR3/3） やや粘性あり。ややしまりあり。
  A-A′の５に対応。
- ５層 黄褐色砂質土（10YR5/6） やや粘性あり。ややしまりあり。
  ２cm程の炭化物を少量含む。
- ６層 黄褐色砂質土（10YR5/8） やや粘性あり。しまりあり。
  A-A′の６に対応。
- ７層 褐色砂質土（10YR4/6） やや粘性あり。しまりあり。
  焼土ブロックを多量に含む。A-A′の８に対応。
- ８層 黒色砂質土（7.5YR1.7/1） やや粘性あり。しまりなし。
  炭層。A-A′の９に対応。
- ９層 褐色砂質土（10YR4/4） やや粘性あり。ややしまりあり。
  ２cm程の炭化物を少量含む。A-A′の11に対応。
- 10層 明黄褐色砂質土（10YR6/6） 地山。A-A′の12に対応。

図 17　SY30010 (1/40)

で突き固めて構築していたのに対し、これらの石材を用いてトンネル状の煙道天井部を構築していたものと推定される。また、焚口周辺に石材は確認されていないが、焚口閉塞時に使用したと考えられる扁平な石材が燃焼部西側壁に立てかけるように埋設されていた。

内部に堆積する埋土は、床面直上では炭が堆積し、その上には焼土や炭化物を含む褐色土が堆積し、さらに上方には灰を含む層と炭を含む層が断面皿状かつ互層に堆積する。他の炭窯同様、操業後に人為的に埋め戻されたものと考えられる。なお､この埋土内から土師器片が出土しているが小片のため、詳細は不明である。

出土遺物 (図 18・19)

３区の出土遺物は、検出した遺構に反して中世の遺物が多くみられる。いずれも小片で造成土内からの出土であるが、３区は尾根上に位置しており遠方からの客土は想定し難く、本来この地に中世の遺跡があったものと推定される。小片であることは、旧小川内集落時には水田であったため造成時や耕作の際に大きな破片は取り除かれたためであろう。また、近世期の遺物は少なく造成時期を特定しがたいが、旧小川内集落と同様に江戸後期から明治期にかけてと推定される。

1 は縄文時代の深鉢の胴部片で、内外面に横方向の条痕調整を施す。2・3 は土師器の皿、4 ～ 6 は坏である。2・5・6 は底面に糸切り痕を残す。7 から 22 は土師器の鍋で、いずれも口縁部片である。7 は口縁部が断面台形状を呈し、上端に押圧文を施す。8 ～ 19 は口縁端部直下に粘土紐を貼り付けて下垂れの玉縁状にしたものである。12・13・17 は上端部に粘土紐をナデた際に生じたと思われる沈線状の溝が巡る。内面は横方向のハケ目調整を施す。20 ～ 22 は素口縁のものである。内面はナデまたは横方向のハケ目を施し、外面はナデ調整である。23 は器形不明の土師器である。内面はミガキか。外面は縦方向のハケ目調整を施す。外面には煤が付着するために鍋として使用されたものと推定される。24 ～ 27 は瓦器の鍋で、内面は横方向のハケ目調整を施し、25 は外面にユビオサエ痕が横方向に連続して残る。28 ～ 31 は瓦器の茶釜である。28 ～ 30 は羽部で、28・29 は水平にちかく、30 は下向きのものである。31 は肩部の鐶付である。肩部に貼り付けられ、両側穿孔である。いずれも焼成不良である。32 ～ 34 は瓦器の擂鉢である。33 は黄褐色を呈するが焼成具合より瓦器と判断したもので、口縁部はやや厚みを増し、端部は平坦に仕上げる。間隔をあけた擂目が、口縁下まで引かれる。32、33 は外面にユビオサエ痕が残る。35 は瓦器の火鉢か。断面半円形の凸帯が巡る。平坦面 5B-14 の茶釜のような凸帯状の羽が付くものもあるため、茶釜の可能性も考えられる。36 は鉢形を呈すると思われる器形のもので、口縁端部が屈折して短く直立する。37 は肥前陶器の擂鉢で口縁部が玉縁状を呈し、口縁部のみに鉄 (泥) 釉を施す。摺目は上端を引きっぱなしにするが、口縁内側を強くナデることにより体部との境に段を有する。17 世紀後半のものと思われる。38 は肥前陶器の瓶か。下端内面には接合痕が見られ体部が付くものと思われる。口縁部は鉄釉を施し、頸部外面には鉄絵で竹文を配する。39・40 は肥前産陶器の土瓶である。39 は内傾する短い口縁部を持つもので、体部はソロバン玉状を呈すると思われる。外面に白化粧後に銅緑釉を施す。40 は小さな円錐形の脚が付き、底部はわずかに窪む。18 世紀後半のものである。41 は肥前の染付碗で、外面に三角形を連続させる幾何学文が配される。42・43 は中国産の青花碗である。44・45 は肥前産の染付皿で、45 は内面に雲形の区画文にススキと思われる植物が描かれる。46 は肥前波佐見系の染付皿で 18 世紀後半のものである。47 は焙烙の柄か。焙烙部分は薄く、柄との接合部分は厚みを増す。柄は角を丸め、焙烙に対して上方に傾いて付く。

造成土

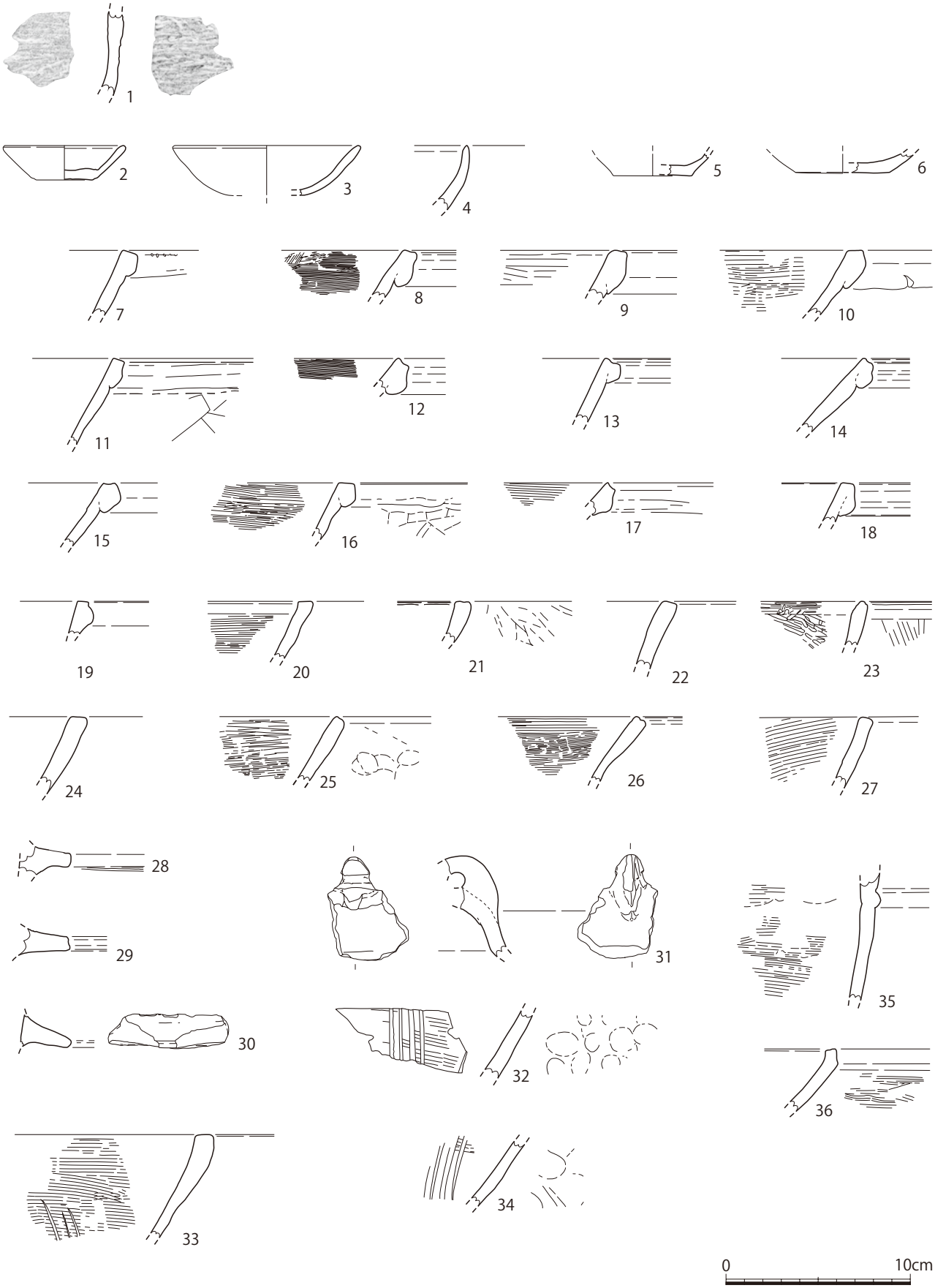
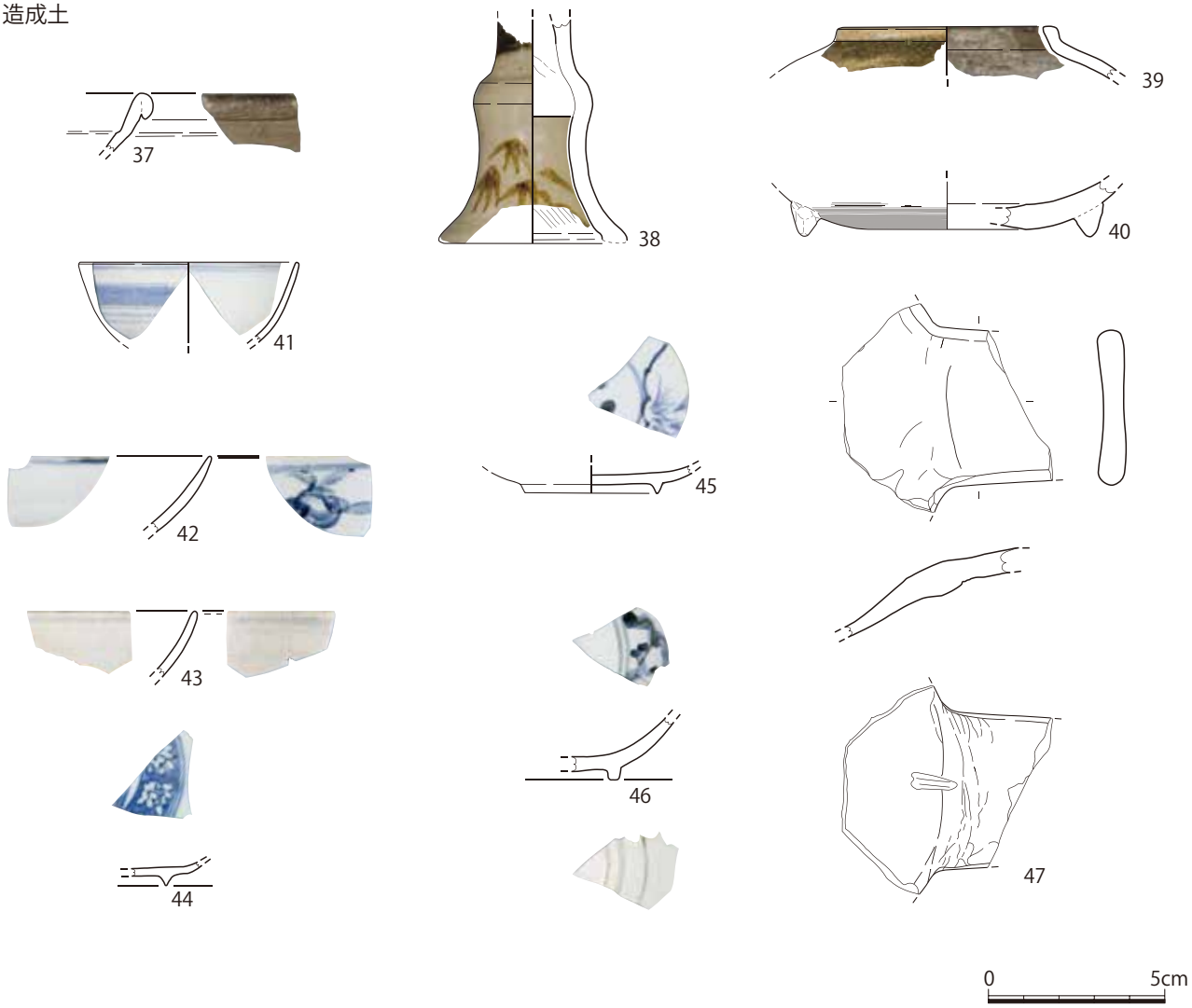


図 18　3 区の遺物実測図 1 (1/3)

造成土



SD30008

大山祇神社

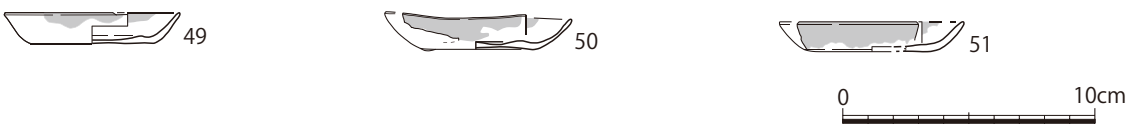


図 19　3 区の遺物実測図 2 (1/3、1/2)

大山祇神社石垣 A 面 (図 21)

神社北面に位置する石垣で、階段状に 3 段積まれた石垣である。石垣中央部には、さらに 2 段分の石垣 B 面が張り出して、旧集落では「戸数は石段数である 35 戸を超えることはない」と言われた境内に至る石段 (現 33 段) が設置される。墨線方向は N-45°-W を向き、西端では隅角部を持って南西方向に屈折し C 面に至る。現況では東側法面が大きく滑落し、石垣は全く確認できない。

下より 1 段目の石垣は現況で高さ 1.4m 、勾配 63° で 2 段目までの控えが 1.3 mを測る。築石は径 0.3 ～ 0.6m の粗割石を使用し、石積みは布目崩しである。天端石は不明確で、上端の一部には改修されたと考えられる径 0.3m 以下の小型の石材が積み足される。根石部分は埋没していたためトレンチ (断面 d) を設けて確認を試みたが湧水により掘削できなかったため根石の確認はできなかったが、現地表面以下 0.43m までは石垣が続くことを確認した。これにより確認できた 1 段目の石垣の高さは 1.74m となる。また、 1 段目石垣天端に設けた石垣背面構造を確認するためのトレンチ (断面 c) では、扁平な径 0.2 ～ 0.3m 大の石が混入していたものの、裏グリ層は確認できていない。

2 段目は、1 段目天端からの高さ 1.0m、勾配 68° で 3 段目までの控えが 1.9m を測るが、トレンチ (断面 c) にて根石を確認しており、石垣の高さは 1.48m となる。石積みは東西で異なり、西側は径 0.3 ～ 0.5m の野面石または粗割石を使用した乱積みで、東側は径 0.5m 程度の割石を布積みにする。天端は小礫を並べる。石垣の背面では径 0.2 ～ 0.3m の角礫を使用した裏グリ層が検出され、層状になる裏土も確認されている。

3 段目は、2 段目天端からの高さが 4.22m で、勾配 78° を測るが、下位はさらに勾配がきつくなる傾向がある。石垣基部は地表より 0.6m まで掘削したが、根石の検出には至っていない。したがって石垣の高さは 4.68m 以上となる。石積みは上下で異なり、色調の違いもさることながら、築石の大きさが異なる。下位は径 0.3m 程度の野面石を使用し、西は 2 段目石垣天端より 1m 程度まで積まれるが徐々に位置を上げ、一部は樹木の根により確認できないが、石段脇では天端まで続く。上位の石垣は径 0.4 ～ 0.7m の割石を使用した布目崩し積みで積まれる。一部には石割の際のドリル痕も認められ、近現代の積み直しと考えられる。石垣背面については安全面に考慮して 0.3m までしか掘削できず十分な確認に至っていないが、裏グリ層は設けられていない可能性が推定されている。

いずれの石垣も数度の崩落、積み直しを経ているものと推定される。また、石段の規模については凡そ次のように推定できる。見かけの高さにおいて、1 段目までは約 2m、2 段目は 1m で、3 段目は天端として目地が通るさらに上に小礫が積まれているため、本来は 4m であったと考えられ、計 7m の石垣であったことが推定される。

出土遺物 (図 19)

49 ～ 51 は土師器の燈明皿で､底部に糸切り痕を残す。50･51 は底部と口縁部の境を丸く仕上げる。いずれも口縁部に煤・タールが付着するが、50・51 は著しく、より長期間の使用が推定される。

大山祇神社石垣 B 面 (図 22)

石段の両脇は石垣 A 面より北方へ張出し、石垣 A 面 1 段分の高さまでを 2 段で構築し、それより上位は石段の勾配に沿った傾斜の緩い石垣で石垣 A 面 2 段目天端より 3m 上方で石垣 A 面 3 段目に摺り付く。石垣 B 面はその下位の 2 段分の側面にあたる。築石は径 0.2 ～ 0.6m の石材を使用するが、1 段目及び 2 段目天端が崩落し、隅角も緩む。石垣 A 面との入角部分の構造により、A 面より後出する石垣であることが判る。

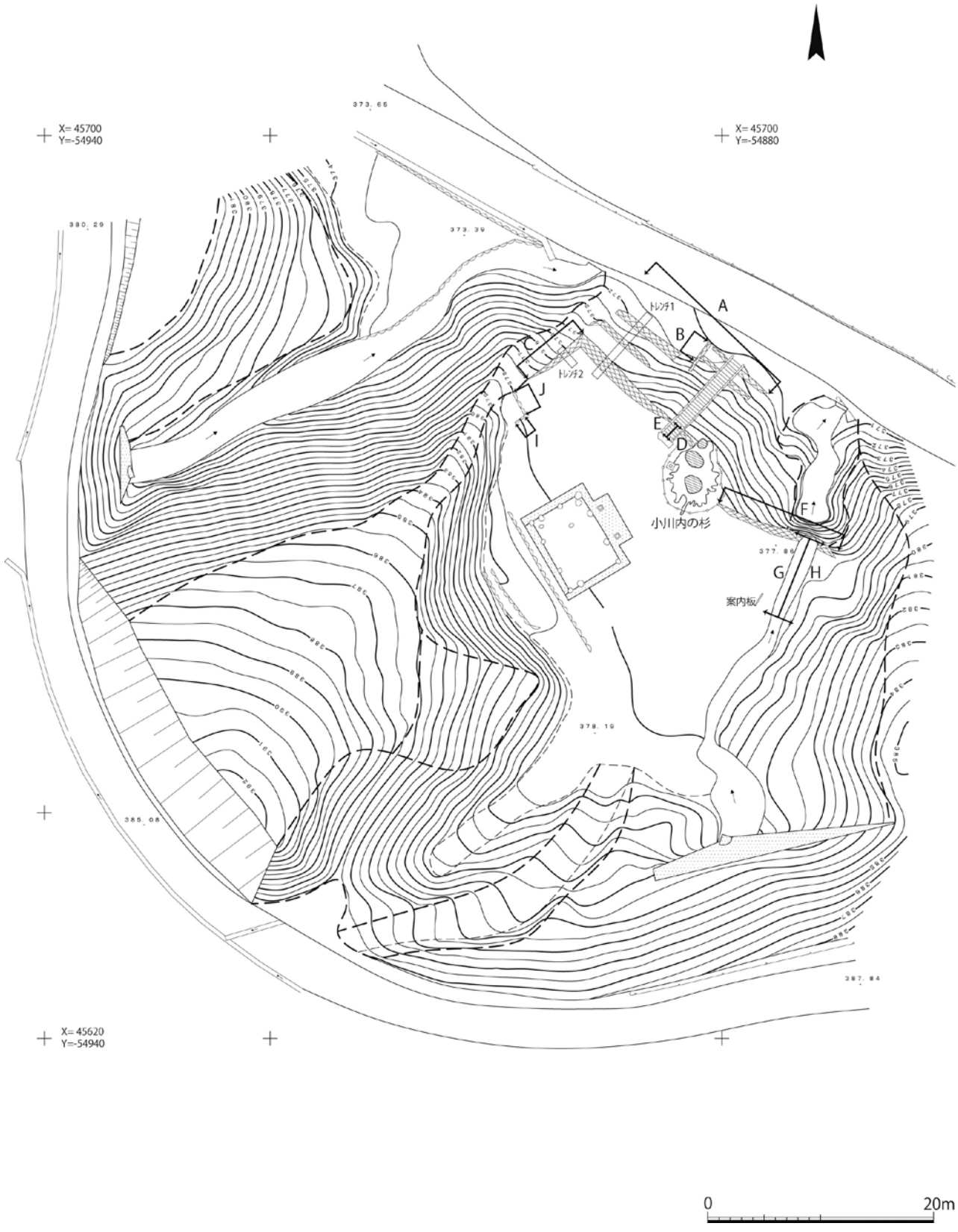
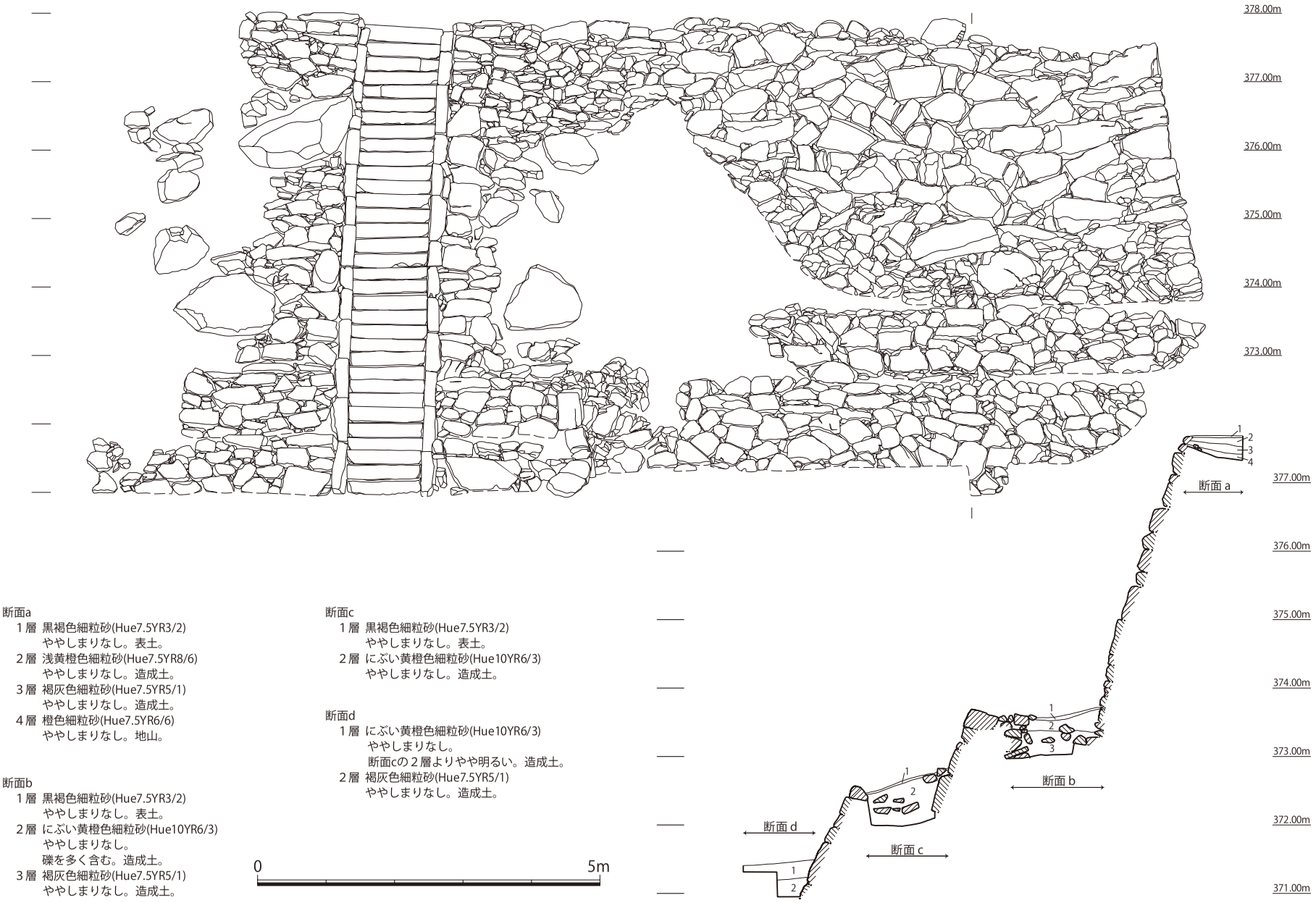


図 20　大山祇神社地形測量図 (1/500)



断面a
1層 黒褐色細粒砂(Hue7.5YR3/2)
ややしまりなし。表土。
2層 浅黄橙色細粒砂(Hue7.5YR8/6)
ややしまりなし。造成土。
3層 褐灰色細粒砂(Hue7.5YR5/1)
ややしまりなし。造成土。
4層 橙色細粒砂(Hue7.5YR6/6)
ややしまりなし。地山。

断面b
1層 黒褐色細粒砂(Hue7.5YR3/2)
ややしまりなし。表土。
2層 にぶい黄橙色細粒砂(Hue10YR6/3)
ややしまりなし。
礫を多く含む。造成土。
3層 褐灰色細粒砂(Hue7.5YR5/1)
ややしまりなし。造成土。

断面c
1層 黒褐色細粒砂(Hue7.5YR3/2)
ややしまりなし。表土。
2層 にぶい黄橙色細粒砂(Hue10YR6/3)
ややしまりなし。造成土。

断面d
1層 にぶい黄橙色細粒砂(Hue10YR6/3)
ややしまりなし。
断面cの２層よりやや明るい。造成土。
2層 褐灰色細粒砂(Hue7.5YR5/1)
ややしまりなし。造成土。

図 21　大山祇神社石垣 A 立面図 (1/80)

大山祇神社石垣 C 面 (図 22)

境内の西側面を構築する石垣で、石垣 A 面の３段目石垣に隅角部を介して連続する。高さ 3.67m、幅 5.25m を測る。築石及び石積みは A 面の上位と同様である。隅角部は算木積みで、石尻が下方に傾斜する。根石は表土上に据えられており、石材の一部には石割の際のドリル痕が認められることより、近現代の積み直しと推定される。また、石垣天端に設けたトレンチでは裏グリ層を伴っていないことを確認している。

大山祇神社石垣 D 面 (図 22)

石段の最上位西面を構成する石垣で、高さ 0.97m、幅 1.04m を測る。旧来の石垣上に方柱状の間知石を用いて構築される。石段の改修に伴って、積み直し、積み足しが行われたものと推定される。

大山祇神社石垣 E 面 (図 22)

石段の最上位東面を構成する石垣で、高さ 0.91m、幅 1.29m を測る。隅角は算木積みであり、石材の一部には幅 5cm の矢穴が残存する。石垣 C 面同様、積み直しが行われたものと推定される。

大山祇神社石垣 F 面 (図 22)

神社北面で、石段より東側に位置しする。石垣 A 面東側崩落後に構築されたものと考えられ、石垣 A 面と墨線を異にする。高さ 6.4m、幅 10.72m を測り、墨線方向は N-68°-W を向く。西端天端には石垣 G・H で構成される水路の水口が開く。築石は径 0.4 ～ 0.6m の野面石、割石を使用するが、石面が一定せず、やや雑な石積みである。

大山祇神社石垣 G 面 (図 23)

境内東側縁辺部に設置された石組水路の西壁である。全長 8.21m、高さ 0.83m を測る。石積みは割石を 1 ～ 3 段積む。

大山祇神社石垣 H 面 (図 23)

境内東側縁辺部に設置された石組水路の東壁である。全長 9.77m、高さ 0.63m を測る。一部では長さ 0.5 ～ 0.8m の石材を並べるが、大半は 0.3m 以下の小礫を積む。石垣 G 面に比して高さが低いことは、独立丘陵上で水量が少なく境内外側に位置していることに由来するものと思われる。

大山祇神社石垣 I 面 (図 23)

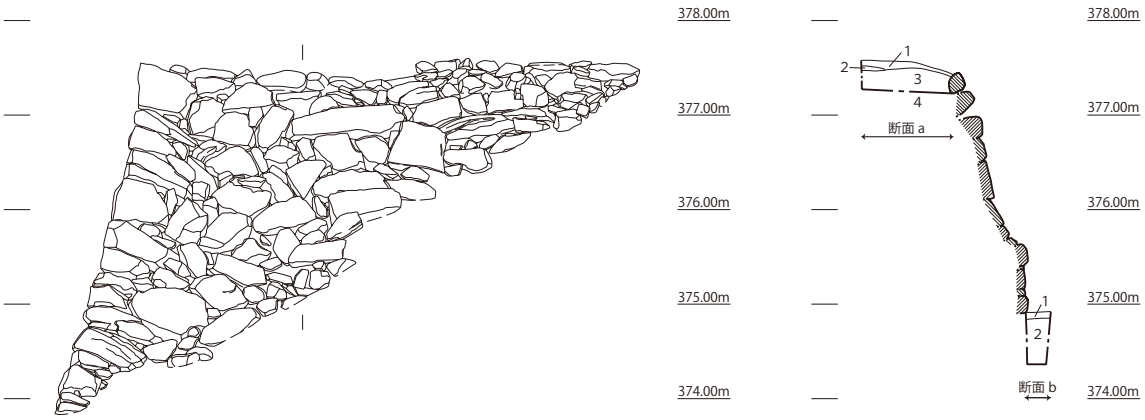
境内内西端で、背後の丘陵裾部に位置する。石垣 J 面と併せて小規模な基壇状を成す。高さ 0.75m、幅 1.18m を測る。3 石分の石積みが施される。J 面に比して石積みが粗雑であり、側面を構成する石垣である故と考えられる。

大山祇神社石垣 J 面 (図 23)

境内内西端で、背後の丘陵裾部に位置する。石垣 I 面と併せて小規模な基壇状を成す。高さ 0.81m、幅 3.18m を測る。築石には花崗岩の野面石及び割石を使用して、4 石分の石積みが施される。

B面

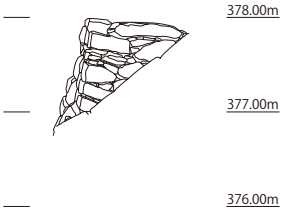
C面



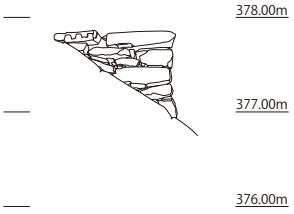
断面a
1層 黒褐色細粒砂(Hue7.5YR3/2) やしまりなし。表土。
2層 浅黄橙色細粒砂(Hue7.5YR8/6) ややしまりなし。造成土。
3層 褐灰色細粒砂(Hue7.5YR5/1) ややしまりなし。造成土。
4層 橙色細粒砂(Hue7.5YR6/6) ややしまりなし。地山。

断面b
1層 黒褐色細粒砂(Hue7.5YR3/2) ややしまりなし。表土。
2層 にぶい黄橙色細粒砂(Hue10YR6/3) ややしまりなし。造成土。

D面



E面



F面

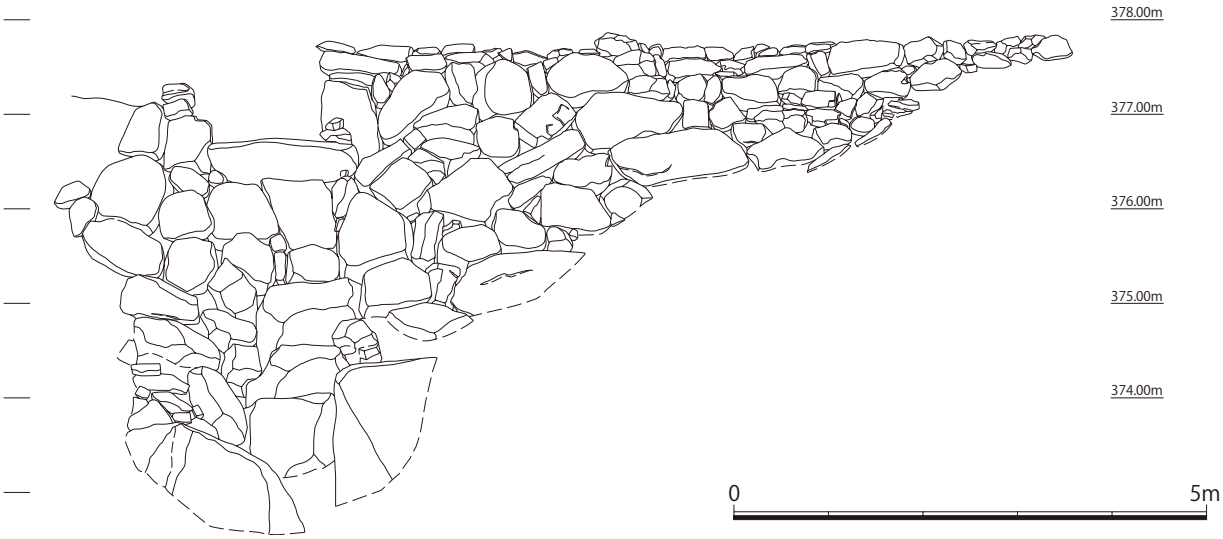


図 22　大山祇神社石垣 B・C・D・E・F 面立面図 (1/80)

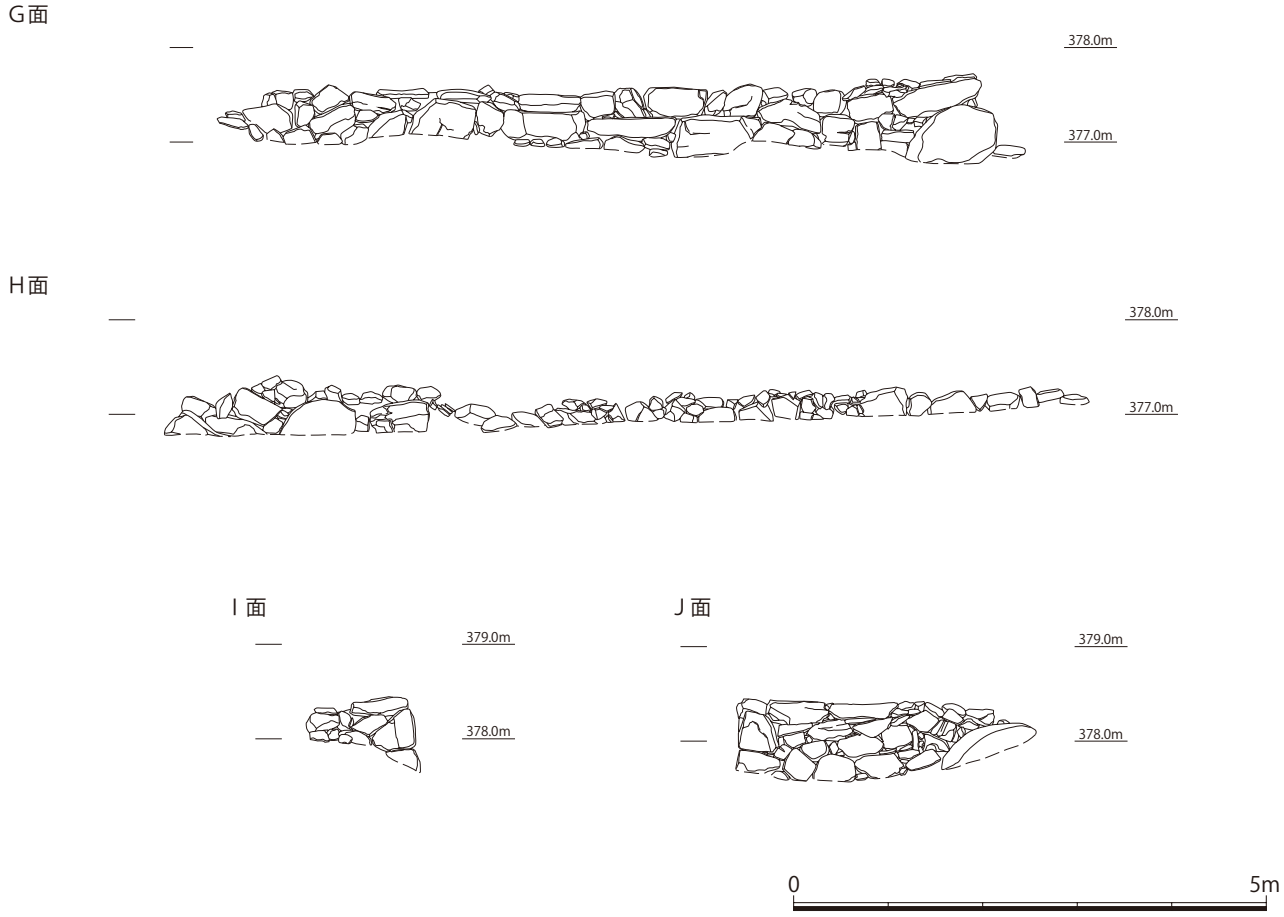


図 23　大山祇神社石垣 G・H・I・J 面立面図 (1/80)

第Ⅴ章　小川内遺跡 4 区

1　4 区の調査 (図 25)

小川内遺跡 4 区は、大山祇神社西側の旧生活道路（県道早良中原停車場線）沿いに面する旧小川内集落地の一部である。本来は 5 区（平坦面 5A-8・9）に含まれる場所であるが、大山祇神社境内の小川内の杉の移転を控え、工事用道路建設のため 5 区の調査に先行して 400 m^2 を対象に調査を実施した。調査区は南北約 48m、東西約 9m の南北方向に長い調査区で、調査区北域は平坦面 5B-18 の SX50344 が続く埋没谷であり、両岸には花崗岩が露出し、調査中も湧水がみられた。一方、調査区南域は北域と同じく、造成時の削平をうけていたが、いくつかの小穴が確認されている。小穴からは時期の判別できる遺物は出土していないが、旧集落時には水田であり、周辺調査状況から勘案しても近現代まで積極的に土地利用が成された場所ではないため、比較的新しい時期の遺構と推定される。なお、SX50344 同様、中世期の遺物が散見されることは埋没谷の上方に旧来中世の遺構があったことを示唆しているものと思われる。

2　4 区の出土遺物 (図 24)

1 ～ 6 は土師器の鍋で、 1 は口縁端部に粘土紐を貼り付け断面台形に成型したもので、端部上端をヨコナデして仕上げる。2 ～ 3 は口縁端部直下に粘土紐を貼り付けヨコナデし、下垂れの玉縁状を呈する。内面は横方向のハケ目調整で、3 の外面は縦方向のハケ目、4 の外面にはユビオサエ痕を残す。5・6 は素口縁のもので、5 は口縁端部をわずかに肥厚させ丸く仕上げるもので、6 は端部を平坦にするものである。7 は土師器の擂鉢で、内面は横方向のハケ目後、4 本を束ねたヘラ状工具で弧状の摺目を間隔を開けて施す。外面は縦方向のハケ目、底面にもハケ目調整を施す。擂鉢として使用後、鍋として使用されたのか外面には煤・タールの付着が見られる。8 は土師器の茶釜の肩部か。短く直立する口縁が付くものと思われる。内面にはハケ目調整を施す。

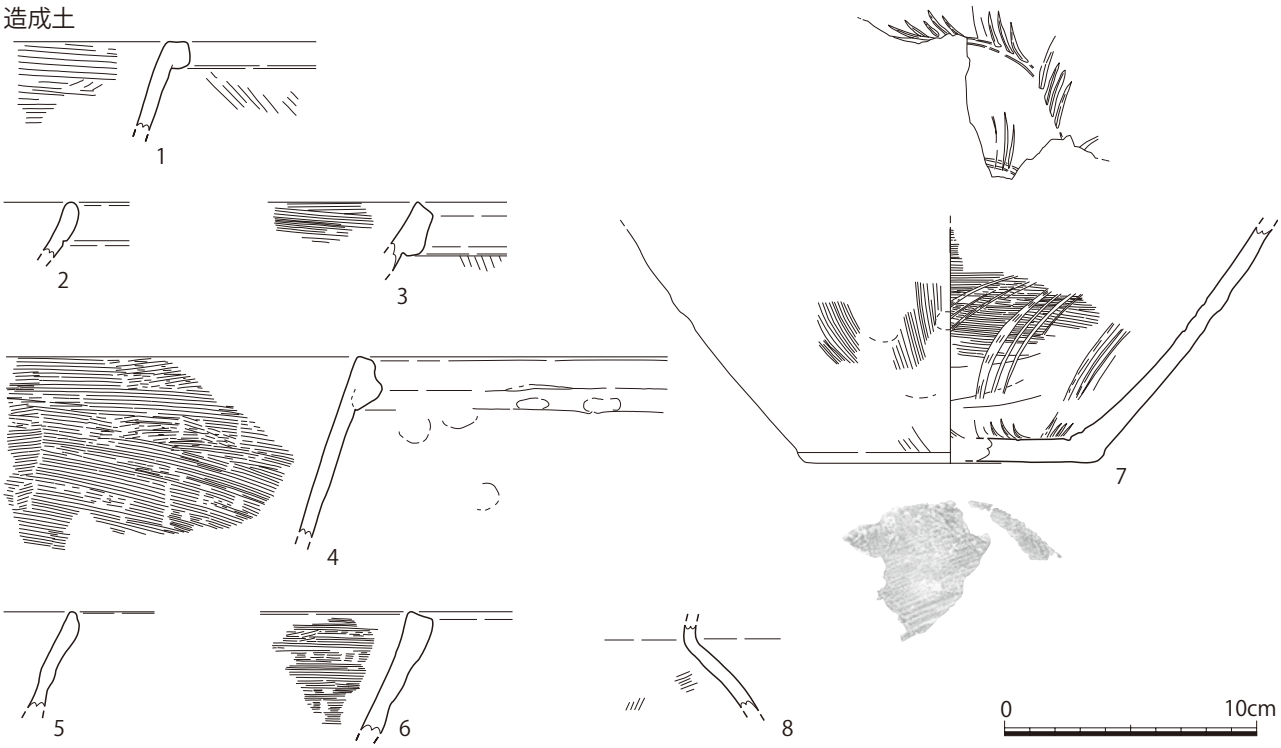


図 24　4 区の遺物実測図 (1/3)

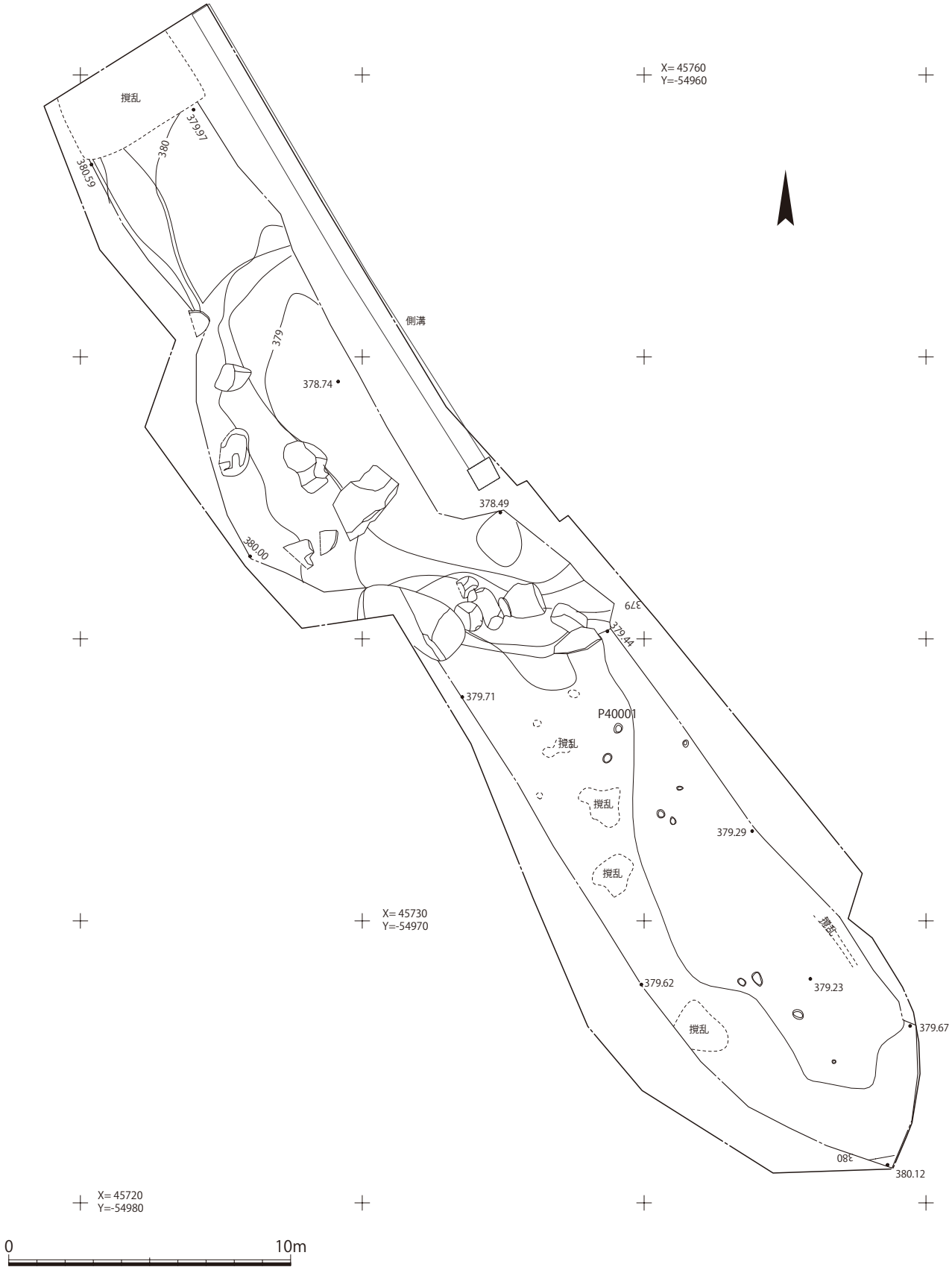


図 25　4 区遺構配置図 (1/200)

第Ⅵ章　小川内遺跡 5 区

1　5 区の調査概要

5 区は旧佐賀県道早良中原停車場線に北接し、大山祇神社北側の旧小川内集落の北東半で、集落内では低位置にあたる。平成 21・22 年に実施した 1・2 区に北西側の一部が接する。旧小川内集落は山麓斜面地を石垣を用いて階段状に造成した集落であったが、集落移転から 10 年程経過していたため石垣すら確認できないほど草木の繁茂する原野となっていた。

5 区の発掘調査は平成 26 年 6 月 2 日から平成 27 年 2 月 27 日まで実施した。調査区は、排出置場が調査区外に確保できなかったため北側を A 区、南側を B 区とし、A 区の排土を B 区に置き、A 区調査終了後排土置場を入れ替えて B 区の調査を実施した。A・B 区を合わせた調査対象面積は 9,011m^2 である。ここでは 1･2 区及び 6 区の調査に合わせて平坦面番号を新たに付して報告することとするが、上記理由のため一部 A 区の平坦面が B 区まで続く状況が認められるが、その場合は B 区であっても A 区として扱った。

調査方法は、バックホウで表土を除去し、人力にて遺構検出・遺構掘削を行ったが、主に北西側では地山である堆積土中に多量の巨石が含まれており、除去困難であることと往時にそのまま利用していた可能性があることより、除去せずに調査を実施した。また石垣については、集落移転時に一部が破壊されていたが、写真撮影を行った後、石積方法により時期を判断し、近現代のものについては除去して石垣下の遺構検出に努めた。

5 区で検出された遺構は中世と近世にわたる。遺構の空白地が多く、一部の平坦面に遺構が集中する傾向にある。また、近世後半期における大規模な段造成により、前時代の遺構は破壊されたと考えられるが、谷地形を盛土造成により地形改変した 5A-1 区を中心に中世の遺構、遺物を確認した。主要な遺構として、中世では柵列 3 条（SA50159・50199・50200)、掘立柱建物 1 棟（SB50202)、自然流路 2 条 (SD50148・SX50344)、土坑 1 基 (SK50319) が確認された。近世の遺構は全域において、柵列 1 列（SA50195)、掘立柱建物 4 棟 (SB50060・50070・50090・50380)、土器埋設遺構 1 基 (SJ50228)、土坑 1 基 (SK50325)、石組遺構 1 基 (SK50343) が検出され、また、一部近代期まで下ると考えられる遺構は柵列 1 条（SA50055)、井戸 5 基 (SE50030・50135・50270・50283・50312) と土器埋設遺構 3 基（SJ50065・50289・50296)、焼土坑 6 基 (SK50031・50032・50033・50260・50284・50295)、桶埋設遺構 2 基 (SK50231・50345) がある。

2　5 区の遺構と遺物

(1) 平坦面 5A-1(図 27)・SX50006(図 28)

平坦面 5A-1 は 5 区北東に位置し、旧早良中原線に隣接する位置にあたる。平面形は北西から南化東に長軸方向をとる三角形を呈し、南北約 38m、東西約 25m、面積約 640m^2 を測る。集落移転前は西側を平坦面 5A-2 の石垣、それ以外を県道及び里道により区画された平坦地であった。なお、北側の旧早良中原停車場線は GHQ により脊振山頂に基地が設置されるに伴い昭和 23 年に新設整備されたもので、それ以前は南側の里道 (SF5003) が幹線道路として使用されていたようである。

また、昭和 23 年以前の航空写真では東西に分かれる水田地が窺え、該当箇所から SW50002 石垣を検出したため当初は東西に分かれる 2 つの平坦面であったことを確認した。

SX50006 はこの西側の盛土造成地に付けられた遺構番号であり、その土層はこの平坦面の土層を

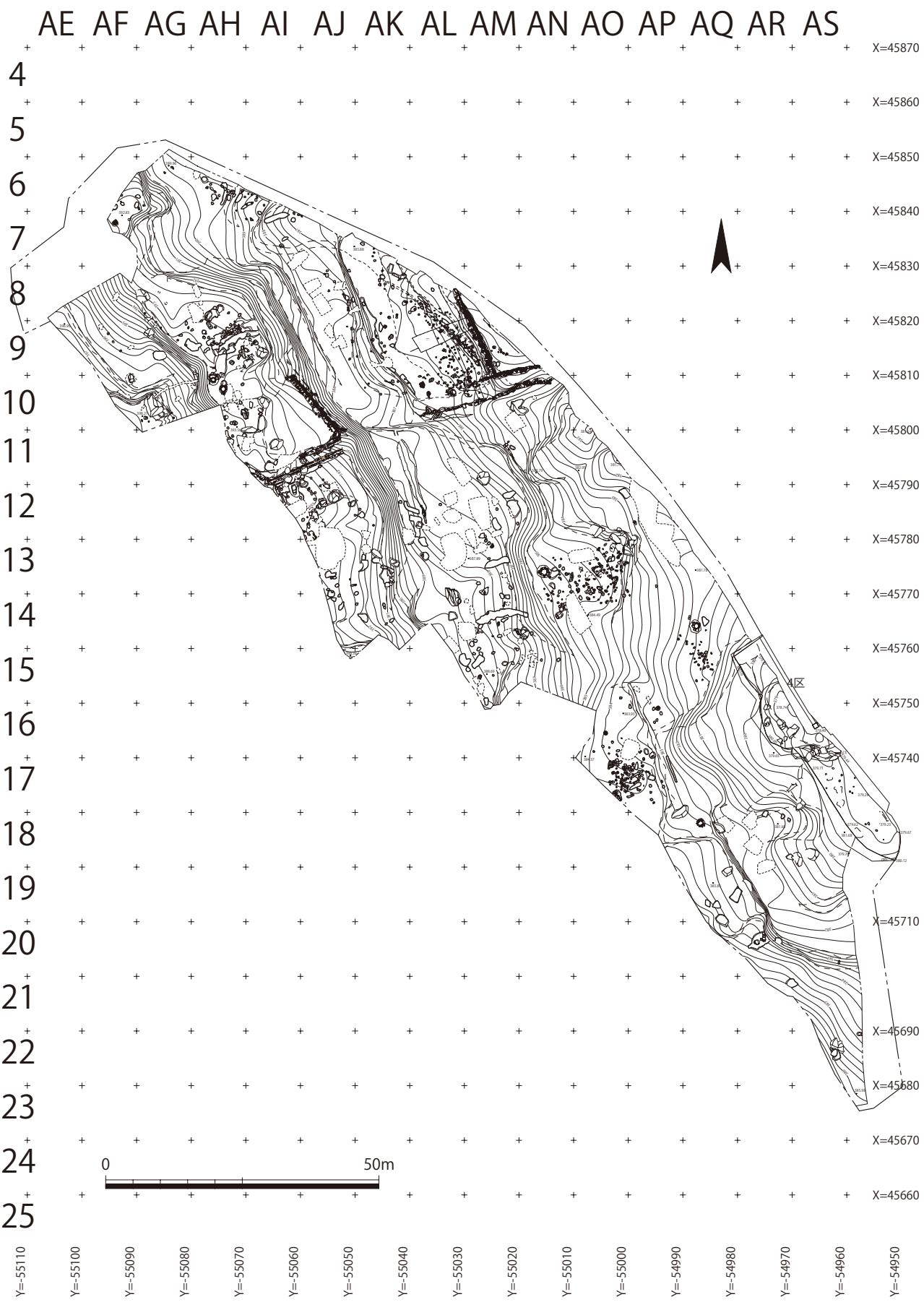
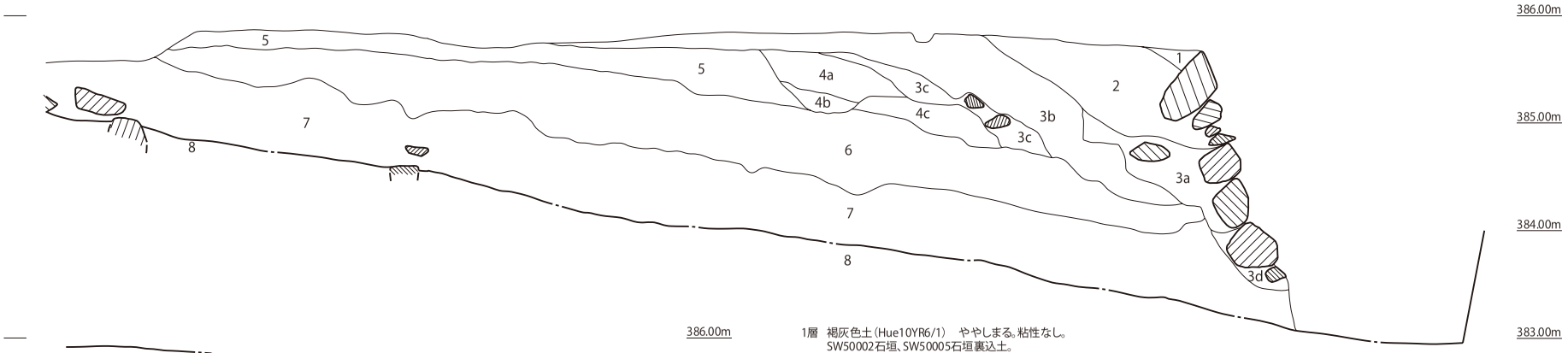


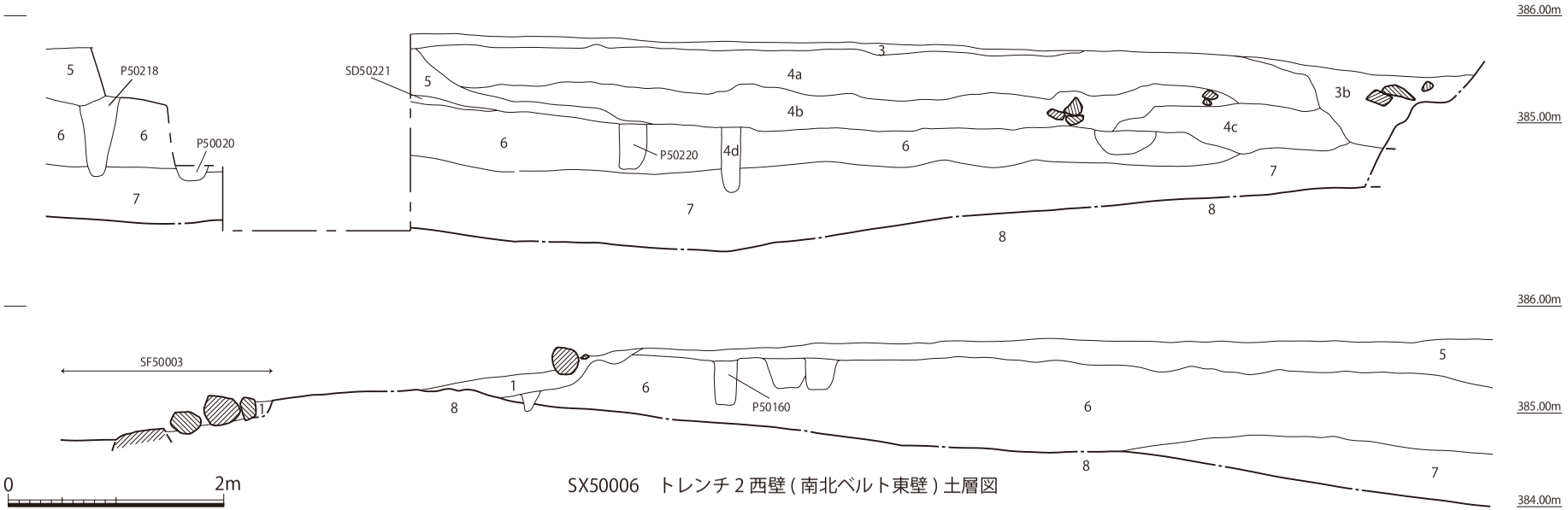
図 26　5 区地形測量図 (1/1,000)

図 27　平坦面 5A−1(1/200)



1層　褐灰色土(Hue10YR6/1)　ややしまる。粘性なし。
　　SW50002石垣、SW50005石垣裏込土。
2層　にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)　しまりなし。やや粘性あり。
　　30cm大の礫を多く含む。明黄褐色土(8層)と黒褐色土(7層)
　　ブロックを多く含む。
3a層　黄灰色土(Hue10YR4/1)　しまりなし。やや粘性あり。
　　径10～20cm大の礫を少量含む。
3b層　褐色土(Hue10YR4/4)　ややしまる。粘性なし。
　　径3～5mm大の粗い砂粒を少量含む。SW50002石垣裏込土。
3c層　褐色砂(Hue10YR4/6)　しまりなし。粘性なし。
　　粗砂粒で構成され径5～20cm大の円礫を少し含む。
3d層　黄灰色土(Hue10YR4/1)　ややしまる。粘性強い。
4a層　暗褐色土(Hue10YR3/3)　ややしまる。粘性なし。
　　径3～5mm大の炭化物を少量含む。
4b層　褐色砂質土(Hue10YR4/6)　しまりなし。粘性なし。
　　径10～20cm大の礫を含み粗い砂粒で構成される。水成堆積。
4c層　褐色土(Hue10YR4/6)　しまりなし。やや粘性あり。
4d層　褐色砂質土(Hue10YR4/6)　しまりなし。粘性なし。粗砂粒。
5層　褐色土(Hue10YR3/2)　ややしまる。粘性なし。
　　径3～5mm大の炭化物を全体的に少量含む。
6層　明褐色土(Hue7.5YR5/8)　ややしまる。粘性なし。
7層　黒褐色土(Hue10YR2/2)　かたくしまる。粘性なし。
　　径5mm大の花崗岩風化石礫を少量含む。
8層　明黄褐色土(Hue10YR6/8)　かたくしまる。粘性なし。
　　風化した花崗岩を多く含む。

SX50006　トレンチ 1 北壁 (東西ベルト南壁) 土層図



SX50006　トレンチ 2 西壁 (南北ベルト東壁) 土層図

図 28　平坦面 5A-1　SX50006 土層図 (1/60)

示す。層位は 7 層あり、5 層上面と 6 層上面で遺構面が確認されている。5 層上面は水平に成形されており、前面に近代以降の SW50002 石垣が構築されているため詳細については不明であるが、元来石垣などにより盛土造成された可能性が考えられる。層中には 17 世紀後半から 18 世紀前半の遺物が見られ、5 層上面は近世の遺構面と判断できる。

6 層は東側に向かって緩やかに傾斜する自然堆積と推定される層で、層中の遺物は土師器の坏片が少量認められるだけであるが、6 層上面にて検出された遺構は 13 世紀から 14 世紀の遺物が出土することより、中世の遺構面と判断できる。なお、これらの土層中からは縄文時代の石器片が出土しており、当該箇所が谷地形の自然堆積層であることから勘案すると西方の段丘上に縄文時代の遺構が存在していたものと推定される。

検出された主な遺構は近世のものとしては石垣及び小穴、中世のものとしては柵列、掘立柱建物跡、小穴が検出されている。また、時期不確定ながら近代のものとみられる焼土坑も検出している。

出土遺物 (図 29 ～ 32)

1 は土師器の皿で、口縁部下半に段を有し、外反気味に開く。2 は肥前産の染付皿で、17 世紀後半から 18 世紀前半のものである。他に 1 層からは 1660 ～ 1690 年の染付碗も出土している。3 は白磁碗で、見込みが蛇の目釉剥ぎされる。大宰府編年 VIII 類か。4 は白磁皿で、口縁端部が口禿になったものである。5 は中国漳州窯の碗である。6 は肥前白石産の染付碗で 19 世紀初めから幕末のものである。7 は龍泉窯系の青磁碗で、外面に連弁文が配される。8 は土師器の鍋で、口縁部が L 字状を呈する。上端には押圧縄文を施す。内面横方向、外面縦方向のハケ目調整を施す。9 は土師器の坏、10・11 は土師器の皿である。12 は瓦器の捏鉢で注口が見られ、内面にはユビオサエ痕が残る。3 層からは他に 17 世紀前半の肥前産染付皿が出土している。13 は白磁の碗で、口縁端部が口禿になったものである。大宰府編年 IX 類である。14・15 は龍泉窯系の青磁碗で、14 は外面に連弁文を配し、15 は見込みに文字印刻が見られる。16 は土師器の坏、17 ～ 19 は皿である。20・21 は土師器の鍋で、口縁部が L 字状を呈する。いずれも上面に押圧縄文が施される。22 は東播系須恵器の捏鉢で、注口が残る。23 は瓦器の捏鉢である。24 は瓦器碗である。25 は龍泉窯系の青磁碗であり、外面に連弁文を配する。26 は土師器の小皿である。27 は天目碗、28 は白磁碗で口禿になったものである。他にも 4 層からは中世の遺物が多量に出土している。29 は肥前有田産の染付碗と思われる。17 世紀後半から 18 世紀前半のものである。30、31 は白磁皿で、口縁端部が外反する口禿のもので、底面は釉を掻きとる。32・33 は龍泉窯系青磁碗で、底面が厚く外面に連弁文を配する。34 は土師器の鍋で口縁部は L 字状を呈し、上面には押圧縄文が施される。35 は東播系須恵器の捏鉢で、口縁端部が肥厚する。36・37 は龍泉窯系青磁である。38・39 は白磁碗で、38 は口縁端部が外反し口禿になるもので、39 は高台畳付けを多方向から削り取る。40 は白磁皿で、口縁部が屈折して外反しながら開く。41 ～ 43 は土師器の小皿で、42 は口縁部が短く開き、43 は屈折して外反気味に開く。他に 5 層からも、白磁、青磁を中心とした中世の遺物が多量に出土している。44 は土師器の皿で、底面に径 1.2cm 程の穿孔が見られる。52 ～ 54・60 は鉄製の釘である。52・53 は頭部にはわずかに折損の痕跡が認められることより、逆 L 字状に屈折していたものと思われる。遺跡出土の鉄釘は逆 L 字状を呈するものは少なく、くの字に屈曲するものか頭部が欠損するものが多い。基本的には貴重な資源として再利用するため抜き取るものと推定され、頭部が欠損し抜き取れなかったものについて廃棄したものと思われる。60 は L 字状に屈曲した頭部の一部が残存する。55 は刃部が欠損し判然としないが、鉄製の鑿か。頭部下が肥厚し、頭部には茎状の欠損部が残る。56 ～ 59・61 は鉄滓である。いずれ

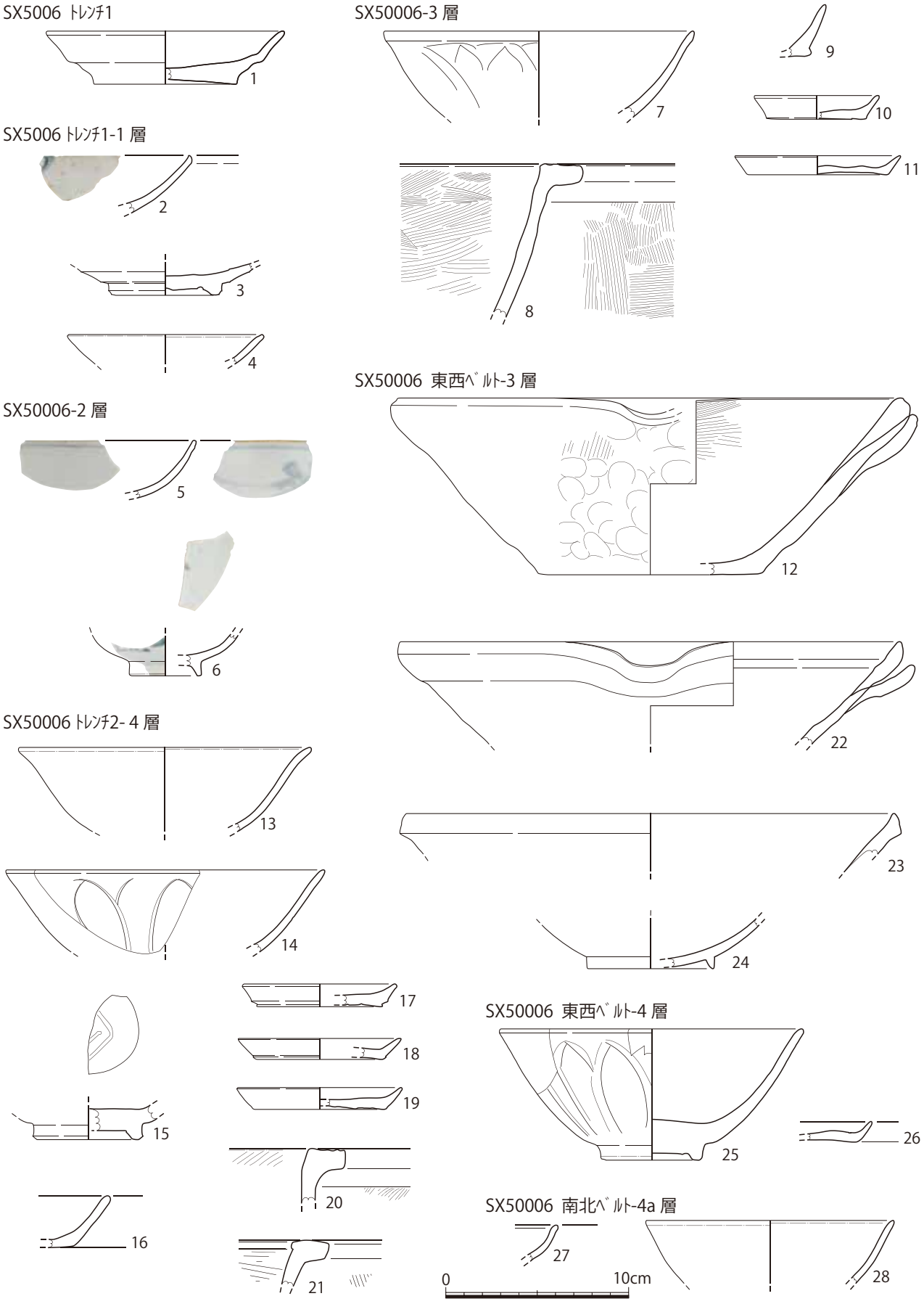
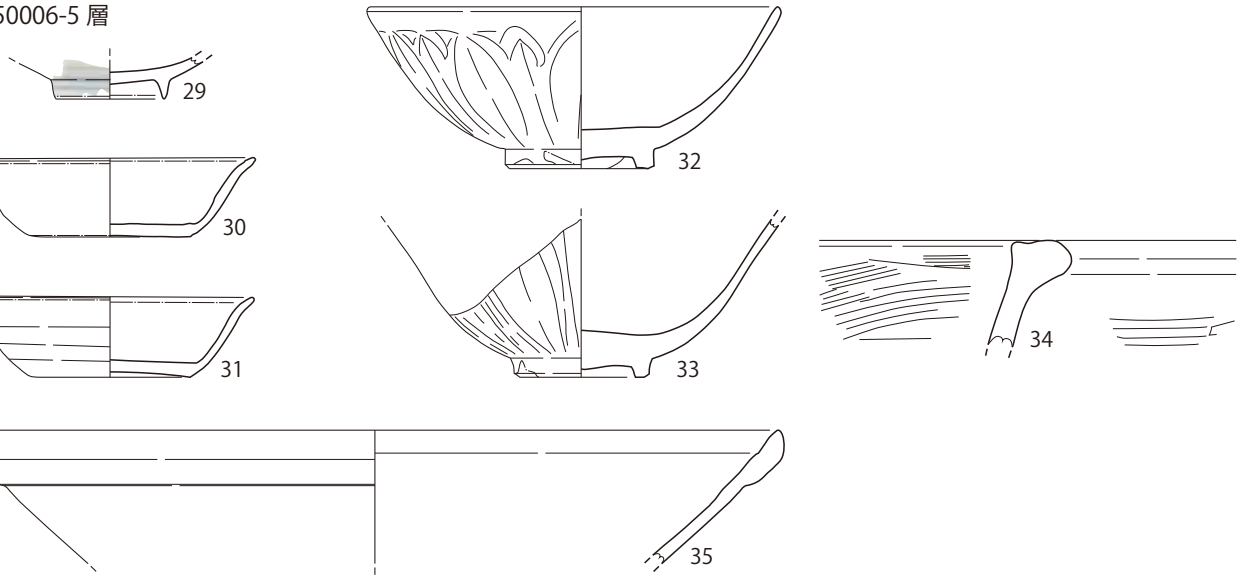
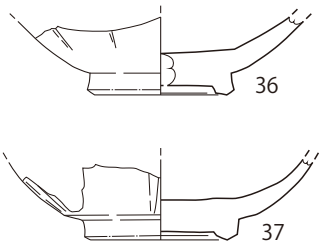


図 29　平坦面 5-1 の遺物実測図 1(1/3)

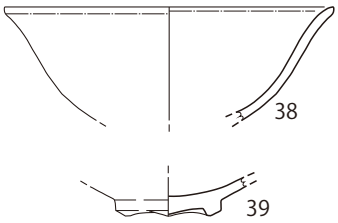
SX50006-5 層



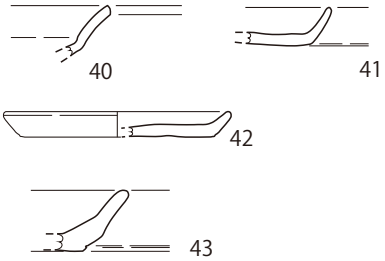
SX50006 ﾄﾚﾝﾁ1-5 層



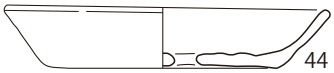
SX50006 東西ﾍﾞﾙﾄ-5 層



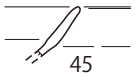
SX50006 南北ﾍﾞﾙﾄ-5 層



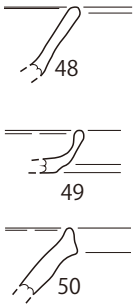
SX50006 ﾄﾚﾝﾁ2-6 層



SB50202(P50182)

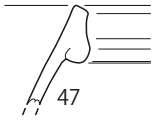


SK50222



SB50202(P50183)

SB50202(P50185)



SK50223

図 30　平坦面 5A−1 の遺物実測図 2(1/3)

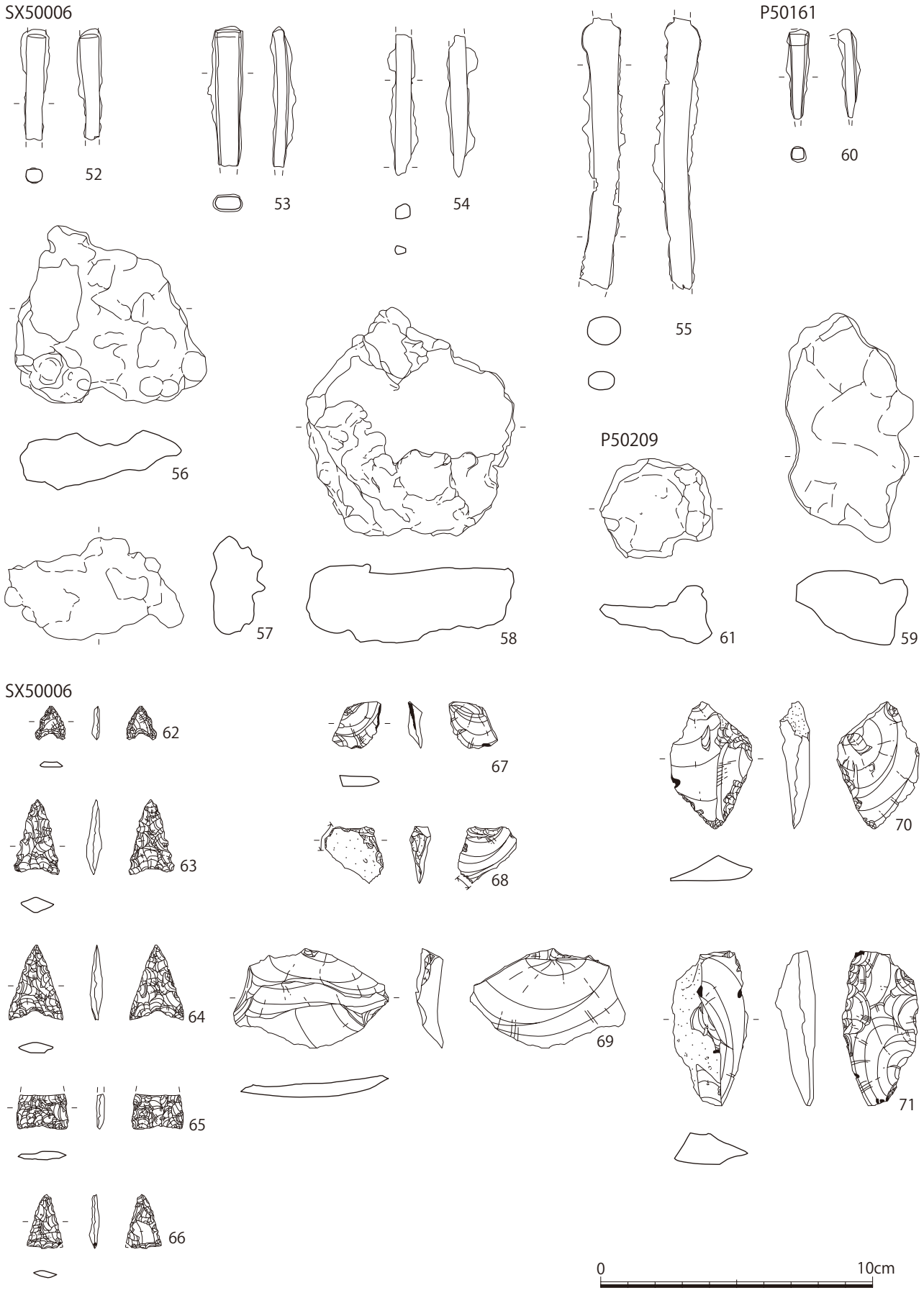


図 31　平坦面 5A-1 の遺物実測図 3(1/2)

も碗型滓で、58 はその形状をよく留める。上面は平坦で、下面に丸みを持つ。これにより推定される炉の径は 9cm 以上で、深さ 3cm 以上と推定される。56 や 58 では砂粒と異なる径 3 ～ 5mm 程度の粒塊が認められ、未溶解の鉄素材の可能性が考えられる。62 ～ 71 は縄文時代の石器類である。3 ～ 6 層で検出され、盛土造成された客土中に混入したものである。62 ～ 66 は石鏃である。62.・65 は黒曜石､63･64･66 は安山岩製である。いずれも無茎のもので 62 ～ 64 は基部に抉りを入れたもの、65 はわずかに凹基になるもの、66 は抉りを入れないものである。67 ～ 71 は剥片で、67 は黒曜石、68 ～ 71 は安山岩である。70・71 は側縁部に 2 次加工が見られる。72 は石匙である。安山岩製で側縁部の一方に粗い剥離調整を施す。他方には自然面を残す。73 ～ 75 は砥石である。73 は頁岩製で表面と両側面を使用する。74 はやや光沢がある石材で結晶片岩製か。平面長方形に加工され、上部には径 7mm の孔が穿たれた携帯用の砥石である。下部は研減りして厚みを減じる。75 は頁岩製で、一辺を欠損するが元来方柱状の形態を成すものと推定される。表裏及び両側面を使用する。

SB50202 掘立柱建物跡 (図 33)

平坦面 5A-1 の南端に位置し、SX50006 の 6 層上面で検出された。建物跡南側は後世の SF50003 道路跡により削平されており、北側の P50147・182 ～ 185・226・SS50227 の柱穴 6 基と礎石 1 基を検出した。建物跡は桁行 2 間以上、梁行 2 間で、桁行残存長 3.1m、梁行 2.48m を測り、長軸は N-57°-W を向く。柱穴は直径 0.25 ～ 0.4m、深さ 0.05 ～ 0.29m であり、柱間は 1.22 ～ 1.29m (約 4 尺) とほぼ一定するものの平面形は歪な長方形となる。SS50227 は地山中に埋没する巨石で、上部を平坦に加工していたため礎石として使用したものと考えられる。また、P50026 から SS50227 の柱間は 1.9m と長いことより入口と推定されている。用途については、その梁行長より住居とは考え難く、物置小屋もしくはお堂等が推定できる。

出土遺物 (図 30)

45・46 は土師器の坏か。口縁端部のみ残存する。47 は土師器の鍋で、口縁部外面に粘土紐を貼り付け、下垂れの玉縁状を呈する。

SK50222 土坑 (図 33)

平坦面 5A-1 東側に位置し、SX50006 の 6 層上面で検出された。平面形は歪な長楕円形を呈し、長軸方向 1.49m、短軸方向 0.62m、深さ 0.5m を測る。SA50199(旧 SA50201) の北端に接していることより、防御上の用途が推定される。

出土遺物 (図 30)

48 は土師器の坏で、屈曲して外反気味に開くものと思われる。49 は土師器の小皿で口縁端部が肥厚する。50 は瓦器の捏鉢であり、口縁部のみ残存する。

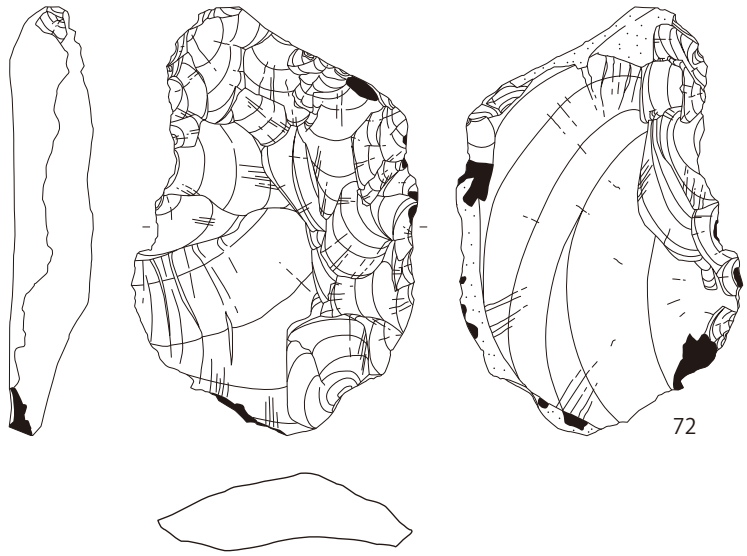
SK50223 土坑 (図 33)

平坦面 5A-1 東側に位置し、SX50006 の 6 層上面で検出された。SK50222 に隣接する。平面形は歪な隅丸長方形を呈し、長軸方向 0.83m、短軸方向 0.31m、深さ 0.11m を測る。SK50222 同様、SA50199 北端周辺に位置し、柵列が北に続かないことより柵列に代わる簡易な防御施設の可能性が推定される。

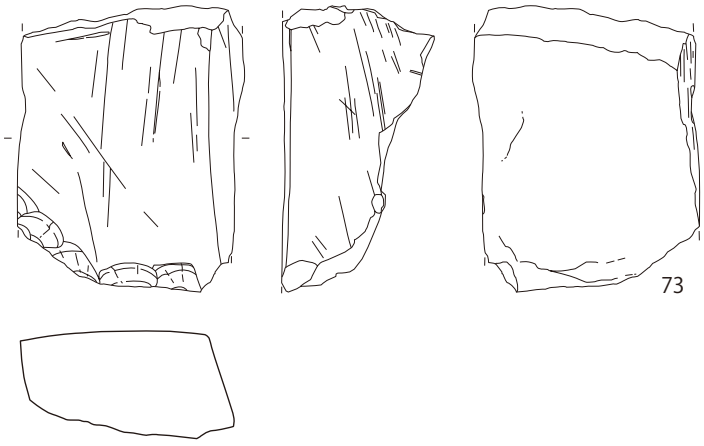
出土遺物 (図 30)

51 は土師器の坏で、底部のみ残存する。底面は摩耗により調整は不明である。

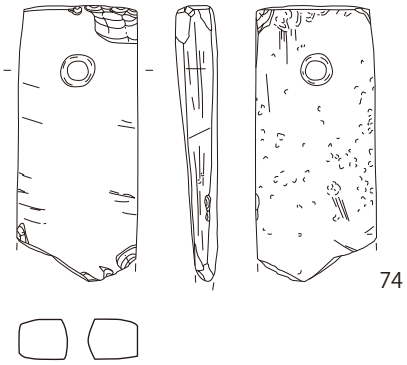
SX50006



SX50006 -3 層



SX50006 南北ﾍﾞﾙﾄ-4a 層



SX50006 ﾄﾚﾝﾁ2-4 層

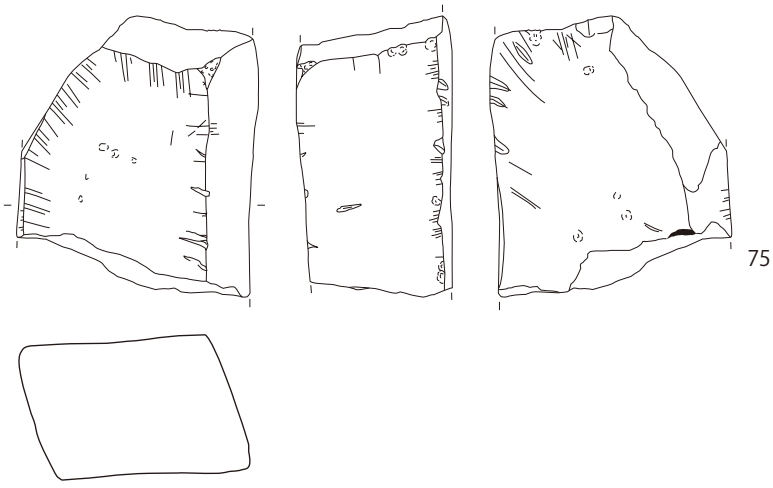
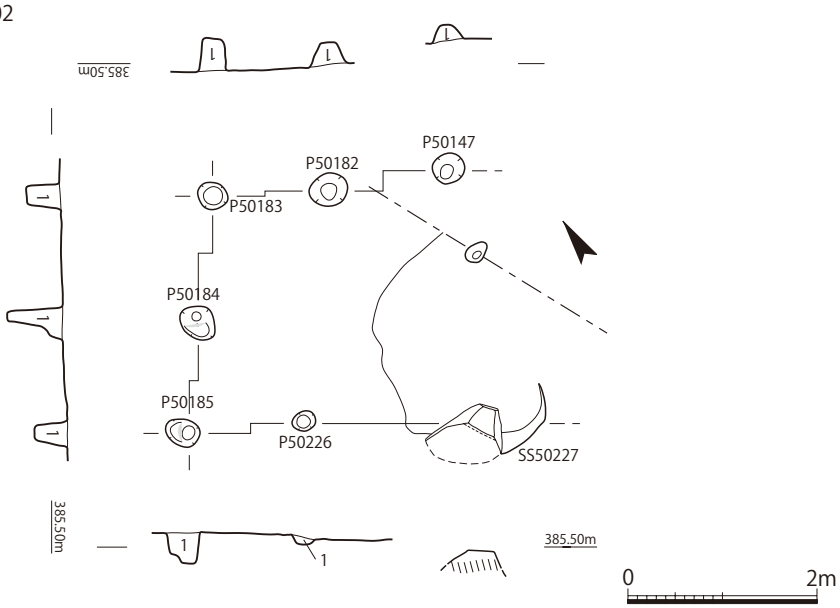


図 32　平坦面 5-1 の遺物実測図 4(1/2)

SB50202



P50147
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり良く粘質。5㎜程の地山ブロックを全体に多く含む。3㎜程の礫を全体に多く含む。

P50182
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。1cm程の炭化物を全体に多く含み、地山ブロックを全体に少量混じる。1㎜程の砂粒を全体に少量含む。

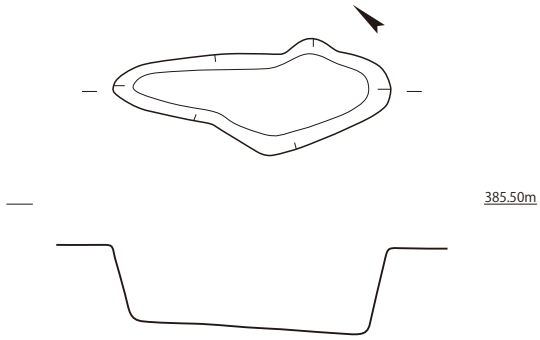
P50183
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりやや弱く粘質。5㎜程の炭化物を全体に多く含み、地山ブロックを全体に多く含む。

P50184
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりやや弱く粘質。5㎜程の炭化物を全体に多く含み1㎜程の砂粒を全体に多く含む。

P50185
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりやや弱く粘質2㎜程の炭化物を全体に多く含み1㎜程の砂粒を全体にまばらに含む。

P50226
1層 暗褐色土（Hue10YR3/3）
かたくしまる。粘質。1㎜程の砂粒を多く含む。5㎜程の炭化物を少量含む。

SK50222



SK50223

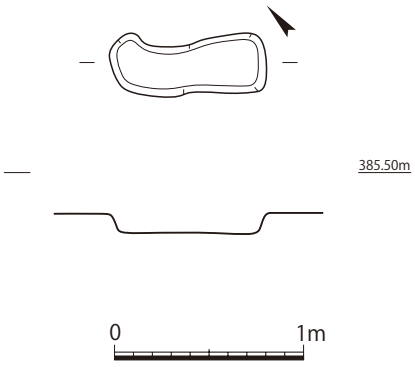


図 33　平坦面 5A-1　SB50202(1/80)、SK50222・223(1/40)

SK50031 焼土坑 (図 34)

平坦面 A5-1 の南西隅に位置する。全面に被熱痕や炭層が見られる焼土坑である。土坑は不整円形と一部に平面長方形の溝状の突出部が付属する柄鏡形を成す。円形部分は長軸 0.78m、短軸 0.7m、深さ 0.12m で、溝状部分は長さ 0.42m、0.25m を測る。土坑内には長軸 0.66 m、短軸 0.44m の花崗岩が地山から露頭し、土坑側壁及び花崗岩の周縁部が赤化しており、土坑内で火を焚いた痕跡と考えられる。また、土坑床面直上には灰層が厚く堆積し、その上面には破砕した花崗岩片が多量に含まる。

集落の伝承では開拓開田時の徐石の際、石の周囲で火を焚き、冷水をかけて石を割り除いたと伝わる。当該遺構の残存状況はこの伝承を示すものと推定され、平坦面造成に伴う石割りのための焼土坑と考えられる。また、伝承では 1870 年前後より火薬の使用が普及したとされる。当遺構からは時期不明の灰釉陶器細片が出土したのみであるが、このことと SW5002 の構築時期から推定される当該平坦面の造成時期を勘案すると、この焼土坑は幕末から明治初期の所産と考えられる。

SK50032 焼土坑 (図 34)

平坦面 A5-1 の南西隅で、SK50031 焼土坑に近接する場所に位置する。SK50031 に類似する残存状況を呈する焼土坑である。土坑の平面形は楕円形で、長軸 1.09m、短軸 0.62m、深さ 0.2m を測る。土坑は長軸 1.62m、短軸 1.37m の露頭した花崗岩の東側に設けられ、土坑側壁と花崗岩の隣接部分が赤化する。土坑床面直上には炭層が厚く堆積し、その上位には焼土ブロックを含む層や花崗岩の破砕礫を多量に含む層が堆積する。SK50031 同様、平坦面造成に伴う石割りのための焼土坑と考えられる。

表土層である 1 層中には明治以降の陶磁器が含まれていることより、SK50031 同様、幕末から明治初期の所産と考えられる。

SK50033 焼土坑 (図 34)

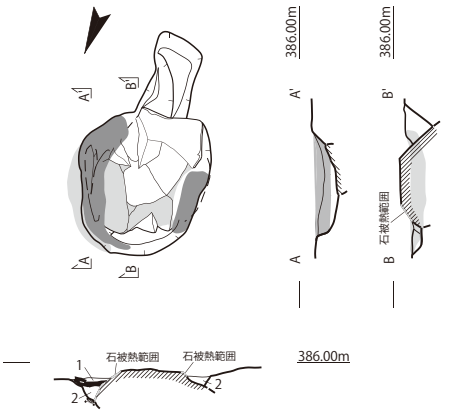
平坦面 A5-1 の南西隅で、SK50031・SK50032 焼土坑に近接する場所に位置する。SK50032 と同様の残存状況を呈する焼土坑である。土坑の平面形は長楕円形で、長軸 1.19m、短軸 0.65m、深さ 0.26m を測る。土坑は長軸 0.84m、短軸 0.5m の露頭した花崗岩の東側に設けられ、土坑底面から側壁が赤化する。他の焼土坑と異なり花崗岩に赤化は認められない。土坑床面直上には炭層が厚く堆積し、その上面には花崗岩の破砕礫を多量に含む層が堆積する。SK50031、SK50032 同様、平坦面造成に伴う石割りのための焼土坑と考えられる。

埋土中より陶器細片が出土しているが時期等は不明であり、位置や残存状況より他の焼土坑同様、幕末から明治初期の所産と推定したい。なお、これら 3 基の焼土坑周辺には明確な遺構は無く建物等の建設の障害となるため割ったとも考えられず、さらに平坦にするためだけにわざわざ労をいとわず露頭する花崗岩を割ったとも考え難い。しかしながら、SF50003 道路状遺構の北面石垣がこの焼土坑周辺で平坦面の標高に摺り付き、途絶えることから、この箇所が当該平坦面への入口であり、入口としての空間を確保するために露頭する花崗岩を割ったものと推定される。

SA50159 柵列 (図 35)

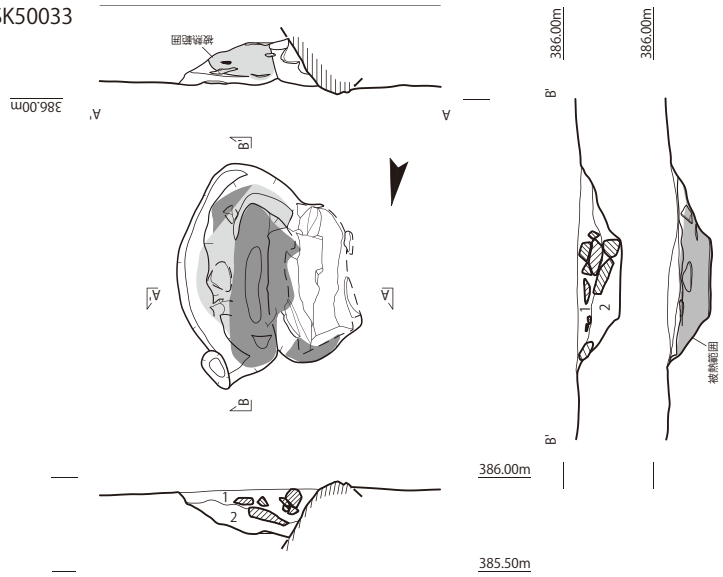
平坦面 5A-1 の南側に位置し、SX50006 の 6 層上面で検出された。P50149 ～ 155 の 7 穴で構成され、柱穴は直径 0.19 ～ 0.48 m、深さ 0.14 ～ 0.31 m を測る。柱穴間は北西側から 1.2m-1.2m-1.1m-

SK50031



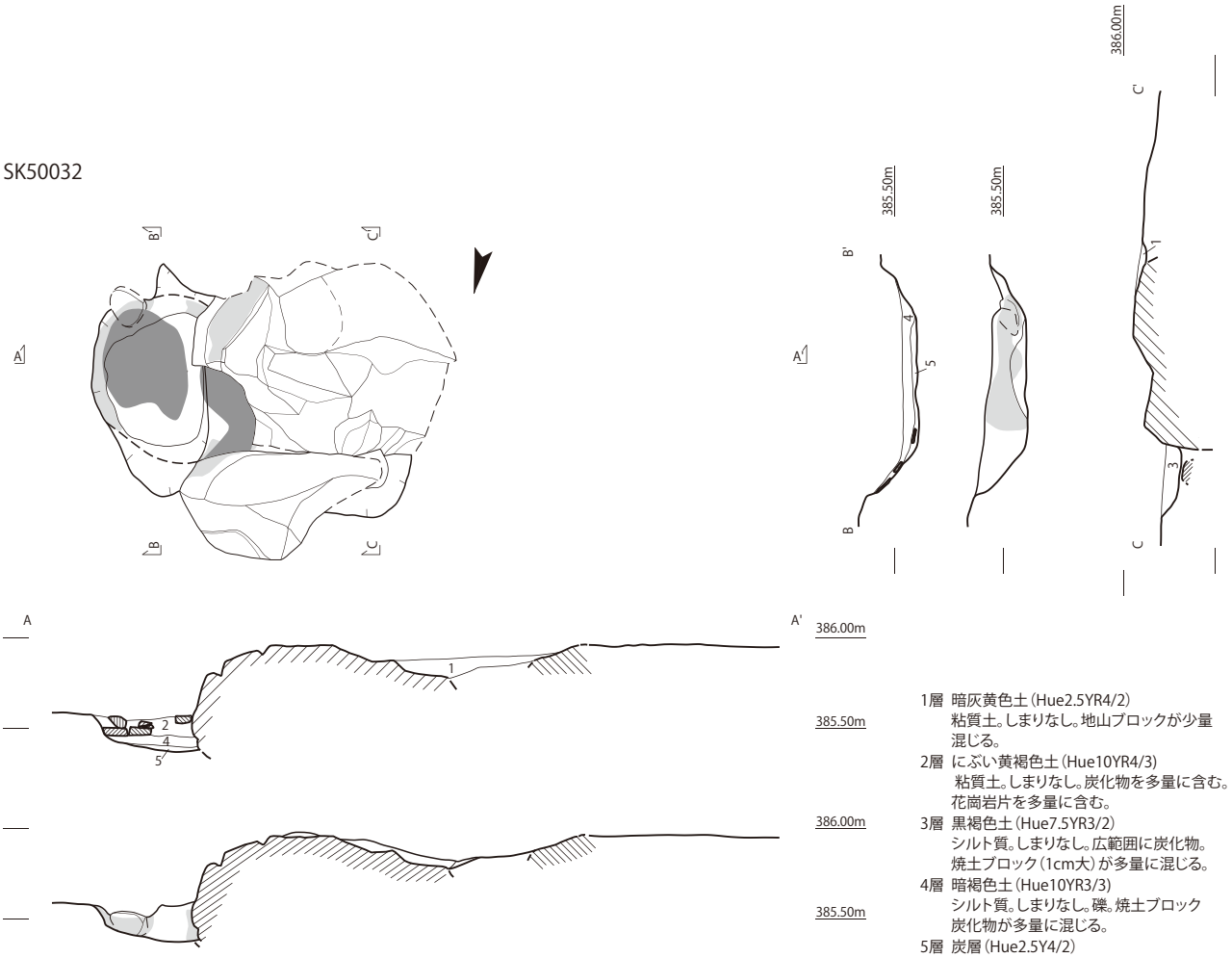
1層 黄褐色土（Hue10YR5/8） 粘質土。かたくしまる。
褐灰色土ブロック(Hue10YR4/1)が少量混じる。
2層 炭層（Hue2.5Y4/2） 暗灰黄色砂質土が少量混じる。

SK50033



1層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） シルト質。かたくしまる。
地山ブロックが多く混じる。一部に5～10㎝大の礫が混じる箇所有。
2層 炭層（Hue2.5Y4/2） 2㎜～5㎝大の炭層に褐灰色砂質土（Hue10YR6/1:花崗岩風化土か?）が多く混じる。

SK50032

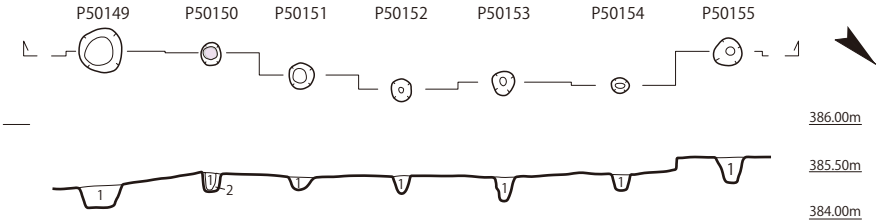


1層 暗灰黄色土（Hue2.5YR4/2）
粘質土。しまりなし。地山ブロックが少量混じる。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
粘質土。しまりなし。炭化物を多量に含む。花崗岩片を多量に含む。
3層 黒褐色土（Hue7.5YR3/2）
シルト質。しまりなし。広範囲に炭化物。焼土ブロック（1cm大）が多量に混じる。
4層 暗褐色土（Hue10YR3/3）
シルト質。しまりなし。礫。焼土ブロック炭化物が多量に混じる。
5層 炭層（Hue2.5Y4/2）

0 1m

図 34 平坦面 5A-1 SK50031・32・33(1/40)

SA50159



P50149
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりが悪く粘質。1cm程の炭化物を一部含む。

P50150
1層 暗褐色土（Hue10YR3/4）
しまりが悪く粘質。1cm程の炭化物を全体に少量含む。
2層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりが悪く粘質。1cm程の炭化物を一部に多く含む。

P50151
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
しまりが悪く粘質。2cm程のしまりが悪く粘質。2cm程の

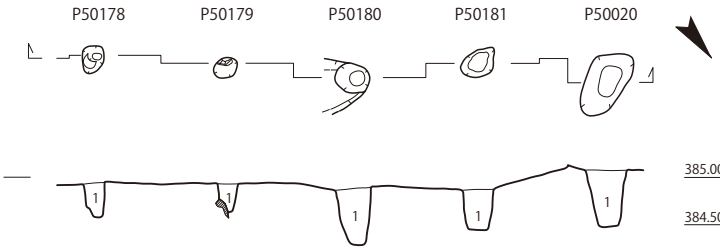
P50152
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
しまりが悪く粘質。5cm程の炭化物を全体に多く含む。

P50155
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりが悪く粘質。5mm程の炭化物を全体に多く含む。地山ブロックがが全体にまばらに混じる。

P50153
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
しまりが悪く粘質。2mm程の炭化物を全体に少量含む。1cm程の礫が全体に少量混じる。

P50154
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
しまりが悪く粘質。2mm程の炭化物が全体にまばらに混じる。

SA50199



P50178
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。炭化物を全体に少量含む。

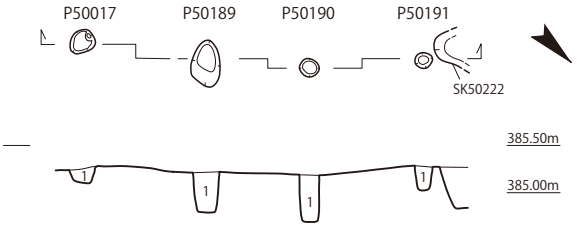
P50179
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。2mm程の炭化物を全体に少量含む。1cm～5cm程の礫を少量含む。

P50180
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりが悪く粘質。5mm程の炭化物を全体に少量含む。地山ブロックが全体に多く混じる。

P50181
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりが悪く粘質。2mm程の炭化物を全体に少量含む。地山ブロックを少量含む。

P50020
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
5mm程の炭化物を全体に多く含み、地山ブロックも全体に多く含む。

SA50201



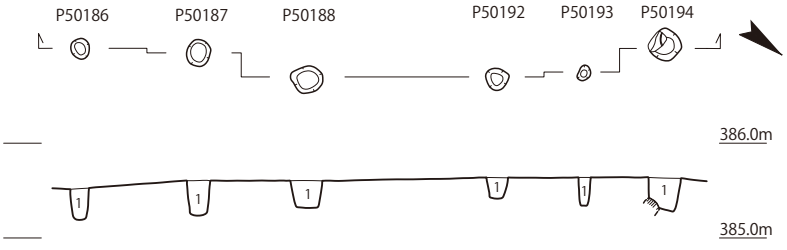
P50017
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。炭化物を全体に少量含む。

P50189
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。5mm程の炭化物を全体に少量含む。
3cm程の礫を全体に多く含む。

P50190
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。1mm程の砂粒を全体に多く含む。

P50191
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。2mm程の炭化物を全体に多く含む。1mm程の砂粒を全体に少量含む。

SA50200



P50186
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまりなし。弱い粘質。地山ブロックが全体に少量混じる。

P50187
1層 暗褐色土（Hue10YR3/4）
しまり悪く粘質。5mm程の炭化物を全体に少量含み地山ブロックを全体に多く含む。

P50188
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
1mm～1cm程の炭化物を全体に多く含み地山ブロックを全体に多く含む。

P50192
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。2mm程の炭化物を全体に多く含む。

P50193
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。1mm程の炭化物を全体に少量含む。地山ブロックを全体に多く含む。

P50194
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
しまり悪く粘質。5mm程の炭化物を全体に少量含み地山ブロックを全体に多く含む。

0 2m

図 35　平坦面 5A-1　SA50159・199・200・201(1/80)

1.05m-0.95m-1.2m で、全長は 6.70m、主軸方向は N-43°-W を向く。柱穴は他の柵列に比して浅く、後世の削平度合いが強いことから、現況では東側に下る緩斜面上の上位で検出したが、往時は平坦地から緩斜面に代わる傾斜変換点付近である可能性が考えられる。また、主軸方向は傾斜に対して直行する位置に向いており、地形に合わせて設置した結果、わずかに湾曲する配置になったものと推定される。SA50199 柵列と約 8m の間隔を持って前後 2 列となるが、その間には SD50219 が認められ、さらに南東に下る緩斜面となっていることから食い違いの状の出入口になっていた可能性が考えられる。

SA50199 柵列 (旧 SA50201 を含む)(図 35)

平坦面 5A-1 の中央部に位置し、SX50006 の 6 層上面の SA50159 柵列の東側で検出された。SA50201 柵列と別の遺構として検出調査されたが、後に一連のものとされた。東から P50178・P50179・P50180・P50181・P50020・P50178・P50179・P50180・P50181 の 9 穴で構成され、柱穴は直径 0.18 ～ 0.77 m、深さ 0.26 ～ 0.66 m を測り、柱穴間は 1.07 ～ 1.4m である。全長 10.83m を測り、主軸方向は N-58°-W で概ね SA50159 柵列と同一方向を向く。周辺の地形はわずかな段を有する緩斜面であるがその 2 段面上で検出され、他の柵列と一体となり平坦面 5A-1 の東端を規定するものと考えられる。なお、土師器坏が出土している。

SA50200 柵列 (図 35)

平坦面 5A-1 の中央部、SX50006 6 層上面で SA50199 柵列の西側に位置する。P50186・P50187・P50188・P50192・P50193・P50194 の 6 穴で構成され、柱穴は直径 0.17 ～ 0.31m、深さ 0.22 ～ 0.35 m を測り、柱穴間は南東側から 1.25m-1.18m-2.0m-0.94m-0.91m で、全長 6.15m を測り、主軸方向は N-41°- W を向く。

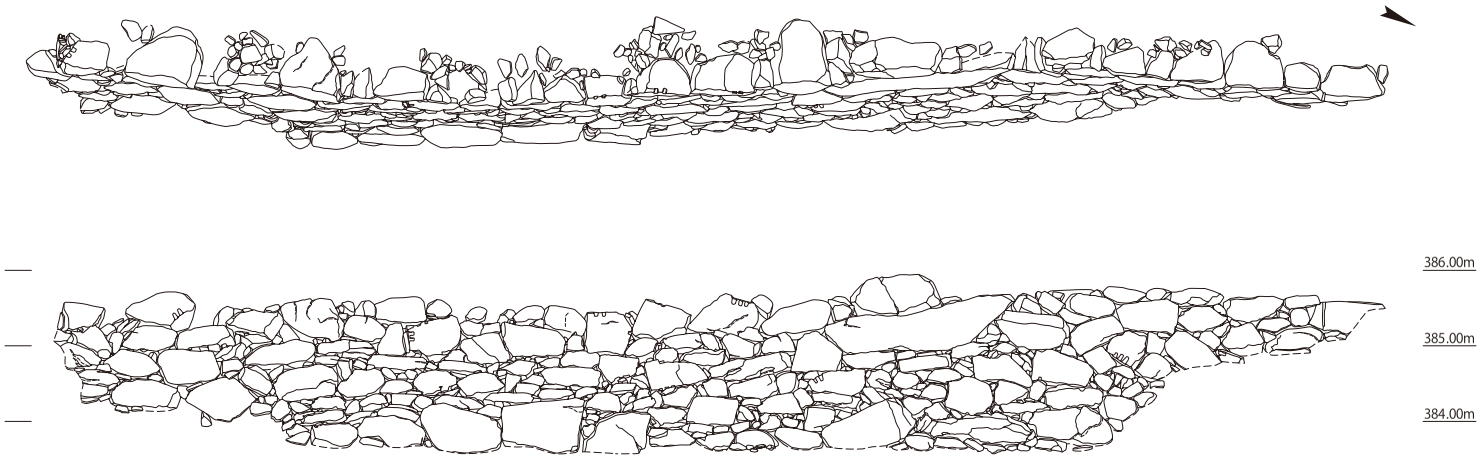
他の柵列跡同様に、地形に即した配置を成し、SA50159 柵列と同様に傾斜変換点に位置することから SA5199 を間に挟み、SA50159 と一対になるものと推定される。

SW50002 石垣 (図 36)

平坦面 5A-1 の東側で検出した石垣である。昭和 23 年の航空写真で区割りが確認でき、旧県道早良中原停車場線の改修工事に伴って埋められたものと推定される。全長 17.50m を測り、南端は SF5003 と重複し、北側はさらに調査区外へと続く。築石は 0.3 ～ 2.5m の割石を使用し、一部の石材には連続する幅 4cm の矢穴が認められる。石積は基本的に布目崩しであるが中央部は板石により目地が通る部分が見受けられ、何度かの改修を経たものと推定される。裏土に設けたトレンチでは裏グリ層を持たず、2 層までが近現代、3 層が 19 世紀から幕末と推定され、この石垣は 19 世紀から幕末以降に構築されたものと考えられる。なお、後述する SF50003 道路状遺構も同時期に築造されたものとされるが、当石垣との重複関係より当石垣より後の所産と言える。

SF50003 道路状遺構 (図 37)

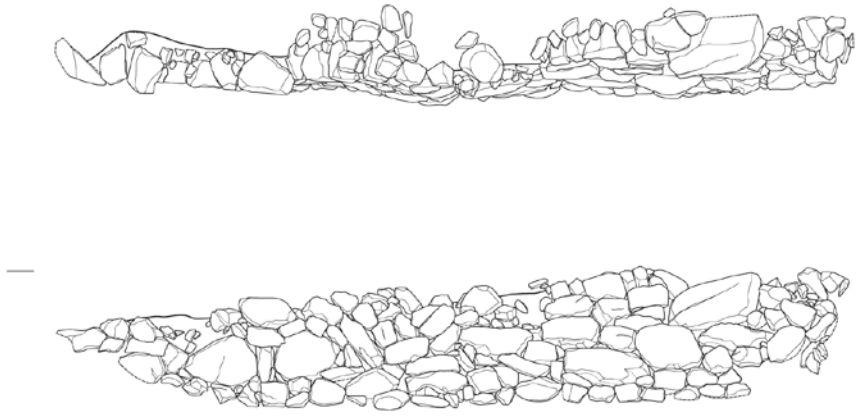
平坦面5A-1の南端に位置し、平坦面5A-4との境を分かつ。両側面を石垣により盛土造成した道路状遺構である。昭和23年に旧県道早良中原停車場線が改修されて拡幅、直線化される以前は、大山祇神社方面からの路線は当該箇所にて西折直進し、平坦面A-2の南西隅で北折直進していた。当該遺構はこの路線の一部にあたる。平坦面5A-1が谷地形となるため右岸から緩傾斜箇所を経て対岸に向か



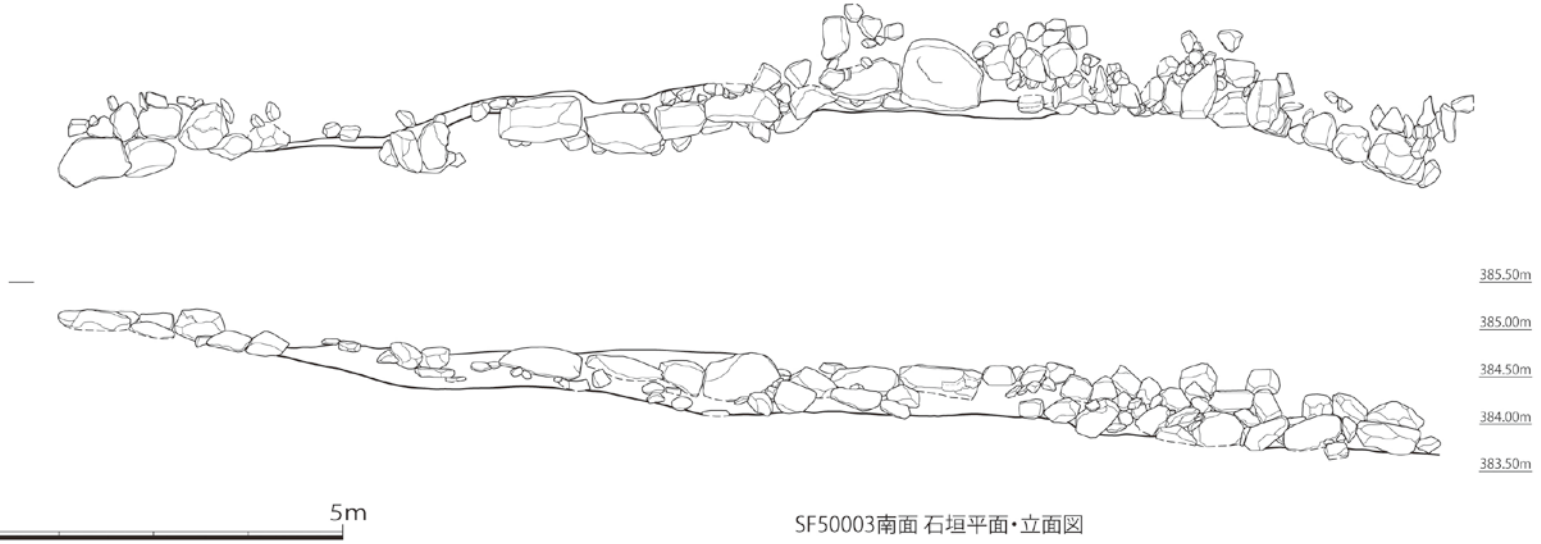
SW50002 石垣平面図・立面図

SW50005 石垣平面・立面図

図 36　平坦面 5A-1　SW50002・5(1/100)



SF50003北面 石垣平面・立面図



SF50003南面 石垣平面・立面図

図 37　平坦面 5A-1　SF50003(1/80)

うように設定されたものと考えられる。そのため北壁は最大高1.44mであるのに対し南側は0.73mとなる。築石は0.4～0.86mの割石を用いており、石積は何度か改修を受けたためか、一定しない。路面は坂下である東側は版築にて構築され、坂上である西側は地山面を掘削することにより傾斜を緩やかにしている。調査所見では近世の構築の可能性が示唆されるが、この路面に設けたトレンチ内からは明治前期の陶磁器が多数見られることより、明治期に構築されたものと考えられる。

⑵平坦面5A-2(図38)

平坦面5A-2は平坦面5A-1の北西に位置し、旧県道早良中原停車場線に北接する。平面形は歪な三角形を呈し、長辺29m、短辺9m、面積約170m²を測る。県道際では石垣が確認され、昭和23年撮影の航空写真を参考にすると、当該平坦面は北側に石垣を配する平面三角形の小区画水田が連なる地形であったことが窺える。この三角形の小区画の痕跡が連続する楕円形の窪みとして確認できる。当該箇所からは溝、土坑、小穴状の痕跡を検出したが遺物は出土しておらず、遺構としての認識は出来なかった。

⑶平坦面5A-3(図38)

平坦面5A-3は平坦面5A-1に西接する。調査以前は平坦面5A-1の西側まで石垣で造成された敷地が広がる宅地であった。また、昭和23年に旧県道の改修に伴い現路線に付け替えられる以前は、当該平坦面の南側及び西側を通る路線であった。

表土掘削後の地形は狭幅な長方形で、長軸約36m、短軸約10m、面積312m²を測る。平坦面5A-1との境界に緩やかな小段を有し、地山には花崗岩礫が多数混入する。遺構は平坦面5A-1との境界段で土坑２基を検出し、埋土中より土師器の小片が出土しているが、層位的な判断より近現代のものとされる。他には時期不明の小穴が散在するのみである。

当初の県道の路線が当該箇所で屈折することや、西側の平坦面5B-14とかなりの高低差が見られる上、地山に花崗岩礫が多数みられることより、谷地形内の自然堆積層と考えられ、近代まで積極的な土地利用が成されなかったものと推定される。

⑷平坦面5A-4(図39)

平坦面5A-4は平坦面5A-1に南接する。平面歪な三角形を呈し、長軸約24m、短軸約16m、面積約192m²を測る。平坦面5A-1、5A-3で推定される谷地形の右岸にあたる。遺構は土坑1基、小穴6基を確認したがいずれも近現代のものと判断されている。

⑸平坦面5A-5(図39)

平坦面5A-4は平坦面5A-1に南接し、旧県道早良中原停車場線に東接する。平面形は歪なコの字型で長軸約43m、短軸30m、面積約650m²を測る。土坑1基及び小穴3基のみ検出したが、いずれも時期が不確定である。遺構も希薄であり、近代遺構では一部が平坦面5A-4や平坦面5A-7の敷地の一部として使用されるものの県道拡幅までは建物が建てられた形跡は窺えず、積極的な土地利用が成されない場所であったといえる。また、旧小川内集落では当該平坦面を南北に分断するように里道が設置されていたが、それにもかかわらず同一の個人が両側を利用しており、旧来の地形による土地区分が改変後も意識されていたものと推定され、興味深い。

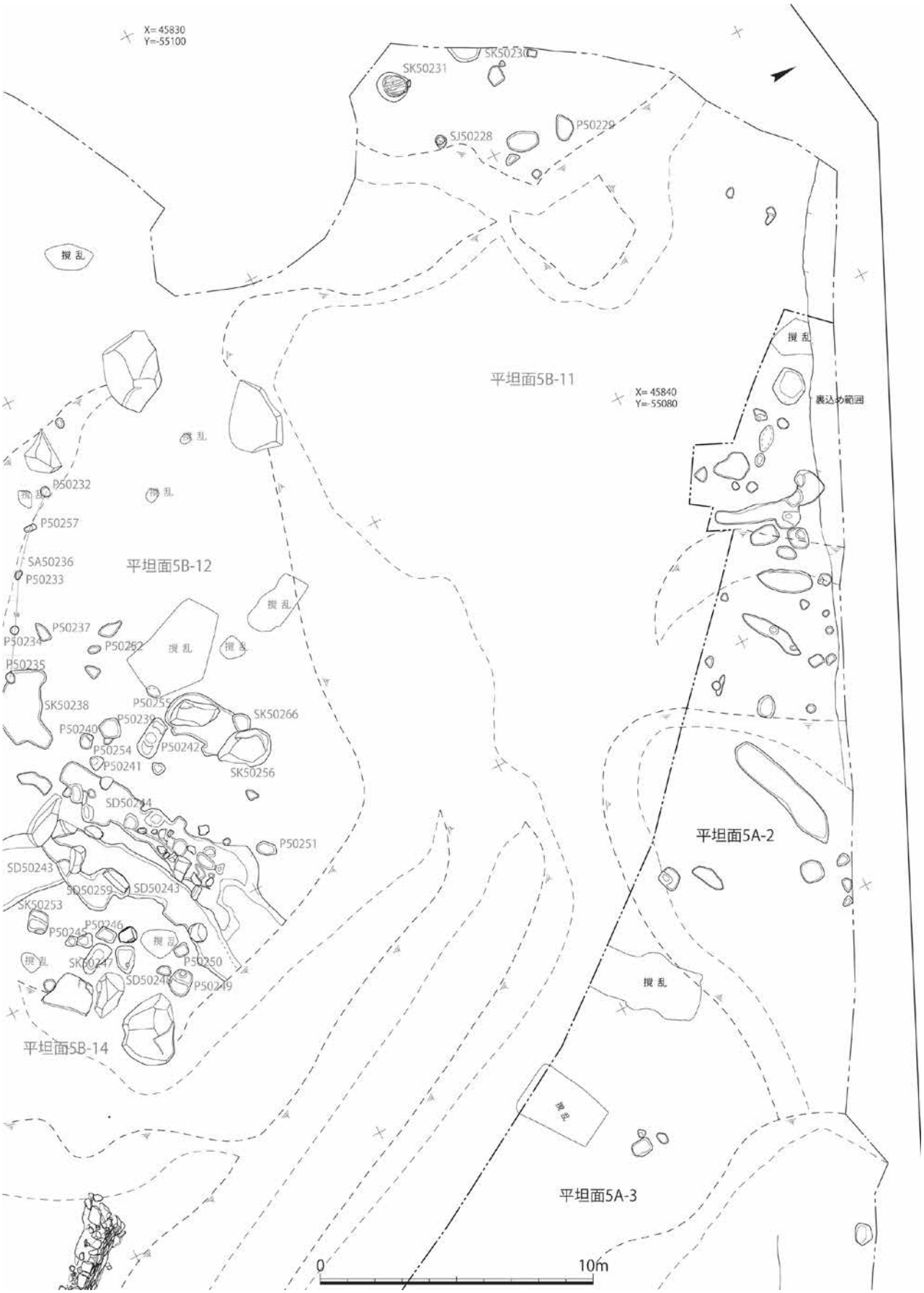


図 38　平坦面 5A-2(1/200)

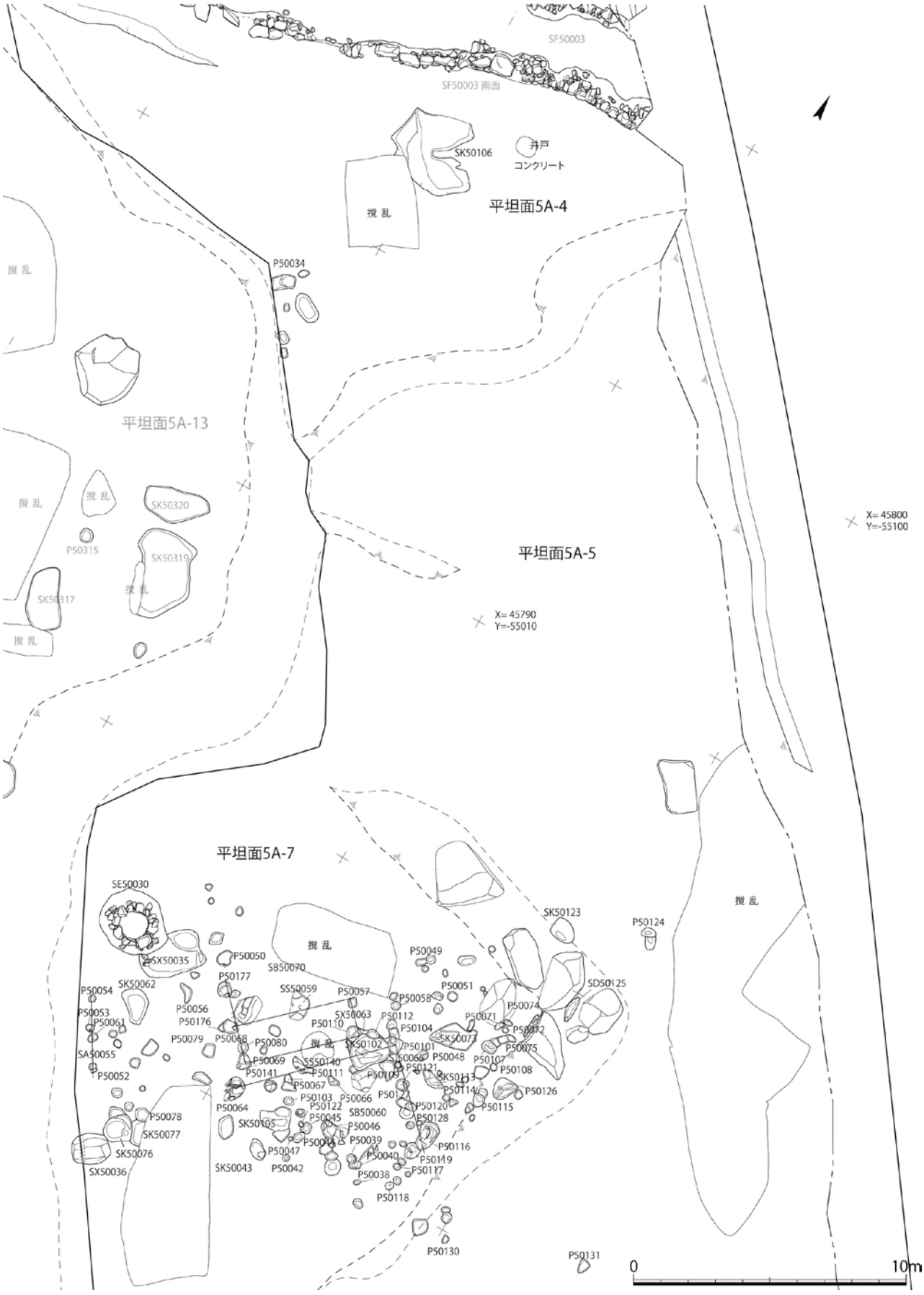


図 39　平坦面 5A-4・5・7(1/200)

(6)平坦面5A-6(図40)

平坦面5A-6は平坦面5A-5の南側で、旧県道に東接する。平面形は不整方形で、長軸24m、短軸17m、面積約257m²を測る。遺構面は南側の平坦面5A-8に向かって下る緩斜面となるが、周辺地形及び6区の調査所見から勘案すると南側には西側の丘陵地から那珂川に向かって延びる埋没谷が存在しているものと推定でき、当該地はその左岸に位置しているものと考えられる。旧小川内集落では宅地として活用されていたが、敷地はわずかに平坦面5A-8に拡張されているものの、母屋は凡そ当該平坦面内に収まっており、この旧地形を把握して建設したものと推定される。また、この建物が幕末から明治初期に建築された建物と推定されており、他の多くの平坦面ではほぼ同時期に敷地の改変や、有蓋石組水路の設置等が認められ、一体的に集落の改修を行った形跡が窺えることより、十分地形を熟知し得る状況であったものと考えられる。

遺構は当該平坦面中央部及び南端で集中して検出され、その内訳は掘立柱建物１基、土坑１基、井戸１基、小穴である。平坦面造成に伴う整地により周辺部は削平され、盛土部分の遺構のみ残存したものと考えられる。

SB50090掘立柱建物(図41)

平坦面5A-6中央部に位置する。P50085・87 ～ 89・92・97・100・132・133の9穴を確認したが、さらに東方へ延びる可能性がある。平面形は歪な長方形を成し、桁行3 間以上、梁行 3 間で、桁行2.26m、梁間2.22m を測り、桁行方向はN-66°-E を向く。柱穴は直径0.26 ～ 0.46m、深さ0.14m ～ 0.39mを測る。北側桁行の柱間は西から1.0m-0.57m、桁行南側柱間は西から0.78m-0.69m-0.81m、梁行の柱間は北から0.67m-0.80m-0.80mとばらつきはあるものの凡そ0.7～0.8mに収まる。検出面の標高は381.8mと西側が高く、東に向けて低くなっており、柱穴も東に向かって深くなる傾向にある。これは低い場所がより長大な柱が必要であることに起因して、安定を図るために深くしたものと推定される。柱穴埋土中からは主に中世の土師器片が出土したが、P50097から17世紀前半の陶器片が出土している。

出土遺物(図42)

１は土師器の皿である。底部に糸切り痕を残し、口縁部は短く直線的に開く。

SK50340桶埋設遺構(図41)

SK50340は当該平坦面南端に位置する。土坑内部には桶が残存する。土坑の平面形は楕円形を呈し、長軸0.84m、短軸0.79m、深さ0.41mを測る。内部の桶は残存器高0.25m、底経0.35mを測り、底板が傾いて設置されていた。土層観察では1層が不整合となり、桶埋設後掘削されたものである。ただし、桶が埋没後掘削したものなのか、埋設直後に掘削したものかは判断がつかない。また、土坑の西側がわずかに突出する。素掘りの井戸等でしばしば認められる形状で、鶴瓶等により水を汲み上げた際にできる痕跡と考えられる。桶底面が西側に傾くことも同理由によるものと推定され、水溜として使用されたものと推定される。

埋土中からは近現代の遺物が出土したとされる。旧集落時の建物は幕末から明治初頭とされ、集落移転前の民俗調査時には床板を貼った部屋であったが、建築当初はこの箇所に台所があったことが分かっており、近現代の水溜として使用されたものと推定される。

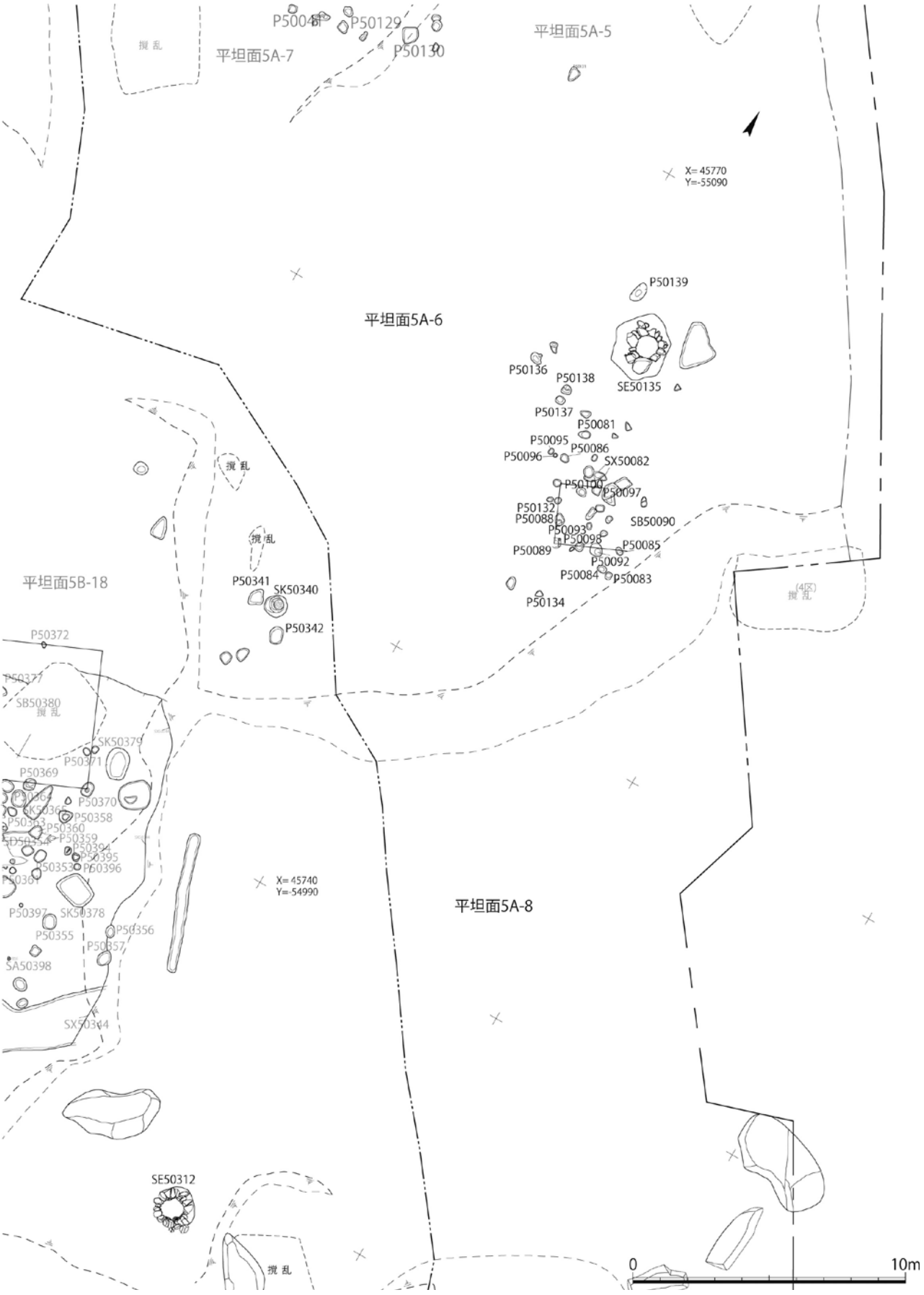


図 40　平坦面 5A-6・8(1/200)

出土遺物 (図 42)

4 は凝灰岩製の砥石で方柱状を呈し、側面の角を落とす。表面のみ使用し、裏面及び両側面には成型時の鑿痕が残る。

SE50135 井戸 (図 41)

平坦面 5A-6 の中央付近で、SB50090 掘立柱建物跡や小穴群よりわずかに北寄りに位置する。平面形は円形を呈し、井戸枠内径は 0.81m を測る。掘方は平面楕円形で長軸径 2.24m、短軸 1.72m、深さ 2.11m を測る。石組は主に円礫 (川原石) が使用されており、小口を内側に向けて積む。枠内の堆積層は 2 層に分かれ、下層では石積井戸枠内側にさらに石積を巡らせ、その内部には砂利が厚さ約 0.4m 堆積しており水の浄化の為に人為的に投入されたものと考えられる。一方、上層は約 1.5m の厚さを有していることより廃棄時に埋め戻されたものと考えられる。掘方は 3 層に分かれ、3 段階で構築されたことが分かる。なお、井戸枠内及び掘り方からは近現代の陶磁器や木製品が出土している。

出土遺物 (図 42)

2 は色絵の水滴で、人形を呈する。米俵を肩に担いだ童で、頭には頭襟を被る。目は黒、口と褌は黄色、腹部は緑が残存する。口と褌の黄色は赤が変色した可能性も考えられる。俵と後頭部に孔を穿つ。底面は露胎である。3 は型造りの白磁人形か。天狗の顔と思われるが鼻、口は欠損する。顔面部分のみで、後頭部は無く、外面と内面の一部に透明釉が施される。頭部頭襟部分に孔を穿つ。福岡県五ケ山網取遺跡でも同様のものが出土している。5・6 は石 (碾) 臼で、5 は下臼、6 は上臼である。5 は目の主溝は 6 分割されたものと思われ、底面中央が窪み、袴状を呈する。上面の一部には窪みが見られ、転用されたものと思われるが用途不明である。6 は上面が皿状に窪み、側面には把手を取り付ける円形のホゾ孔と底面には軸受孔が穿たれる。目の溝は認められないが、底面にふくらみの隙間は確認できる。目が擦り減るまで使用したものか。

(7) 平坦面 5A-7(図 39)

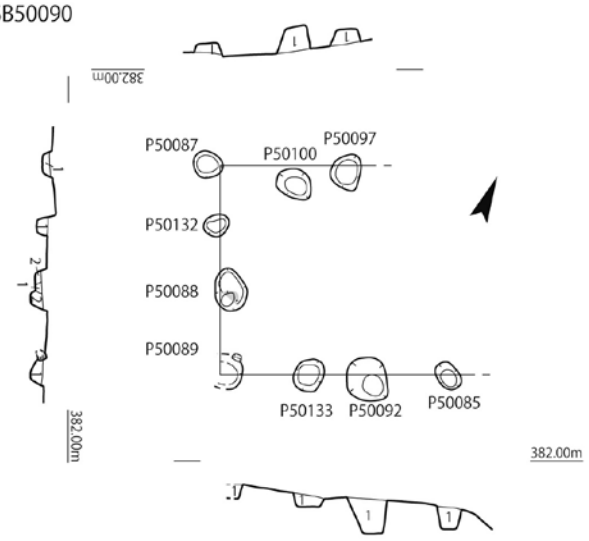
平坦面 5A-7 は 5 区のほぼ中央部に位置し、平坦面 5A-5 及び 5B-16 の中間にあたる。平面形は三角形で長軸約 24m、短軸約 18m で、面積約 297m^2 を測る。平坦面 5A-5 には遺構が皆無であったことに対して当該平坦面には遺構が密集する。いずれも花崗岩礫が露頭する地山であり、さしたる差は窺えないが、わずかに標高が高く水捌けが良いことが選地された理由と考えられる。このことは旧小川内集落時の建物配置において母屋が至妙に当該箇所に建設されていることからも判る。また、後世の平坦面造成の際の所作か、東側に花崗岩の巨岩が集められる。

遺構は掘立柱建物跡 2 基、柵列 1 条、土坑 6 基 (内 1 基は SB50060 の柱穴)、土器埋設遺構 1 基、井戸跡 1 基、小穴が検出されている。

SB50060 掘立柱建物 (図 43)

平坦面5A-7の中央部に位置する。P50046・P50064・P50101・P50116・P50120・P50121・P50141、SK50102、SS50140 と 9 本分を検出しているが、さらに南西、南東方向へ延びていた可能性がある。平面形は長方形を呈し、桁行4 間以上、梁行 3 間以上で、それぞれ6.1m、3.8m を測る。桁行方向はN-44°-E を向く。柱穴は径0.42 ～ 1.14mで、深さ0.9～0.61mを測る。深さに大きな差が

SB50090



P50097
1層 暗褐色土(Hue10YR3/4)
粘質。かたくしまる。

P50100
1層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
粘質。かたくしまる。

P50087
1層 褐色土(Hue10YR4/4)
シルト質。かたくしまる。
1cm大の炭少量が混じる。

P50132
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2)
粘質。しまりなし

P50088
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3)
やや粘質。しまりなし。
1cm大の炭化物を全体に多く
混じる。地山ブロックが少量混じる。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
やや粘質。かたくしまる。
地山ブロックが全体に少量混じる。

P50089
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
やや粘質。かたくしまる。地山ブロッ
クと3cm大の礫が全体に多く混じる。

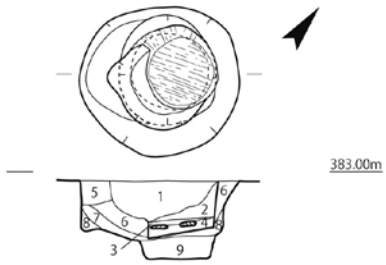
P50133
1層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
粘質。しまりなし。
5mm大の礫が多量に混じる。

P50092
1層 暗褐色土(Hue10YR3/4)
粘質。かたくしまる。
1cm大の地山ブロック、2mm大の炭
化物が少量混じる。

P50085
1層 暗褐色土(Hue10YR3/4)
粘質。かたくしまる。
1cm大の地山ブロック、2mm大の炭
化物が少量混じる。

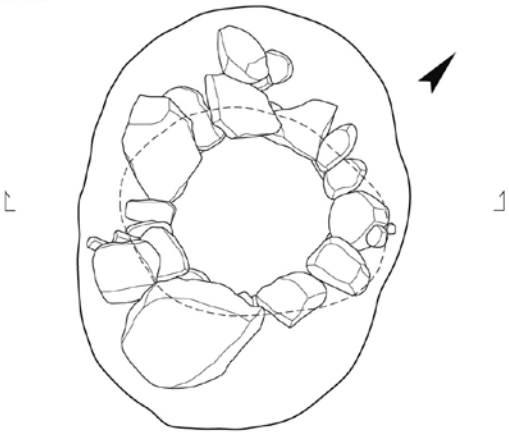
0 2m

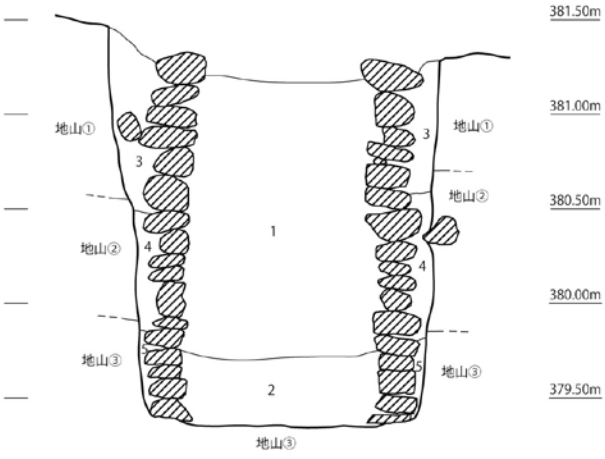
SK50340

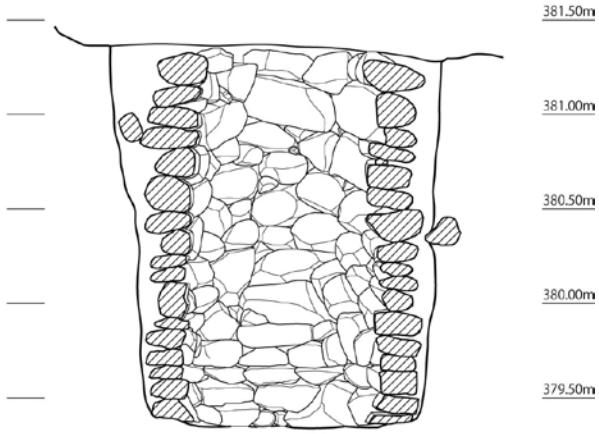


1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
やや粘質。かたくしまる。
10cm大の礫が全体にまばらに混じり、
2層のブロックが全体に多量に混じる。
2層 明黄褐色土(Hue10YR6/8)
強い粘質。かたくしまる。
3層 黒褐色土(Hue10YR3/2)
粘質。ややかたくしまる。
0.5～1mm大の砂粒。灰黄褐色砂質土が
多量に混じる。
4層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
砂質。しまりなし。
5mm～1cm大の黒褐色粘質土ブロックが
少量に混じる。
5層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)
粘質。かたくしまる。
2～5mm大の礫が多量に混じる。
6層 褐色土(Hue7.5YR4/4)
粘質。かたくしまる。
2～5mm大の礫が少量混じる。
7層 にぶい赤褐色土(Hue5YR4/4)
粘質。かたくしまる。
2cm大の礫が少量混じる。
8層 灰褐色土(Hue5YR6/2)
粘質。しまりなし。
1mm大の砂粒が少量混じる。
9層 褐灰色土(Hue10YR6/1)
粘質。かたくしまる。

SE50135





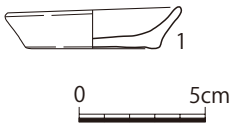


1層 黒褐色土(Hue10YR3/1) 現代の埋め戻し土。下位より木製品が出土。
2層 にぶい黄褐色砂質土(Hue10YR4/3) しまりなし。粘性なし。径1～2mm大の粗い砂粒で構成され、玉砂利状の円礫(径5cm大)を多く含む。
水の浄化を目的に意図的に入れられた砂と思われる。
3層 褐灰色粘土(Hue10YR4/1) しまりなし。粘性強い。褐色土ブロック(地山土)を少量含む。
4層 にぶい黄褐色砂質土(Hue10YR4/3) しまりなし。やや粘性あり。やや粗い砂粒で構成される。
5層 褐灰色砂質土(Hue10YR4/1) しまりなし。やや粘性あり。粗い砂粒で構成され、少量の粘土ブロックが混じる。
地山① 灰黄褐色砂質土(Hue10YR4/2) かたくしまる。粘性なし。径10～30cm大の礫を多量に含む。無遺物層。
地山② にぶい黄褐色砂質土(Hue10YR4/3) ややかたくしまる。粘性なし。粗い砂粒で構成される。また径30～80cm大の花崗岩が多く含まれる。
地山③ にぶい黄褐色砂質土(Hue10YR4/3) ややかたくしまる。粘性なし。粗い砂粒で構成される。湧水が著しい。

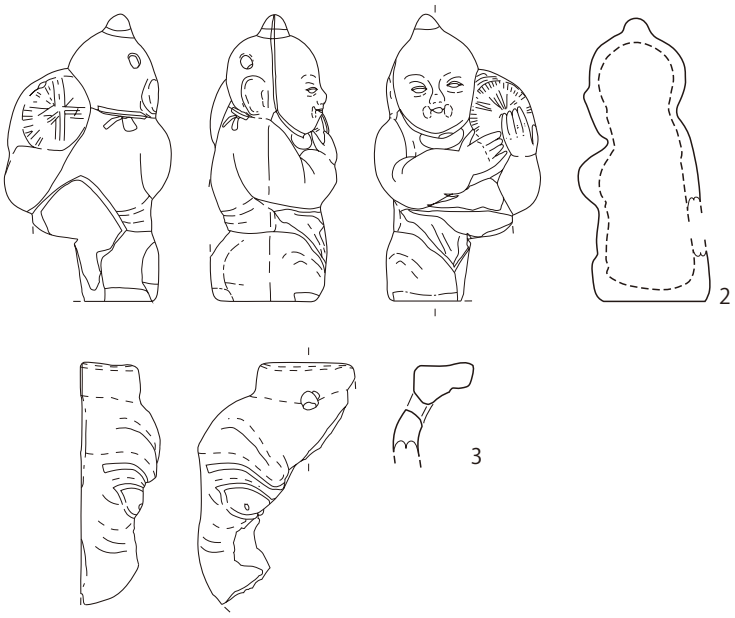
0 1m

図 41 平坦面 5A-6 SB50090(1/80)、SK50340、SE50135(1/40)

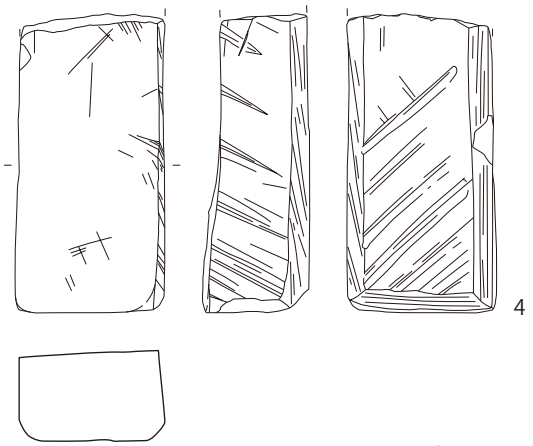
SB50090(P50100)



SE50135 -1 層



SK50340 -2 層



SE50135 -1 層

SE50135 -2 層

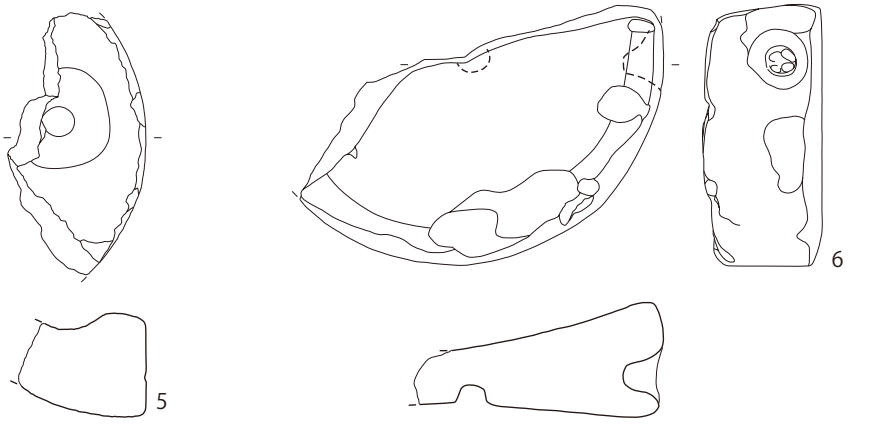


図 42　平坦面 5-6 の遺物実測図 (1/3、1/2、1/6)

あることについては、南東側では地山に多数の花崗岩を含んでいるため掘削ができなかったことによるもので、P50046・141・SK50102ではそのまま礎石様に使用したものと考えられる。柱間は西から1.22m-1.78m-2.03m-1.08m、北から1.56m-0.85m-1.39m と一定しない。

遺物はSK50102を中心に17世紀前半の陶磁器が出土している。なお、他に土鈴、鉄滓も出土しており、周辺で鍛冶を行っていた可能性が推定されている。

出土遺物(図45・46)

4は肥前または福岡産の陶器の皿で、胴部が屈曲し、わずかな段を有して口縁部が直線的に開く。17世紀初めのものである。5は型打ち成形の皿で、口縁端部が波状を呈し、内面に網目文を配する。1640～1650年のものである。6～8は土師器の坏か。いずれも底部に糸切り痕を残す。16は土鈴で鈕孔部分のみ残存する。21は動物を模った土製品であり、馬形と推定される。前足２本が確認できるが頭部及び下半身は欠損する。頸部後ろに鞍様の表現があるため馬と推定した。24は鉄滓である。下面には素材と考えられる3～5mmの粒塊が多数見られ、その間には木炭があったと推定される多数の隙間が見られる。上面は半溶解し、気泡が見られる。

SB50070掘立柱建物(図43)

平坦面5A-7の中央部に位置し、SB50070掘立柱建物に隣接する。P50050・P50056・P50057・P50068・P50069・P50110・SS50059 の７本分を検出しているが、さらに北西方向へ延びていた可能性がある。平面形は長方形を呈し、桁行3 間以上、 梁行2 間でそれぞれ3.95m、4.34m を測る。桁行方向はN-43°-Wを向き、SB50070掘立柱建物に約0.7mの間隔を持ってほぼ直行する。柱穴は直径0.35 ～ 0.59 m、深さ0.16 ～ 0.31 mを測る。

桁行の柱間は北西から1.17m-1.41m-1.37mを測り、梁行の柱間は2.29m-2.05m と推定される。SB50060掘立柱建物と隣接する箇所には地山中に花崗岩が多数含まれていると推定され、削平により柱穴の深さを減じている可能性は残るものの、P50069においても柱穴内の花崗岩を礎石様に使用したものと推定される。出土遺物より17世紀後半から18世紀前半の建物跡と考えられる。主な出土遺物に用途不明鉄片２点、土鈴及び土玉2点が見られる。

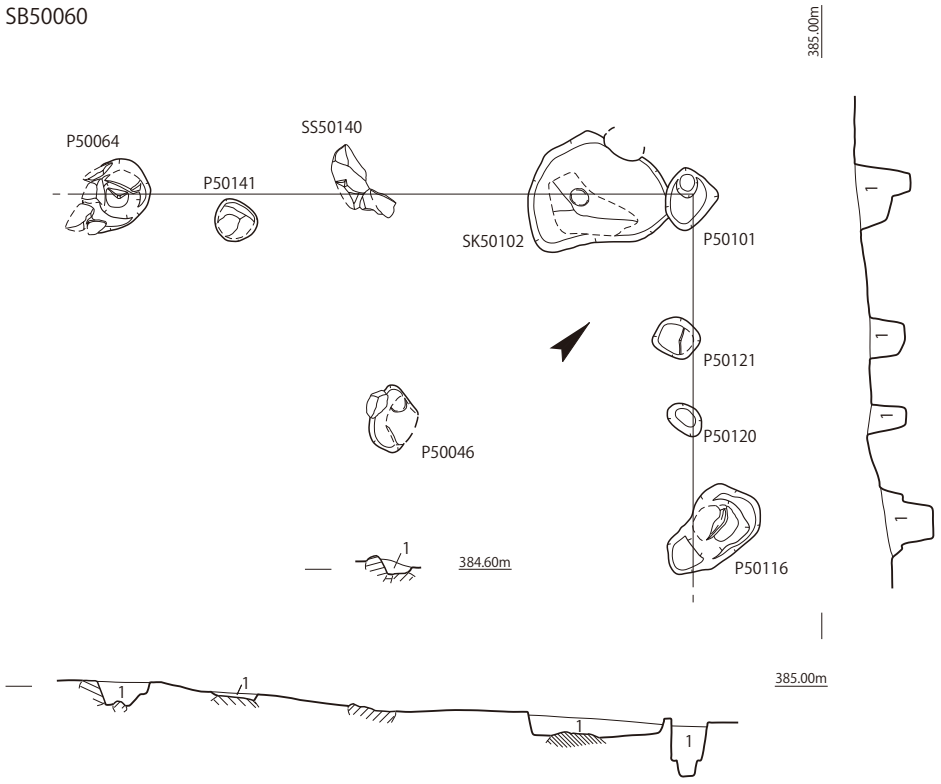
出土遺物(図45・46)

1は肥前産の白磁か染付の皿で、焼成不良のため透明釉が白濁する。17世紀後半から18世紀前半のものである。2は土師器の皿である。底部には糸切り痕が残り、口縁部は内湾気味に大きく開く。口縁端部にも面を持つ。17・19は土鈴であり、18・20は内部に入っていたと思われる土玉である。土鈴は、いずれも球形の体部上端をつまみ上げ、鈕孔を穿ったものである。表面の調整は粗く、鋭利な刃物で切った鈴口が開く。建物跡の柱穴から土鈴の出土はしばしば認められ、SB50070掘立柱建物でも2基の柱穴より出土していることより、魔よけとして使用されることもある土鈴を地鎮として意図的に埋置した可能性が考えられる。22は用途不明の鉄片である。一辺が屈曲していることより金具の類か。内面に別の鉄片が癒着する。23も用途不明の鉄製品である。中空の円錐形を呈する。いわゆる高師小僧状にも見えるが、金属部分の残存状況より鉄製品とした。

SA50055柵列(図44)

平坦面5A-7の西端に位置する。P50052 ～ 54 の3穴で構成されるが、南北両方向に延びていた可能性がある。柱穴は直径0.27 ～ 0.31m、深さ0.11 ～ 0.14mを測る。柱間は北側から1.07m-1.43m で、

SB50060



P50064
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質。かたくしまる。
1～5cm大の礫が少量に混じる。
1cm大の地山ブロックが少量混じる。

P50141
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質。かたくしまる。
1cm大の地山ブロックが少量に混じる。

SK50102
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質。かたくしまる。
1cm大の地山ブロックが少量に混じる。

P50101
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質。かたくしまる。
1～3cm大の地山ブロックが多量に混じる。5mm以下の炭化物が少量混じる。

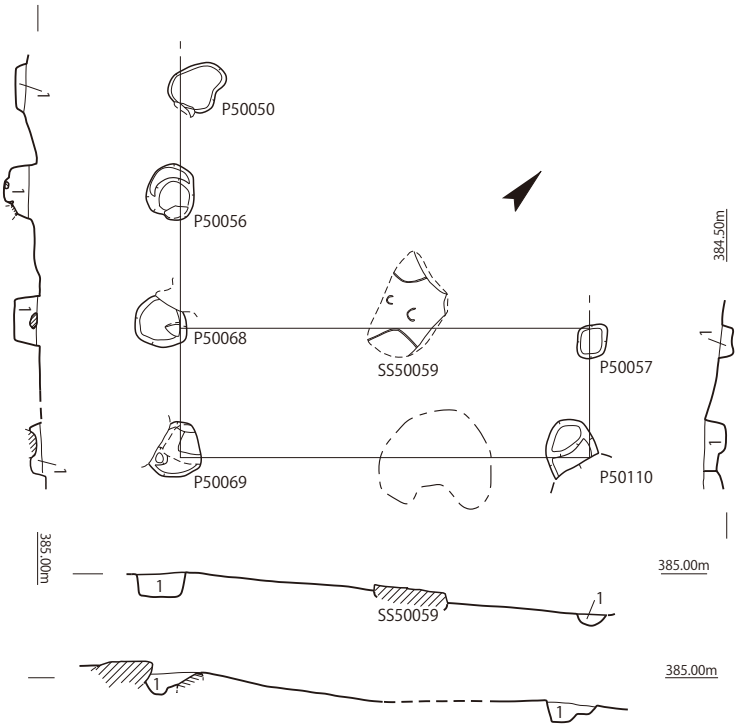
P50121
1層 褐灰色土（Hue10YR4/1）
粘質。かたくしまる。
1～3cm大の礫が少量混じる。
5mm～1cm大の炭化物が多量に混じる。

P50120
1層 褐灰色土（Hue10YR4/1）
粘質。かたくしまる。
1cm大の礫が少量混じる。
5mm～1cm大の炭化物が多量に混じる。

P50116
1層 明赤褐色土（Hue5YR5/6）
粘質。かたくしまる。
1～3cm大の黒褐色土（Hue10YR3/1）ブロックが多量に混じる。

P50046
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質。かたくしまる。
1cm大の地山ブロックが少量混じる

SB50070



SK50050
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）

P50056
1層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
シルト質。しまりなし。1cm大の礫と地山ブロックを少量含む。

P50068
1層 暗褐色土（Hue7.5YR3/3）
やや粘質。かたくしまる。1cm大の礫、炭化物が少量混じる。

P50069
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
シルト質。しまりなし。5cm大の礫を全体的に多く含む。3cm大の地山ブロックを少量含む。

P50110
1層 暗褐色土（Hue10YR3/4）

P50057
1層 褐色土（Hue10YR4/4）
シルト質。固くしまる。5mm程の炭化物を含む。
1cm大の地山ブロックを全体的に多量に含む。

0 2m

図 43　平坦面 5A-7　SB50060・70(1/80)

全長2.50m、主軸方向はN -29°-Wを向く。遺物は出土していないが、旧集落時の建物の南辺とほぼ一致する。旧建物は礎石立ちとされるため当該遺構とは一致しないが、周辺ではSK50076等近代遺構の痕跡も認められることより、前段階もしくは改修前の柱列の一部である可能性が考えられる。

SK50105土坑(図44)

平坦面5A-7の南側に位置する。平面形はT字型を呈し、南北1.09m、東西1.29m、深さ0.27mを測る。断面形状は２段で中央部が深くなっており、楕円形の土坑に浅い小穴が重複した可能性も想定される。

出土遺物(図45)

9は京焼風陶器の皿で、見込みに鉄絵で山水文が描かれる。10は肥前産白磁の碗で、17世紀末から18世紀前半のものである。11は肥前産染付の皿で、口縁は輪花になる。一部に窯割れが見られる。

SK50113土坑(図44)

平坦面5A-7の中央部北寄りに位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸0.98m、短軸0.41m、深さ0.42mを測る。断面形状は中央部が深くなる２段掘りを成す。出土遺物は14～15世紀の土師器の土鍋片が出土しているが、周辺の遺構の状況から近世の遺構と考えられる。

SK50123土坑(図44)

平坦面5A-1の北東側で平坦面5A-5へ続く緩斜面上に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸0.95m、短軸0.74m、深さ0.41mを測る。底面が狭い擂鉢状を呈する。出土遺物は14～15世紀の土師器の羽釜片が出土しているが、周辺の遺構の状況から近世の遺構と考えられる。

SJ50065埋甕遺構(図44)

平坦面5A-7の中央部に位置し、SB50060掘立柱建物に重複して検出した埋甕遺構である。掘方は平面円形で、径0.23～0.27m、深さ0.16mを測る。内部に陶器甕を設置しており、検出時には底部のみ残存していたが埋土中に口縁部から肩部の破片が含まれていた。甕内面には多量の尿石が付着していることから小便所の便槽として使用されたものであると考えられる。陶器甕の時期から17世紀前半期のものと推定される。

SB50060の北隅で検出されたものであり、その箇所は柱間も狭く内便所としては最適な位置と構造に思えるが、遺構の時期が若干異なること、明治期以前は外便所とされることなどより、可能性の指摘だけにとどめておきたい。

出土遺物(図45)

12は埋甕として使用された甕で、内外面に鉄(泥)釉を施す。口縁部は内外に突出させ上面を平坦にしたT字形を呈し、上面は釉剥ぎを行い貝目が残る。外面格子目叩き、内面格子目文であるが、いずれもナデ消すため一部にしか認められない。肩部から体部上半には浅い沈線が数条巡る。

SX50035(図44)

平坦面5A-7の南西側に位置し、SE50030井戸の掘方に重複して検出している。平面形は隅丸方形を呈し、長軸2.34m、短軸1.51m、深さ0.42mを測る。内部には長さ1.69m、幅0.8m、高さ1.01mの縦断

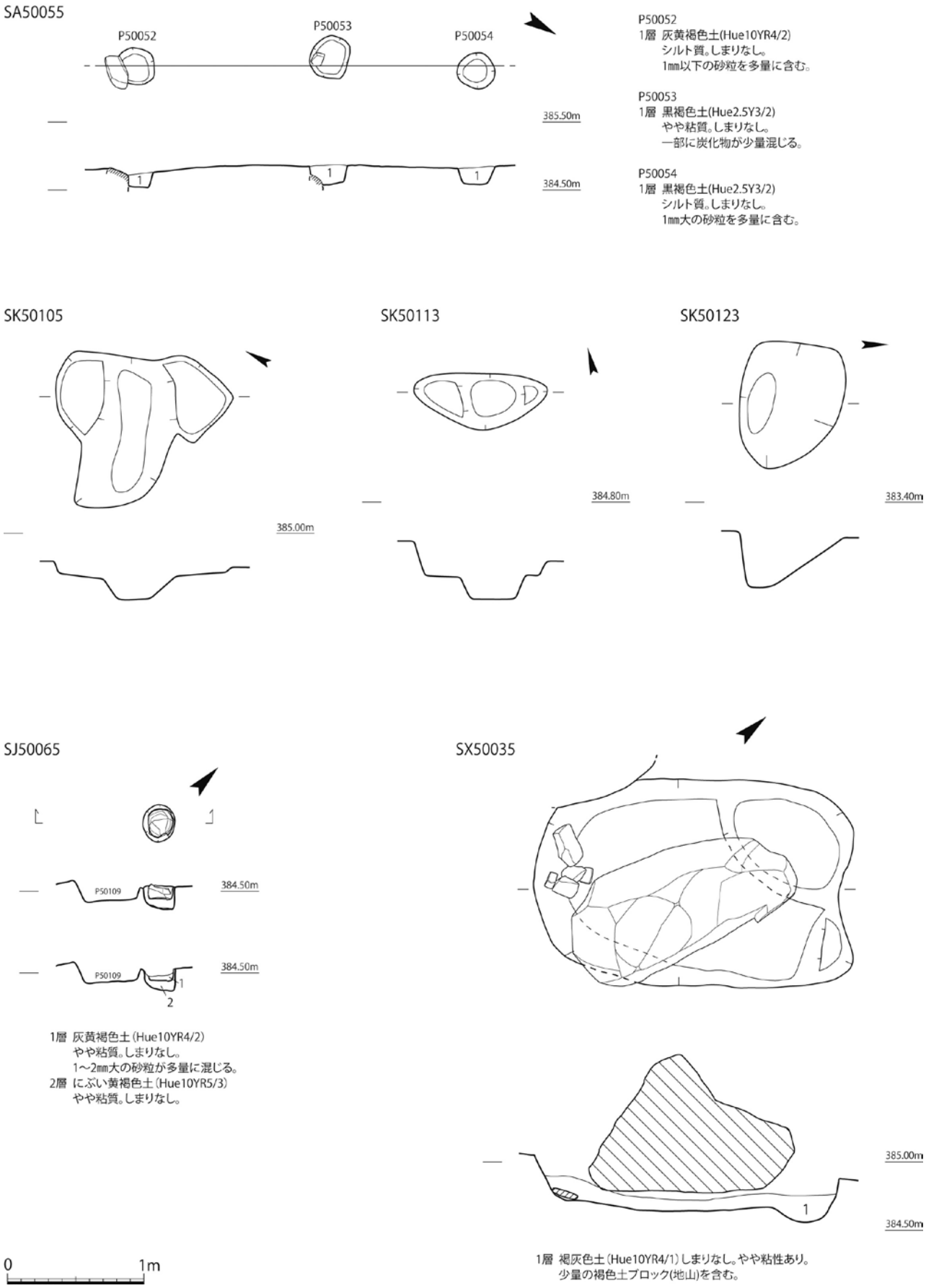


図 44　平坦面 5A-7　SA50055、SK50105・113・123、SJ50065、SX50035(1/40)

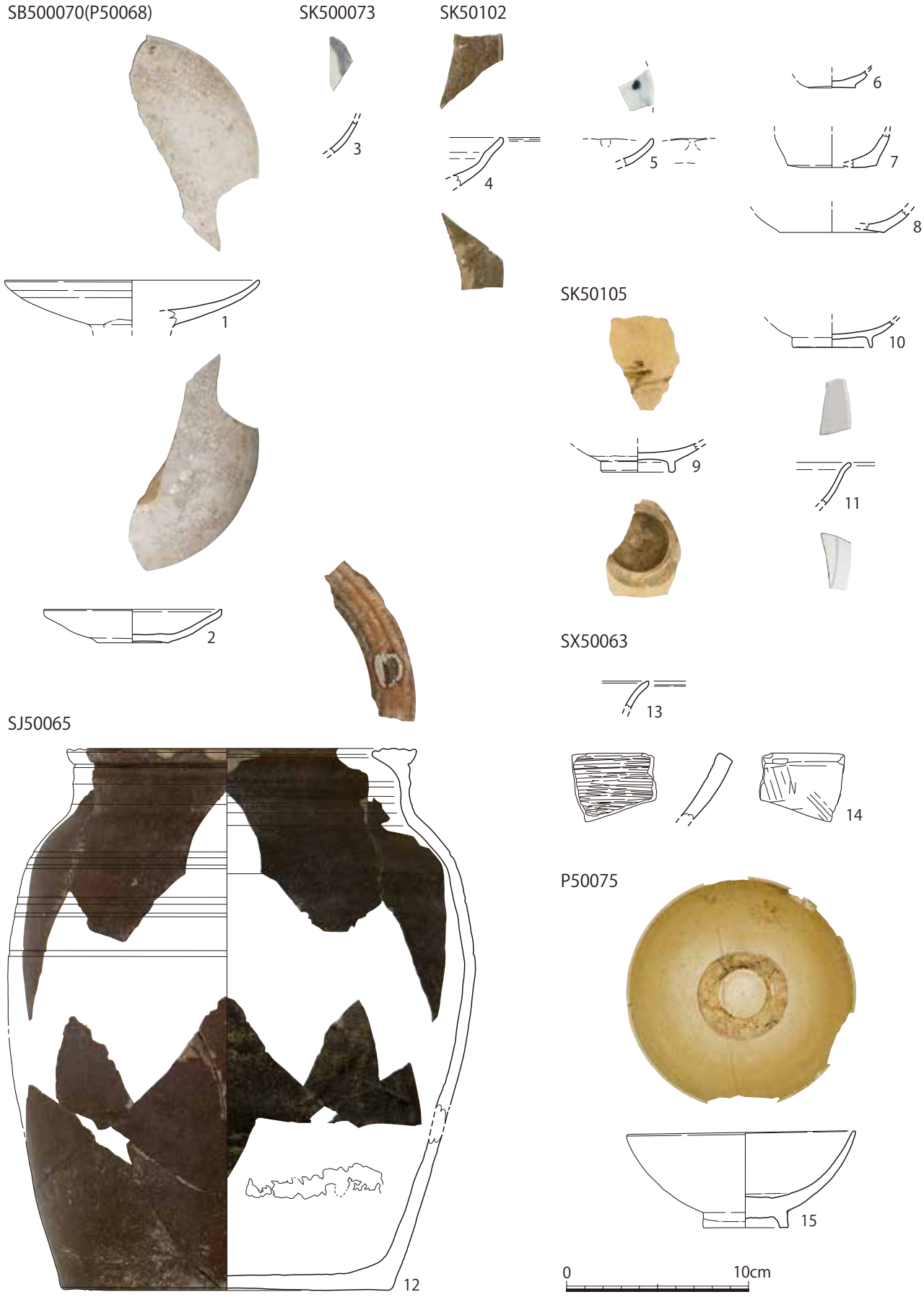
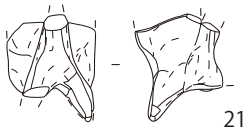


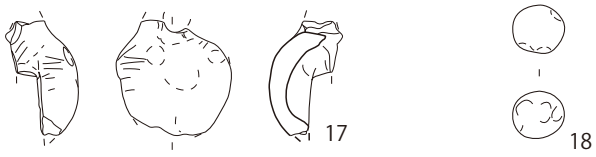
図 45　平坦面 5-7 の遺物実測図 1(1/3)

SB50060(SK50102)

SB50060(P50120)



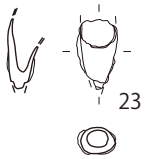
SB50070(P50068)



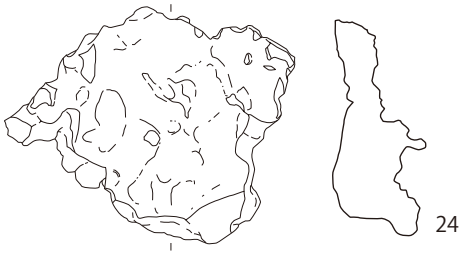
SB50070(P50069)

SB50070(P50056)

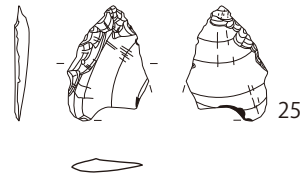
SB50070(P50068)



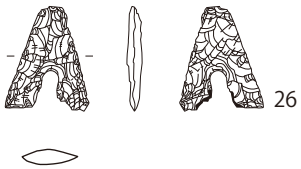
SB50060(P50120)



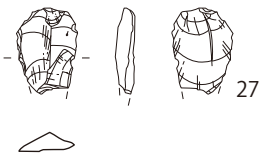
表土 AO12



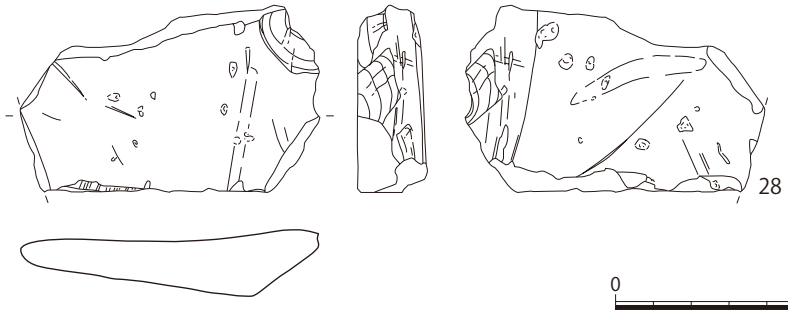
表土 AO13



SX50035



SD50125



平坦面 5-10
SK50145 AS22

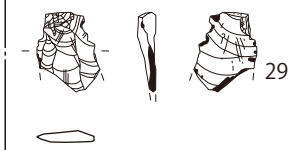


図 46　平坦面 5-7 の遺物実測図 2(1/2)

面三角形の花崗岩が設置される。当初は花崗岩除去のための土坑と解していたが、花崗岩下に埋土が見られ、花崗岩の底面が水平に設置されていることより、花崗岩を設置するための土坑と推定される。SE50030との重複関係では、当該遺構が古い。

出土遺物(図46)

27は安山岩の剥片で、混入品である。

SE50030井戸(図47)

平坦面5A-7の南西側に位置し、SX50035に重複して検出した石組み井戸である。内部には後世にコンクリート製の井戸枠が設置されていた。掘方、井戸枠共に平面形は円形を呈し、井戸枠内径は1.08m、掘方径は2.28～2.52m を測る。井戸枠は主に長さ0.2～0.4mの粗割りの花崗岩が長手積みされており、一部では掘方壁面（地山）から露頭した花崗岩をそのまま利用して積み重ねていた。石積み方法の違いから少なくとも3工程での構築、もしくは2度の改修を経たものと推定される。

旧小川内集落でも屋内の井戸として近年まで使用されていたものであり、離村に際して埋め戻したものと考えられ、埋土中からも近現代の遺物が出土している。しかし、調査は細心の注意を払い実施したが、安全面を考慮して深さ5.5mで掘削を断念したため、下層の状況については確認できていない。周辺には近世の遺構が見られることから勘案すると、同時期まで遡る可能性も考えられる。

(8)平坦面5A-8(図40)

平坦面5A-6の南東側に位置し、4区に東接する。平面形は不整方形で、長軸及び短軸ともに約20mで、面積約390m^{2}を測る。平坦面6-2から5B-8へと続く埋没谷(平坦面5B-18のSX50344)上にあたる。地山はグライ化した灰褐色を呈し、調査時においても降雨時には雨水が集水するため、配管を埋設したほどである。そのため遺構がみられない空白地となっている。

(9)平坦面5A-9(図48)

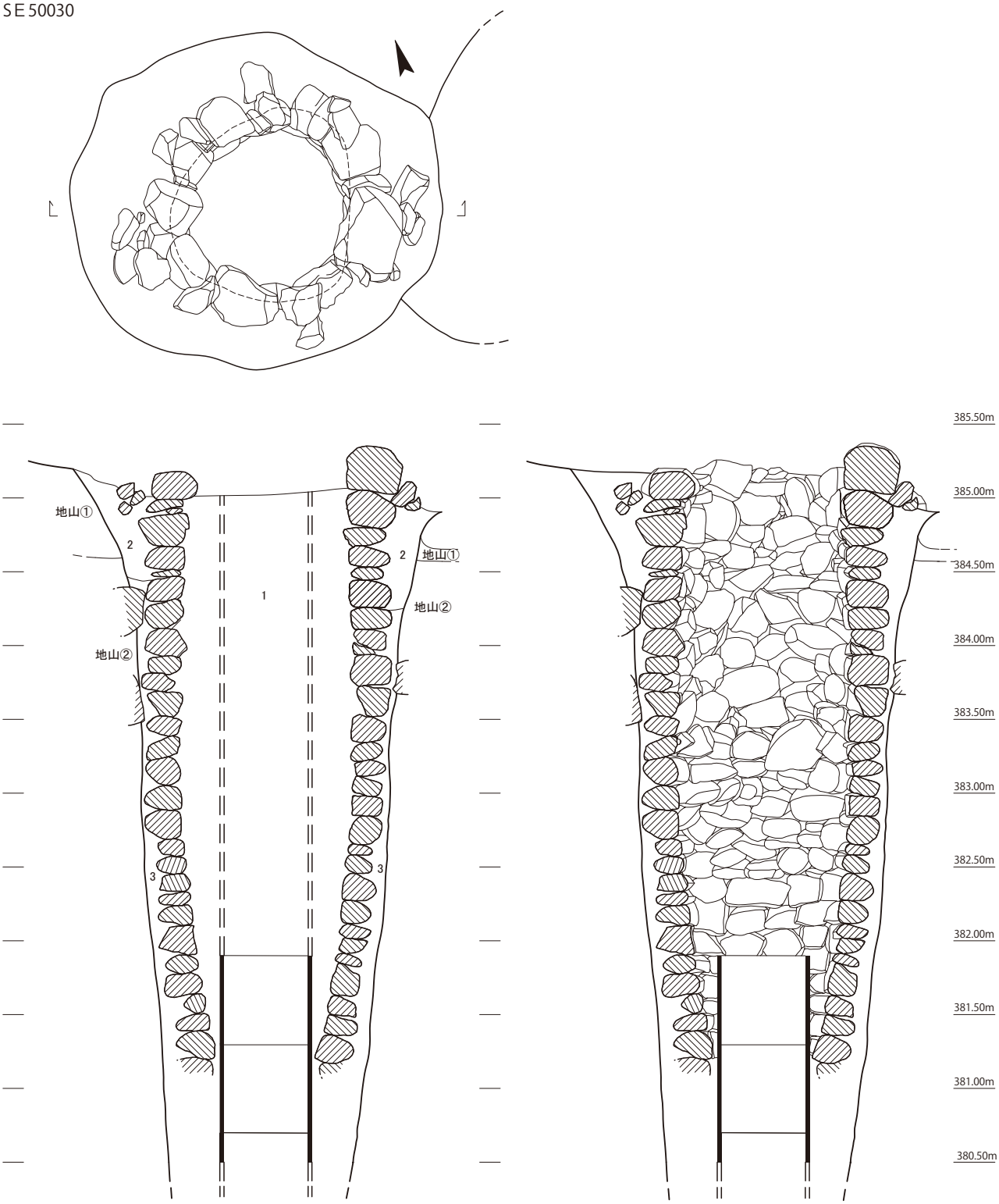
平坦面5A-8の南東側、5A-10に挟まれる場所に位置し、４区に東接する。平坦面5A-9としたが一部は5B区として調査された場所になる。平面形は不整長方形で、長軸約33m、短軸約20m、面積546m^{2}を測る。旧集落では東端にあたる。平坦面5A-8の埋没谷右岸にあたり、地盤は粘性が強いシルト質でやや不安定であり、一部には花崗岩の巨岩が露頭する。旧小川内集落時には東側は石垣による盛土造成で、西側は平坦面5B-19の石垣によって区画される。入口は東側石垣にそって通路を設け、平坦面中央部から進入する。

遺構については近現代の土坑、小穴を検出したのみである。

(10)平坦面5A-10(図48)

平坦面5A-9の南東側で、５区の最南端に位置する。平坦面5A-10としたが一部は5B区として調査された場所になる。平面形はくの字形を呈し、長軸約38m、短軸約13m、面積約296m^{2}を測る。遺構は時期不明の土坑、近現代の溝跡を検出したのみである。旧小川内集落時は田地として利用されていたようである。

SE50030



1層　黒褐色土(Hue10YR3/1)現代の埋め戻し土。コンクリート枠が下部まで積まれている。
2層　にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)しまりなし。粘性なし。径10～20cm大の礫を少量含む。また、黄褐色土ブロック(地山土)を少量含む。
3層　にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)しまりなし。粘性なし。径10～20cm大の割石を少量含む。
地山①　灰黄褐色砂質土(Hue10YR4/2)かたくしまる。粘性なし。径10～30cm大の花崗岩を少量含む。
地山②　にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)ややしまる。粘性なし。粗い砂粒で構成され、径30～200cm大の花崗岩が多く含まれる。

0　1m

図 47　平坦面 5A-7　SE50030(1/40)

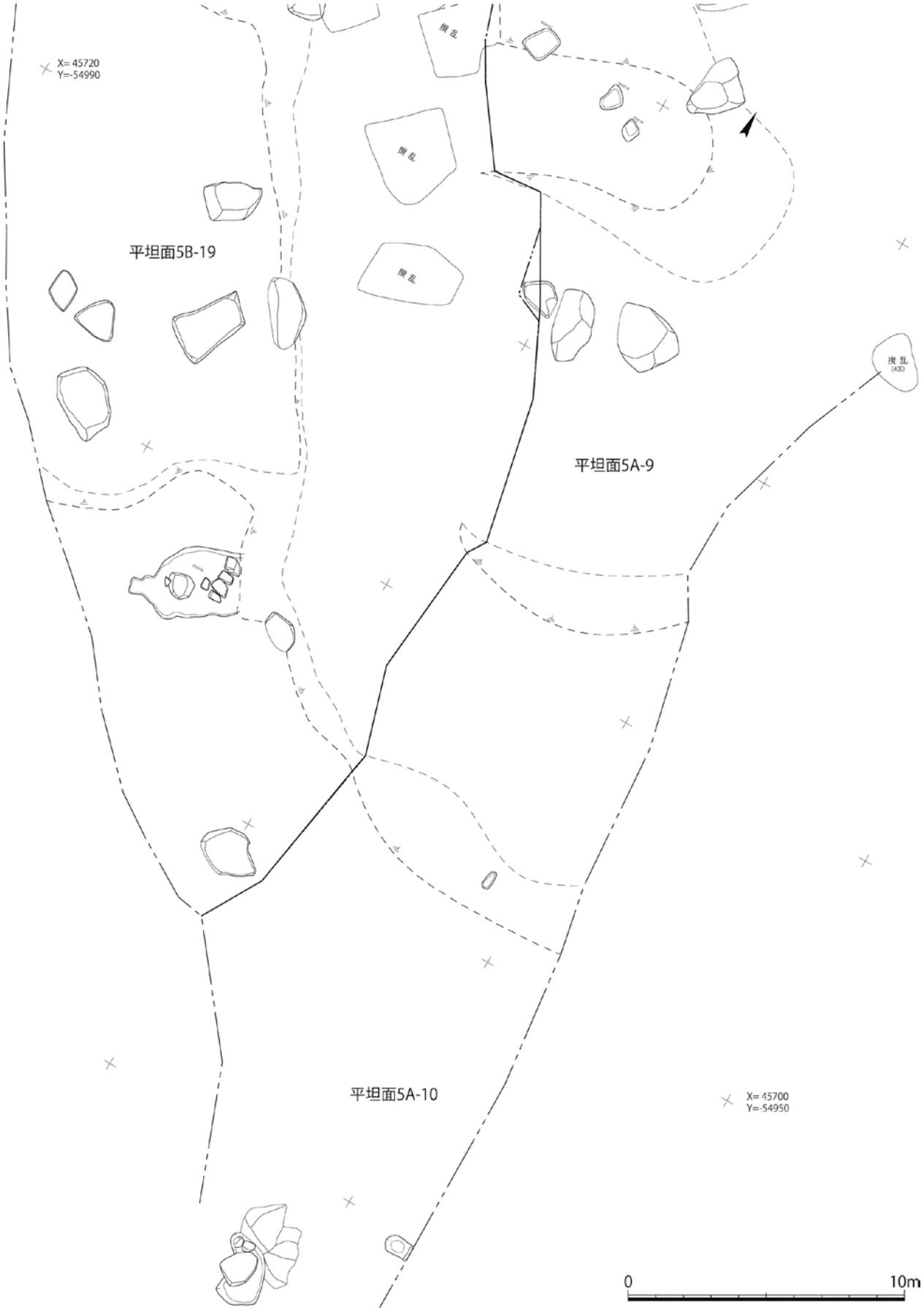


図 48　平坦面 5A-9・10、5B-19(1/200)

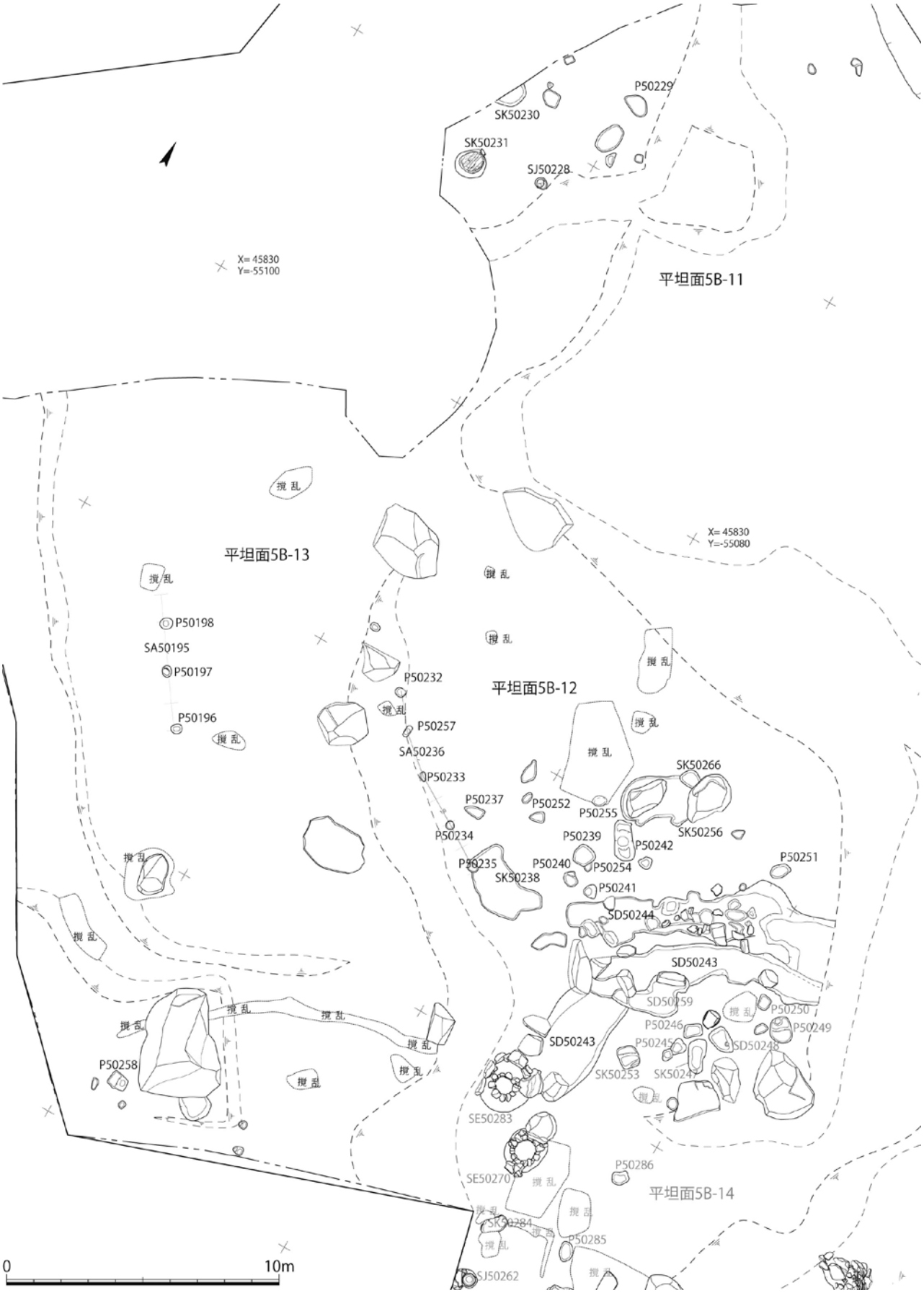


図 49　平坦面 5B-11・12・13(1/200)

(11)平坦面5B-11(図49)

5区の北端に位置し、平坦面5A-3に北接する。平坦面5B-11としてまとめたが、小さな平坦面が東西方向に階段状に連続して続く。南北約29m、東西約17m、面積約353m²を測る。西側の丘陵部を開削して平坦面を造成したため、小さな階段状の平坦面が続く地形となったと考えられる。また、平坦面北東辺は里道として使用されており、昭和23年の県道改修まではこの里道が県道として使用されていた。旧小川内集落時では北西辺から北東辺に石垣を巡らせて平坦面5B-12と一体の平坦面として使用されていたが、平坦面5A-11の最下面は窪地として残されていたようである。遺構は階段状平坦面の最上面で、桶埋設遺構を含む土坑３基、土器埋設遺構１基を検出している。

SK50230土坑(図50)

平坦面5A-11の北端に位置する。半分を検出し、残りは調査区外となる。平面形は楕円形と推定され、残存長1.11m、残存幅0.81m、深さ0.2mを測る。

出土遺物(図51)

1は福岡産陶器の擂鉢である。内面には放射状に擂目が入るが、著しく摺り減りする。17世紀のものである。

SK50231桶埋設遺構(図50)

平坦面5A-11の最上面の南西に位置する。土坑内に桶が残存する桶埋設遺構である。掘方は楕円形で長軸1.15m、短軸1.05m、深さ0.58 mを測り、内部には長軸0.91m、短軸0.77m、高さ0.55mの桶が設置され、桶底には節穴や割れを塞ぐために板材が２枚敷かれていた。遺構上部は近現代の造成により削平され、その際に埋め戻されている。

桶内部の埋土下層では粘質土と砂質土が互層に堆積しており自然堆積と思われ、桶底に敷かれた板材で水漏れを防いでいると看取できることより水溜施設と推定され、西側の水路から直接取水していたものと考えられる。遺物は18世紀～明治期の陶磁器が出土しており、旧小川内集落時の建物が昭和2年建築とされることから、その前段階の建物に伴うものと考えられる。

出土遺物(図51)

３～5は桶の底面上より検出した板材である。3の１辺及び4・5の両端が弧状を呈しており、その径が埋設された桶とほぼ同様であることから、同種の桶底の転用品もしくは桶蓋を埋設時に設置したものと考えられる。

SJ50228(図50)土器埋設遺構

SK50230土坑に近接する場所に位置する。土師質の手あぶり形火鉢埋設遺構である。掘方の平面形は円形で、径0.41～0.46 m、深さ0.1mを測り、土坑の床面からわずかに浮いた状態で土器が設置されていた。埋土にはしまりがなく単層であり、廃絶時に人為的に埋め戻されたものと推定される。

出土遺物(図51)

2は土師器の手あぶり形火鉢である。平面円形で、底部の3ヶ所には高さ約2cmの脚が付属する。口縁部は内側に短く突出しL字状を呈する。外面には赤色顔料が塗布され、内面には縦方向に刷毛目調整が施される。内面の底面から4cm以上には煤の付着が見られることより、底面に灰を敷いて使用していたことが判る。

(12)平坦面5B-12(図49)

平坦面5B-12は５区の北側に位置し、平坦面5B-11に北接し、平坦面5B-13に西接する。平面形は歪な楕円形を呈し、長軸約20m、短軸約14m、面積225m²を測る。地形的には平坦面5A-1・2で確認された埋没谷の左岸にあたり、平坦面5A-14までわずかに延びるが、旧小川内集落時には平坦面5A-11と一帯の平坦面として使用され、南側の溝状遺構は里道として使用されていたことを考慮し、この溝で分割した。地山は比較的安定した花崗岩風化土であるが、花崗岩の巨石が露頭する。

遺構は柵列１条、土坑4基、溝跡3条を検出している。

SA50236柵列(図50)

平坦面5B-12の南端に位置する。P50232～P50235・P50257の5穴で構成され、全長7.05m、柱穴径0.32～0.44m、深さ0.08～0.21mを測る。いずれの柱穴も比較的浅く、削平を受けていると判断される。また、旧小川内集落では平坦面5B-12と5B-13の建物は昭和初期の建築とされ、両者の境には石垣が築かれているが、SA50236柵列の主軸方向はその塁線とは異なり、検出した地形に沿って屈曲する。その上、出土遺物は19世紀の陶器が出土していることより、旧集落の前段階の遺構であると考えられる。

出土遺物(図51)

6は陶器の碗で、内外面に銅緑釉を施す。18世紀前半のものか。7は肥前産陶器の灯火具で、皿状を呈し、内外面に鉄(泥)釉を施す。19世紀のものである。

SD50243溝(図52)

平坦面5B-12の南端に位置し、5B-14との境を分かつ溝の１つである。流水方向は南から北に向かい、大きく湾曲して方向を変え、東に向かって流れる。残存長11.5m、最大幅2.26m、深さ0.41mを測る。SD50244、SD50259溝と重複関係にあるが、平坦面6-12と平坦面5B-14が埋没谷を盛土造成して平坦面として活用するために旧流路を埋没谷左岸であるこの位置に付け替えたと推定され、そのために水路としては安定せず何度も改修を行った結果、重複することになったものと思われる。また、溝の南端にはSE50283、SE50270井戸が存在しており、井戸利用時の排水路としての役目も担っていたものと推定される。出土遺物は主に18世紀後半から明治期のものが見られる。しかしながら、重複関係で当該遺構が切るSD50244溝跡の最も新しい出土遺物は近代のものであり、南端の両井戸も近代のものであることから存続時期は明治期と考えられる。

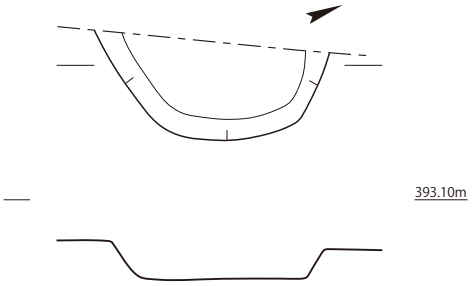
出土遺物(図51)

8は肥前産染付碗で、18世紀後半から19世紀前半のものである。9は肥前有田産と推定される白磁の碗か鉢の底部である。10は肥前産の白磁か色絵と推定され、油壷の可能性のある瓶である。11は肥前産の染付碗で、外側面に鋸歯状の網目文、高台内にはいわゆる渦福が配される。18世紀前半のものである。12は染付の小丸碗で1820～1860年のものである。

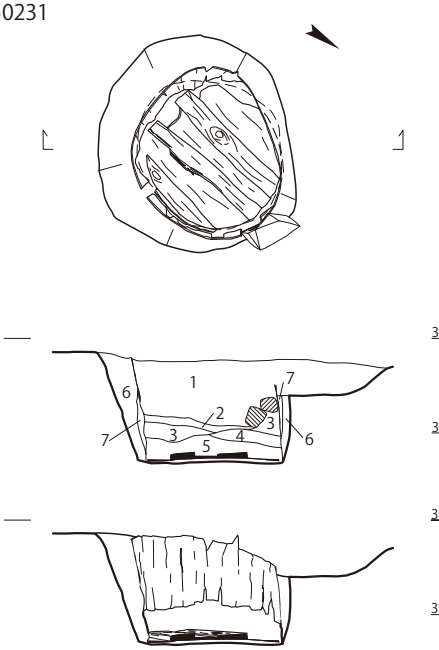
SD50244溝(図52)

平坦面B-12の南端に位置し、SD50243と重複する。全長9.7m、最大幅2.7mを測る。南西から北東方向へ流れ、SD50243溝に比して直線的である。平坦面5B-14との境を分かつ溝跡である。出土遺物は1層では近代の遺物が含まれるものの、2層では18世紀から幕末、3層では17世紀後半から18世紀

SK50230



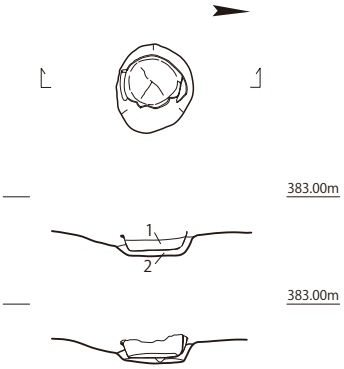
SK50231



1層 黒褐色土(Hue10YR3/1)
やや粘質。かたくしまる。
5～10㎝大の礫を全体に多く
含み1mm大の砂粒も多く含む。
2層 黒褐色土(Hue10YR3/1)
粘質。しまりなり。
5mm大の炭化物を全体に多く
含む。木片も含まれる。
3層 褐色土(Hue10YR4/6)
砂質。しまりなし。
2mm大の砂粒を全体に多く
含む。
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6)
砂質。しまりなし。
2mm～1㎝大の砂粒を全体に
多く含む。
5層 褐灰色土(Hue10YR5/1)
砂質。しまりなし。
2mm大の砂粒を全体に多く
含む。
6層 にぶい黄橙色土(Hue10YR6/3)
粘質。かたくしまる。
1～2mm大の砂粒を多く含む。
7層 褐灰色土(Hue10YR6/1)
粘質。ややしまりなり。
1～2mm大の砂粒を多量に
含む。

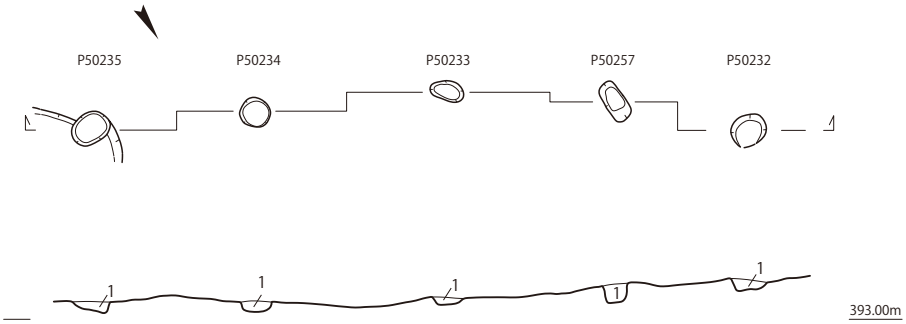
0 1m

SJ50228



1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)
砂質。しまりなし。
1～2㎜大の砂粒が多量に混じり、土器の破片を含む。
2層 褐色土(Hue10YR4/6)
やや粘質。かたくしまる。
2㎜大の砂粒が多量、炭化物が少量混じる。

SA50236



P50235
1層 黒褐色土(Hue2.5Y3/1)
粘質。かたくしまる。
5㎜～2㎝大の小礫が
少量混じる。

P50234
1層 黒褐色土(Hue2.5Y3/1)
粘質。かたくしまる。
5㎜～2㎝大の小礫が
多量混じる。

P50233
1層 黒褐色土(Hue2.5Y3/1)
粘質。かたくしまる。
2㎝大の小礫が多量に混じる。
炭化物が少量混じる。

P50257
1層 褐灰色土(Hue10YR4/1)
泥質。しまりなし。1～2㎜大の
砂粒が全体に多量に混じる。

P50232
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
やや粘質。しまりなし。
5㎜大の小礫が多量に混じる。

0 2m

図 50　平坦面 5B-11・12　SK50230・231、SJ50228(1/40)、SA50236(1/80)

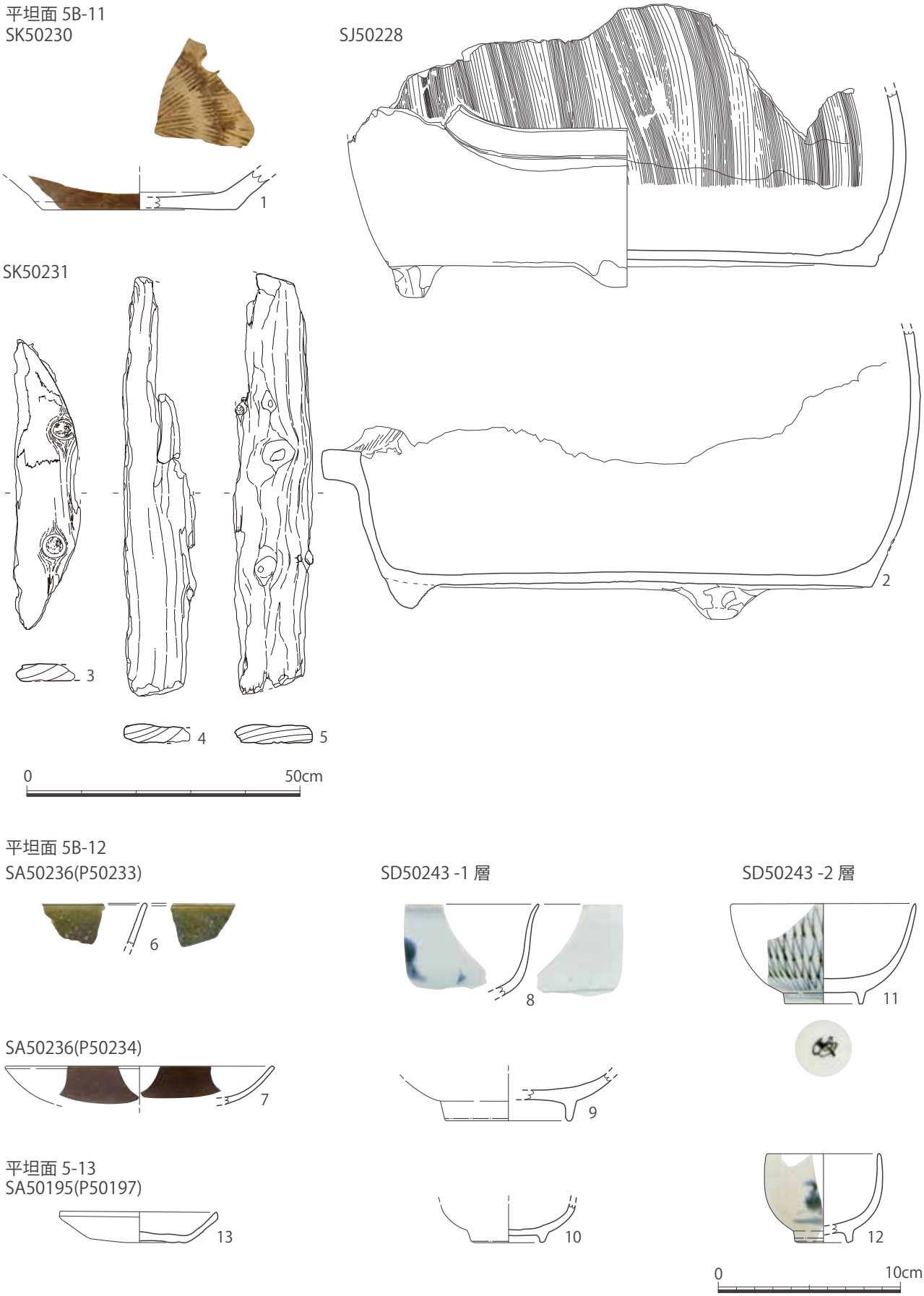
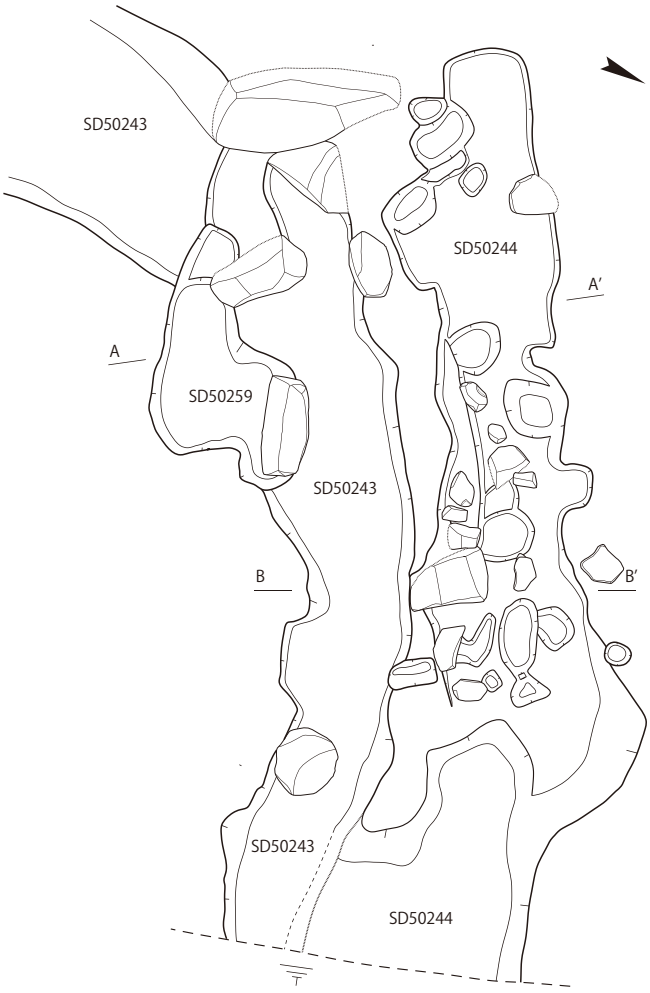
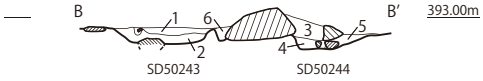


図 51　平坦面 5B-11・12・13(1/3)

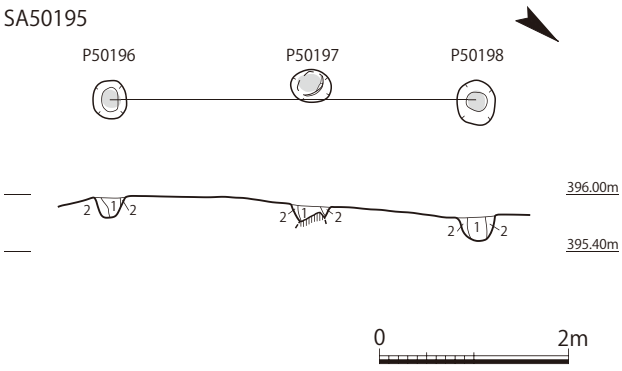


SD50259・SD50243
1層 暗灰黄色土（Hue2.5Y4/2）
シルト質。かたくしまる。
5cm大の礫が少量混じる。
2層 黒褐色土（Hue2.5Y3/2）
やや粘質。かたくしまる。
1mm大の砂粒が全体に多量混じる。
3層 暗灰黄色土（Hue2.5Y5/2）
砂質。かたくしまる。
5〜10cm大の礫が全体に多量混じる。

SD50244
1層 暗灰黄色土（Hue2.5Y4/2）
シルト質。かたくしまる。
1cm大の小礫が全体に多量に混じる。炭化物が少量混じる。



1層 黒褐色土（Hue2.5Y4/2）
やや粘質。かたくしまる。
1mm大の砂粒が全体に多量に混じる。
2層 暗灰黄色土（Hue2.5Y5/2）
砂質。かたくしまる。
5〜10cm大の礫が全体に多量に混じる。
3層 暗灰黄色土（Hue2.5Y4/2）
シルト質。かたくしまる。
1cm大の小礫が全体に多量に混じる。炭化物が少量混じる。
4層 オリーブ褐色土（Hue2.5Y4/3）
やや粘質。かたくしまる。1mm大の砂粒が全体に多量に混じる。
炭化物が少量混じる。
5層 オリーブ褐色土（Hue2.5Y4/3）
シルト質。かたくしまる。
1〜3cm大の地山ブロック1cm大の礫が多量に混じる。
6層 暗灰黄色土（Hue2.5Y4/2）
シルト質。かたくしまる。
2mm大の砂粒が全体に多量に混じる。



P50196
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質、かたくしまる。
2mm〜1cm大の礫を全体に多量に混じる。1mm大の炭化物が多量に混じる。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
粘質、ややしまりなし。
1mm大の砂粒が混じる。
1cm大の地山ブロックが多量に混じる。

P50197
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質、しまりなし。
1〜5mm大の小礫が多量に混じる。
5mm大の炭化物が多量に混じる。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
粘質、しまりなし。
1cm大の地山ブロックが多量に混じる。

P50198
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2）
粘質、しまりなし。
2mm大の砂粒が多量に混じる。
5mm大の炭化物が多量に混じる。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
粘質、しまりなし。
2mm〜1cm大の礫が多量に混じる。
5mm大の炭化物が少量に混じる。
1cm大の地山ブロックが多量に混じる。

図 52　平坦面 5B-12・13　SD50243・50244・50259、SA50195(1/80)

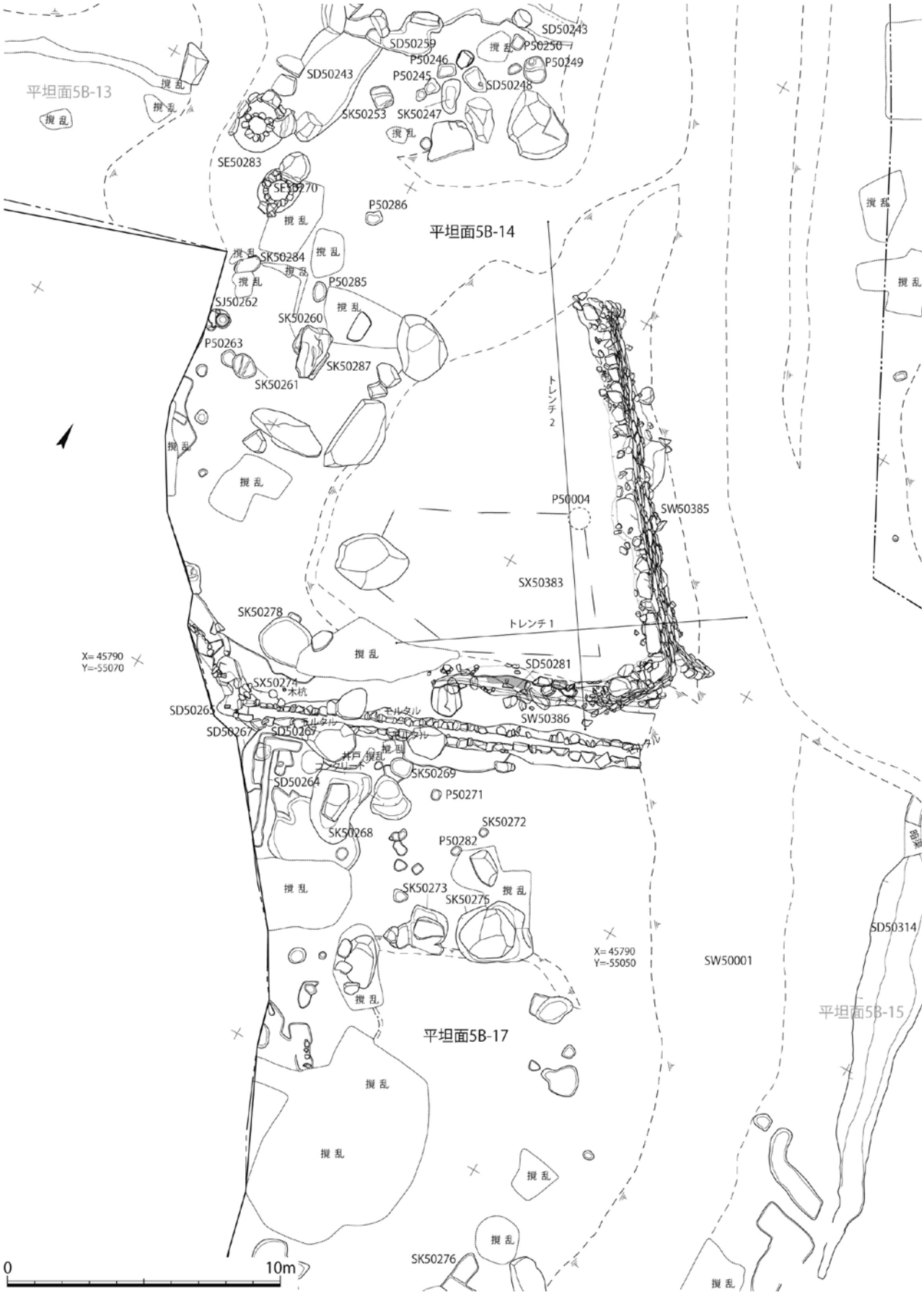


図 53　平坦面 5B-14・17(1/200)

前半が主体となる。

(13)平坦面5B-13(図49)

平坦面5B-12に東接し、1・2区第11平坦面に西接する。平面形は長方形を呈し、長軸約28m、短軸約10m、面積約348m²の範囲を5B-13としたが、地形的には南側の一部が平坦面6-12に含まれ、本来は長軸21m、短軸約10m、面積約230m²となる。花崗岩の小礫を多量に含むものの、比較的安定した地盤と思われるが遺構密度は希薄で、柵列１条を検出したのみである。

SA50195柵列(図52)

平坦面5B-13の中央部に位置する。P50196 ～ 198の３穴で構成される、柱穴間は南東側から2.13m-1.75m を測り、直径は0.40～0.46m、深さは0.18～ 0.27mである。全長3.88m を測り、主軸方向はN-37°-W を向く。出土遺物から近世の遺構と思われる。出土遺物は瓦質火鉢片と土師器の小皿が出土したとされ、近世の遺構と解されている。ただし、あまりにも周辺の遺構密度が低く、この場所は旧集落時の建物内にあたり、建物と主軸方位が一致する。建物内では納屋として使用されており、納屋内の柱の可能性も考えうることを指摘しておきたい。

(14)平坦面5B-14(図53)・SX50383(図54)

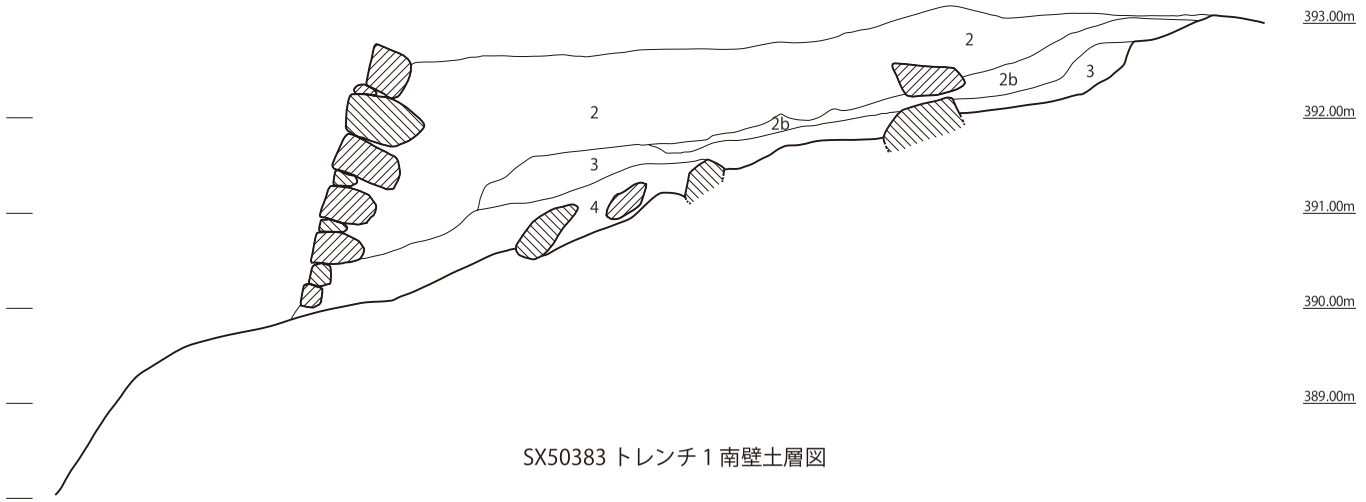
平坦面5B-14は平坦面5B-12の南東側に位置し、平坦面6-14に西接する。平坦面5A-2とは里道を挟んで東接するが、比高が5.7mとなる。平坦面5A-12・17との境はいずれも溝で区切られる。平面形状は歪な長方形を呈し、長軸約27m、短軸約17m、面積約380m²を測る。平坦面6-13から5A-1へ続く埋没谷とその左岸にあたり、北東辺に石垣を構築することにより盛土造成され、両側に排水のための水路が設けられたものと思われる。

SX50383はこの盛土造成地に付けられた遺構番号であり、その土層はこの平坦面の土層を示す。埋没谷と直行方向に設けたトレンチ2では約1.9mの盛土を施し、7層が確認されている。1・2層はにぶい黄褐色土に明褐色土が不明確ながら互層になり、出土遺物に近現代の陶磁器とともにプラスチック製品が混入することより現代の盛土層と考えられる。これはトレンチ1の南壁土層ではSW50385石垣根石付近まで続くことが確認でき、石垣崩壊により改修したものと考えられる。3～5層は南北方向では断面皿状を呈し、人為的な所作ととらえられている。層中の遺物は各層でそれほど時期差は見られず17世紀後半から18世紀後半までの陶磁器を主体とするが、3層では18世紀後半から幕末の陶磁器がわずかに出土している。また、4層中では0.3～ 1m 以上の花崗岩が多数見られ、築石と思われる石面を持った石材が散見されることからSW50385 築造以前の石垣の存在が推定されている。

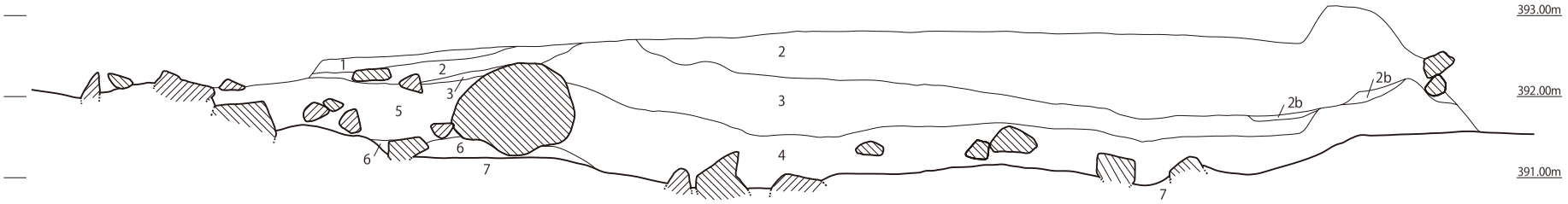
なお、旧小川内集落時の当該箇所の建物は江戸末期頃の建築とされており、3～5層の出土遺物とは符合するが1・2層の時期と矛盾することを指摘しておきたい。

出土遺物(図55・56・58・64・65)

1は肥前波佐見系の染付碗である。焼成不良で透明釉が白濁する。2・3は土師器の小皿である。底部には糸切り痕を残し、口縁部は直線的に開く。4・5は瓦器の茶釜である。4は体部が扁平で口縁部がやや内傾して短く延びる。口縁端部は平坦に仕上げる。底部と体部の境には段を有し、肩部には把手が付き、外面には印刻文が施される。5は体部が長胴で、肩が張る。口縁部は内傾して短く立ち上がり、端部は丸く仕上げる。体部中央よりやや下方に小さな羽を巡らせる。体部と底部の境には段



SX50383 トレンチ 1 南壁土層図



SX50383 トレンチ 2 東壁土層図

1層　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）
　　粘質でしまる。
　　全体に明黄褐色地山ブロックが多量に混じる。
2層　明黄褐色土（Hue10YR6/6）
　　しまりなし。やや粘性あり。
　　5mm大の礫が全体に多量に混じる。
2b層　にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
　　粘質でややかたくしまる。
　　10～20㎝大の炭化物が少量混じる。
3層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
　　強い粘質でかたくしまる。
　　径1cm大の炭化物が全体的に少量混じる。
　　10cm大の礫が全体的に多量に混じる。
4層　暗褐色土(Hue10YR3/4)
　　粘質でかたくしまる。
　　3～5㎝大の円礫が少量混じる。
5層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）
　　強い粘質でしまる。
　　10cm～1m以上の礫が全体に少量混じる。
　　2mm大の炭化物が全体的に少量混じる。
6層　黒褐色土(Hue10YR3/2)
　　強い粘質でかたくしまる。
　　拳大と人頭大の風化した花崗岩が全体的に多量に混じる。
7層　明黄褐色土(Hue10YR3/6)
　　砂質でかたくしまる。
　　20cm～1m以上の花崗岩が多量にまじる。
　　花崗岩風化土。地山。

0　2m

図 54　平坦面 5B-14　SX50383(1/80)

を有し、底部は丸みを帯びる。鉄製の真形釜に影響を受けたものと推定される。6は肥前有田産の染付合子の身である。型押し成形され、口縁部には雷文が並ぶ。1670～1690年のものである。なお、2層と5層出土の破片が接合した。7は肥前陶器の皿で、口縁部は短く外反し波状を呈する。高台は高く、内面のケズリは深いため底面の厚さは薄い。内面見込みは蛇の目釉剥ぎされ、鉄絵が描かれる。18世紀前半のものである。8～10は肥前の染付碗である。8は外面にコンニャク印判が配される。焼成不良のため白濁する。9は高台内に銘が配される。10は外面に竹文を配する。11は肥前の染付皿である。内面に梅鉢文を配する。12は糸切り細工の紅皿で、17世紀後半から18世紀前半のものである。13・14は瓦器の鍋で、口縁部が外反気味の鉢形を呈する。13は底部と体部の境に段を有し、底部外面は横方向のハケ目調整を施す。14は体部がやや立ち気味で、外面には横方向に連続するユビオサエ痕が残る。15・16は肥前産陶器の皿で、見込みは蛇の目釉剥ぎされる。16は内面に呉須絵が配される。17は口縁部が外側に水平に屈曲し、端部を丸く仕上げる。内面には刷毛目文を施す。17世紀後半から18世紀前半のものである。18は肥前産の陶器の鉢か皿である。内側面及び外面上半部は刷毛目文、外側面下半部から高台外面には鉄泥を施す。17世紀後半のものである。19は陶器の擂鉢で、内外面露胎である。20は肥前産陶器の火入れである。体部上半が直立し口縁部は玉縁を呈する。外面上半部に白化粧土を施した後飴釉を掛け流す。21・22は肥前産の染付碗で、21は端反碗で外側面に山水文、22は外側面に丸文を配する。23は色絵の碗で外側面に黄、緑、黒の顔料で菊の花を描く。24～26は肥前産の小坏で、24は染付、25・26は白磁である。25は外面に卉文を配する。27は朝鮮王朝(李朝)の白磁の皿で、見込みに小さな胎土目を有する。16世紀のものである。28・29は土師器の小皿で、底面に糸切り痕を残す。29は底面外面にわずかな段を有する。30は土師器の坏か。31は肥前波佐見産の染付碗で、見込みは蛇の目釉剥ぎし、外側面には梅と雪持笹が配される。32は肥前産陶器の碗で、外面には鉄(泥)釉、内面には鉄釉を施す。33は肥前内野山系の陶器皿で、見込みを蛇の目釉剥ぎする。34は肥前の染付碗で、17世紀後半のものである。35は肥前産色絵の碗で、黒、黄緑、黄色の顔料で文様を描くが、文様は不明である。他に同種の破片2点が出土している。36は中国産の青花皿で見込みに獅子を描く。16世紀前半～中頃のものである。37は肥前産の青磁の瓶で、高台脇が袴状に広がる。内面は露胎である。38～41は土師器の小皿で、底面には糸切り痕を残す。39～41は底部と口縁部の境を丸く仕上げ、39・40は素口縁で直線的に開き、端部は尖り気味になる。87・88は肥前産の芙蓉手の染付皿である。いずれも小片であり詳細は不明であるが、四角く区切られた周辺部の破片と推定され、見込みの円圏内にVOC字文が描かれる皿と同様の文様がみられる。95は「寛永通宝」で新寛永である。右側上方に湯道と思われる部分が成形されず残存する。96は赤褐色を呈し、赤間硯と推定される。平面長方形で陸部分は楕円形に彫られる。陸部は擦り減り波止部分との境が不明瞭である。

SK50247(図 57)

平坦面5B-14の北端で、SD50243溝の脇に位置する。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.24m、短軸0.67m、深さ1.09mを測る。底面が大きく傾斜する。

出土遺物(図58・65)

45は中国福建省産の皿で、見込みを蛇の目釉剥ぎする。16世紀後半から17世紀初めのものである。92は土製の鳩笛で、尻尾の歌口部分のみ残存する。歌口の孔は扁平で、上方に向かって延びる。93は土製の人形である。唐子人形であろうか。型造と思われる。近隣では700年以上の歴史を持

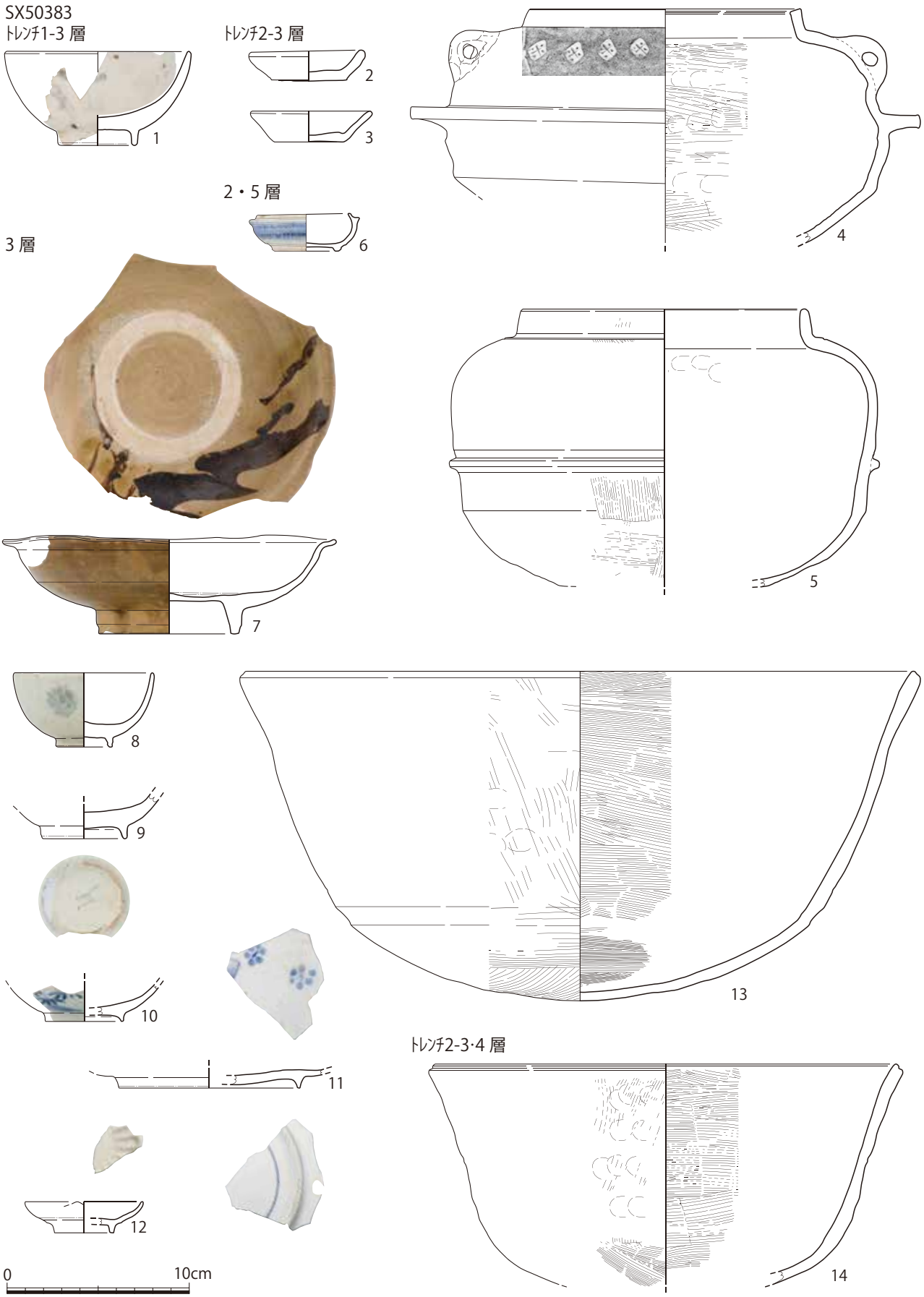


図 55　平坦面 5-14 の遺物実測図 1(1/3)

SX50383 -4 層

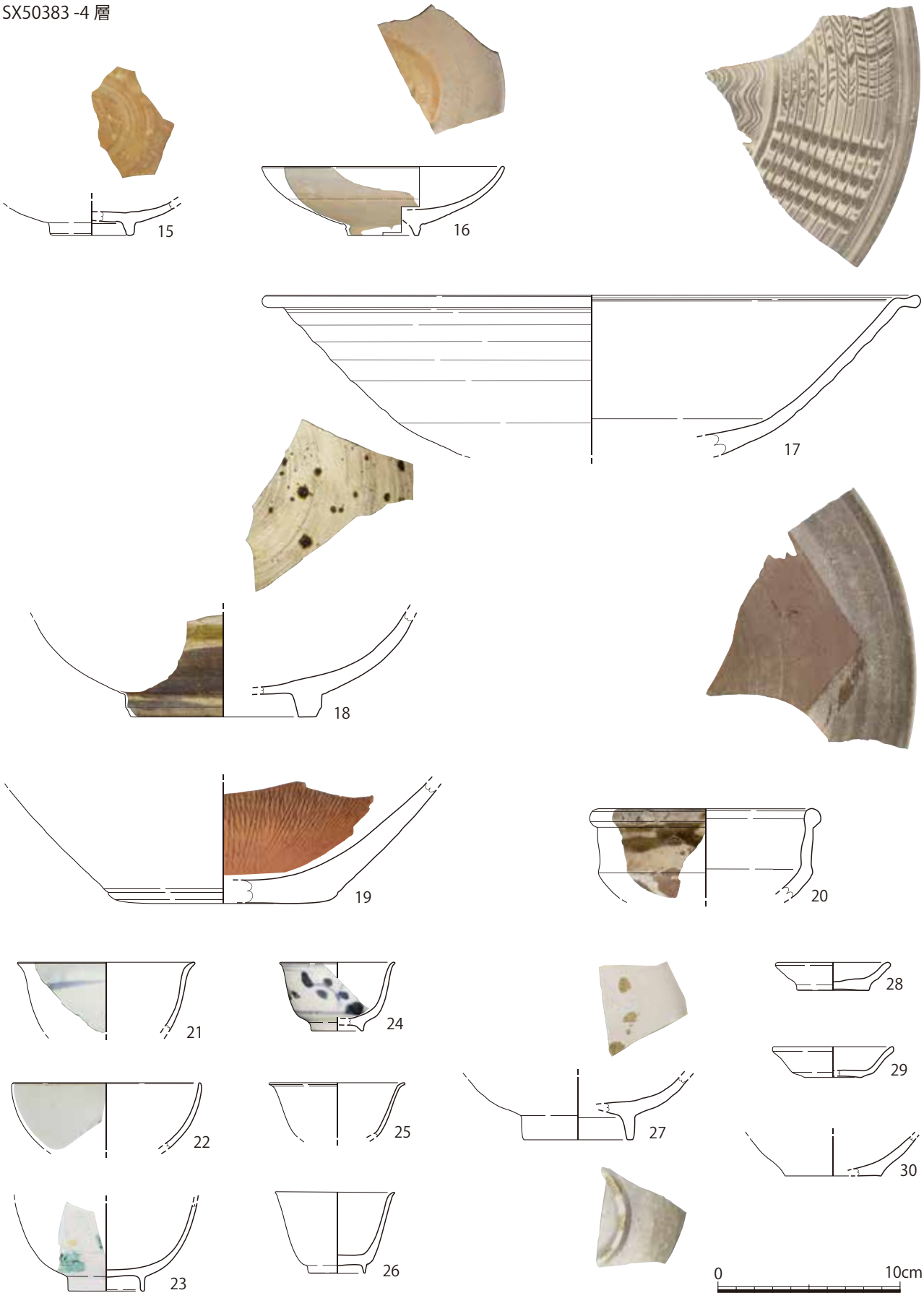


図 56　平坦面 5-14 の遺物実測図 2(1/3)

つと伝わる尾崎人形があり、現在でも鳩笛や人形を作り続けており、関連性が窺える。

SK50248土坑(図57)

SK50247土坑に隣接した場所に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸0.94m、短軸0.69m、深さ0.33mを測る。断面形状は擂鉢状を成し、最深部には径0.18m、深さ0.36mの孔が掘られる。出土遺物はSK50247土坑とともにやや古相を示す。

出土遺物(図58)

46は岸岳古窯系の陶器碗で、内面に藁灰釉を施す。1580～1594年のものである。47は瓦器の鍋であり、口縁部がわずかに外反するものと思われる。

SK50249土坑(図57)

SK50247土坑に隣接した場所に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸0.96m、短軸0.77m、深さ0.62mを測る。

出土遺物(図58)

48は肥前産の陶器の擂鉢で、内外面露胎である。上部には鉄釉を施していたものか。17世紀前半のものである。49は土師器の坏で、口縁部が内湾気味に開き、端部は丸く仕上げる。50は瓦器の捏鉢で口縁端部に面を持つ。

SK50260・50287焼土坑(図57)

平坦面5B-14の中央西側に位置する。平坦面上に露頭する花崗岩の縁に沿って掘削された土坑である。SK50260土坑は長さ0.99m、深さ0.08mを測り、床面直上に炭層を含み、側壁及び花崗岩の側面の一部が赤化する。埋土中には多量の花崗岩片が含まれ、隣接する花崗岩の破片と推定される。その掘削位置と形状や特徴より、平坦面5A-1のSK5031・5032・5033土坑に類似する花崗岩破砕に伴う焼土坑と考えられる。SK50287土坑も炭層や床面の赤化は見られないものの同様の遺構と考えられる。SK50287土坑からは18世紀前半の遺物が出土している。

SK50278土坑(図57)

平坦面5B-14の南端に位置する。平面形は円形を呈し、径1.7m、深さ0.2mを測る。埋土中より18世紀後半から幕末の陶磁器が出土している。

出土遺物(図58)

52は肥前産の白磁の蓋である。18世紀後半から幕末のものである。53は肥前産の白磁碗である。54は肥前産の染付皿で、18世紀後半のものである。

SK50284焼土坑(図57)

平坦面5B-14の西端に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸1.02m、短軸0.55m、深さ0.09mを測る。土坑側面の一部が赤化し、床面直上では炭層が堆積していた。埋土内には破砕された花崗岩片が多量に含まれていることよりSK50260土坑と同様の花崗岩破砕に伴う焼土坑と考えられる。ただし、この土坑に隣接して花崗岩は存在しておらず、作業の結果、破砕・除去できたものと推定でき、撹乱とされる場所に花崗岩があったものと考えられる。遺物は出土していないが周辺遺構から勘案す

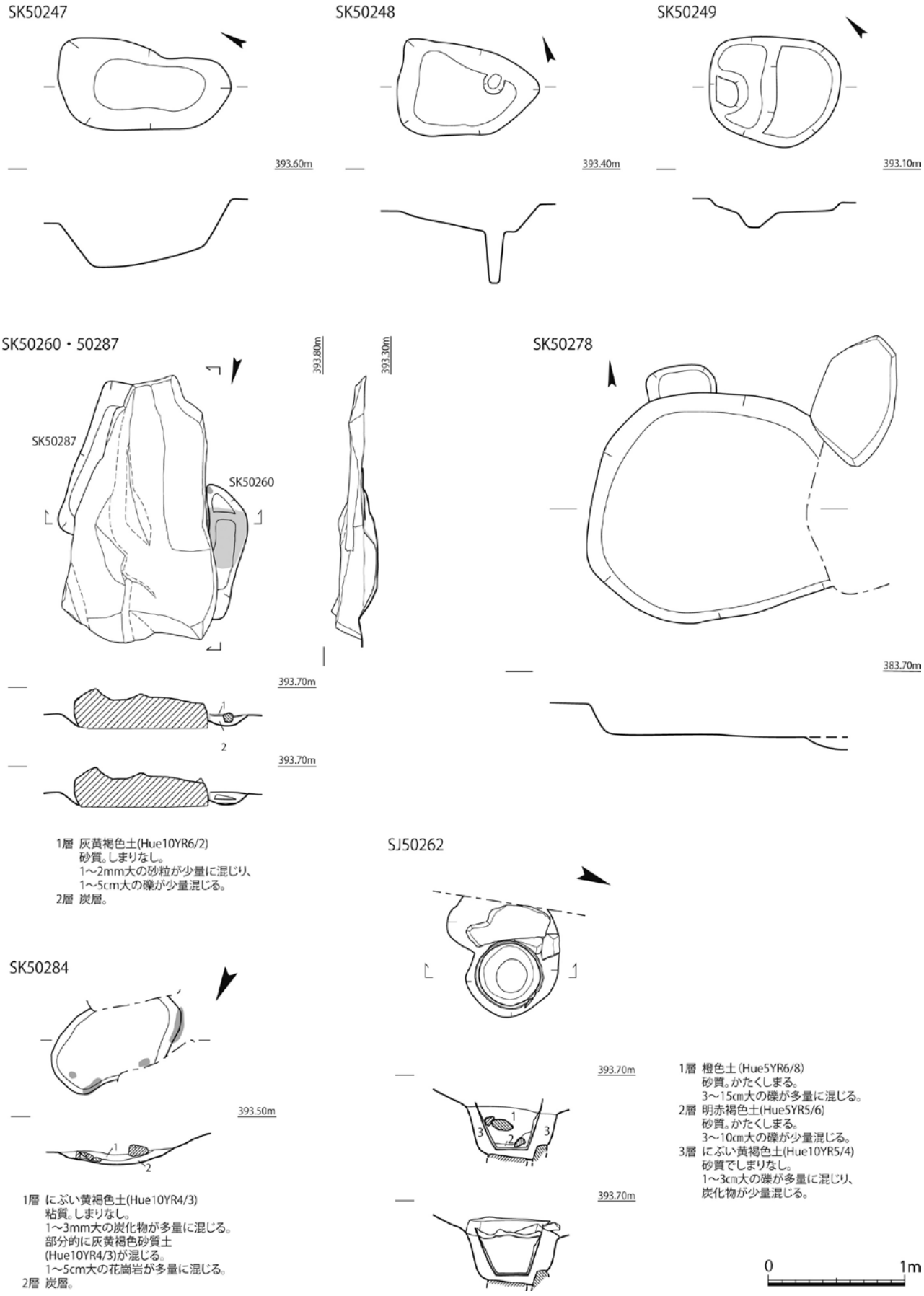


図 57　平坦面 5B-14　SK50247 ～ 249・287・260・278・284、SJ50262(1/40)

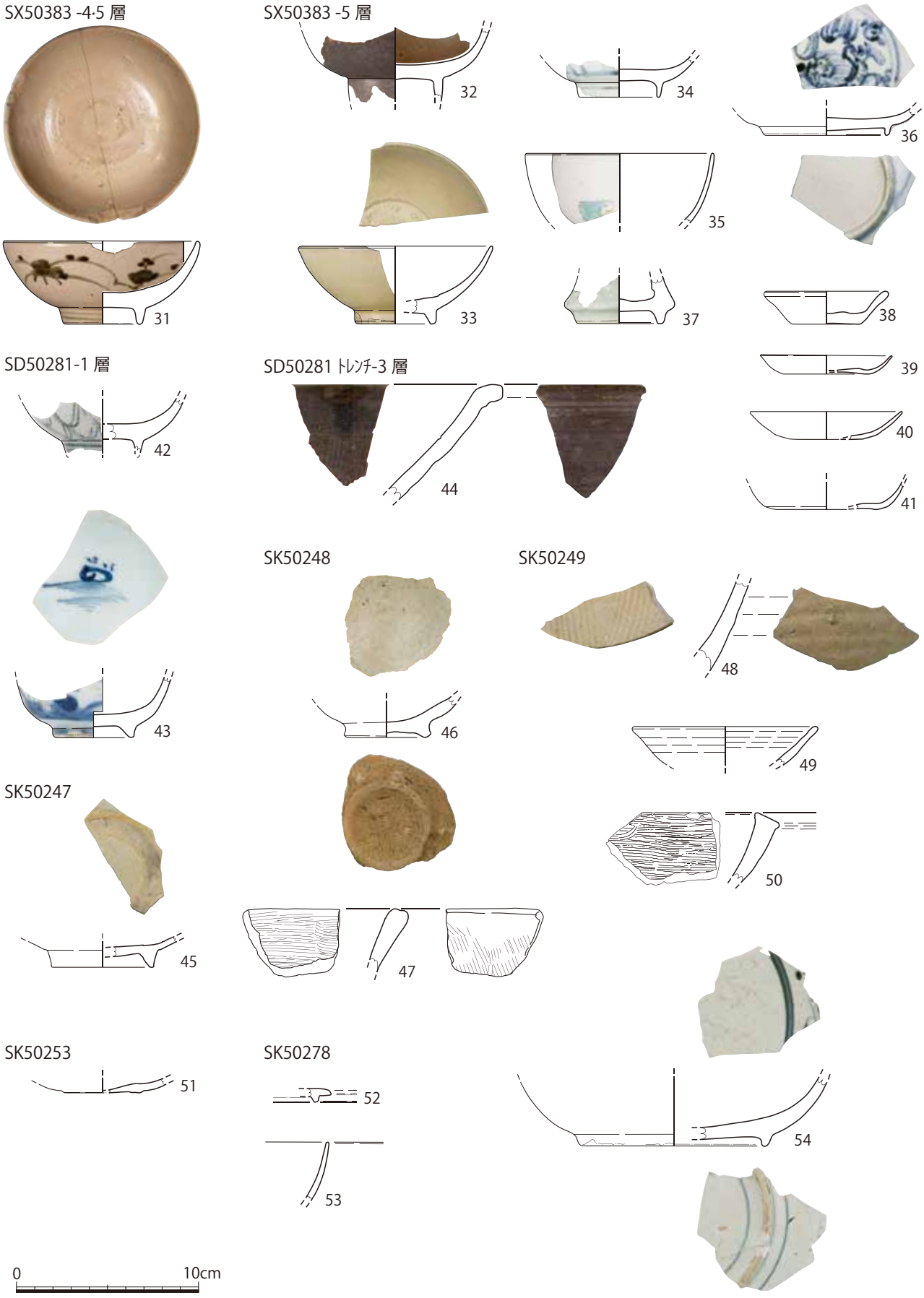


図 58　平坦面 5-14 の遺物実測図 3(1/3)

ると近代のものと推定される。

SJ50262甕埋設遺構(図57)

平坦面5B-14の西端に位置し、SK50284に近接する。土坑内に軟質の陶器甕を埋設した甕埋設遺構である。掘方は平面不整形で、残存長0.95m、幅0.81m、深さ0.62mを測る。片側に甕を埋設し、脇に石を据えて固定する。甕は下半部のみ残存しており、軟質であるためか、内面にモルタル状のものが塗布される。この場所は、旧集落時の建物の便所にあたることより、近現代の便槽に使用した甕と推定される。

出土遺物(図64)

86は肥前産の陶器甕で、外面には鉄釉を施す。18～19世紀のものである。

SE50270井戸(図59)

平坦面5A-14の北東隅に位置し、SE50283井戸と共に隣接して検出された石組井戸である。井戸枠及び掘方の平面形はそれぞれ円形と隅丸方形を呈し、井戸枠内径は0.76m、掘方は１辺1.38m、深さ1.54mを測る。井戸枠の石組みは花崗岩の粗割石で構築されており、一部では地山に含まれる花崗岩も利用している。掘方から遺物が出土しておらず構築時期は不明であるが、その位置関係より旧小川内集落で近年まで使用されていた井戸である。

出土遺物(図64)

80は肥前系の染付碗で、見込みに陶製のハマ痕が残り、岩波文が配される。他に明治以降の染付片も出土している。96は砥石で、頁岩製か。表面と一側面が残存する。欠損面も含めた全体に煤が付着する。97は砂岩の砥石で、研ぎ減りしたものを長楕円形に再加工して使用したものと思われる。

SE50283井戸(図59)

平坦面5A-14の北東隅に位置し、SE50270井戸と共に隣接して検出された石組井戸である。平面形は円形を呈し、井戸枠内径は0.62m、掘方径は1.88mを測る。井戸枠の石組みは、人頭大の花崗岩円礫で構築し、井戸枠周囲には0.44～0.9mの花崗岩礫を北側のみ巡らせる。井戸枠内部は小型の円礫で埋め戻され、現代のビニール等が含まれる。掘方からは遺物が出土しておらず、構築時期については不明である。SE5027・SE50283井戸が他の平坦面出土の井戸跡に比して浅いことは、埋没谷の縁辺部に位置しているためと推定され、SD50243溝の南端に位置することよりその関連性が窺え、構築時期も同時期と推察される。

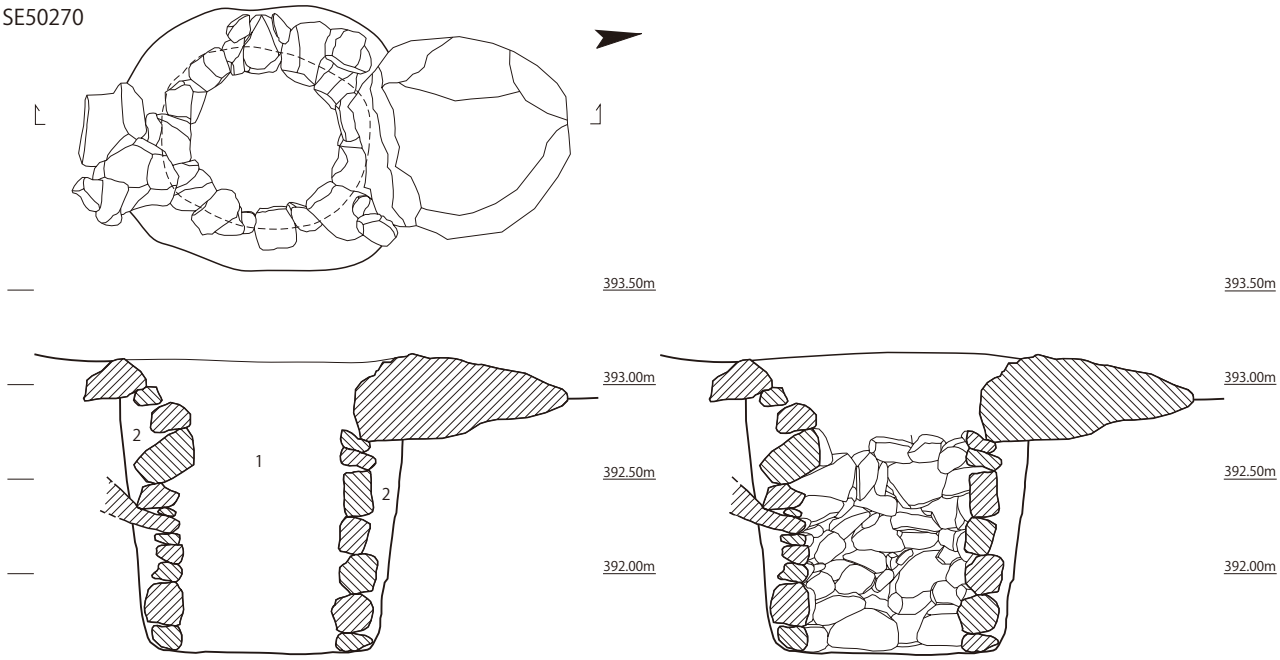
出土遺物(図65)

95は砂岩の砥石である。やや粗目で、扁平な長方形を呈する。欠損部以外のすべての面を利用する。

SD50265溝(図60)

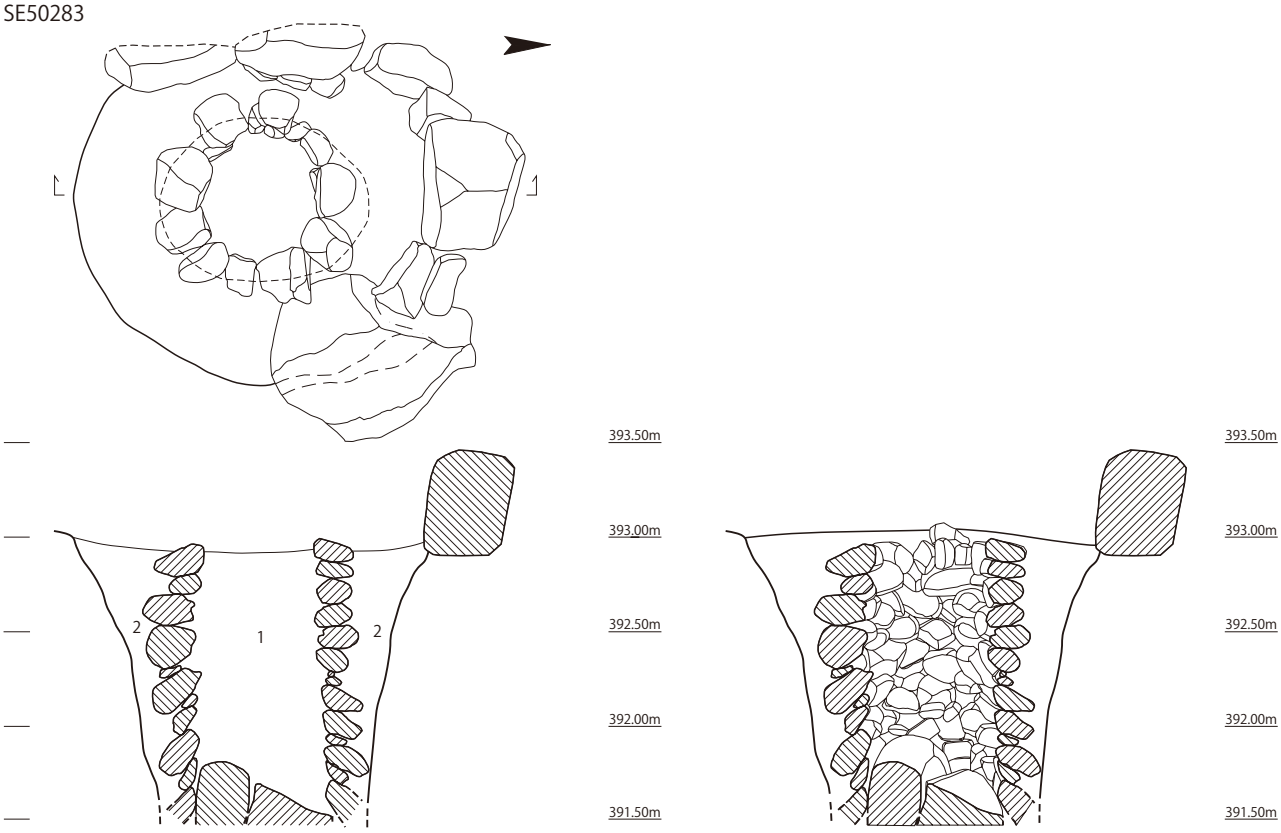
平坦面5B-14の南端に位置し、平坦面5B-16との境を分かつ石組水路跡である。平坦面5B-14西辺に沿って南に流れ、北東に屈曲して直進し、SW50385南角脇で途絶える。その流路方向より当初は平坦面5A-1のSF5003道路状遺構の脇にわずかに残存するSD50028溝に接続していたものと推定される。残存長18.9m、石組み内幅0.25m、深さ0.9～0.15mを測る。検出時には溝床面の一部にモルタ

SE50270



1層 黒褐色土(Hue10YR3/1)
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)
しまりなし。粘性強い。粗い砂粒を少量含む。
地山 灰オリーブ色土(Hue7.5YR6/2)
しまり強い。粘性なし。径2メートルを超える大型礫などを多量に含む。湧水が著しい。

SE50283



1層 黒褐色土(Hue10YR3/1)
現代の埋め戻し土。プラスチック、ビニール片含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)
しまりなし。粘性強い。粗い砂粒を少量含む。
地山 灰オリーブ色土(Hue7.5YR6/2)
しまり強く、粘性はなし。径2メートルを超える大型礫などを多量に含む。湧水が著しい。

図 59　平坦面 5B-14　SE50270・283(1/40)

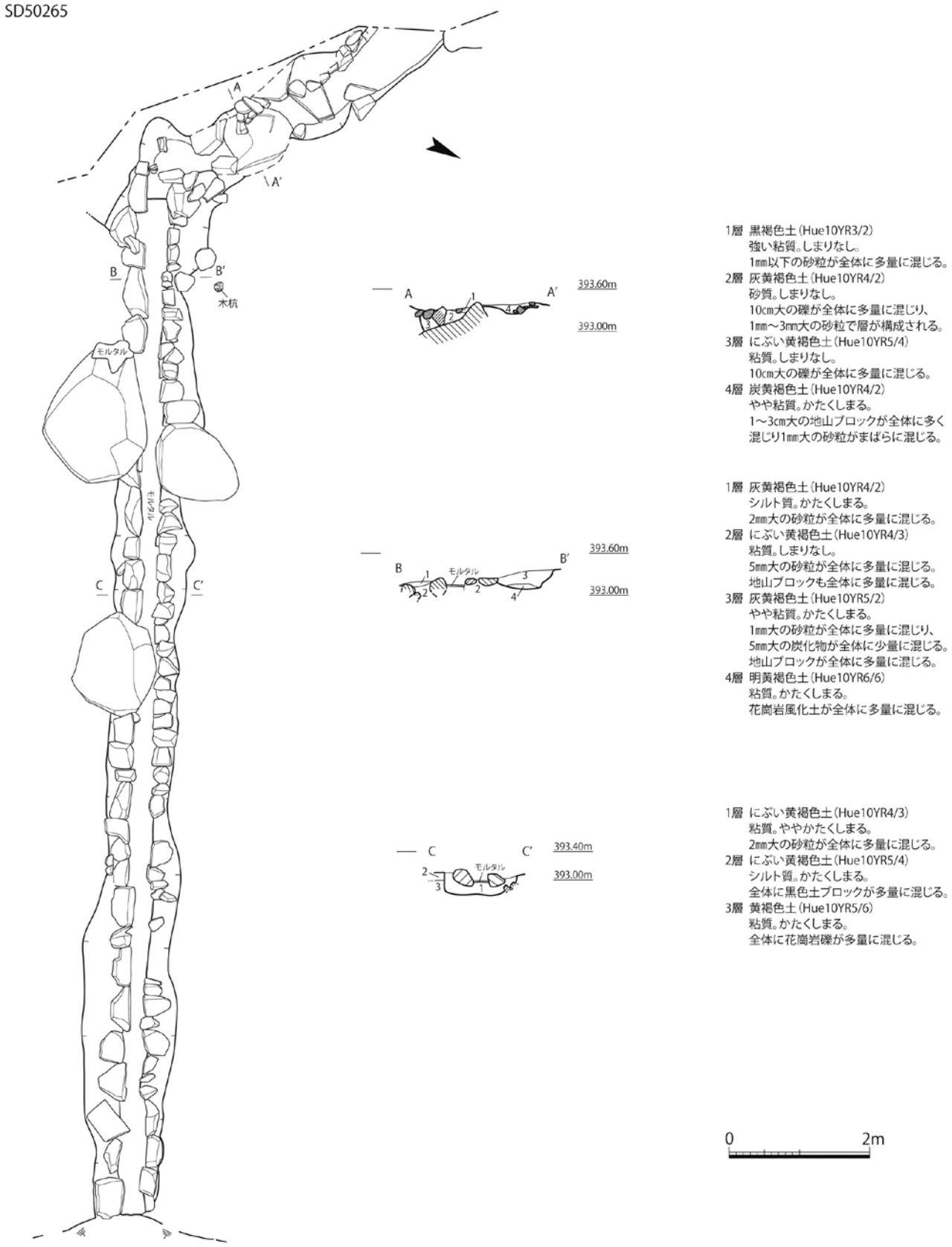


図 60　平坦面 5B-14　SD50265(1/80)

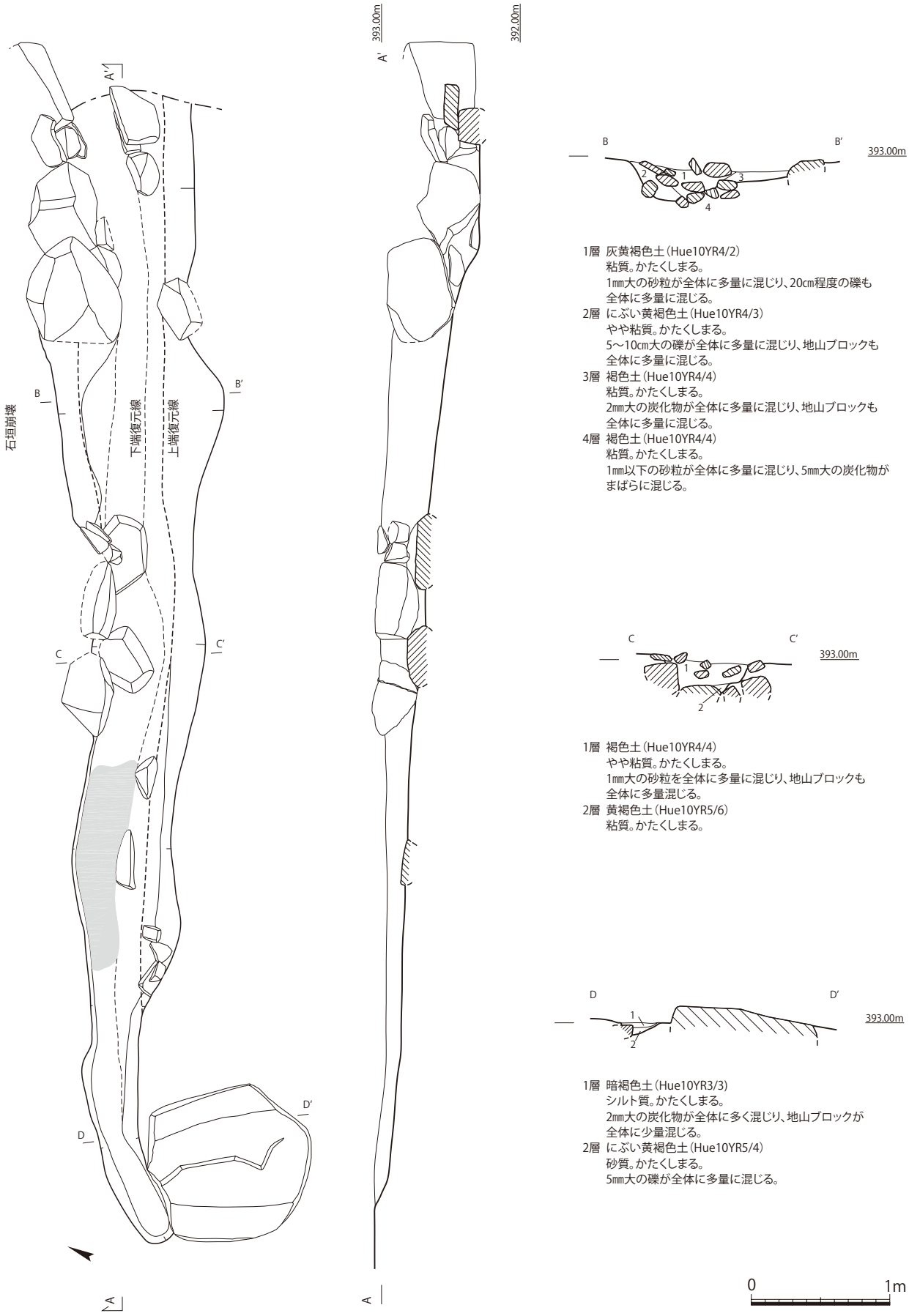


図 61　平坦面 5B-14　SD50281(1/40)

ルが塗布されていた。石組みの石材は長さ0.2～0.4mの花崗岩の割石を使用するが積むことはなく、一部では露頭する花崗岩巨石を利用しながら石面をそろえ整然と配置している。出土遺物は１層からは19世紀から明治期、2層からは18世紀後半から19世紀の陶磁器が出土しているが、土層ポイント名が記録されておらず詳細は不明である。ただし、19世紀から明治の遺物を含む整地層であるSX50274上で検出され、SD50028溝に接続していたと推定される上、SW50386石垣との重複関係においてこの溝跡が切っていると推定されることより、明治期の可能性が考えられる。

SD50281溝(図61)

平坦面5B-14の南端に位置し、SW50386石垣の北側で畧線に沿って流れる水路である。わずかに石組み部分が残存しており、周囲に石材が散乱することより当初は石組水路であったと推定される。残存長8.82m、幅0.49m、深さ0.23～0.28mを測る。東側はSW50385に切られる。出土遺物は18世紀後半から幕末の陶磁器が出土している。地山がSX50383の3～4層であることより同時期の遺物が混入したと推定できるが、明治以降の遺物が認められないことより、同時期と判断できる。したがって、後述するSW50386石垣は18世紀後半から幕末の所産である可能性が高く、SW50383石垣に先行する平坦面築造当初の所産である可能性が高い。

出土遺物(図58)

42、43は肥前の染付碗で、42は外側面に二重網目文を施し、43は見込みに岩波文を施す。43は白石産か。44は肥前産陶器の擂鉢で、口縁端部が外反し、内面の摺目の上端は撫でそろえる。内外面に施釉する。18世紀後半から幕末のものである。

SW50385石垣(図62)

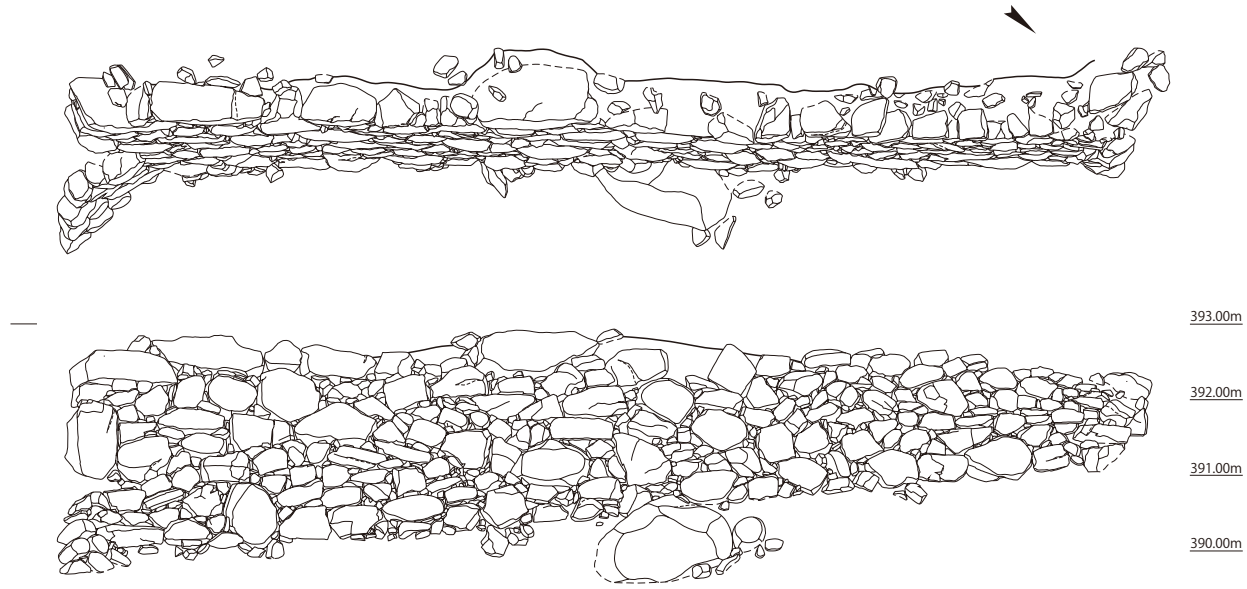
平坦面5A-14の北東辺を規定する石垣で、畧線は埋没谷に直行する。全長14.4m、高さ1.33 ～3.16m を測り、累線方向はN-40°-Wを向く。高さ３mを超える石垣は集落内最大級のものである。石材は花崗岩の割石で、石積みは乱積みを主体とするが、石積方法や築石の大きさが異なる箇所が見受けられ、数度の改修を経ているものと考えられる。このことはSX50383に設けられたトレンチ土層からも確認できる。

なお、調査所見では石垣下半部の3～5層に対応する部分は築造当初とされるが、断面図を見る限り根石は傾斜角度17°以上の埋没谷上に根切り・根固めを施されることなく、4層の一部に乗る。したがって、石垣下半についても堆積土より後世のものと推定され、3～5層に伴うオリジナルは残存していないものと考えられる。さらに、石垣の下方は里道となるが、その間約1.4mは地山むき出しとなっており、当該石垣の畧線においても周辺石垣の畧線より内側に湾曲する。この点においても、元来の石垣は残存しておらず、築造当初の石垣は現位置より前面にあったことが窺える。

出土遺物(図63・64)

56は肥前産陶器の碗または皿で、17世紀後半から18世紀前半のものである。57～59は肥前産陶器の皿で、57は口縁部が屈曲して鍔縁状になり、端部を上方に小さくつまみ上げる。58は口縁部がわずかに屈曲し、端部を横方向に小さくつまみ出す。59は口縁端部を上方にわずかにつまみ上げる。60・61は肥前産の擂鉢で、60は擂目を放射状に引いた後、重複して横方向にも加える。62は関西系の土瓶である。底面が内湾し、内面には透明釉を施し、外面は露胎である。外面には煤が付着する。63は肥前産の染付碗で、器壁が薄く、上質なものである。64は肥前産の白磁碗で、口紅を施す。65

SW50385



SW50386

図 62　平坦面 5B-14　SW50385・386(1/100)

は肥前産の碗と思われる高台片で、高台内に「大明(年製)」の銘が入る。66は肥前系の染付碗で、19世紀から幕末のものである。67は肥前産染付の小碗で、茶飲み用のものである。68・69は肥前産白磁の小坏で、68は高台脇に丸みを持つのに対し、69は高台脇が不明瞭で、内湾気味に立ち上がる。70・71は肥前産の染付皿で、71は有田産で、高台が低く18世紀前半のものである。72は色絵の皿で黒の顔料で輪郭を描き、緑、黄色の顔料で内部を埋める。17世紀末から17世紀初めのものである。73は色絵の鉢と思われるもので、口縁は端部を釉剥ぎし、外側面にこげ茶、黄緑、黄、青の顔料で花文が描かれる。74～76は土師器の小皿である。底部には糸切り痕を残すが、75のみ底部と口縁部の境を丸く仕上げる。77は瓦器の擂鉢、78は捏鉢の底部か。79は瓦器の鍋であり、器高が低く、底部は丸みを帯びた不安定な平底で、体部は外傾気味に開く。口縁部は直口口縁で端部に面を持つ。口縁下には外耳が付き２個の孔を穿つ。

SW50386石垣(図62)

SW50386石垣はSW50385石垣の南端に接続し、直行方向に畳線をとる。全長8.3m、高さ1.99mを測り、累線方向はN-38°-Eを向く。ただし、石垣が存在するのは隅から3.3m部分のみで、西側の残りは石垣が崩落し裏土が露出する。また、残存する石積は布目崩しでSW50385石垣と異なる上、角石とも噛み合っていないため構築時期が異なっているものと推定される。SX50383のトレンチ2はわずかにこの石垣から離れるが、4層が当該石垣の裏土と窺え、SW50385石垣に先行する築造当初の石垣の可能性が考えられる。

(15)平坦面5B-15(図66)

平坦面5B-15は５区中央部北寄りに位置し、周囲を平坦面5A-1、5A-4、5A-17、5B-18に囲まれる。平面形は歪な三角形を呈し、長軸約31m、短軸約21m、面積約526m^{2}を測る。埋没谷に挟まれた比較的安定した地盤と思われるが、撹乱が多く、遺構密度は非常に薄い。わずかに検出した遺構の深度はいずれも浅く、かなり強く削平されたものと推定される。検出した遺構は、土坑7基、甕埋設遺構１基、溝跡１条、小穴である。このうち、SK50319は中世の遺構と考えられ、中世の遺構面を検出した平坦面5A-1に比較的近接しているため残存していたものと思われる。なお、隣接するSK50320においても土師器細片が出土しており中世の所産である可能性が考えられる。

SK50310土坑(図67)

平坦面5A-15の西端で、平坦面5B-17の法面下に位置する。平面形は楕円形を呈し、長軸1.58m、短軸1.26m、深さ0.66mを測る。床面西側が1段深くなっており、花崗岩が露頭する。土坑掘削時に除去しようとした可能性が考えられる。

出土遺物(図69)

1は肥前系の白磁の小坏で、江戸時代後期のものである。

SK50313(図67)

平坦面5A-15の西端で、平坦面5B-17の法面下に位置し、SK50310に隣接する。平面形は方形を呈し、長軸1.73m、短軸1.36m、深さ0.18mを測る。床面は平坦に仕上げられる。埋土より19世紀以降の陶器が出土している。

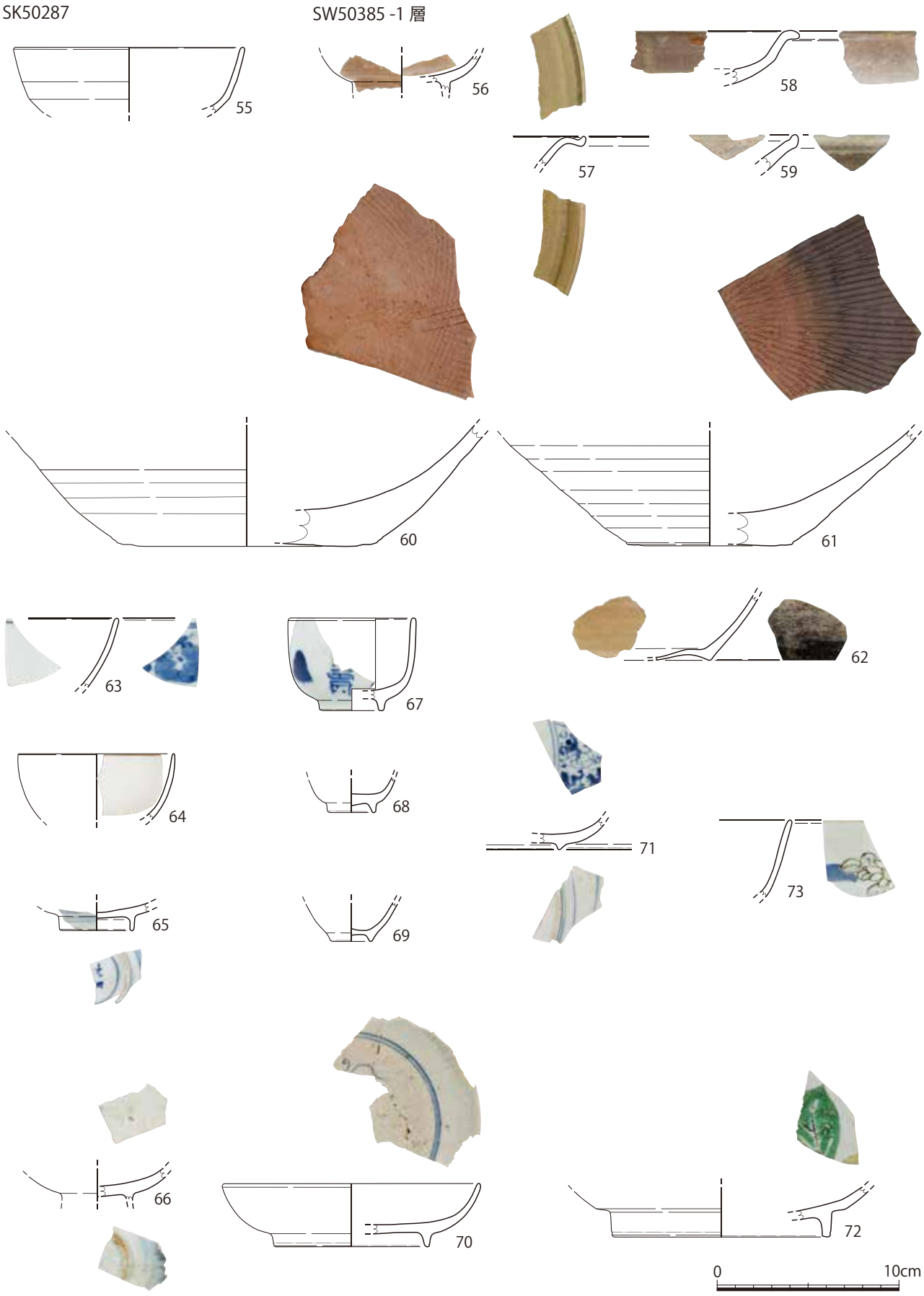


図 63　平坦面 5-14 の遺物実測図 4(1/3)

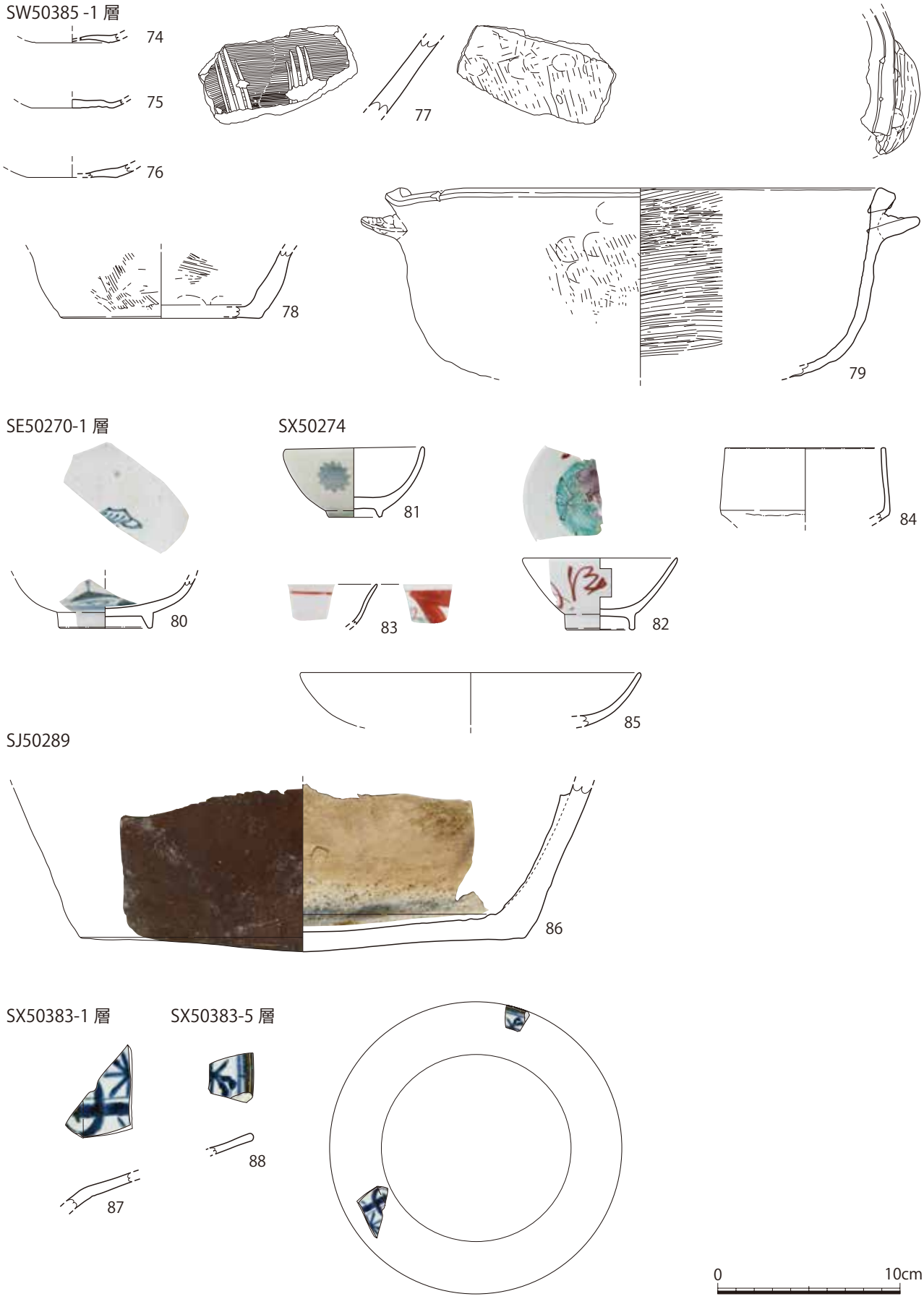


図 64　平坦面 5-14 の遺物実測図 5(1/3)

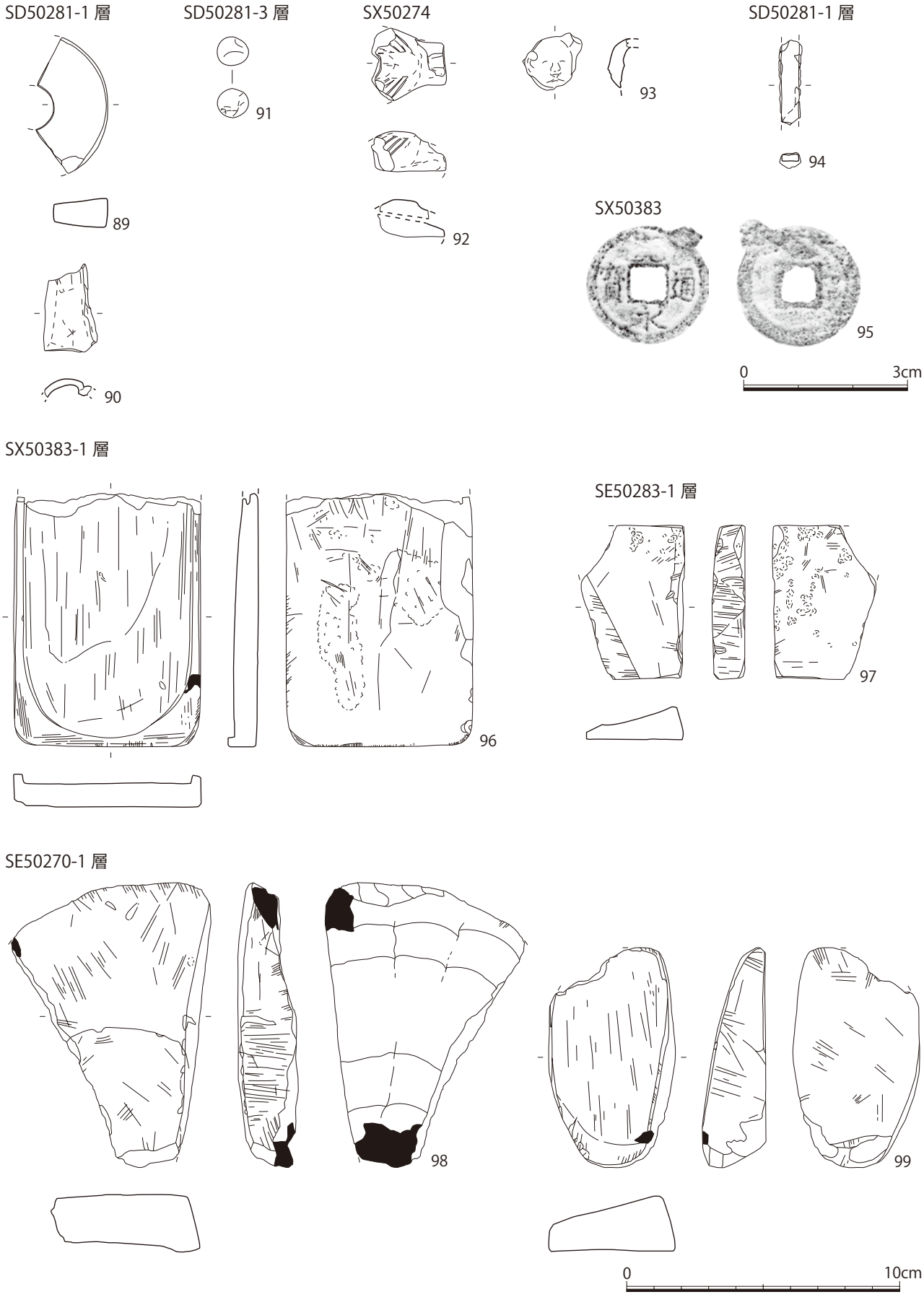


図 65　平坦面 5-14 の遺物実測図 6(1/2、1/1)

図 66　平坦面 5B-15・16(1/200)

SK50319(図67)

平坦面5A-15の東端の緩斜面上に位置する。平面形は歪な方形を呈し、長軸3.21m、短軸1.79m、深さ0.22mを測る。平面規模に対して深さが浅く、かなり削平を受けたものと推定される。埋土中より龍泉窯系青磁碗及び瓦器の鍋が出土している。

出土遺物(図69)

2は龍泉窯系青磁碗で、見込みには文様が印刻される。3は瓦器の鍋の底部と思われる。

SK50320土坑(図67)

平坦面5A-15の東端の緩斜面上に位置し、SK50319に隣接する。平面歪な長方形で長軸2.39m、短軸1.30m、深さ0.14mを測る。土師器細片が出土したのみで存続時期の判断には検討を要するが、SK5031に隣接し、深さも同程度であることより中世の遺構の可能性が考えられる。

SJ50296甕埋設遺構(図67)

平坦面5A-15の中央付近に位置する。土坑内に甕を設置した甕埋設遺構である。掘方の平面形は楕円形を呈し、長軸は長さ0.53 m、幅0.45m、深さ0.12mを測る。内部の甕は底部のみ残存しており、底径0.24m、残存器高0.09mを測る。甕内部には漆喰状の白色物質が充満しており、尿石と推定されるが分析等は行っていない。上部にはわずかに埋土が残存し、埋土中には石灰と思われる物質を含む。この遺構上には建物が存在していたが旧集落の民俗調査の際、当該平坦面は対象外となっており、建物内部の詳細は不明であるが便槽跡と推定される。廃棄時に消毒として石灰を散布していたものと推定される。

(16)平坦面5B-16(図66)

平坦面5B-16は5区の中央部に位置し、5B-15に北接する。平面形は三角形で長軸約31m、短軸約26m、面積約530m^{2}を測る。平坦面5B-15から続く低丘陵上の平坦面であるが、旧小川内集落時には平坦面5B-15との間に里道が通り、平坦面5B-16がわずかに西側に奥まっているため分離した。また、旧集落時には平坦面6-16が当該平坦面南側に張り出すため、入口はこの里道に開く。こうした平坦面の重複関係は、調査時の遺構面に対して十分に反映できるか定かではないが、平坦面の成立過程や集落構造を考察するうえで一助となると思われる。

なお、地山には多数の花崗岩が露頭するためか、遺構密度は低く、検出した遺構は溝１基、土坑11基、甕埋設遺構１基、小穴を検出したが近現代と思われるものが多い。

SD50290溝(図68)

平坦面5B-16の中央東寄りに位置する。緩やかに湾曲しながら西から平坦面東辺の鞍部に向かって流れる溝跡である。全長9.77m、幅0.74～1.65m、深さ0.18～0.32mを測る。出土遺物は検出されていない。

SK50295焼土坑(図68)

平坦面5B-16の北西端に位置する。平坦面5A-1のSK50031 ～ 50033や5B-14のSK50284に類似する焼土坑である。地山から露頭した長軸3.90m、短軸 2.20m の花崗岩の角部に長軸0.86m、短軸

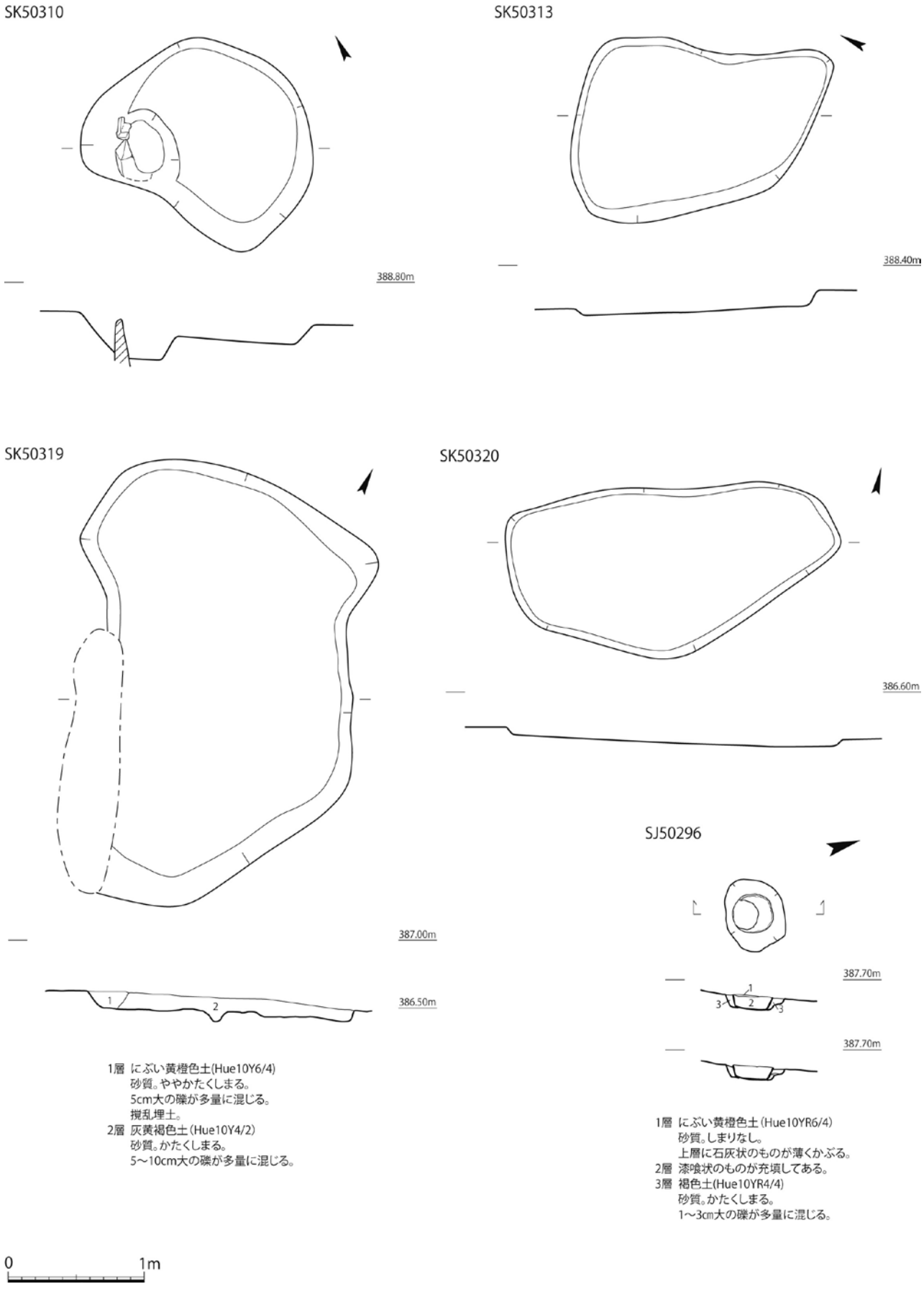
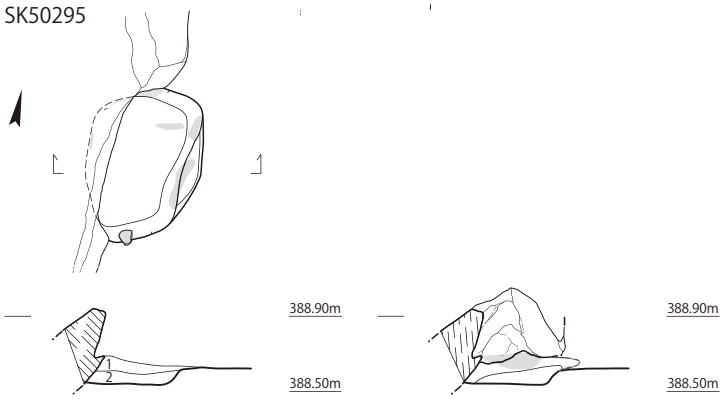


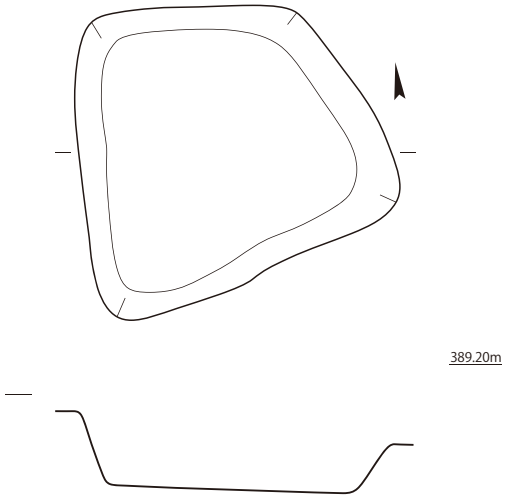
図 67　平坦面 5B-15　SK50310・313・319・320、SJ50296(1/40)

SK50295

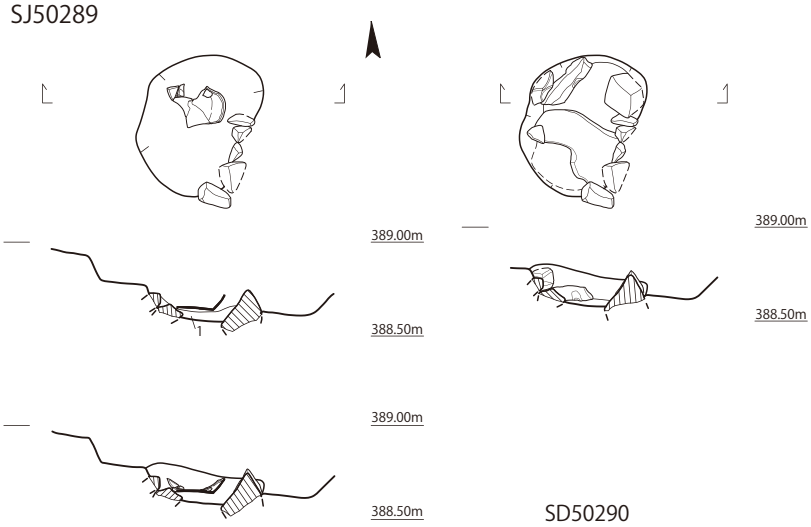


1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）
やや粘質。ややかたくしまる。
2㎜大礫と炭化物を全体に多量に混じる。
2層 炭層
1㎜大の焼土が少量混じる。

SK50298

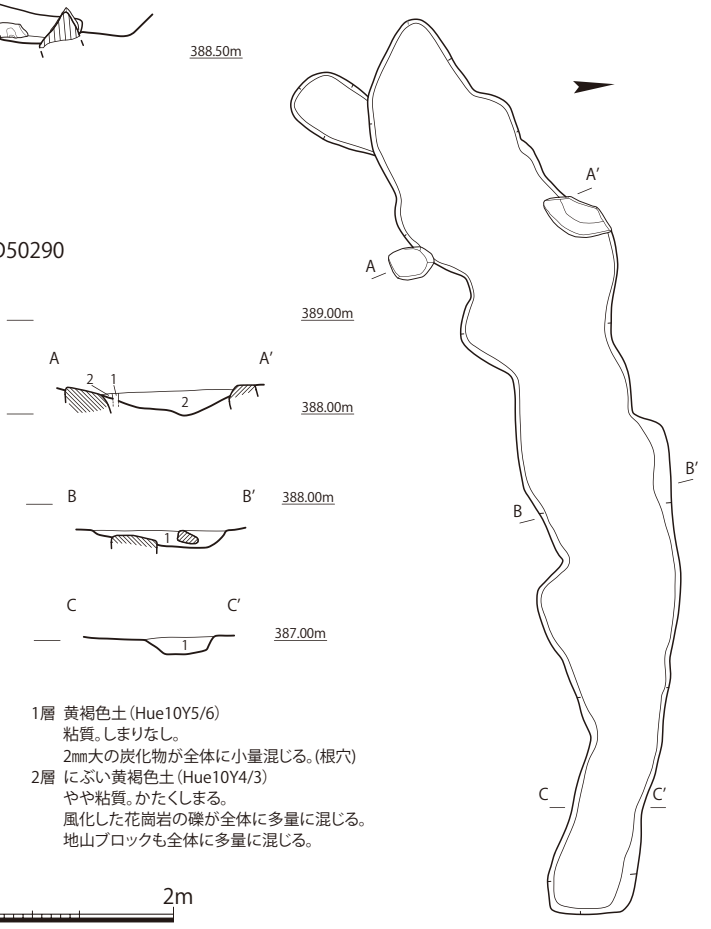


SJ50289



1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）
粘質。かたくしまる。
明黄褐色土(地山)ブロック、5㎜大の炭化物が
全体に少量混じる。10㎝大の礫が少量混じる。

SD50290



1層 黄褐色土（Hue10Y5/6）
粘質。しまりなし。
2㎜大の炭化物が全体に小量混じる。(根穴)
2層 にぶい黄褐色土（Hue10Y4/3）
やや粘質。かたくしまる。
風化した花崗岩の礫が全体に多量に混じる。
地山ブロックも全体に多量に混じる。

0 1m

0 2m

図 68　平坦面 5B-16　SK50295・298、SJ50289(1/40)、SD50290 (1/80)

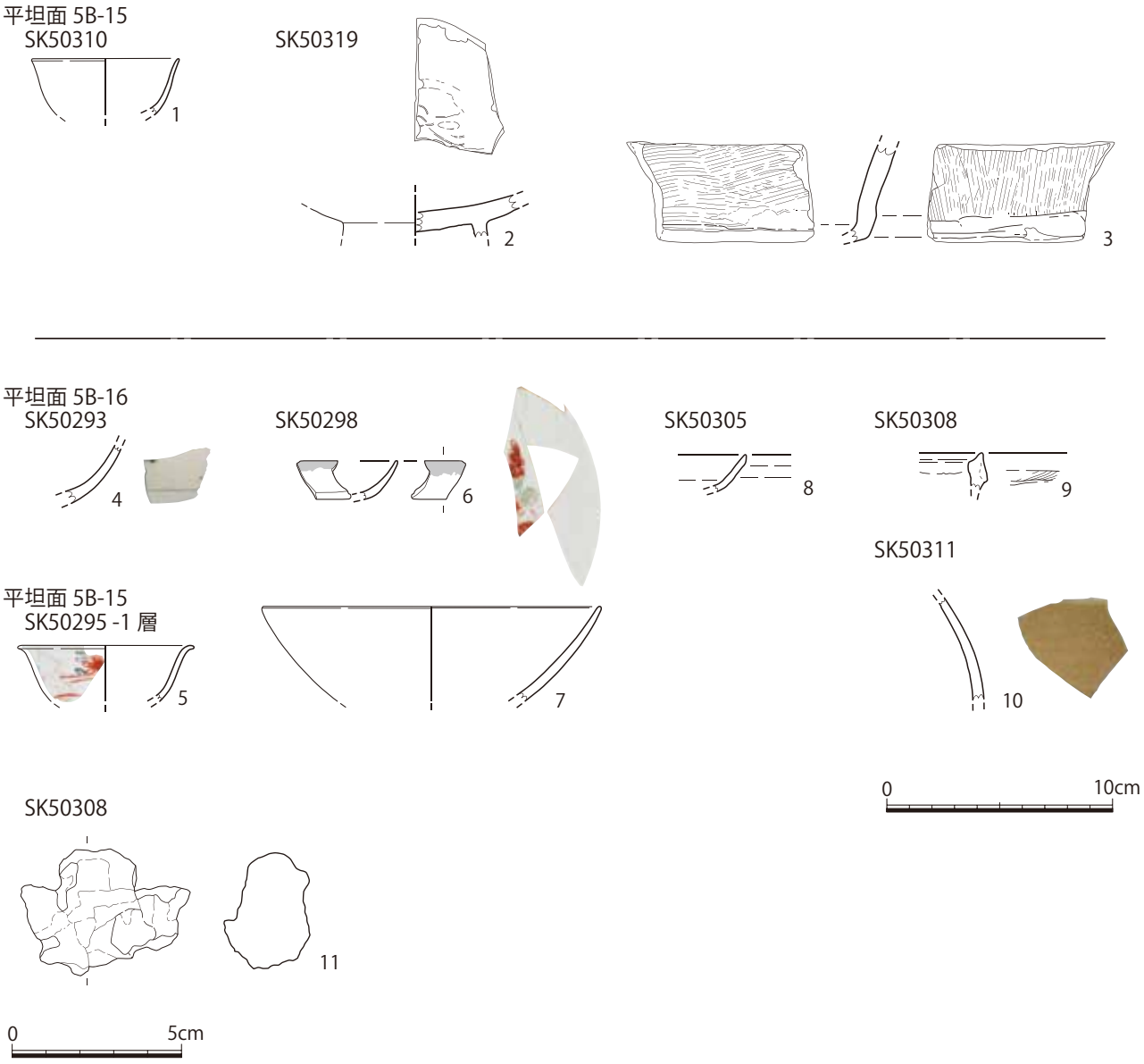


図 69　平坦面 5-15・16 の遺物実測図 (1/3・1/2)

0.62m、深さ0.15mの長方形の土坑が掘り込まれており、その土坑の側壁及び花崗岩の一部が赤化し、下層には炭層が堆積していた。埋土中には18世紀前半の色絵小碗とともに花崗岩片が多量に含まれており、隣接する花崗岩の破片と思われる。当該遺構のある位置は平坦面の入口にあたりことから除去を試みたものと推定される。

なお、当該平坦面ではSK50307土坑も被熱はみられないものの、花崗岩の周囲に土坑が掘られており同様に花崗岩除去のための掘削されたものと考えられる。

出土遺物(図69)

5は色絵の小碗で、口縁端部が強く外反し、外面には黒、緑、赤の顔料で花文が描かれる。

SK50298土坑(図68)

平坦面5B-16の北西端に位置し、SK50295に隣接する。平面形は方形を呈し、長軸1.72m、1.57m、深さ0.42mを測る。17世紀末から18世紀前半の陶磁器が出土している。

出土遺物(図69)

6は土師器の燈明皿で、口縁部に煤・タールの付着が見られる。7は色絵のうがい碗で体部の器壁は薄く、内湾気味に開く。内部には赤、緑、こげ茶色の顔料を使用して花文が描かれる。

SJ50289甕埋設遺構(図68)

平坦面5B-16の南西に位置する。陶器甕埋設遺構である。遺構の上部は削平されており、甕底部のみが残存していた。掘方の平面形は楕円形で長軸 0.77m、短軸0.57m、深さ0.19mを測り、床面から0.06m上位に底径0.21m、残存器高0.11mの陶器甕が設置される。陶器甕の時期は18～19世紀であり、内面には尿石が付着することから小便所の便槽として使用されたものと考えられる。

(17)平坦面5B-17(図53・66)

平坦面5B-17は平坦面5B-14の南側に位置し、平坦面6-14に西接する。平坦面の平面形は長方形で、長軸約34m、短軸約15m、面積約420m^{2}を測る。平坦面5B-14の埋没谷の右岸にあたり、平坦面6-15から平坦面5A-4に連続する南北方向を長軸にとる階段状の平坦面の１つである。なお、当該平坦面北東の一部は谷中であり、SW50001石垣によって盛土造成される。埋没谷縁辺部を中心に花崗岩の露頭が見られるものの比較的安定した地盤と推定されるが、埋没谷上はもちろんのこと遺構密度は低い。

検出された主な遺構は石垣１面、土坑7基、溝跡２条、不明遺構1基であるが近現代のものが多数含まれる。なお、SW5001石垣は明治以降のものとされたため、立面図等の記録はとられていない。

出土遺物(図72)

21はSW50001石垣に設定したトレンチより出土した肥前有田産色絵のうがい碗である。口縁部は内湾気味に開き、内面には、顔料の剥離が著しいが黒、赤、青、黄緑色の顔料で西行法師と思われる僧が傘と杖を持って松の根に座っている様子が描かれる。三保の松原か。22は肥前産の型打ちの染付皿で、見込みには陶質の五足ハマ痕が残り、花文が描かれる。蛇の目凹型高台である。1780～19世紀第1四半期のものである。SW50001石垣では、他に大量の陶磁器が出土しているが、根石裏の9層まで明治以降の遺物が含まれていることより、近世の遺構と判断されている。26は石(挽)臼の上石で、上面は皿状を呈すが大きく傾く。底面は内湾し、ふくらみが認められる。ものくばり、軸

受け孔、円形の把手用のホゾ孔が残り、目の主溝は6分割と推定される。

SK50268土坑(図70)

平坦面5B-17の北西隅に位置する。平面形は歪な楕円形を呈し、長軸2.68m、短軸1.53m、深さ0.62mを測る。内部に花崗岩が露頭していることから花崗岩を除去するために掘削した土坑と考えられる。さらに、花崗岩の頭部が地山とほぼ同じ高さで水平に割られていることから、除去できなかったために頭部を割り取ったものと推定される。埋土中より18世紀後半から幕末の陶磁器が出土している。

出土遺物(図71)

1は肥前か福岡の擂鉢で、内外面に鉄(泥)釉を施す。内面には重ね焼きの痕跡が見られる。2は肥前有田産の白磁碗で、口縁端部に口紅を施す。3は肥前波佐見系の染付碗で、底部が厚く、外面には二重網目文を施す。4は肥前系の碗で1820～1860年のものである。5は型打ちの白磁皿であり、18世紀後半から19世紀前半のものである。6は染付の瓶で、注口が付く可能性がある。7は土師器で器種不明である。口縁下に接合痕が見られる。

SK50269土坑(図70)

平坦面5B-17北端に位置し、平坦面5B-14のSD50265溝に近接する。平面形は円形で径0.68～0.83m、深さ0.18mの小型の土坑である。埋土より17世紀後半から18世紀の陶器が出土している。

出土遺物(図71)

8は肥前産陶器の皿で口縁は玉縁で外側面には刷毛目文を施す。9は肥前産の二彩の香炉である。下半部は露胎で、17世紀後半頃のものである。

SK50275土坑(図70)

平坦面5B-17の北側に位置し、埋没谷の縁辺部にあたる。SK50268土坑と同様に露頭する花崗岩の周囲に掘られた土坑である。平面形は長方形を呈し、長軸2.72m、短軸2.31m、深さ0.56mを測る。花崗岩を除去するために掘削された土坑と推定される。埋土中より18世紀後半から19世紀の陶磁器とともに鉄釘が出土している。SK50268土坑と同様の特徴を有し、ほぼ同時期であることから当該平坦面造成時期を検討するうえで参考となる。

出土遺物(図71・72)

10は肥前産陶器の碗で、高台脇及び高台内に白土を薄く塗る。11は関西系の袋物で、底部と体部の境に段を有する。12は肥前産の染付碗、13は小碗である。13は仏飯器の坏部分の可能性もある。14は肥前産染付の段重である。平面円形のものか。18世紀後半から19世紀初めのものである。23は土製の柄であり、焙烙の柄と推定される。断面長楕円形でわずかに上方への反りが見られる。25は安山岩製の石鏃である。V字形に抉りが入る。

SK50277土坑(図70)

平坦面5B-17の南端に位置し、多数の花崗岩が露出する地盤に掘削された土坑である。平面形は三角形を呈し、長軸2.13m、短軸1.44m、深さ0.45mを測る。埋土からは18世紀後半から19世紀の陶磁器が出土している。

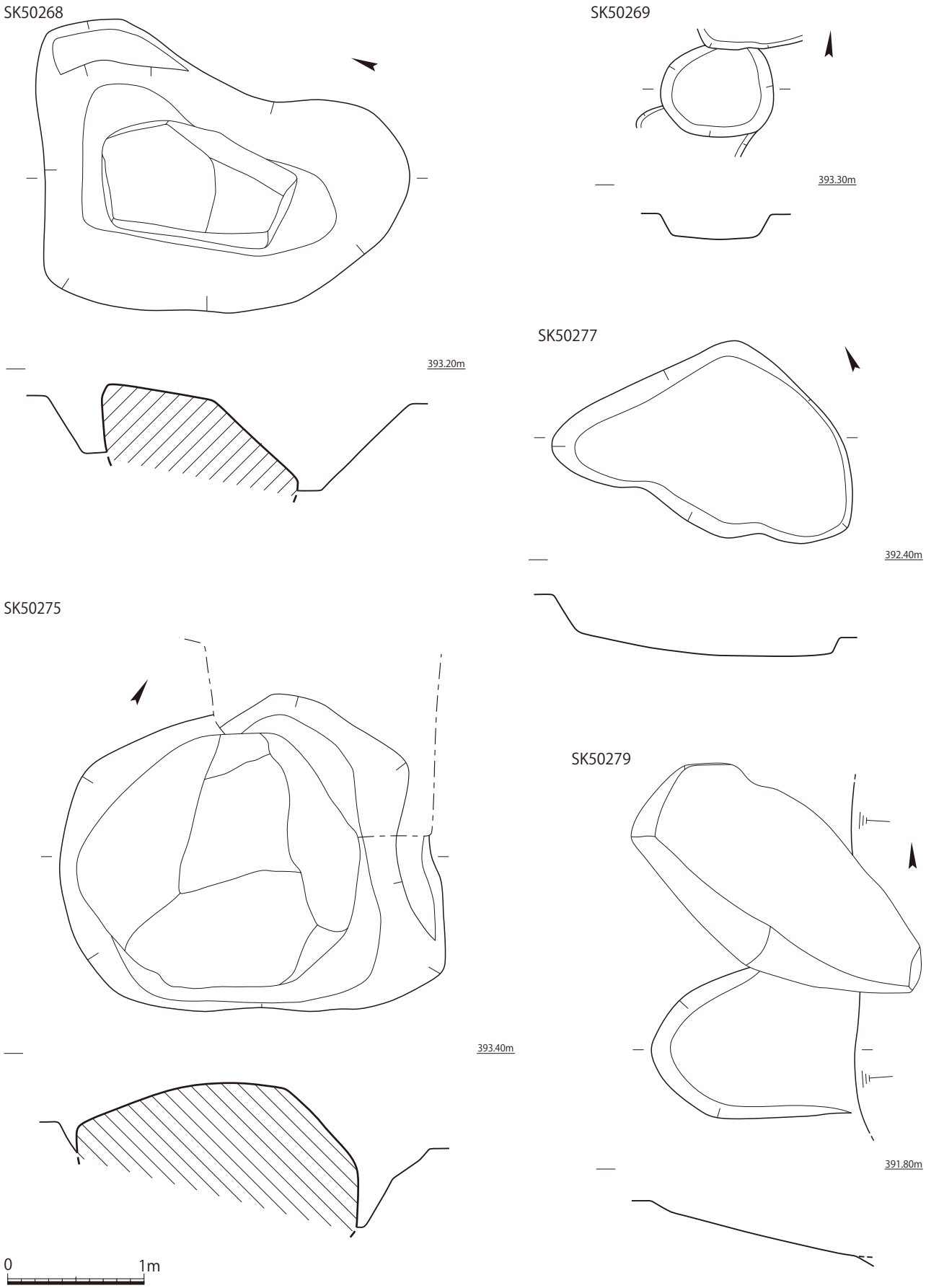
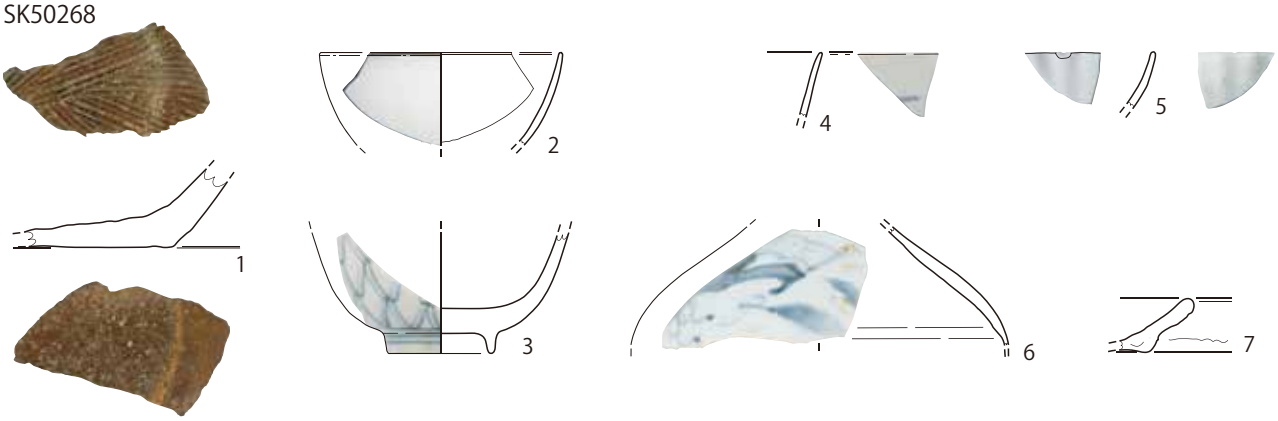
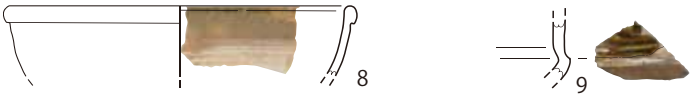


図 70　平坦面 5B-17　SK50268・269・275・277・279(1/40)

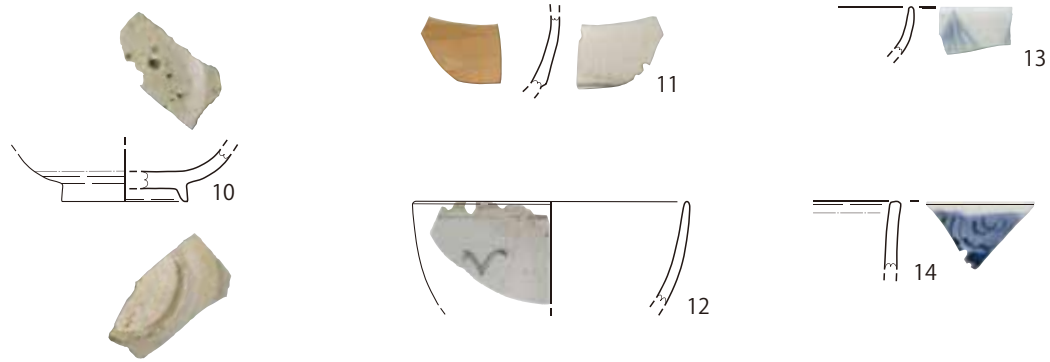
SK50268



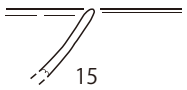
SK50269



SK50275



SK50277

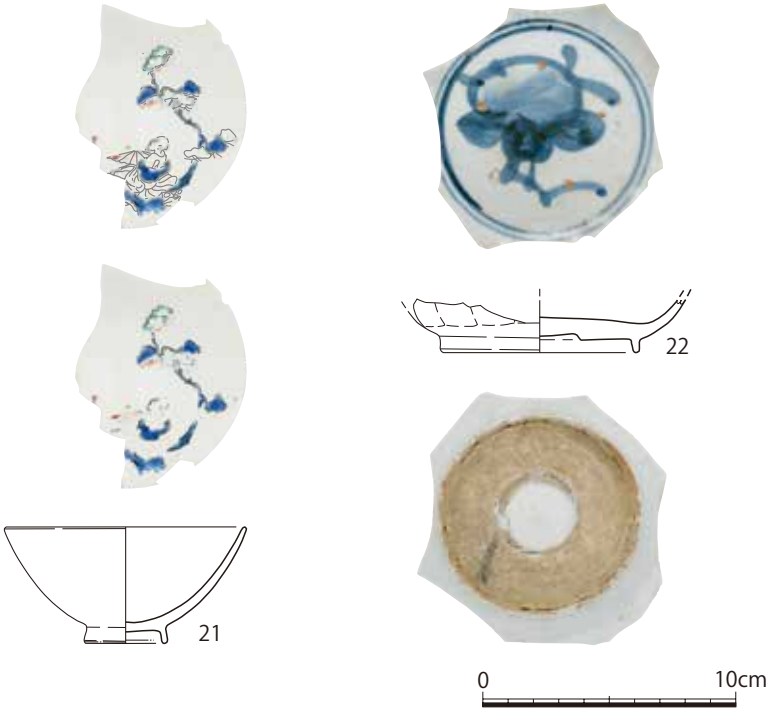


SK50279

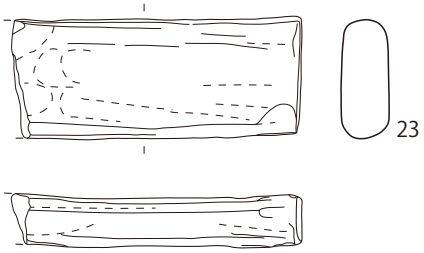
SX50280

図 71　平坦面 5-17 の遺物実測図 1(1/3)

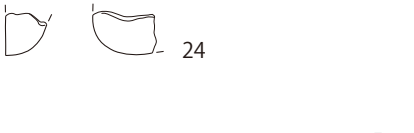
SW50001 ﾄﾚﾝﾁ2-5 層



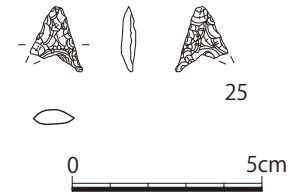
SK50275



SX50280



SK50275



SW50001 ﾄﾚﾝﾁ4 - 天端 1

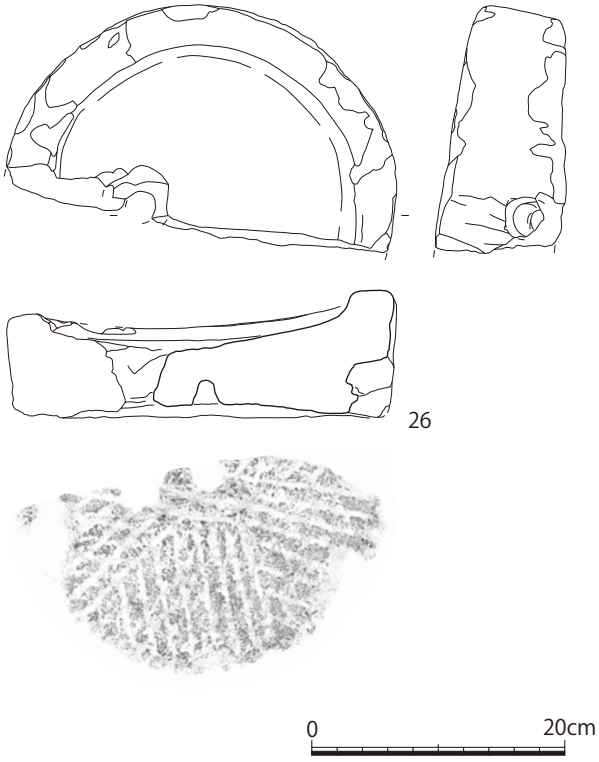


図 72　平坦面 5-17 の遺物実測図 2(1/3、1/2、1/6)

出土遺物(図71)

15 は肥前産の白磁の皿か。18 世紀後半から 19 世紀のものと思われる。

SK50279土坑(図70)

平坦面5B-17の東側縁辺部に位置する。この周囲にのみ平坦面5B-15に至る緩斜面上に遺構が営まれる。緩斜面の崩落により西側しか残存しないが平面形は楕円形と思われ、残存長1.49m、幅1.12m、深さ0.4mを測る。底面が緩斜面に向かって傾斜することより、当初は溝であった可能性も推定される。埋土より18世紀から幕末にかけての陶磁器が出土している。

出土遺物(図71)

16は肥前産陶器の碗で、外面に連弁状の文様を配する。17は肥前産陶器の火入れである。外面及び口縁部内面に施釉する。18は染付の茶飲み碗で、外面に紅葉流水文を配する。19は肥前志田系の染付皿で幕末のものである。

(18)平坦面5B-18(図73)

平坦面5B-18は平坦面5A-6・8に東接し、平坦面6-9に西接する。平面性は歪な三角形を呈し、長軸約20m、短軸約16m、面積約240m²を測る。旧小川内集落時には平坦面北側が東光寺に至る里道に面し、入口が設けられていた。平坦面の大半はグライ化した灰褐色土で平坦面5B-16と5B-19間の埋没谷上にあたる。遺構の大半はこのグライ化した土壌上で検出され、比較的安定していると考えられる埋没谷左岸では遺構が希薄であることは、左岸に位置するSK50345桶埋設遺構やSB50380掘立柱建物の北側柱穴列の深さが著しく浅いことから、当初は遺構が存在していたものの削平されたものと推定される。

検出された主な遺構は掘立柱建物跡1棟、杭列1条、土坑6基、小穴である。なお、中世の明確な遺構は検出されていないが多量の遺物が出土しており、周辺に遺構が広がっていたことが推察される。

SB50380掘立柱建物(図74)

平坦面5B-18の北半に位置し、埋没谷上とその左岸に跨る。P50339・367・369 ～ 377の11穴を検出している。北東隅、南西隅の柱穴は削平を受けたと思われ、平面形は長方形を呈し、桁行4 間、梁行 3 間で、桁行7.88m、梁行5.09m を測り、長軸はN-66°-E を向く。柱穴は直径0.22 ～ 0.78m、深さ0.05 ～ 0.42mである。桁行の柱間は1.97m(６尺５寸)である。梁行は一定していないが、１間を６尺５寸とした2間半の３つ割りと推定される。わずかに梁行柱間が長いことは柱の内々での大きさで設計されたもので、畳の使用が推定される。主軸方向は、調査時には除去されてしまっていたが東側石垣塁線に約2間の間隔を持って直行する。

また、南側桁行のP50367及びP50339では建築及び廃棄に係る祭祀行為を行ったと思われる状況が確認され、P50369では柱穴埋土中より寛永通宝、柱痕内より櫛２点、土師器皿が出土しており、P50339からは土師器の皿が出土している。他にP50339からは18世紀ごろの染付碗もしくは猪口片が、P50367からは染付皿が出土している。

出土遺物(図76・79)

1・2はP50339より出土している土師器の小皿であり、底部と口縁部の境を丸く仕上げる。1は口縁部が短く立ち上がり、口縁端部に面を持つ。2は口縁部が長く内湾気味にひらき、口縁部外面から

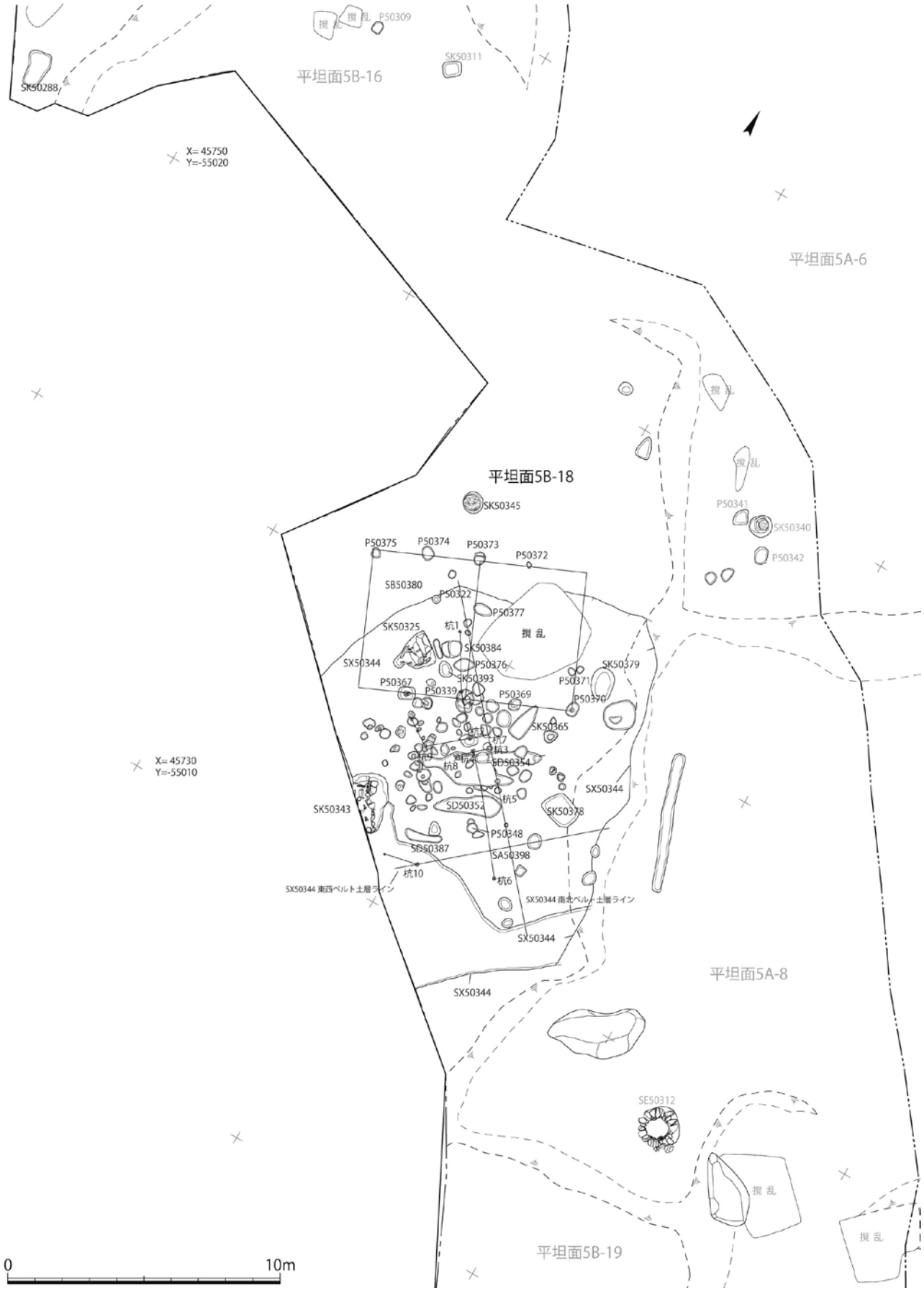


図 73　平坦面 5B-18(1/200)

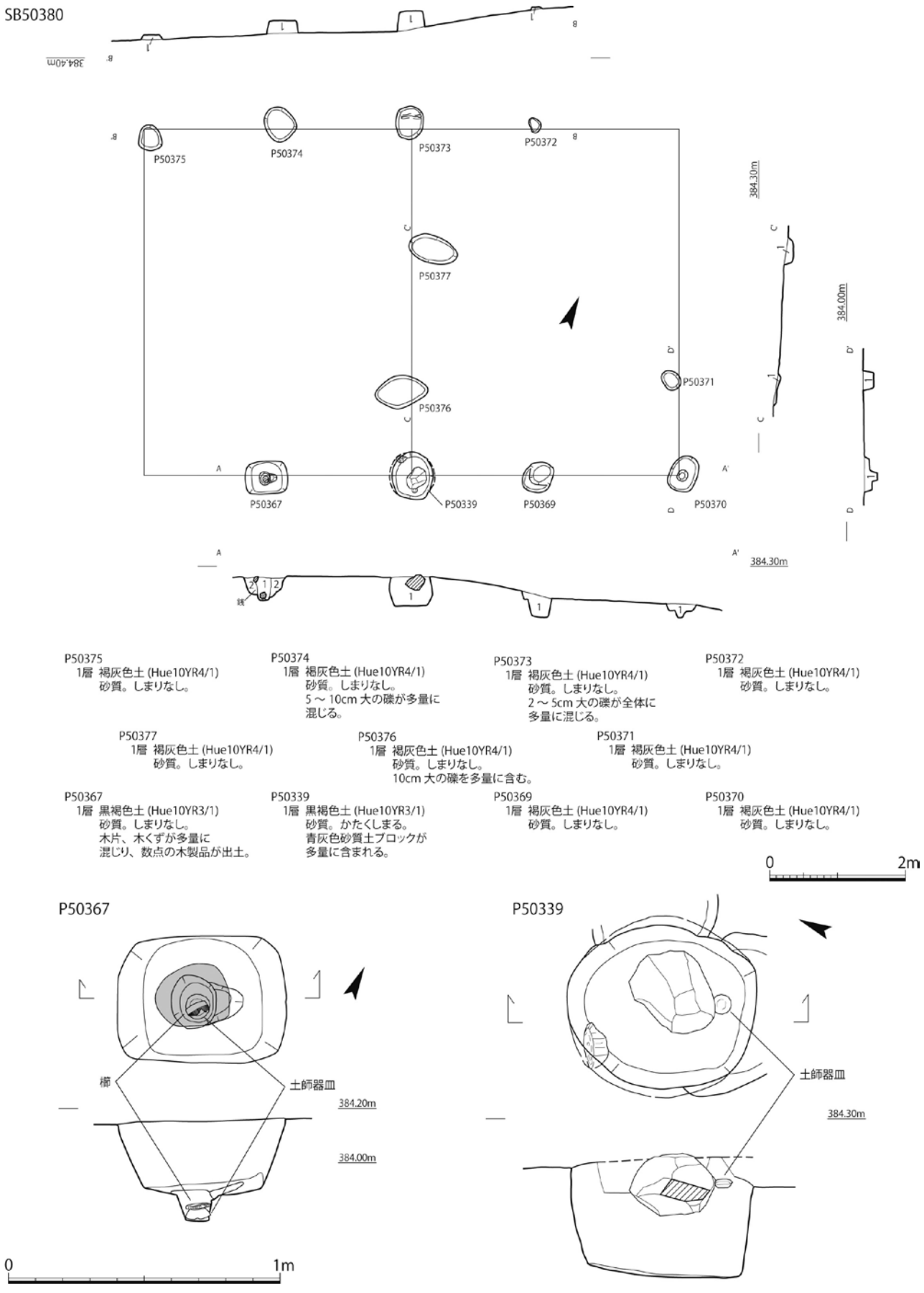


図 74　平坦面 5B-18　SB50380(1/80、1/20)

底部にかけて煤・タールの付着が見られる。P50339からは同様の小皿が他に３点出土する。3～5はP50367より出土している。3は肥前有田産の染付皿で、17世紀後半から18世紀初めのものである。4・5は土師器の小皿で、底部と口縁部の角を丸く仕上げる。4は燈明皿として使用されたもので、口縁部内面と、外面それぞれ別の位置に煤・タールが付着する。42は「寛永通宝」で、残存状態は良好で、古寛永に分類できる。48・49は木製の櫛で、49はP50367の柱痕底面に伏せ置かれた4の燈明皿上に置かれた状態で出土した。P50367内に柱根は残存しておらず、燈明皿が破損していないことより柱を抜きとった後、埋設したものと考えられる。48も同遺構出土のものであるが、49とは接合せず、櫛歯の加工状況から別個体と考えられる。

SA50398杭列(図75、図80)

平坦面5B-18の埋没谷内で検出した杭群で、SX50344 の3・4 層上面より杭9 本と痕跡 1 本分を確認した。掘方を持たず直接打ち込んだと考えられることより杭列と判断されている。ただし、図面上ではさらに3本の杭が記録されているうえ、その配列にはまだ検討の余地が残るが、概ね南北方向に延びる杭列を中心として、中央部に水口が開くものと推定される。その並びでは杭列長軸は9.15mを測る。杭は直径0.1～ 0.15m、残存長0.12 ～ 0.39mを測り、根元部分のみ残存していた。

出土した杭は、一部残存状況が悪く判別不能なものもあるがその形状で２種に分別できる。先端が水平に切断されただけのものと先端が加工されたものであり、前者は南北方向に概ね並び、後者は東西方向に並ぶものと推定され、南北方向は北から杭1、杭2、杭4、杭5、杭6で間違いないものと思われる。なお、杭2と杭4の間は間隔が約0.5mと著しく狭いため、水口と推定した。東西方向については様々な形状に推定しうるが、杭7は少量の木片と痕跡のみを確認したもので、その標高は他のものと比較して約0.4m程低く同列としてよいか疑問の残るところであり、杭3、杭8、杭9はいずれも先端が加工されたもので標高値もほぼ同様であることから同一列と解することもでき、その杭間距離は約1.2mとなる。ただし南北列の水口に位置するにもかかわらず直行しておらず、さらなる検討を要する。

用途については、埋没谷であるSX50344の流路方向に南北列が直交するより、SX50344に関連する遺構と窺え、水口と推定される間隔の狭い部分があることより、谷が埋没していく過程で平坦面化を図るための砂防・土留としての役割が推定されている。さらに、下層では木製品を多量に含んだ腐植土層が見られ、杭先が数本確認されたことからSA50398 設置以前にも砂防・土留めを目的とした施設が存在していた可能性が指摘され、長期にわたって平坦面化が図られてきたと考えられる。

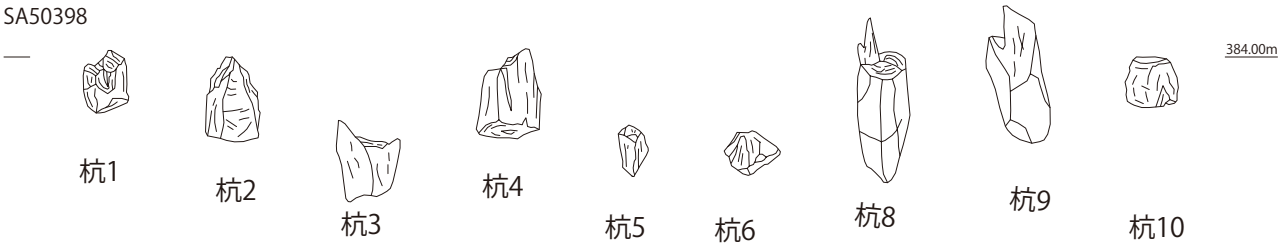
SK50325土坑(図75)

平坦面5B-18の北側でSB50380掘立柱建物と重複する場所に位置する。平面形は略三角形を呈し、長さ1.54m、幅1.26m、深さ0.26mを測る。埋土には陶磁器のほか、木製品や木片が多量に含まれており、土層も単層であることから廃棄土坑と考えられる。木製品に下駄、タモ、板材等が見られるほか、裁断された痕跡が残る木片も見られ、近隣で木工作業をした可能性が指摘されている。また出土した陶磁器はいずれも18世紀後半から幕末のもので器種、産地は多様である。前後関係は不明であるが、SB50380掘柱建物が一定期間存続したとするならばその前段階のものと推定される。

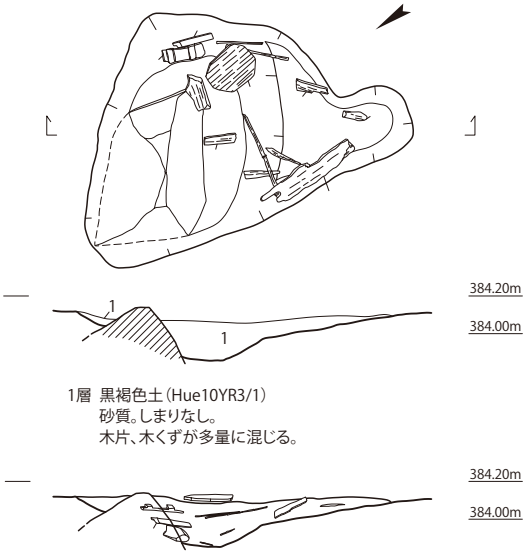
出土遺物(図76・79)

6は肥前産陶器の擂鉢で、内外面に鉄(泥)釉を施す。見込み及び高台に重ね焼きを示す砂が付着す

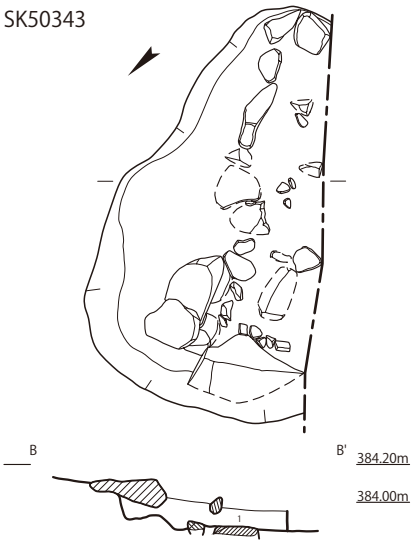
SA50398



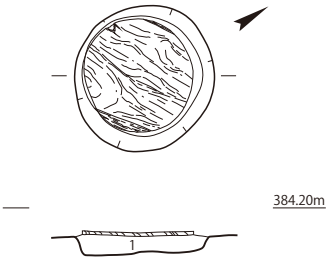
SK50325



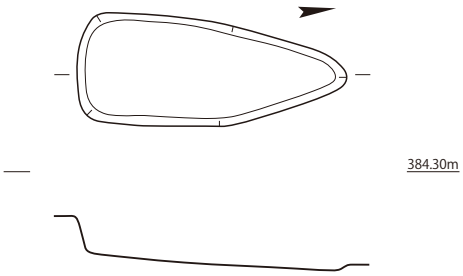
SK50343



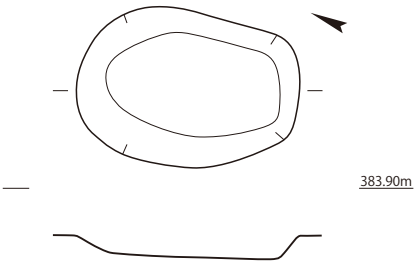
SK50345



SK50365



SK50379



SK50384

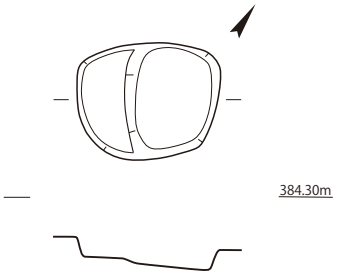


図 75　平坦面 5B-18　SA50398(1/20)、SK50325・343・345・365・379・384(1/40)

る。7は福岡か肥前産の擂鉢で、口縁部は内傾し、擂目は丁寧に施し上端を撫でそろえる。8は福岡か熊本産の土瓶でソロバン玉状の体部を呈すると思われ、屈曲部以下が残存する。内外面に鉄釉を施す。9は肥前系の染付碗で、1820～1860年のものと思われる。10は長崎産と思われる染付碗で、外面に波濤文と思われる文様を施す。また、文様上には焼成時の癒着痕が残る。11は関西系の碗で、高台脇が水平で体部が内湾気味に開く器形と思われる。12は肥前有田の染付皿で18世紀前半のものである。13は白磁で、貝殻状に型押しされた紅皿である。内面及び口縁部のみ施釉する。14は肥前産白磁の変形皿で、口縁部が輪花状を呈する。小片のため、詳細な形状は不明である。15は軟質陶器で用途不明品である。44は一木刳り抜きの下駄である。歯は消耗し丸みを帯びる。前緒の孔(前壺)脇に残る指の圧痕より右足用と推定される。全長22.8cmであることから女性または子供用と考えられる。45はタモである。4ケ所に網を装着する孔が開き、両端には組み合わせるためのホゾが削り出されるが、一方は上面を向き、もう一方は外側を向く。46は柾目材を使用した楕円形の板材の上端両隅を切り落としたものである。容器の底板と推定されるが、その形状より再加工品の可能性も考えられる。

SK50343土坑(図75)

平坦面 5B-18 の西端に位置する。平面形は隅丸方形を呈すると推定されるが、半分は調査区外へ延びる。長軸 2.18m、短軸残存幅 1.26m、深さ 0.18m を測る。内部は２段になっていたと思われ、1 段目には長軸 1.7m、短軸残存幅 0.53m の推定平面方形に石を組む。石材は床面に露頭する花崗岩を一部に利用しながら径 0.2m 程度の円礫を積む。SX50344 の中央部、旧状の流心部分に設置され、底面は砂質土で湧水がみられることより、水溜としての用途が指摘されている。なお、出土遺物には明治期の染付碗が含まれる。

SK50345桶埋設遺構(図75・79)

平坦面5B-18の北半で、埋没谷左岸上に位置する。土坑内より円形の板材が検出された桶埋設遺構である。掘方の平面形は円形を呈し、径0.73～0.79m、深さ0.13mを測る。桶底は検出面と同じ標高で検出され、径0.59m、厚さ0.02mを測る。平坦面6-1で検出されたSK60003～60005と同様の埋設方法で、土坑内に土を入れ安定を図った後、設置されている。また、同規模の桶を設置していたと推定されるSK60004では深さが0.38mであることから、当該遺構の検出された場所は少なくとも同程度削平されていたことが判る。

出土遺物は18世紀後半から19世紀前半の陶磁器類が出土しており、SB50380と同時期の遺構と考えられる。なお、両者の間隔は約2mで、SB50380の柱間である1間となり、その関連性が窺える。

SK50365土坑(図75)

平坦面5B-18の中央部に位置し、SB50380掘立柱建物に隣接する。平面形は長楕円形を呈し、長軸1.42m、短軸0.58m、深さ0.28mを測る。出土遺物は18・19世紀の陶器が出土している。

出土遺物(図76)

16は肥前産陶器の大皿で、内面及び外面上半部には白化粧土上に透明釉を施し、外面下半部には鉄(泥)釉を施す。18世紀頃のものと思われる。

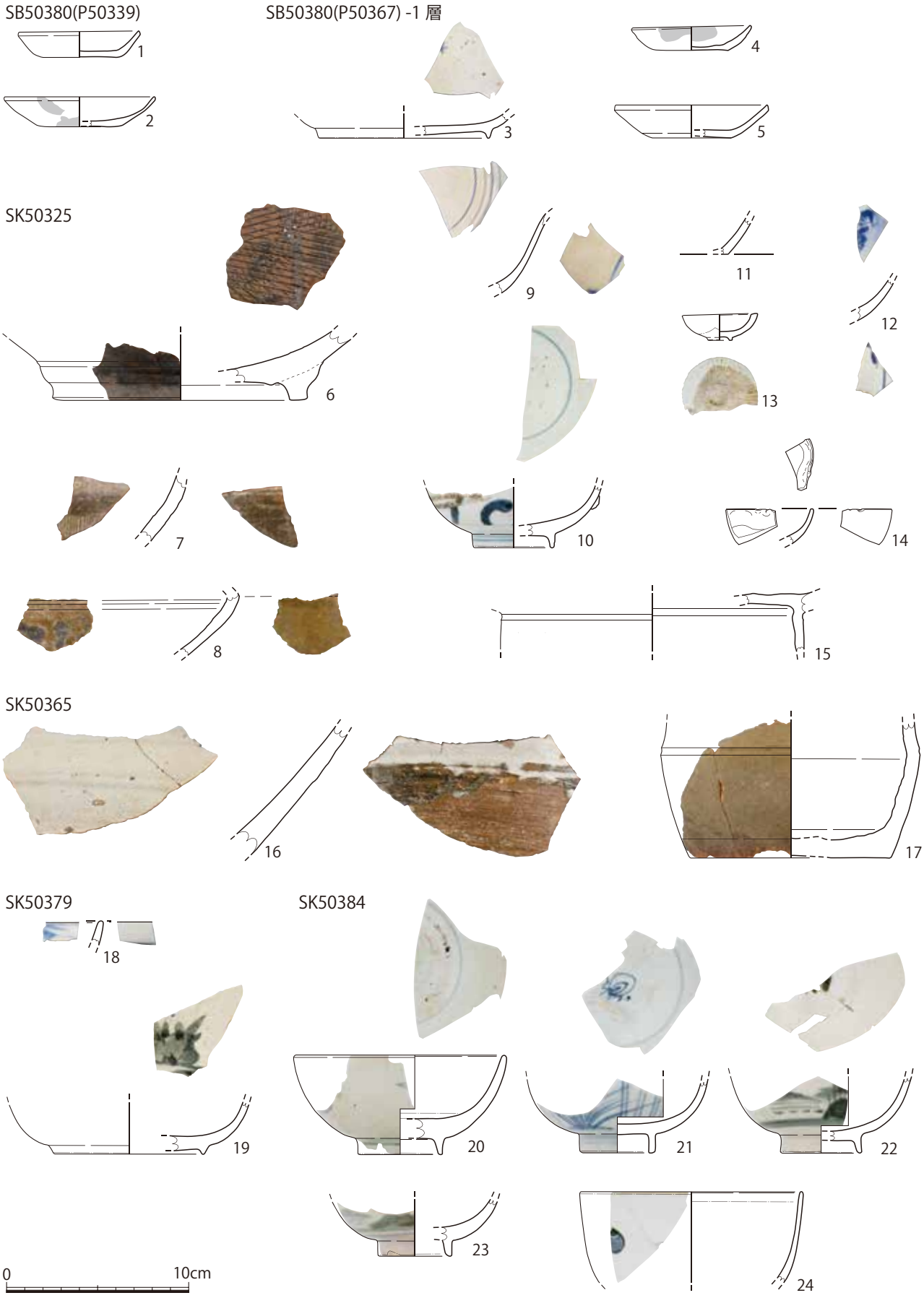


図 76　平坦面 5-18 の遺物実測図 1(1/3)

SK50379土坑(図75)

平坦面 5B-18 の北側で、SB50380 掘立柱建物に隣接する。平面形は楕円形を呈し、長軸 1.18m、短軸 0.82m、深さ 0.13m を測る。長軸方向は SB50380 掘立柱建物の梁行方向に並行し、両者の間隔は約 1m を測るが、出土遺物の示す時期は 19 世紀を示す。

出土遺物 (図 76)

18・19 は肥前産の染付皿で、18 は 18 世紀後半から 19 世紀初頭のものである。19 は蛇の目凹形高台で、18 世紀後半頃のものである。

SK50384 土坑 (図 75)

平坦面 5B-18 の北側で、SB50380 掘立柱建物と重複する。平面円形を呈し、径 0.62 ～ 0.74m、深さ 0.12m を測る。出土遺物は 18 世紀後半から幕末の磁器及び鉄製楔が出土している。

出土遺物 (図 76・78)

20 ～ 23 は染付碗で、20 は肥前波佐見系、21 ～ 23 は肥前系のものである。20 は見込みを蛇の目釉剥ぎし、外側面に丸文を配する。21 は見込みに崩れたいわゆる渦福を配する。22・23 は見込みに陶製の三足ハマ痕を残し、外側面の文様は海浜風景文か。24 は肥前産の染付の袋物で、口縁端部及び口縁内面を釉剥ぎし、外側面に宝珠文を施す。40 は楔か。先端部の厚みを減じ、端部は丸みを帯びる。平坦面 6-1 出土のものに比して、全長は長く、幅はほぼ同様である。

SX50344(図 77)

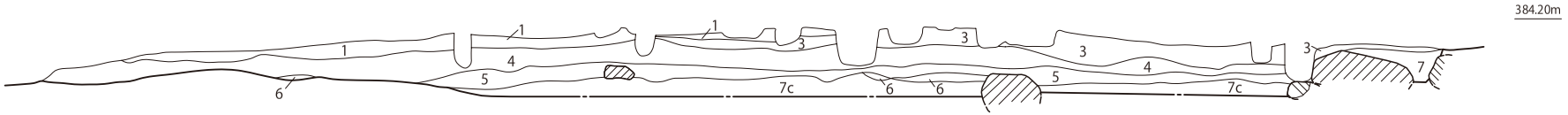
5B-18 の中央部に位置し、その大部分を占める。谷地形に流れる自然流路が埋没したものである。全長 9.96m、幅 14.30m、深さ 0.49m を測り、流水方向は南西から北東方向で、底面の傾斜角度は 10°である。堆積層は主に 6 層に分かれ、1 ～ 4 層及び 6 層が砂質土、5 層は腐食土層である。4 層中にはラミナがみられ、水流は比較的穏やかで緩やかに堆積したことが判る。出土遺物は 3 層で 19 世紀前半の陶磁器が出土しており、4 ～ 5 層では土師器の細片が少量出土するのみである。ただし、5 層では大量の木片に混じって杭片が出土している。

この堆積状況は小川内遺跡の環境変化を示す可能性があり注目される。まず 5 層の腐植土層が形成される背景では周辺環境が森林であることが窺え、木片や杭片が出土することより人為的な森林伐採及び集落の造営が開始されたことが窺われる。ただし、杭片が認められることより前段階に小規模な集落があったものと推定される。その後、周囲の土地利用が急速に進んだため、堆積層を形成する供給物は途絶え、花崗岩風化土の露出した地形になったため砂質土の堆積が進んだものと思われる。なお、自然災害による急激な砂質土の堆積ではないことはラミナが形成されていることより窺え、背後に人為的な所作がかかわったことを想起させる。さらに、この SX50344 の 3・4 層上面に設置された SA50398 杭列は東西ベルト北壁土層より傾斜変換点に位置しており、砂質土の流れを抑制し、平坦面化を進めるための構造ととらえることができる。

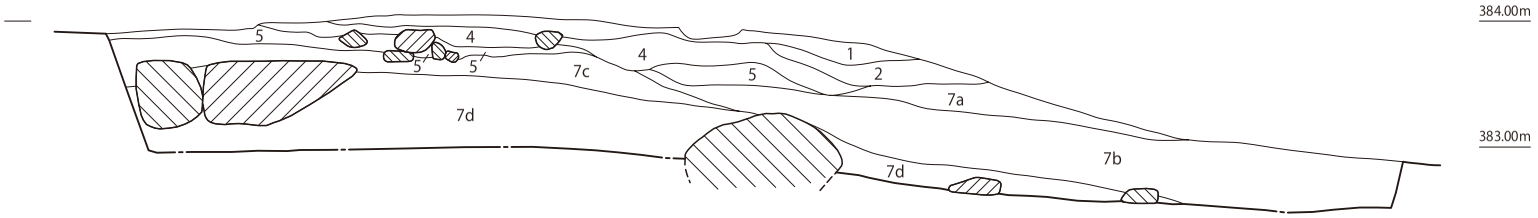
このように推定される行為がなされた時期については、他の平坦面でも石垣の改修や改変が窺え、集落構造が大きく変化したと思われる幕末から明治前半期にかけてのことと推定される。

出土遺物 (図 78)

25 は肥前産の染付碗か。見込みにハマ痕が残る。26 ～ 30 及び 33・34 は土師器の小皿で、いずれも底面に糸切り痕を残すが 26・27・30 の底面には糸切り後板置の痕跡が残る。31・35 は東播系



SX50344 南北ベルト 西壁土層図



SX50344 東西ベルト 北壁土層図

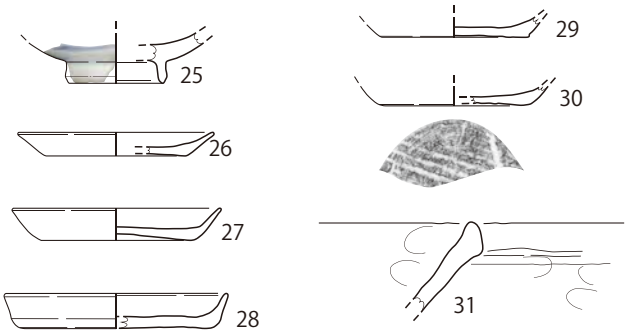
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)
　砂質。ややかたくしまる。
　5㎜大の炭化物が全体に多量に混じる。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
　砂質。かたくしまる。
　5㎜大の炭化物を全体に多量に含む。
3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)
　砂質。かたくしまる。1部に灰色砂が混じる。
4層 灰色土(Hue5Y4/1)
　砂質。かたくしまる。
　黄褐色砂が全体に多量に混じる。
　灰色粘質土と互層になっている。
5層 黒褐色土(Hue10YR2/2)
　粘質。しまりなし。
　拳大・人頭大の礫を全体に多量に含み、
　1㎝大の炭化物が少量混じる。
　木片・木製品が多量に混じる。
6層 灰色土(Hue10Y5/1)

7a層 暗赤褐色土(Hue2.5YR3/2)
　砂質土。かたくしまる。
　5～10㎝大の礫が多量に混じる。
7b層 褐灰色土(Hue10YR5/1)
　砂質土。かたくしまる。
　5～10㎝大の礫が多量に混じる。
7c層 にぶい黄橙色土(Hue10YR6/3)
　砂質土。かたくしまる。
　5～10㎝大の礫が多量に混じる。
　7dとの層の境に鉄分沈着。
7d層 灰黄褐色土(Hue10YR6/2)
　砂質土。かたくしまる。
　20㎝～1m以上の岩石が多量に混じる。

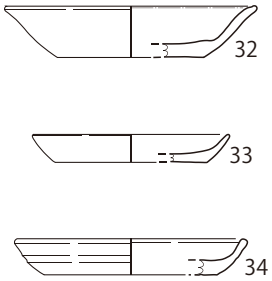
0　5m

図 77　平坦面 5B-18　SX50344(1/60)

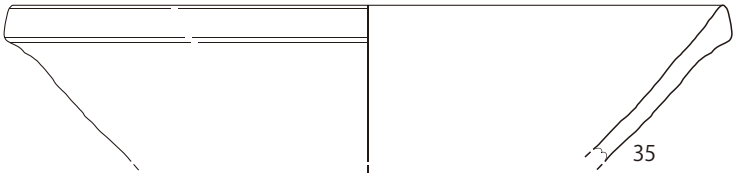
SX50344 -1 層



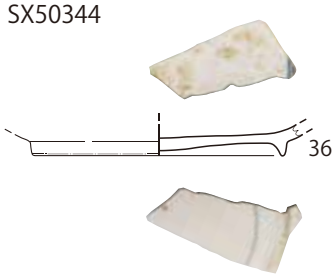
SX50344 ﾄﾚﾝﾁ2 -1 層



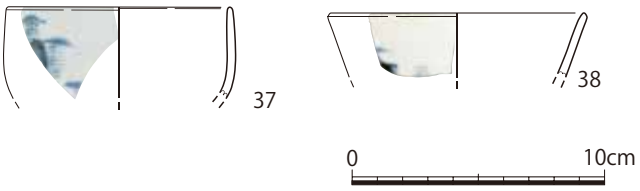
SX50344-2 層



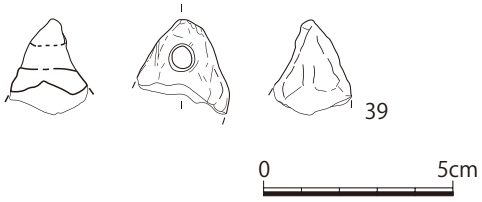
SX50344



SX50344 -3 層

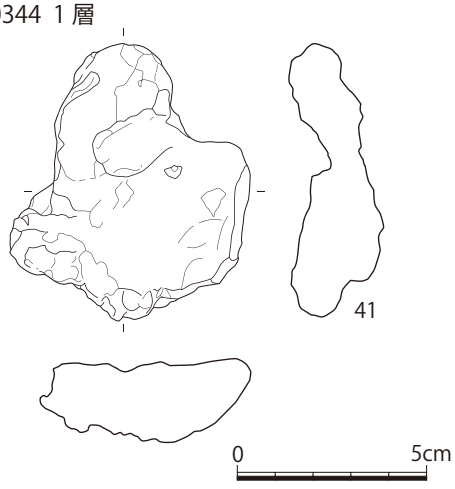


P50348

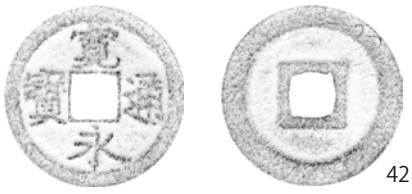


SK50384

SX50344 1 層



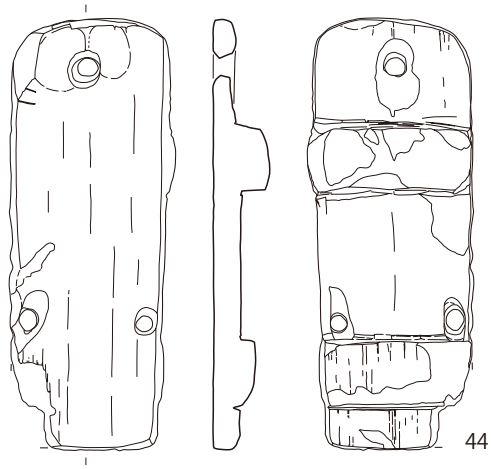
SX50383

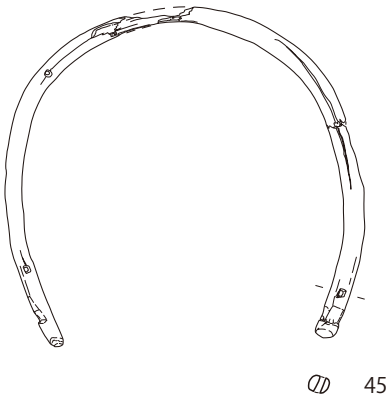


表採

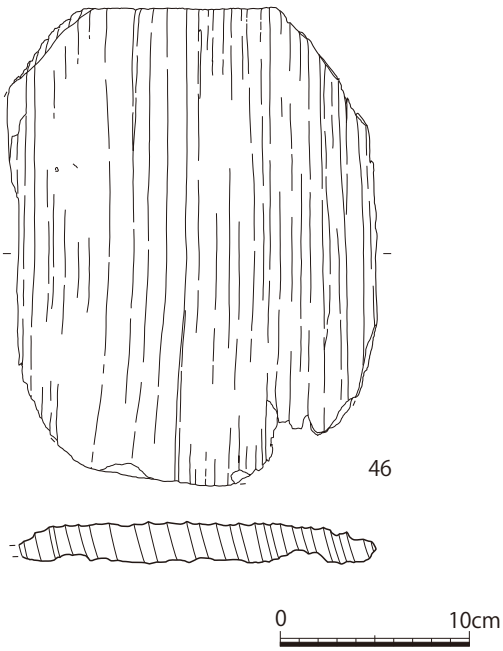
図 78　平坦面 5-18 の遺物実測図 2(1/3、1/2、1/1)

SK50325

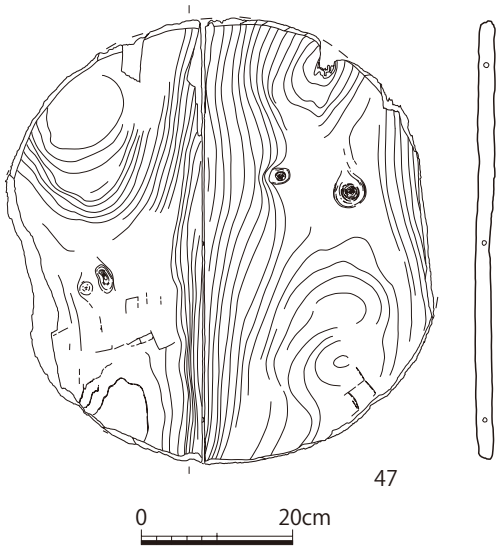




SK50325



SX50345



P50367(SB50380)

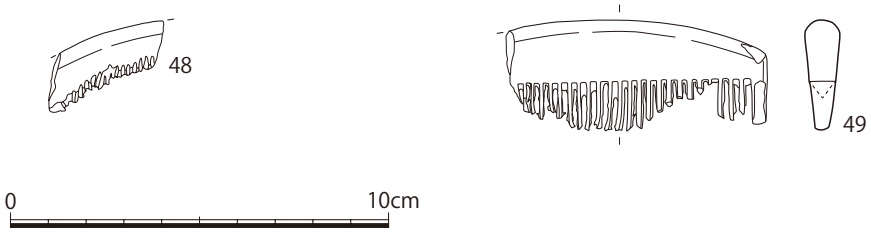
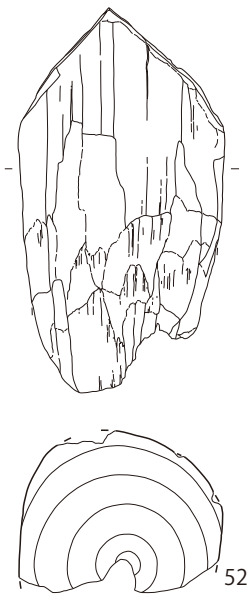


図 79　平坦面 5-18 の遺物実測図 3(1/4、1/10、1/2)

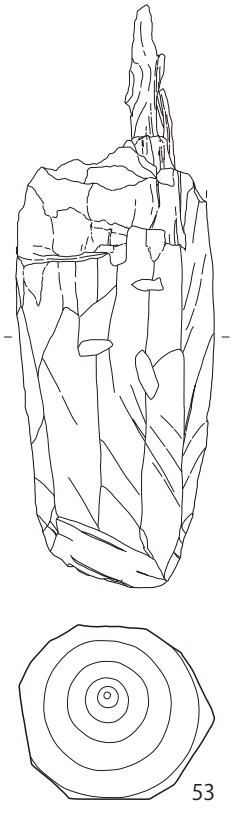
SA50398 杭 2

SA50398 杭 3

SA50398 杭 4



SA50398 杭 8



SA50398 杭 9

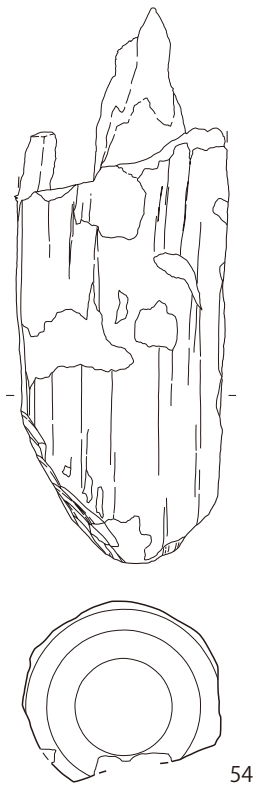


図 80　平坦面 5-18 の遺物実測図 4(1/5)

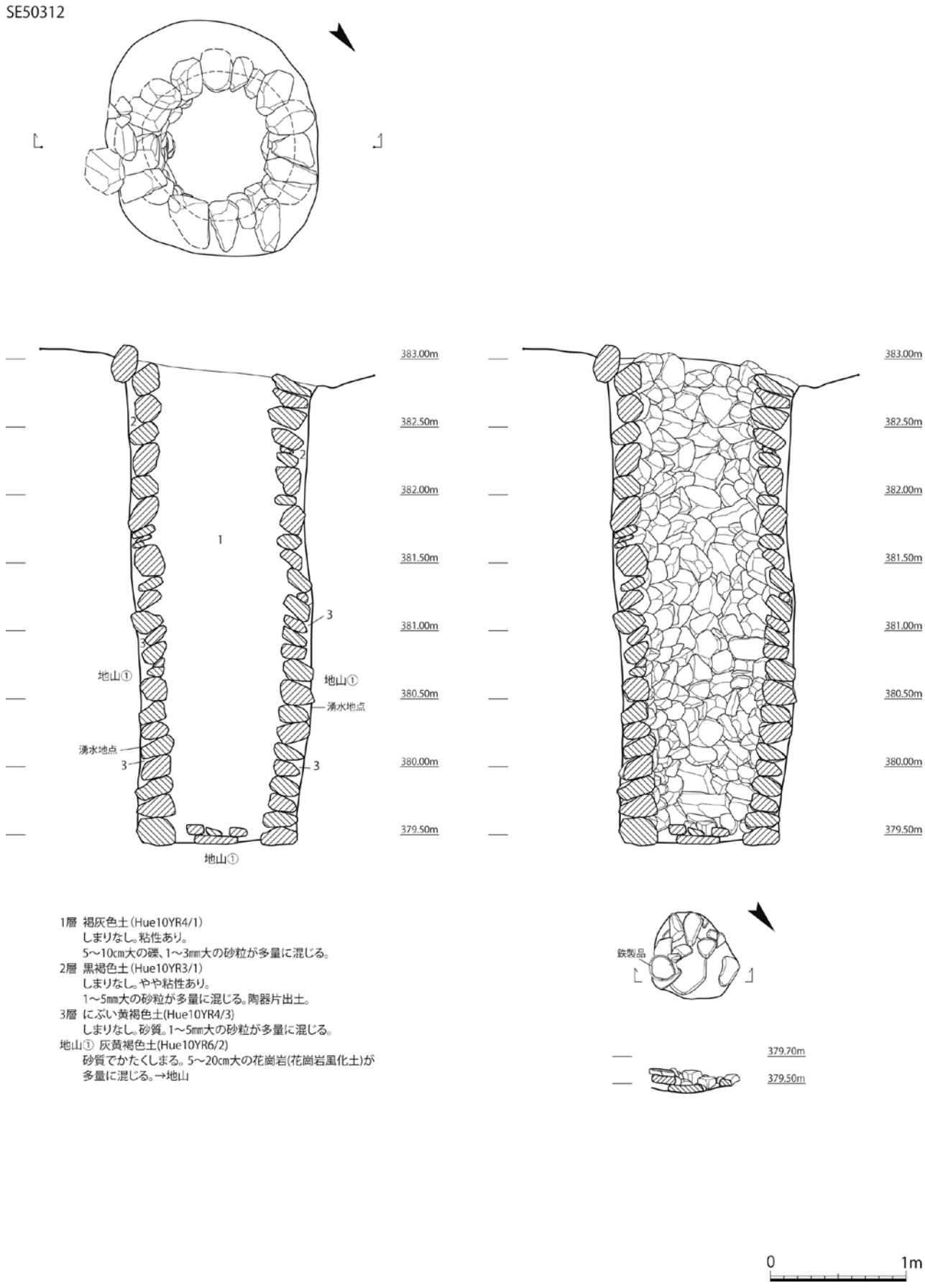
須恵器の鉢である。32 は中国産白磁の皿で、口禿で底面を釉剥する。36 は肥前有田産の染付皿で、高台内にハリ支え痕を残す。37 は肥前産の小碗で、外面に山水文を施す。1820 ～ 1860 年のものである。38 は肥前産の広東碗で、外側面には山水文を施す。1780 ～ 19 世紀前半のものである。41 は鉄滓で、碗形滓である。上面に無数の気泡は見られるものの比較的なめらかである。ガラス質などは見られない。この際より推定される炉の大きさは径 8.5cm、深さ 2.7cm 以上である。

(19)平坦面5B-19(図48)

平坦面5B-19は5区の南側で、平坦面5B-18と平坦面5A-10の間に位置する。平面形は長方形を呈し、長軸約25m、短軸約10m、面積230m²を測る。本来平坦面としては面積約170m²であるが、平坦面5B-18との間の窪地も含めて5B-19とした。この平坦面上面では遺構は検出されず、当該地区に含めた窪地に現代まで使用されていた井戸が残るのみである。旧小川地集落時においても、狭小な面積のためか、宅地ではなく畑地として利用されていた平坦面である。地山は平坦面5B-18の埋没谷右岸にあたり、比較的安定していると思われるが花崗岩が露頭しており、さらに利用面積は減少する。遺構が全く見られないことはこのようなことに起因すると思われる。

SE50312井戸(図81)

平坦面5B-18との境の窪地に位置する。集落移転時まで使用・管理されていた石組み井戸である。平面形は円形を呈し、井戸枠内径0.8mを測る。掘方は平面楕円形で、長軸1.72m、短軸1.54m、深さ3.56mを測る。現在まで使用されていたため、石組の井戸枠内にコンクリート製の井戸枠が設置されていた。井戸枠の石積みは比較的扁平な円礫(川原石)を使用し、小口を内側に向け控えを長く取り、石尻を外傾させて積む。井戸底には扁平な板石が敷かれていた。遺物は掘方より陶器細片が出土しているのみである。周辺遺構から勘案すると混入遺物と推察され、近代以降のものと考えられる。



1層 褐灰色土(Hue10YR4/1)
しまりなし。粘性あり。
5～10cm大の礫、1～3mm大の砂粒が多量に混じる。
2層 黒褐色土(Hue10YR3/1)
しまりなし。やや粘性あり。
1～5mm大の砂粒が多量に混じる。陶器片出土。
3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
しまりなし。砂質。1～5mm大の砂粒が多量に混じる。
地山① 灰黄褐色土(Hue10YR6/2)
砂質でかたくしまる。5～20cm大の花崗岩(花崗岩風化土)が
多量に混じる。→地山

図 81　平坦面 5B-19　SE50312(1/40)

第Ⅶ章　小川内遺跡6区

1　6区の調査概要

6区は旧小川内集落の南西半で、集落内では高位置にあたり、平成21・22年に実施した1・2区と平成26年に実施した5区に挟まれる位置にあたる。調査開始時は集落移転後の石垣による平坦面が階段状に残り、草木の繁茂する原野であった。中央には集落移転時や移転後の山林伐採に伴う砂利敷きの仮設道が残り、一部の石垣や平坦面を破壊していた。

6区の発掘調査は平成27年8月10日から平成28年3月3日まで実施した。調査にあたっては各平坦面名を付し、排土の搬出を考慮して高位の平坦面から開始した。また、これまでの調査結果より緩斜面地のままの土地利用は考え難く、平坦面を造作したうえで利用を図っていると推定されること、後の改変があったとしても前段階の平坦面を意識した改修を実施しているとの想定の下、石垣は石垣裏に試掘坑を設け、内部に旧石垣や前段階の遺構面が検出できた場合のみ石垣を除去して調査を実施することとした。調査面積は8,154m²である。

その結果、大半の平坦面ではダム建設に伴う集落移転時の撹乱が著しく、明確な遺構を検出し得なかったが、概ね高位置の平坦面では江戸時代前半期の遺構を、低位置の平坦面では江戸時代後半期の遺構が頻出して検出された。また、低位置の造成土中には江戸時代前半期の遺物も含まれており、時代が下るとともに低位置に集落が集中する傾向が窺える。さらに集落移転前に実施された建造物の調査では、その大半が幕末から明治のものとされるが、本調査結果では石垣裏造成土に含まれる最終遺物群はその前段階の時期を示し、幕末から明治期に一体的な村落の再編成を行ったものと推定される。なお、山水を利用した上水と思われる明治期以降の有蓋石組水路を検出したが、この造成時に整備されたものと推定される。

2　6区の遺構と遺物

(1)平坦面6-1(図83)

平坦面6-1は６区南端に位置し、北西から南東に主軸をとる隅丸長方形を呈し、長軸方向26m、短軸方向17m、面積約390m²を測る。北から西側の一部にかけて石垣による盛土で構成されている。南側は調査区外の平坦面の石垣となるが、崩落の危険があったため一部で石垣裾を確認したのみである。平坦面への進入口は北東部角で、平坦面6-3を経由して進入する。また、当初は石段であったものが生活様式の変化によりスロープに改変される。平坦面の構築にあたっては南北に延びる痩せ尾根を切土整形し、北側への盛土により構築される。盛土部分に設定したトレンチ1の土層観察では、石垣は裏グリ層が旧盛土を切って構築され、近現代に改変されたものと思われるが、平坦面6-2の進入路で検出した土坑の位置関係より、石垣の位置は大きく変わることはなく、積み直しによるものと推定される。平面形においては、西側ラインが石垣による盛土部分と地山切土部分で若干のずれが生じている。これは、平坦面6-2で平坦面6-3へ流れる有蓋石組水路を検出したが、平坦面6-1石垣北西側では現石垣から約３m離れて走行することや水路際では石材抜跡状の小穴も見られることより、元来この水路際まで石垣があったものの石垣再構築に伴って面積を減じたものと思われる。これにより当初の面積は約410m²程度と推定される。なお、調査時には平坦面中央、南北方向に一般県道早良中原停車場線改良工事に伴うと思われる工事用道路が敷設されるとともに、北東側進入路を中心に平坦面北東半の削平が著しく、遺構の検出に支障をきたした。

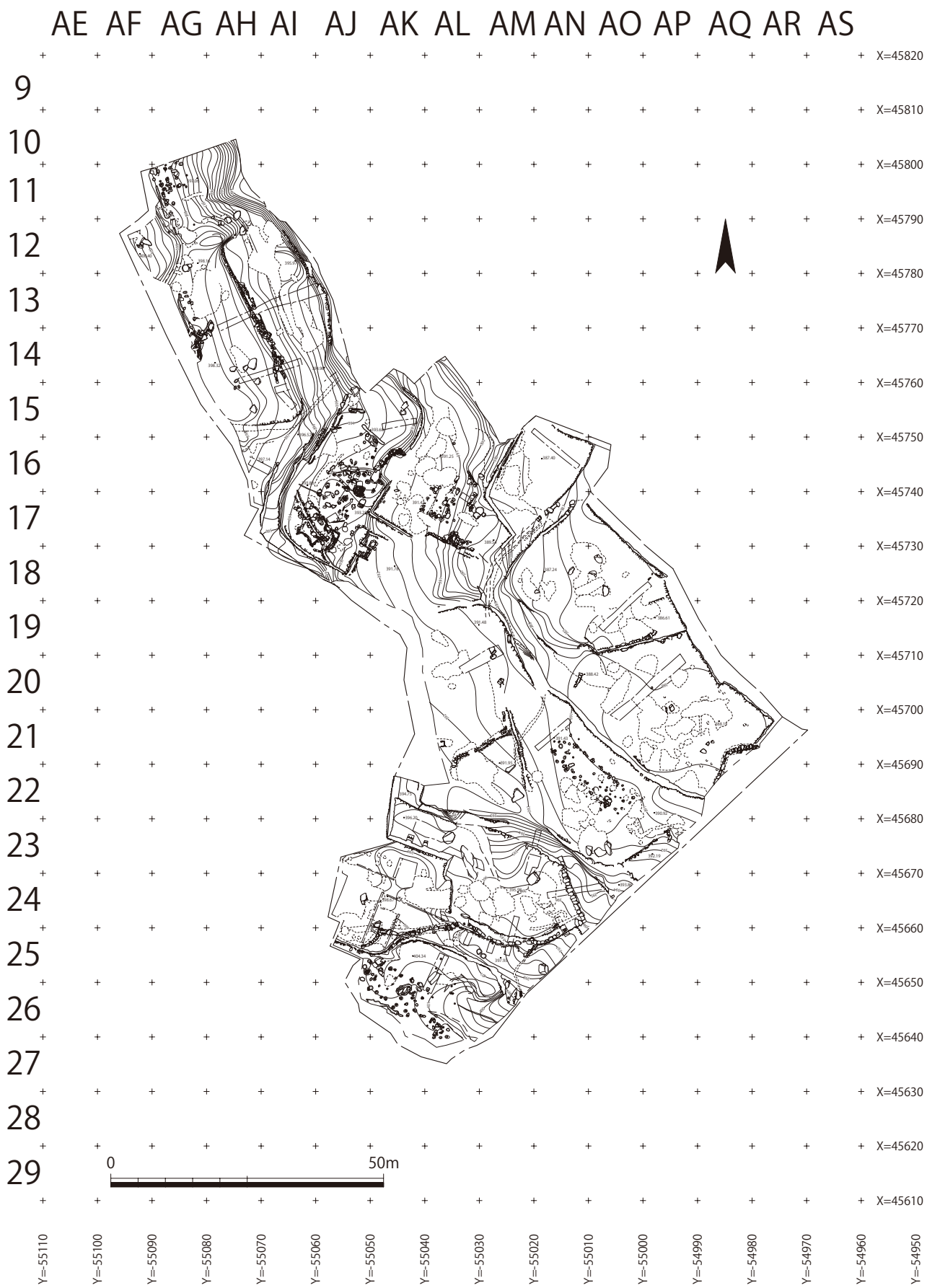


図 82　小川内遺跡 6 区地形測量図 (1/1,000)

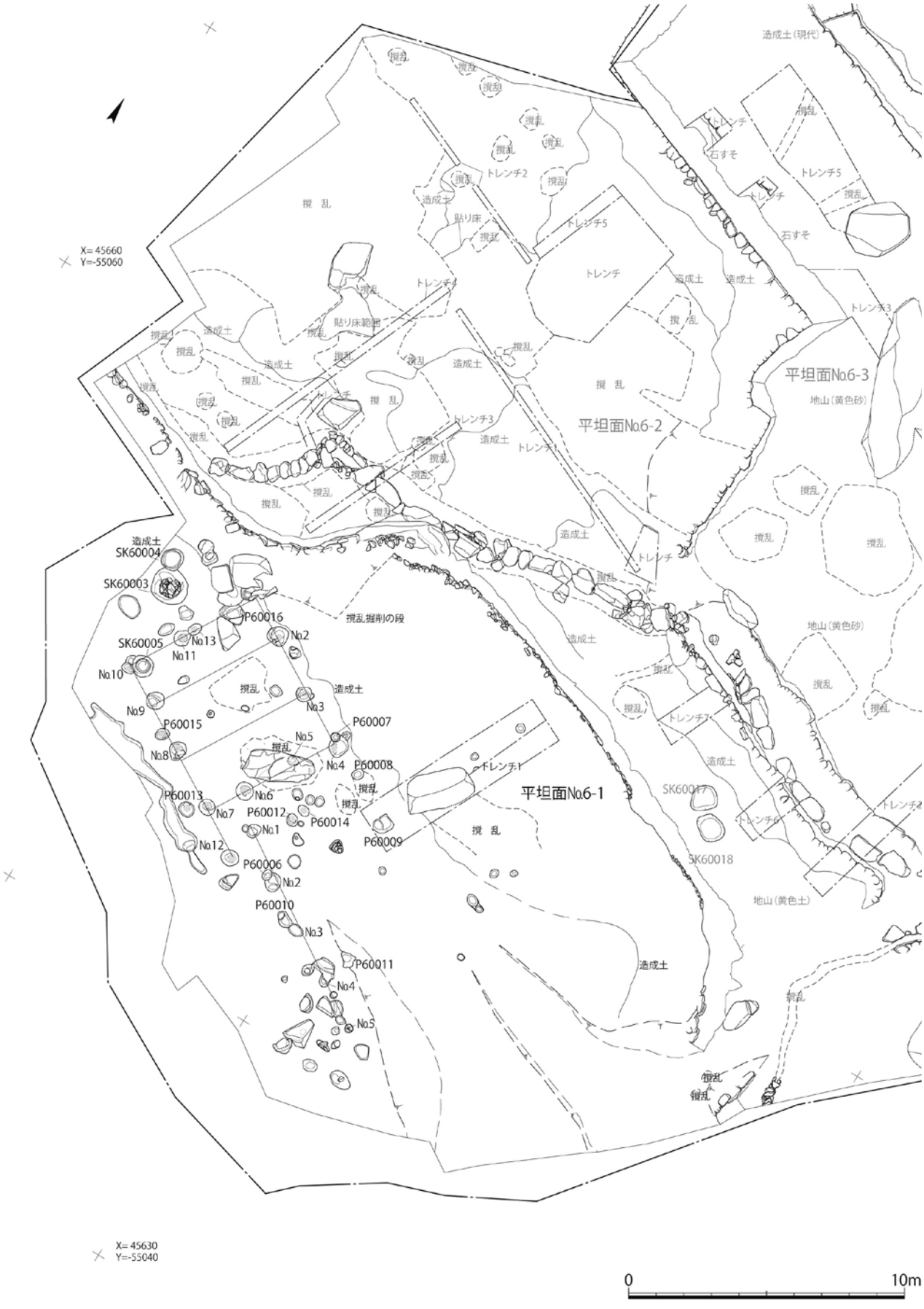


図 83　平坦面 6-1(1/200)

平坦面6-1で検出した遺構は、SB6001掘立柱建物、掘立柱建物の可能性も考えられるSA60002柵列、SK60003土坑、SK60004土坑、SK60005土坑である。これらの遺構の主な時期は17世紀後半と思われるが、17世紀前半代の遺物も一定量見られ、他の平坦面に対して古相を示す。近現代には居住地として利用されておらず、著しい土地の改変が無かったことが第一義であるが、集落の発生段階を示唆する可能性もあり興味深い。

出土遺物(図86・87)

1は内野山系の陶器の皿で、内面銅緑釉、外面透明釉を施す。焼成不良のため内面の一部が赤褐色を呈する。17世紀第4四半期から18世紀前半のものである。2は有田産の色絵の蓋物で口縁部のみ残存する。赤と緑で植物文を描く。口縁端部は釉剥される。3は中国景徳鎮窯産の青花の小碗である。内面は竜文か。高台部のみ残存する。16世紀末から17世紀前半のものである。4は土師器の小皿で、底部は糸切りである。5は肥前産の灰釉陶器で、高台に胎土目が残存する。6は中国漳州窯産の青花皿である。同層から他１点出土し、当該平坦面では中国産のものが散見される。22は縄文時代のものと思われる黒曜石の剥片である。各平坦面の造成土中に散見されることより周辺に縄文時代の遺跡があったものと思われる。23は硯で海(墨池)と陸(墨丘)の一部が残存する。縁の端部に段を有する。24は石(碾)臼の上臼である。約1/3が残存するが一部にものくばりの孔が残る。目の主溝は六分割されたもので著しく摩耗し、ふくみ幅が無いことより茶臼の可能性も推定される。25は砥石である。側面の一部に制作時のノミ痕が残る。26は楔と推定される鉄製品である。上部が欠損する。27は鉄片である。円形の金具の一部か。

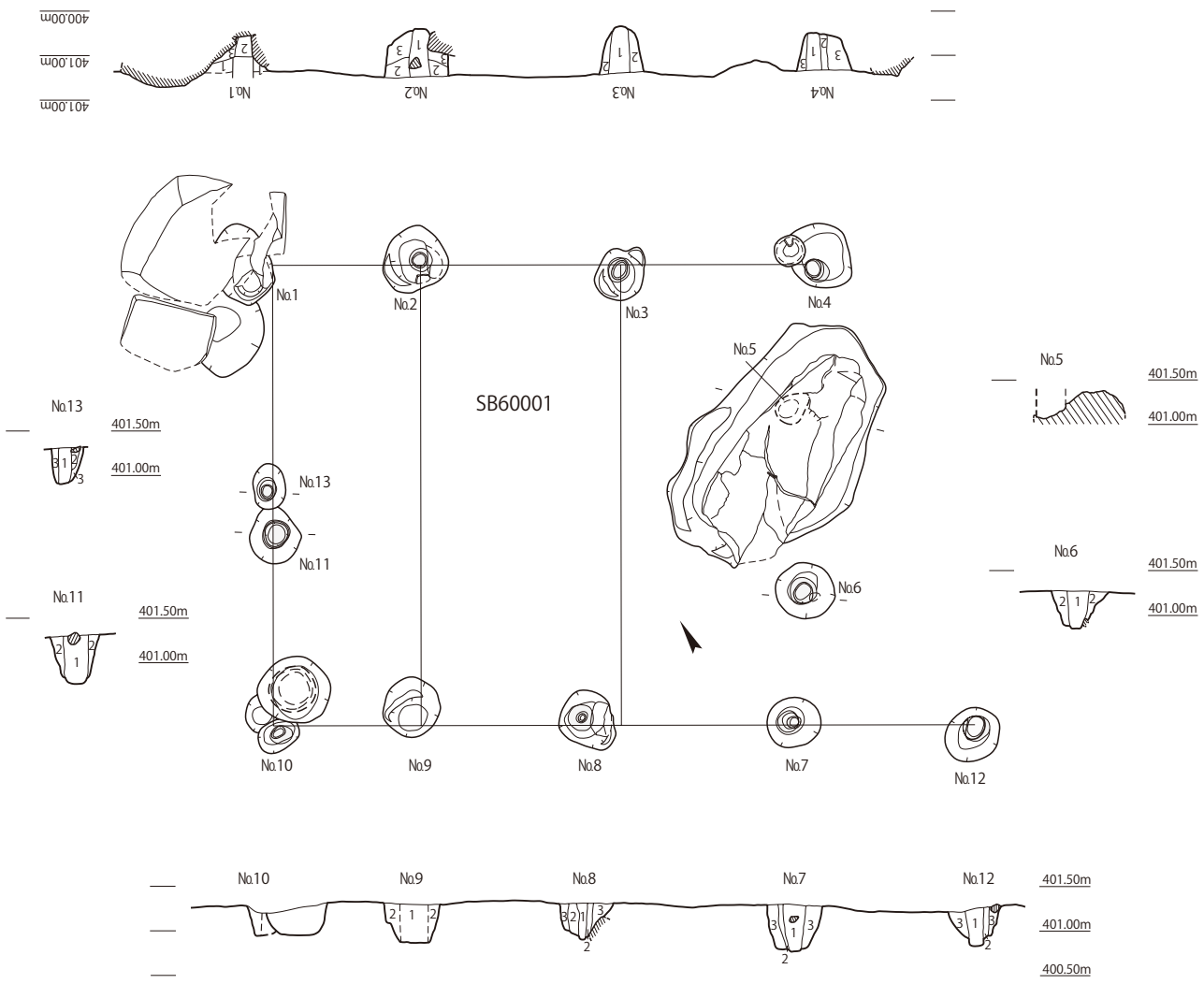
SB60001 掘立柱建物(図84)

SB60001掘立柱建物は平坦面6-1の西半南側に位置し、桁行３間、梁行２間で、桁行建物方向はN-60°-Wを向く。建物規模は桁行5.9m、梁行5.2mを測る。南側柱列の東側に同規模のNo.12柱穴を検出しており、さらに１間延びて桁行7.9mになる可能性がある。柱間は1.52～2.24mで一定しないが、おおよそ６尺５寸を基調としたものと推定される。柱穴の規模は径0.6～0.76mの不整円形であり、深さは遺構検出面より0.4～0.52mである。建物東側のNo.4、No.5柱穴間では花崗岩の巨岩が露頭しているが、地上部が荒く削られ梁行方向に溝状の窪みが見られる上、小穴状の窪みであるNo.5も認められることより、床束または大引材を据える際の基礎として使用された可能性がある。いずれの柱穴も重複や近接して小穴が見られ、ほぼ同規模、同位置で建て替えが行われたものと推定される。

出土遺物は17世紀前半から中頃の肥前産の陶器を中心に、中国産輸入陶磁器、土師器等が出土しているが、造成土出土の遺物には17世紀後半のものも含まれており、両者には重複関係がないため存続時期の判断は慎重にならざるを得ない。ただし、トレンチ1の７層上面で小穴を確認しており、このことは平坦面に石垣や造成面が無く、緩斜面であった時期があることを示しており、当該建物を建てた後、石垣を構築して平坦面を拡張した可能性も考えられる。

出土遺物(図86)

7は肥前産の灰釉陶器の皿で、口縁部がわずかな段を持って外反する。高台脇のケズリは見られず高台は不明瞭である。8は肥前産の陶器の皿で、藁灰釉を施す。内面見込みに砂目を残す。9は中国産の青花碗である口縁部が外反する。17世紀前半のものと思われる。10は肥前産の陶器の碗で、口縁部のみ残存する。1640～1650年のものである。11は肥前産の灰釉陶器の鉢で口縁部は玉縁状を



No.1
1層 褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でややしまる。
径5㎜大の炭化物片を少量に含む。
2層 褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径1㎝大の褐色土ブロックを含む。
3層 褐色土（Hue10YR2/3） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み
径5㎜大の炭化物片を少量含む。

No.2
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎜大の炭化物片を少量含む。
2層 褐色土（Hue10YR4/4） 粘質でややしまる。
3層と比べ地山ブロックや炭化物を含まない。
3層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み
径5㎜大の炭化物片を少量含む。

No.3
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎜大の炭化物片を少量に含む。
遺物は土師器片が出土。
2層 褐色土（Hue10YR4/4） 粘質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックと5㎜大の

No.4
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎜大の炭化物片を少量に含む。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。
径1㎝大の褐色土ブロックを少量と炭化物片を
少量含む。
3層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み
径5㎜大の少量の炭化物片が混じる。

No.6
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎝大の炭化物片を少量に含む。
2層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み
径5㎝大の炭化物片が少量混じる。

No.7
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎜大の炭化物片を少量に含む。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。
径1㎝大の褐色土ブロックを少量と径5㎝大の
炭化物片を少量含む。
3層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み
径5㎝大の炭化物片を少量混じる。

No.8
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎜大の炭化物片を少量に含む。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。
径1㎝大の褐色土ブロックを少量と
径5㎜大の炭化物片を少量含む。
3層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み
径5㎜大の炭化物片を少量混じる。

No.9
1層 柱痕を撹乱と誤認。
2層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み
径5㎜大の炭化物片が少量混じる。

No.11
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎝大の炭化物片を少量に含む。
2層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み径5㎝大
の炭化物片が少量混じる。

No.12
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎜大の炭化物片を少量に含む。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。
径1㎝大の褐色土ブロックを少量と径5㎝大の
炭化物片を少量含む。
3層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み径5㎝大の
炭化物片が少量混じる。

No.13
1層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でしまりなし。
径5㎜大の炭化物片を少量に含む。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。
径1㎝大の褐色土ブロックを少量と径5㎝大の
炭化物片を少量含む。
3層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でややしまる。
径3㎝大の黄色土ブロックを多く含み径5㎜大の
炭化物片が混じる。

0 2m

図 84 平坦面 6-1 SB6001(1/80)

呈する。12は肥前産の染付碗で腰部で折れ、内湾気味に開く。

SA60002柵列(図85)

SA60002柵列は平坦面6-1の東半南半に位置する。5基の柱穴で構成される。柱間は1.94～2.0mで、全長7.9ｍを測る。柱の径は0.32～0.69mで、深さは0.19～0.37ｍである。主軸方向はN- 58°-Wで、SB60001とほぼ同様の方位をとる。P60008、P6009列と対になり掘立柱建物である可能性があるが、東側の工事用道路による削平のため為判然としない。なお、試掘調査時にはこの削平部分で小穴群を検出している。建物跡と推定すると桁行7.9m、梁行4.3mとなりSB60001と同程度の規模となり、南側石垣との間にも約5mの間隔を持っており建物跡である蓋然性は高いと思われる。また、その場合SB60001とは近接した位置にあり同時併存は難しいものの、主軸方向がほぼ同一であることより、SB60001を意識した配置であることは明らかである。

出土遺物はNo.2、No.3、No.4より土師器細片が出土しているのみで詳細不明であるが、No.2と重複関係にあるP6006より、肥前産陶器の皿(図86-18)及び中国景徳鎮窯産の青花皿(図86-19)が出土している。青花皿は見込みに生け花文を描き、高台は蛇の目高台を呈する。1620～1640年のものであることからSA60002はそれ以前のものである可能性が考えられる。

SK60003桶埋設遺構(図85)

SK60003は平坦面6-1の西端で、SB60001掘立柱建物から西方1.4ｍに位置する。土坑の平面形は不整円形で径1.27～1.34m、深さ0.68mを測る。土坑上面では中央部径0.75mの範囲で土色が異なり多量の礫を含む。礫は下位に15～20cm程度の角礫を積み、その上に長軸0.41m、短軸0.3mの礫で下の礫を覆うように配置されていた。また、3層上面では2層埋土が輪状に貫入しており、土層観察と合わせて桶を設置した痕跡と判断した。桶の底径は0.65mで、設置状況は土坑内に砂質のにぶい黄橙色土(5層)を入れて水捌けや安定に配慮し、その上に桶の上半を地上に露出した状態で設置し、その周囲を土砂で埋め固めたもの(4層)と推定される。礫は桶上に積んでいたものが桶の腐食とともに桶内に崩落し埋没したものと考えられる。内容物の痕跡は認められなかったが、用途は礫を積んでいることより漬物か味噌桶か。なお、覆屋を想定し、精査したが検出されず、SB60001掘立柱建物裏の小スペースもしくは軒下を物置等として活用していたものと思われる。

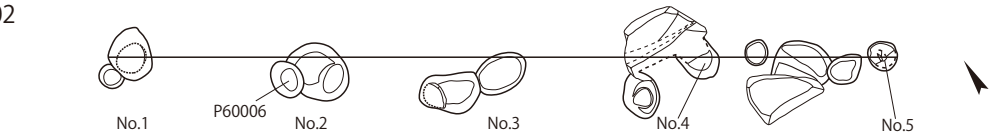
出土遺物(図86)

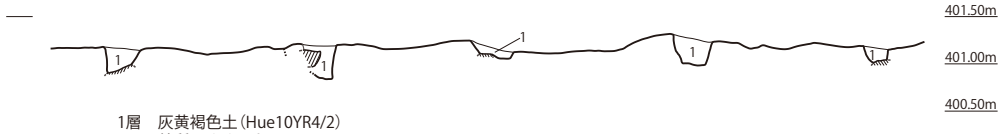
13は肥前産の染付碗で、外側面に網目文が描かれる。1650～1670年のものである。14は土師器の燈明皿で、底部外面には糸切り痕が残る。底部と口縁部の境は丸められる。口縁部の一部には煤・タールが付着する。

SK60004桶埋設遺構(図85)

SK60004は平面6-1の西端で、SK60003に近接する位置にある。土坑の平面形は円形で径0.75～0.8ｍ、深さ0.58ｍを測る。3層上面で桶底の痕跡と推定される弧状の窪みを検出し、SK60003同様に桶を設置した痕跡と判断した。3層の痕跡より桶の底径は0.65mであり、設置坑の形状の違いはあるものの同規模の桶と考えられる。また、埋設方法も同様に土坑内に砂質土を入れた後、桶を設置したものと思われ、底面の標高はほぼ同位である。内容物を限定できる痕跡は確認できていないがSK60004土坑は礫を含まないため、SK60003とは異なる用途に使用されたものと考えられる。

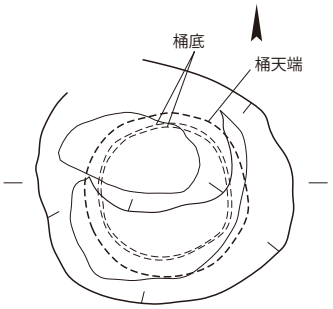
SA60002

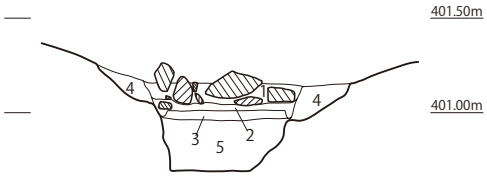




1層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
粘質でややしまる。
径5㎝大の褐色土ブロックと
3㎜大の炭化物片を少量含む。

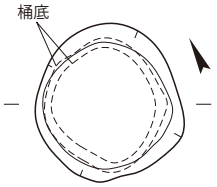
SK60003

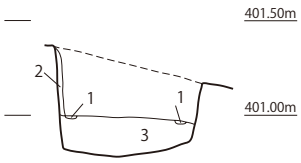




1層　にぶい黄褐土（Hue10YR6/3）
砂質でしまりなし。粗い砂粒で構成される。
径10～30㎝大の円礫を多く含む。
2層　黒褐色土（Hue10YR3/1）
粘質でしまりなし。径2㎜大炭化物片を少量含む。
桶状容器が土壌化したものと思われる。
3層　にぶい黄橙色土（Hue10YR7/4）
砂質でややしまる。粗い砂粒で構成される。
4層　黄褐色土（Hue10YR「5/6）
砂質でややしまる。径5㎝大の灰色土ブロックを少量含む。
5層　にぶい黄橙色　（Hue10YR6/4）
砂質でしまる。径1～3㎝大の花崗岩風化礫を少量含む。

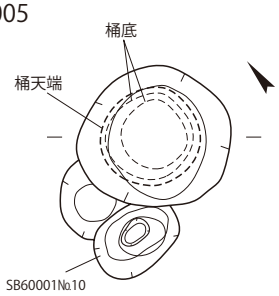
SK60004

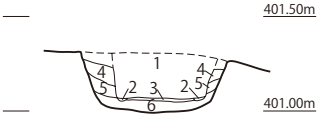




1層　灰黄褐色土（Hue10YR5/2）
粘質でしまりなし。
2層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）
砂質でややしまる。径2㎜大の炭化物片を少量含む。
3層　にぶい黄橙色土（Hue10YR6/4）
砂質でしまる。3～5㎝大の花崗岩風化土と粗い砂粒を多く含む。

SK60005



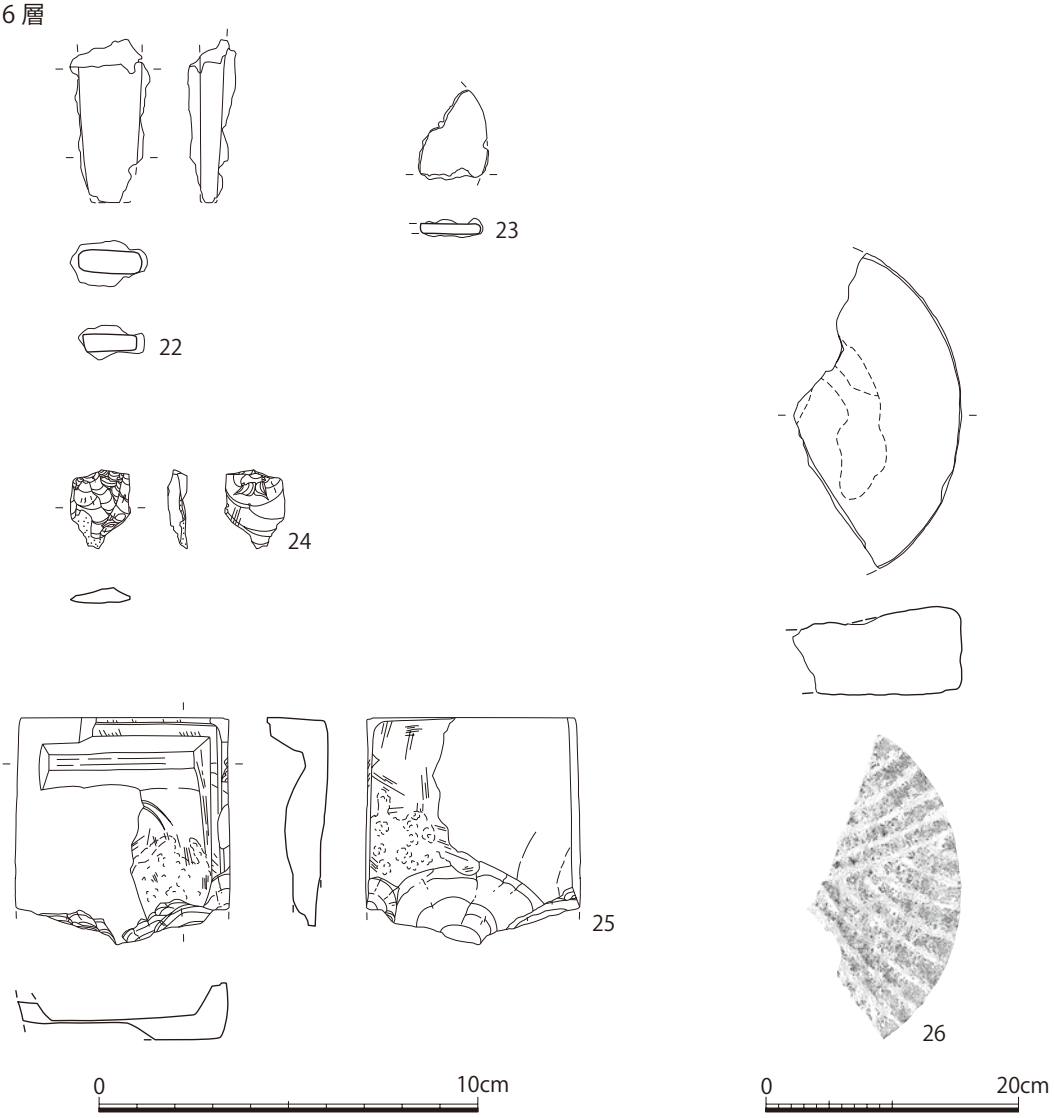


1層　灰黄褐色土（Hue10YR5/2）
砂質でしまりなし。径1㎜大の粗い砂粒で構成される。
2層　褐灰色土（Hue10YR5/1）
粘質でしまりなし。桶状容器の高台か?
3層　灰白色土（Hue10YR7/1）
砂質でややしまる。径3～5㎝大の花崗岩風化礫が少量含まれる。
容器を安定させるために入れた土と思われる。
4層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
粘質でややしまる。径5～8㎝大の赤褐色土ブロックを多く含む。
5層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
粘質でややしまる。赤褐色土ブロックが含まれない。
6層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）
砂質でややしまる。径3～5㎝大の花崗岩風化礫を多く含む。

図 85　平坦面 6-1　SA60002(1/80)、SK6003・4・5(1/40)

図 86　平坦面 6-1 の遺物実測図 1(1/3)

6 層



表土

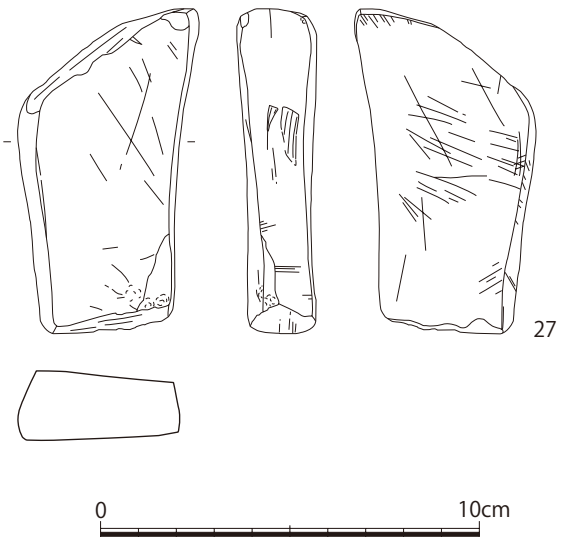


図 87　平坦面 6-1 の遺物実測図 2(1/2、1/6)

出土遺物(図86)

15は肥前産陶器のすり鉢であり、口縁部は玉縁状を呈し、鉄(泥)釉を施す。16は肥前産の染付碗で、17世紀後半のものである。17は土師器の燈明皿で底部と口縁部の境が丸く、口縁部の一部には煤・タールが付着する。

SK60005桶埋設遺構(図85)

SK60005はSB60001掘立柱建物内南西角に位置し、No.10柱穴を切って構築される。土坑の平面径は円形で径0.73～0.81m、深さ0.31mを測る。SK60003、SK60004同様、3層上面の弧状の窪み及び土層観察より桶の埋設坑と判断される。推定される桶の底径は0.47mで他の土坑のものより一回り小さい。また、設置方法においても、土坑内に砂質土を入れて桶を据えたものと思われるが、その厚みは薄く用途は桶の安定のためと限定できる。内容物を示す痕跡は確認できていないものの、建物内であること、西側に谷があることとより水桶と推定しておきたい。なお、小川内遺跡で検出された井戸跡はダム建設による移転時まで使用されていたものが大半であり、全域をめぐる有蓋水路は明治以降の所産と考えられることから、江戸期では明確な取水施設が検出されておらず、湧水もしくは谷水を利用していたものと推定される。

(2)平坦面6-2(図88・89)

平坦面6-2は平坦面6の南下に位置し、さらに下位に位置する平坦面6-3に挟まれた袋地に通路が接続するいわゆる旗竿地の形状を呈する。通路である旗竿部分も含めて長軸約41m、敷地である旗部分は長軸21m、幅約21mを測る。面積は調査対象地で約460m^2、西側の調査区外の敷地を含めると約650m^{2}である。北側を石垣により盛土で構築し、進入口は東側で平坦面6-1の進入口の脇に開く。

集落移転時の撹乱が著しく、撹乱を受けていない部分についても近現代の遺構が大半であり、通路部分においてSK60017土坑及びSK60018土坑を検出したのみである。そのため、下層の遺構面を検出すべくトレンチ調査に注力したが遺構面は検出できなかった。しかし、盛土構築について特徴的な知見を得た。

トレンチは通路部分の石垣を基準とし、集落移転時の撹乱を避けて長軸方向にNo.1、No.2、短軸方向にNo.3～5、通路部分にNo.6、No.7を設定した。なお、No.5は当初No.3の延長に設定したが、真砂土で埋めれた石垣造りの地下室があったためその西壁を利用した。その結果、No.1～3トレンチでは19世紀初から幕末の遺物を含む造成土層を検出し、旧小川内集落に現存していた建物が20世紀初頭とされることよりこの建物を建設するにあたって造成したものと推定される。さらに、これらの遺物を含む造成土は近隣から集積したものと推定されることより、北側へ拡幅した可能性が指摘できる。No.1トレンチの東側では薄い層が幾重にも重なり、約1世紀の間、何度も盛土した痕跡が確認でき、拡張ゆえの安定しない地盤であったことが窺える。なお、造成方法で特筆すべきは、礫の小山や簡易な石積みを南北方向に帯状に造り、その間を土で埋めて平坦面を構築していることであり、城の普請で見られる技法と同様であった。

一方、短軸方向のNo.4トレンチでは南側下層で湧水を伴う礫層にあたり、その礫群には人為的な配置は認められず、同方向に設置したNo.3トレンチでは確認できないことより、高位の地形も加味して河川堆積物と考えられる。また、近現代と思われる有蓋水路や素掘の水路が平坦面南西隅から延びていることからも旧河川の存在が推定できる。なお、この礫層上には人為的な盛土層が見られるが、主

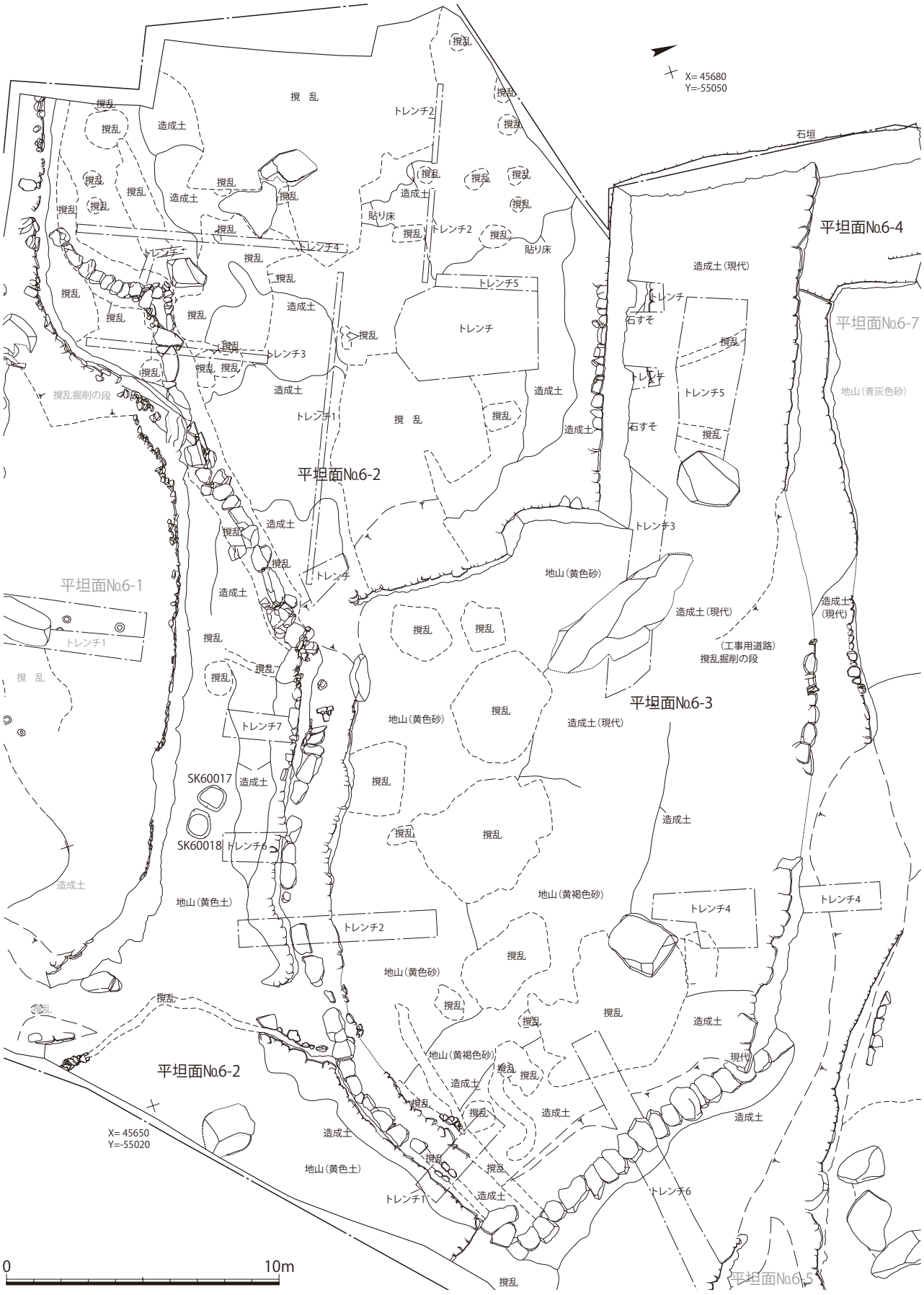


図 88　平坦面 6-2・3・4(1/200)

として14～15世紀の遺物が包含されており、近隣に当該期の遺跡があったものを削平し盛土に利用したものと思われる。

これらを総合して整理すると、19世紀以前に沢状の旧河川を中世の遺構を削平した土で埋めて平坦面を作り、近代にそれ以前の面を削平し、北側に拡張したものと推定される。

通路部分は平坦面6-1北側石垣に沿って設置されている。現況では幅6mであったが、これは現代の生活様式に合わせるため拡幅したものであり、通路内部より旧石垣を検出した。この旧石垣までは地山の切盛りにより構築されており、通路幅4ｍを測る。ただし、この石垣についても、No.6、7トレンチにおいて、石垣裏土が18世紀後半から19世紀の遺物を伴って通路の土層と不整合を成すこと、敷地部分から続く有蓋水路が石垣に水口を持ち、石垣の根石に沿って走行すること等から、敷地部分同様、近代に積み直されたものと解される。

出土遺物(図92)

1は白磁の紅皿で、貝殻状に型押し成形されたものである。19世紀のものである。2は肥前産白磁の皿で見込みを蛇の目釉剥ぎする。19世紀初めから幕末のものである。3は肥前産の染付端反碗である。肥前白石産か。4は肥前産の碗で、口縁部が外反気味に立ち上がり、外側面に丸文を配する。16・17は寛永通宝で、16は古寛永か、17は新寛永でいわゆる「文銭」である。16は背面の輪の厚さが薄く、文様帯との段差がわずかである。18は砥石である。両面及び片側側面を利用する。未使用の側面には成型時のノミ痕が残る。

SK60017土坑(図91)

平坦面6-2の通路部入口付近に位置する。平面形は不整円形で径0.87～0.92m、深さ0.38mを測る。素掘りの土坑であり、埋土より17世紀後半から18世紀前半の遺物が検出された。幾層かの遺物が接合することより、一括して人為的に埋められたものと考えらる。用途については不明であるが、現況面では物置として使用されていた場所であり、往時も同様に使用していた可能性が推定される。

出土遺物(図92)

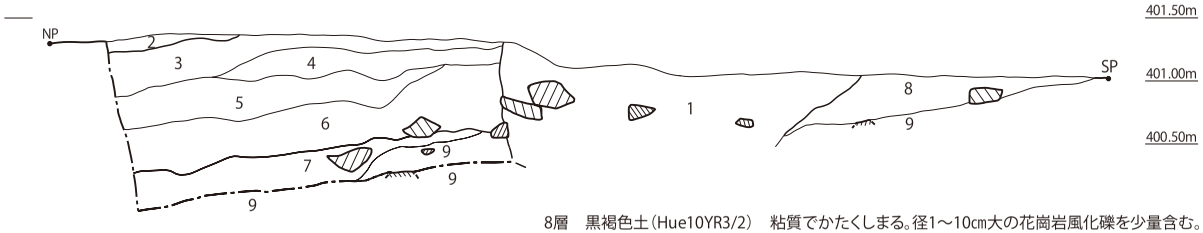
5は内野山窯系の陶器碗で、腰部で折れ体部は内湾気味に立ち上がる。17世紀第4四半世紀から18世紀前半のものである。6は肥前産陶器の擂鉢で口縁部を折り曲げて肥厚させ外反させる。内外面に鉄(泥)釉が施される。7・8は土師器の小皿で、底部には糸切り痕が残り、口縁部との境を丸く仕上げる。9は陶器の呉器手碗で、17世紀後半から18世紀初めのものである。4層からも同様の細片が出土している。

SK60018土坑(図91)

平坦面6-2の通路部入口付近に位置する。平面形は不整円形で径0.84～1.00ｍ、深さ0.45ｍを測る。素堀の土坑であり、埋土より18世紀後半から19世紀初めの遺物が検出された。SK60017土坑に隣接して掘られ、ほぼ同様の形態、規模を示す。埋土には小礫を多量に含み、幾層かの遺物が接合することより、一括して人為的に埋められたものと考えらる。SK600017土坑の出土遺物とは若干時期が異なるが、両者が近接することや同規模で埋土も類似することよりほぼ同時期の可能性が高い。

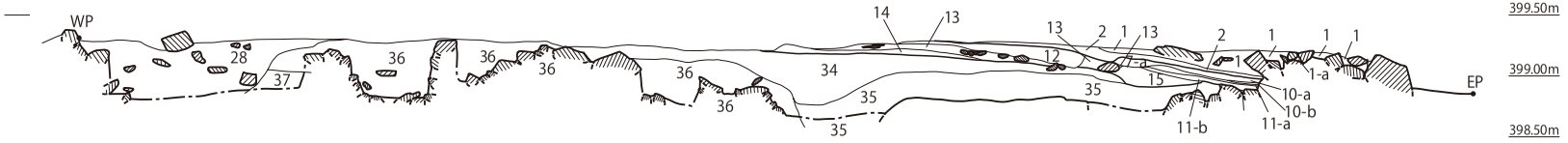
出土遺物(図92)

10は肥前産陶器の皿で、見込みを蛇の目釉剥ぎする。18世紀前半のものである。11・12は肥前産陶器の土瓶である。身は算盤玉状を呈し、蓋及び身の内側、身の外面下半部は露胎である。13は肥

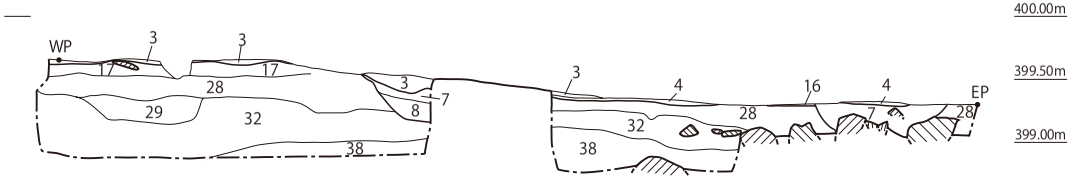


1層 暗褐灰色土（Hue10YR3/3）　粘質でしまりなし。撹乱。
　径0.5～3m大の花崗岩を大量に含む。
2層 褐灰色土（Hue10YR4/1）
　粘質でしまる。径1㎝大の花崗岩風化礫を少量含む。
3層 黄褐色土（Hue10YR5/6）　砂質でややしまる。径3～15㎝大の花崗岩礫を多く含む。また、3層上面では、赤褐色化したマンガン沈着がみられる。
4層 にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3）
　砂質でややしまる。径2～10㎝大の花崗岩礫を少量含む。
5層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2）　粘質でややしまる。
　径2㎝大の黄色土ブロックと径5㎜大の炭化物片を少量含む。
6層 暗褐色土　（Hue10YR3/3）　粘質でしまりなし。径3～12㎜大の炭化物片を多く含む。
7層 褐色土（Hue10YR4/6）　粘質でしまる。径10～30㎝礫を少量含む。
8層　黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質でかたくしまる。径1～10㎝大の花崗岩風化礫を少量含む。
9層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）　砂質でかたくしまる。径0.2～2m大の花崗岩礫を多く含む。

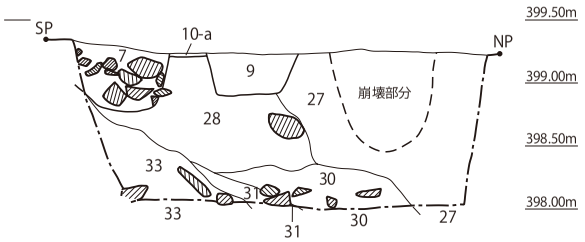
平坦面 6-1　トレンチ 1 東壁土層図



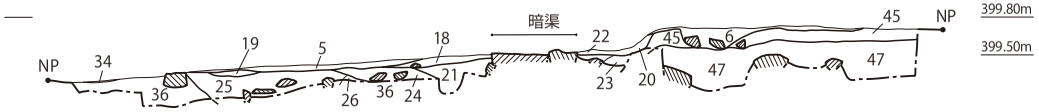
平坦面 6-2　トレンチ 1 北壁土層図



平坦面 6-2　トレンチ 2 北壁土層図

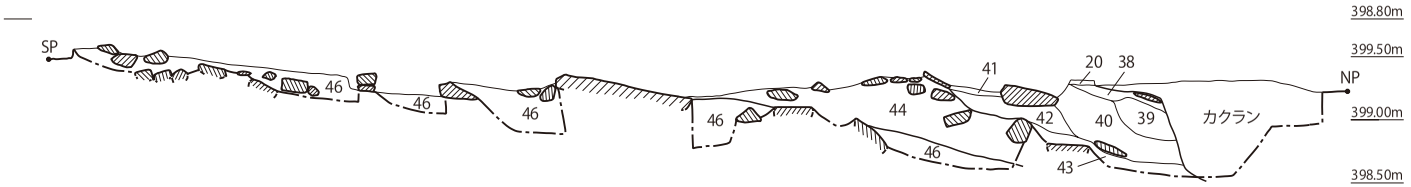


平坦面 6-2　トレンチ 5 西壁土層図



平坦面 6-2　トレンチ 3 東壁土層図

図 89　平坦面 6-1・2 土層図 (1/60)

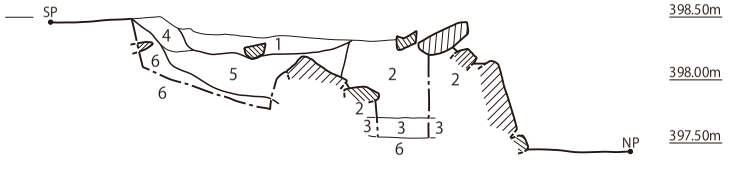


平坦面 6-2　トレンチ 4 西壁土層図

1層　黄褐色土（Hue10YR5/6）　砂質土でかたくしまる。10～30㎝大の礫を多量に含む。
2層　灰黄褐色土（Hue10YR4/4）　粘質土でかたくしまる。炭化物を少量含む。
3層　明黄褐色土（Hue10YR6/8）　粘質土でかたくしまる。
4層　明黄褐色土（Hue10YR6/6）　粘質土でかたくしまる。
5層　明褐色土（Hue7.5YR5/6）　粘質土でかたくしまる。
6層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3）　粘質土でかたくしまる。黒褐色土ブロックを多量に含む。
7層　明黄褐色土（Hue10YR7/6）　砂質土でかたくしまる。花崗岩風化土（マサ土）。5～20㎝大の礫を多量に含む。
8層　黄褐色土（Hue10YR5/6）　砂質土でかたくしまる。層の上面付近で褐灰色土が多量に混じる。
9層　橙色土（Hue7.5YR6/6）　粘質土でかたくしまる。
10-a層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3）　粘質土でかたくしまる。貼床。
10-b層　褐灰色土（Hue10YR4/1）　粘質土でかたくしまる。
11-a層　にぶい黄褐色土（Ｈｕｅ10YR6/4）　粘質土でかたくしまる。貼床。
11-b層　褐灰色土（Ｈｕｅ10YR4/1）　粘質土でかたくしまる。
12層　黄褐色土（Ｈｕｅ10YR5/6）　粘質土でかたくしまる。貼床。
13層　灰黄褐色土（Hue10YR5/2）　粘質土でかたくしまる。5～15㎝大の礫を多量に含む。
14層　明黄褐色土（Hue10YR7/6）　砂質土でかたくしまる。1㎝大の花崗岩を多量に含む。貼床。
15層　黄褐色土（Hur10YR5/6）　砂質土でかたくしまる。灰黄褐色土ブロックを多量に含む。
16層　黄褐色土（Hue10YR5/8）　砂質土でかたくしまる。花崗岩風化土（マサ土）。
17層　黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質土でかたくしまる。3～10㎝大の礫を少量含む。
18層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）　粘質土でかたくしまる。2㎜大の炭化物を少量含む。
19層　褐灰色土（Hue10YR4/1）　粘質土でかたくしまる。
20層　暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質土でかたくしまる。黄褐色土ブロックを多量に含む。
21層　暗褐色土（Hue10YR3/4）　粘質土でかたくしまる。褐色土ブロックを多量に含む。
22層　黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質土でかたくしまる。
23層　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）　粘質土でかたくしまる。褐色土ブロックを多量に含む。
24層　黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質土でかたくしまる。
25層　褐色土（Hue10YR4/6）　粘質土でかたくしまる。黄褐色土ブロックを多量に含む。
26層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）粘質土でかたくしまる。黄褐色土ブロクを多量に含む。
27層　黄褐色土（Hue10YR5/6）　砂質土でややしまる。マサ土。
28層　黄灰色土（Hue 10YR2.5Y4/1）　粘質土でかたくしまる。10～30㎝大の礫を多量に含む。
29層　褐色土（Hue10YR4/4）　粘質土でかたくしまる。褐色砂質土を多量に含む。
30層　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）　粘質土でかたくしまる。3～15㎝大の礫を少量含む。
31層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3）　砂質土でかたくしまる。暗褐色土を少量含む。
32層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3）　砂質土でかたくしまる。5～10㎝大の礫を少量含む。
33層　暗褐色土（Hue10YR3/4）　粘質土でかたくしまる。5～20㎝大の礫を少量含む。
34層　黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質土でかたくしまる。1㎝大の炭化物を少量含む。
35層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）　砂質土でかたくしまる。2㎝大の炭化物を多量に含む。
36層　明黄褐色土（Hue10YR6/6）　粘質土でかたくしまる。10～30㎝大の礫を多量に含む。
37層　暗褐色土（Hue 103/3）　粘質土でかたくしまる。10㎝大の礫を多量に含む。
38層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）　粘質土でかたくしまる。
39層　黄橙色土（Hue10YR7/8）　砂質土でかたくしまる。
40層　褐灰色土（Hue10YR4/1）　粘質土でかたくしまる。2㎜大の炭化物を少量含む。
41層　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）　粘質土でかたくしまる。2㎜大の炭化物を少量含む。
42層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）　粘質でかたくしまる。褐灰土ブロックを多量に含む。
43層　褐灰色土（Hue10YR5/1）　粘質でかたくしまる。
44層　暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質でかたくしまる。3～30㎝大の礫を多量に含む。礫層
45層　明黄褐色土（Hue106/6）粘質土でかたくしまる。所々にぶい黄橙色（Hue10YR6/4）部分がみられる。
46層　にぶい黄橙色土（Hue10ｙｒ6/3）　砂質でかたくしまる。花崗岩風化土。
47層　黄褐色土（Hue10YR5/6）　砂質土でかたくしまる。5～30㎝大の礫を多量に含む。

1層　黄褐色土（Hue10YR5/6）　粘質でかたくしまる。褐色土ブロックを多量に含む。
　　5～10㎝大の礫を少量含む。
2層　暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質でかたくしまる。5～10㎝大の礫を少量含む。
3層　にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）　粘質でかたくしまる。5～10㎝大の礫を多量に含む。
4層　褐色土（Hue10YR4/4）　粘質でかたくしまる。
5層　褐色土　（Hue10YR4/6）　粘質でかたくしまる。　4層より粘性が強い。
6層　黄褐色土（Hue10YR5/8）　粘質でかたくしまる。5～10㎝大の風化花崗岩を多量に含む。

平坦面 6-2　トレンチ 6 西壁土層図



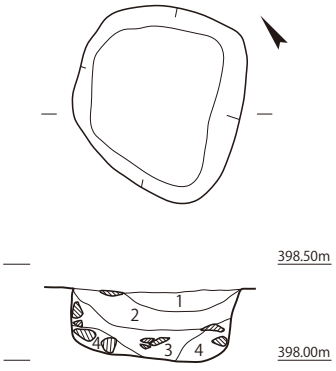
1層　灰黄褐色土
2層　暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質でかたくしまる。黄褐色土ブロックを多量に含む。5～20㎝大の礫を多量に含む。
3層　黄褐色土（Hue10YR5/6）　粘質土でかたくしまる。
4層　にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4）　粘質土でかたくしまる。1～5㎝大の礫を多量に含む。
5層　褐色土（Hue10YR4/4）　粘質土でかたくしまる。5～20㎝大の花崗岩を多量に含む。
6層　明黄褐色土（Hue10YR6/6）　粘質でかたくしまる。花崗岩を多量に含む。

平坦面 6-2　トレンチ 7 西壁土層図

0　2m

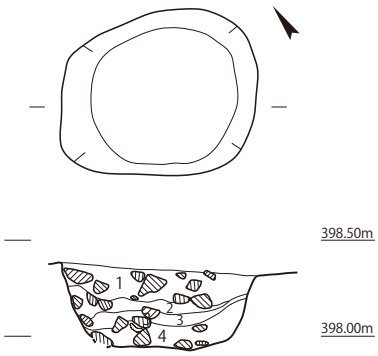
図 90　平坦面 6-2 土層図 (1/60)

SK60017



1層　黒褐色土（Hue10YR3/2）
　粘質ややしまる。径1㎝大の黄色土ブロックを少量含む。
2層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
　粘質でしまりなし。径5～10㎝大の礫を少量含む。
3層　黒褐色土（Hue10YR3/2）
　粘質でややしまる。径5～10㎝大の礫をやや多く含む。
4層　黒褐色土（Hue10YR3/2）
　粘質でややしまる。径10㎝大の円礫を少量含む。

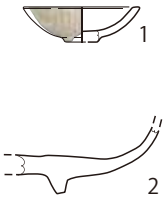
SK60018



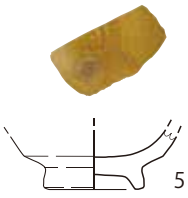
1層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
　粘質でしまりなし。径5～10㎝大の花崗岩礫を多く含む。
2層　灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
　粘質でしまりなし。径3㎝大の炭化物を多量に含む。
3層　黒褐色土（Hue10YR3/2）
　粘質でややしまる。径5㎝大の黄色土ブロックを多く含む。
4層　黒褐色土（Hue10YR3/2）
　粘質でややしまる。径1㎝大の炭化物片を少量含む。

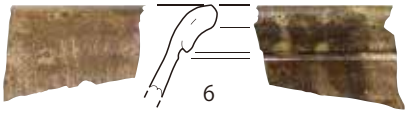
図 91　平坦面 6-2　SK60017・18(1/40)

トレンチ1-34 層

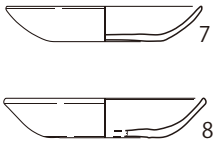


SK60017-1 層

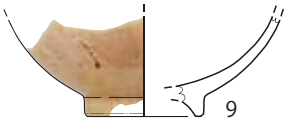




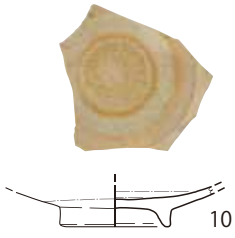
SK60017-2 層

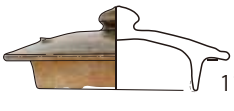


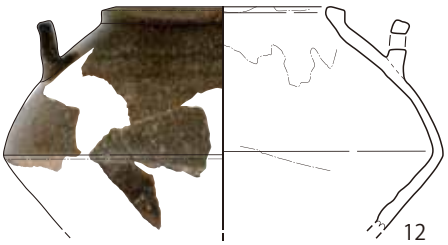
SK60017-3 層



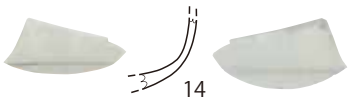
SK60018-1 層

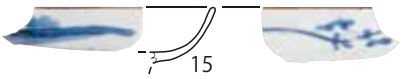




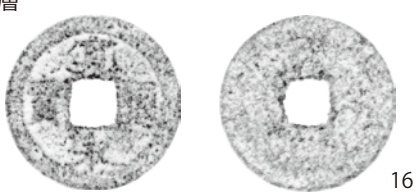


トレンチ2-32 層

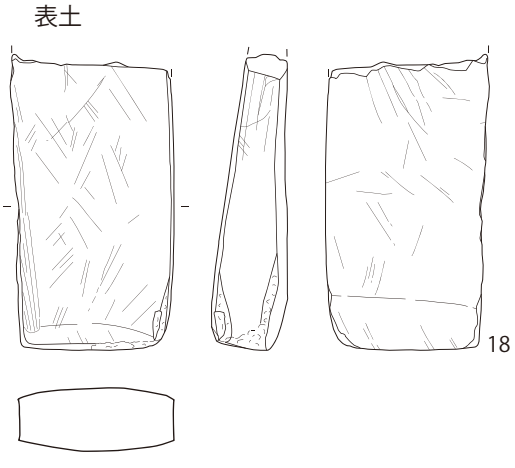




28 層



表土



表土

図 92　平坦面 6-2 の遺物実測図 (1/3、1/1、1/2)

前産染付の小碗で、外側面に梵字文を配する。1770～1810年のものである。14は体部が内湾気味に立ち上がる茶飲み用の染付碗である。18世紀後半から19世紀初めのものである。15は肥前産の染付皿であり、口縁端部に口紅を施す。18世紀前半のものである。他に、陶器の甕や擂鉢の小片も見られる。

(3)平坦面6-3(図88)

平坦面6-3は平坦面6-2の北方、1段下に位置する。東西40ｍ、南北19ｍで、平面形は不整な長方形で北西に長方形の突出部と北側に幅1.5～8.1mの帯曲輪状の通路が付く。この平坦面の入口は北東隅である。平坦面6-2の平面形と類似し平坦面6-2に対して巴形に配される。面積は現況で約540m^2、平坦面6-2の通路部分の拡幅分を取り除いた当初の面積は580m^{2}である。現代の度重なる土地改変の上、集落移転時と平坦面6-1へ続く工事用道路の削平、撹乱が著しく明確な遺構は検出できていない。そのため平坦面の構築及び下層の遺構面の確認のために6本のトレンチを設定し、それぞれNo.1、2は平坦面6-2の通路との関係を、No.3、5は遺構面の確認を、No.4、6は平坦面と通路の関係を把握することを主眼とした。

その結果、いずれのトレンチでもビニールやガラス片等を検出し、現代の土地改変は表面上だけではなく、かなり深いところまで及んでいることが判明した。さらに、西側の張り出し部については現代に平坦面6-2の内部から続くと思われる水路を2つに分け、張り出し部北側の石垣に2つの水口を設けて平坦面6-7へ落とすために新たに設置されたものであり、トレンチ3ではわずかに旧表土を検出し、18～19世紀の遺物が出土していることからも、平坦面6-3の旧形状は東側の長方形部分のみであった可能性が高い。

出土遺物(図95)

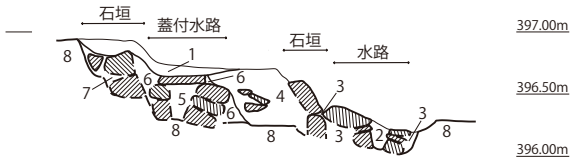
1は肥前産陶器の皿で、口唇部に溝を巡らせる。見込みに砂目を残す。2は肥前産の茶飲み用の碗であり、外側面に根引松文を配する。1820～1860年のものである。3も2と同様の染付碗で外側面に稲と鳥、見込みに鳥が描かれる。肥前白石産と思われる。4は肥前産の染付碗で見込みに寿字文が配される。5は肥前産の皿で見込みを蛇の目釉剥ぎする。18世紀後半のものである。なお、同トレンチ5の4層からは他に18世紀後半から明治の磁器が多量に出土している。6は肥前産の染付碗で若松文が描かれる。7は肥前産の白磁小坏で、口縁端部は外反し、畳付けには鉄泥を施す。18世紀後半から19世紀前半のものである。8は肥前の染付皿で内面松文、外面唐草文を配する。同4層からは他に2と同様の染付碗が出土している。9は安山岩の剥片である。11は赤褐色を呈する石材で、赤間硯と思われ、陸のみ残存する。硯背がわずかに内湾する。

(4)平坦面6-4(図88)

平坦面6-4は平坦面6-3の北西に位置する平面形方形を呈する小規模な平坦面で、面積18m^{2}を測る。特に遺構等も見られず、表土が厚く堆積していた。平坦面6-2北側の未調査箇所である張り出し部の前面でもあることより、現代に構築された補強のための平坦面と推定される。

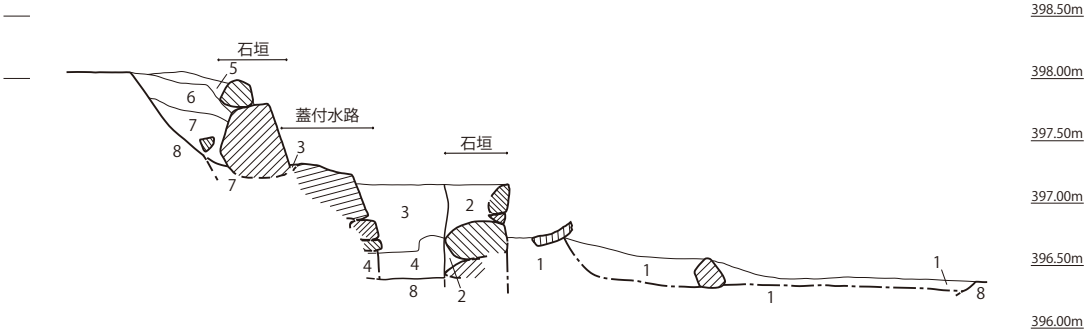
(5)平坦面6-5(図97)

平坦面6-5は平坦面6-3の北東下に位置する。調査区は平面三角形で面積40m^{2}を測るが、東方の調査区外に展開する水田の一部である。平坦面6-7から平坦面6-3へ至るルートとは異なるルート上に位置



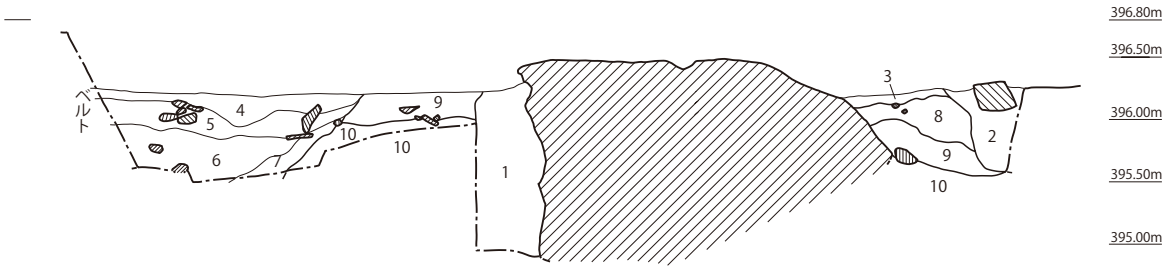
1層 褐灰色土（10YR4/1） 砂質でかたくしまる。ビニールを含む。
2層 灰黄褐色土（10YR4/2） 砂質でしまりなし。ビニール、プラスチックを含む。
3層 褐色土（10YR4/4） 砂質でしまりなし。径10㎝大の礫を多く含む。
水路裏込め土。ガラス片を含む。
4層 褐色土（10YR4/4） 砂質でややしまる。径10～20㎝大の角礫を多く含む。
石垣裏込め土。ビニールを含む。
5層 黒褐色土（10YR3/1） 粘質でしまりなし。ビニールを含む。
6層 明黄褐色土（10YR6/8） 砂質でしまりなし。蓋付水路の外側充填土。
ガラス片を含む。
7層 暗褐色土（10YR3/3） 粘質でしまりなし。径10㎝大の礫を少し含む。
8層 黄褐色土（10YR5/6） 砂質でかたくしまる。径10～30㎝大の風化した花崗岩
礫を多く含む。

平坦面 6-3 トレンチ 1 南壁土層図



1層 黒褐色土（Hue10YR3/1） 粘質がとても強く、しまりなし。ビニールやガラスを含む。現代の水路。
2層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でしまりなし。石垣裏込め土。ガラス片を含む。
3層 明黄褐色土（Hue10YR6/8） 砂質でしまりなし。蓋付水路の外側充填土。ガラス片を含む。
4層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でややしまる。鉄クギやガラスを含む。
5層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 砂質でややしまる。径5～10㎝大の円礫を多く含む。
6層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でしまりなし。径10㎝大の礫を少し含む。
7層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でしまりなし。径10～20㎝大の礫を少し含む。遺物は出土していない。
8層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でかたくしなる。径10～30㎝大の風化した花崗岩礫を多く含む。

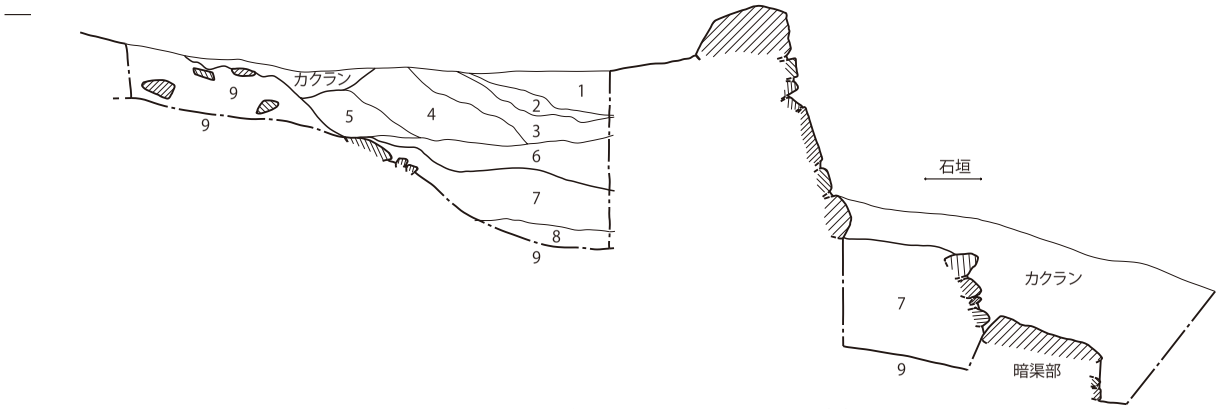
平坦面 6-3 トレンチ 2 西壁土層



1層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 粘質しまりなし。土管埋設のための掘り方。周囲の石には、削岩機の痕跡が残る。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。コンクリートブロックや木材を多量に含む。現代の年代のゴミ穴と思われる。
3層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でややしまる。径5㎝大の黄色土ブロックを多く含む。現代の造成土と思われる。
4層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 砂質でややしまる。径3㎝大の黄色土ブロックと径5㎜大炭化物片を少量含む。
5層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 粘質でしまりなし。径10～20㎝大の礫を少し含む。
6層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でややしまる。径10㎝大の花崗岩風化礫を多く含む。
7層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でしまりなし。粗い砂粒で構成される。
8層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でしまりなし。径5㎝大の礫を少し含む。
9層 黒褐色土（Hue10YR2/2） 粘質でしまりなし。径5㎝大の礫を少し含む。
10層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でかたくしまる。径30㎝～1m大の礫を多く含む。遺物は出土していない。

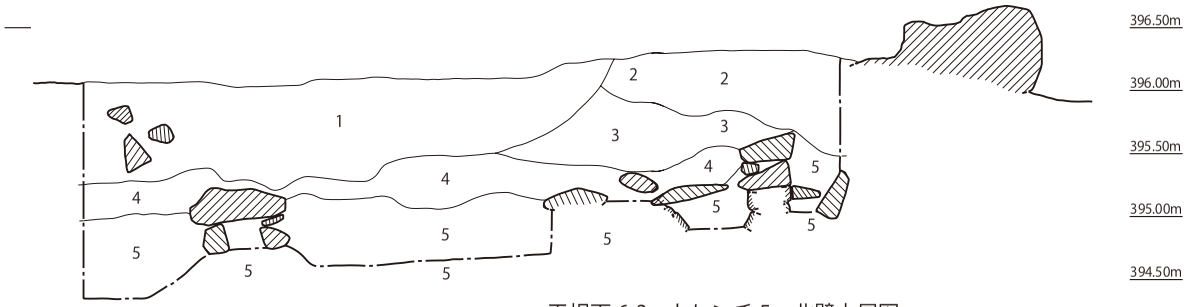
平坦面 6-3 トレンチ 3 北壁土層図

図 93 平坦面 6-3 土層図 1(1/60)



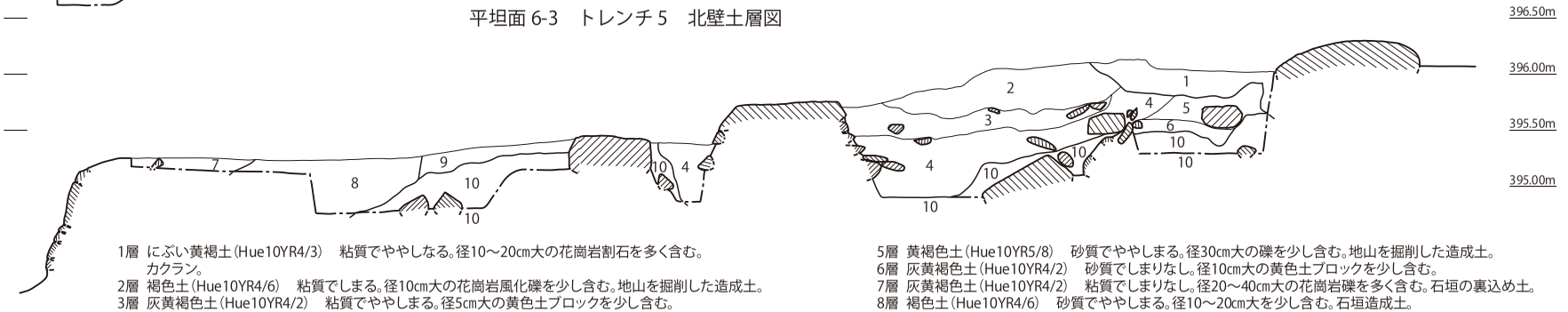
1層 褐色土（Hue10YR4/8） 砂質でややしなる。径1～5cm大の黄色土ブロックを多く含む。
2層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でややしまる。径3cm大の黄色土ブロックを少し含む。
3層 暗褐色土（Hue10YR3/4） 粘質でしまりなし。径5～10cm大の黄色土ブロックを多く含む。
4層 黒褐色土（Hue10YR2/2） 粘質でしまりなし。径1cm大の黄色土ブロックを少し含む。
5層 黒褐色土（Hue10YR2/2） 粘質でしまりなし。径1cm大の黄色土を多く含む。
6層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でしまりなし。真砂土のみで構成される。
7層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。径2cm大の黄色土ブロックを少し含み径10cm大の花崗岩礫を多く含む。
8層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でしまりなし。径1cm大の炭化物片を多く含む。
9層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でかたくしまる。径30cm～1m大の礫を多く含む。地山。

平坦面 6-3 トレンチ 4 西壁土層図



1層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でしまりなし。現在の造成土。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でしまりなし。現在の造成土。
3層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でややしまる。径10cm大の花崗岩風化礫を多く含む。地山を掘削した現代の造成土。
4層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でしまりなし。径10～30cm大の花崗岩礫を多く含む。また、赤褐色マンガンが多く見られる。現代の造成土。
5層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 砂質でしまりなし。径30～60cm大の花崗岩礫を多く含む。また、湧水が著しい。現代の造成土。

平坦面 6-3 トレンチ 5 北壁土層図

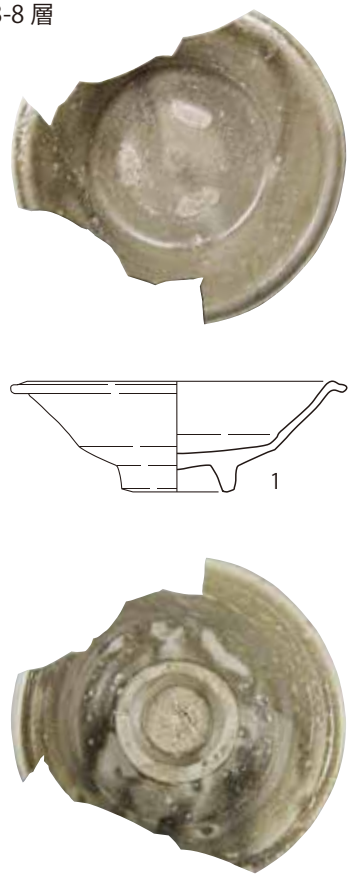


1層 にぶい黄褐土（Hue10YR4/3） 粘質でややしなる。径10～20cm大の花崗岩割石を多く含む。カクラン。
2層 褐色土（Hue10YR4/6） 粘質でしまる。径10cm大の花崗岩風化礫を少し含む。地山を掘削した造成土。
3層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でややしまる。径5cm大の黄色土ブロックを少し含む。石組暗渠の蓋石の目張りの可能性がある。
4層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でしまりなし。径15～30cm大の花崗岩礫を多く含む。
5層 黄褐色土（Hue10YR5/8） 砂質でややしまる。径30cm大の礫を少し含む。地山を掘削した造成土。
6層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でしまりなし。径10cm大の黄色土ブロックを少し含む。
7層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。径20～40cm大の花崗岩礫を多く含む。石垣の裏込め土。
8層 褐色土（Hue10YR4/6） 砂質でややしまる。径10～20cm大を少し含む。石垣造成土。
9層 黄褐色土（Hue10YR5/8） 粘質でややしまる。径5mm炭化物片を少し含む。
10層 黄褐色土（Hue10YR5/8） 粘質でかたくしまる。径20～60cm大の花崗岩風化礫を多く含む。

平坦面 6-3 トレンチ 6 南壁土層図

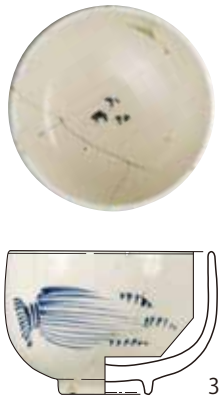
図 94 平坦面 6-3 土層図 2(1/60)

トレンチ3-8 層

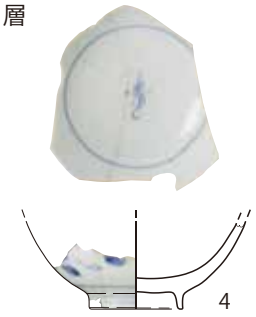


トレンチ4-6 層

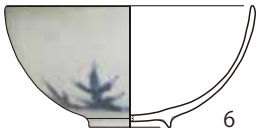
トレンチ4-7 層



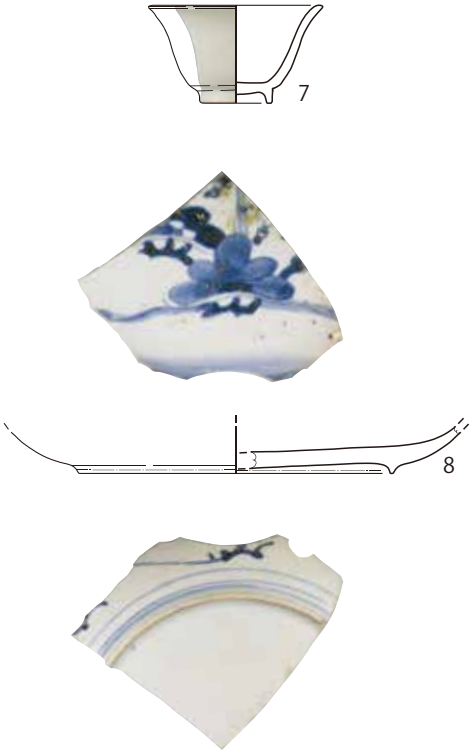
トレンチ5-4 層



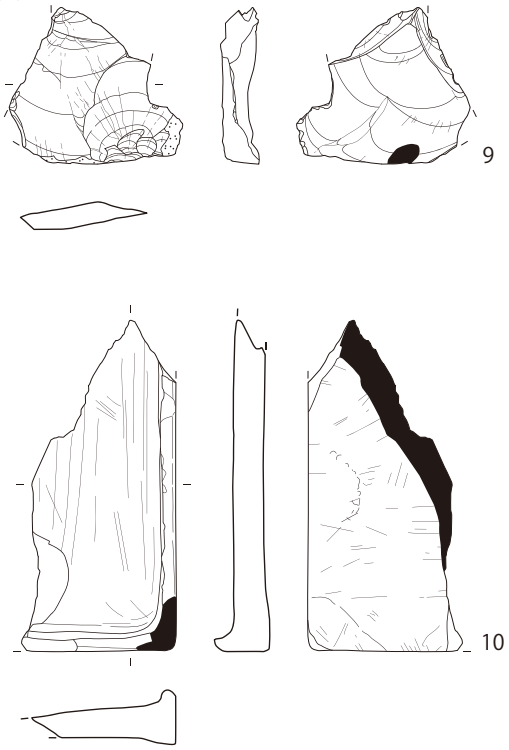
トレンチ5-5 層



トレンチ6-4 層



検出面



0 10cm

0 10cm

図 95　平坦面 6-3 の遺物実測図 (1/3、1/2)

する。遺構等は検出されておらず、石垣には地山に露頭する巨大な花崗岩を利用して構築されている。

(6)平坦面6-6(図97)

平坦面6-6は平坦面6-5の北側下に位置する。平坦面6-5同様、水田の一部である。遺構等は検出されていない。西側の平坦面6-1、6-7で掘立柱建物を検出していることから勘案すると、集落開始期より田畑と居住域は明確に区別され、時代を経ても踏襲されてきたことが窺える。

(7)平坦面6-7(図96・97)、平坦面6-7-2(図98)

平坦面6-7は、平坦面6-3、6-4の北下で、平坦面6-5、6-6の西下に位置する。南北方向の不整長方形で、「く」の字形にわずかに屈曲する。最大長は南北方58m、東西方向約26mで、面積1,355m²を測る。旧小川内集落では南北に走る通路により長方形の地割と三角形の地割の東西2区画に分割して使用されていた。それぞれの面積は東側約560m²と西側約650m²を測る。入り口は北側石垣の中位にスロープが設けられる。

平坦面6-7では2ヶ所にわたってトレンチを設定し、平坦面の構築と下層の遺構面の確認を行った。東側に設けたトレンチ1では現代の層である1層を検出し、現況の石垣は現代に構築したものであり、幅約2m程北側に拡張していることを確認した。2層は17世紀末から18世紀前半の遺物を含み、層上面で掘立柱建物を検出している。1層と2層間に礫が多数見られ、花崗岩の岩礫を含み自然堆積と考えられる3層が1層と2層の下に延びていることより、旧来2層を保持する低い石垣があった可能性が窺える。このため2面にわたって調査を実施している。

西側に設けたトレンチ2では、調査時には1層中より有蓋水路を検出したことにより簡易水道と誤解したためか昭和30～40年の造成とされたが、この有蓋水路は先立って実施された民俗調査において20世紀初頭頃の建築とされる家屋下に位置し、1948(昭和23)年撮影の米国陸軍撮影空中写真にも現況と同形の宅地が認められることより、この家屋以前、つまり20世紀初頭以前の造成と推定され、さらに1層からは18世紀後半から19世紀初めの遺物が出土していることより、それ以後から明治にかけての造成と考えられ、これまでの平坦面や民俗調査による成果と整合する。また、1層と3層を分かつ高さ約0.6ｍを測る石垣2を検出しているが、石垣2前面にある有蓋水路が、これまでの検出例では通路上を走行していることから勘案すると、旧来この石垣2までの敷地であったものを当該期に拡幅したものと推定される。4層からは16世紀末から17世紀後半の遺物が出土しており、石垣2はそれ以降に構築されたものと推定されるが、石垣2に伴うと思われる3、5、6層上面では遺構は確認できていない。また、石垣2の南側に石積みが検出され、調査時には石垣3として解されるが4層のグリ石層の一部とも看取でき、平坦面6-2で見られたような造成上の所作の可能性も考えられる。なお、有蓋石組水路の時期判断の誤りにより、当該地の平面的な遺構確認がされなかったことは、事前の試掘調査で小穴群を確認していただけに残念である。

このため、平坦面6-7上で検出された遺構はいずれも東側に限られ、掘立柱建物4棟、土坑5基、小穴を検出している。掘立柱建物は平坦面東側中央部に位置し、ほぼ同時期の4棟が重複して検出され、建て替えによるものと推定されており、その順序は最も古いSB60021からSB60020、SB60019となる。土坑、小穴もこの建物群の周囲に位置し、この位置が居住域として限定的に使用されていたことが窺える。

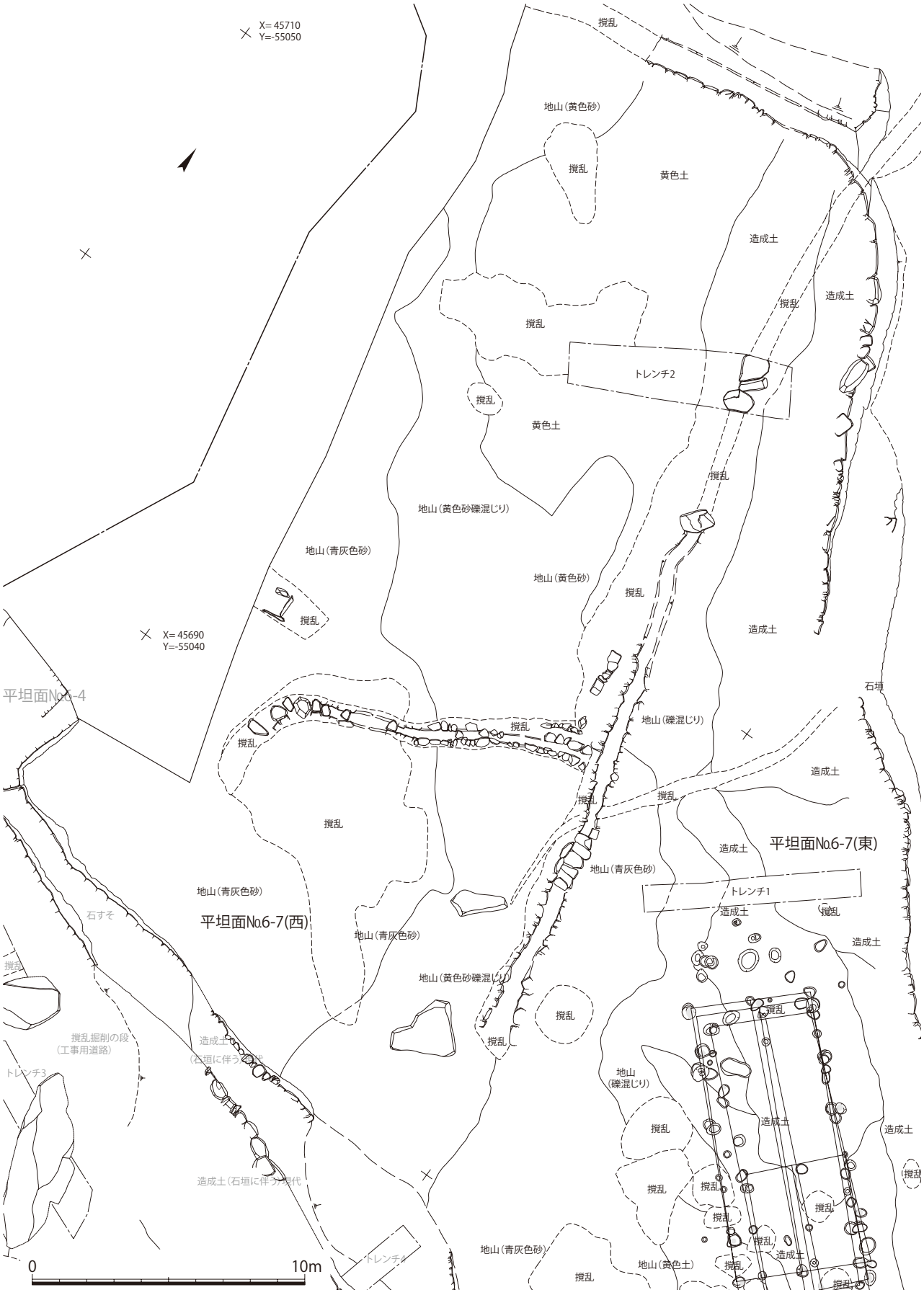


図 96　平坦面 6-7(西)(1/200)

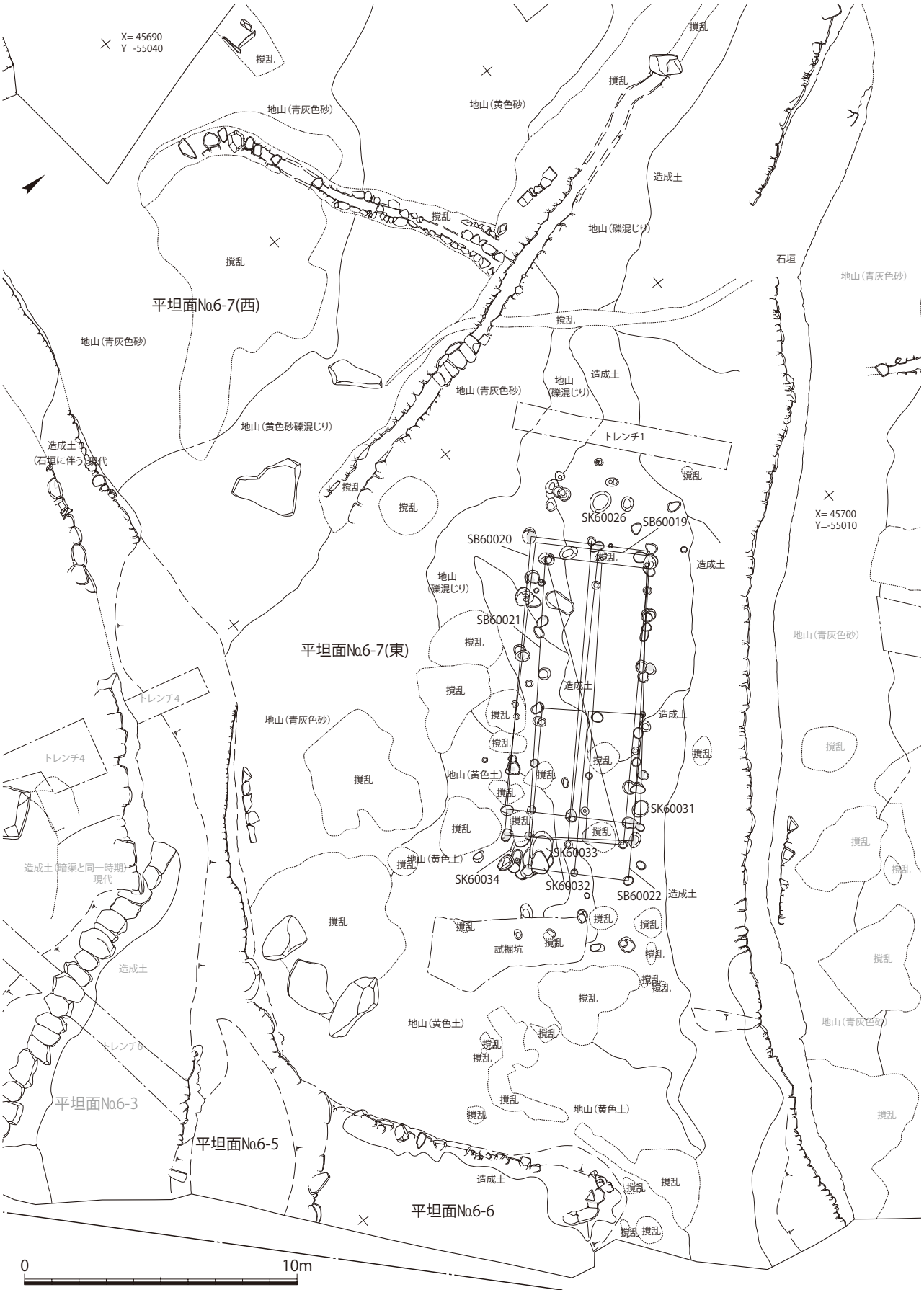
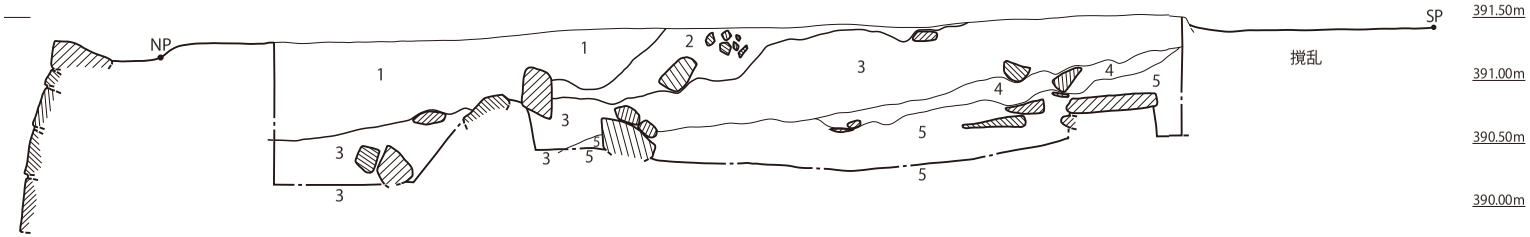


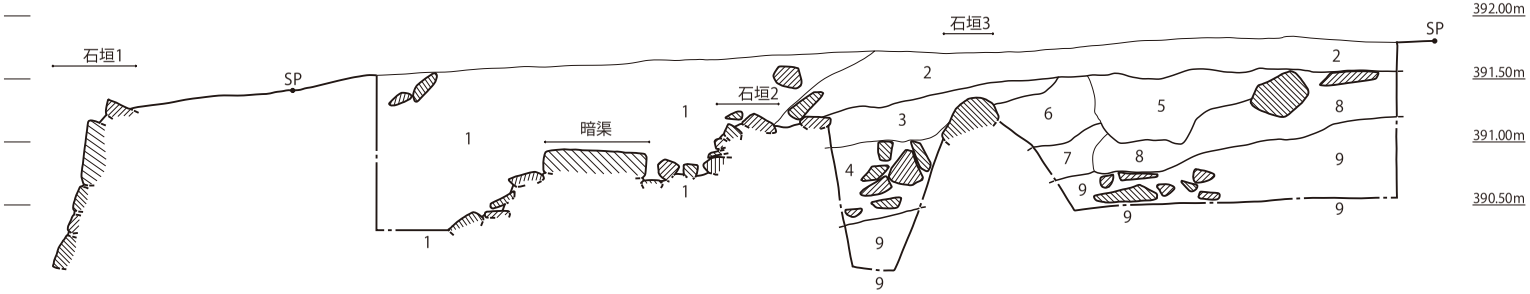
図 97　平坦面 6-5・6・7(東)(1/200)

図 98　平坦面 6-7(東)-2(1/200)



1層 灰黄褐土（Hue10YR4/2） 砂質でややしなる。径15～30㎝大の礫と径5㎜大の炭化物を少量含む。現代の造成土と思われる。
2層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でしまる。径10～20㎝大の礫を少し含む。また2層層上面にて掘立柱建物が確認できることからも近世期の造成土と思われる。
3層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でかたくしまる。径10～30㎝大の礫を多く含む。
4層 褐色土（Hue7.5YR4/6） 砂質でしまりなし。水分が沈着しマンガン等が多い。
5層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でかたくしまる。径20～70㎝大の礫を多量に含む。

平坦面6-7トレンチ1東壁土層断面図



1層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でしまる。径5～10㎝大の花崗岩礫を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 砂質でややしまる。径5㎜大の炭化物片を少し含む。
3層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でややしまる。粗い砂粒で構成される。
石垣2に伴う造成土と思われる。
4層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でしまりなし。径20～40㎝大の花崗岩礫を多量に含む。
遺物は3層同様のものが出土しており、石垣2に伴う裏込め土と思われる。
5層 暗褐色土（Hue10YR3/4） 砂質でややしまる。径0.5～1㎝大の炭化物片を少し含み、粗い砂粒で構成される。
6層 黒色土（Hue10YR2/1） 砂質でややしまる。径10～30㎝大の花崗岩礫を多量に含む。
7層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でしまりなし。径10～40㎝大の花崗岩礫を多量に含む。
遺物は中世が主体である。また、石垣3は7層上に設置される。
8層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でしまりなし。径1㎝大の炭化物片を少し含む。
遺物は中世が主体である。自然流路に伴う堆積土である。
9層 褐灰色土（Hue10YR6/1） 砂質でかたくしまる。粗い砂粒で構成され径10～80㎝大の花崗岩礫を多量に含む。

平坦面6-7トレンチ2東壁土層断面図

0 2m

図 99 平坦面 6-7 土層図 (1/60)

出土遺物(図101・105)

1は肥前産の釜型陶器で、多久市保四郎窯産と思われる。露胎である下半部のみ残存する。18世紀前半のものと思われる。2は肥前有田産の白磁の小鉢または皿であり、型押しで口紅を有する。17世紀末から18世紀前半のものである。3は肥前の染付碗で、18後半から19世紀初めのものである。4は高台内施釉された灰釉皿で、唐人古場窯産である。5は陶器の鉄釉皿で1590～1630年のものである。6は中国産青花碗である。1層出土の細片と接合した。7は肥前産の染付碗で、17世紀後半のものである。8は肥前産の染付皿であり、内面に花蝶文を描く。28～30は土鈴である。いずれも手づくね成形で、球形の体部の上端をつまみ上げ穿孔を施す。体部下半には鈴口が開く。31は煙管の雁首の火皿部分のみ残存する。32は扁平で短冊状を呈する砥石である。すべての面を使用する。32は石(碾)臼である。下臼であるが、中央部に軸受け孔、周囲に受皿部を有する。底部は中央部が著しく窪み、袴状を成す。目の主溝は８分割と思われる。ふくみを持たず受皿部を有することより茶臼の可能性が考えられる。34は寛永通宝で新寛永である。

SB60019掘立柱建物(図100)

SB60019掘立柱建物は小川内遺跡で検出した建物跡の内最大のもので、桁行５間、梁行２間で、建物規模は桁行9.9m、梁行5.0mを測り、建物方向はN-47°-Wを向く。14本 の柱で構成され、桁行の柱間は芯々1.76～2.26ｍであるがおおよそ６尺５寸の柱間を基本としたものと推定される。一方梁行の柱間は1.97～2.50ｍとなり、６尺５寸の２間半の２つ割りと考えられる。なお、南側桁行の柱列の北側半間の位置で数基の柱穴を検出しており、南側の一部に縁を持つ可能性も指摘できる。

柱穴の形状は長楕円形で、径は0.34～0.66m、深さは0.24～0.40mを測り、その一部に0.18～0.23mの柱痕が認められる。柱痕内部には炭化物を含むものが見られ、火災もしくは焼却等、この建物の廃絶に係る状況を示していると言える。

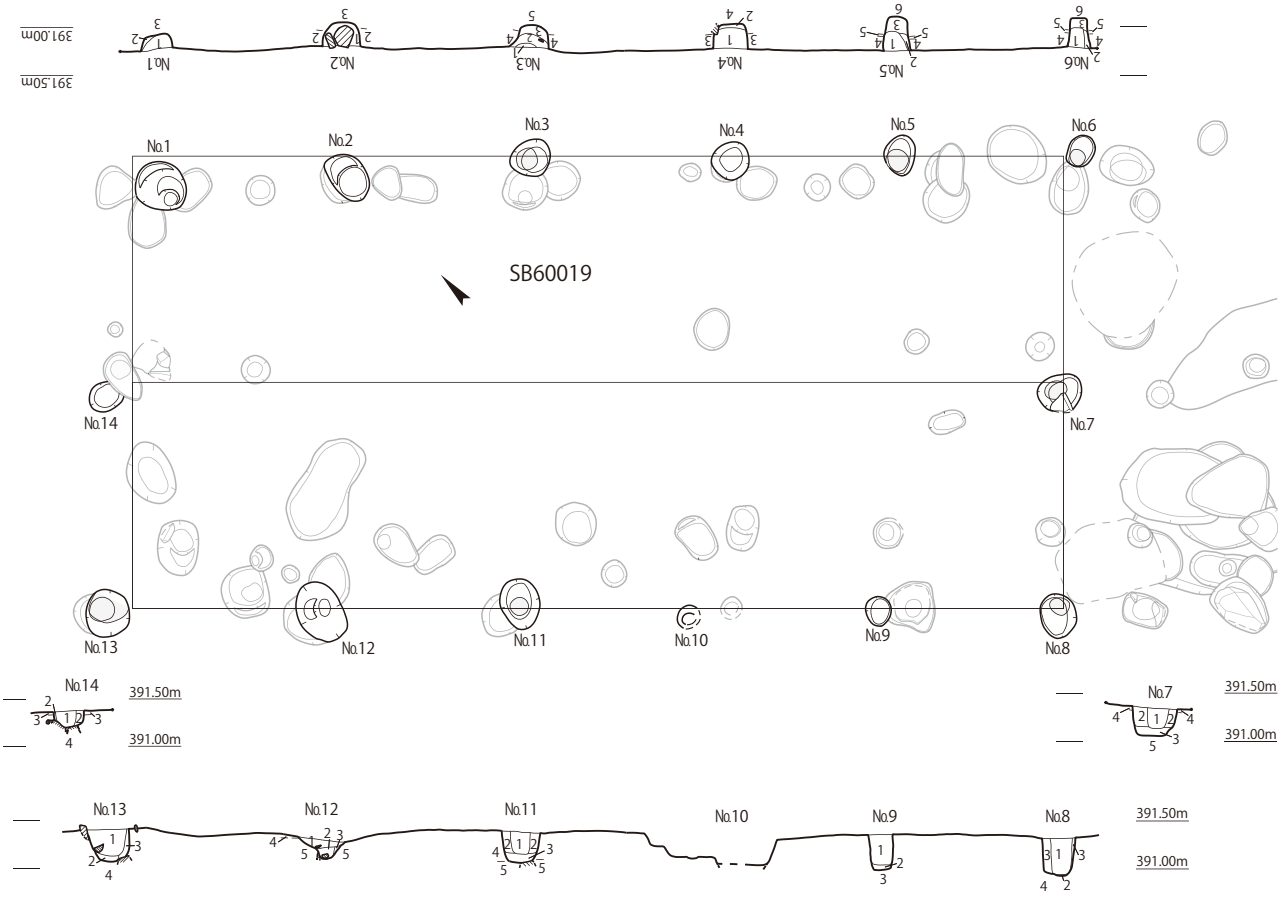
建物の向きは平坦面の石垣の畧線に並行して建てられているように見えるが、トレンチ1において石垣2を検出しており、この石垣に伴う面上に当該遺構が存在していることより、現況の石垣は旧石垣の方向を踏襲して構築したものであり、本来はこの石垣2に沿って建てられていたものと考えられる。その場合、建物と石垣の間隔は約1.9mと推定され、石垣畧線より1間幅控えて建てたものと推定される。

また、柱穴No.3、4、6、8から陶磁器、土師器が出土しているが、いずれも17世紀後半から18世紀前半のものであり、この建物の時期を示すものと思われる。なお、北東隅のNo.6の柱穴の柱痕からは染付皿が出土しており、建物廃絶に係る祭祀としての役割が推定できる。

なお、調査では平坦面6-7-2として第2面目の検出を実施しているが、No.1トレンチの土層図から遺構面は見い出せず、検出した遺構が第1面の建物群周囲に密集することやSK60104土坑から18世紀末から幕末期の遺物が出土する等、撹乱が多数あったことによる第1面の検出漏れである可能性が高い。

出土遺物(図101・105)

9は土師器の燈明皿である。底面には糸切り痕を残し、口縁内外綿の一部に煤・タールが付着する。10は土師器の小皿であるが、口縁端部が欠損しており燈明皿の可能性も考えられる。11は土師器の坏であり口縁が肥厚し、端部に面を持つ。12はNo.4柱穴の2層出土の肥前の青磁碗で、1680～1710年のものである。1層出土の細片と接合した。13はNo.6の柱痕より出土した肥前波佐見産の染付



No.1
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
2mm～3cm大の炭化物、褐色土ブロックを多量に含む。
2層 灰褐黄色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

No.2
1層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック多量に含む。
5～20cm大の礫を少量含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.3
1層 黒色土(Hue10YR2/1) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量に含む。
3層 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質でかたくしまる。
3cm大の礫、2mm大の炭化物を少量含む。
4層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層
5層 黄褐色土(Hue10YR5/6)) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.4
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック、2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを少量含む。
3層 褐色土(Hue10YR4/4) 粘質でかたくしまる。
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
3～5cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.5
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
暗褐色土ブロックを多量に含む。
2mm大の炭化物を少量含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
3層 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック2mm大の炭化物を少量含む。
4層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
3cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層?
5層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
6層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。

No.6
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。
4層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
5層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
3cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層?
6層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。

No.7
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でしまりなし。
黄褐土ブロックを少量、2～5mm大の炭化物を
多量に含む。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
明褐色土ブロックを多量に含む。
3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを少量含む。
4層 灰褐色土(Hue 7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
5層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.8
1層 灰黄褐色土(Hue10YR5/2) 粘質でしまりなし。
黄褐土ブロックを少量含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4) 粘質でかたくしまる。
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック2mm大の炭化物を多量に含む。
4層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.9
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐土ブロック。2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 粘質でややかたくしまる。
黄褐土ブロック。2mm大の炭化物を多量に含む。
3層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.11
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でしまりなし。
炭化物が充填している。柱が焼けた痕跡か。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐土ブロックを多量。2mm大の炭化物を少量含む。
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 粘質でかたくしまる。
4層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
5層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

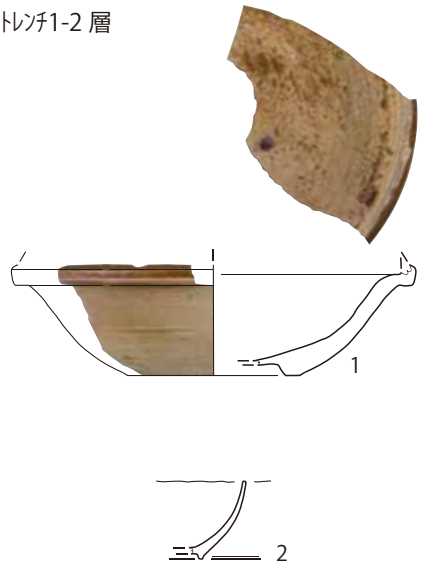
No.12
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
褐灰色土ブロックを多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
3～5mm大の礫を少量含む。
3層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 粘質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層
5層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
5～10cm大の花崗岩を多量に含む。

No.13
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
褐灰色土ブロック、2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量に含む。
3層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロックを多量に含む。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質土でかたくしまる。

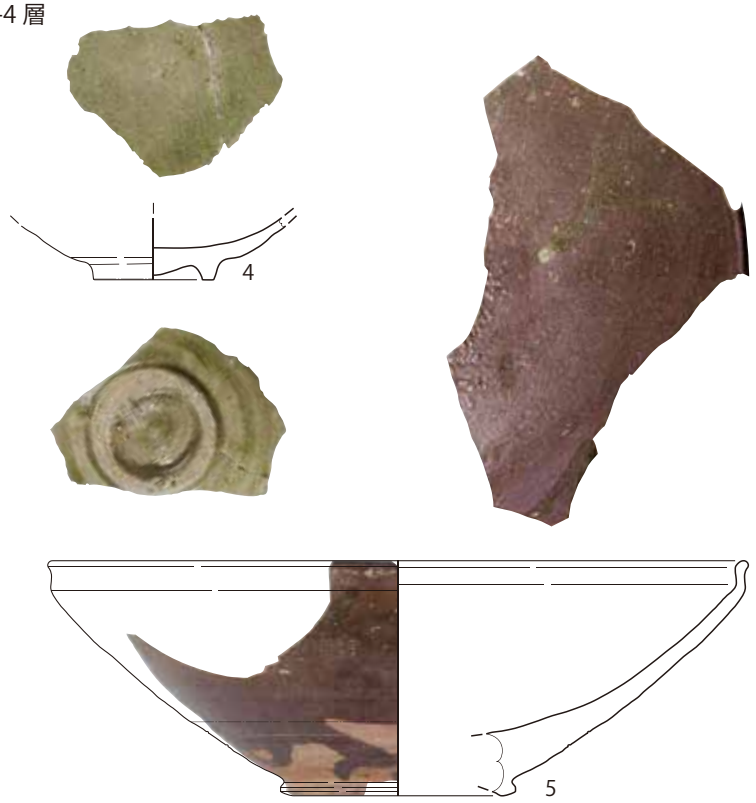
No.14
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でしまりなし。
黄褐土ブロック、3mm大の炭化物を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
明褐色土ブロックを多量に含む。
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層図2層
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
3～5cm大の礫を多量に含む。
※平坦面6-7トレンチ1土層図3層

図 100 平坦面 6-7 SB60019(1/80)

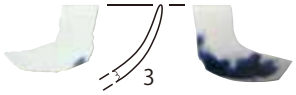
トレンチ1-2 層

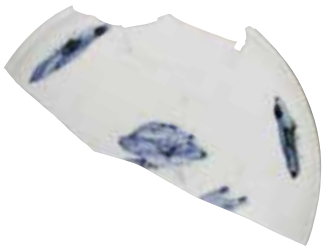


トレンチ2-4 層

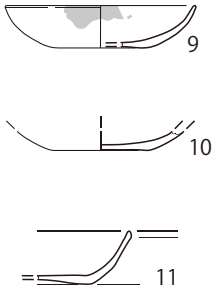


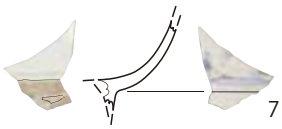
トレンチ2-1 層

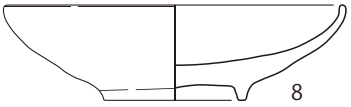




SB60019 No.3-2 層

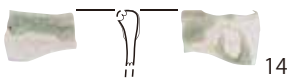






SB60019 No.6-1 層

SB60019 No.8-3 層



SB60019 No.4-2 層

SB60019 No.11-2 層

図 101　平坦面 6-7 の遺物実測図 1(1/3)

皿で、見込みを蛇の目釉剥する。17世紀後半のもので、廃絶時期を示す資料として重要である。14は肥前産陶器の火入れである。口縁端部のみに施釉する。15は白磁の紅皿である。内面菊花状に型打ち成形される。1680～1710年のものである。30は土鈴である。紐孔周辺のみ残存する。

SB60020掘立柱建物(図102)

SB60020掘立柱建物は桁行５間、梁行２間で、建物規模は桁行10.9m、梁行4.4mを測り、建物方向はN-47°-Wを向く。14本の柱で構成され、桁行、梁行の柱間は1.97～2.26mであり、７尺２寸の柱間を基本としたものと推定される。柱の形状は不整円形で、径は0.28～0.59m、深さ0.1～0.62mを測る。No.9は柱穴底に自然石が見られ、それ以下の掘削が不可能だったためか、そのまま礎板様に使用しているため他の柱穴に比べて浅い。柱穴No.1、3、13から17世紀後半から18世紀前半の陶磁器及び土師器が出土している。SB60019掘立柱建物に切られており、柱穴の幾つかが重複し、桁行方向がほぼ同じことより建て替えられたものと推定される。

出土遺物(図105)

16は肥前産の陶器の瓶で頸部から肩部が残存する。肩部は折れ、体部は直線的に延びるものと思われる。17世紀後半から18世紀初めのものである。17は肥前産の染付の手塩皿で糸切り細工である。燈明皿として使用されたと思われ、口縁部角にタールの付着が見られる。18世紀前半のものである。18は土師器の小皿である。底部と口縁部の境を丸く仕上げる。19は肥前の内野山窯系の陶器皿で、内面銅緑釉、外面透明釉を施す。17世紀後半のものである。20は肥前武雄系の陶器の鉢で内外面に鉄(泥)釉を施す。

SB60021掘立柱建物(図103)

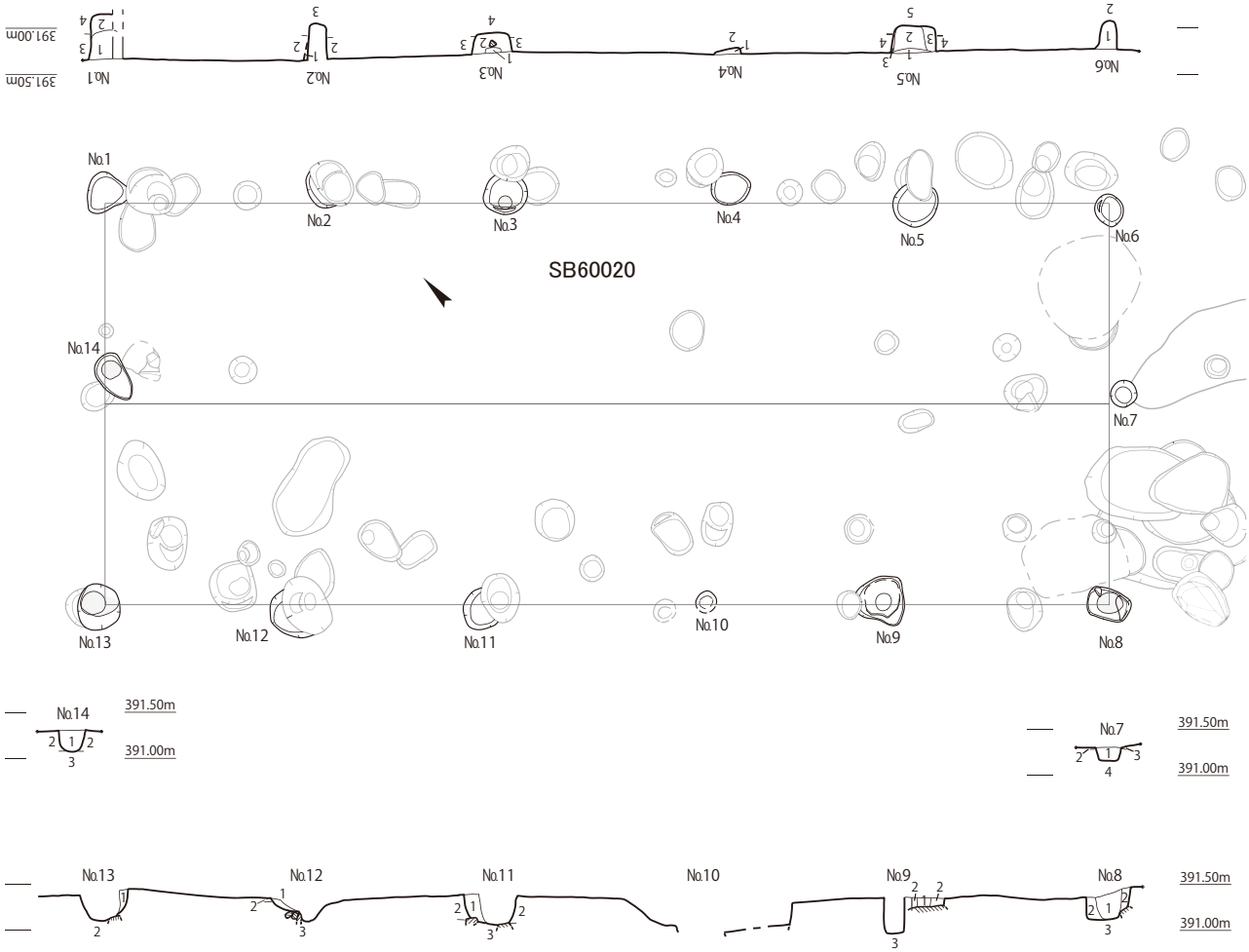
SB60021掘立柱建物は桁行５間、梁行２間で、建物規模は桁行10.0m、梁行3.9mを測り、建物方向はN-48°-Wを向く。14本の柱で構成されると思われるが、一部撹乱により消滅している。桁行、梁行の柱間は1.85～2.27ｍであり、６尺５寸の柱間を基本としたものと推定される。柱穴の形状は円形および長楕円形で、径は0.28～0.58ｍで、深さ0.15～0.48mを測る。柱穴の一部には柱痕が残り、柱穴No.2、9、10、12からは17世紀後半から18世紀前半と思われる陶磁器細片及び土師器が出土している。北側の桁行柱列は他の柱穴と重複し、その切合関係よりSB60020以前の建物であることが分かる。さらに、SB60021の柱痕には炭化材が見られ、建て替えたと考えられるSB60020掘立柱建物の柱穴埋土内には炭化物が見られることは、火災による消失の可能性が考えられる。

出土遺物(図105)

21は土師器の坏で端部を肥厚させ、外面に面を持つ。22は土師器の小皿であり、口縁端部に面を持ち、底部と口縁部の境を丸く仕上げる。

SB60022掘立柱建物(図104)

SB60022掘立柱建物は桁行３間、梁行２間で、建物規模は桁行6.0m、梁行3.9mを測り、建物方向はN-47°-Wを向く。10本の柱で構成される。桁行、梁行の柱間は1.74～2.25mであり、６尺５寸の柱間を基本としたものと推定される。柱穴の形状は円形および楕円形で、径は0.22～0.5ｍで、深さ0.07～0.22ｍと比較的浅いものが多い。柱穴の一部には柱痕が残り、その径は0.14～0.26mを測る。SB60019掘立柱建物と重複関係にあり、SB60019より古い。時期については、混入と思われる土師器



No.1
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
1～5mm大の炭化物、黄褐色土ブロックを多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.2
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7チレンチ1土層 3層

No.3
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
1～5mm大の炭化物、黄褐色土ブロックを多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.4
1層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量に含む。
2層 灰褐色土(Hue10YR4/1) 粘質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

No.5
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐土ブロックを少量、2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック、2mm大の炭化物を少量含む。
3層 褐灰色土(Hue10YR5/1) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック、2mm大の炭化物を多量に含む。
4層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
5層 明褐色土(Hue7.5YR5/8)粘質でかたくしまる。

No.6
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック、褐色土ブロック、2mm～1cm大の
炭化物を多量に含む。
2層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる

No.7
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック、2mm大の炭化物を多量含む。
2層 褐色土(Hue10YR4/4) 粘質でかたくしまる。
3層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
4層 褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.8
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でしまりなし。
2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐土ブロックを多量に含む。
3層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.9
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でしまりなし。
黄褐土ブロック2mm大の炭化物を少量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐土ブロック、褐色土ブロック、
2mm大の炭化物を多量に含む。
3層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.11
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。

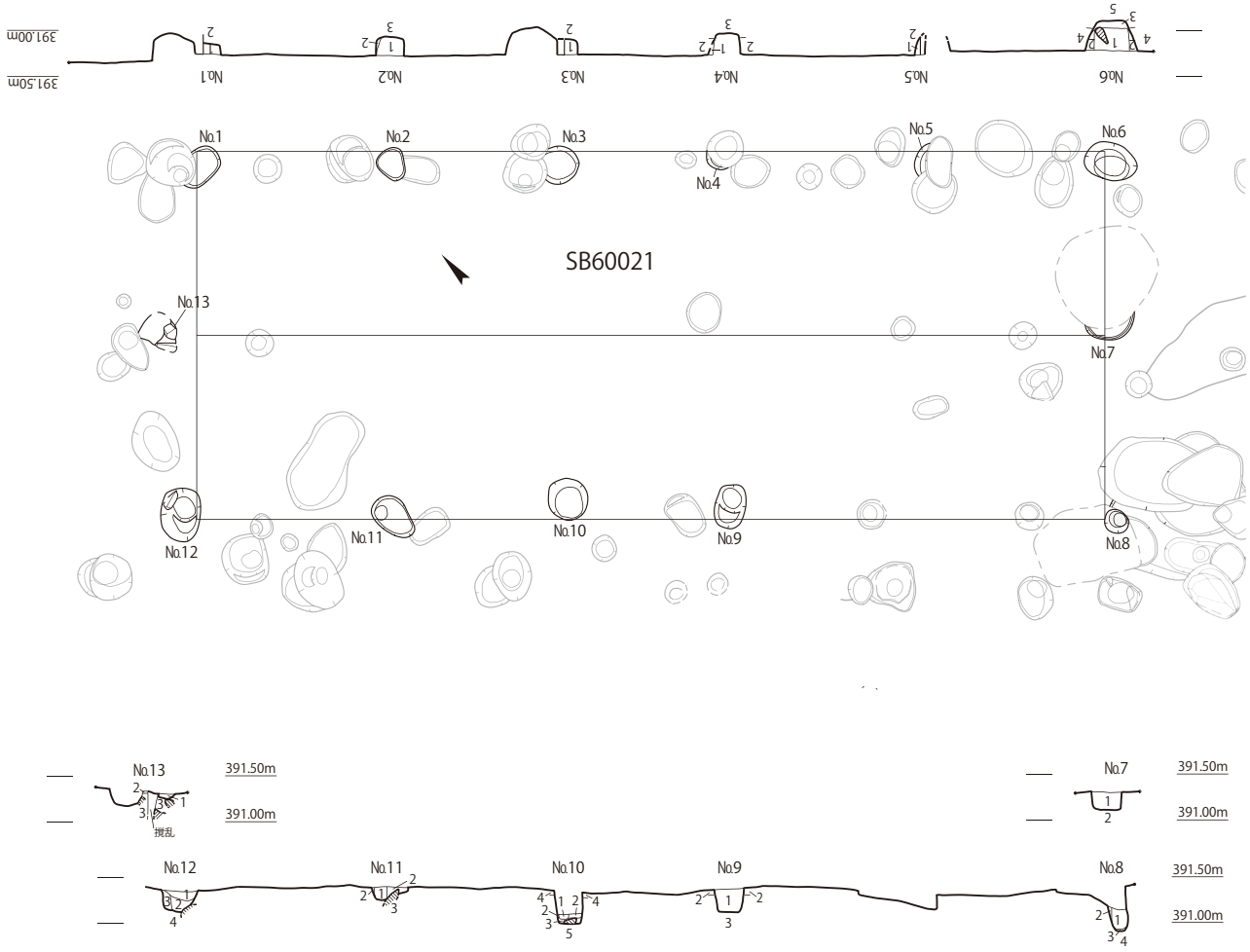
No.12
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
1～5cm大の礫を少量含む。
2層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層
3層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
※5～10cm大の礫を多量に含む。

No.13
1層 黒褐色土(Hue10YR3/1) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。
2層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.14
1層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

0 2m

図 102 平坦面 6-7 SB60020(1/80)



No.1
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

No.2
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
3層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

No.3
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

No.4
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック、2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.5
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐土ブロック、2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
平坦面No.6-7トレンチ土層 2層

No.6
1層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 砂質でかたくしまる。
黄褐土ブロック、褐灰色砂質土を多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
3層 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘質でかたくしまる。
4層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
5層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。

No.7
1層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
2層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。

No.8
1層 褐色土(Hue10YR4/4) 粘質でかたくしまる。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量含む。
3層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
4層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.9
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロック炭化物を多量に含む。
2層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。

No.10
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
炭化物を多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
4層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
5層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫をかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.11
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを少量含む。
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.12
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
褐色砂質土が多量に混じる。
2mm大の炭化物を少量含む。
4層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.13
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
※平坦面No.6-7チレンチ1土層 3層

0 2m

図 103 平坦面 6-7 SB60021(1/80)

片が少量出土しているのみで特定はできないが、他の掘立柱建物と桁行方向を同じくすること、柱間が６尺５寸を基本としていること等から同様の時期と推定される。

SK60031桶埋設遺構(図104)

SK60031は平坦面6-7東に位置し、建物群の北東方に隣接する位置あたる。土坑の平面形は楕円形で長軸方向0.69m、短軸方向0.55m、深さ0.21mを測る。検出時に暗褐色土(1層)が輪状に巡っており桶底の痕跡として考えられ、土層観察より約0.09m程にぶい黄褐色土で土坑内を均した後、褐色土を用いて桶を設置したものと推定される。復元される桶の底径は0.45mであり、SB60019以外のいずれかの建物の軒下に設置されたものであろう。遺物は陶器の細片が出土したのみであるが、周辺関係より、建物群同様17世紀後半から18世紀前半と考えられる。

SK60034土坑(図104)

SK60034土坑は平坦面6-7東に位置し、建物群の南東角に位置する。形状は楕円形と見られるが、周囲には土坑が重複しているため規模等は判然としない。深さ0.2mで、周辺の重複する土坑も同規模であることより、同様の意図をもってこの場所が建物の建て替えの度に選択的に利用されたものと思われる。

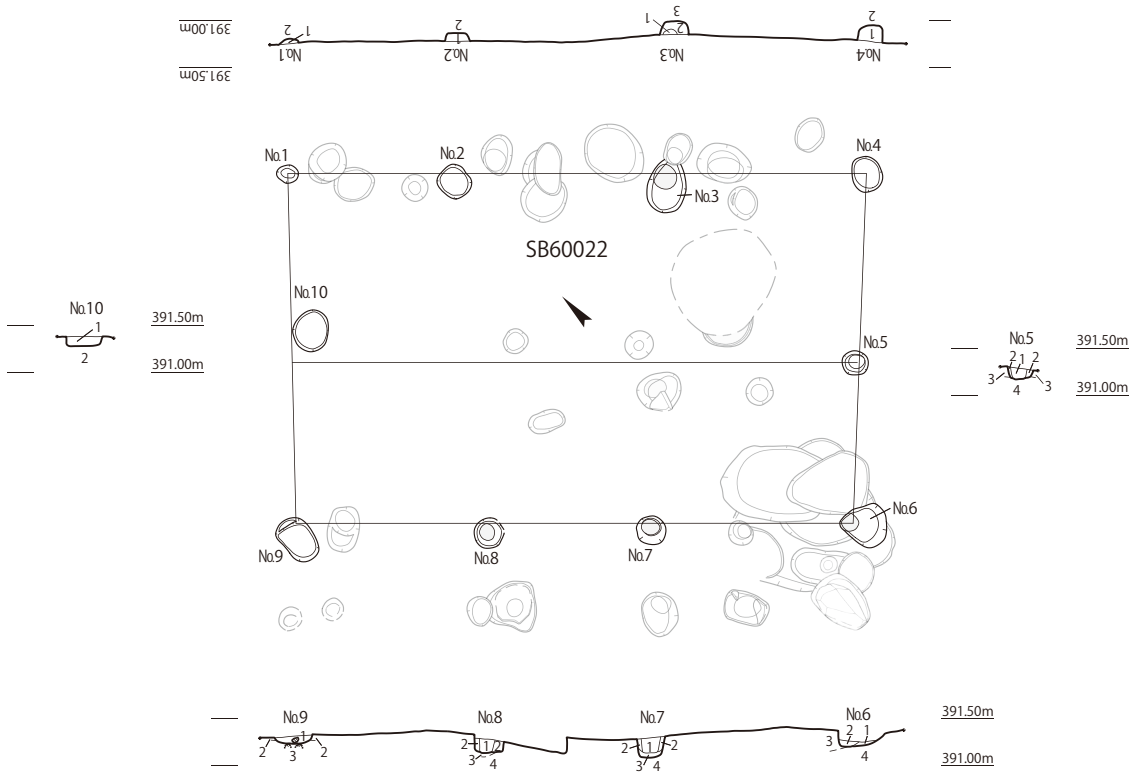
(8)平坦面6-8(図106・107)、6-8-2・6-8-3(図108・109)

平坦面6-8は平坦面6-7の北下に位置する。不整な方形を成す。最大長は南北24m、東西31mで、面積は約630m^{2}を測る。南北及び西側は石垣、東西は有蓋水路によって区画される。入り口は南西である。集落移転時の撹乱により明確な遺構が認められない第1面、造成土内部より検出された石垣に伴う第2面、石垣の北下の第3面を検出している。

トレンチ1を第1面で盛土と解される部分に設定している。1・2層は、上に明治末期建築と推定される建物が現存していたことより、明治の造成土と推定され、黄褐色土と黒褐色土の互層になる。3層以下では、2つの石垣とそれに伴う造成土を検出しており、造成土内出土遺物の時期は4層では18世紀後半、6層は17世紀後半から18世紀中頃、12層からは17世紀末から18世紀前半、13層は18世紀後半以降、14層は18世紀である。なお、調査時には14層は中世包含層とされていたが、染付皿が混入する。また、石垣前面の堆積層である9層では19世紀初めから幕末の遺物が見られる。このことより、18世紀後半頃に石垣構築及び平坦面造成が行われたものとすべきであるが、石垣下の石組み水路が一部で有蓋水路となっていることを勘案すると、石垣は水路と一体的に構築され、9層により被覆されたとみられ、幕末期以降の所作と考えるのが妥当と思われる。なお、6、7層は耕作土と推定され、一時期田畑として使用されていたことが分かる。

トレンチ1で認められた造成土上を第2面として調査を実施している。その結果、北側の石垣は2段で構成され、SW60105石垣からSW60106石垣の間は帯状の傾斜地となり、その幅は約1.5mを測る。また、SW60105裾からSW60106の天端までは約2mであり、1間の高さで設計されたものと推定される。調査所見では、この平坦面への進入通路として構築、使用されたものと考えられるが、トレンチ1の土層ではSW60105の裏土がSW60106を覆っており、その上に田畑が営まれていることより、石垣の継ぎ足しや時期差を考える必要があり注意を要する。

平坦面上では多数の小穴を確認したが、掘立柱建物や柵列などは見出し得なかった。



No.1
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 灰褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

No.2
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を少量含む。
2層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

No.3
1層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
2mm大の炭化物を多量に含む。
3層 灰褐色土(7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。

No.4
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロックが多量に混じる。
2層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。

No.5
1層 黄褐色土(Hue10YR5/8) 粘質でかたくしまる。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
3層 褐色土(Hue10YR4/4) 粘質でかたくしまる。
4層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.6
1層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを少量含む。
2層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
3層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量に含む。
4層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.7
1層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量に含む。
3層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを少量含む。
4層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

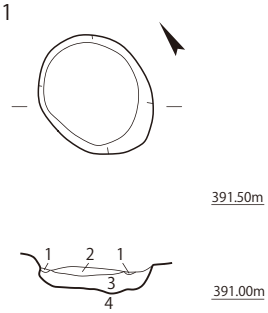
No.8
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2層 褐色土(Hue10YR4/4) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを少量含む。
3層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
4層 明褐色土(Hue7.5YR5/8) 粘質でかたくしまる。

No.9
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
3～10cm大の礫を多量に含む。
2層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。
3層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫が多量に混じる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 3層

No.10
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
3cm大の礫を少量含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1) 砂質でかたくしまる。
※平坦面No.6-7トレンチ1土層 2層

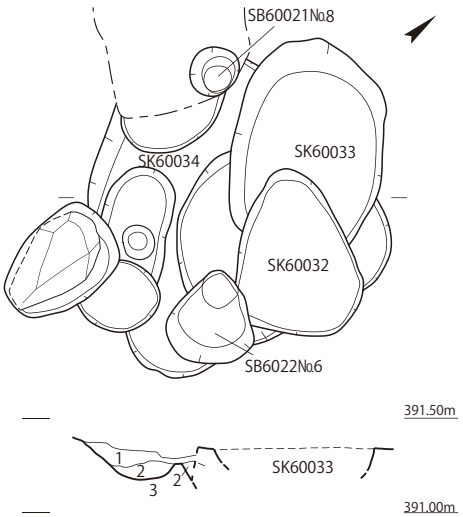
0 2m

SK60031



1層 暗褐色土(Hue10YR3/3)
粘質でしまりなし。
土と黄褐色土のブロックを含む。
2層 褐色土(Hue10YR4/4)
1～2mmの礫を多く、1～2mmの
炭化物を少量含む。
3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
磁器片、土師器片出土。
2～3mmの炭化物を少量、1mm大の礫を多く含む。
4層 灰褐色土(Hue7.5YR4/2) 粘質でかたくしまる。

SK60034



1層 褐色土(Hue10YR4/4)
粘質でかたくしまる。
黄褐色土のブロックを多く含む。
1mm大の礫を多く、長さ1cm大の
炭化物を少量含む。
2層 暗褐色(Hue10YR3/4)黄褐色土の
ブロックを含む。
1mm大の礫を多く含む。
3層 明褐色土(Hue7.5YR5/8))
粘質でかたくしまる。

0 1m

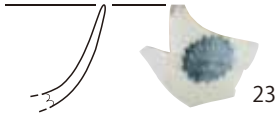
図 104 平坦面 6-7 SB60022(1/80)、SK60031・34(1/40)

SB60020 No.1-1 層

SB60020 No.3-1 層

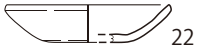
SB60020 No.13-1 層

SK60026



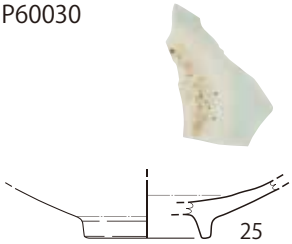
SB60021 No.9-1 層

SB60021 No.10-1 層

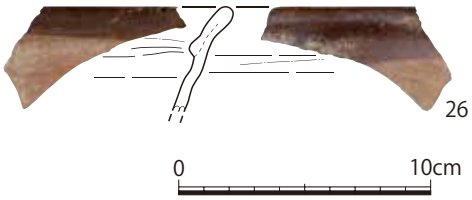


P60029

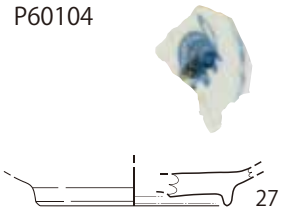
P60030



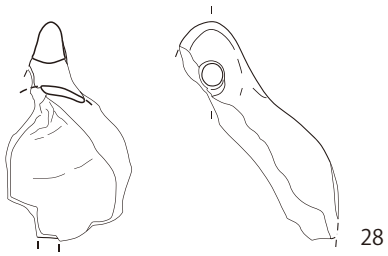
P60101



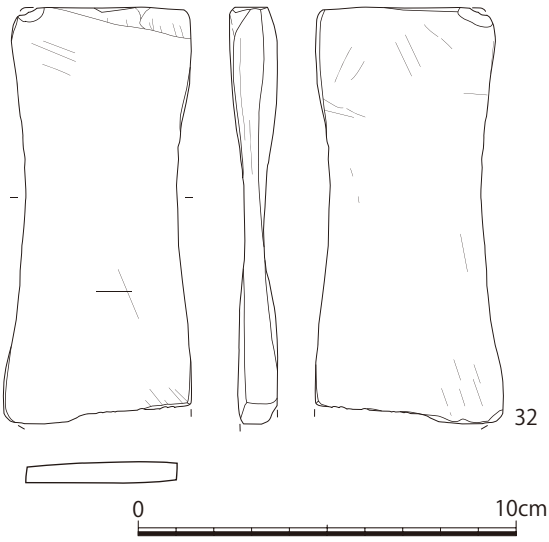
P60104



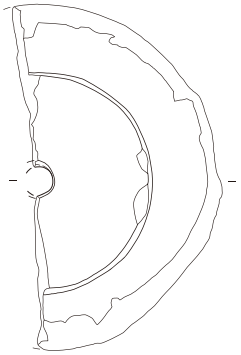
ﾄﾚﾝﾁ2-1 層



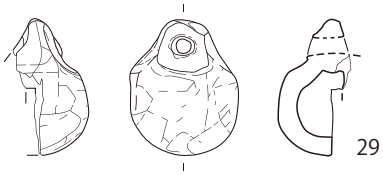
検出面



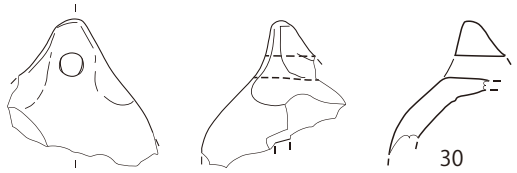
ﾄﾚﾝﾁ2-4 層



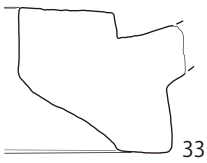
ﾄﾚﾝﾁ2-4 層



SB60019 No.4-1 層



平坦面 6-7-2 検出面



SK60026 1 層

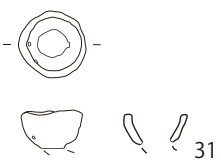


図 105　平坦面 6-7 の遺物実測図 2(1/3、1/2、1/6、1/1)

出土遺物(図110～116)

1は肥前波佐見産染付の小皿で、内面に松・梅文を配し、高台内銘款「大明」が入れられる。2は肥前産の染付の小皿で内側面に竹文が配される。18世紀後半のものである。3は土師器の小皿で、底部と口縁部の境を丸く仕上げる。4は肥前産の陶器の碗で、外面に刷毛目文を施した後、鉄絵で竹文を描く。5は肥前産の陶器瓶で、黒色の鉄釉を施す。6は肥前武雄産の二彩手の壺で、鉄絵で松文が描かれる。7は肥前志田産の染付の広東碗で、見込みに火炎宝珠を描く。1780～1810年のものである。8・9は肥前産染付の端反碗である。1820～1860年のものである。10・11は肥前産染付の蓋である。10は8と同様の文様を配することより揃いの可能性がある。12は肥前産の染付皿である。内面には桜花文を配する。13は産地不明の磁器の皿で、見込みを蛇の目釉剥ぎし、高台内は露胎である。口縁内外面に鉄釉で施文される。14は肥前産色絵の坏で、三足ハマ痕の上に葡萄状の文様を描いて隠す。15は瓦器の火鉢である。方形を呈し、器高が浅く、口縁部に印刻文が配される。外面調整は刷毛目後ナデであるが、下部を中心に刷毛目が残存する。16は寛永通宝で、2枚が癒着する。いずれも古寛永である。17・18は砥石であり、いずれも残存状況は悪く、18は研面が剥離したものである。19～22は石(碾)臼で19～21は上臼、22は下臼である。19は上面は皿状に窪み、縁部は傾斜する。ものくばりの孔が認められる。目の主溝は６分割されたものと推定される。20も19と形態が類似し、目の主溝は6分割されたものと推定され、回転方向に太い溝を重ねる。中心部には軸受孔が確認できる。21も19、20に類似する形態で、皿状に窪めた上面が著しく傾斜し、側面には方形の挽き手用のホゾ孔が確認できる。目の主溝は8分割されたものと推定され、ふくみが認められる。22は中央に軸受孔が見られるが、中央が窪む底面まで貫通する。23は肥前産染付碗で、外側面にやや丸みを持った二重網目文が配される。18世前半のものである。24は梅木文、25は鼓文が配される。26は外側面に鋸歯状の二重網目文を配し、高台内に二重角枠にいわゆる渦「福」銘が配される。27は口縁部が直立する肥前産の茶飲み用の染付碗で、18世紀第4四半期から19世紀初めのものである。28は口縁部が直線的に外傾する染付碗で、見込みに岩波文を配する。29は大振りの端反碗で見込みには岩波文を配し、三足ハマ痕が残る。外側面には吉祥文である蝙蝠文が描かれる。19世紀初めから幕末のものである。30は肥前産の染付碗であるが、酸化コバルトを使用した明治から大正のものである。平坦面の成立期を検討するうえで重要と思われる。31は肥前産染付の広東碗である。32は茶飲み用の色絵碗である。濃い赤と、鈍い緑で幾何学文や花文が描かれる。18世紀第4四半期から19世紀第1四半期のものである。33は肥前波佐見産の染付皿である。見込みにはコンニャク印版の五弁花、高台内にはいわゆる渦「福」銘が配される。34は肥前の染付皿で口縁部が屈折して外傾し端部が波状を呈する。蛇の目凹形高台で、見込みには陶質の三足ハマ痕が残る。19世紀初めから幕末のものである。35は肥前白石産と推定される皿である。玉縁で蛇の目凹形高台であり、内面には陶質の三足ハマ痕が残る。36は肥前産の染付皿で、18世紀前半のものである。37は肥前産の型打ち成形の手塩皿で、口縁部を波状に成す。内面に雪輪と水仙文を配する。18世紀末から幕末のものである。38は肥前産の紅皿で、貝殻状に型押しされたものである。39は肥前有田産染付の猪口である。輪花に作られる。1660～1690年のものである。40は肥前産の猪口で、蛇の目凹形高台である。41は染付の仏飯器で、坏部外面に染付がわずかに残る。底部の刳り込みは浅い。42は色絵の仏飯器で、脚が細長く、断面に坏部と脚部の接合痕が残る。18世紀後半から19世紀前半のものである。43は肥前産の染付の小瓶で、多重の横縞が配される。44は白磁の瓶で体部に浮彫が施されるが判別不明である。45は肥前産の青磁碗で、19世紀頃のものである。46は京焼風陶器の碗で、見込みに鉄絵が描

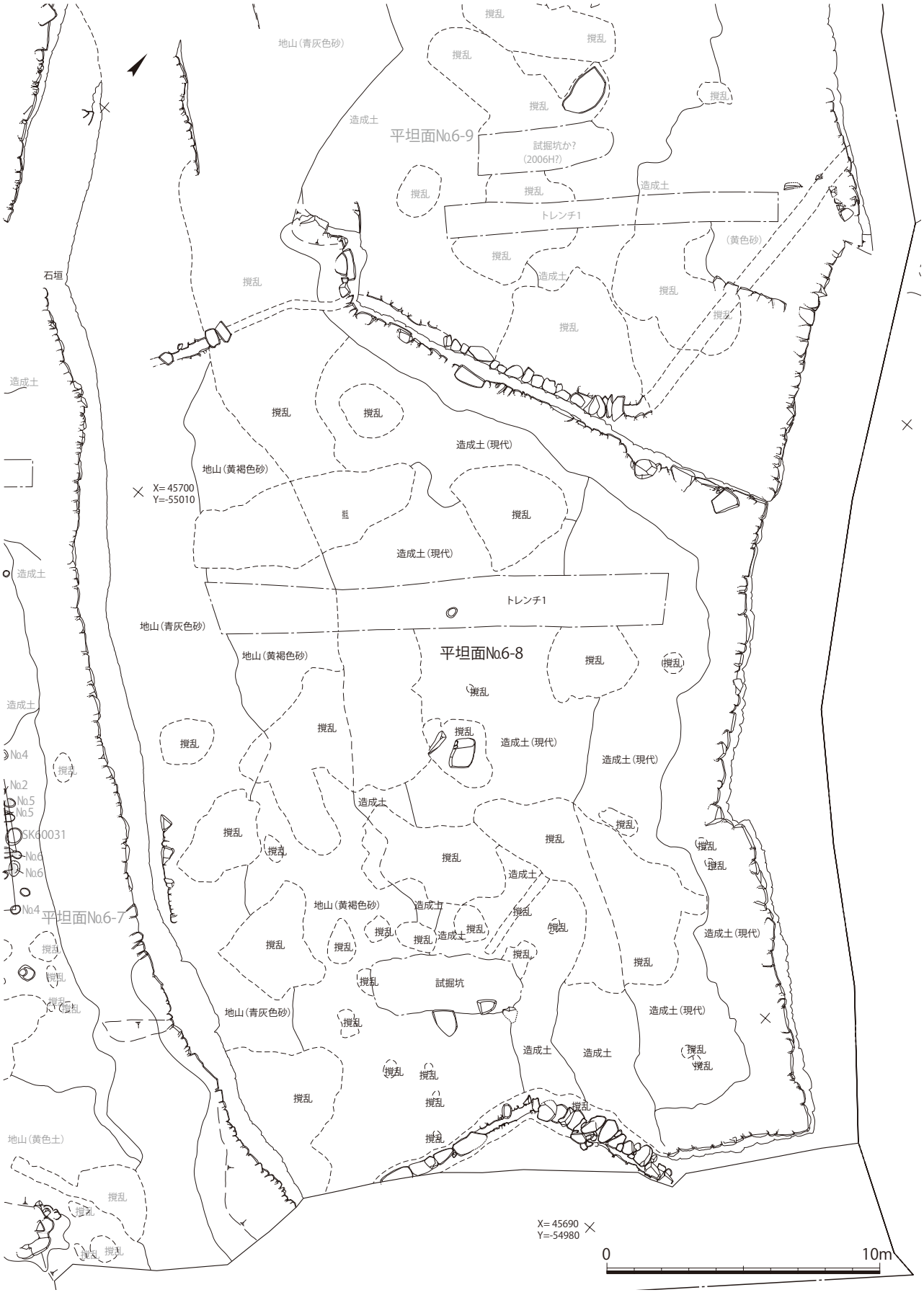
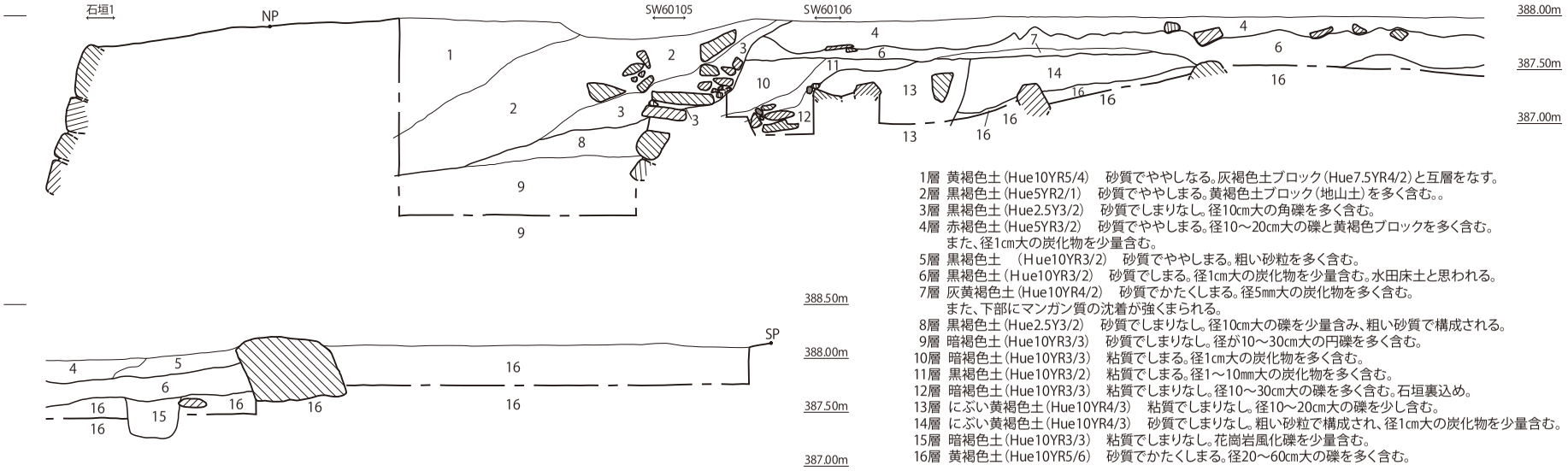
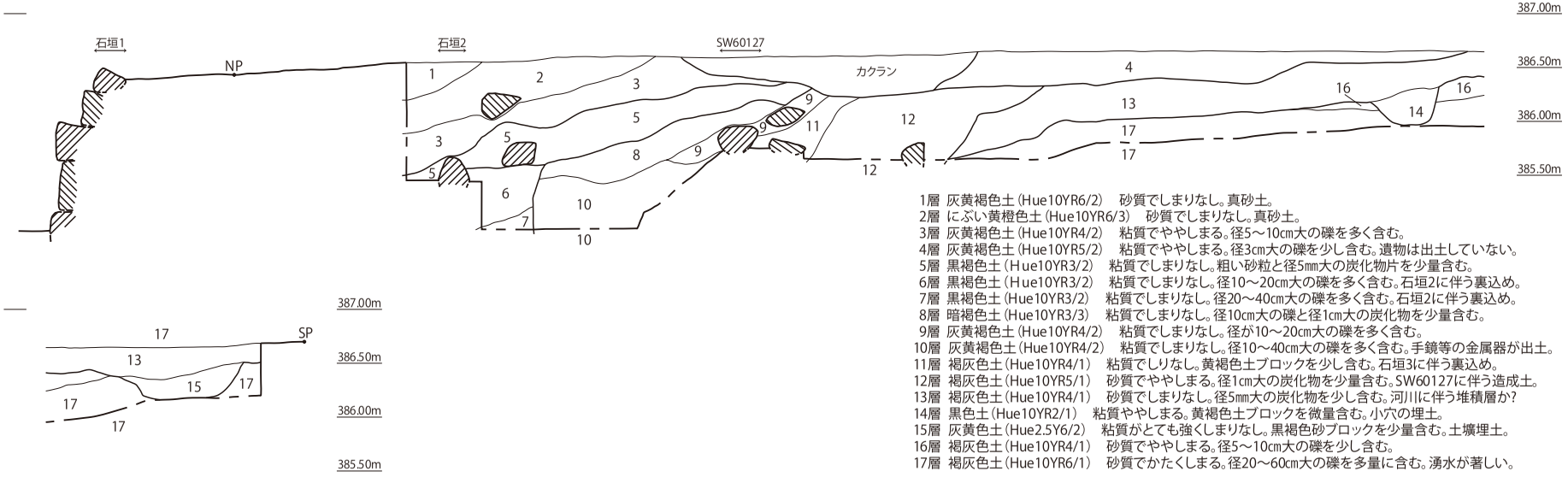


図 106　平坦面 6-8(1/200)



1層 黄褐色土（Hue10YR5/4）　砂質でややしなる。灰褐色土ブロック（Hue7.5YR4/2）と互層をなす。
2層 黒褐色土（Hue5YR2/1）　砂質でややしまる。黄褐色土ブロック（地山土）を多く含む。。
3層 黒褐色土（Hue2.5Y3/2）　砂質でしまりなし。径10cm大の角礫を多く含む。
4層 赤褐色土（Hue5YR3/2）　砂質でややしまる。径10～20cm大の礫と黄褐色ブロックを多く含む。
　また、径1cm大の炭化物を少量含む。
5層 黒褐色土　（Hue10YR3/2）　砂質でややしまる。粗い砂粒を多く含む。
6層 黒褐色土（Hue10YR3/2）　砂質でしまる。径1cm大の炭化物を少量含む。水田床土と思われる。
7層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2）　砂質でかたくしまる。径5mm大の炭化物を多く含む。
　また、下部にマンガン質の沈着が強くまられる。
8層 黒褐色土（Hue2.5Y3/2）　砂質でしまりなし。径10cm大の礫を少量含み、粗い砂質で構成される。
9層 暗褐色土（Hue10YR3/3）　砂質でしまりなし。径が10～30cm大の円礫を多く含む。
10層 暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質でしまる。径1cm大の炭化物を多く含む。
11層 黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質でしまる。径1～10mm大の炭化物を多く含む。
12層 暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質でしまりなし。径10～30cm大の礫を多く含む。石垣裏込め。
13層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）　粘質でしまりなし。径10～20cm大の礫を少し含む。
14層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3）　砂質でしまりなし。粗い砂粒で構成され、径1cm大の炭化物を少量含む。
15層 暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質でしまりなし。花崗岩風化礫を少量含む。
16層 黄褐色土（Hue10YR5/6）　砂質でかたくしまる。径20～60cm大の礫を多く含む。

平坦面6-8　トレンチ1東壁土層断面図



1層 灰黄褐色土（Hue10YR6/2）　砂質でしまりなし。真砂土。
2層 にぶい黄橙色土（Hue10YR6/3）　砂質でしまりなし。真砂土。
3層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2）　粘質でややしまる。径5～10cm大の礫を多く含む。
4層 灰黄褐色土（Hue10YR5/2）　粘質でややしまる。径3cm大の礫を少し含む。遺物は出土していない。
5層 黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質でしまりなし。粗い砂粒と径5mm大の炭化物片を少量含む。
6層 黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質でしまりなし。径10～20cm大の礫を多く含む。石垣2に伴う裏込め。
7層 黒褐色土（Hue10YR3/2）　粘質でしまりなし。径20～40cm大の礫を多く含む。石垣2に伴う裏込め。
8層 暗褐色土（Hue10YR3/3）　粘質でしまりなし。径10cm大の礫と径1cm大の炭化物を少量含む。
9層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2）　粘質でしまりなし。径が10～20cm大の礫を多く含む。
10層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2）　粘質でしまりなし。径10～40cm大の礫を多く含む。手鏡等の金属器が出土。
11層 褐灰色土（Hue10YR4/1）　粘質でしりなし。黄褐色土ブロックを少し含む。石垣3に伴う裏込め。
12層 褐灰色土（Hue10YR5/1）　砂質でややしまる。径1cm大の炭化物を少量含む。SW60127に伴う造成土。
13層 褐灰色土（Hue10YR4/1）　砂質でしまりなし。径5mm大の炭化物を少し含む。河川に伴う堆積層か?
14層 黒色土（Hue10YR2/1）　粘質ややしまる。黄褐色土ブロックを微量含む。小穴の埋土。
15層 灰黄色土（Hue2.5Y6/2）　粘質がとても強くしまりなし。黒褐色砂ブロックを少量含む。土壙埋土。
16層 褐灰色土（Hue10YR4/1）　砂質でややしまる。径5～10cm大の礫を少し含む。
17層 褐灰色土（Hue10YR6/1）　砂質でかたくしまる。径20～60cm大の礫を多量に含む。湧水が著しい。

0　2m

平坦面6-9　トレンチ1東壁土層断面図

図 107　平坦面 6-8・9 土層図 (1/60)

図 108　平坦面 6-8-2・3(1/200)

SW60105石垣実測図

SW60106石垣実測図

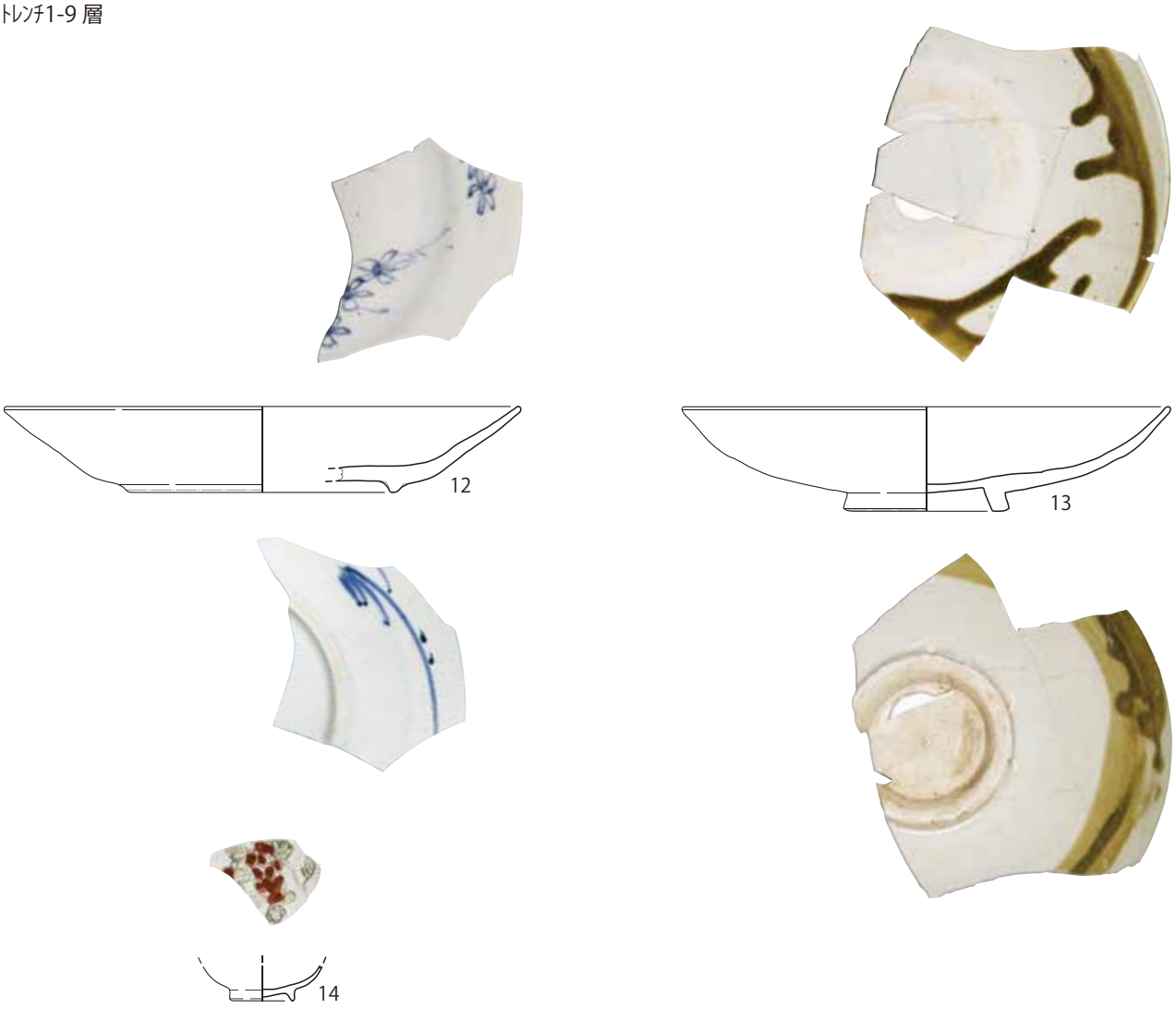
SW60107石垣実測図

SW60108石垣実測図

図 109　平坦面 6-8-2　SW60105・106・107・108(1/100)

図 110　平坦面 6-8 の遺物実測図 1(1/3)

ﾄﾚﾝﾁ1-9 層



ﾄﾚﾝﾁ1-14 層

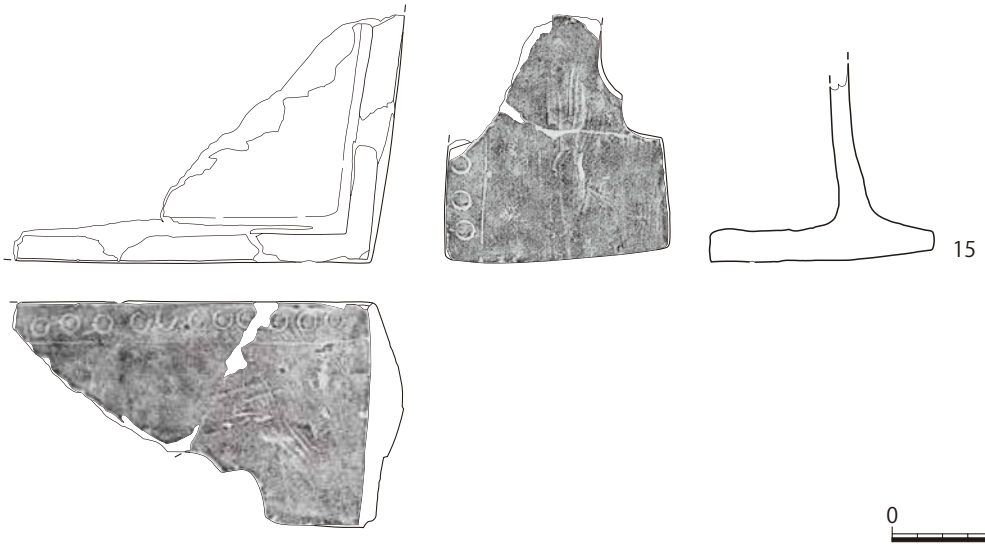


図 111　平坦面 6-8 の遺物実測図 2(1/3)

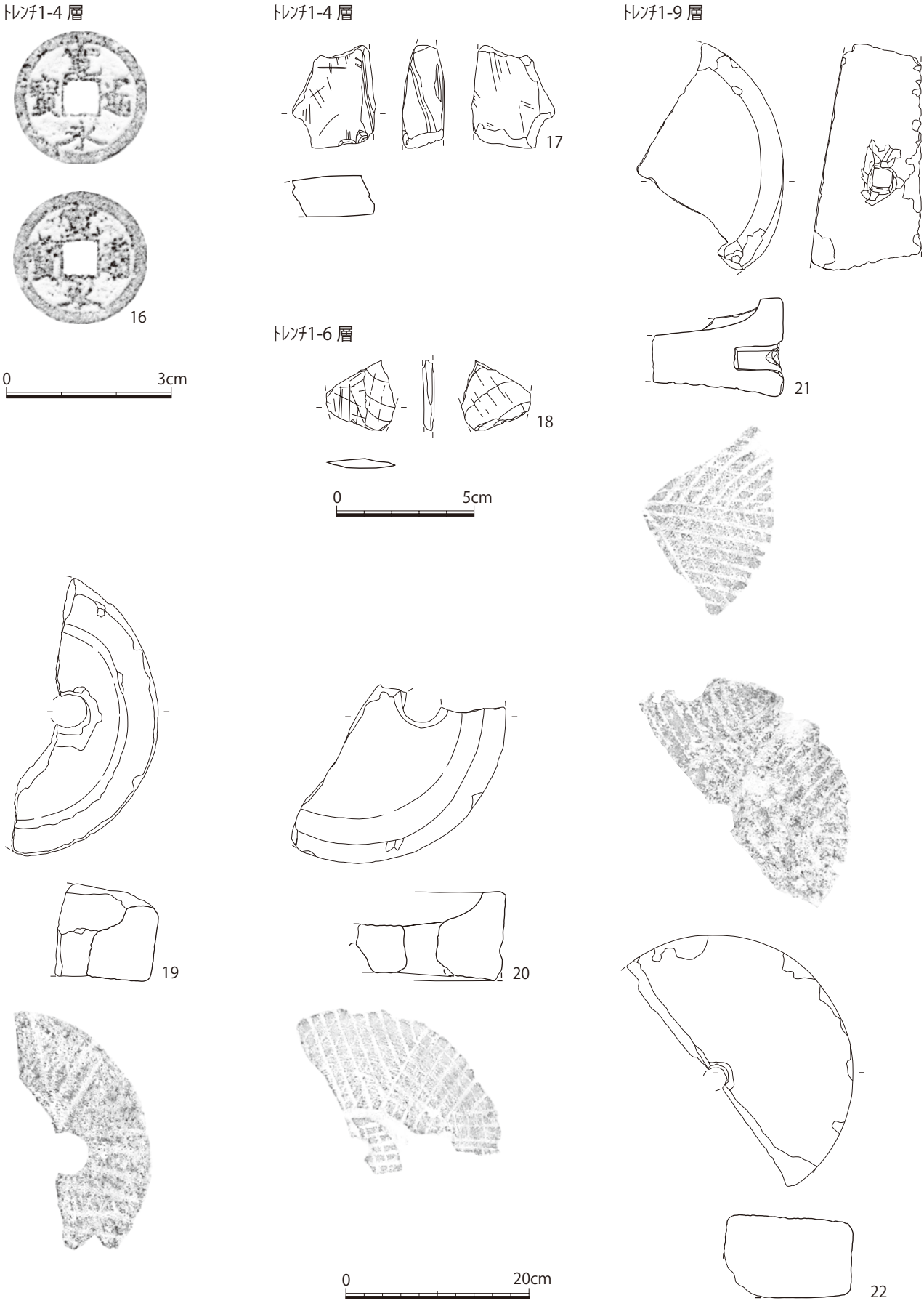


図 112　平坦面 6-8 の遺物実測図 3(1/1、1/2、1/6)

かれる。47は内野山系の皿で見込みは蛇の目釉剥ぎされる。内面銅緑釉、外面透明釉を施す。48は内野山系の小皿で、口縁部が内抱え状を呈する。47、48は17世紀後半から18世紀前半のものである。49は肥前産の台付皿で、口縁端部は外反する。見込みに鉄絵の一部が残存する。50は肥前産の陶器皿で、蛇の目釉剥ぎした上に泥漿で覆い隠すとともに、口縁部内側に花文を描く。51は肥前産色絵陶器の皿で、口縁部は内湾する。52は肥前産陶器の大皿で、口縁部は屈折して外傾し、内側は小さくつまみ出す。口縁部には鉄釉と藁灰釉を掛け分ける。内外面にはロクロの痕跡が認められ、文様効果を意図したものの可能性が考えられる。53は肥前産の二採手の鉢で、口縁部に刷毛目を施した後、褐釉と透明釉を掛け分ける。17世紀頃のものである。54は片口で注口部は欠損する。55は肥前産の擂鉢で、内外面に鉄(泥)釉を施す。18世紀末から幕末のものである。56は肥前産の燈明皿で底面以外に鉄釉を施す。57は肥前産の瓶で刷毛目文を施す。58～63は土師器の小皿である。底部は糸切りで、口縁部との境をケズリ後ナデて丸く仕上げるものとそれほど顕著ではないものの２種がある。丸く仕上げるものの底面にはケズリ時の粘土が付着するものが認められる。63は煤・タールが付着し燈明皿として使用されたものである。64は肥前有田産の染付皿である。17世紀末から18世紀初めのものである。65は内野山窯系の小坏で内外面に鉄釉を施す。66は台付皿で49に類似する器形を持つものである。見込みに染付が認められる。67は肥前武雄産の陶器の皿で、白土で象嵌された三島手である。68～71は土師器の小皿である。底部は糸切りで、底部と口縁部の境を丸く仕上げる。72は肥前産の呉器手碗で17世紀後半のものである。73は糸切り細工の紅皿であり、17世紀後半から18世紀前半のものである。74は鉄釘である。上部を屈折させ頭部を作り出したものと思われるが、屈曲部を欠損する。75～78は寛永通宝で、75は新寛永、76～78は古寛永と思われるが、76は３枚が癒着しており、背面の１枚はいわゆる文銭で新寛永である。79は赤褐色を呈する硯で、赤間硯と思われる。陸から海にかけて緩やかに傾斜する。海部には墨が付着する。80は安山岩の剥片である。81は石(碾)臼の上臼である。目の主溝は６分割と思われる。中央部に軸受孔を有し、側面には挽手装着用の方形のホゾ穴が残存する。

(9)平坦面6-9(図107・117)、6-9-2(図118)

平坦面6-9は平坦面6-8の西側に位置する。平面形五角形を成し、最大長は東西30m、南北21mで、面積は520m²を測る。ほぼすべての面が石垣で構成される。平坦面への進入口は南西側からの通路を経由し、南東側から入る。集落移転時の撹乱により明確な遺構が認められない第1面、造成土内部より検出された石垣に伴う第2面を検出している。

トレンチ1を第1面で盛土と解される部分に設定している。調査所見ではかなりの矛盾が生じているため可能な限り整理・修正して記載すると、1～3層は石垣1の造成土として昭和40年代以降と推定されるが、この平坦面上に現存していた建物の改修が著しいものの明治元年頃の建立、昭和初期増築と推定されていることより注意が必要である。また、トレンチ北側で石垣2とされる石積を検出しているが、第2面の調査で確認できていないことや、有蓋石組水路が平坦面6-8の北西面石垣裾から北折してこの石垣2方向へ直進していることより、石垣2とされたものはこの有蓋石組水路である可能性が高い。また、SW60127石垣は比高差約0.7mの段上に築かれたとされるが根石下は崩落しやすい礫層(10層)であり、元来、多量の礫を含む水成堆積層上に構築されたものを、10層に遺物が含まれるために誤ってそう判断したものと推定される。遺物は4層より17世紀後半から18世紀後半の陶磁器類、10層より17世紀後半から18世紀前半の陶磁器類及び手鏡等の青銅青製品、13層より近世陶

図 113　平坦面 6-8-2 の遺物実測図 1(1/3)

図 114　平坦面 6-8-2 の遺物実測図 2(1/3、1/6)

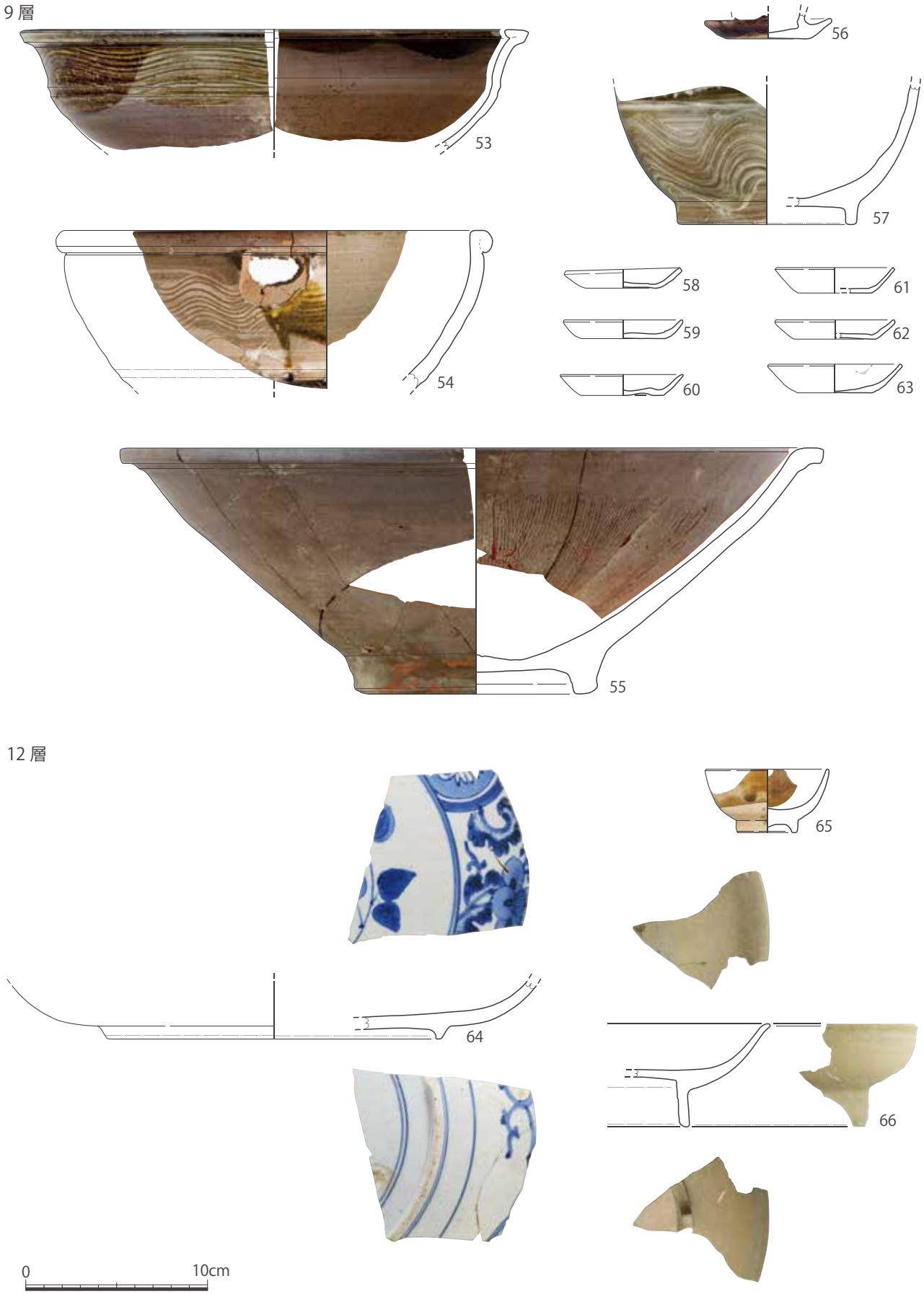


図 115　平坦面 6-8-2 の遺物実測図 3(1/3)

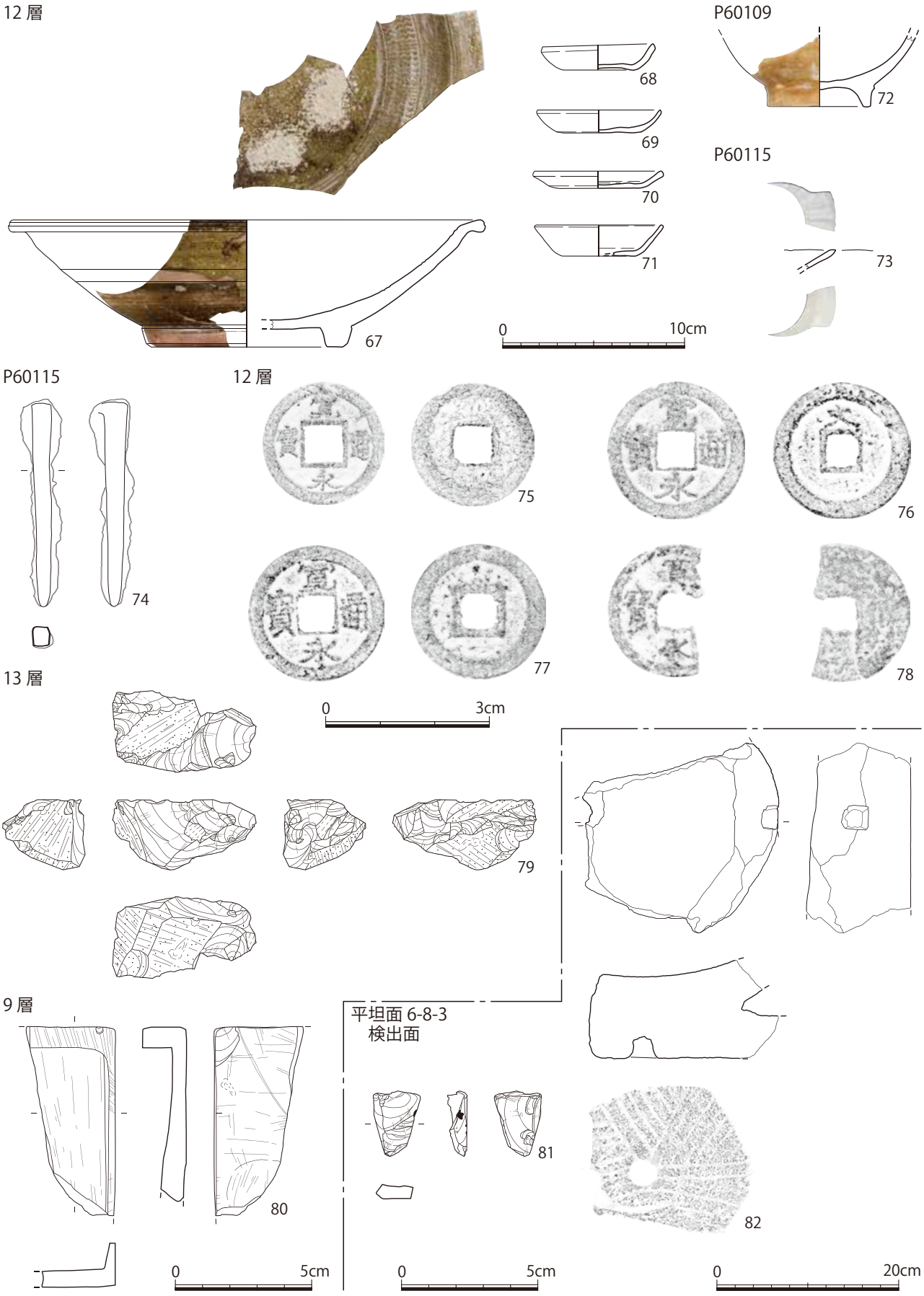


図 116　平坦面 6-8-2・3 の遺物実測図 4(1/3、1/2、1/1、1/6)

図 117　平坦面 6-9(1/200)

図 118　平坦面 6-9-2(1/200)

磁器の小片が出土している。このことから、17世紀後半から18世紀前半まで遺物を含む堆積層上にSW60127石垣が構築され、北側の石垣1への拡張に際し17世紀後半から18世紀後半の遺物を含む土で客土し平坦面を構築したものと推定しておきたい。

遺構は第2面南側で検出した小穴数基のみであり、いずれも南側で検出した。石垣による平坦面造成を行ったにもかかわらず、このような状況であることは、北側に花崗岩の巨石が露頭している上、平坦面6-7西側から続く谷地形上に位置し、盛土がグライ化していることから、常に湧水があったことが窺え、利用に不適な平坦面であったと考えられる。

出土遺物(図119～122)

1は肥前産京焼風陶器の碗で、高台内に「清水」の銘が入れられる。2は内野山系の皿で、内面は銅緑釉を施し、蛇の目釉剥ぎされる。3は肥前産の染付皿で、見込みに花盆に花文が描かれる。焼成不良で一部に釉切れが見られる。4は肥前産の皿で18世紀後半のものである。5～6は土師器の小皿である。5、6は底部と口縁部の境を丸く仕上げるもので、7は口縁部が外反気味に開く。8～9は内野山系の碗と皿である。皿は内面銅緑釉のものと透明釉のものが見られる。10層では一定数見られる。11～38及び42は土師器の小皿であり、まとまった量の出土が見られる。一部には煤・タールが付着し燈明皿としての使用が窺える。底部には糸切り痕を残し、大半のものは底部と口縁部の境を丸く仕上げる。口縁部は内湾気味に開き、端部に面を持つものが多い。口径の大きさで6cm前後のものと、8～9cm程度のものの2種に大別できる。底部境の丸め方に特徴があるものが見られ、同一工人によるものと推定され、一括入手した可能性が考えられる。また、10層から多量の小皿が出土したことは、平坦面6-9が旧谷地形上に位置し、その左岸に東光寺の参道が設けらていたと推定されることより、東光寺関連で使用したものを廃棄した可能性が考えられる。39は色絵のうがい碗で、絵具の大半は色落ちしているが、内面には梅と竹文が描かれる。外面は一部しか判別できないが、緑の絵具が認められることより松文か。見込みは蛇の目釉剥ぎされるが、その部分にも文様を施す。17世紀第4四半世紀から18世紀第1四半期のものである。40は白磁の小坏で、口縁端部がわずかに外反する。41は肥前有田産の染付皿で、内面に紅葉文を施す。43、44は土師質の土鈴である。43は小型のもので胴部が球形を成す。外面は粗い調整痕を残す。44は大型のもので、上部をつまみ上げ鈕孔を穿つ。体部には鈕孔と直行方向に刀子状工具で鈴口を設ける。45は円盤状土製品で土器の再加工品と思われる。46は陶製のハマと思われる土製品である。これまでの調査成果からは陶磁器焼成を行った痕跡は窺えないことより、入手した陶磁器に付着して搬入されたものと思われる。47～49は鏃状鉄製品である。逆L字型を呈し、鏃と形状は異なるが両端が尖る。断面は方形で鍛造品と思われる。50は手鏡で、水辺の楼閣と松の文様が鋳出され、「天下一藤原作」の銘が入れられる。51は寛永通宝で、「寶」部分が欠損する。古寛永である。52は石(碾)臼の上臼である。上面が皿状を呈すが著しく傾く。上面から下面に向けてものくばり、側面には挽き手のホゾ孔、下面には軸受孔が見られる。目の主溝は６分割され、わずかにふくみが確認できる。53は2面目出土の寛永通宝で、新寛永である。54は硯で陸部のみ残存する。過度の使用によるものか、中央部が窪む。陸部及び縁に墨が付着する。52は砥石であり、周囲を粗く成形し、表裏の面を使用する。表面が著しく傾斜することも含めて、大きな砥石の再加工品の可能性が考えられる。56～58は石(碾)臼で、56・57は受け部を持つ下臼、58は上面が皿状を呈する上臼である。56は底部から内湾気味に開き、そのまま受け部となるもので、57は底部から張り出して受け部を形成するものである。いずれも底部は上げ底となる。58は目の主溝を６分割するものと思われ、中央に軸受孔を有する。

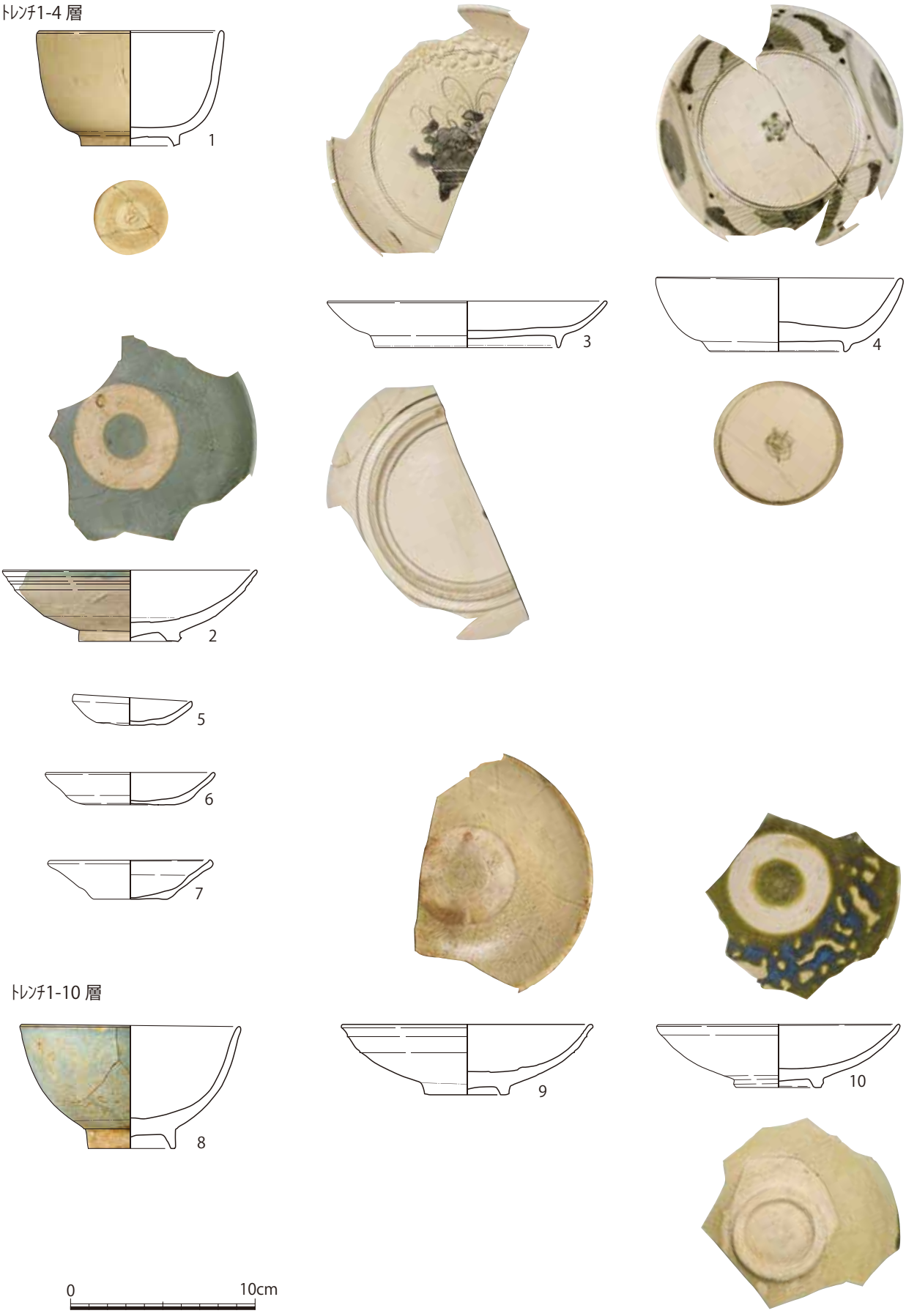
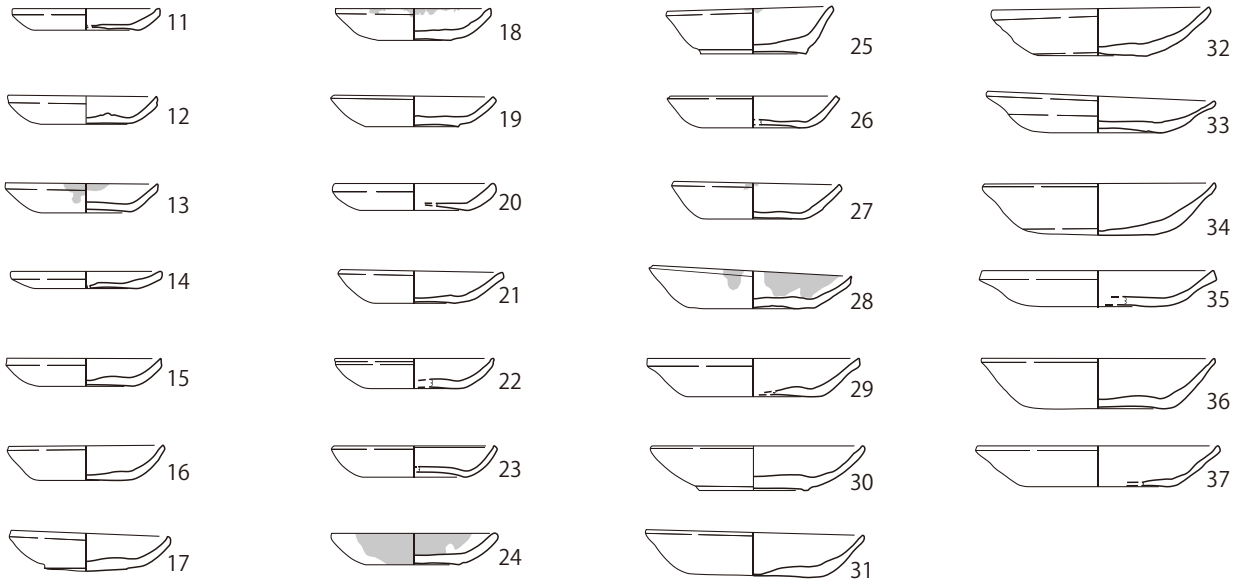
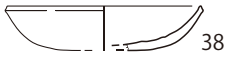


図 119　平坦面 6-9 の遺物実測図 1(1/3)

トレンチ1-10 層



トレンチ1-13 層



4 層

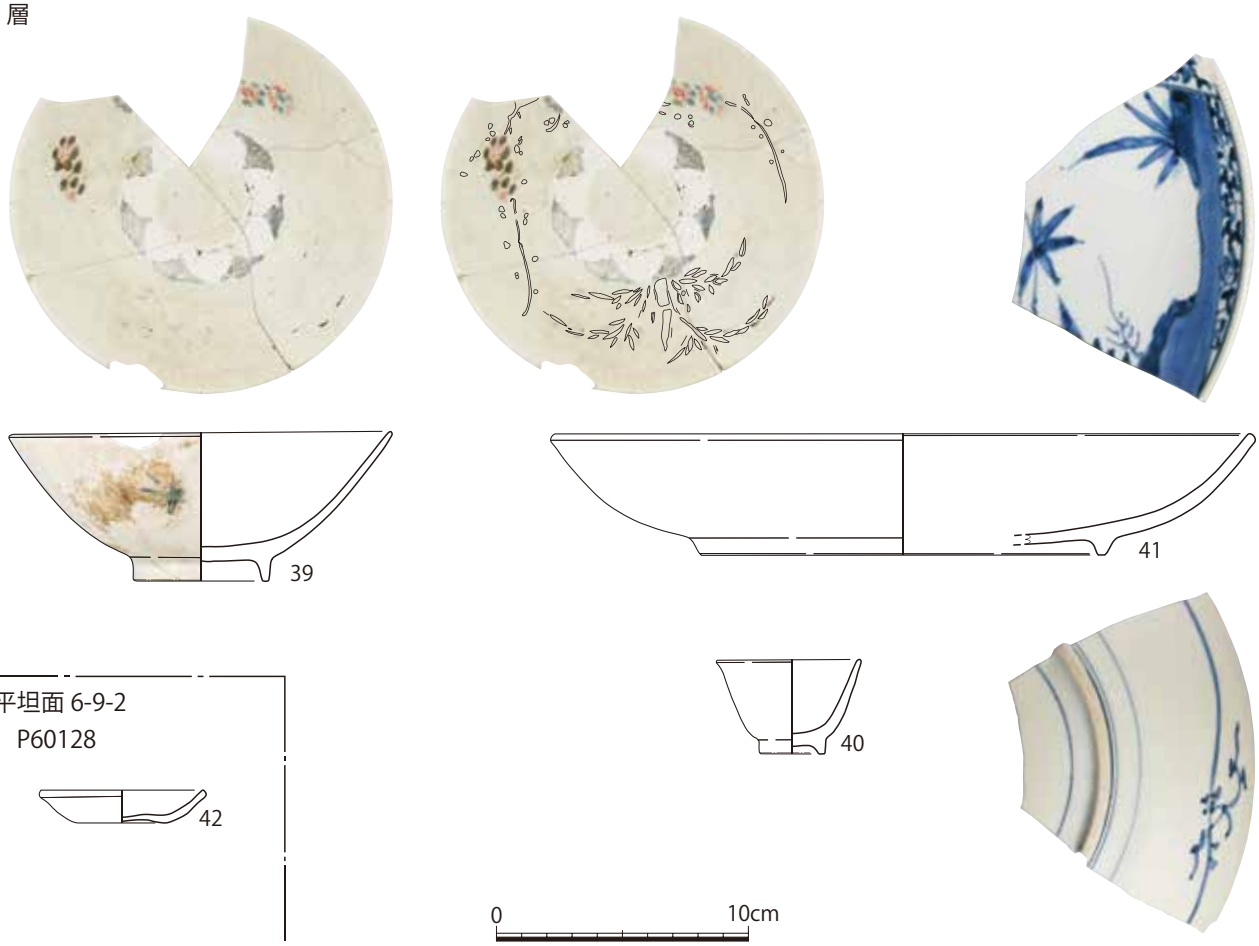
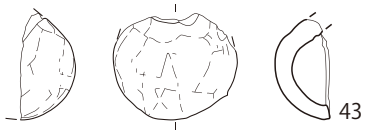
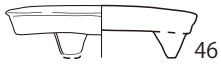


図 120　平坦面 6-9 の遺物実測図 2(1/3)

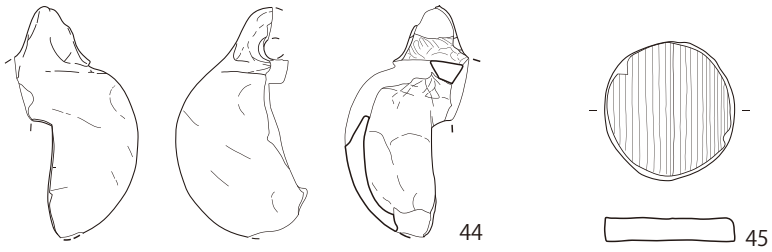
トレンチ1-1 層



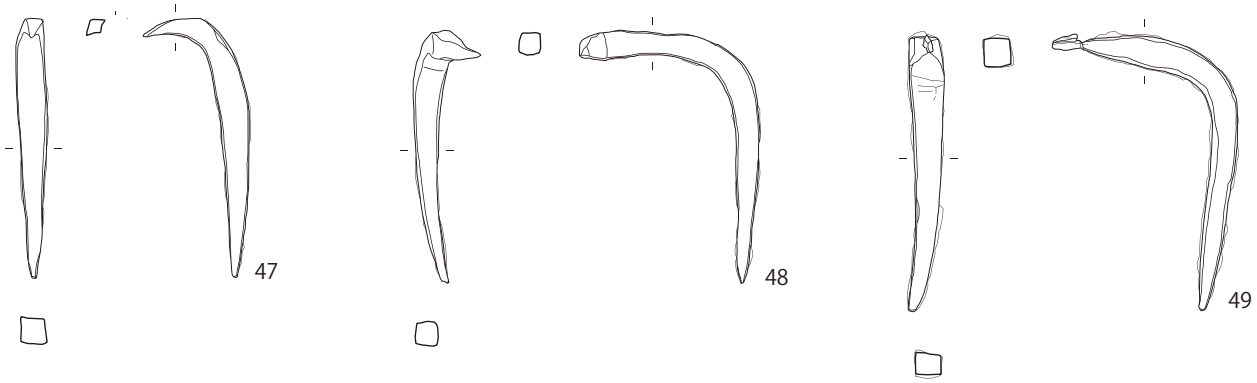
検出面



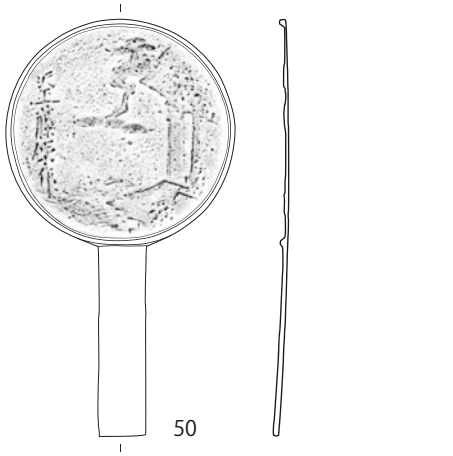
トレンチ1-10 層



トレンチ1-10 層



トレンチ1-10 層



トレンチ1-10 層

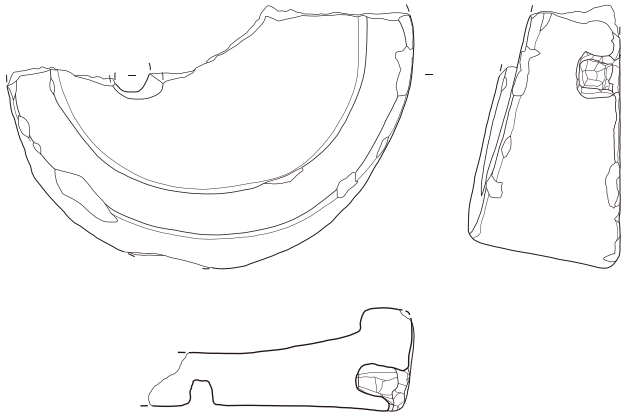
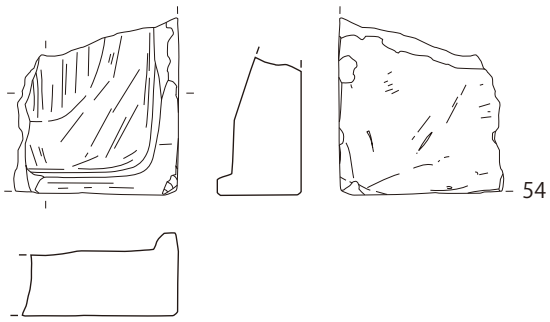
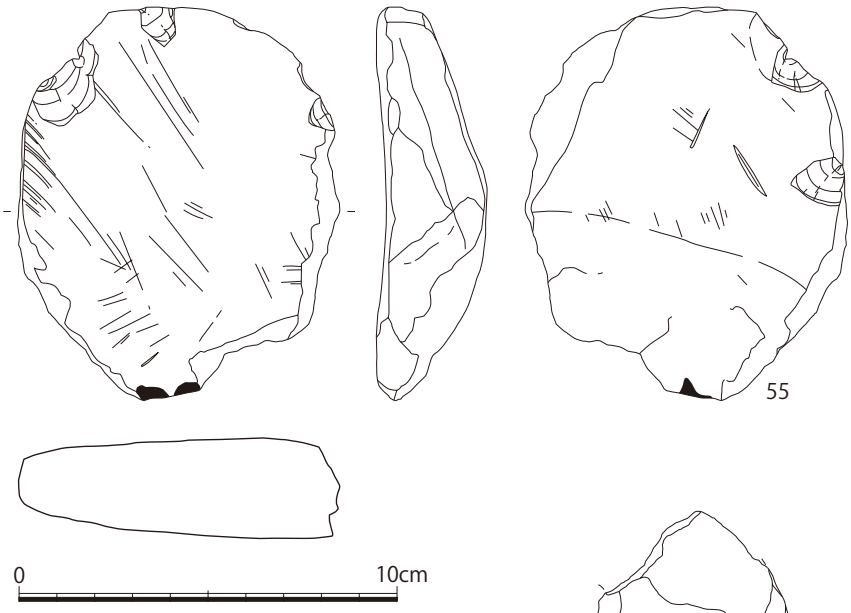


図 121　平坦面 6-9 の遺物実測図 3(1/2、1/1、1/6)

平坦面 6-9-2 検出面

平坦面 6-9-2 検出面





平坦面 6-10
ﾄﾚﾝﾁ1-1 層

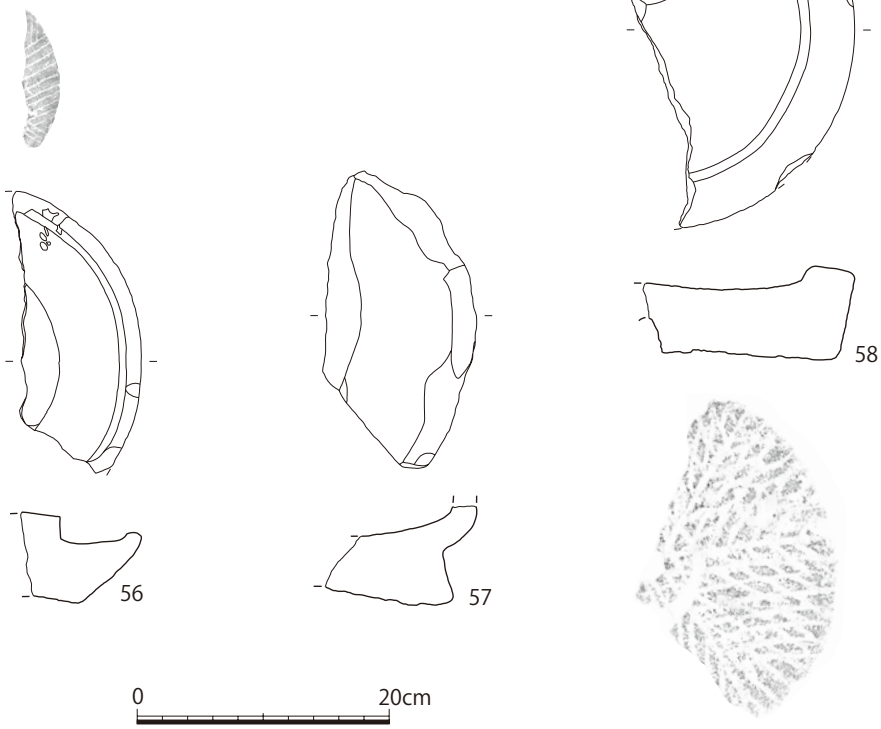
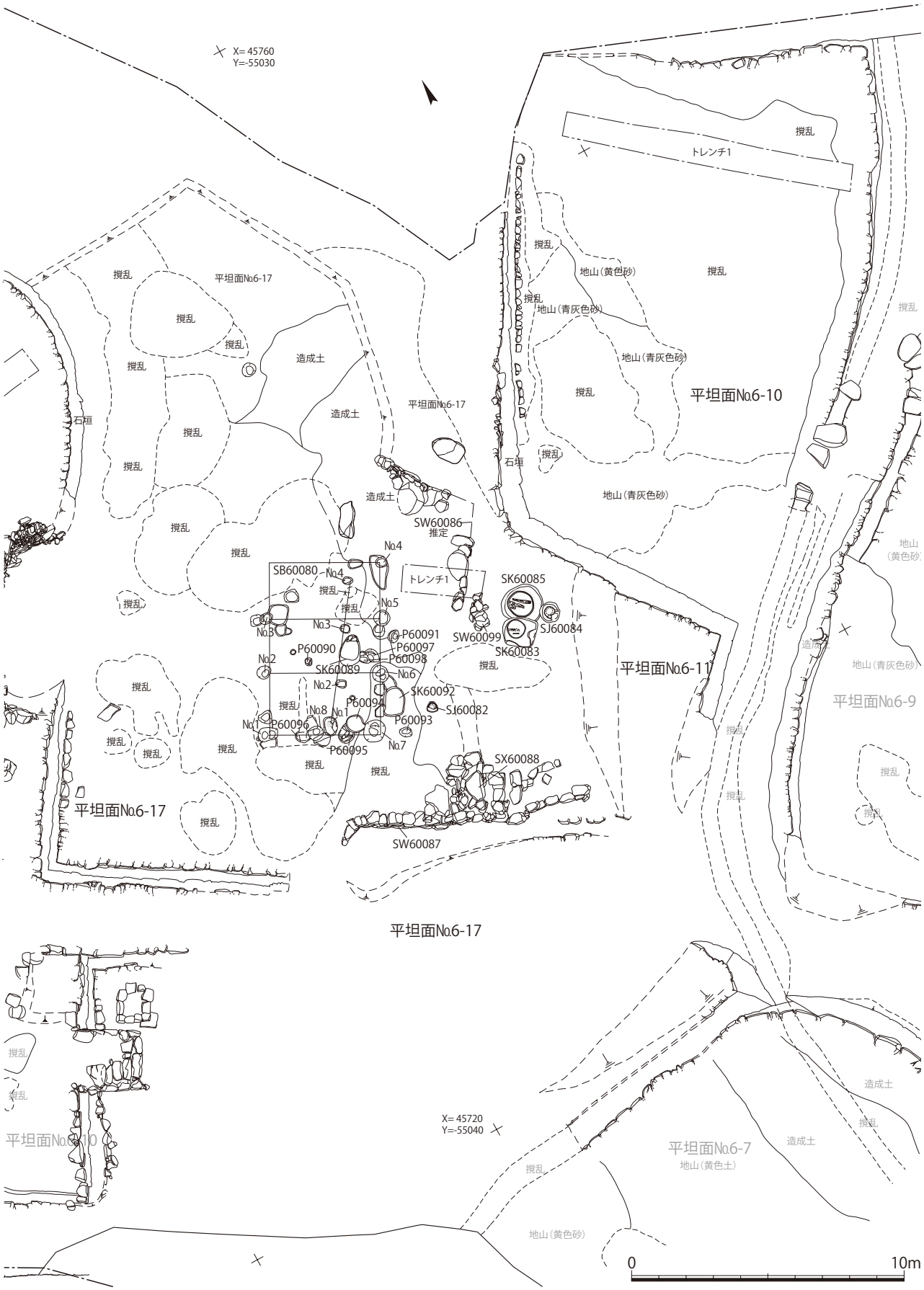
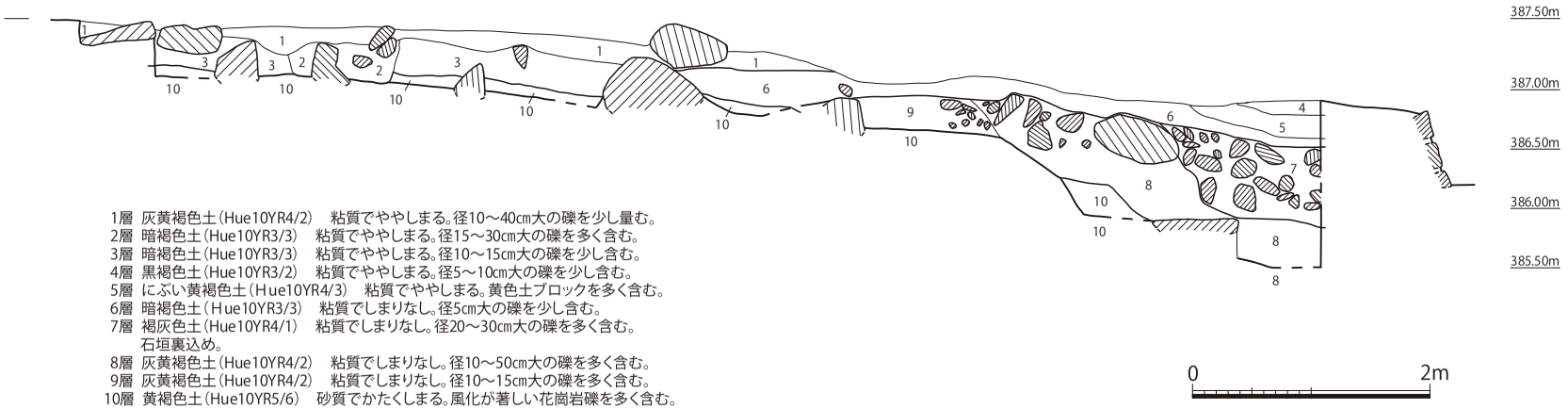


図 122　平坦面 6-9-2 の遺物実測図 (1/1、1/2、1/6)



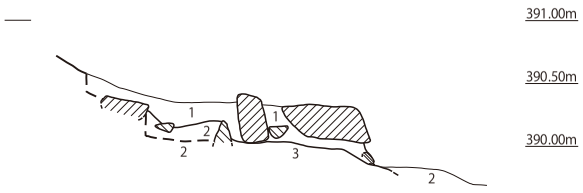
平坦面№6-17

図 123　平坦面 6-10・11・17(1/200)



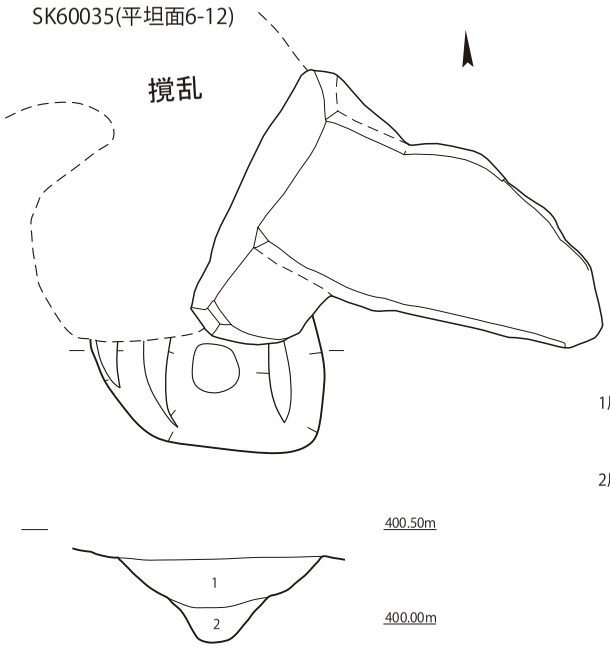
1層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でややしまる。径10～40㎝大の礫を少し量む。
2層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でややしまる。径15～30㎝大の礫を多く含む。
3層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でややしまる。径10～15㎝大の礫を少し含む。
4層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でややしまる。径5～10㎝大の礫を少し含む。
5層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質でややしまる。黄色土ブロックを多く含む。
6層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でしまりなし。径5㎝大の礫を少し含む。
7層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 粘質でしまりなし。径20～30㎝大の礫を多く含む。
石垣裏込め。
8層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。径10～50㎝大の礫を多く含む。
9層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。径10～15㎝大の礫を多く含む。
10層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でかたくしまる。風化が著しい花崗岩礫を多く含む。

平坦面 6-10　トレンチ１　東壁土層図



1層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質で硬くしまる。
5～50cm大の礫、1～2cm大の炭化物を多量に含む。
2層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質で硬くしまる。
3層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質で硬くしまる。
5～50cm大の礫を多量に含む。

平坦面 6-17　トレンチ１　北壁土層図



1層 褐灰色土（Hue10YR4/1）
粘質でかたくしまる。
褐色土ブロックを少量
に含む。
2層 褐色土(Hue10YR4/6)
粘質でかたくしまる。
褐灰色土ブロック、
風化した花崗岩を
多量に含む。

図 124　平坦面 6-10・17　トレンチ土層図 (1/60)、平坦面 6-12　SK60035(1/40)

(10)平坦面6-10(図123・124)

平坦面6-9に西接する位置にあたる。平面形は不整な長方形で、長軸方向21ｍ、短軸方向13ｍで、面積は約230m²を測る。西及び南側は平坦面6-13の石垣で隔てられ、北及び東側は石垣を構築する。東側が通路に面し、この平坦面への進入口は南東角である。

表土除去後、トレンチ1を設定したところ、ほぼ全面にわたり削平を受けていると判断されたため、面的な調査は行っていない。西側石垣の裏グリ層と思われるトレンチ7層より18世紀前半の陶磁器片が出土している。

出土遺物(図122)

59は寛永通宝で、新寛永である。

(11)平坦面6-11(図123)

平坦面6-10の北側、平坦面6-17の東側に位置する。平面形は台形で、最大長は約8m、最大幅約4mで、面積約20m²を測る小区画である。西側を平坦面6-17の石垣で隔てられ、北側及び東側は石垣で構築されていたものと思われる。旧小川内集落時には平坦面6-13に建つ蔵に付属する物置として活用されおり、単独の区画と解するより平坦面6-17に付随する区画と見るべきであろう。

(12)平坦面6-12(図125)

平坦面6-13の西側で、平成21・22年に調査した1・2区の第15平坦面の東下に位置する。旧小川内集落では石垣によって構成される約半円形を成す面積約155m²の平坦面であったが、今回南半の約54m²のみ調査を実施した。その結果、SK60035土坑1基を検出している。

SK60035土坑(図124)

形態が擂鉢状を呈し、下層に多量の花崗岩片が含まれることより、隣接して存在する花崗岩の抜跡と解されている。混入の可能性があるが、1層より江戸時代後半の染付片が出土している。

(13)平坦面6-13(図125・126)

平坦面6-13は6区の北端で、1・2区の東下に位置する。平面形は南北方向に延びる長方形で、北側に張出部が付く。この張出部は西側の丘陵地から派生する開削谷に形成された小規模な山麓扇状地にあたり、張出部はその谷の流心部分に設けられる。旧小川内集落では長方形部分が宅地で、張り出し部が小規模な畑地として石垣と通路で区画されていたが、併せて平坦面6-13として調査を実施した。規模は、南北約52m、東西約17mで面積約650m²を測り、そのうち約530m²について調査を実施している。進入路は南接する通路を経由し、南西角から進入する。

トレンチを平坦面6-13に1ヶ所、平坦面6-13から平坦面6-14に跨げて1ヶ所に設定している。その結果、現況の石垣裏からSW60043石垣とSW60044石垣を検出した。いずれの石垣も裏土より19世紀初から幕末の遺物が出土していることよりほぼ同時期に構築されたものであり、削平によりほぼ同じ高さになっているが両石垣間は0.8～1mを測り、平坦面6-8-2同様に約半間幅の通路として設置されたものと考えられる。現況の石垣前面にも通路が設置されていたことから後世の拡幅時にも踏襲されたものと推定される。

なお、現況の石垣は、旧小川内集落の建物が昭和2年頃の建築であることからその直前に構築され

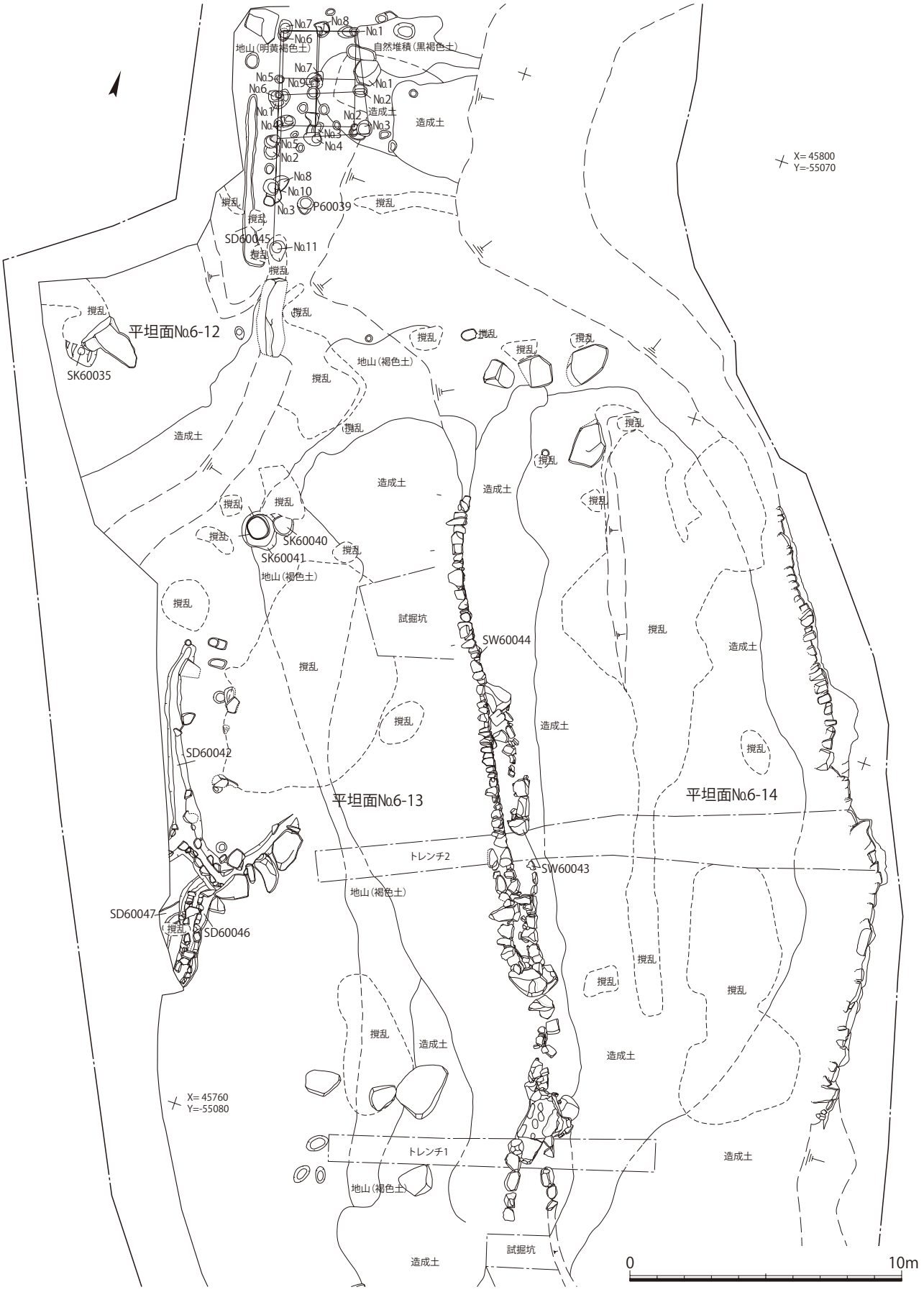
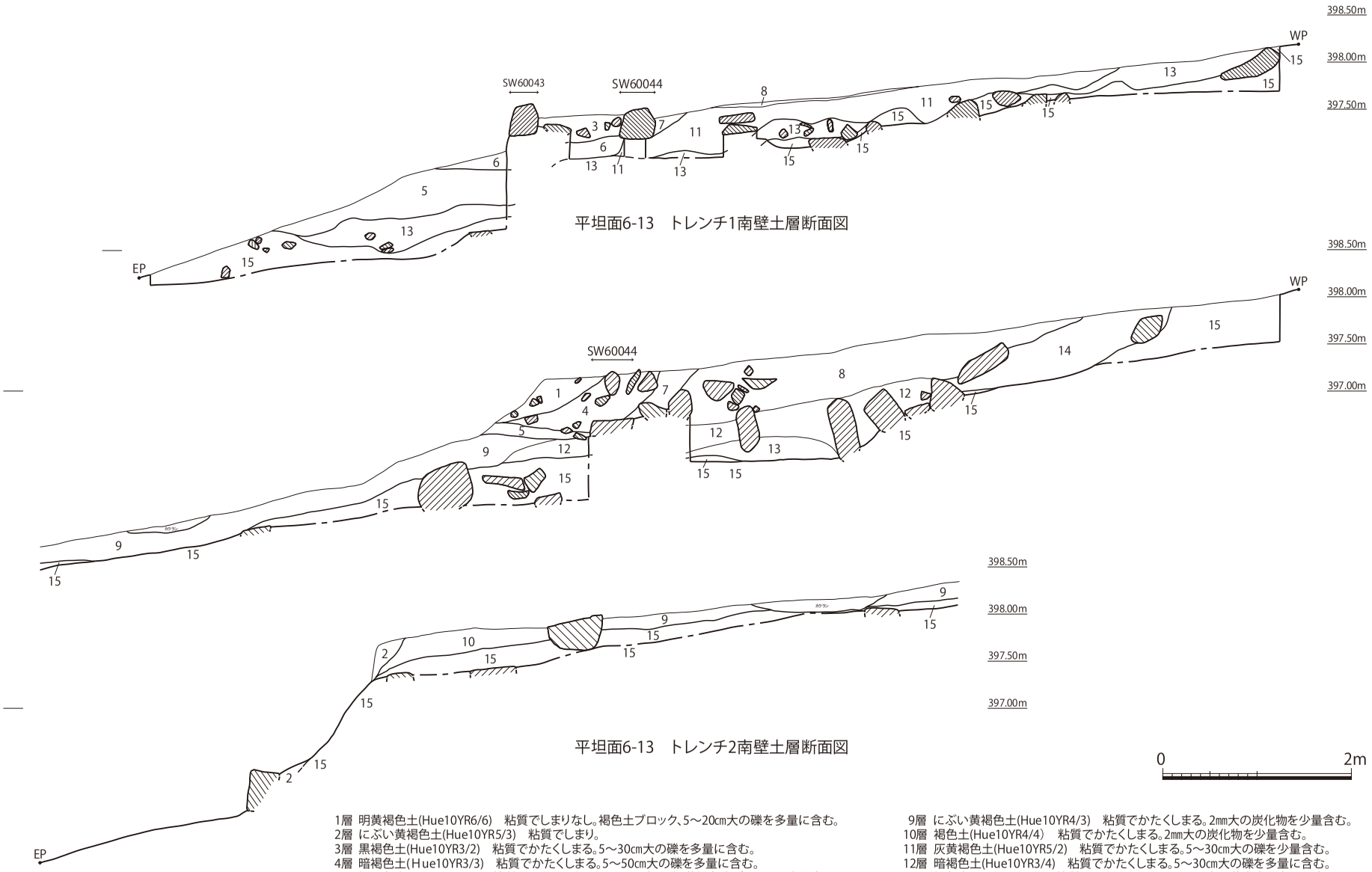


図 125　平坦面 6-12・13・14(1/200)



1層 明黄褐色土(Hue10YR6/6)　粘質でしまりなし。褐色土ブロック、5～20㎝大の礫を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)　粘質でしまり。
3層 黒褐色土(Hue10YR3/2)　粘質でかたくしまる。5～30㎝大の礫を多量に含む。
4層 暗褐色土(Hue10YR3/3)　粘質でかたくしまる。5～50㎝大の礫を多量に含む。
5層 褐灰色土(Hue10YR4/1)　粘質でかたくしまる。5～10㎝大の礫、黄褐色土ブロックを少量含む。
6層 暗褐色土(Hue10YR3/3)　粘質でかたくしまる。褐色砂質土を多量に含む。
7層 黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質でかたくしまる。5～30㎝大の礫を多量に含む。
8層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)　粘質でかたくしまる。　5～30㎝大の礫を多量に含む。
9層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)　粘質でかたくしまる。2㎜大の炭化物を少量含む。
10層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質でかたくしまる。2㎜大の炭化物を少量含む。
11層 灰黄褐色土(Hue10YR5/2)　粘質でかたくしまる。5～30㎝大の礫を少量含む。
12層 暗褐色土(Hue10YR3/4)　粘質でかたくしまる。5～30㎝大の礫を多量に含む。
13層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質でかたくしまる。5～60㎝大の花崗岩を多量に含む。
14層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質でかたくしまる。5～50㎝大の花崗岩を少量含む。
15層 灰黄褐色土(Hue10YR5/2)　粘質でかたくしまる。5～60㎝大の花崗岩を多量に含む。花崗岩風化土。

図 126　平坦面 6-13　トレンチ 1・2 土層図 (1/60)

たものと思われる。

検出した遺構は、石垣の他、掘立柱建物、石組水路、土坑である。掘立柱建物は張出部で3基を検出しているが、いずれも同じ場所で一部の柱のみ掘り替えてあることより、建て替えと見るより補修と考える方が妥当と思われる。また、立地する張出部が谷地形の流心部分に構築された平坦面であることや、石垣際に水切りもしくは雨落ちと見られるSD60045溝が見られることより、湧水による腐食が著しかったことが窺える。

出土遺物(図131)

1～5は土師器の小皿で、底面に糸切り痕を残し、口縁端部に面を持つ。3～5は底部と口縁部の境を丸く仕上げる。1は口縁端部内外に、5は下半部内外に煤・タールが付着し、燈明皿として使用されたものと考えられる。6は色絵の坏で、内面に牡丹状の花文を描く。1840～1860年のものである。7は七宝文を型押しした紅皿で、1650～1860年のものである。8は燈明皿として使用された土師器の小皿で、口縁端部内外に煤・タールが付着する。14～17は砥石である。14は扁平で、表裏両面及び片側の側面が利用される。側面は欠損面となるが、表裏の利用面が欠損後も使用したことを示し、再利用品と考えられる。15は砂岩製で、表裏両面と残存する側面を利用している。16は角を落とした長方形を呈し、片面は砥石として利用されるが、もう一面については方形に切り目が入り、さらに横方向にも入る。硯の未成品を転用したものの可能性が考えられる。17は砂岩製の砥石で両面を利用している。

SB60036掘立柱建物(図127)

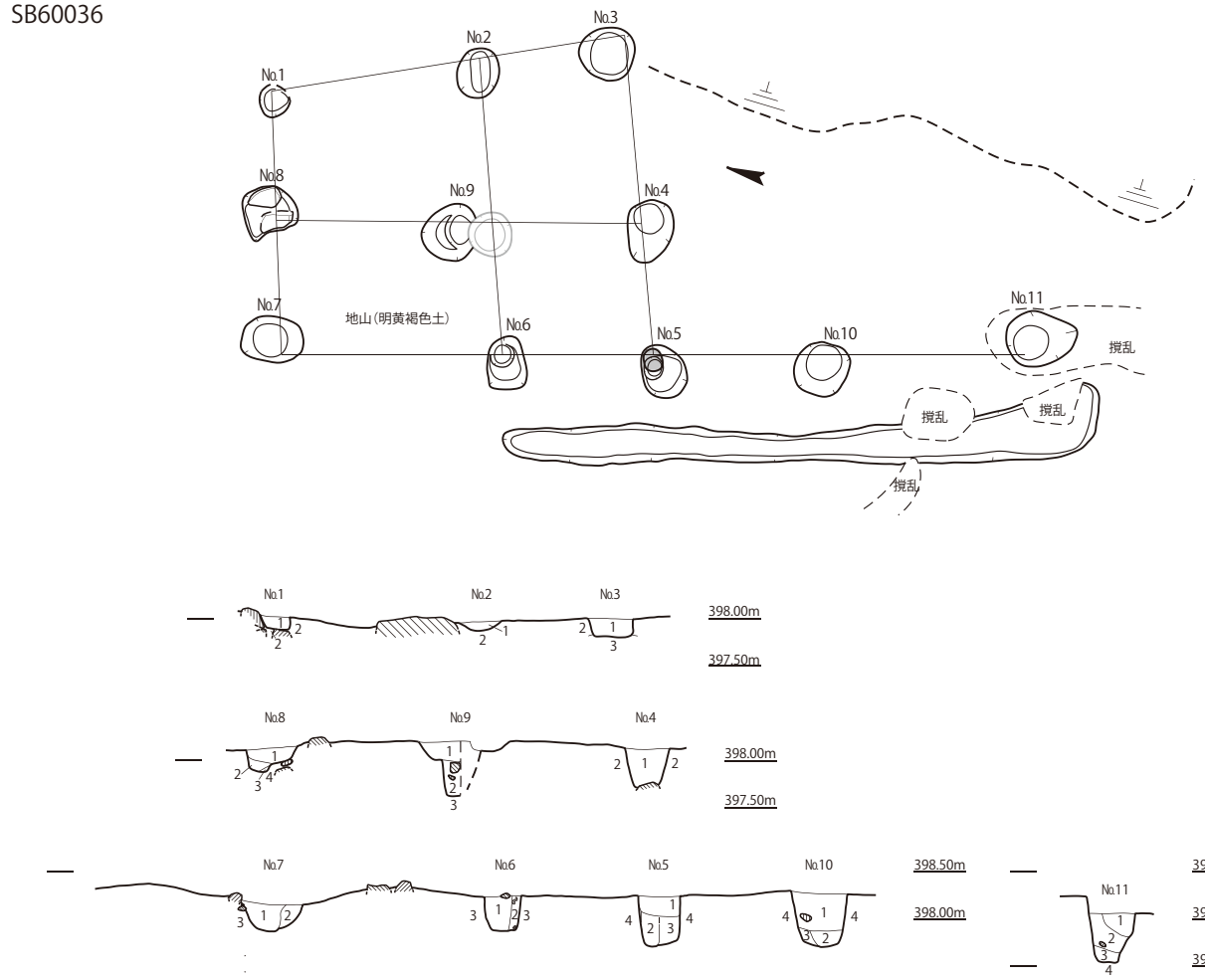
平坦面6-13北側の張出部に位置する掘立柱建物であり、№1 ～11 の柱穴で構成される。立地する張出部は、本来は平坦面5B-13として調査した巨石を伴う区域と併せて独立した平坦面として捉えるべきと思われる。建物跡は4間×2間の総柱の建物と推定され、桁行7.9m、梁行3.4mを測る。建物方向は張出部長軸方向と一致し、N-17°-Wに主軸をとる。南東部では近現代の削平により柱穴が検出できていない。柱間は、桁行で1.56～2.35m、梁行で1.37～2.01mと一定しないが、桁行の柱間は6尺5寸(約1.97m)で、梁行の柱間は1間半(1間:6尺5寸)の2つ割りを基調としたものと推定される。柱穴の規模は径0.33～0.71ｍの不整円形であり、深さは遺構検出面より0.10～0.58ｍである。ただし、平坦面6-13は削平により東に下る緩斜面となったものと推定され、柱穴の底面の高さはほぼ同位となる。No.1、No.4柱穴では底面で自然石がみられ、これ以上の掘削が不可能なことより礎板状として使用したものと思われる。柱穴No.5では柱痕を、No.6では柱穴底面に柱のいわゆる「あたり」を検出しており、それぞれ平面長楕円形で径0.24m、平面形態円形で0.19mを測ることより、製材していない丸太を使用したものと考えられる。また、柱穴内部から17 世紀後半の磁器及び陶器が出土しており、この場所では建て替えとして３棟の掘立柱建物を検出したが、SB60036はその最終段階の建物跡にあたる。

建物の用途としては、総柱建物であり、梁行の柱間がこれまで検出した建物より狭いこと、旧谷地形の流心に構築された小規模な平坦面に位置していることより、住居ではなく蔵やお堂等の建物と推定される。

出土遺物(図131)

9は肥前産陶器の皿で、口縁端部が外反し、波状を呈する。17世紀後半のものである。10は肥前産染付の碗である。焼成不良で白濁する。1650～1660年のものである。他にNo.9より17世紀の甕片、

SB60036



No.1
1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
黒褐色土ブロック2㎜大の2㎜大の炭化物を多量含む。
2層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.2
1層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でかたくしまる。
3～5㎝大の花崗岩片、2㎜大の炭化物を少量含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.3
1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
黒褐色土ブロックを多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.4
1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロックを少量含む。
2層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.5
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山)ブロックを多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でしまりなし。
2㎜炭化物、明黄褐色土(地山)ブロックを少量に含む。
3層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山)ブロックを多量に含む。
4層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.6
1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山)ブロック、2㎜大の炭化物を少量に含む。
2層 色土(Hue10YR4/4) 粘質でしまりなし。
明黄褐色土(地山)ブロックを多量に含む。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.7
1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
1～3㎝大の礫、2㎜大の炭化物を少量に含む。
2層 褐色土(Hue10YR4/4) 粘質でかたくしまる。
1～3㎝大の礫を少量に含む。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。

No.8
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロックを多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
3層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山)ブロックを多量に含む。
4層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.9
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロックを多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でややしまる。
5～10㎝大の花崗岩を少量含む。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.10
1層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山)ブロックを多量に含む。
明黄褐色土(地山)ブロックを少量に含む。
3層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山)ブロックを多量に含む。
4層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。地山。

No.11
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)5㎜大の礫、炭化物を多量に含む。
2層 灰黄褐色土(Hue10YR5/2) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロック5㎝大の礫を少量含む。
3層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でしまりなし。
4層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。

0 2m

図 127 平坦面 6-13 SB60036(1/80)

土師器の小皿が出土している。

SB60037掘立柱建物(図128)

SB60036掘立柱建物に重複した位置にあたり、SB60037掘立柱建物としたものはNo.１～３であるが、それぞれSB60036のNo.6、No.5、No.11に代わる柱穴であり、建物規模はSB60036と同様である。柱穴の規模は重複しているため不明確であるが、径0.6～0.7m程度の長楕円形で、深さは0.20～0.31mである。SB60036の柱穴と比較して著しく浅い。3基の柱穴の西側にはSD60045溝が検出され、調査時にも湧水で悩まされる等、この付近には容易に滞水する環境であったことが窺え、柱の腐食を避けるために浅くした可能性も考えられるが、結果的には深く掘らざるを得なかったものと思われる。

SB60038掘立柱建物(図128)

SB60036、SB60037掘立柱建物に重複した位置にあたり、SB60038掘立柱建物としたものはNo.１礎石及びNo.２～ ８柱穴であるが、それぞれSB60036のNo.2からNo.7、No.9、No.10に代わる柱穴であり、建物規模はSB60036より桁行が1間少ない3間×2間で、梁行5.75m、桁行2.67m を測る。南東部では近現代の削平により柱穴が検出できていない。柱穴の規模は重複しているため不明確なものもあるが、径0.27～0.77m程度の円形もしくは長楕円形で、深さは0.20～0.57mである。柱間は、桁行で1.73～2.25m、梁行で1.25～1.44mである。桁行は不規則ではあるが1間を6尺3寸としたものか。

また、No.1のみ礎石であることは特徴的であるが、隣接する1・2区SB010掘立柱建物等、小川内遺跡ではしばしばみられる手法であり、河川堆積物で構成される河岸段丘上で花崗岩礫を多量に含む地形のため、除去できない場合は礎石として利用したものと思われる。また、SB60036やSB60037で柱間が一定しないのは、こういった巨岩を避けて柱穴を設けた結果とも考えられる。

遺物はSB60036同様に17 世紀後半の磁器、陶器が出土しており、他の掘立柱建物との重複関係よりSB60038は最初に建てられた建物と判断される。

出土遺物(図131)

11は肥前産陶器の擂鉢で口縁端部を外側に小さく折り返し、鉄釉を施す。17世紀後半のものである。12は燈明皿で口縁端部に煤・タールが付着する。他にNo.4より同時期と思われる白磁の小坏が出土している。

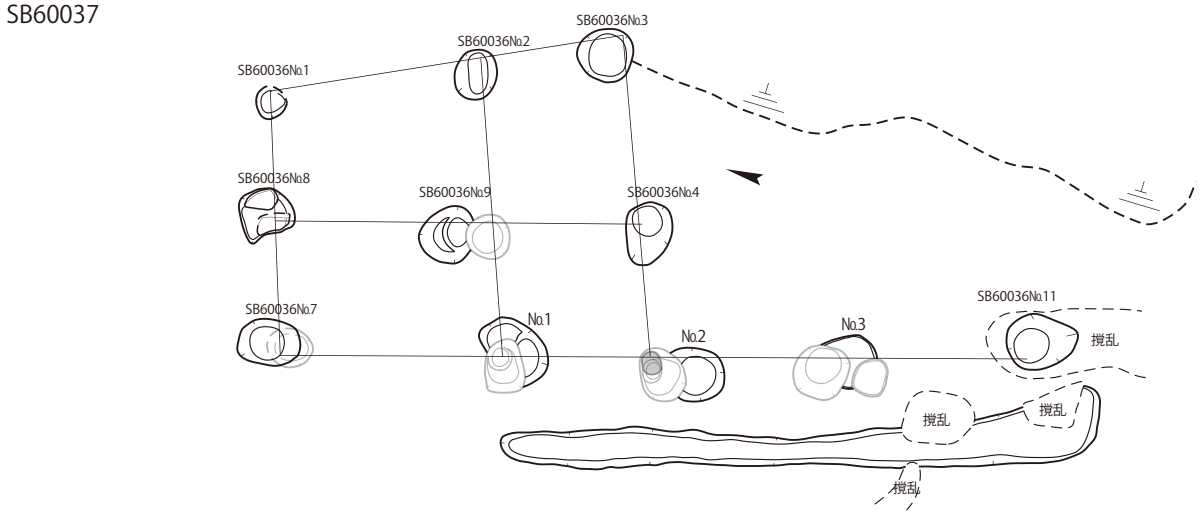
SK60040土坑(図129)

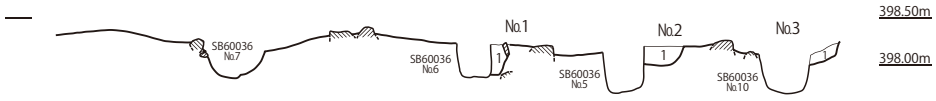
平坦面6-13の北西側の平坦面6-12に隣接する場所に位置する。平面円形を呈し、長さ0.80m、幅0.75m、深さ0.1mを測る。埋土中より18世紀後半から19世紀の遺物が出土している。隣接してSK60041土坑を検出しており、調査時にはその重複関係より掘り替えたものと推定されていたが、SW60043、SW60044石垣に直行して並ぶこと、出土遺物の年代がほぼ同時期であることから、２基が並列していた可能性も考えられる。

SK60041桶埋設遺構(図129)

SK60040土坑に重複する位置にあたる。平面形は歪な円形を呈し、長さ1.52m、幅1.40m、深さ0.68mを測る。埋土の土層観察により土坑中央に箍を巡らせた桶材の痕跡が認められ、桶埋設遺構と

SB60037



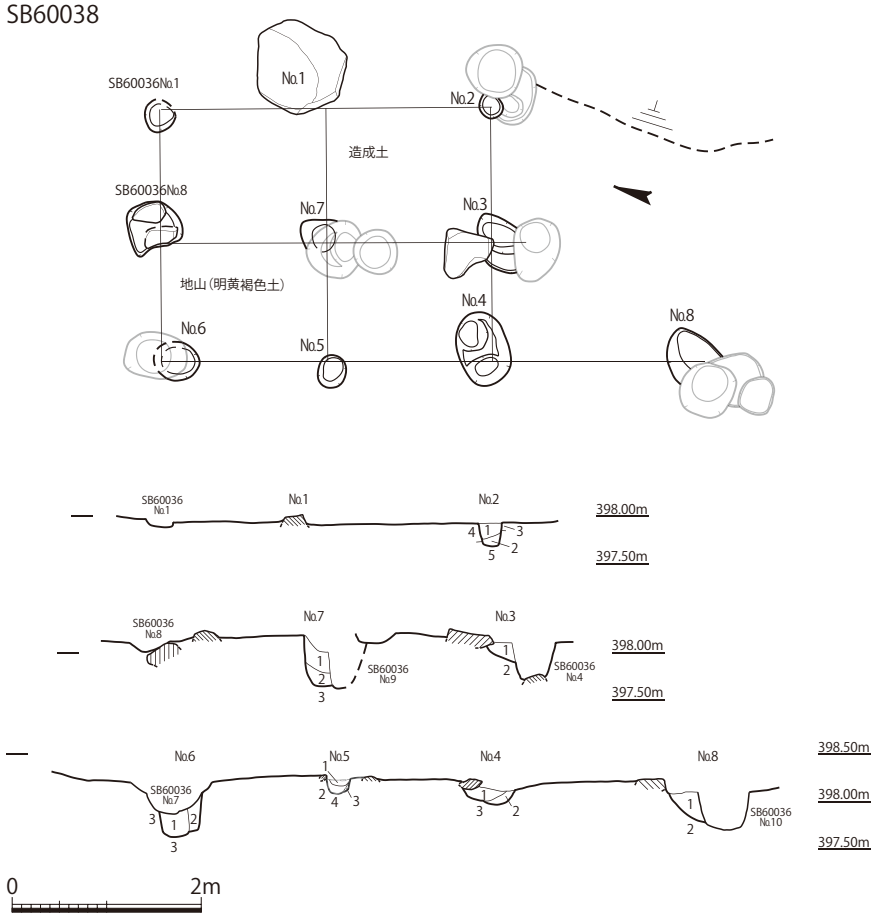


№.1
1層 灰黄黄褐色土(Hue10YR5/2) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土ブロック、7、10cm大の礫を多量に含む。

№.2
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロック、3～5cm大の礫を多量に含む。

№.3
1層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロック、3～5cm大の礫を多量に含む。

SB60038



№.2
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)2mm大の炭化物を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)を少量含む。
3層 黒褐色土(Hue10YR3/1) 粘質でかたくしまる。
4層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
5層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。
5～10cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

№.3
1層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)を多量に含む。
2層 明黄褐色土(Hue6/6) 粘質でかたくしまる。
5～30cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

№.4
1層 黒褐色土(Hur10YR3/2) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)を少量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)を多量に含む。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。
5～30cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

№.5
1層 明褐色土(Hur7.5YR5/6) 粘質でかたくしまる。
褐色砂質土を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)を少量含む。
3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4) 粘質でかたくしまる。
4層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。
5～30cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

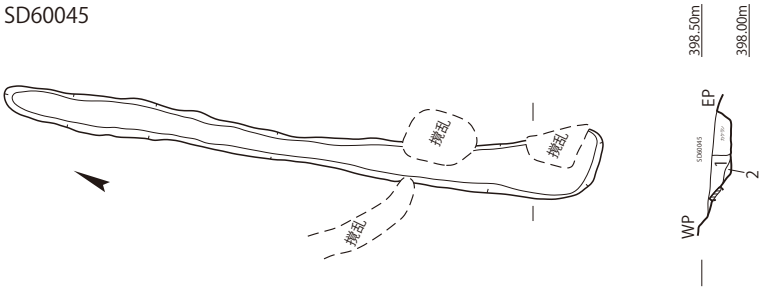
№.6
1層 褐色土(Hur10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
暗黄褐色土(地山ブロック)を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)3～5cm大の礫を多量に含む。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。
5～30cm大の礫を多量に含む。地山。

№.7
1層 黒褐色土(Hue10YR3/1) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)を多量に含む。
2層 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)を多量に含む。
3層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。
5～30cm大の花崗岩を少量に含む。地山。

№.8
1層 にぶい黄褐色土(Hur10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
明黄褐色土(地山ブロック)5～10cm大の礫を多量に含む。
2層 明黄褐色土(Hue10YR6/6) 粘質でかたくしまる。
5～30cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

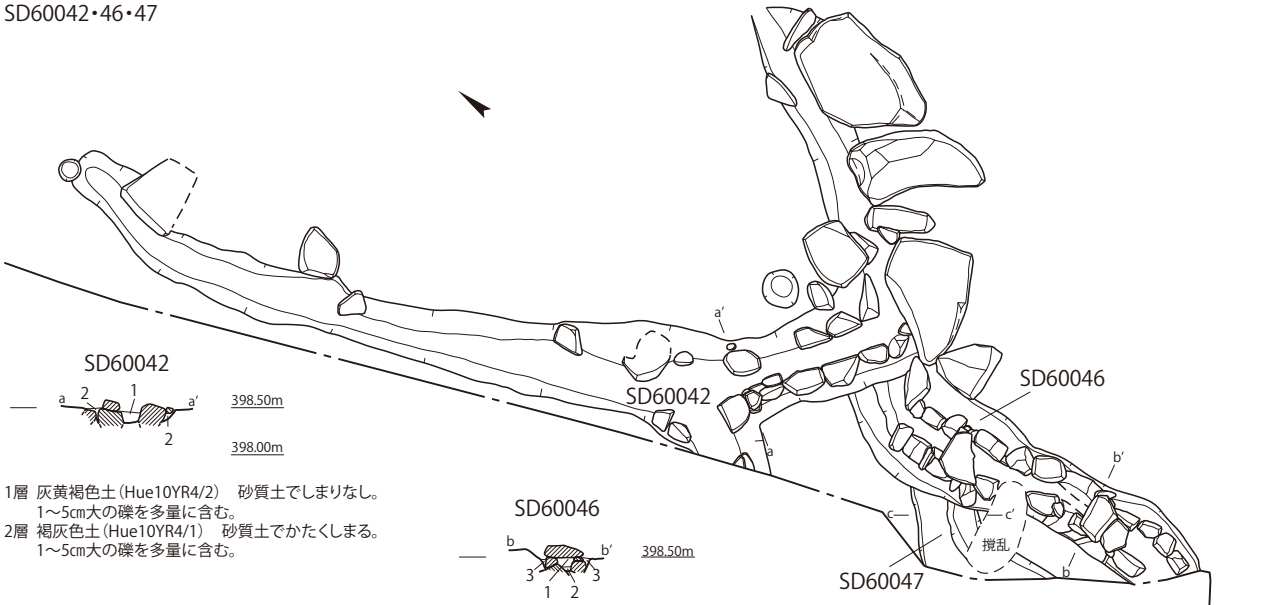
図 128 平坦面 6-13 SB60037・60038(1/80)

SD60045



1層 暗褐色土(Hue10YR3/4)　粘質でかたくしまる。
　　明黄褐色土(地山ブロック)を少量含む。
2層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質でかたくしまる。
　　灰黄褐色砂質土を少量含む。

SD60042・46・47



SD60042

1層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)　砂質土でしまりなし。
　　1〜5cm大の礫を多量に含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1)　砂質土でかたくしまる。
　　1〜5cm大の礫を多量に含む。

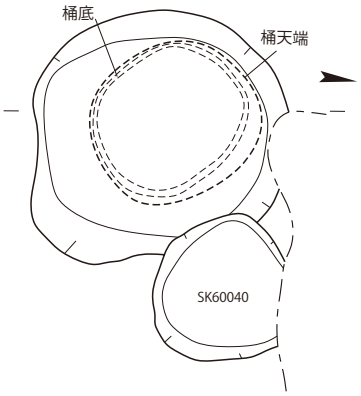
SD60046

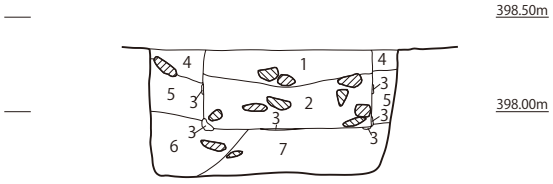
1層 暗灰黄褐色土(Hue2.5Y4/2)　粘質でしまりなし。
2層 黄灰色土(Hue2.5Y4/1)　砂質でしまりなし。
3層 暗灰黄色土(Hue2.5Y5/2)　粘質でかたくしまる。
　　黄褐色土ブロックを多量に含む。

SD60047

1層 にぶい黄橙色土(Hue10YR6/3)　粘質でかたくしまる。
　　花崗岩片、黒褐色土ブロックを多量に含む。
2層 黒褐色土(Hue10YR3/1)　粘質でかたくしまる。
　　5〜10cm大の礫を多量に含む。
3層 褐灰色土(Hue10YR5/1)　1mm以下〜2mm大の砂質でかたくしまる。
　　5〜20cm大の礫を少量含む。
4層 褐灰色土(Hue10YR4/1)　砂質でかたくしまる。
　　3層より砂粒が細かい。

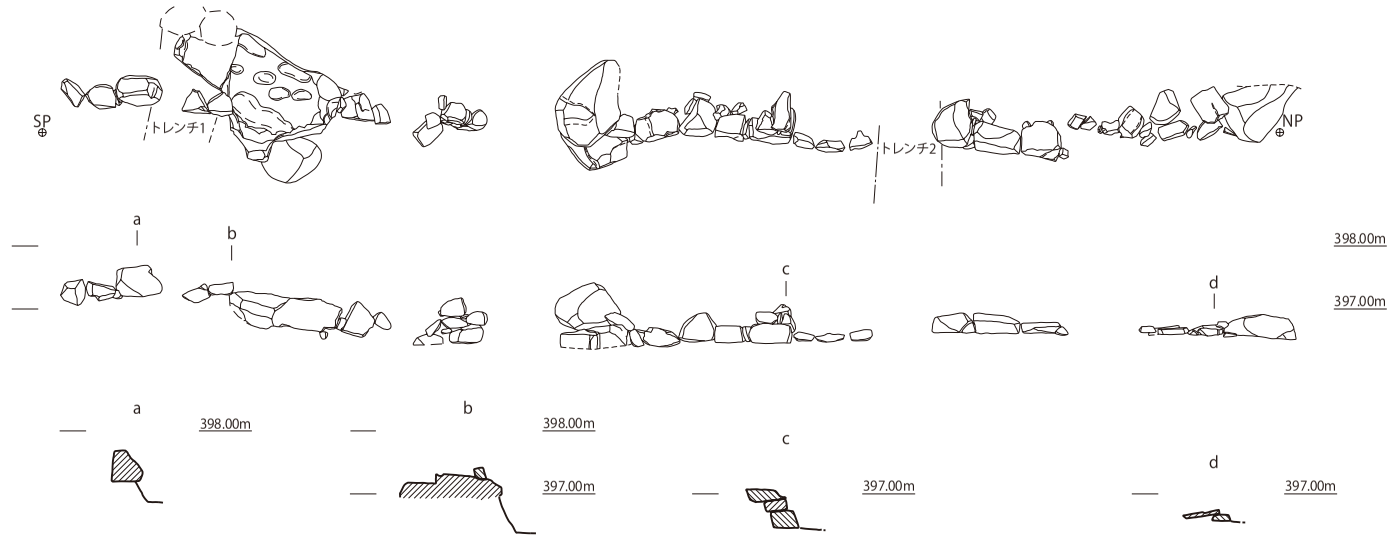
SK60041



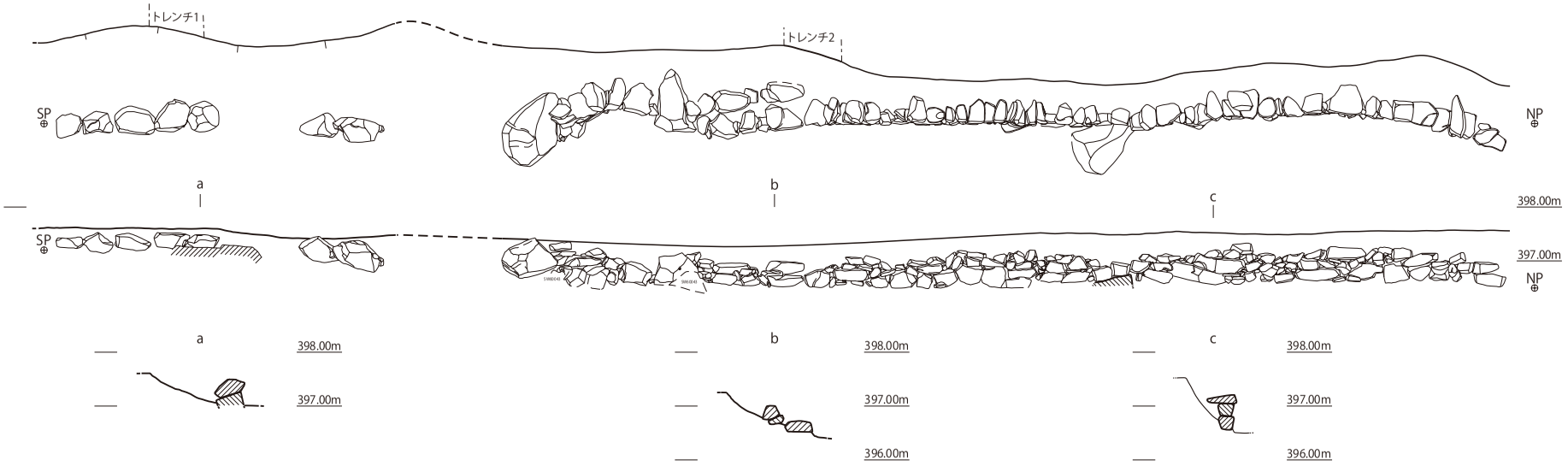


1層　黒褐色土(Hue10YR3/1)
　　粘質でかたくしまる。黄褐土ブロックを多量、5cm大の礫を少量含む。
2層　灰黄褐色土(Hue10YR5/2)
　　粘質でかたくしまる。褐灰色土ブロック5〜10cm大の礫を多量に含む。
3層　黒褐色土(Hue10YR3/2)
　　粘質でしまりなし。
4層　にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)
　　粘質でかたくしまる。黄褐色土、黒褐色土ブロックを多量に含む。
5層　にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)
　　粘質でかたくしまる。黄褐色土ブロックを多量に含む。
6層　灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
　　粘質でかたくしまる。黄褐色土、黒褐色土ブロックを多量に含む。
7層　にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)
　　粘質でかたくしまる。褐色土、黒褐色土ブロックを少量含む。

図 129　平坦面 6-13　SD60042・45・46・47(1/80)、SK60041(1/40)



SW60043石垣実測図



SW60044石垣実測図

図 130　平坦面 6-13　SW60043・44(1/120)

判断した。埋設方法は平坦面6-1や6-2で見られた埋設遺構と同様に坑底に土を入れて土台を設置した後、桶を置き周囲を埋めて設置している。桶底の径は0.77mを測り、これまで検出したものの中では最も大きい。桶周囲の埋土より19世紀初から幕末の遺物が出土している。

SD60045溝跡(図129)

平坦面6-13北側張出部に位置する。残存長6.31m、幅0.26m、深さ0.25m を測る。掘立柱建物群の西側で主軸方向N-17°-Wで建物群と同様の方向をとる。建物に伴って雨落ち溝や水切り溝としての役割を担ったものと考えられる。

SD60047溝跡(図129)

平坦面6-13の中央部西端に位置する。SD60046に切られ残存長0.83mのみを検出した。幅0.34m、深さ0.27m を測り、主軸方向はN-5°-WからN-46°-Eに屈曲する。西側に位置する1・2区では連続する溝跡は確認できておらず、近現代の石垣である第12平坦面下に埋没しているものと思われる。また、堆積土層の観察より石材抜跡及び掘方と思われる層が確認でき、石組の水路であったことが確認できる。周辺にはSD60042、SD60046 溝が検出され、その重複関係よりSD60047溝が最も古く、SD60046有蓋石組水路、SD60042有蓋石組水路が続く。遺物は19世紀の紅皿が出土ししている。なお、SD60046、SD60042溝ではいずれも明治期の遺物を検出している。

出土遺物(図131)

13は肥前産の紅皿で、外面には蛸唐草文が型押しされる。口縁端部は平坦で幅が広く、口径は6cmでやや大振りのものである。

SW60043石垣(図130)

平坦面6-13の東側に構築された石垣であり、全長は19.80m、残存高は0.72mを測る。自然石の粗割石を使用するが残存状況は悪く、大半が根石のみであり、一部で3段分を検出した。ただし、SW60043石垣の北端部では露頭する花崗岩巨石を利用して石垣を構築しているが、その脇には径0.3m程度の板石が巨石に乗せ架けるように敷かれ、さらに同様の板石が続けて敷かれており、通路部の踏面である可能性が考えられ、南に向かって徐々に高くなっていくもののほぼ現況に近い高さの石垣であったと思われる。さらにトレンチの土層観察からも、石垣構築以前は緩斜面であったことが窺え、平坦面6-14との高低差はそれほど大きくなかったものと考えられる。また、SW60043石垣 の南側ではSW60044石垣との間隔がわずかに広がり、高低差がなくなることよりこの平坦面南東角が平坦面6-13への進入口であったものと推定される。

SW60044石垣(図130)

平坦面6-13の東側に構築された石垣であり、全長は27.54m、残存高は0.73mを測る。塁線はSW60043の西側部分に並行する。根石は幅約0.5mの自然石の粗割石を使用するが、その上位の石積みは幅約0.3m、厚さ約0.1m程度の板石を多用する。平坦面造成土の支持及びSW60043石垣とあいまって通路を規定する。根石はSW60043とほぼ同位に据えられる上、裏土出土遺物よりほぼ同時期に構築されたものと考えられる。石積みは最高位でも３～４段の石積が確認できる程度であるが、平坦面上では撹乱が著しいものの遺構は希薄であり、東西方向に走行するSD60042溝も東端で途絶える

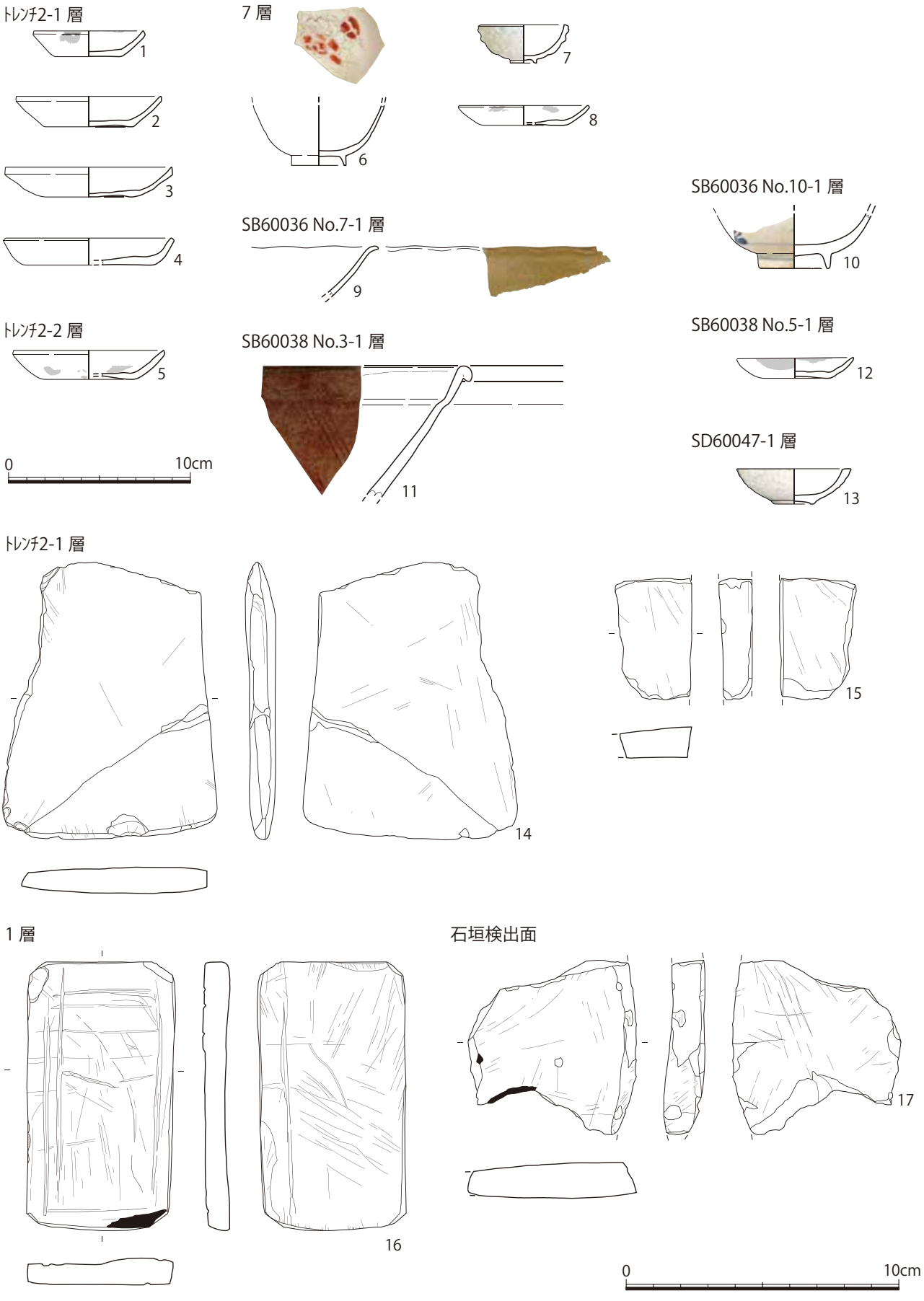


図 131　平坦面 6-13 の遺物実測図 (1/3、1/2)

ことより、平坦面はかなり削平を受けているものと解され、SW60044石垣も当初はある程度の高さがあったものと推定される。

また、畛線が一直線ではなく、幾単位かでわずかに弧状に湾曲する状況は平坦面6-8のSW60105石垣やSW60106石垣でも確認でき、地形的な制約もさることながら輪取りとも看取できる特徴である。

(14)平坦面6-14(図125)

平坦面6-14は6区の北端で、平坦面6-13の東下に位置する。平面形は南北方向に長大な半円形で、北側に張出部が付く。概ね平坦面6-13の形状に類似するが、その規模は、南北約49m、東西約12mで面積約450m²と一回り小さく、平坦面6-13との比高は1.1mを測り、平坦面6-13の帯曲輪状を呈する。北側には近現代の石垣が残存する。進入路については、現況では南北両端からであったが、本来は南端からであったと思われる。集落移転時の撹乱が著しいため遺構は検出されておらず、平坦面6-13同様に幕末以降に造成・整地されたと思われるが、東側の石垣については後世に積み直しされており、この平坦面の利用状況は判然としない。

出土遺物(図145)

58は寛永通宝である。背面に「小」の字が鋳出されるいわゆる「小梅銭」で新寛永である。

(15)平坦面6-15(図132)

平坦面6-15は平坦面6-13と6-16の間に位置する。旧小川内集落時は石垣により造成された平面三角形の畑地であったが、現在は西側に一般県道早良中原停車場線の擁壁が設置されていたため、空地となる北側の南北12m、東西8m、面積56m²について調査を実施した。その結果、遺構は確認できず、平坦面中央に設けたトレンチにおいて近現代の造成地であることが判明している。

(16)平坦面6-16(図132)

平坦面6-16は平坦面6-13と平坦面6-17に挟まれる場所で、小川内集落のほぼ中央部に位置する。元禄4年(1691)年に五戒坊東福院の別院として創建されたと伝わる天台宗医王山東光寺があった場所であり、後には公民館も建設されるなど、地理的な観点以外でも集落の中心地として機能していた場所にあたる。平坦面の平面形は北東から南西に中軸をとる長方形で、長軸方向約34m、短軸方向17mで面積は約490m²を測る。南側から西側へかけて平坦面6-13・14・15に至る石垣による通路が設けられ、北側及び東側は石垣により平坦面が造成される。ただし、No.3トレンチで見られるように、この平坦面はその大半を花崗岩の岩盤と花崗岩礫を多量に含む地山を掘削して造成され、縁辺部に整地程度のわずかな盛土が見られるのみである。そのため石垣は他の平坦面のような土留めとしての役割は乏しく、花崗岩の岩盤の風化・崩落防止と視覚的効果を重視したものと考えられ、その造営原理において他の平坦面とは一線を画す。この平坦面への進入路は南東側に設けられた石段と石垣造のスロープによる。また、一部の残る盛土層より出土した陶磁器類より、平坦面6-16の構築時期は17世紀後半から18世紀前半以降と考えられ、東光寺創建年代の伝承と合致する。検出した遺構は石垣のほか、掘立柱建物、溝跡、土坑、池跡がある。

出土遺物(図136・142～144)

1は土師器の燈明皿で、口縁内面下半部から端部にかけて煤・タールの付着が見られる。2は肥前

図 132　平坦面 6-15・16(1/200)

産陶器の瓶で、ロクロ成型で外面にカキ目を巡らせる。外面には鉄釉を施す。4は内野山系の皿で、背面には銅緑釉を施し、やや幅広の蛇の目釉剥ぎが施される。5は肥前の染付碗で、口縁部外面にコンニャク印判による網目文と桜花文が配される。6～12は土師器の小皿であり、その内6～8は燈明皿として使用される。これまでの遺物も含めて比較的小型のものが燈明皿として使用される傾向にある。13・14は土師器の坏である。13は口縁内面下半部に煤の付着が見られる。燈明として使用したものか。15は中国漳州窯の青花皿で、見込みに人型寿字文が配される。底部は碁笥底で籾殻の圧痕が見られる。33は白磁の水滴である。達磨形を呈し、唐草文が型押しされる。35は板状の鉄製品である。両端が欠損しており器種の判別は出来ないが、片側が断面三角形を成しており、工具の可能性が考えられる。38・39は砥石である。38は厚さが薄く、一定しており、石製品もしくは転用品の可能性がある。39は各面を使用しているが、表裏両面は著しく砥減りする。これにより厚さを減じ、折損したものと思われる。40・41は石(挽)臼の下臼で、ほぼ同型の完形品である。上面は著しく傾斜し、底面は中央部を刳り込んだ上げ底で、袴状を呈する。中央部には上面から底面に貫通する軸受孔が穿たれる。目の主溝は41が通常の6分割のものであるのに対し、40は放射状の溝の上から螺旋状に溝を彫り重ねる。50～52は砥石である。49は短冊状の小型のものであり、一部に成型時の工具痕が見られる。

SB60058掘立柱建物(図135)

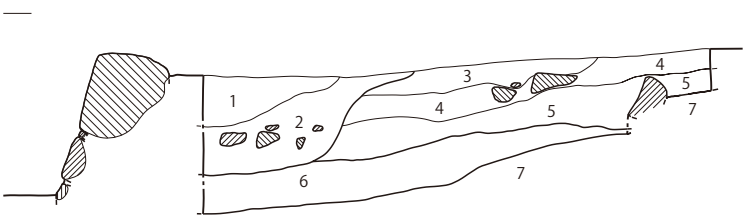
平坦面6-16の中央部やや南東寄りに位置し、建物西側をL字形にわずかに掘窪めて入念に整地された場所に立地する。No.1～11の柱穴で構成され、平面形は桁行方向と梁行方向が直行しない歪な長方形を成す。建物跡は桁行3間、梁行2間で、桁行5.9m、梁行4.9～5.4mを測る。建物方向はN-57°-Wを向き、東側石垣に直行する。柱間は桁行で1.84～2.0m、梁行で2.43～2.81mであり、桁行の1間は6尺5寸、梁行は凡そ6尺5寸を1間とした2間半の2つ割りに相当する。柱穴の規模は径0.85～0.99ｍの不整円形であり、深さは遺構検出面より0.31～0.65ｍである。柱穴内部には柱痕が認められるものがあり、その径は0.2～0.4mを測る。また、柱穴内部からは17世紀後半から18世紀の陶磁器が出土しており、東光寺建立の伝承時期に等しい。さらに、明治25年の棟札が残る現存していた東光寺は当該建物跡より南側に位置しており、建て替え時に当該建物を避けて建立したものと推定される。

なお、ここで特筆されるのは、この掘立柱建物の主軸方位である。一見、他の掘立柱建物の主軸方位同様、地形に直行ないしは平行しているように見受けられるが、その延長線上には脊振山頂が位置する。東光寺は中宮五戒坊の別院であり、脊振山頂には上宮弁財天堂がある。上宮を意識して配置された可能性が高く、当該掘立柱建物が創建時の東光寺跡であると考えられる。なお、この場所は中宮五戒坊東福院のほぼ真北に位置するとともに下宮修学院と東光寺間、東光寺と上宮弁財天堂間の直線距離がほぼ同距離となる。このことがどういう意味を持つのかは検討し尽くせなかったが、小川内集落の開村の契機や役割を考えるうえで興味深い事実と思われる。

また、建物の出入口を示す痕跡は検出されていないが一部の寺院建築を除き、平入りが一般的であり当該建物も出入口は桁側に設けられていたものと推定される。集落構造から勘案すると北東側の通路から当該平坦面北側に入り、広場、寺、苑池空間という構成が最も一般的と考えられるが、現況では東側に進入路が設けられているのは不可解である。

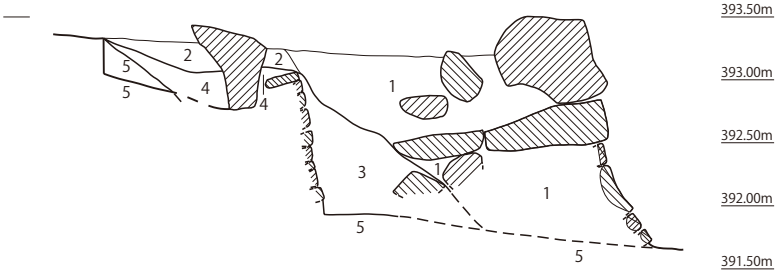
出土遺物(図136・145)

17は肥前産陶器の皿で、17世紀後半のものである。18は土師器の小皿である。19は肥前産の陶器



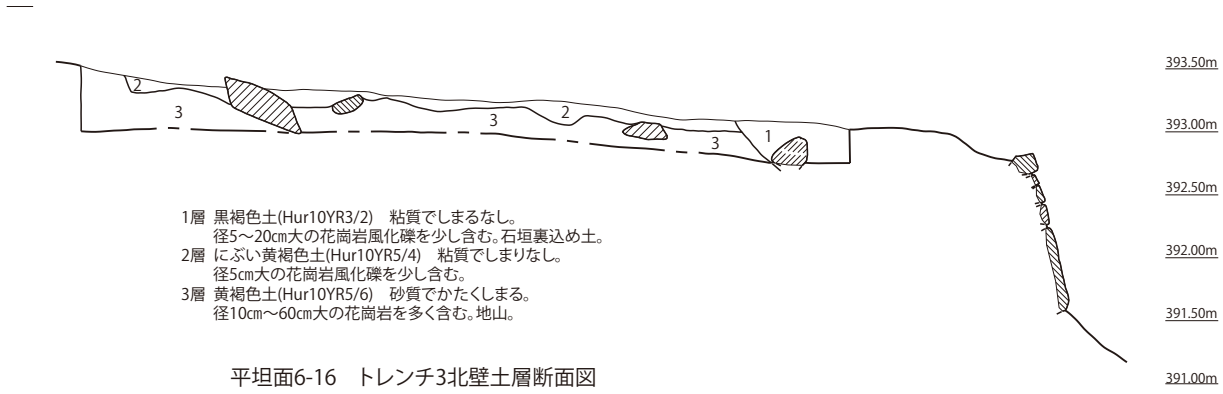
1層 黄褐色土（Hue2.5Y5/4） 砂質土でしまりなし。
径5㎝大の褐色土ブロックを少し含む。
2層 暗オリーブ褐色土(Hue2.5Y3/3) 粘質でしまりなし。
径10～20㎝大の礫を多く含む。
3層 黄褐色土(Hue2.5Y5/6) 砂質でしまりなし。
径10㎝大の礫を少し含む。
4層 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘質でややしまる。
径10～30㎝大の礫を少し含む。
5層 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘質でややしまる。
径5～15㎝大の礫を少し含む。
6層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2) 砂質でしまりなし。
径10～20㎝大の円礫を多く含む。
7層 明褐色土(Hue7.5YR5/6) 砂質でかたくしまる。
花崗岩風化礫土。地山。

平坦面6-15 トレンチ1南壁土層断面図



1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4） 粘質でしまりなし。
径50～100㎝大の大型礫を多く含む。
2層 にぶい黄橙色土(Hue10YR6/3) 砂質でしまりなし。
径10㎝大の礫を少し含む。
3層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でしまるなし。
径20～40㎝大の礫を少し含む。
4層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でしまるなし。
径10㎝大の礫を少し含む。
5層 黄褐色土(Hue10YR5/8) 砂質でかたくしまる。
風化が進んだ花崗岩礫を多く含む。地山。

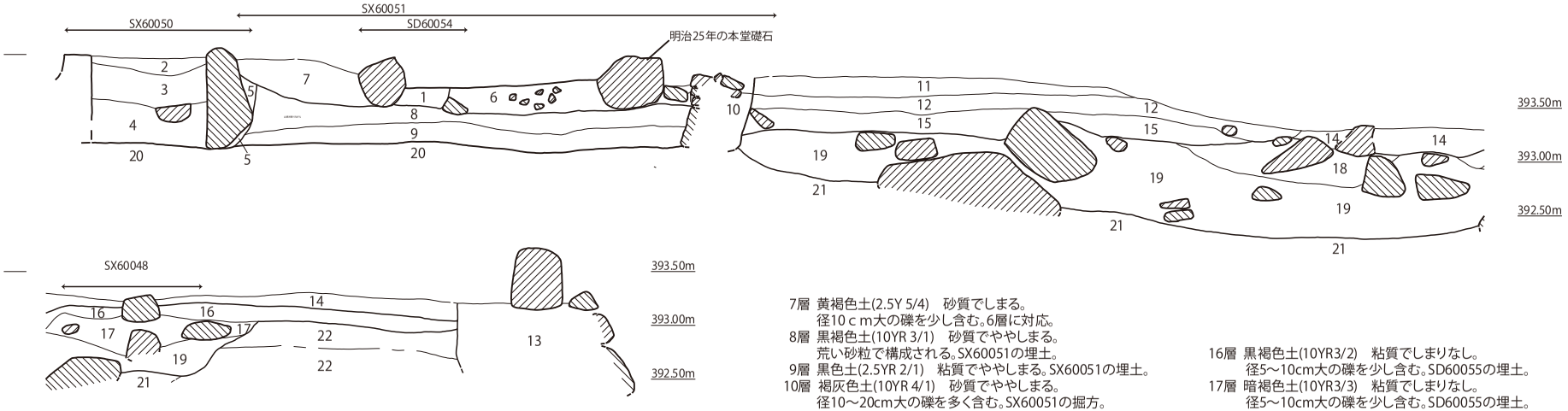
平坦面6-16 トレンチ2東壁土層断面図



1層 黒褐色土(Hur10YR3/2) 粘質でしまるなし。
径5～20㎝大の花崗岩風化礫を少し含む。石垣裏込め土。
2層 にぶい黄褐色土(Hur10YR5/4) 粘質でしまりなし。
径5㎝大の花崗岩風化礫を少し含む。
3層 黄褐色土(Hur10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
径10㎝～60㎝大の花崗岩を多く含む。地山。

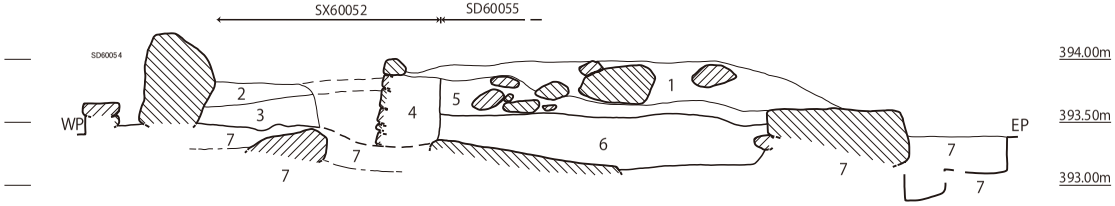
平坦面6-16 トレンチ3北壁土層断面図

図 133 平坦面 6-15・16 トレンチ土層図 (1/60)



1層 暗赤褐色土(YR 3/6)　砂質でしまりなし。
　粗い砂粒で構成される。SD60054の埋土。
2層 灰オリーブ色砂(5Y 4/2　砂質でしまる。
　径3～5cm大の円礫を少し含む。SX60050の埋土。
3層 黒褐色土(2.5Y 3/2)　粘質が強く、しまりなし。
　径5～10cm大の円礫を少し含む。SX60050の埋土。
4層 黒褐色土(2.5Y 3/2)　砂質でしまりなし。
　径10～30cm大の礫を少し含む。SX60050の埋土。
5層 褐灰色土(10YR 4/1)　砂質でややしまる。SX60050の掘方。
6層 褐灰色土(10YR 4/1)　砂質でややしまる。
　径10～20cm大の礫を少し含む。
　また、SD60054石積は、本層と同時期に構築されている。
7層 黄褐色土(2.5Y 5/4)　砂質でしまる。
　径10ｃｍ大の礫を少し含む。6層に対応。
8層 黒褐色土(10YR 3/1)　砂質でややしまる。
　荒い砂粒で構成される。SX60051の埋土。
9層 黒色土(2.5YR 2/1)　粘質でややしまる。SX60051の埋土。
10層 褐灰色土(10YR 4/1)　砂質でややしまる。
　径10～20cm大の礫を多く含む。SX60051の掘方。
11層 にぶい黄褐色土(10YR4/3)　粘質でややしまる。
　径10cm大の礫を多く含む。
12層 褐灰色土(10YR4/1)　粘質でややしまる。
　径5mm大の炭化物片を少し含む。
13層 暗褐色土(10YR3/3)　粘質でしまりなし。
　径10～20cm大の礫を多く含む。
14層 褐色土(10YR4/4)　砂質でややしまる。径10～50cm大の
　礫を少し含み5mm大の炭化物片を少し含む。
15層 にぶい黄褐色土(10YR5/4)　砂質でややしまる。
　径5mm大の炭化物片を少し含む。
16層 黒褐色土(10YR3/2)　粘質でしまりなし。
　径5～10cm大の礫を少し含む。SD60055の埋土。
17層 暗褐色土(10YR3/3)　粘質でしまりなし。
　径5～10cm大の礫を少し含む。SD60055の埋土。
18層 褐灰色土(10YR4/1)　粘質でしまりなし。
　径5～10cm大の礫を少し含む。SD60055の埋土。
19層 灰黄褐色土(10YR4/2)　砂質でしまりなし。
　径10～100cm大の礫を多く含む。SD60055の埋土。
20層 黄灰色砂(2.5Y 4/1)　砂質で硬くしまる。
　径3～5cm大の円礫を含む。
21層 褐灰色土(10YR6/1)　砂質でかたくしまる。
　径40～100cm大の礫を多く含む。
22層 黄褐色土(10YR5/6)　砂質でかたくしまる。
　径20～40cm大の礫を多く含む。

平坦面6-16　トレンチ4・SX60050・SX60051・SX60054土層断面図



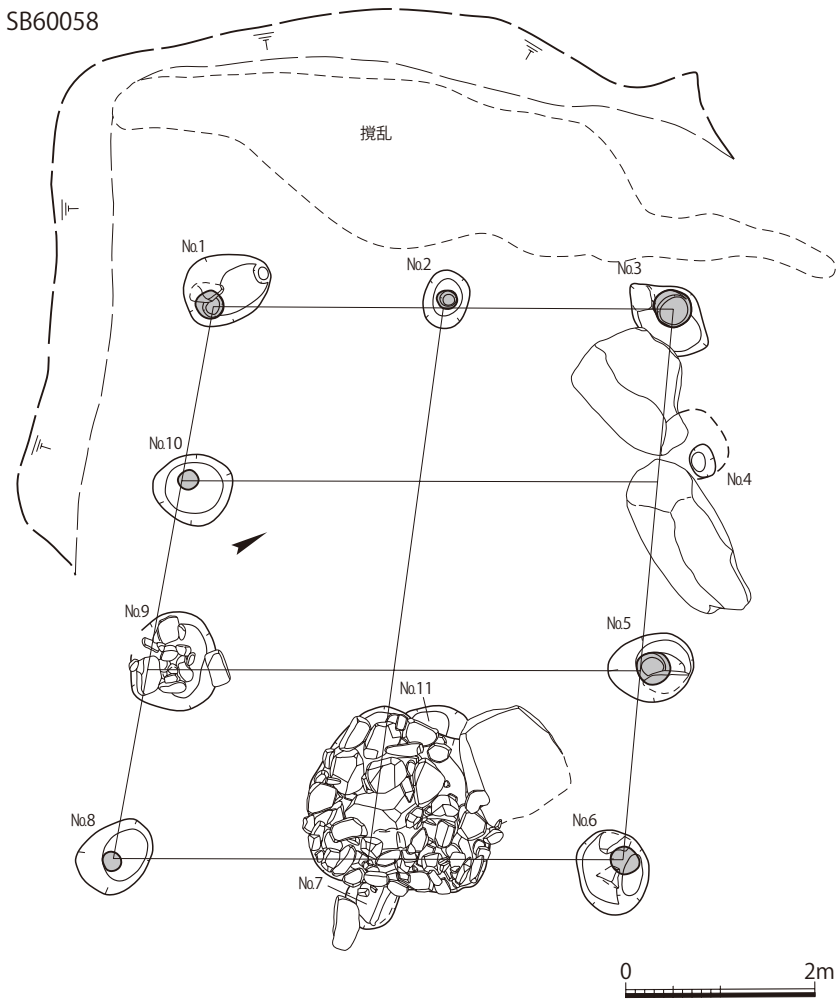
1層 客土　公民館造成時の造成土
2層 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　砂質でしまりなし。
　径10cm大の礫と炭化物片を少し含む。
　※SX60052　1層
3層 黒褐色土(2.5Y3/2)　砂質でややしまる。
　径10～20cm大の礫を多く含む。
　※SX60052　2層
4層 暗褐色土(10YR3/4)　粘質でややしまる。
　径5～10cm大の礫を少し含む。
　※SX60052石積裏込め。
5層 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3)　粘質でしまりなし。
　径20～40cm大の礫を多く含む。
6層 黒色土(2.5Y2/1)　砂質でややしまる。
　径20cm大の礫を少し含み、粗い砂粒を多く含む。
　※SD60055　1層
7層 黒褐色砂(2.5Y3/2)　砂質でしまる。
　径20cm～100cm大の礫を多く含む。地山。

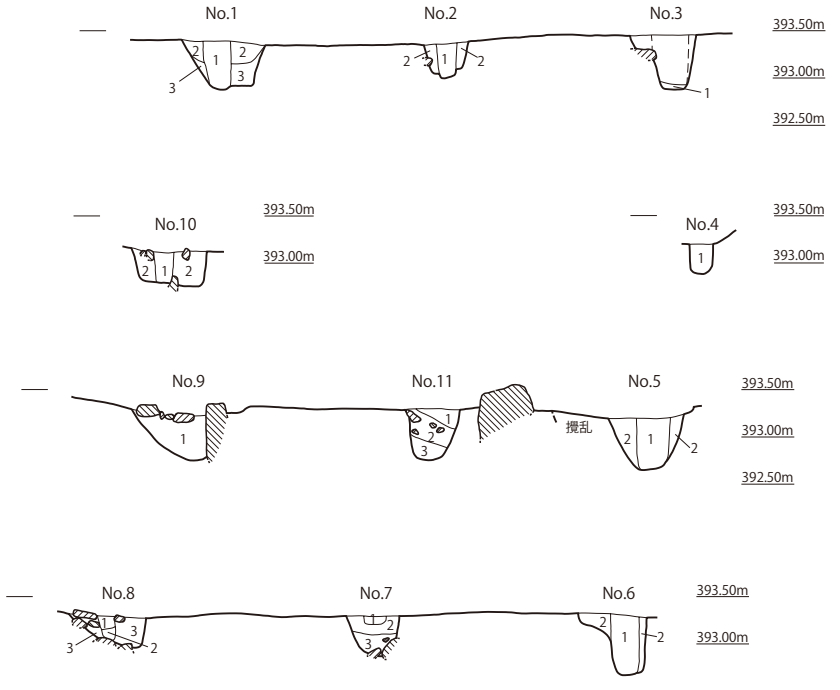
SX60052・SD60055土層断面図

0　2m

図 134　平坦面 6-16　トレンチ土層図 2・SD600055(1/60)

SB60058





No.1
1層 灰黄褐色土（Hue10YR5/2） 砂質でしまりなし。径5mm大の炭化物片を少し含む。柱痕。
2層 黒褐色土（Hue10YR3/1） 粘質でややしまる。径10cm大の礫を少し含む。
3層 黒褐色土（Hue10YR3/1） 粘質でしまりなし。径10～15cm大の礫を多く含む。

No.2
1層 明褐色土（Hue7.5YR5/6） 粘質でしまりなし。径5cm大の黒色土ブロックを少し含む。柱痕。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR5/2） 粘質でややしまる。径10cm大の礫を少し含む。

No.3
1層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でしまりなし。径5mm大の炭化物を少し含む。

No.4
1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 砂質でしまりなし。径5cm大の礫を少し含む。

No.5
1層 褐色土（Hue7.5YR4/6） 砂質でややしまる。径10cm大の礫を多く含む。柱痕。
2層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でややしまる。径10cm大の礫を多く含む。

No.6
1層 褐色土（Hue7.5YR4/4） 粘質でしまりなし。径2cm大の黄色土ブロックを少し含む。柱痕。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質でしまりなし。径5cm大の黄色土ブロックと径5mm大の炭化物片を少し含む。

No.7
1層 明褐色土（Hue7.5YR5/8） 砂質でややしまる。径3㎜大の炭化物片を少し含む。
2層 褐灰色土（Hue10YR5/1） 粘質でしまりなし。径3cm大の礫を少し含む。
3層 褐灰色土（Hue10YR5/1） 砂質でしまりなし。径5cm～10cm大の礫を多く含む。

No.8
1層 明褐色土（Hue7.5YR5/8） 粘質でしまりなし。径2㎜大の炭化物片を少し含む。柱痕。
2層 褐灰色土（Hue710YR5/1） 砂質でしまりなし。径5mm大の炭化物片を少し含む。柱痕。
3層 褐灰色土（Hue710YR 5/1） 砂質でややしまる。径5cm大の黄色ブロックを少し含む。

No.9
1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でしまりなし。径3cm大の黄色土ブロックを少し含む。

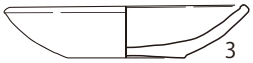
No.10
1層 明褐色土（Hue7.5YR5/6） 粘質でしまりなし。径3cm大の黒色土ブロックを少し含む。柱痕。
2層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 粘質でしまりなし。径10～20cm大の礫を多く含む。

No.11
1層 褐色土（Hue10YR4/4） 砂質でしまりなし。径5cm大の礫を少し含む。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR5/4） 砂質でややしまる。径10cm大の礫を多く含む。
3層 暗褐色土（Hue10YR3/4）粘質でしまりない。径1cm大の炭化物片を少し含む。

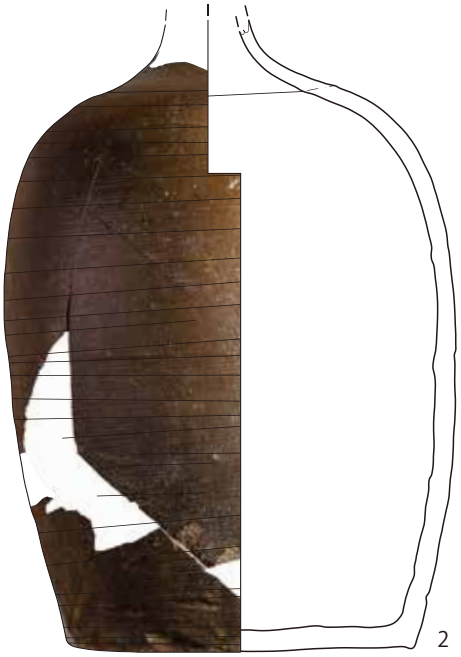
図 135 平坦面 6-16 SB60058(1/80)

トレンチ1-2 層

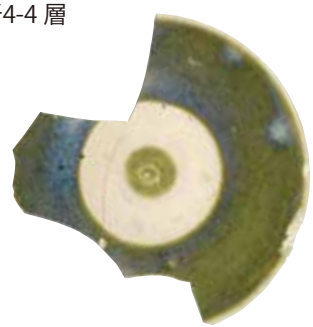
トレンチ3-1 層

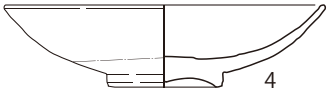


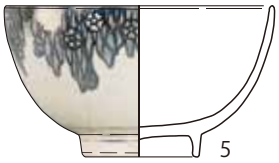
トレンチ2-3 層

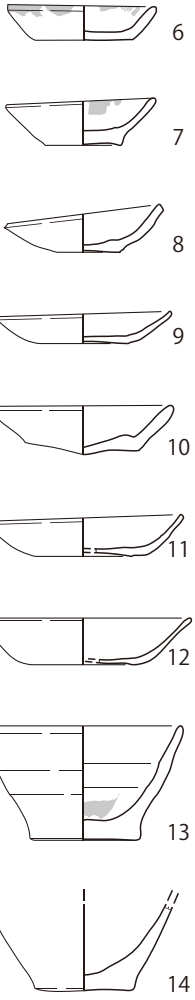


トレンチ4-4 層

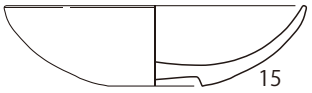


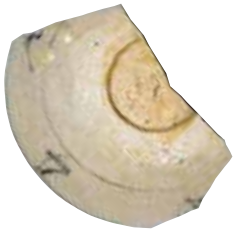




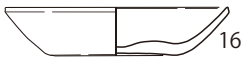


トレンチ4-5 層

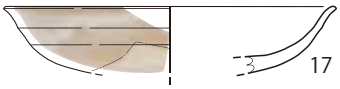




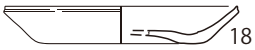
SK60057



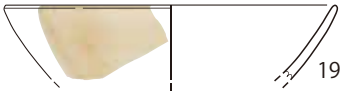
SB60058 No.2-1 層



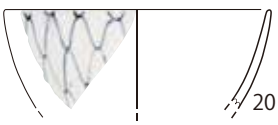
SB60058 No.3-1 層



SB60058 No.5-1 層



SB60058 No.5-2 層



SB60058 No.6-2 層

SB60058 No.6-2 層

SB60058 No.8-2 層

SB60058 No.9-1 層

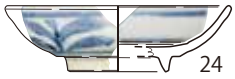
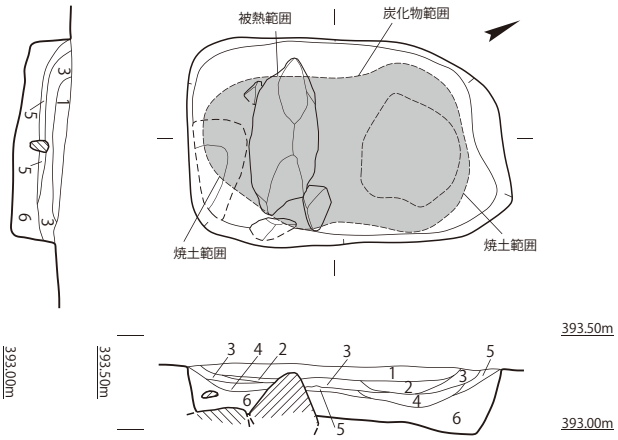


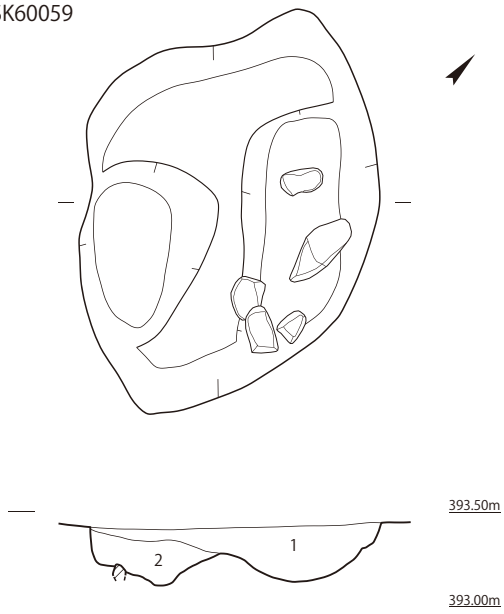
図 136　平坦面 6-16 の遺物実測図 1(1/3)

SK60049



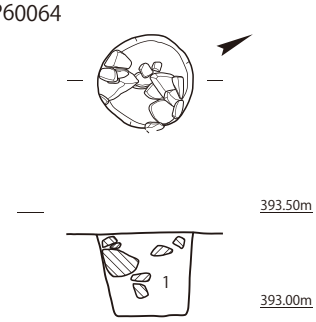
1層 黒褐色土（Hue10YR5/4）
粘質でしまりなし。大量の炭化物を含む。
2層 赤褐色土(Hue5YR4/6)
粘質でややしまる。焼土のみの層である。
3層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
粘質でしまりなし。径3㎜大の炭化物を少し含む。
4層 赤褐色土(Hue5YR4/6)
粘質でややしまる。焼土のみの層である。
5層 灰黄褐色土(Hue 10YR4/1)
粘質でしまりなし。径5㎜大の炭化物を少し含む。
6層 灰黄褐色土(Hue10YR4/1)
粘質でしまりなし。10㎝大の礫と粗い砂粒を少し含む。

SK60059



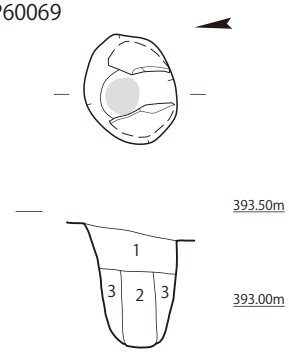
1層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2）
粘質でしまりなし、径1cm大の炭化物片を少し含む。
2層 灰黄褐色土（Hue10YR5/2）
粘質でしまりなし、径5mm大の炭化物を少しと
黄色土ブロックを少し含む。

P60064



1層 黒褐色土(Hue10YR3/2)
粘質でしまりなし、10～15cm大の
礫を含む。

P60069



1層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)
粘質でややしまる。
径5cm大の礫を少し含む。
2層 褐灰色土(Hue10YR4/1)
粘質でしまりなし、木片を多く含む。
底面から柱材の一部が出土。
3層 黒褐色土(Hue10YR3/1)
粘質が強くしまりなし、径5cm大の
灰色土粘土ブロックを多く含む。

図 137　平坦面 6-16　SK60049・59、P64・69(1/40)

の皿で、17世紀後半のものである。20は肥前産の染付碗で、外側面に丸みを持った網目文が配される。21・22は土師器の小皿で、小皿の中でも小型のものである。23は肥前産の染付碗で18世紀のものである。24は中国漳州窯の青花の皿である。混入品と思われるが他にも16世後半から17世紀前半の陶磁器片が見られ、造成前には近隣にその時期の遺構があったことが窺える。53はNo.1柱穴２層出土の漆器碗である。黒漆を塗布するが、下地処理が単調であるため一部が剥離する。文様などは認められない。

SK60049土坑(図137)

平坦面6-16東側石垣とSB60058掘立柱建物の間に位置し、長さ1.66m、幅1.09m、深さ0.37mを測り、隅丸長方形を呈する。調査所見と見解が異なるため記載するが、所見では「土坑内に多量の炭化物が入っていたため焼土坑と想定し掘削を進め、３層と４層の上面で焼土が充填された不整円形の浅い窪みが確認できた。浅い窪みは各層で２ヶ所見られ、各層ほぼ同じ位置であった。土坑の壁面に焼けた痕跡が見られないことから土坑内で火を使用した可能性は低く、焼土や炭化物は他の場所から持ち込まれたものと推測される」とされる。しかし、検出状況の写真を見る限り明らかに被熱範囲が認められ、他からの持ち込みではないものと考えられる。さらに、1層中には粘土塊が認められること、２層にわたって不整円形の焼土範囲が2ヶ所に見られること、焼土面が東西方向に傾斜し、かつ焼土範囲が高位である西側まで延びていることより、西側に焚口を配した竈の可能性が考えられる。時期は異なるものの旧小川内集落の民俗調査における明治末期の竈大きさともほぼ一致する。そこで、6層はおそらく当該遺構の地山である造成土を誤って掘削したもの、5層と3層は除湿・基盤成型のため黄灰褐色粘質土で炉床を貼ったもので、2時期にわたってそれぞれに２口の竈が築かれ、1層は竈の廃絶に際して灰と炉壁を壊して埋めた埋土と考えられる。

SK60059土坑(図137)

平坦面の南半中央部に位置する。長さ2.29m、幅1.52m、深さ0.33mを測り、平面楕円形を呈する。底面の形状と埋土の堆積状況より、２つの遺構が重複している可能性が考えられる。

SX60048(図138)

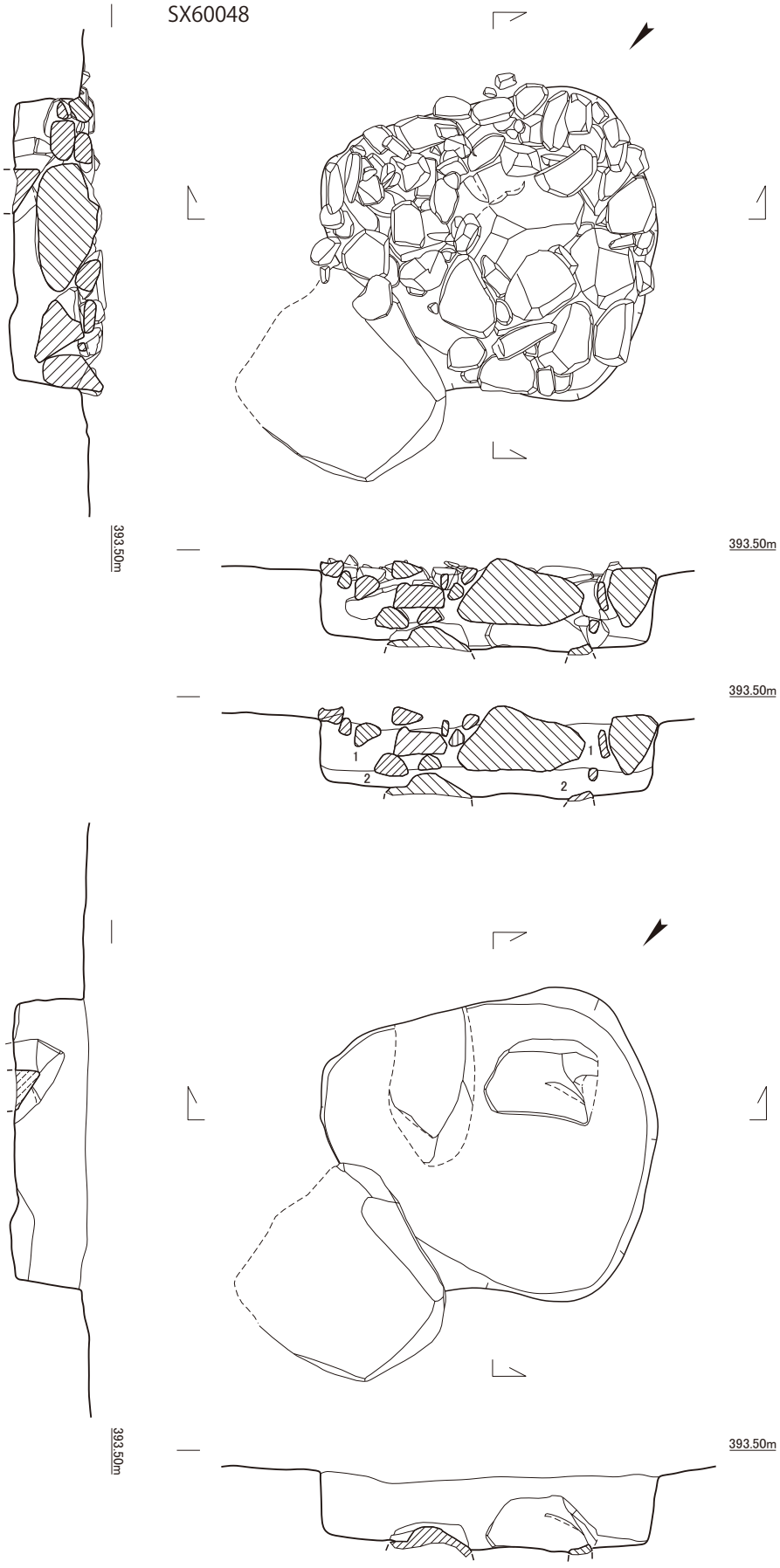
SB60058掘立柱建物の東側で、重複する場所に位置する。長さ2.09m、幅1.78m、深さ0.46mを測り、歪な円形を呈する。土坑内に約0.2mの盛土をした後、礫を充填しているが、その配置に規則性は窺えない。おおよそ、中央部に径約0.7mの巨岩を据え、その周囲に径0.3～0.4mの礫を配する。1層より18世紀第4四半期から19世紀初めの肥前産の染付が出土している。なお、SB60058掘立柱建物が東光寺とするならば東光寺の床下に存在することとなり、当該遺構の性格や両者の時期判断には慎重を要する。

出土遺物(図142)

28は肥前産の染付の手塩皿であり、内面に丸文を配する。18世紀第4四半期から19世紀初めのものである。29は岩見もしくは福岡産の擂鉢で、横に開く短めの高台を持つ。内外面に鉄釉を施す。

SX60050(図139)

平坦面北端に位置する。同様のSX60051、SX60052、SX60053と近接した時期で重複関係にあり、



1層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でしまりなし。
径20～60㎝大の大量礫を充填される。
2層 黒褐色土(Hue5YR2/3) 砂質でしまりなし。
径3㎝大の黄色土ブロックを少し含む。

0 1m

図 138 平坦面 6-16 SX60048(1/40)

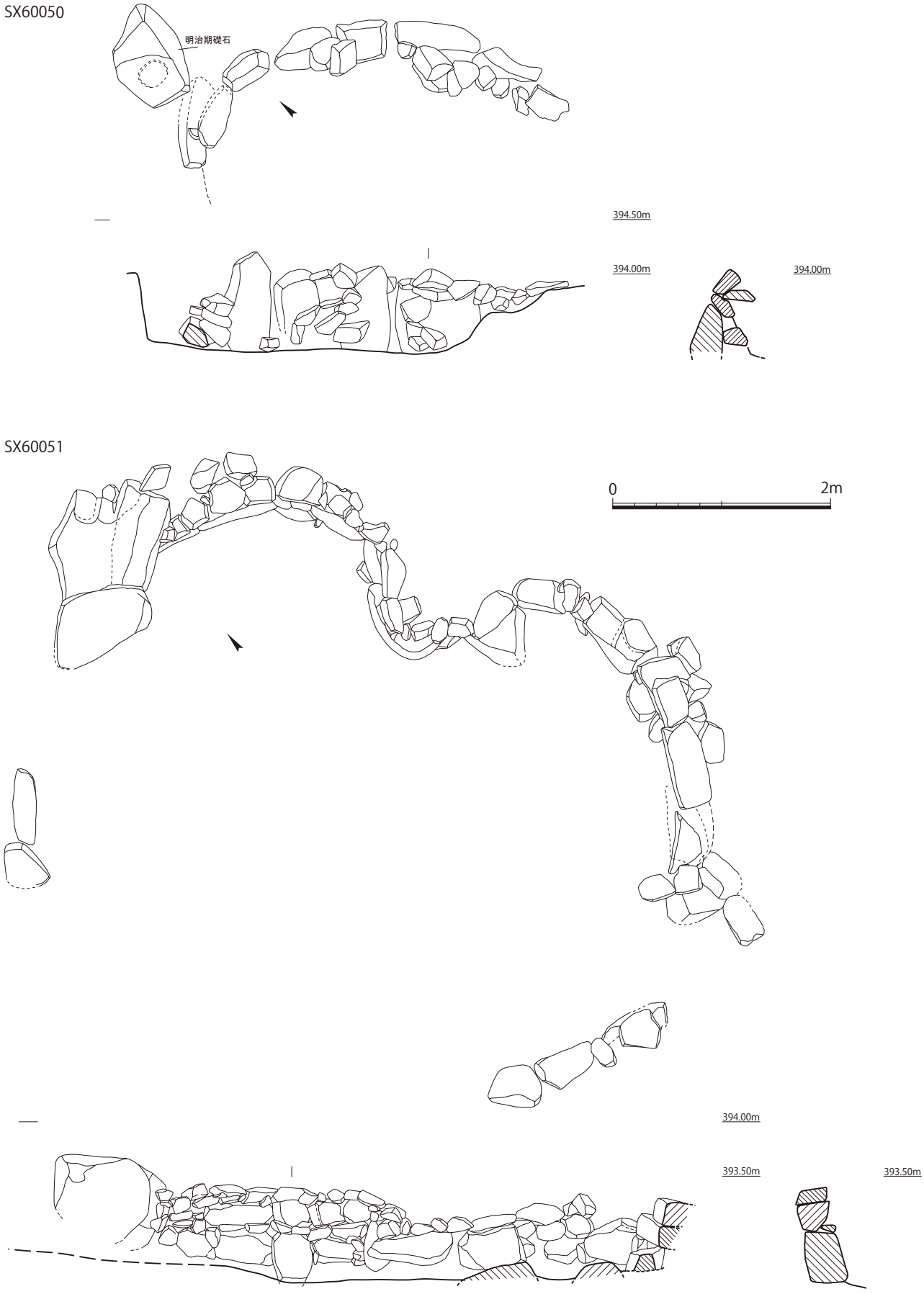


図 139　平坦面 6-16　SX60050・51(1/40)

その形状やグライ化した埋土から護岸に石組みを施した池跡と推定される遺構である。護岸の石組みは残存長3.94m、残存幅1.14m、残存高0.74ｍを測り、残存部の平面形状は径4mの円弧状を呈する。石組みは板状または柱状の石材を立て並べ、その隙間に0.2～0.3m程度の割石を積む。図139は崩落石を除去せずに図化したために煩雑に見えるが、本来は立石と間詰石のシンプルなものと考えられる。重複関係より検出した池跡のうち最も新しいものであり、埋土の出土遺物は18世紀後半から幕末の時期を示すが、当該遺構より古いとされるSX60051の埋土から明治期の遺物が出土しており、さらに当該遺構上には明治25年の棟札を持つ東光寺が建てられていたことより明治前半期の遺構と考えられる。

出土遺物(図142・143)

30は肥前産の広東碗で、焼成不良のため文様は判別できない。32は肥前産染付の小丸碗で、高台径が著しく小さい。外面に花文が配される。18世紀後半から1810年のものである。31は肥前産の染付皿で、蛇の目凹形高台を呈する。43・44は石(挽)臼である。43は上臼で、上面は皿状を呈する。破砕面にものくばりが一部残存する。44は下臼で、40・41と軸受け孔の形状が異なるものの、ほぼ同形を呈し、目の主溝は6分割されたものと考えられる。

SX60051(図139)

石組みの護岸は残存長14.26m、幅6.26m、残存高0.88ｍを測る。残存部より平面形状は径6mの円形の一部を窪ませた猪目形と復元でき、猪目上部の屈曲部はそれぞれ径2mの弧を描く。重複関係はSX60050・53より古く、SX60052より新しい。残存状況は非常に良好で一部の石積みでは天端石まで残存する。使用される石材の形状および大きさは多岐にわたるが、0.2m程度の比較的小ぶりな野面及び粗割石を多用する傾向にある。埋土は黒色及び暗褐色の砂質土で水成堆積と判断される。出土遺物より19世紀から明治期にかけて使用していたものと考えられる。

また、平面形状において、猪目形の中軸線はSB60058掘立柱建物の中軸線に対して約60度の角度を持つ。この意図については検討し得なかったが、これらの池跡群に重複するSD60054もほぼ同方向に直行するため、この方向に何らかの意図があるものと推定される。

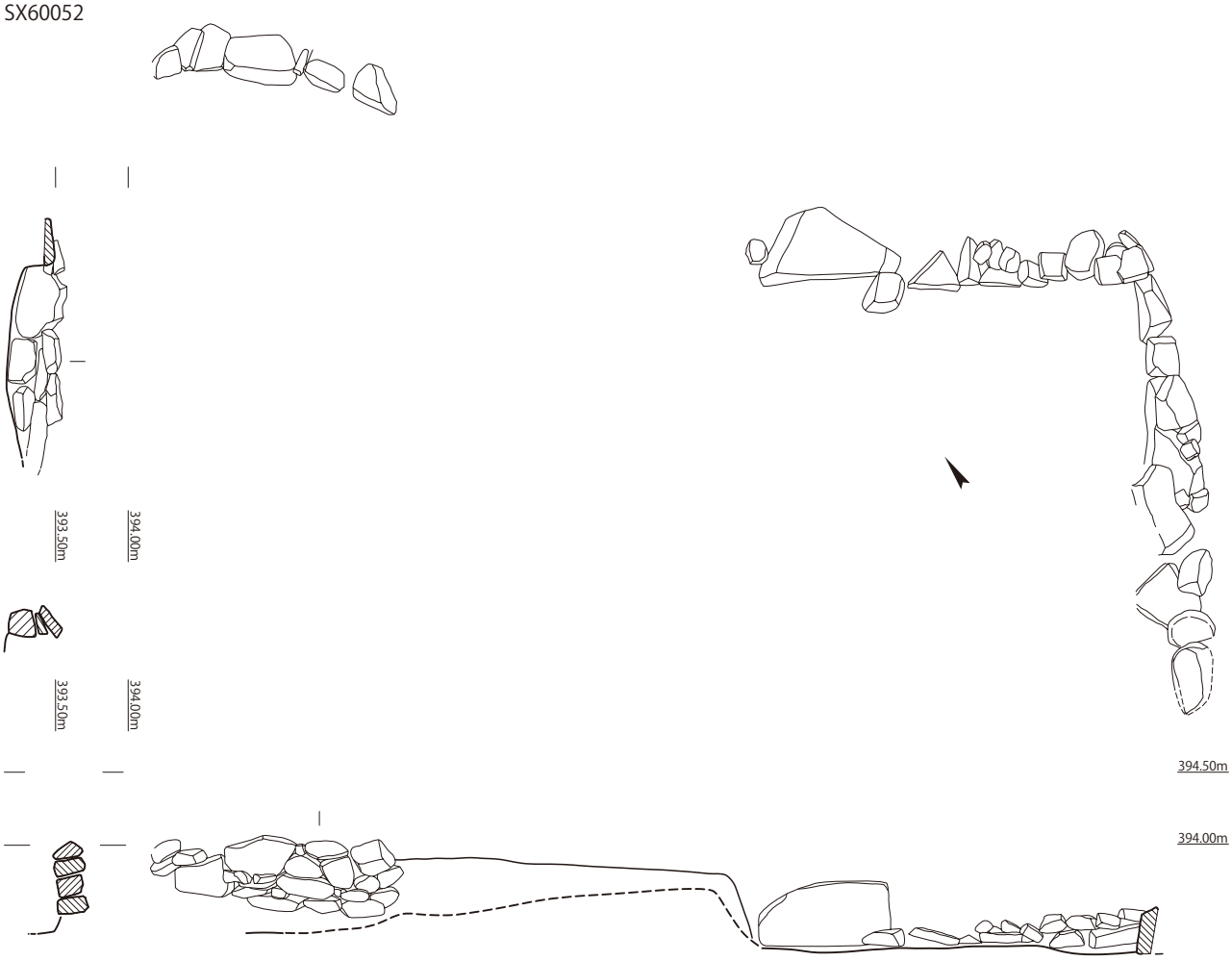
出土遺物(図142～145)

34は白磁の水滴である。幾何学文が型押しされる。他に同種の別個体が出土する。36は碗形滓である。一部にガラス質が見られ、径5mm程度の粒隗を含む。未溶解の鉄素材であろうか。45は蓮華文を側面に配する石製品であり、上面にホゾ穴状の方形の窪みがみられ、石地蔵等が座る蓮華座の可能性が考えられる。46・47は砥石である。46は方柱状を呈するものと推定される。48は多孔質の軽石様の石材で、著しく磨耗する。石製容器か。54は柾目の板材で、「喜」の墨書が確認できる。両側が折損しており、墨書は両側に続いていたと思われる。55はコマ状の木製品で中央部に孔が穿たれる。心棒を差し込んで使用するものか。56は栓状の木製品で横方向に細い溝を彫る。木取方向より横方向に力の加わる用途が推定される。57は木槌の頭部である。中央部に方形の柄孔が見られ、その傾きより斜め方向に柄が装着されていたことが判る。

SX60052(図140)

SX60052は池跡群の最も外側に位置する。石組み護岸はSX60051に切られ円弧部分と逆L字部分が2.5m離れて残存する。円弧部分の残存長1.76m、逆L字部分5.68m、残存高0.68mを測る。重複関係は

SX60052



SX60053

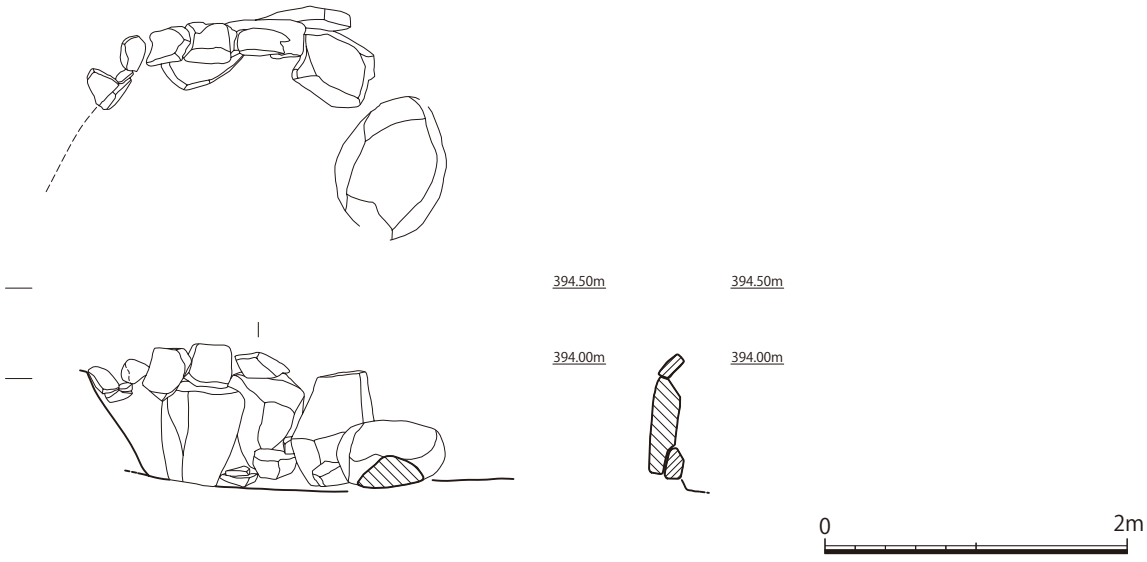


図 140　平坦面 6-16　SX60052・53(1/40)

SX60051より古く、池跡群では最初に築かれたものである。石組みは長さ0.1～0.9mの野面石、粗割石を使用した乱積みで、方柱状の石材を使用する傾向がみられるもののSX60051に類似する。また、逆L字部分の畳線はSB60058掘立柱建物の中軸線に並行・直行し関連性が指摘できるが、出土遺物は18～19世紀のものがみられSB60058掘立柱建物の創建時に伴って池跡も構築されたとするならば存続期間が100年余りとなり、他の池跡との関連で検討を要する。

SX60053(図140)

SX60053はSX60050の南接する位置にある。残存長2.18m、残存幅1.23m、残存高0.97mを測り、残存部の平面形状は径3mの円弧状を呈する。SX60051の南端に接する2石も径3mの円上にあることから当該池跡の一部の可能性がある。石組みは高さ0.7～0.8mの石材を立て並べて配置しており、SX60050に類似する。埋土からは明治期以降の遺物が一定量見られ、立石を並べる石積み手法よりSX60050とほぼと同時期もしくは一体のものと考えられる。

また、残存部東端はSD60054溝と接するが、この箇所の高さは0.49mと他の立石より低く、SD50054から当該遺構へ導水するための水口であった可能性も考えられる。さらに、SK60053内部にはSX60051の一部が残存する。この水口と一体になり再利用され、当該遺構の南壁を成していた可能性も考えられる。

出土遺物(図144)

49は砥石で、厚さが薄く一定で、両側から切り目が入ることより石製品の未成品を転用したものか。38と同一個体の可能性がある。

SD60054溝(図132)

池跡群の中央を横断する位置にある。石組水路である。残存長14.94m、幅0.62m、深さ0.21m を測り、北西から南東の方向に走行し、SX60053と接する部分ではSX60053の形状に合わせて円弧状に屈曲し、両端は調査区外に延びる。溝の両側は１石づつ並べ、南側に向かって深くなるにつれてその大きさは大きくなる傾向にある。石材の天端高はSX60053池跡とほぼ同じで、その走行形状より同時併存の可能性が考えられる。このことより、SX60053と相まって苑池空間を形成していたものと推定される。また、これらの西側には丘陵先端部が延びてきており、借景としたものと推定される。

SD60055溝(図134)

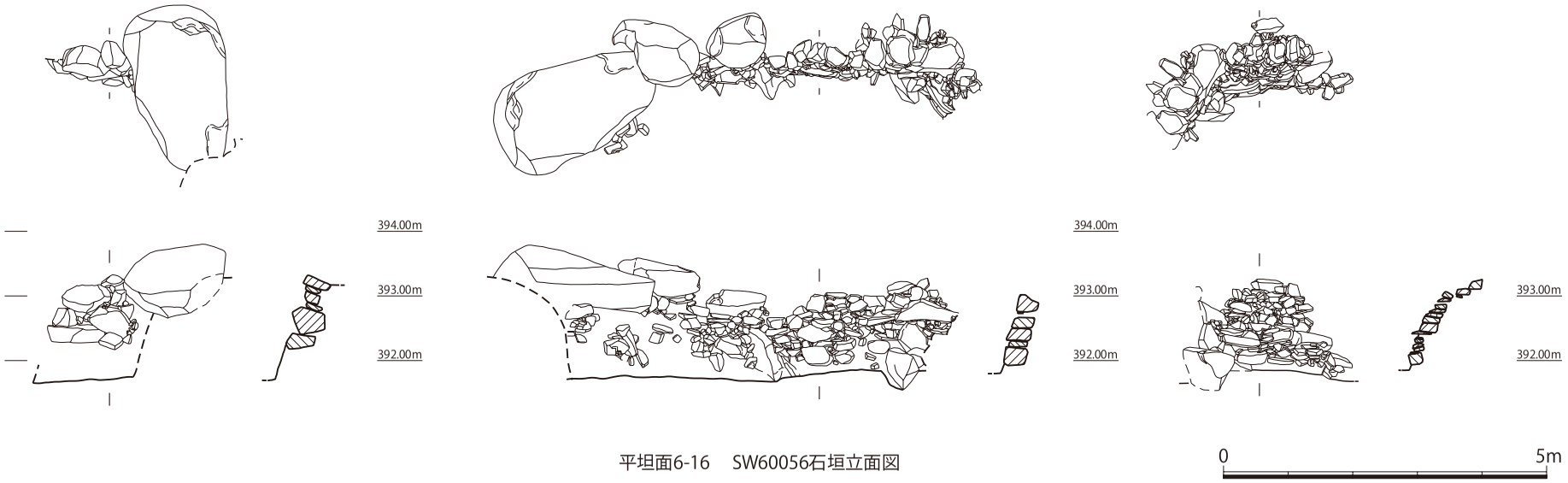
SB60058掘立柱建物とSX60051・SD60054の間に位置する。未完掘のため全容は不明であるが、残存長7.55m、残存幅2.62m、深さ1.15m を測り、北西から南東方向へ延びる。重複関係はSX60051・SD60054 に切られる。出土遺物は17世紀末から18世紀前半の肥前産陶磁器が出土している。上層には班鉄やマンガン斑が見られることより最終的には湿地化した状況が窺え、自然流路と考えられている。

出土遺物(図142)

25～27は土師器の小皿であり、ここでも6cm前後のものと8cm前後のものの2種がみられる。

SW60056石垣(図141)

平坦面6-16東側に構築された石垣である。現在の石垣畳線より１間(6尺5寸)内側で検出され、平面



平坦面6-16　SW60056石垣立面図

図 141　平坦面 6-16　SW60056(1/100)

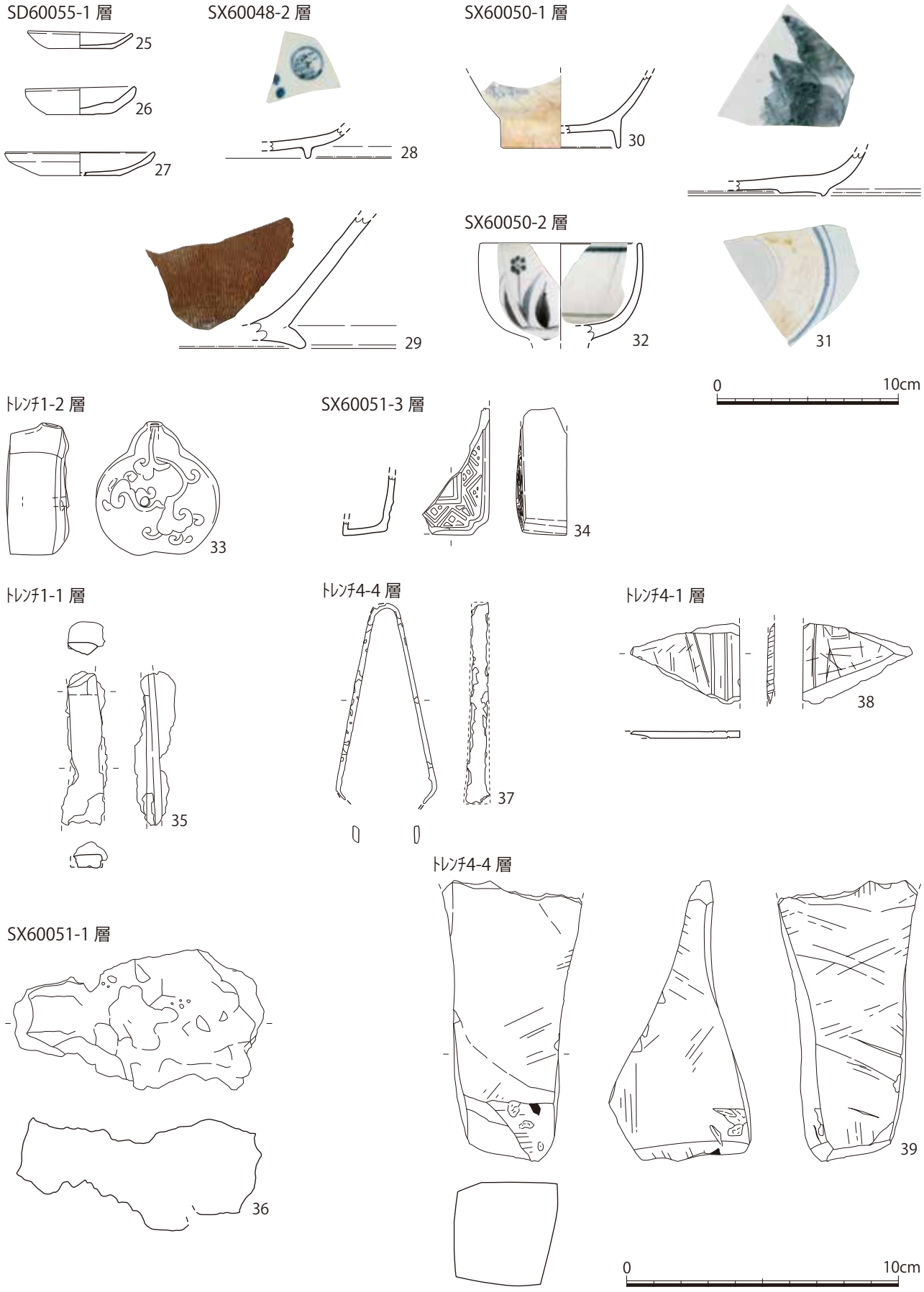


図 142　平坦面 6-16 の遺物実測図 2(1/3、1/2)

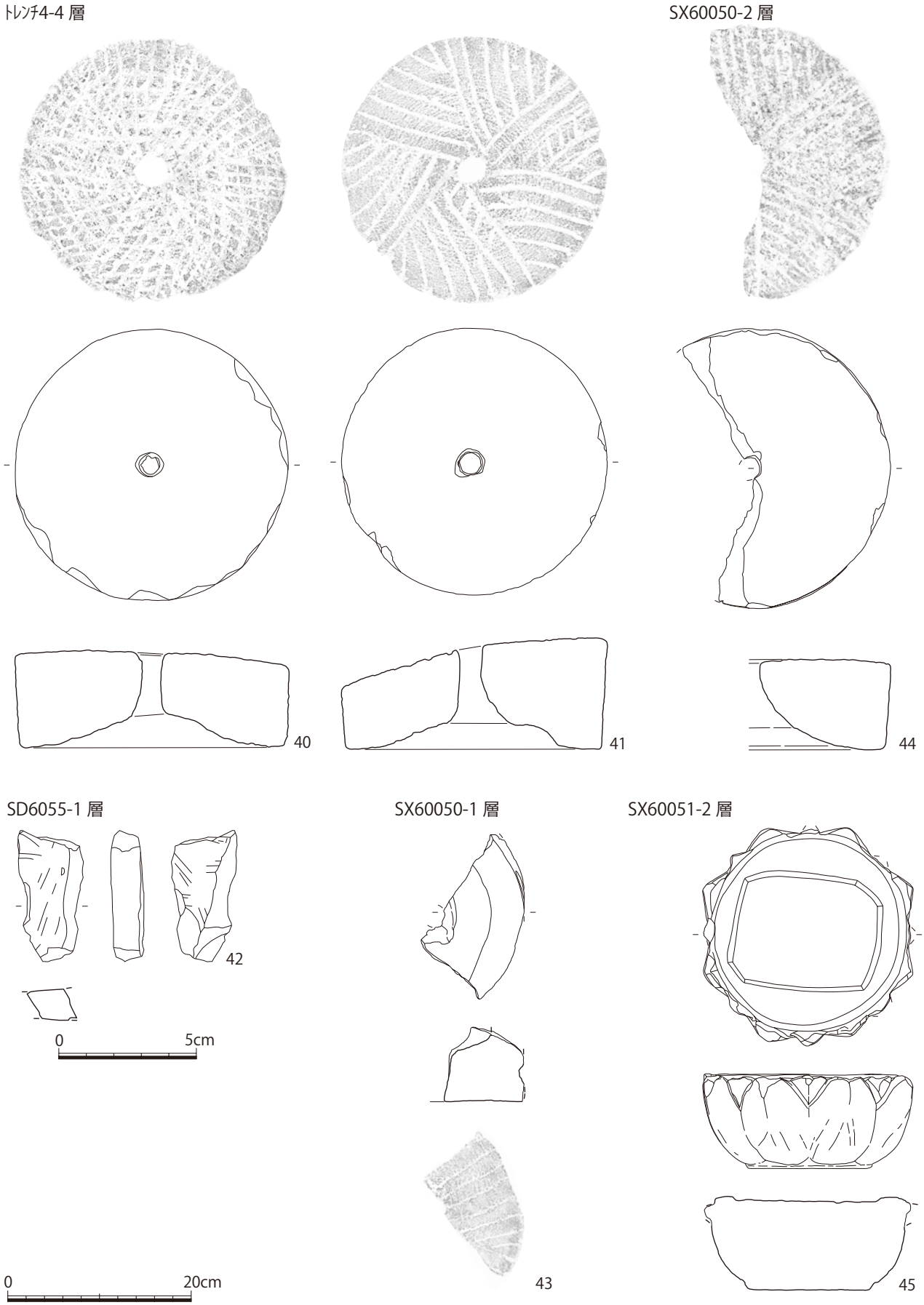


図 143　平坦面 6-16 の遺物実測図 3(1/6、1/2)

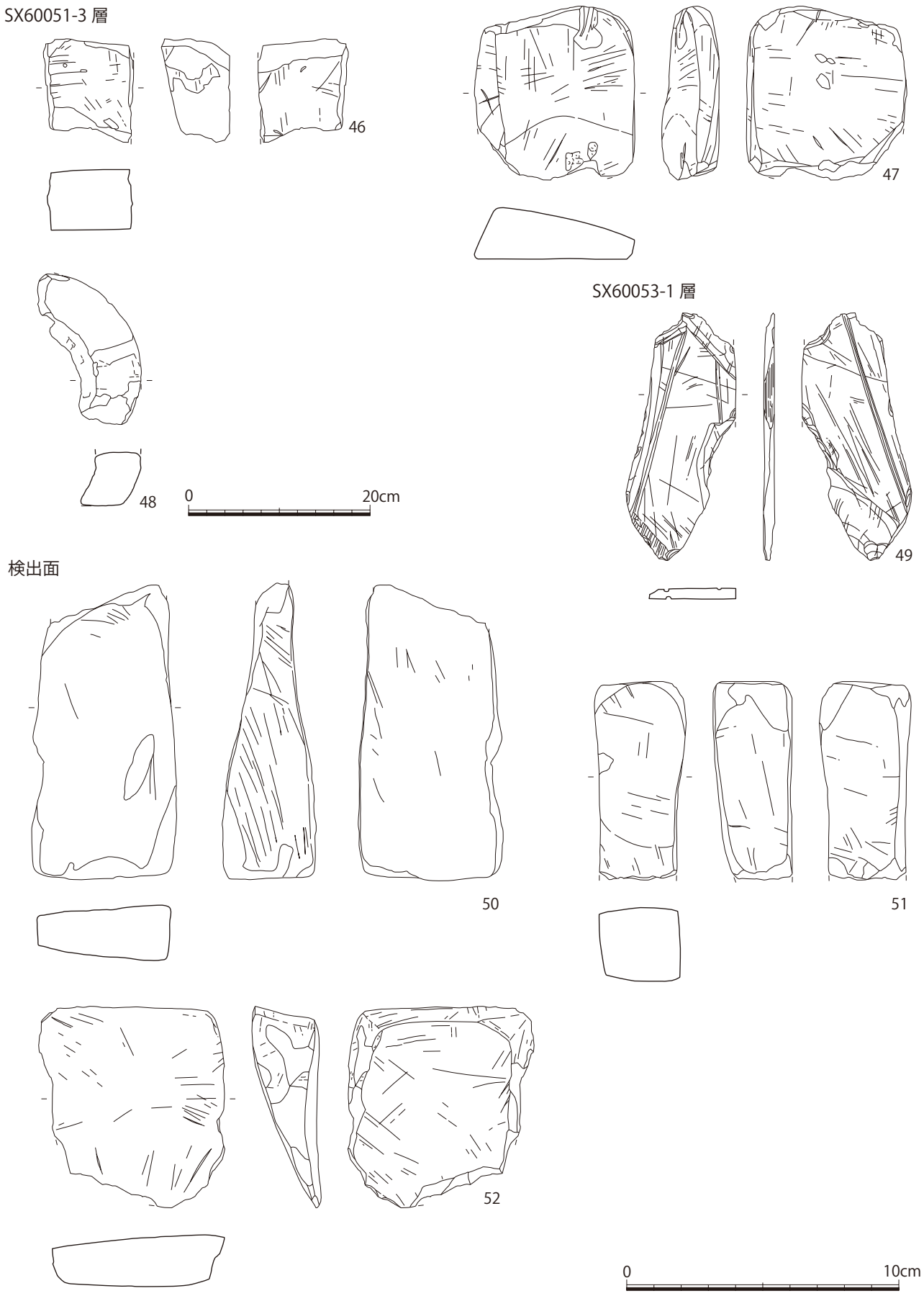
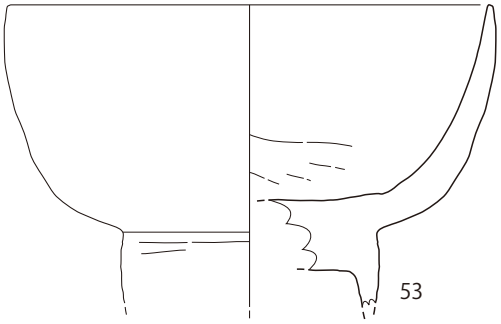
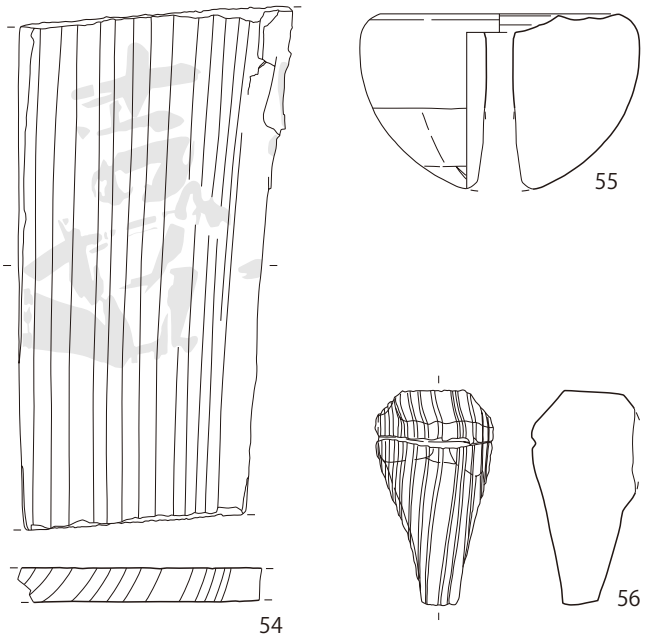


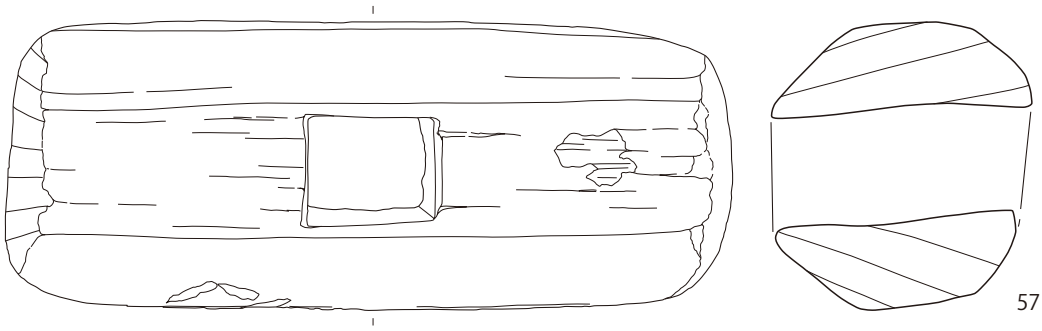
図 144　平坦面 6-16 の遺物実測図 4(1/2、1/6)

SB60058 No.1-2 層



SX60051-3 層

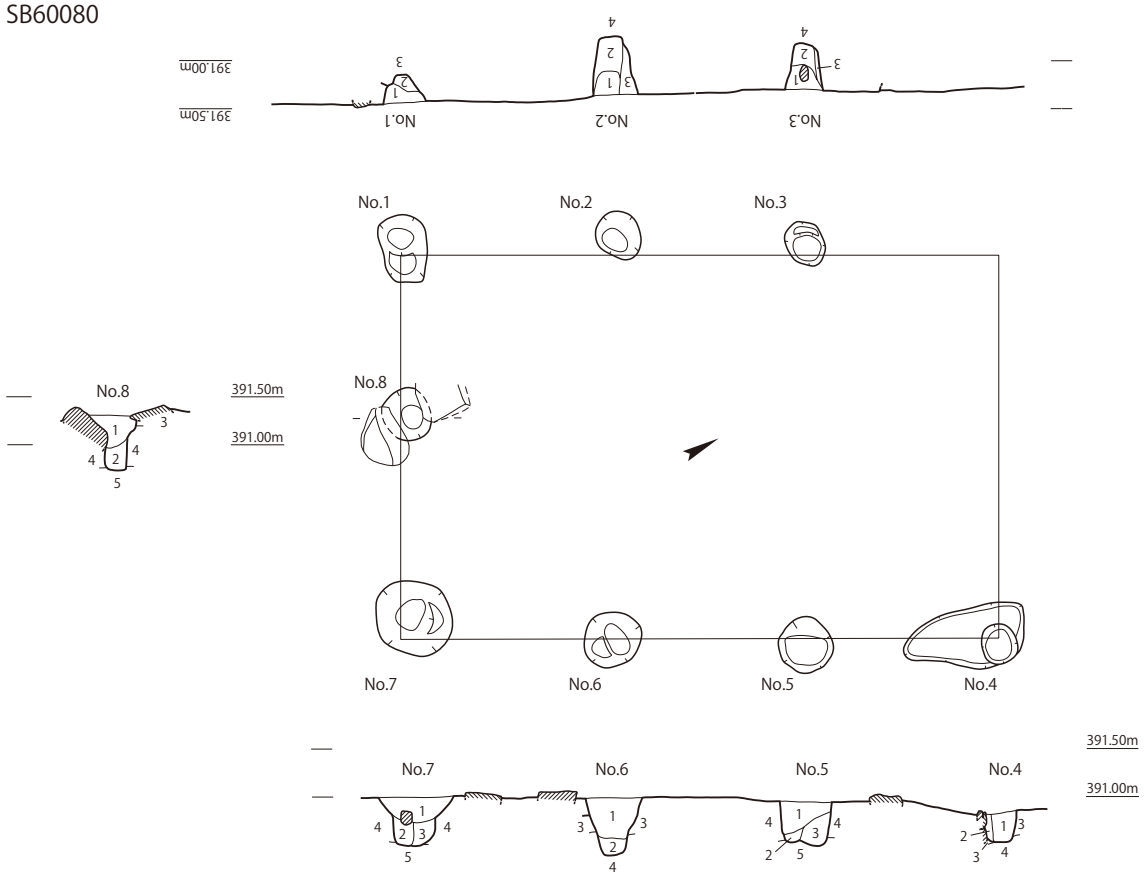




平坦面 6-14
ﾄﾚﾝﾁ1-1 層

図 145　平坦面 6-14・16 の遺物実測図 5(1/2、1/1)

SB60080



No.1
- 1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質でかたくしまる。
  3～5㎜大の礫を多量に含む。
- 2層 炭黄褐色土（Hue10YR4/2 ） 砂質で硬くしまる。
  3cm大の礫明黄褐色土（地山ブロック）を多量に含む。
- 3層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質で硬くしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

No.2
- 1層 黒褐色土（Hue10YR2/2） 粘質で硬くしまる。
  橙色土ブロックを多量に含む。
  1cm大の炭化物を少量含む。
- 2層 灰黄褐色土（Hue10YR04/2） 粘質で硬くしまる。
  3cm大の礫を少量含む。
- 3層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
  3～5cm大の礫を多量に含む。
- 4層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質で硬くしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。 地山。

No.3
- 1層 黒褐色土（Hue10YR2/2） 粘質で硬くしまる。
  明黄褐色土（地山ブロック）を多量に含む。
- 2層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質で硬くしまる。
  明黄褐色土（地山ブロック）を少量含む。
- 3層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質で硬くしまる。
  3cm大の礫を少量含む。
  平坦面№6-17トレンチ1.1層と同層
- 4層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質で硬くしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

No.4
- 1層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質でかたくしまる。
  橙色土ブロックを多量に5cm大の礫を少量含む。
- 2層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でかたくしまる。
  3～5cm大の礫を少量含む。
- 3層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
  5～50cm大の礫、1～2cm大の炭化物を多量に含む。
  平坦面№6-17トレンチ1.1層と同層
- 4層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質でかたくしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

No.5
- 1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
  褐色土ブロック、2㎜大の炭化物を多量に含む。
- 2層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
  褐色土ブロックを少量含む。
- 3層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 粘質でかたくしまる。
  褐色土ブロック、2㎜大の炭化物を多量に含む。
- 4層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
  5～50cm大の1～2cm大の炭化物を多量に含む。
- 5層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質でかたくしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

No.6
- 1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
  褐色土ブロック、2㎜大の炭化物を多量に含む。
- 2層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
  褐色土ブロック、2㎜大の炭化物を少量含む。
- 3層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でかたくしまる。
  3～10cm大の礫を多量に含む。
- 4層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質でかたくしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

No.7
- 1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
  褐色土ブロック2mm大の炭化物。5～10cm大の
  礫を多量に含む。
- 2層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
  5cm大の礫を少量含む。
- 3層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でかたくしまる。
  褐色土ブロック7.5cm大の礫を多量に含む。
- 4層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でかたくしまる。
  3～10cm大の礫を多量に含む。
- 5層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質でかたくしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

No.8
- 1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
  2㎜大の炭化物、橙色土ブロックを多量に含む。
- 2層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質で硬くしまる。
  3cm大の礫、橙色土ブロックを少量含む。
- 3層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質で硬くしまる。
  5～30cm大の礫を多量に含む。
- 4層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でかたくしまる。
  5～10cm大の礫を多量に含む。
- 5層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質でかたくしまる。
  3～5cm大の花崗岩を多量に含む。地山。

0 2m

図 146 平坦面 6-17 SB60080(1/80)

形状は幅約6mの「コ」の字状を呈する。残存長は9.84m、残存高は0.73m を測る。地山内に埋没する花崗岩を利用し、築石には長さ0.2～0.3mの小型の粗割石を主体として所々に径0.6m前後の割石を配する。石積みはいわゆる乱積みであり、入隅部の石積みも不明確で稚拙である。また、石垣西面の塁線に対応する石垣面は検出しておらず、往時には塁線より入り込んだ石垣面であったと思われるうえ、南北の石垣面は東側で現在の石垣に分断されており、往時にはさらに東側に延びていた可能性が考えられる。これら稚拙な石積みやその平面形から勘案すると、この場所が崩落し造成土が流出したために、その補修として設置された石垣と推定される。

(17)平坦面6-17(図123・124)

平坦面6-17は平坦面6-10、6-11、6-16に挟まれる位置にある。県道から東光寺に至る通路が逆L字に屈折するが、その角に位置する。平面形はL字形を成し、南北25m、東西20mで面積約390m²を測る。北、東、南は造成に伴う石垣、西側は平坦面6-16の石垣によって区画されるが、旧小川内集落では北西側の石垣は除去され入口が設けられていたようである。また、平坦面6-10との比高は1.5～1.6mであり、現在は当該平坦面南側に車道が設けられているが、当初はSX60088石段により進入していた可能性がある。

調査の結果、石垣、石段、掘立柱建物、柵列、桶埋設遺構を含む土坑が検出されている。石段については、旧集落では蔵の軒下の物置への階段として転用されていたのであるが、東光寺と推定されるSB60058掘立柱建物の北側桁行方向の延長線上にあたり、軸方向を同じくしていることより、東光寺の参道の一部と推定され、さらに、当平坦面で検出されたSB60080掘立柱建物の梁方向も同軸方向をとる等、その関連性が推察される。また、埋没した石垣が北東で検出しており、この平坦面が２段で構築されていたことが分かるが、他にこのような例はなく、石段や掘立柱建物を含めて、この平坦面の役割を考えるうえで興味深い。

出土遺物(図148)

１～3は土師器の皿で、1・3は口縁部に煤・タールの付着が見られ、燈明皿として使用されたものである。いずれも底面に糸切り痕を残し、底部と口縁部の境を丸く仕上げる。9は検出面で出土した寛永通宝で、古寛永である。

SB60080掘立柱建物(図146)

当該平坦面南東部に位置し、SA60081柵列と重複する。No.1 ～８の柱穴で構成され、北側及び北西側の柱穴は撹乱により削平される。規模は桁行3間、梁行2間で桁行6.33m、梁行4.05 mを測り、建物の主軸方向はW-28°-Eで、同平坦面SW60087石垣の塁線方向に直行し、平坦面6-16のSB60058掘立柱建物の梁行方向に並行する。柱穴は径0.39～0.85mで、深さ0.32～0.61mを測る。明確な柱痕は確認できていないが、柱穴埋土の土層観察により径0.2m程度の柱が使用されていたものと推定される。

出土遺物(図148)

4はNo.1柱穴より出土した肥前有田産の染付皿で、1670～18世紀初めのものである。5はNo.4柱穴より出土した中国漳州窯の青花皿で、口縁部のみ残存する。他にNo.6柱穴より同時期と思われる染付皿、No.7柱穴より焼成不良の磁器皿が出土している。

SK60083桶埋設遺構(図147)

東側石垣屈曲部上に位置する。長さ1.24m、幅1.10m、深さ0.39mを測り、平面形は歪な隅丸方形形を呈する。埋土の土層観察及び埋土中に板材を検出したことより桶埋設遺構と判断されている。桶の径は0.69mで、土坑内に0.18mの粘質土を敷設した後、設置されている。これは漏水防止対策と推定され、これまで検出した桶埋設遺構では粘性土の敷設までは行われておらず、より桶の気密性が要求される使用用途と考えられ、隣接する同様のSK60085桶埋設遺構及びSJ60084と関連性の高い遺構と推定される。なお、埋土中より18世紀後半から19世紀初めの染付碗が出土している。

SK60085桶埋設遺構(図147)

SK60083の北接する位置にあたる。長さ1.53m、幅1.48m、深さ0.34mを測り、平面形は円形を呈す。SK60083桶埋設遺構、SJ60084と重複関係にあり、両者に切られる。SB60035同様、土層観察と板材の検出により、桶埋設遺構と判断され、その径は0.95mを測る。土坑底部で検出した地山中の石を利用したと推定され、その上に粘土を敷設し桶を設置した後、桶側面にも粘質土を貼っており、SK60083にも増して強い漏水防止策が要求された遺構と考えられる。

なお、先立って実施された民俗調査の建築部門の報告によると、周辺には20世紀初頭の建築と推定される蔵が設置されており、当該遺構のある場所は入口脇に設けられた便所の小便所にあたる。他の平坦面で検出された桶埋設遺構と異なり底板の一部が残存し、強い漏水防止対策が要求される点において当該遺構はこの小便所の便槽の可能性が考えられる。

出土遺物(図148)

8は青銅製の平打簪である。薄く平坦な円形の飾りに、２本の脚が付く。円形の飾り部には文様が鋳込まれるが、判別不明である。他に江戸後期と思われる内面に鉄釉を施した燈明皿及び土師器の燈明皿の他、近代のものと思われる白磁碗も出土している。

SK60089土坑(図147)

SB60080掘立柱建物、SA60081柵列と重複する位置にあたる。長さ1.16m、幅0.76m、深さ0.59mを測り、長楕円形を呈する。土層観察では、埋土に礫を多量に含み人為的な埋め戻しによるものと推定される。SA6008柵列の中央部に位置し、軸方向を同じくすることより関連性が窺われる。

出土遺物(図148)

7は肥前産の染付皿で、幅狭の蛇の目凹形高台を呈する。内面に竹垣文、見込みに手書きの五弁花を配する。18世紀第2～3四半世紀のものである。他に同時期の白磁の皿も出土している。

SJ60082甕埋設遺構(図147)

SB60080掘立柱建物東側1.9m離れた場所に位置する。甕埋設遺構であり、長さ0.42m、幅0.39m、深さ0.13mを測り、楕円形を呈す。18世紀以降の肥前産陶器甕が埋設してあり、底部のみが残存する。壁面に尿石等の付着は認められない。周辺は遺構の希薄な部分であり、上屋等の施設は検出できていない。なお、旧集落時の蔵には、当該位置に貯蔵庫が設けられており、それに伴う遺構の可能性も考えられる。

SJ60084甕埋設遺構(図147)

SK60085に東接する位置にあたる。平面形は円形を呈し、径0.74～0.77m、深さ0.25mを測る。軟

質の陶器甕が埋設してあり、底部のみが残存する。SK60085に東接し、土坑の底面及び甕の設置高もほぼ同位である上、内面に尿石が付着しており便所跡と考えられ、民俗調査の報告では大便所の位置にあたる。当該遺構が便所であるとするならば小便所は桶、大便所は甕と便槽に使い分けが見られることとなり興味深い。

SA60081柵列(図150)

当該平坦面の南東部に位置し、SB60080掘立柱建物と重複する。No.1 ～ 4 の柱穴で構成される。全長5.3m、柱穴は径0.37～0.7m、深さ0.13～0.37mを測る。No.1には径0.2mの柱痕が残る。主軸方向はW-36°-Eを向き、約4.3mの間隔を持ってSW60086東側石垣畳線に並行する。出土遺物は、土師器の小片の他、No.3では16世紀後半から17世紀初めの中国漳州窯の磁器碗が出土している。混入の可能性も否定できないが、SB60080に比して柱穴の深さが浅く削平を受けているものと推定され、重複関係は無いが少なくとも掘立柱建物より古い時期のものと考えられる。

出土遺物(図148)

6はNo.3柱穴より出土した中国漳州窯の青花碗である。口縁部外面には不明確ながら波濤文状の文様、内面には圏線が配される。

SX60088石段(図149)

SW60088石垣に隣接する位置にあたる。石段3段分を検出し、最上段では板石と割石の石敷きが西側へ延びる。南面は改変してSW60089が構築される。残存長5.06m、残存幅1.92m、残存高1.24 mを測り、蹴上げは0.29m、踏幅は約0.7 ㎝を測る。石段の石材は平面形が長辺0.4～0.5m、短辺約0.4mの長方形のものと長辺約1m、奥行き0.7～0.86mの三角形のものが使用される。踏石下部には捨石を施しており、踏石の安定化を図るための構造と考えられる。なお、東側下段は踏石状の石材は認められるが、蹴上げ、踏幅が一定せず、石材の設置方向も異なるため、下部構造の捨石の一部が露出したものと推定される。遺物は 1 層より17世紀後半から18世紀前半と考えられる陶磁器片が出土している。

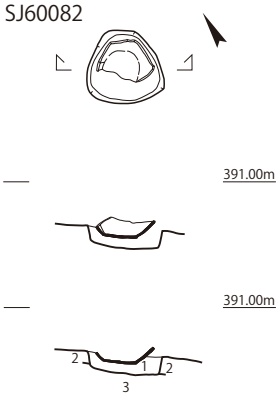
SW60086石垣(図150)

平坦面北東に位置する。隅角部が崩落し、その両側部分のみ残存する。東側は根石のみ残存し、残存長2.77m、残存高0.5mを測る。北側は1～3段が残存し、残存長3.05m、残存高0.9mを測る。隅角部周辺であるためか、築石には主に0.3～0.5mの割石を中心とするが、1m前後の石材も使用している。また、根石下では根切と考えられる整地面を確認している。東側石垣畳線は平坦面6-16で検出したSB60058の長軸線と直行し、後述するSX60088石段とほぼ平行する。この石垣に直行してトレンチ1が設定されるが、その埋土中より土師器の小皿6点以上及び土鈴が出土している。

SW60099(図150)

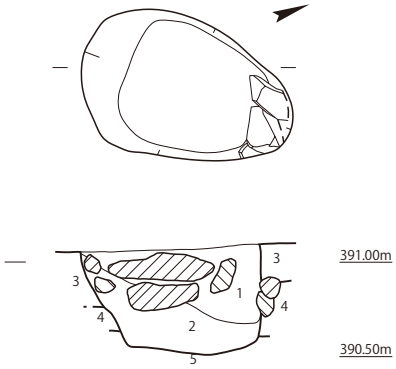
SW60086東側石垣の前面約0.3mに位置する。石面が一定せず、一見崩落石群のように見える。残存長1.35m、残存高0.35mを測る。築石は0.2～0.4mの割石を使用し、割面を上方に向けて据える傾向が見られることより、調査時にはSW60086石垣前面に付属する石段と推定されている。

SJ60082



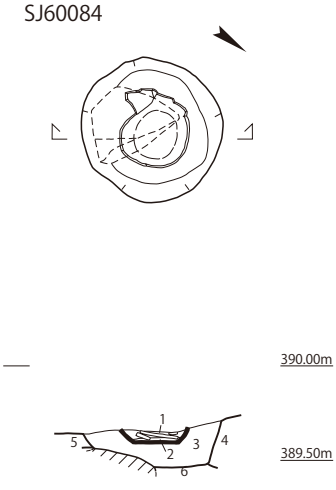
1層 暗褐色土（Hue10YR3/4） 粘質でかたくしまる。
赤褐色土ブロックを多量2㎜大の炭化物を少量含む。
2層 黒褐色土（Hue10YR3/1） 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロックを少量含む。
3層 褐色土（Hue10YR4/4） 粘質でかたくしまる。
3～10cm大の礫を多量に含む。

SK60089



1層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でかたくしまる。
5～50センチ大の礫を多量に褐色土ブロックを少量含む。
2層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質でかたくしまる。
5～50cm大の礫を少量含む。
3層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
4層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
5層 明黄褐色土（Hue10YR6/6） 粘質でかたくしまる。
3～5cm大の花崗岩を多量に含む。

SJ60084

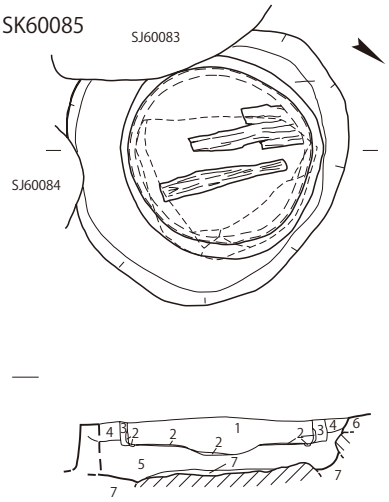


1層 灰褐色土（Hue7.5YR4/2） 粘質でしまりなし。
3cm大の礫、カメ片を多量に含む。甕内埋土。
2層 黄橙色土（Hue7.5YR7/8） 砂質でかたくしまる。
1～3㎜大の砂粒を多量に含む。
3層 褐灰色土（Hue10YR4/1） 砂質でかたくしまる。
2～5cm大の礫を多量に含む。
4層 にぶい黄褐色土（Hue10YR5/3） 粘質でかたくしまる。
褐灰色土ブロック、2㎜大の炭化物を多量に含む。
5層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でかたくしまる。
6層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 粘質でかたくしまる。
5～50cm大の礫を多量に含む。地山。

SK60083

1層 黒褐色土（Hue10YR3/2） 粘質でかたくしまる。
5～30cm大の礫を多量に含む。
2層 暗褐色土（Hue10YR3/3） 粘質でしまりなし。
3層 灰黄褐色土（Hue10YR4/2） 粘質でかたくしまる。
橙色土ブロックを少量含む。
4層 橙色土（Hue7.5YR6/6） 粘土でかたくしまる。
褐灰色土ブロックを少量含む。（桶内埋土）
5層 にぶい黄褐色土（Hue10YR4/3） 粘質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量、橙色土ブロックを少量含む。
6層 黒褐色土（Hue10YR2/3） 粘質でかたくしまる。
7層 黄褐色土（Hue10YR5/6） 粘質でかたくしまる。
5～20cm大の礫を多量に含む。地山。

SK60085

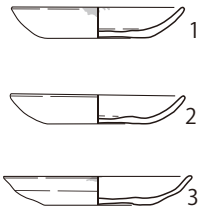


1層 灰黄褐色土（Hue10YR 4/2） 砂質でかたくしまる。
5～20cm大の礫を少量含む。桶内埋土。
2層 黒褐色土（Hue10YR 3/2） 粘質でしまりなし。
桶材痕跡。
3層 にぶい黄褐色土（Hue10YR 5/4） 粘土でかたくしまる。
桶補強粘土。
4層 褐灰色土（Hue10YR 4/1） 粘質でかたくしまる。
2㎜大の炭化物を少量含む。
5層 にぶい黄褐色土（Hue10YR 5/3） 粘質でかたくしまる。
褐灰色土ブロック、2㎜大の炭化物を多量に含む。
6層 黒褐色土（Hue10YR 2/3） 粘質でかたくしまる。
7層 黄褐色土（Hue10YR 5/6） 粘質でかたくしまる。
10～100cm 大の礫を多量に含む。地山。

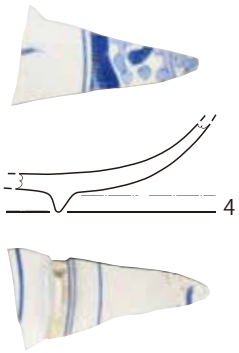
0 1m

図 147 平坦面 6-17 SJ60082・84、SK60083・85・89(1/40)

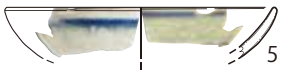
トレンチ1-1 層



SB60080 No.1-1 層

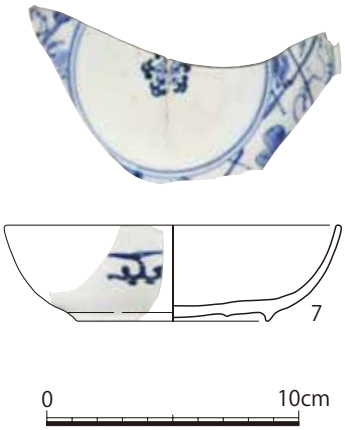


SB60080 No.4-1 層

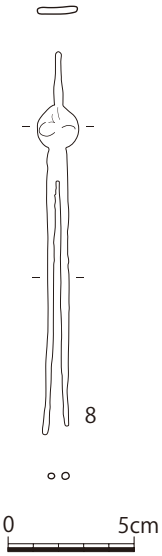


SA60081 No.3- 層

SK60089-1 層



SK60085-1 層



検出面

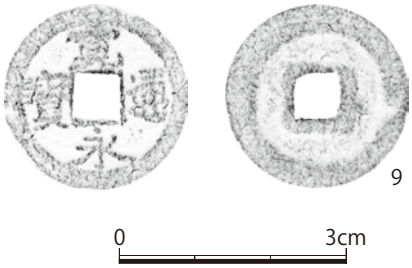


図 148　平坦面 6-17 の遺物実測図 (1/3、1/2、1/1)

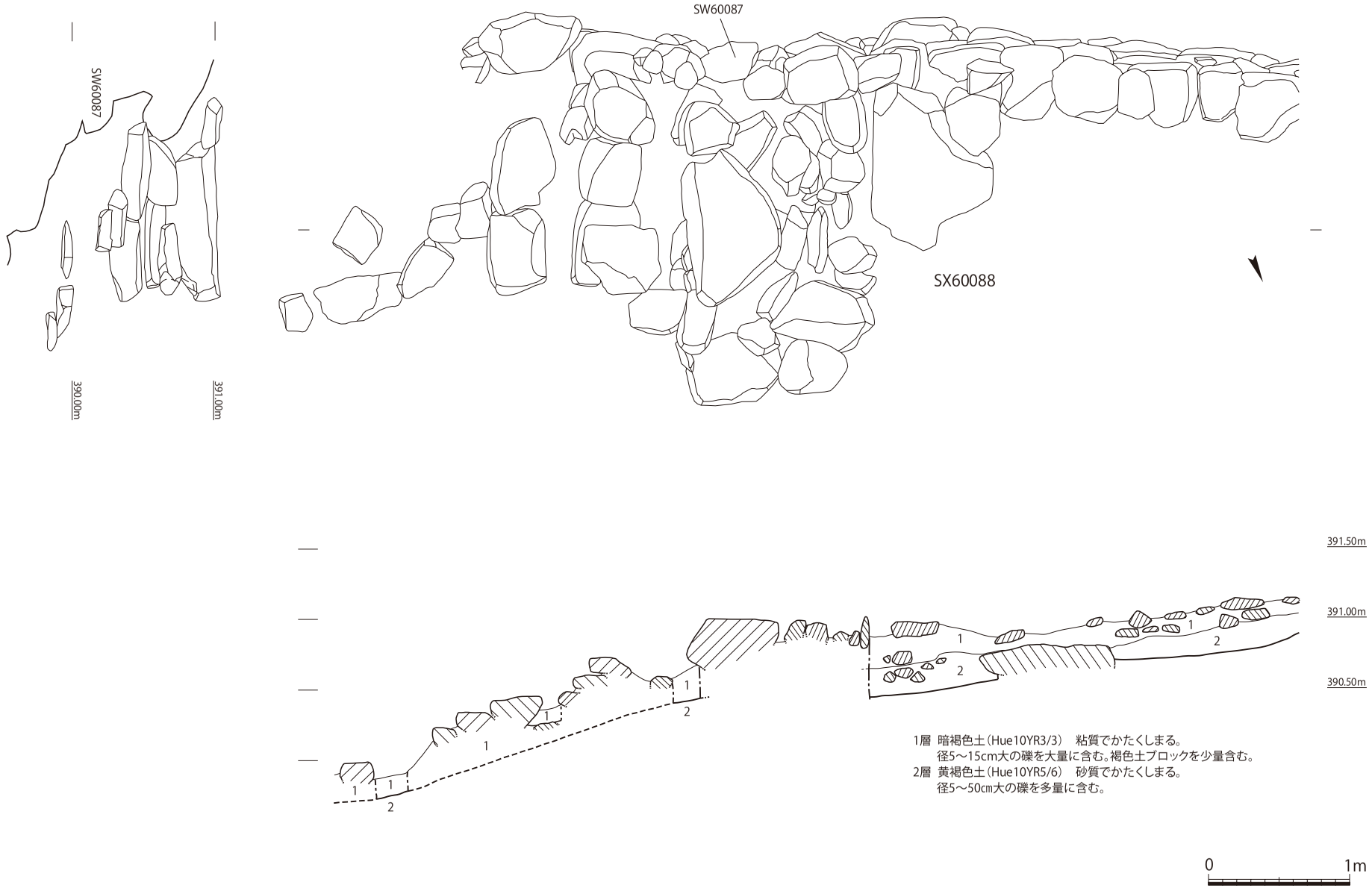
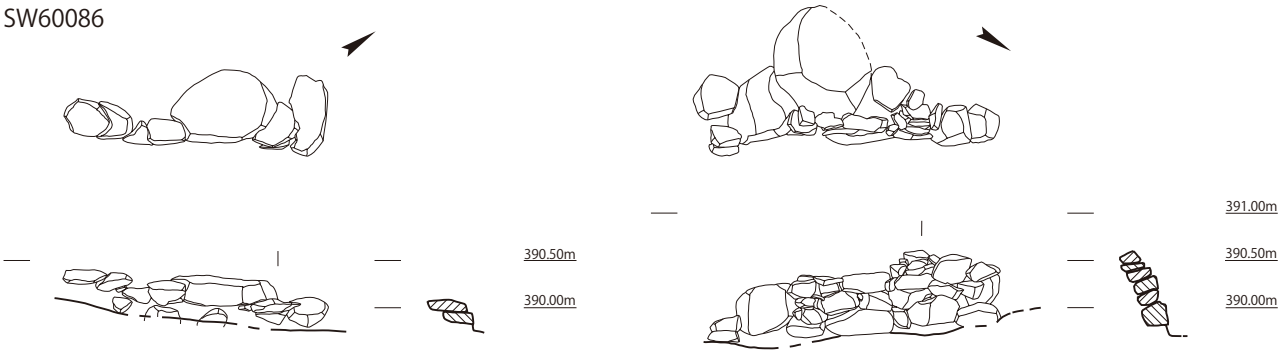
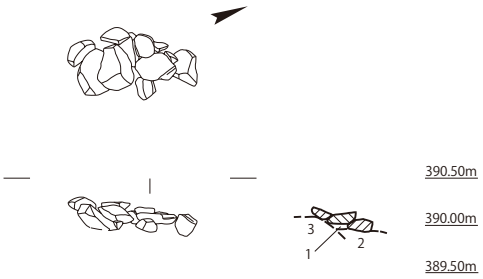


図 149　平坦面 6-17　SX60088(1/40)

SW60086

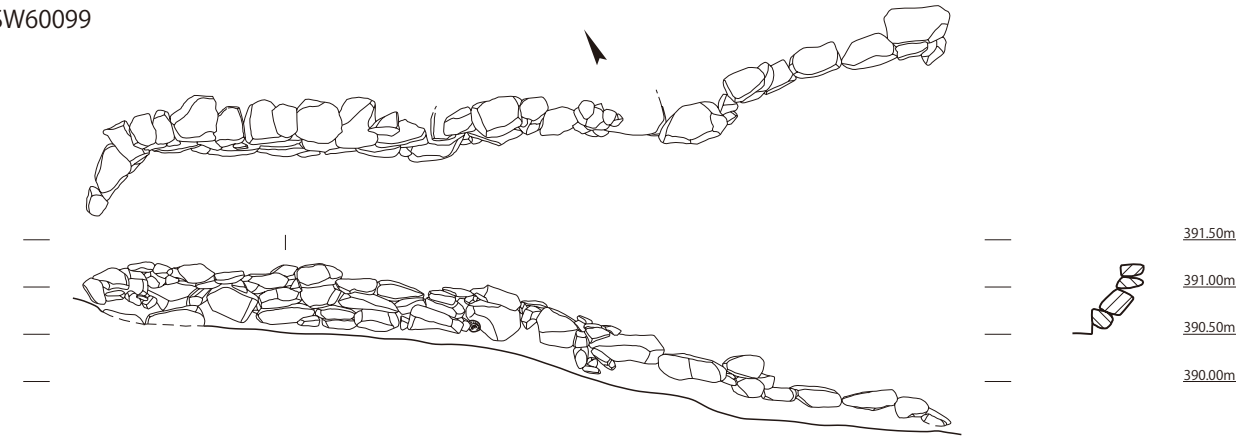


SW60087

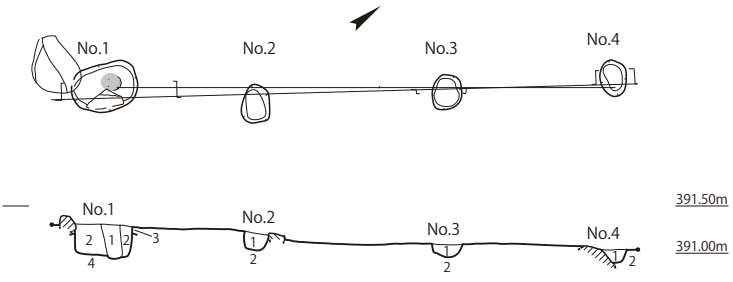


1層 黒色土(SW60099に伴う造成土)
2層 黒褐色土(造成土)
3層 明黄褐色土(地山)

SW60099



SA60081



No.1
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
2㎜大の炭化物を多量に含む。
2層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘質でかたくしまる。
黄褐色土ブロックを多量に2㎜大の炭化物を少量含む。
3層 黄褐色土(Hue10YR 5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。
4層 灰黄褐色土(Hue10YR 4/2) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。

No.2
1層 褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロック2㎜大の炭化物を多量に含む。
2層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～10cm大の礫を多量に含む。

No.3
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロック2㎜大の炭化物を多量に含む。
2層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5cm大の礫を多量に含む。

No.4
1層 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘質でかたくしまる。
褐色土ブロック、2㎜大の炭化物を多量に含む。
2層 黄褐色土(Hue10YR5/6) 砂質でかたくしまる。
5～50cm大の礫を多量に含む。

0 2m

図 150 平坦面 6-17 SW60086・87・99・SA60081(1/80)

SW60087(図150)

当該平坦面の南面を規定する石垣である。SX60088 石段と接し、一部を改変して構築する。残存長 9.8m、残存高 0.75 mを測り、南接する通路の傾斜に合わせた登り石垣状に構築される。両端は構築後に改修を受けたとみられ、上端は外側に、下端は内側に屈曲する。築石は 0.4 ～ 0.6m の横長の粗割石を用いた布目崩し積みである。塁線方向は同平坦面 SB60080 掘立柱建物の梁行方向に並行し、平坦面 6-16 の SB60058 掘立柱建物の梁行方向に直行する。

第Ⅷ章　小川内小学校遺跡

1　小川内小学校遺跡の概要

小川内小学校遺跡は平成 19 年度に那珂川総合開発事業 (五ケ山ダム) に係る文化財確認調査 (1) において、近世期の陶磁器や石垣、多量の炭化物を含む砂質土層が確認されたことにより、近世期よりさらに古い時代の遺跡が存在する可能性が高いとされ、新規に佐賀県登録台帳に登録された遺跡である。

小川内小学校遺跡は神埼郡吉野ヶ里町松隈字古小川内（ふろうごうち）に所在する。平成 17 年に五ケ山ダム建設に伴い廃校になった小川内小学校校庭にあたる。確認調査結果とは別に、その地名よりかつてこの地区に小川内集落があったとも言われてきた場所である。那珂川の右岸にあたり、脊振山系から派生する尾根間における周辺では比較的広大な山麓扇状地上に位置し、那珂川の開削により段丘状を呈する。現況は緩斜面となる地形を切土・盛土により造成された平坦地に立地する。近年の土地利用については小学校跡地ということもあり比較的詳細な沿革が知られているので次に記す。

小川内小学校は明治 8 年、東光寺 (小川内遺跡平坦面 6-16) を仮校舎として小川内尋常小学校が設立され、明治 18 年、東光寺北隣に校舎を新設して移転した。明治 25 年には小学校令により尋常中副小学校小川内分校から小川内小学校となる。昭和 12 年には校舎老朽化のため大野部落 (当該地) へ新築移転する。これ以前の土地利用状況は、年代不詳ながら大正元年の絵図を含む佐賀県立図書館所蔵の弥富家資料に古地図が残されており、水田であることが判る。昭和 23 年には中学校も同所に新築され、小中学校併設校となるが、この際に校庭の拡張が行われたようである。昭和 35 年には小川内中学校は廃止され、小川内小学校のみとなる。昭和 57 年には新築工事として鉄筋コンクリートの校舎と体育館が新築される。平成 17 年には五ケ山ダム建設に伴い廃校となり平成 19 年には取り壊しが行われている。

調査は平成 27 年 6 月 18 日から 8 月 28 日までの期間で実施した。調査面積は 829m^2 である。最初に表土を除去し、確認調査で設けた試掘坑 3 を拡張して炭化物を含む層の遺物を採取するとともに、周辺にトレンチ 1 ～ 4 を設定して範囲の確認を行った。また、石垣についてはトレンチ 4 ～ 7 において石垣を確認するとともに、背後の造成地における遺構の検出を行った。なお、トレンチの土層観察においては、各トレンチにわたり、広域に及ぶと推定される土層を「基 (基本土層の略)」とし、各々のトレンチでしか認められない土層または一部の地域にしか認められない土層についてはそれぞれの堆積状況を示す「自 (自然堆積の略)」、「造 (造成土の略)」を番号前に付して記録した。

作業にあたってはバックホウにより表土の除去及びトレンチ掘削を行い、人力により遺構検出、掘削を行った。

2　石垣の調査 (図 154・157)

石垣は調査区南東隅にて検出され、両端は崩落しているが一部根石が認められ裏土も認められることより、調査区外へと延びるものと思われる。全長 10.41m を測り、塁線は N-26°-E を向く。高さは 1.13m 残存する。南端は塁線が異なるように見えるがこれは崩落して向きを違えたためであり、本来は北側塁線方向に延びるものと思われる。築石は比較的扁平な花崗岩の割石を使用し、2 ～ 4 段分が残存する。石垣前面には、昭和 20 ～ 40 年代にかけての小学校校庭拡幅に伴う造成土が堆積しており、造成土内に旧表土及び崩落石が見られないことより、造成以前に崩落し、除去されたものと思われる。

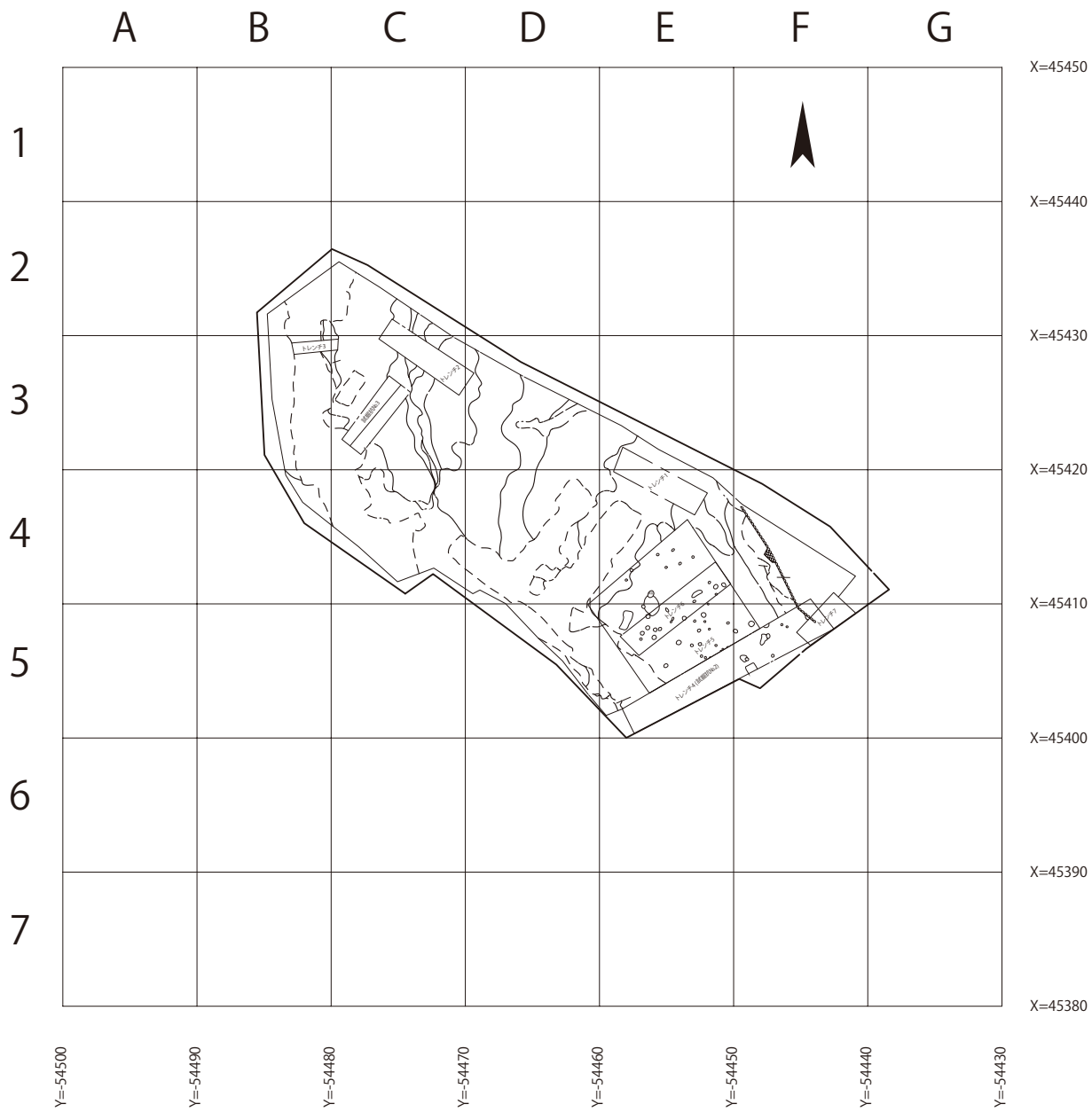


図 151　小川内小学校遺跡地形測量図 (1/500)

図 152　小川内小学校遺跡周辺地形図 1(1/1,000)

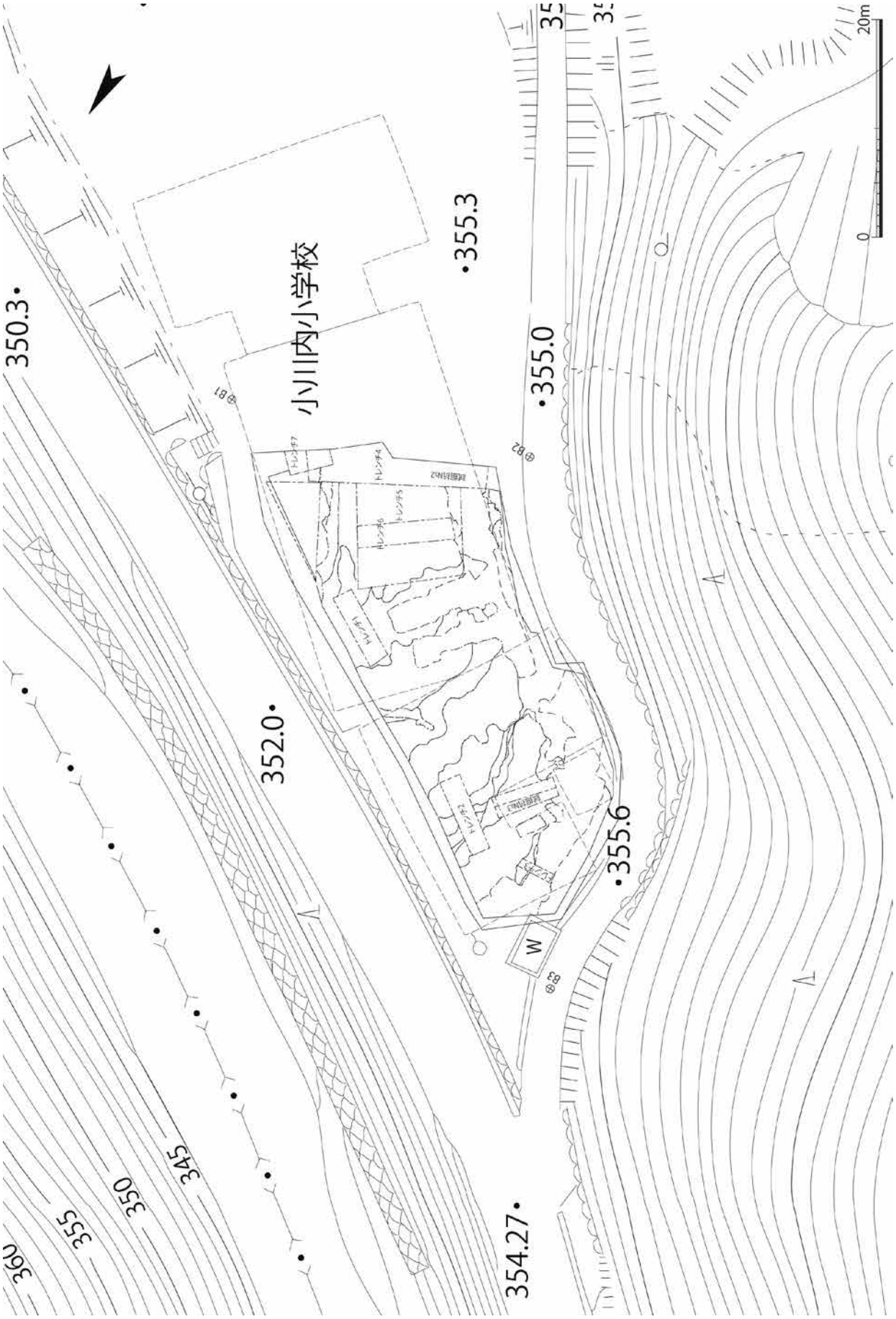


図 153　小川内小学校遺跡周辺地形図 2(1/500)

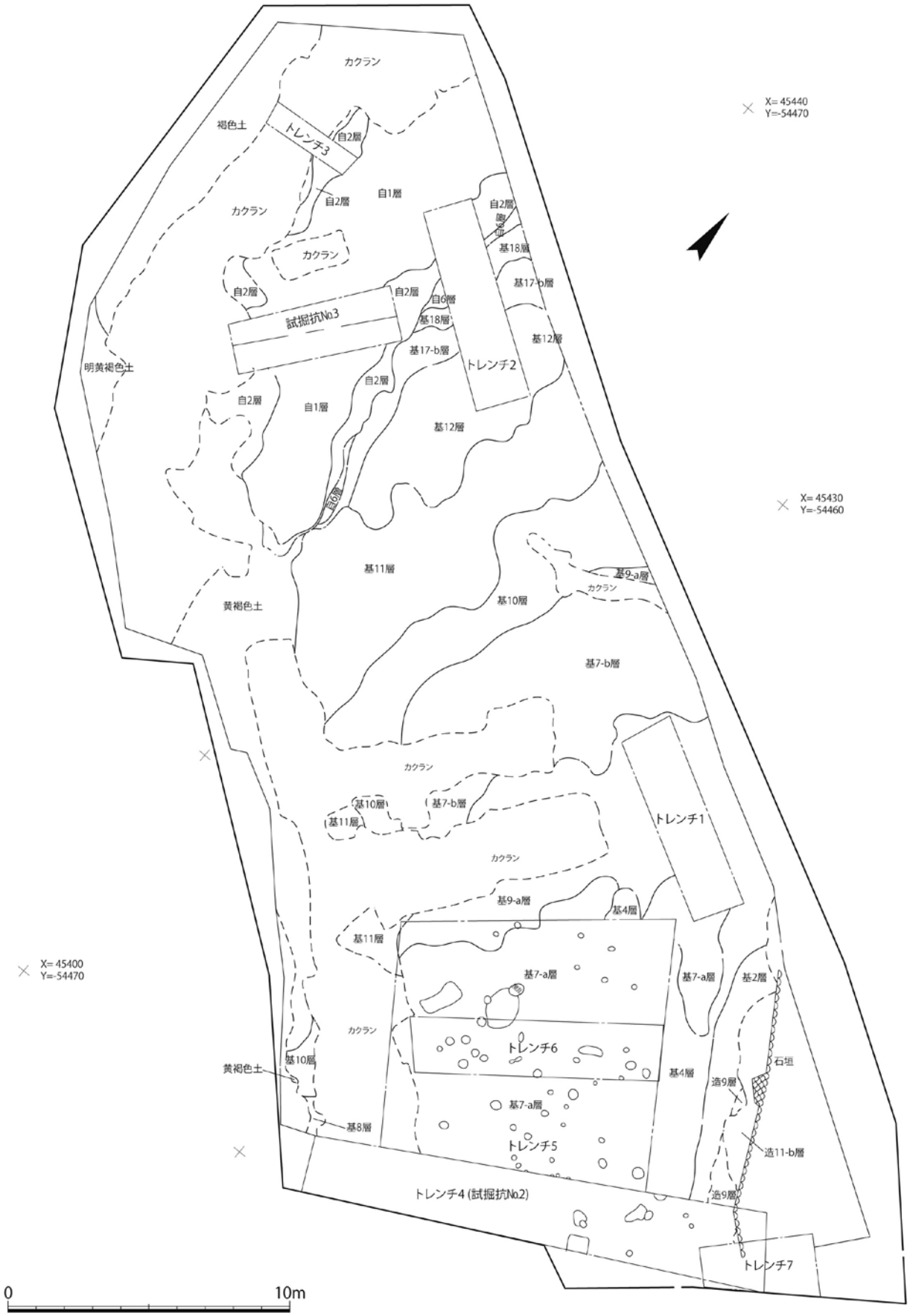


図 154　小川内小学校遺跡遺構配置図 (1/200)

なお、石垣前面の造成土下からは灰褐色土の硬化面が検出されており、造成前の道路の痕跡と推定される。

調査は、石垣背後の状況確認のため、試掘調査 No.2 を延長し、石垣天端までしか掘削されていなかったためさらに掘削し、トレンチ 4 とした。その結果、石垣背後には裏グリ層は見られず、小学校拡張時の造成土と思われる造 9 層が石垣前面に堆積することより拡張前の小学校校庭の西壁を成す石垣と推定した。また、この石垣塁線は小学校南側に残る水田の石垣の累線方向と一致しており、当初は水田の石垣として構築されたものを小学校建設時に再利用したものと推定される。石垣背後の状況についてはトレンチ 4 北壁の基 7-a 層上面で小穴状の掘り込みが認められたためトレンチ 5 を設定し、遺構検出を行った。小穴は複数検出できたが埋土はしまりがなく出土遺物は見られず、形状も根穴状のものが大半であった。トレンチ 6 は基 9-a 層上面まで掘り下げ､7-a 層の時期確認を行ったが、掘り下げ中に黒曜石と安山岩の石鏃各 1 点、サヌカイトの剥片、縄文土器片と思われる細片が出土している。なお、トレンチ 4 の 8 層からも押型文土器がしている。いずれも細片で著しく摩耗していることより 2 次堆積によるものと推定される。

以上のことより、7-a 層以下は自然堆積層であり、黄褐色土と暗褐色土が互層になることは、自然災害等による黄褐色土の流入が途絶えた際には有機物が堆積したり、植物が繁茂するなど土壌化して表土が形成されるため暗褐色となるものと解釈した。基 1 ～ 4 は旧耕作土と思われ、石垣は当初これらに伴っていたものと考えられる。埋土内からは江戸時代後半期と推定される染付細片が出土している。

3　遺物包含層の確認 (図 154 ～ 158)

炭化物を含む砂質土層の確認のため、試掘坑 3 を再掘削･拡張するとともにトレンチ 1･2 を設定し、石垣裏の状況確認のために設けたトレンチ 4 も併せて使用した。なお、トレンチ 1・2 は接続して南北方向の土層観察を行う予定であったが長大であるため 2 つに分割して設置することとした。また、検出面で土色の違いが認められたため土層と対比できるよう図化した。

試掘坑 No.3 は調査区西域に確認調査の試掘坑を拡張して南北方向に長さ 6m、幅 2m を設定した。土層観察の結果、炭化物を含む層は東側へは余り広がらず、周辺で途絶えることが判明した。また、堆積土は砂質土であり、堆積層は概ね南から北に向かって傾斜しており、黄褐色土と灰黄褐色土が互層になる状況を確認した。さらに底面には花崗岩が散乱しており、埋没谷であると判断された。調査区南側には低丘陵が延び、その間に狭幅な谷が現在でも認められ、その谷を分断するように設置された旧小学校の擁壁からも湧水がみられることより、旧地形は、この谷が調査区内を通り那珂川へ流れていたものと推定される。したがって、確認調査で検出され炭化物を含む層は自然堆積であり、周辺の腐植土等が流れ込み堆積したものと判断された。なお、自 1 層から安山岩の剥片が出土している。

トレンチ 1 は調査区北辺沿い東側に試掘坑 No.3 に対して垂直方向に、長さ 7m、幅 2m を設定した。全体的な層位は東向きに傾斜する。北壁の土層観察では基 10 層が基 9-2 層と不整合で、上面から掘削された小穴を確認したため、一部基 9-b 層を除去し平面での遺構検出・掘削を行ったが埋土の締まりは緩く、出土遺物も確認できなかった。層位は異なるが、トレンチ 6 で検出した小穴とほぼ同じ標高であり、同様の遺構と考えられる。

トレンチ 2 は調査区北辺沿い西側に試掘坑 No3 に対して垂直方向に、長さ 7m、幅 2m を設定した。全体的な層位は東向きに傾斜する。層全体を基 19 層が占め、その傾斜部分に砂質土が堆積する。試

掘坑 No.3 で推定された谷地形の左岸肩部にあたるものと思われる。

これらのトレンチでの土層観察結果と、検出面での各層の分布を勘案すると、基本土層による堆積は西から東に傾斜しており、各層の平面はその傾斜に沿って南北に延びていることより、周辺地形から推察したとおり那珂川に向かって開く谷地形に土砂が堆積した山麓沖積地であり、調査区は谷尻北縁にあたると判断される。また、西域に見られる自然堆積層は試掘坑 No.3 の南側にみられる小渓谷が上記の堆積層を開析・堆積したものであると判断できる。それゆえ、堆積土に含まれるいずれの遺物も 2 次堆積と考えられる。

4　小結

調査区一帯は山麓沖積地であり、永続的な土地利用が開始されるのは早くとも江戸時代後半期と考えられ、耕作地として利用が開始されたと思われる。また、これまで福岡県側の四朗五郎池遺跡や板屋遺跡でしか知られていなかった縄文時代の遺跡が周辺に存在している可能性を得たことは今後、周辺地域の調査を進めていくうえで大いに参考になる。

(1) 佐賀県文化財調査報告書第 181 集 「佐賀県内遺跡確認調査報告書 27」 平成 21 年 3 月　佐賀県教育委員会

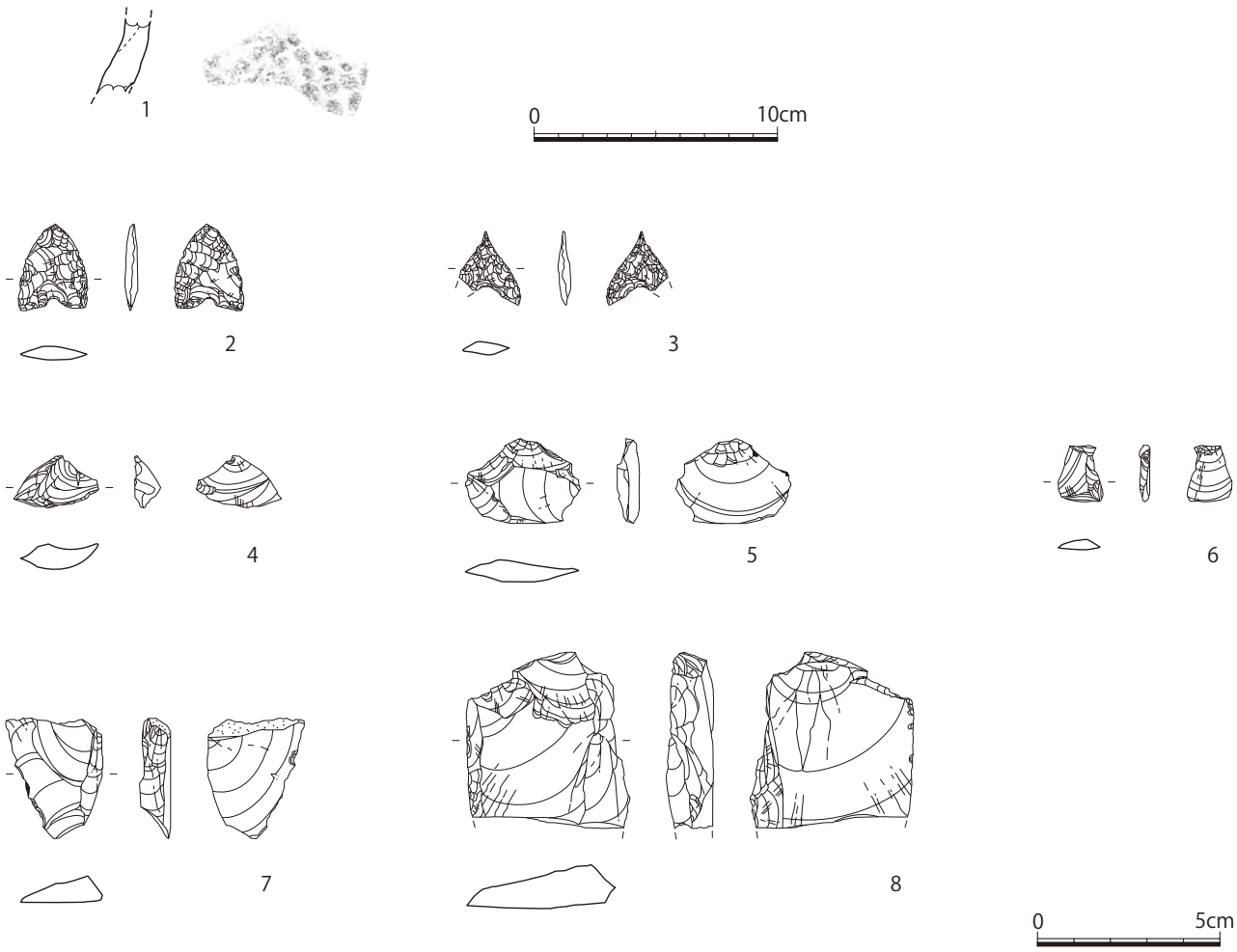
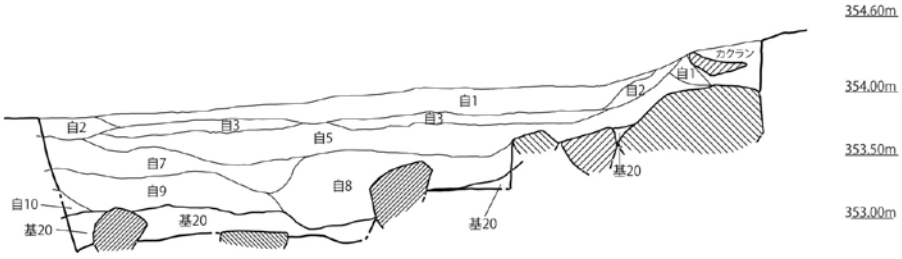


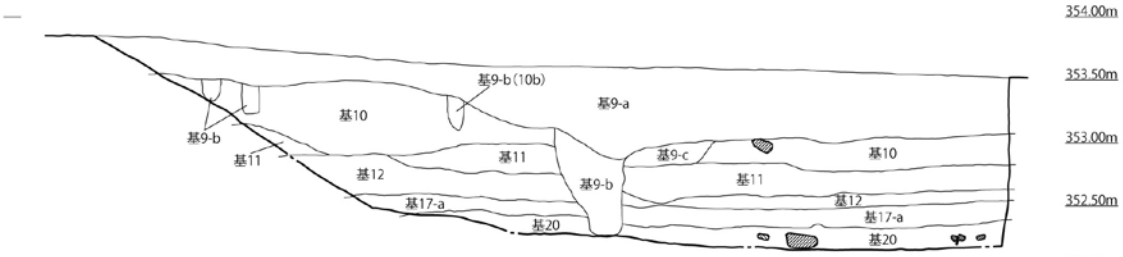
図 155　小川内小学校遺跡の遺物実測図 (1/3、1/2)



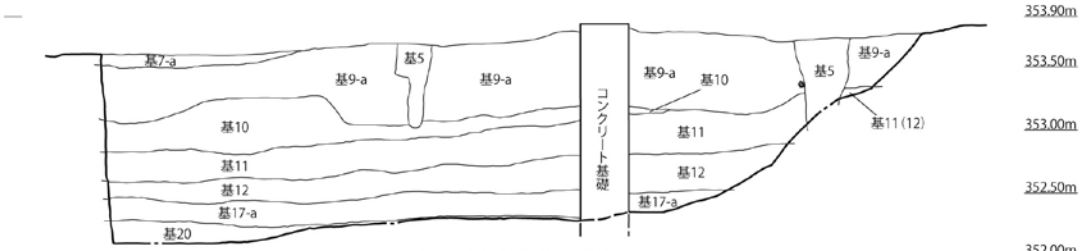
試掘坑№3東壁土層断面図

自然堆積層

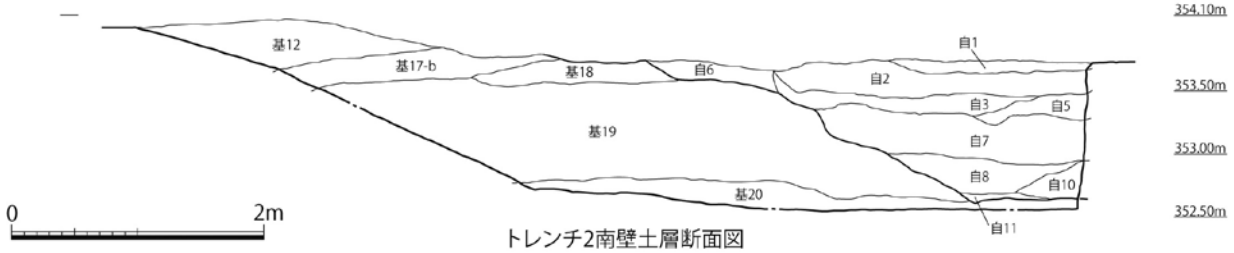
自 1層　にぶい黄褐色砂(Hue10YR5/4)　しまりなし。粗い砂粒で構成される。
（確認調査時の黄褐色砂質土に対応）
自 2層　黒褐色土(Hue10YR2/2)　砂質でしまりなし。3～5㎜大の炭化物を少量含む。
（確認調査時の黒褐色粘質土に対応）
自 3層　にぶい黄橙色砂(Hue10YR6/4)　しまりなし。きめ細かい砂粒で構成される。
自 4層　にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)　砂質でややしまる。粗い砂粒を少量含む。
自 5層　褐灰色土(Hue10YR4/1)　砂質でしまりなし。3～10㎜大の炭化物を多く含む。
（確認調査時の茶褐色粘質土に対応）
自 6層　黄褐色土(Hue10YR5/6)　砂質でややしまる。粗い砂粒を多量含む。
自 7層　灰黄褐色土(Hue10YR5/2)　砂質でややしまる。3㎜大の炭化物と
粗い砂粒を少量含む。
自 8層　にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)　砂質でしまりなし。細かい砂粒で構成される。
自 9層　にぶい黄褐色土(Hue10YR5/3)　砂質でしまりなし。細かい砂粒で構成される。
自10層　黄褐色土(Hue10YR5/6)　砂質でしまる。粗い砂粒を少量含む。
自11層　黄褐色土(Hue10YR5/6)　粘性でかたくしまる。



トレンチ1北壁土層断面図



トレンチ1南壁土層断面図

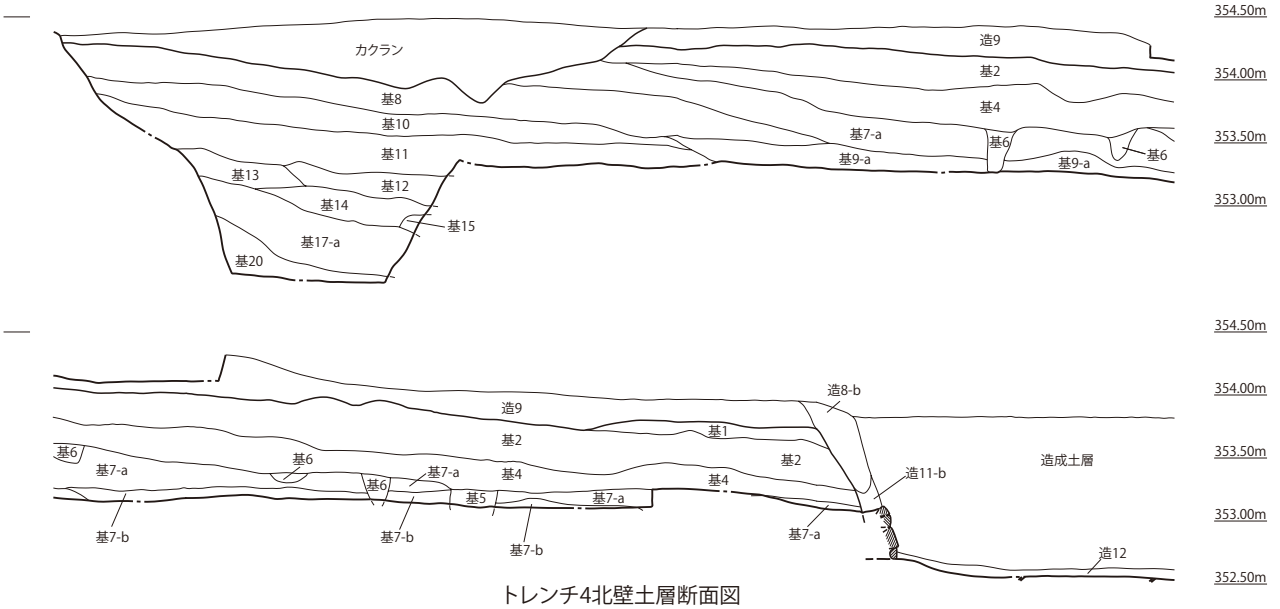


トレンチ2南壁土層断面図

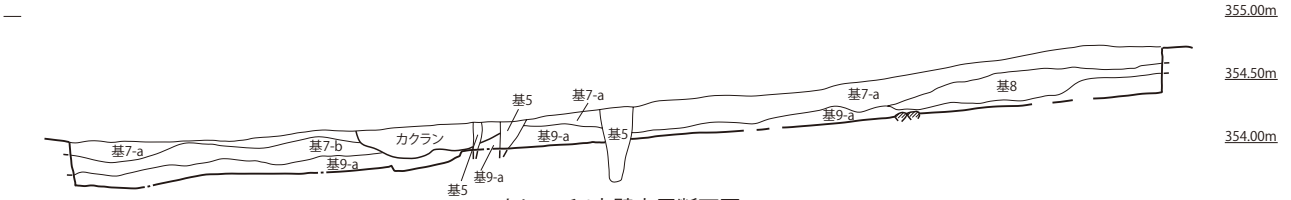
基本土層

基1層 黒褐色土(Hue10YR3/2)　粘質でややかたくしまる。
基2層 暗褐色土(Hue10YR3/3)　粘質でしまりがない。
3～5㎜大の炭化物を少量含む。
基3層 褐色土(Hue10YR4/6)　砂質土でかたくしまる。黒褐色粘質土を少量含む。
基4層 黒褐色土(Hue10YR2/2)　粘質でしまりがない。
3㎜大の炭化物、3㎝大の黄褐色土ブロックを少量含む。
基5層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質でしまりがない。3㎜大の炭化物を少量含む。
基6層 暗褐色土(Hue10YR3/4)　粘質でしまりがない。
3㎜大の炭化物を少量含む。
基7-a層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)　粘質でややかたくしまる。
3～10㎝大の黄褐色土ブロックを多量に含む。
基7-b層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)　粘質でかたくしまる。3㎜大の花崗岩片、
1～3大の黄褐色土ブロックを多量に含む。3㎜大の炭化物を少量含む。
基8層 黄褐色土(Hue10YR5/6)　粘質でかたくしまる。
基9-a層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)　粘質でかたくしまる。
3㎜大の花崗岩片、3～10㎝大の褐色土ブロックを多量に含む。
3㎜大㎜大の炭化物を少量含む。
基9-b層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)　粘質でややしまりが弱い。
3㎜大の花崗岩片を少量含む。
基9-c 層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘 質でややしまる。3㎜大の炭化物を少量含む。
基10層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質でかたくしまる。3㎜大の炭化物を少量含む。
基11層 黒褐色土(Hue10YR3/1)　粘質でかたくしまる。3㎜大の花崗岩片を多量に含む。
3㎜大の炭化物を少量含む。
基12層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質でかたくしまる。3㎜大の花崗岩片、3㎝大の黒褐色土
ブロックを多量に含む。
基13層 暗褐色土(Hue10YR3/4)　粘質でかたくしまる。3㎜大の花崗岩片、3㎝大の
黒褐色土ブロックを多量に含む。
基14層 黒褐色土(Hue10YR2/3)　粘質でかたくしまる。3㎜大の花崗岩片を多量に含む。
3㎝大の黒色土ブロックを少量含む。
基15層 黄褐色土(Hue10YR5/6)　砂質でかたくしまる。3㎜～1㎝大の花崗岩片、
3㎝大の黒褐色土ブロックを多量に含む。
基16層 明黄褐色土(Hue10YR6/6)　砂質土でかたくしまる。5～30㎝大の花崗岩を多量に
含む。花崗岩風化土。
基17-a層 黒色土(Hue10YR2/1)　粘質でかたくしまる。3㎜大の花崗岩片を少量含む。
基17-b 層 暗褐色土(Hue7.5YR3/4)　粘質でかたくしまる。粗い砂粒を多く含む。
基18層 黄褐色土(Hue10YR5/6)　粘質でかたくしまる。粗い砂粒を多く含む。
基19層 褐色土(Hue10YR4/6)　粘質でしまる。粗い砂粒を多く含む。
基20層 明黄褐色土(Hue10YR6/6)　粘質でかたくしまる。3㎜大の花崗岩片を少量含む。

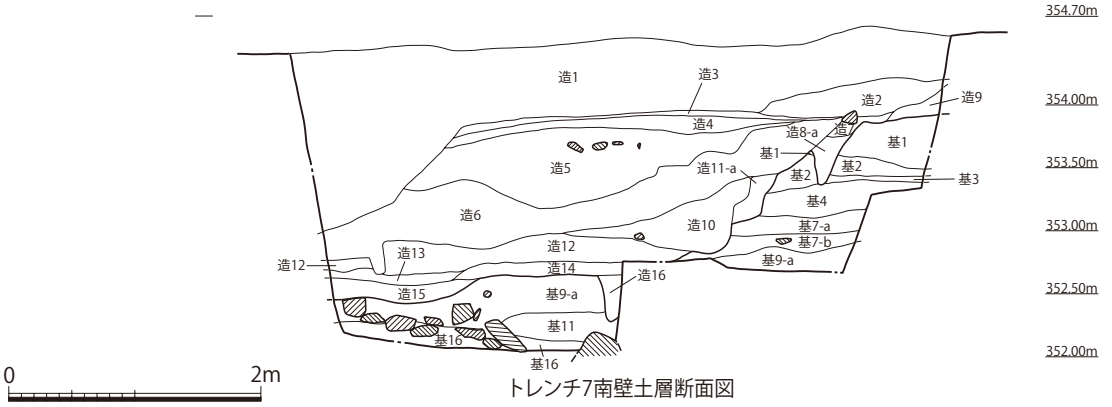
図 156　試掘坑 3 東・トレンチ 1 北・ 1 南・ 2 南土層図 (1/60)



トレンチ4北壁土層断面図



トレンチ6南壁土層断面図



トレンチ7南壁土層断面図

造成土層
造1層 黒褐色土(Hue10YR3/2)　粘質土でかたくしまる。
1～10㎝大の橙色土ブロック群が斜状に堆積する。
造2層 褐灰色土(Hue10YR6/1)　粘質土でかたくしまる。
1～3㎜大の砂粒を多量に含む。
造3層 にぶい黄褐色土(Hue10YR5/4)　粘質土でかたくしまる。
1～5㎝大の橙色土のブロックを多量に含む。
造4層 灰黄褐色土(Hue10YR5/2)　砂質土でかたくしまる。
ラミナ状に灰色粘質土が混入する。
造5層 灰黄褐色土(Hue10YR4/2)　粘質土でかたくしまる。
1～5㎝大の橙色土ブロックを多量に含む。
造6層 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3)　粘質土でかたくしまる。
1～5㎝大の橙色土ブロックを多量に含む。
層の上部は褐灰粘質土が多量に混入している。
造7層 暗灰黄色土(Hue2.5Y5/2)　粘質土でかたくしまる。
2㎜大の炭化物を少量含む。
造8-a層 褐色土(Hue10YR4/4)　粘質土でかたくしまる。
1～3㎝大の灰色土ブロックを多量に含む。
造8-b層 黄灰色土(Hue2.5Y4/1)　粘質でしまりなし。
造9層 黄褐色土(Hue10YR5/6)　粘質でかたくしまる。
3～10㎝大の灰黄褐色土ブロックを多量に含む。
造10 層 褐灰色土(Hue10YR4/1)　粘質土でかたくしまる。
1㎝大の橙色土ブロックを少量含む。
灰黄褐粘質土が多量に混入する。
造11-a層 暗褐色土(Hue10YR3/3)　粘質土でかたくしまる。
層の上部に黒褐色土、褐色土ブロックが多量に混入する。
造11-b層 暗灰黄色土(Hu e 2.5 Y 4/2)　粘質でややかたくしまる。
造12層 褐灰色土(Hue10YR5/1)　粘質土でかたくしまる。
造13層 褐灰色土(Hue7.5YR6/1)　粘質土でかたくしまる。
層内で鉄分の酸化がみられる。
造14 層 明褐色土(Hue7.5YR5/6)　粘質土でかたくしまる。
層内で鉄分の酸化がみられる。
造15層 明褐色土(Hue7.5YR5/8)　粘質土でかたくしまる。
褐灰色土を多量に含む。
造16層 にぶい黄褐色土(Hue 10YR 5/4)　粘質土でかたくしまる。
1～3㎝大の橙色土ブロックを多量に含む。

図 157　トレンチ 4 西・6 東・7 東土層図 (1/60)

表 1　小川内遺跡出土遺構一覧表 (掘立柱建物)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m)			主軸方位	出土遺物	重複関係	備考
				桁行	梁行	深さ				
図 33	SB50202	5A-1	AL-9･10、AM-10	3.10	2.48	0.05 ～ 0.29	N-57°-W	土師器	—	P50147、P50182 ～ P50185、P50226、SS50227。2+ α 間 ×2 間
図 41	SB50090	5A-6	AQ-15	2.26	2.22	0.14 ～ 0.39	N-66°-E	土師器	—	P50085、P50087、P50088、P50089、P50092、P50097、P50100、P50132、P50133。3+ α 間 ×2 間
図 43	SB50060	5A-7	AN･AO-13	6.10	3.8	0.9 ～ 0.61	N-44°-E	陶器、磁器、土製品、鉄滓	SB50070 を切る	P50046、P50064、SK50101、P50116、P50120、P50121、P50141、SK50102、SS50140。4+ α 間 ×2 間
図 43	SB50070	5A-7	AN･AO-13	3.95	4.34	16 ～ 31	N-43°-W	磁器、土師器、土鈴、鉄製品	SB50060 に切られる	P50050、P50056、P50057、P50068、P50069、P50110、SS50059 で構成。3+ α 間 ×2 間
図 74	SB50380	5B-18	AO･AP-16･17	7.88	5.09	0.05 ～ 0.42	N-66°-E	土師器、銭貨、櫛	あり	P50339、367、369 ～ 377。4 間 ×3 間
図 84	SB60001	6-1	AJ、AK-25、26	5.90	5.20	0.4 ～ 0.52	N-60°-W	陶器、磁器、土師器	P60007 に No.4 が切られる、SK60005 に No.10 が切られる、No.13 が No.11 を切る No.1 が小穴を切る	No.1 ～ No.13 での構成 建て替えの可能性有 3 間× 2 間
図 100	SB60019	6-7	AN、AO-21、22	9.90	5.00	0.24 ～ 0.4	N-47°-W	陶器、磁器、土師器、土鈴	SB60020、SB60021、SB60022 を切る、No. 1 が小穴を切る、No.12 が小穴を切る	No.1 ～ No.14 での構成 5 間× 2 間
図 102	SB60020	6-7	AN、AO-21、22	10.90	4.40	0.1 ～ 0.62	N-47°-W	陶器、磁器、土師器	SB60019 に切られる、SB60021 を切る、No.5 が小穴に切られる	No.1 ～ No.14 での構成 5 間× 2 間
図 103	SB60021	6-7	AN、AO-21、22	10.00	3.90	0.15 ～ 0.48	N-48°-W	陶器、磁器、土師器	SB60019･SB60020 に切られる ･No.2 が小穴を切る・小穴に No.5 が切られる・撹乱に No.7 が切られる ･No.11 が小穴を切る	No.1 ～ No.13 での構成 5 間× 2 間
図 104	SB60022	6-7	AN、AO-22	6.00	3.90	0.07 ～ 0.22	N-47°-W	土師器	SB60019 に切られる・撹乱に No.8 が切られる No.6 に SK60032、SK60034 を切る	No.1 ～ No.10 での構成 3 間× 2 間
図 127	SB60036	6-13	AG-11	7.90	3.40	0.1 ～ 0.58	N-17°-W	陶器、磁器、土師器	SB60037、SB60038 を切る	No.1 ～ No.11 での構成 4 間× 2 間 (総柱)
図 128	SB60037	6-13	AG-11	7.90	3.40	0.2 ～ 0.31	N-17°-W	—	SB60036 に切られる SB60038 を切る	No.1 ～ No.3 での構成 SB60036No.5、No.6、No.10 の柱の建替え前の柱穴である。4 間× 2 間 (総柱)
図 128	SB60038	6-13	AG-11	5.75	2.67	0.2 ～ 0.57	N-17°-W	陶器、磁器、土師器	SB60036、SB60037 に切られる	No.1 ～ No.8 での構成 3 間× 2 間
図 135	SB60058	6-16	AJ-16、17	5.90	5.40	0.31 ～ 0.65	N-57°-W	陶器、磁器、土師器、漆器碗	No.7、No11 が SX60048 に切られる	No.1 ～ No.11 での構成 3 間× 2 間
図 146	SB60080	6-17	AK、AL-16、17	6.33	4.05	0.32 ～ 0.61	N-28°-E	陶器、磁器、土師器	No.1、No.3、No.4、No.5、No.6 が小穴を切る、No.7 が P60094 を切る、No.8 が P60096 を切る	No.1 ～ No.8 での構成 3 間× 2 間

表 2　小川内遺跡出土遺構一覧表 (柵列)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m)			土色	出土遺物	重複関係	備考
				長軸	短軸	深さ				
図 11	SA30003	3	AO-34	5.23	—	0.13	—	—	—	
図 35	SA50159	5A-1	AL･AM-9	6.7	—	0	暗褐色土 (10YR3/3)	—	—	P50149 ～ P50155 で構成される柵列
図 35	SA50199	5A-1	AL･AM-9	4.05	—	0	—	—	あり	P50178 ～ P50181 で構成される柵列
図 35	SA50200	5A-1	AL-8･9	6.15	—	0	—	—	—	P50186 ～ P50188、P50192 ～ P50194 で構成される柵列
図 35	SA50201	5A-1	AL-8･9	3.84	—	0	—	—	あり	P50017、P50189 ～ P50191 で構成される柵列
図 44	SA50055	5A-7	AN-13･14	2.47	—	0.14	—	—	—	P50052、P50053、P50054 で並ぶ柵列
図 50	SA50236	5B-12	AG-9	7.35	—	0	—	—	あり	P50232 ～ P50235、P50257 で構成される柵列
図 52	SA50195	5B-13	AF-9	4.25	—	0.32	—	—	—	P50196 ～ P50198 で構成される柵列
図 75	SA50398	5B-18	AO･AP-16･17	9.26	2.51	—	—	—	—	杭 1 ～ 10 で構成される杭列
図 85	SA60002	6-1	AK・AL-26	8.30	—	—	黒褐色土	土師器	P60006 に No.2 が切られる P60010 に No.3 が切られる	No.1 ～ No.5 での構成
図 150	SA60081	6-17	AL-16・17	5.30	—	—	黒色土	土師器	—	No.1 ～ No.4 での構成 3 間

表 3　小川内遺跡出土遺構一覧表 (土坑)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m)			土色	出土遺物	重複関係	備考
				長軸	短軸	深さ				
—	SK50008	5A-1	AL-8	1.57	1.12	0.19	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)	土師器	—	
—	SK50009	5A-1	AL-9	0.81	0.38	0.08	明褐色土 (7.5YR5/6)	土師器	—	
—	SK50011	5A-1	AL-9	—	0.96	0.05	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)	土師器	撹乱に切られる	
—	SK50022	5A-1	AK-8	1.79	1.07	0.19	灰黄褐色土 (7.5YR5/2)	土師器、磁器、鉄器	—	撹乱か
図 33	SK50222	5A-1	AL-8	1.46	0.53	0.49	暗褐色土 (10YR3/3)	土師器、瓦器	あり	
図 33	SK50223	5A-1	AL-8	0.83	0.36	0.14	暗褐色土 (10YR3/3)	土師器	あり	
図 34	SK50031	5A-1	AL-10	0.76	0.66	0.14	灰黄褐灰色土 (10YR4/2)	陶器	—	焼土坑
図 34	SK50032	5A-1	AL-10	1.1	0.63	0.3	灰黄褐灰色土 (10YR4/2)	土師器、磁器、染付、鉄製品	SX50006 を切る SF50003 とは不明	焼土坑
図 34	SK50033	5A-1	AL-10	1.17	0.56	0.26	灰黄褐灰色土 (10YR4/2)	陶器	あり	焼土坑
—	SK50037	5A-1	AL-10	1.1	0.62	0.2	灰黄褐色土 (10YR4/2)	土師器	—	

表３　小川内遺跡出土遺構一覧表 (土坑)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m)			土色	出土遺物	重複関係	備考
				長軸	短軸	深さ				
—	SK50024	5A-2	AJ-8	1.17	0.74	0.58	暗褐色土 (10YR3/4)	土師器	—	粘質土、かたくしまる、地山ブロック (1 ～ 3㎝大) が少量混じる 炭化物少量混じる
—	SK50025	5A-2	AJ-8	1.16	0.83	0.36	暗褐色土 (10YR3/4)	土師器	—	
—	SK50106	5A-4	AM･AN-10	3.36	1	0.66	灰色褐色土 (10YR4/2)	—	—	花崗岩の風化に伴う土壌変化による変色範囲の可能性有
図 41	SK50340	5A-6	AP-16	0.83	0.81	0.41	褐色土 (10YR4/4)	染付、鉄製品	—	桶埋設遺構
—	SK50043	5A-7	AO-14	0.82	0.47	0.3	暗褐色土 (10YR3/4)	土師器	—	
—	SK50062	5A-7	AN-13	0.64	1	0.33	にぶい黄褐色土 (10YR5/4)	染付	—	
—	SK50073	5A-7	AO-13	1.58	0.92	0.4	暗褐色土 (10YR3/4)	土師器、土師器、染付	—	
—	SK50076	5A-7	AN-14	1.15	1.07	0.27	灰黄褐色土 (10YR4/2)	瓦器、染付、青磁	SK50077 を切る	
—	SK50077	5A-7	AN-14	0.95	0.4	0.31	明黄褐色土 (10YR6/6)	土師器	SK50076、P50078 に切られる	
—	SK50102	5A-7	AO-13	1.45	1.15	0.31	黒褐色土 (10YR3/2)	土師器、陶器、磁器、東播系須恵器、炭化物	P50101、SK50112 に切られる P50063、P50110、P50111 を切る	SB50060 の柱穴
図 44	SK50105	5A-7	AO-13	1.36	1	0.46	黒褐色土 (10YR3/2)	陶器、磁器、瓦器	—	不定形土坑
図 44	SK50113	5A-7	AO-13	0.97	0.41	0.42	黒褐色土 (10YR3/2)	土師器、炭化物	—	
図 44	SK50123	5A-7	AO-12	0.96	0.73	0.42	灰黄褐色土 (10YR4/2)	土師質土器	—	
—	SK50142	5A-9	AR-17･18	1.37	0.96	0.38	黒褐色土 (10YR3/1)	磁器、陶器	—	
—	SK50144	5A-9	AR-18	0.84	0.63	0.37	黒褐色土 (10YR3/1)	土師器、陶器	—	
—	SK50145	5A-10	AS-22	2.62	1.06	0.49	暗褐色土 (10YR3/4)	黒曜石	—	
—	SK50229	5B-11	AF･G-6	0.83	0.65	0.14	黒褐色土 (10YR3/2)	炭化物	—	
図 50	SK50230	5B-11	AF-6	1.24	0.52	0.2	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器	—	
図 50	SK50231	5B-11	AF-7	1.12	1.1	0.58	褐灰色土 (10YR4/1)	陶器、磁器	—	桶埋設遺構
—	SK50242	5B-12	AH-9	1.48	0.65	0.37	暗褐色土 (10YR3/2)	磁器、土師器	—	
—	SK50256	5B-12	AH-8	2.48	1.6	0.4	暗褐色土 (10YR3/3)	土師器	SK50266 に切られる	
—	SK50266	5B-12	AH-8	0.6	0.53	0.12	黒褐色土 (10YR3/1)	鉄製品	SD50256 を切る	多量の炭化物が混入
図 57	SK50247	5B-14	AI-9	1.25	0.6	0.47	暗褐色土 (10YR3/3)	陶器、土師器	—	
図 57	SK50248	5B-14	AH･AI-9	1.04	0.66	0.21	暗褐色土 (10YR3/3)	陶器、瓦器	—	
図 57	SK50249	5B-14	AI-9	0.95	0.77	0.28	暗褐色土 (10YR3/3)	陶器、磁器、土師器	—	
—	SK50253	5B-14	AH-9	0.8	0.58	0.21	暗褐色土 (10YR3/3)	瓦器、土師器	—	
—	SK50260	5B-14	AH-10	0.98	0.28	0.1	黒色土 (10YR2/1)	陶器、土師器	—	焼土坑
—	SK50261	5B-14	AH-10	0.98	0.69	0.11	赤色土 (10R4/6)	土師器、鉄製品	あり	焼土が充填
—	SK50278	5B-14	AI-11	1.8	1.65	0.24	黒褐色土 (10YR3/2)	磁器、陶器	—	
図 57	SK50284	5B-14	AH-10	1.05	0.55	0.09	灰黄褐色土 (10YR5/2)	土師器	—	焼土坑
—	SK50287	5B-14	AI-10	0.65	0.16	0.1	暗褐色土 (10YR3/3)	陶器	—	
図 67	SK50310	5B-15	AL-13	1.7	1.36	0.34	暗褐色土 (10YR3/3)	—	—	
図 67	SK50313	5B-15	AL-12･13	2.1	1.31	0.21	暗褐色土 (10YR3/3)	陶器、土師器	—	
—	SK50317	5B-15	AM-12	2.25	1.15	0.21	暗褐色土 (10YR3/3)	磁器	—	明治・大正
図 67	SK50319	5B-15	AM-12	3.22	1.19	—	暗褐色土 (10YR3/3)	瓦器、青磁	—	
図 67	SK50320	5B-15	AM-12	2.4	1.26	0.15	暗褐色土 (10YR3/3)	土師器	—	
—	SK50288	5B-16	AM-15	1.4	0.86	0.22	黒褐色土 (10YR3/2)	土師器	—	
—	SK50292	5B-16	AM-15	0.97	0.67	0.1	黒褐色土 (10YR3/2)	磁器	あり	
—	SK50293	5B-16	AL･AM-15	2.46	1.44	0.4	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器、土師器	—	
図 68	SK50295	5B-16	AL-14	0.86	0.62	0.15	褐色土 (10YR4/4)	磁器 (色絵)	—	焼土坑
—	SK50297	5B-16	AM-15	0.66	0.5	0.19	黒褐色土 (10YR3/2)	青磁、土師器	—	
図 68	SK50298	5B-16	AL-14	1.86	1.64	0.34	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器 (色絵)、土師器	—	

表 3　小川内遺跡出土遺構一覧表 (土坑)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m)			土色	出土遺物	重複関係	備考
				長軸	短軸	深さ				
—	SK50302	5B-16	AM-13･14	1.12	0.73	0.23	黒褐色土 (10YR3/2)	土師器	—	
—	SK50304	5B-16	AM-13･14	1.64	0.96	0.29	黒褐色土 (10YR3/2)	土師器	—	
—	SK50305	5B-16	AM-14	1.09	0.95	0.22	黒褐色土 (10YR3/2)	土師器	—	
—	SK50307	5B-16	AM-14	2.4	1.5	0.87	黒褐色土 (10YR3/2)	—	—	
—	SK50308	5B-16	AM-14	0.76	0.53	0.63	黒褐色土 (10YR3/2)	器瓦	—	
—	SK50311	5B-16	A O -15	0.7	0.57	0.32	黒褐色土 (10YR3/2)	—	—	
図 70	SK50268	5B-17	AI-11･12	2.87	1.74	0.52	黒褐色土 (10YR3/1)	陶器、磁器	あり	
図 70	SK50269	5B-17	AJ-11	0.87	0.64	0.46	褐灰色土 (10YR4/1)	陶器、土師器	あり	
—	SK50273	5B-17	AJ-12	2.06	1.58	0.27	灰黄褐色土 (10YR5/2)	磁器、染付、土師器	—	明治
図 70	SK50275	5B-17	AJ-12	2.77	2.78	0.61	黒褐色土 (10YR3/2)	染付、土師器、磁器、鉄釘、土師器、石鏃	—	
—	SK50276	5B-17	AK-13	3.35	1.44	1.25	黒褐色土 (10YR3/1)	土師器	—	
図 70	SK50277	5B-17	AK-14	2.25	1.36	0.42	黒褐色土 (10YR3/1)	磁器、瓦器、土師器	—	
図 70	SK50279	5B-17	AK-13	1.5	1.1	0.21	黒褐色土 (10YR3/1)	磁器、土師器	—	
図 75	SK50325	5B-18	AO-17	1.54	1.26	0.26	黒褐色土 (10YR3/2)	木製品 (下駄、ヘラ、板)、磁器、陶器	—	木製品、木クズを多量に含む
図 75	SK50343	5B-18	AO-17	2.2	1.17	0.19	黒褐色土 (10YR3/2)	磁器、陶器	—	石組遺構
図 75	SK50345	5B-18	AO-16	0.73	0.79	0.13	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器	—	桶埋設遺構
図 75	SK50365	5B-18	AP-17	1.42	0.56	0.28	褐色土 (10YR4/4)	磁器、陶器	—	
図 75	SK50379	5B-18	AO-16	1.16	0.82	0.13	褐色土 (10YR4/4)	磁器、陶器、土師器	—	
図 75	SK50384	5B-18	AO-17	0.74	0.62	0.12	褐灰色土 (10YR4/1)	—	—	
—	SK50393	5B-18	AO－17	0.6	0.45	0.15	褐灰色土 (10YR4/1)	あり	—	
図 85	SK60003	6-1	AJ-25	1.34	1.24	0.58	黒褐色土	磁器、土師器	—	桶埋設遺構 上面に礫有
図 85	SK60004	6-1	AJ-25	0.84	0.78	0.59	黒褐色土	磁器、陶器、土師器	—	桶埋設遺構
図 85	SK60005	6-1	AJ・AK-25	0.80	0.74	0.37	黒褐色土	陶器皿	SB60001 No.10 を切る	桶埋設遺構 SB60001 内部に位置する
図 91	SK60017	6-2	AL・AM-25	1.06	0.89	0.42	黒褐色土	陶器・磁器・土師器	—	
図 91	SK60018	6-2	AM-25	1.10	0.86	0.46	褐灰色土	染付・陶器	—	
—	SK60026	6-7	AN-21	0.87	0.65	0.14	黒褐色土	染付・土師器・煙管	—	埋土に焼土を多量に含む
図 104	SK60031	6-7	AO-22	0.70	0.57	0.15	黒褐色土	磁器・陶器	—	桶埋設遺構
—	SK60032	6-7	AO-22	0.90	0.62	0.18	黒褐色土	—	SB60022 No.6 に切られる SK60033・SK60034 を切る	
—	SK60033	6-7	AO-22	1.23	0.79	0.21	黒褐色土	—	SK60032 に切られる SK60034 を切る	
図 104	SK60034	6-7	AO-22	1.68	1.34	0.21	黒褐色土	磁器・土師器	SB60021 No.8・SB60022 No.6・ SK60032・SK60033 に切られる	埋土に黄褐色土ブロックを多量に含む
—	SK60104	6-7-2	AO-22	0.82	0.51	0.07	黒褐色土	磁器・土師器	—	
—	SK60116	6-8-2	AP-20	1.30	0.64	0.17	黒褐色土	磁器	—	
図 124	SK60035	6-12	AF-12	1.24	0.60	0.48	黒褐色土	磁器・土師器	撹乱に切られる	花崗岩が抜跡か
—	SK60040	6-13	AG-12	0.80	0.75	0.10	黒褐色土	磁器	撹乱に切られる SK60041 を切る	
図 129	SK60041	6-13	AG-12	1.52	1.40	0.68	黒褐色土	青磁・陶器・土師器	撹乱・SK60040 に切られる	桶埋設遺構
図 137	SK60049	6-16	AJ-17	0.83	0.49	0.31	黒色土	陶磁器・土師器	—	焼土坑。竈か
	SK60057	6-16	AK-15	1.16	0.86	0.40	黒色土	土師器	—	
図 137	SK60059	6-16	AJ･AK-16	2.29	1.52	0.58	黒色土	瓦器・土師器	—	
図 147	SK60083	6-17	AL-17	1.22	1.07	0.52	黒色土	磁器・青磁	SK60085 を切る	桶埋設遺構
図 147	SK60085	6-17	AL・AM-17	1.53	1.48	0.42	黒色土	陶器・磁器 簪・土師器	SK60083･SK60084 に切られる	桶埋設遺構
図 147	SK60089	6-17	AL-17	1.16	0.71	0.50	黒色土	磁器	P60098 を切る	
—	SK60092	6-17	AL-17	1.10	0.77	0.21	黒色土	—	小穴を切る	

表 4　小川内遺跡出土遺構一覧表 (炭窯)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	掘方規模 (m)			煙道	出土遺物	重複関係	備考
				長軸	短軸	深さ				
図 12	SY30004	3	AR-35・36	3.11	1.83	0.41	有	－	SY30005 を切る	廃棄土坑
図 13	SY30005	3	AR・AS-36	2.50	1.93	0.04	不明	－	SY30004 に切られる	廃棄土坑
図 14	SY30006	3	AS-36	5.37	1.76	0.33	有	－	－	廃棄土坑
図 15	SY30007	3	AS-35	2.98	1.75	1.06	有	－	－	
図 16	SY30009	3	AU-31	2.38	1.65	0.40	有	－	－	
図 17	SY30010	3	AT-31	2.35	1.73	0.49	有	－	－	

表 5　小川内遺跡出土遺構一覧表 (甕埋設遺構)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	土色	出土遺物	重複関係	備考
図 44	SJ50065	5A-7	AO-13	0.27	0.23	0.16	黒褐色土 (10YR3/2)	陶器甕	あり	埋甕
図 50	SJ50228	5B-11	AF-7	0.46	0.41	0.10	褐色土 (10YR4/4)	陶器甕、瓦器	—	埋甕 (手あぶり)
図 57	SJ50262	5B-14	AH-10	0.95	0.81	0.62	橙色土 (7.5YR6/6)	陶器甕、鉄製品、銅製品、現代硬貨	—	埋甕
図 67	SJ50296	5B-15	AL-12	0.53	0.45	0.12	褐色土 (10YR4/4)	陶器甕	—	埋甕
図 68	SJ50289	5B-16	AM-15	0.77	0.57	0.19	灰黄褐色土 (10YR5/2)	陶器甕	—	埋甕
図 147	SJ60082	6-17	AL-17	0.42	0.39	0.13	黒色土	陶器甕	—	埋甕
図 147	SJ60084	6-17	AM-17	0.77	0.74	0.25	黒色土	陶器甕	SK60085 を切る	埋甕

表 6　小川内遺跡出土遺構一覧表 (井戸)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	掘方規模 (m) 長軸	短軸	深さ	土色	出土遺物	重複関係	備考
図 41	SE50135	5A-6	AQ-14	1.35	—	2.1	黒褐色土 (10YR3/1)	磁器 (水滴)、木製品、石臼	—	井戸枠内径 0.81m
図 47	SE50030	5A-7	AN-13	2.52	2.28	5.5+ α	黒褐色土 (10YR3/1)	陶器、磁器	SX50035 を切る	円柱状のコンクリートが井戸中心を通る 井戸枠内径 1.08m
図 59	SE50270	5B-14	AH-10	1.38	—	1.54	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器、砥石	—	井戸枠内径 0.76m
図 59	SE50283	5B-14	AH-10	1.88	—	1.55+ α	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器、砥石	—	井戸枠内径 0.62m
図 81	SE50312	5B-19	AQ-18	1.72	1.54	3.56	褐灰色土 (10YR4/1)	陶器、鉄製品	—	円柱状のコンクリートが井戸中心を通る 井戸枠内径 80m

表 7　小川内遺跡出土遺構一覧表 (溝)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 長軸	短軸	深さ	土色	出土遺物	重複関係	備考
図 11	SD30008	3	AS-34･35	5.10	1.81	0.43	—	—		
—	SD50027	5A-1	AK-8 ～ 10 AL-10	20.74	1.69	0.04	褐灰色土 (10YR4/1)	陶器、時期、土師器	P50029 を切る	
—	SD50028	5A-1	AL-10	9.16	1.34	0.69	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器	—	
—	SD50148	5A-1	AK ～ AM-7 ～ 9	18.2	3.33	0.29	暗褐色土 (10YR3/3)	磁器、土師器	SW50002 石垣に切られる	
—	SD50219	5A-1	AL･M-9	4.9	0.85	0.91	褐色土 (10YR4/4)	土師器	P50204、P50205 に切られる	
—	SD50221	5A-1	AL-8･9	1.57	0.62	0.14	褐色土 (10YR4/4)	磁器、土師器	—	
—	SD50125	5A-7	AO･AP-13	1	0.37	0.26	黒褐色土 (10YR3/2)	磁器碗、土師器、砥石	—	
—	SD50381	5A-10	AR-20	3.96	2.54	0.26	褐色土 (10YR4/4)	陶器、磁器、瓦器	—	
図 52	SD50243	5B-12	AH･AI-9	11.5	2.26	0.41	黒褐色土 (10YR3/1)	陶器、磁器、鉄製品	SD50244 を切る SD50259 に切られる	
図 52	SD50244	5B-12	AH･AI-9	9.70	2.70	0.34	灰黄褐色土 (10YR 4 /2)	磁器椀、土師器、鉄製品	SD50243 に切られる	
図 52	SD50259	5B-12	AH-9	1.87	0.98	0.25	灰黄褐色土 (10YR4/2)	土師器	SD50243 を切る	
図 60	SD50265	5B-14	AI･J-11	18.92	0.25	0.9 ～ 0.15	黒褐色土 (10YR3/1)	陶器、磁器、土師器	SD50267 に切られる	
図 61	SD50281	5B-14	AI･AJ-11	8.82	0.49	0.23 ～ 0.28	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器椀、土師器、鉄製品	—	
—	SD50264	5B-17	AI-11･12	5.02	0.48	0.12	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器、土師器	SD50267 を切る	モルタル石組溝
—	SD50267	5B-17	AI-11･12	3.8	0.37	0.11	褐灰色土 (10YR4/1)	陶器、土師器、鉄製品	SD50264 に切られる	
—	SD50314	5B-15	AL-12	0.78	0.64	0.65	黒褐色土 (10YR3/2)	—	—	
図 68	SD50290	5B-16	AM･AM－14	9.77	0.74 ～ 1.65	0.18 ～ 0.32	褐色土 (10YR4/4)	—	あり	
—	SD50352	5B-18	AP-17	0.6	0.4	0.21	褐灰色土 (10YR4/1)	—	—	
—	SD50354	5B-18	AP-17	4.23	1.6	0.05	褐灰色土 (10YR4/1)	—	P50359、P50360 、P50388 ほか	
—	SD50387	5B-18	AP-17	1.4	0.3	0.23	褐灰色土 (10YR4/1)	—	—	
図 129	SD60042	6-13	AG・AH-13・14	14.92	0.45	0.15	黒褐色土	陶器、磁器、土師器	SD60046 を切る	石組水路
図 129	SD60045	6-13	AG-11	6.31	0.26	0.25	黒褐色土	—	—	
図 129	SD60046	6-13	AG-14	1.85	0.71	0.13	黒褐色土	陶器、磁器、土師器	SD60042 に切られる SD60047 を切る	石組水路
図 129	SD60047	6-13	AG-14	0.83	0.34	0.27	黒褐色土	陶器、磁器、土師器	SD60046 に切られる	
—	SD60054	6-16	AI・AJ-17・18	14.94	0.62	0.21	灰色砂	陶器、磁器、土師器	SX60050・SX60051・SX60052 を切る SX60053 に切られる	石組水路
—	SD60055	6-16	AJ-17	7.55	2.62	1.15	黒色土	陶陶器、磁器、土師器、砥石	SD60054 に切られる	自然流路
—	SD60078	6-16	AJ-17	1.51	0.24	0.07	黒色土	土師器	SD60079 に切られる	
—	SD60079	6-16	AJ-17	1.92	0.15	0.10	黒色土	土師器	SD60078 を切る	
—	SD60129	6-8-3	AP-19･20	9.44	0.76	0.07	黒褐色土	—	—	石組水路

表 8　小川内遺跡出土遺構一覧表 (不明遺構)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	土色	出土遺物	重複関係	備考
図 11	SX30011	3	AT-31	1.6	0.57	0.20	—	—	—	
図 28	SX50006	5A-1	AK-7 ～ 10 AL･AM-8 ～ 10	38	25	2.85	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器、陶器、土師器、東播系須恵器、鉄製品、鉄滓、石器、砥石	SW50002 に切られる	造成土
—	SX50082	5A-6	AQ-15	0.9	0.25	0.2	暗褐色土 (10YR3/4)	磁器、土師器、炭化物	P50094、P50099 を切る	
図 44	SX50035	5A-7	AN-13	2.34	1.51	0.42	灰黄褐灰色土 (10YR4/2)	剥片	SE50030 に 切られる	巨石遺構
—	SX50036	5A-7	AN-14	1.43	1.15	0.21	灰黄褐灰色土 (10YR4/2)	—	—	石樋遺構
—	SX50063	5A-7	AO-13	1.94	1.25	0.27	黒褐色土 (10YR3/2)	土師器、瓦器、磁器	P50101、SK50102、P50104,P50111、P50112 を切る	
—	SX50238	5B-12	AG･H-9	2.81	1.57	0.36	黒褐色土 (10YR3/1)	土師器、磁器	P50235 に切られる	溜まり状遺構
—	SX50274	5B-14	AI-11	4.2	1.74	—	灰黄褐色土 (10YR5/2)	土師器、鉄製品	SD50265 に切られる	明治以降の整地層
図 54	SX50383	5B-14	AI・AJ-10･11	—	—	1.9	明黄褐色土 (10YR6/6)	磁器、陶器、土師器、瓦器、硯、銭貨	—	造成土
—	SX50280	5B-17	AK-13	2.48	1.44	0.05	黒褐色土 (10YR3/1)	—	—	整地層か
図 77	SX50344	5B-18	AO･AP-16 ～ 17	9.96	14.3	0.49	灰黄褐色土 (10YR5/2)	磁器、土師器、東播系須恵器、鉄滓	あり	谷状地形に堆積した層の範囲
図 138	SX60048	6-16	AJ-16・17	2.09	1.78	0.46	黒色土	陶器、磁器、土師器	SB60058 №. 7、№. 11 を切る	集石遺構
図 139	SX60050	6-16	AI-17	(石組長) 3.94	1.14	0.74	灰色砂	陶器、磁器、土師器、石臼	SX60053 に切られる SX60051 を切る	石組遺構 (池跡)
図 139	SX60051	6-16	AI・AJ-17	(石組長) 14.26	6.26	0.88	黒色砂	陶器、磁器、土師器、鉄滓、木製品	SX60050・SX60053・SD60054 に切られる SX60052 を切る	石組遺構 (池跡)
図 140	SX60052	6-16	AI・AJ-17	(石組長) 1.76	(石組長) 5. 68	0.68	黒色砂	陶器、磁器、土師器	SX60051・SD60054 に切られる	石組遺構 (池跡)
図 140	SX60053	6-16	AI･AJ-17・18	(石組長) 2.18	1.23	0.97	灰色砂	陶器、磁器、土師器	SX60050・SX60051 を切る SD60054 に切られる	石組遺構 (池跡)
図 149	SX60088	6-17	AL-17	5.06	1.92	1.24	黒色土	磁器	SW60087 に切られる	石段

表 9　小川内遺跡出土遺構一覧表 (石垣)

図版番号	遺構番号	平坦面番号	検出グリッド	規模 (m) 長さ	規模 (m) 高さ	塁線方向	土色	出土遺物	重複関係	備考
図 9・10	SW30001	3	AO ～ AU-30 ～ 33	61.50	1.5 ～ 2.4	N-62°-W	—	—	—	
図 10	SW30002	3	AQ ～ AS-29 ～ 31	29.00	1.3 ～ 2.8	N-28°-W	—	—	—	
図 21	A 面	大山祇神社	BA・BB-23・24	16.26	7.00	N-45°-W	—	—	—	
図 22	B 面	大山祇神社	BB-23	3.26	3.46	—	—	—	—	
図 22	C 面	大山祇神社	AZ・BA-23	5.25	3.67	—	—	—	—	
図 22	D 面	大山祇神社	BA-23	1.04	0.97	—	—	—	—	
図 22	E 面	大山祇神社	BA-23	1.29	0.91	—	—	—	—	
図 22	F 面	大山祇神社	BA・BB-24	10.72	6.4	N-68°-W	—	—	—	
図 23	G 面	大山祇神社	BA-25、BB-24・25	8.21	0.83	—	—	—	—	
図 23	H 面	大山祇神社	BA-25、BB-24・25	9.77	0.63	—	—	—	—	
図 23	I 面	大山祇神社	AZ-23	1.18	0.75	—	—	—	—	
図 23	J 面	大山祇神社	AZ-23	3.18	0.81	—	—	—	—	
図 36	SW50002	5A-1	AL-8 AM-8 ～ 10	—	2.34	N-25°-W	褐灰色土 (10YR4/1)	磁器、土師器	SX50006 を切る	
図 36	SW50005	5A-1	AM-10	4.75	0.45	N-69°-E	褐灰色土 (10YR4/1)	陶器、磁器、土師器	—	
図 62	SW50385	5B-14	AI・AJ-10･11	14.4	1.33 ～ 3.16	N-40°-W	—	—	SW50001 に切られる	
図 62	SW50386	5B-14	AJ-11	8.3	1.6	N-38°-E	—	—	SW50001 に切られる	
—	SW50001	5B-17	AJ-9･10 AK-10･11 AL-12 ～ 15	74.6	3.4	—	暗褐色土 (10YR3/3)	陶器、磁器、石臼	SW50385、SW50386 を切る	
図 109	SW60105	6-8-2	AP･AQ-20･21	18.12	1.49	—	黒褐色土	—	SW60106 を切る	
図 109	SW60106	6-8-2	AP-20	7.73	1.13	—	黒褐色土	—	SW60105 に切られる	
図 109	SW60107	6-8-2	AQ･AR-21	9.90	0.81	—	黒褐色土	—	—	
図 109	SW60108	6-8-2	AQ･AR-21	6.77	0.66	—	黒褐色土	—	—	
—	SW60127	6-9-2	AO･AP-18･19	10.53	0.82	—	黒褐色土	—	—	
図 130	SW60043	6-13	AH・AI-13・14	19.70	0.67	N-28°-W	黒褐色土	陶器、磁器	—	
図 130	SW60044	6-13	AH・AI-12 ～ 15	27.54	0.73	N-28°-W	黒褐色土	陶器、磁器	—	
図 141	SW60056	6-16	AK-16	9.84	0.73	N-44°-E	黒色土	陶器、磁器、土師器	—	平面形が「コ」の字状
図 150	SW60086	6-17	AL・AM-16・17	7.86	0.90	—	黒色土	磁器	—	屈折。
図 150	SW60087	6-17	AL-17・18	9.80	0.75	N-64°-W	黒色土	—	SX60088 を切る	
図 150	SW60099	6-17	AL-17	1.35	0.35	—	黒色土	—	—	石段の可能性有。

表 10　小川内遺跡 3 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 18-1	14000805	3　P-31　造成土	縄文土器	深鉢	―	[4.7]	―	外 : 灰黄褐色 (10YR5/2)	内 : 暗灰黄色 (2.5Y5/2)	―	―	体部	条痕文
図 18-2	1500634	3　S-34　造成土	土師器	小皿	(9.7)	1.9	(3.2)	外 : 浅黄色 (7.5YR8/4)	内 : 浅黄色 (7.5YR8/4)	―	―	口縁部～底部 一部	
図 18-3	14000801	3　P-30　成土	土師器	坏	(10.3)	[3.1]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	―	―	口縁部～体部 1/6	
図 18-4	14000793	3　AN-33 造成土	土師器	坏	―	[3.5]	―	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 灰白色 (2.5Y8/2)	―	―	口縁部 一部	
図 18-5	14000802	3　AQ-30　造成土	土師器	坏	―	[1.2]	(4.3)	外 : 灰黄褐色 (10YR5/2)	内 : 灰黄褐色 (10YR5/2)	―	―	底部 一部	
図 18-6	14000819	3　AQ-32　造成土	土師器	坏	―	[1.0]	(5.1)	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : 橙色 (5Y6/6)	―	―	底部 一部	
図 18-7	15000630	3　AV-29　表採	土師器	鍋	―	[3.5]	―	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/3)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/3)	―	―	口縁部 一部	
図 18-8	14000817	3　AQ-32　造成土	土師器	鍋	―	[2.5]	―	外 : 橙色 (7.5Y7/6)	内 : 橙色 (7.5Y7/6)	―	―	口縁部 一部	
図 18-9	15000625	3　AR-32　造成土	土師器	鍋	―	[2.5]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	―	―	口縁部 一部	
図 18-10	15000629	3　AT-33　造成土	土師器	鍋	―	[3.5]	―	外 : 橙色 (2.5YR7/6)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)	―	―	口縁部 一部	
図 18-11	15000624	3　AR-32　造成土	土師器	鍋	―	[4.5]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	―	―	口縁部 一部	
図 18-12	14000818	3　AQ-32　造成土	土師器	鍋	―	[1.9]	―	外 : 灰黄褐色 (10YR4/2)	内 : にぶい黄橙色 (10YR5/3)	―	―	口縁部 一部	
図 18-13	14000796	3　AN-33　造成土	土師器	鍋	―	[3.4]	―	外 : にぶい黄褐色 (10YR5/3)	内 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	―	―	口縁部 一部	
図 18-14	14000816	3　AQ-32　造成土	土師器	鍋	―	[4.0]	―	外 : 灰褐色 (7.5YR4/2)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	―	―	口縁部 一部	
図 18-15	14000792	3　AQ-30　造成土	土師器	鍋	―	[3.4]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	―	―	口縁部 一部	
図 18-16	15000623	3　AR-32　造成土	土師器	鍋	―	[3.0]	―	外 : 橙色 (7.5YR6/6)	内 : 橙色 (7.5YR6/6)	―	―	口縁部 一部	
図 18-17	15000626	3　AR-32　造成土	土師器	鍋	―	[1.7]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	―	―	口縁部 一部	
図 18-18	14000795	3　AN-33　造成土	土師器	鍋	―	[2.1]	―	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR6/4)	内 : 橙色 (5YR6/6)	―	―	口縁部 一部	
図 18-19	14000812	3　AQ-30　造成土	土師器	鍋	―	[1.8]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	―	―	口縁部 一部	
図 18-20	14000803	3　AP-30　造成土	土師器	鍋	―	[3.1]	―	外 : 橙色 (7.5YR7/5)	内 : にぶい橙色 (10YR7/6)	―	―	口縁部 一部	
図 18-21	15000621	3　AR-32　造成土	土師器	鍋	―	[2.2]	―	外 : 黒褐色 (10YR3/2)	内 : 橙色 (7.5YR6/6)	―	―	口縁部 一部	
図 18-22	15000627	3　AS-32　造成土	土師器	鍋	―	[3.6]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい橙色 (10YR5/4)	―	―	口縁部 一部	
図 18-23	14000814	3　AQ-30　造成土	土師器	鍋か	―	[2.3]	―	外 : 灰褐色 (5YR4/2)	内 : 灰褐色 (5Y4/2)	―	―	口縁部 一部	
図 18-24	15000631	3　AR-35　造成土	瓦器	鍋	―	[4.0]	―	外 : 灰オリーブ色 (7.5YR7/3)	内 : にぶい黄色 (2.5YR6/3)	―	―	口縁部 一部	
図 18-25	15000622	3　AR-32　造成土	土師器	鍋	―	[3.5]	―	外 : 黄灰色 (2.5YR5/1)	内 : 黄灰色 (2.5YR5/1)	―	―	口縁部 一部	
図 18-26	14000808	3　AR-31　造成土	瓦器	鍋	―	[3.5]		外 : 黄灰色 (2.5Y4/1)	内 : 黒褐色 (2.5Y3/1)	―	―	口縁部 一部	
図 18-27	1500633	3　AT-28　造成土	瓦器	鍋	―	[3.8]	―	外 : 灰色 (5YR6/1)	内 : 灰白色 (5YR7/1)	―	―	口縁部 一部	
図 18-28	14000797	3　AN-33　造成土	土師器	茶釜	―	[1.7]	―	外 : 灰黄色 (2.5YR6/2)	内 : 黄灰色 (2.5YR5/1)	―	―	羽部 一部	
図 18-29	14000815	3　AQ-31　造成土	土師器	茶釜	―	[1.5]	―	外 : にぶい褐色 (7.5YR6/3)	―	―	―	羽部 一部	
図 18-30	15000619	3　AR-29　造成土	土師器	茶釜	―	[1.8]	―	外 : 灰黄褐色 (10YR6/2)	―	―	―	羽 一部	
図 18-31	15000620	3　AR-32　造成土	土師器	茶釜	―	[5.5]	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : 黄灰色 (2.5YR4/1)	―	―	把手 一部	
図 18-32	14000807	3　AP-31　造成土	瓦器	擂鉢	―	[3.5]	―	外 : 灰黄色 (2.5YR7/2)	内 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	―	―	胴部 一部	
図 18-33	1500628	3　AS-32　造成土	瓦器	擂鉢	―	[5.6]	―	外 : 橙色 (2.5YR7/6)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)	―	―	口縁部 一部	
図 18-34	14000806	3　AP-31　造成土	瓦器	擂鉢	―	[3.5]	―	外 : 灰色 (N4/0)	内 : 灰白色 (2.5YR7/1)	―	―	胴部 一部	
図 18-35	14000811	3　AP-34　造成土	瓦器	火鉢か	―	[6.8]	―	外 : 黄灰色 (2.5Y5/1)	内 : 灰白色 (2.5Y8/2)	―	―	胴部 一部	
図 18-36	14000798	3　AO-32　造成土	土師器	鉢か	―	[3.4]	―	外 : 灰黄褐色 (10YR5/2)	内 : 灰黄褐色 (10YR5/2)	―	―	口縁部 一部	
図 19-37	1700379	3　AP-29　造成土	陶器	擂鉢	―	[2.5]	―	黒褐色 (7.5YR3/1)	灰色 (N5/)	―	―	口縁部 一部	
図 19-38	14000804	3　AP-31　造成土	陶器	瓶	―	[9.5]	―	外 : オリーブ (5YR5/3)	内 : にぶい褐色 (7.5YR5/3)	―	―	頸部～胴部上半 一部	
図 19-39	1700377	3　AO-33　造成土 (ﾄﾚﾝﾁ内)	陶器	土瓶	―	[2.3]	―	オリーブ黒色 (7.5YR3/2)	黄灰色 (2.5YR5/1)	―	―	口縁部 一部	
図 19-40	14000794	3　AN-33　造成土	陶器	土瓶	―	[2.3]	6.7	外 : 灰黄褐色 (10YR5/2)	内 : 褐灰色 (10YR4/1)	―	―	底部 一部	
図 19-41	1700383	3　AT-31　造成土	磁器 (染付)	碗	―	[1.0]	―	透明	白色	―	―	口縁部～胴上半部 一部	
図 19-42	1700381	3　S-32　造成土	磁器 (青花)	碗	―	[3.2]	―	透明	灰白色 (10Y8/1)	中国	―	口縁部～胴上半部 一部	

表 10　小川内遺跡 3 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 19-43	17000380	3　AP-29　造成土	磁器 (青花)	碗	(9.2)	[3.2]	(3.4)	透明	灰白色 (5Y8/1)	中国		口縁部 一部	
図 19-44	17000382	3　AS-33　造成土	磁器 (染付)	皿	—	[1.5]	—	透明	白色	—		高台部 一部	
図 19-45	14000810	3　AP-32　造成土	磁器 (染付)	皿	—	—	(5.7)	薄水色	白色	—		高台部 一部	
図 19-46	17000378	3　AP-31　造成土	磁器 (染付)	碗	—	[2.7]	—	透明	灰白色 (2.5GY8/1)	—		胴下半部～高台部 一部	
図 19-48	15000632	3　S-35　SD30008	瓦器	鍋	—	[2.0]	—	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—		口縁部 一部	
図 19-49	15000617	大山祇神社　BA-22 第 1 トレ 2 層	土師器	小皿 (灯明皿)	(7.0)	1.2	(4.9)	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)			口縁部～底部 2/5	
図 19-50	15000616	大山祇神社　AZ-22 表採	土師器	小皿 (灯明皿)	7.4)	1.4	4.6	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)			口縁部～底部 1/3	
図 19-51	15000618	大山祇神社　BA-22 第 1 トレ 2 層	土師器	小皿 (灯明皿)	(7.5)	1.2	5.4)	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (7.5YR6/4)			口縁部～底部 1/4	

表 11　小川内遺跡 4 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 24-1	14000825	4　AR-15　造成土	土師器	鍋	—	[6.6]	—	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)			口縁部 一部	
図 24-2	14000822	4　AR-15　造成土	土師器	鍋	—	[2.2]	—	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)				口縁部 一部	
図 24-3	14000824	4　AR-15　造成土	土師器	鍋	—	[2.7]	—	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)			口縁部 一部	
図 24-4	14000833	4　AS-16　造成土	土師器	鉢か	—	[3.4]	—	外 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	内 : にぶい黄褐色 (10YR5/3)			口縁部 一部	
図 24-5	14000826	4　AR-15　造成土	土師器	鉢	—	[3.8]	—	外 : 橙色 (7.5YR6/6)	内 : 橙色 (5YR6/6)			口縁部 一部	
図 24-6	14000931	4　AR-32　造成土	土師器	鉢	—	[4.8]	—	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)			口縁部 一部	
図 24-7	14000821	4　AR-15　造成土	土師器	擂鉢	—	[9.4]	(11.6)	外 : 橙色 (7.5YR6/6)	内 : 明褐色 (7.5YR5/6)			胴下半部～底部 一部	
図 24-8	14000834	4　AS-17　造成土	土師器	茶釜	—	[3.4]	—	外 : 灰黄色 (2.5YR5/1)	外 : にぶい黄橙色 (5Y4/1)			肩部 一部	

表 12　小川内遺跡 5 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 29-1	17000389	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1	土師器	皿	(11.0)	2.9	(7.8)	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)			口縁部～胴部の 1/6 底部の 1/2	
図 29-2	17000384	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1 1 層	磁器 (染付)	碗	―	[3.2]	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	
図 29-3	17000385	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1 1 層	磁器 (白磁)	碗	―	[1.8]	(6.2)	灰黄色 (2.5Y6/2)	灰白色 (2.5Y8/2)	中国	中世	高台 1/3	
図 29-4	17000386	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1 1 層	磁器 (白磁)	皿	(10.8)	[1.6]	―	灰白色 (2.5GY8/1)	灰白色 (2.5Y8/1)	中国	13 後～ 14 前	口縁部 1/4	
図 29-5	17000387	5A-1　SX50006 2 層	磁器 (青花)	碗	―	[3.2]	―	透明	灰白色 (N8/)	中国 (漳州窯)	16c 末～ 17c 初	口縁部～胴部 一部	
図 29-6	17000388	5A-1　SX50006 2 層	磁器 (染付)	碗	―	[2.3]	(4.0)	透明	白色	肥前 (白石)	19 初～幕末	底部 1/6	
図 29-7	17000390	5A-1　SX50006 3 層	磁器 (青磁)	碗	(17.0)	[4.7]	―	明ｵﾘｰﾌﾞ灰 (5GY7/1)	灰白色 (N7/)		中世	口縁部～胴部 1/6	
図 29-8	17000391	5A-1　SX50006 3 層	土師器	鍋	―	[8.4]	―	外 : 黒褐色 (2.5Y3/2)	内 : 暗灰黄色 (2.5Y4/2)			口縁部～胴部 一部	
図 29-9	17000395	5A-1　SX50006 3 層	土師器	坏	―	[2.9]	―	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)			口縁部～胴部 一部	
図 29-10	17000393	5A-1　SX50006 3 層	土師器	皿	(6.9)	1.3	(5.5)	外 : にぶい褐色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい褐色 (7.5YR7/4)			口縁部～底部 1/6	
図 29-11	17000394	5A-1　SX50006 3 層	土師器	皿	(9.1)	1.1	(7.7)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)			口縁部～底部 1/4	
図 29-12	17000396	5A-1　SX50006 東西ﾍﾞﾙﾄ 3 層	瓦器	捏鉢	(28.4)	9.7	(12.2)	外 : 灰色 (7.5Y5/1)	内 : 灰色 (7.5Y4/1)			口縁部～底部 1/5	
図 29-13	17000409	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	磁器 (白磁)	碗	(16.0)	[4.6]	―	透明	白色	中国	13c 中～ 14c	口縁部～胴部 1/8	
図 29-14	17000397	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	磁器 (青磁)	碗	(18.0)	[4.5]	―	灰ｵﾘｰﾌﾞ色 (7.5Y5/3)	灰白色 (5Y7/1)	中国	13c 前	口縁部～胴部 1/6	
図 29-15	17000398	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	磁器 (青磁)	碗	―	[1.9]	(6.0)	黄褐色 (2.5Y5/3)	明褐灰色 (7.5YR7/1)	中国	13c 前	底部 1/4	
図 29-16	17000410	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	土師器	坏	―	[2.8]	―	外 : 橙色 (7.5YR6/6)	内 : 橙色 (7.5YR6/6)			口縁部～底部 一部	
図 29-17	17000400	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	土師器	皿	(8.4)	1.2	―	外 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)			口縁部～底部 1/5	
図 29-18	17000411	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	土師器	皿	(8.9)	1.2	(6.7)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)			口縁部～底部 1/8	
図 29-19	17000399	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	土師器	皿	(9.1)	1.2	(7.2)	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)			口縁部～底部 1/5	
図 29-20	17000405	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	土師器	鍋	―	[3.0]	―	外 : 褐色 (7.5YR4/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)			口縁部 一部	
図 29-21	17000406	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	土師器	鍋	―	[2.6]	―	外 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	外面浅黄色 (2.5Y7/3)			口縁部 一部	
図 29-22	17000392	5A-1　SX50006 3 層	須恵器	鉢	(27.6)	[5.7]	―	外 : 灰色 (N5/)	内 : 灰色 (N6/)	東播系	12c 末～ 13 前	口縁部～胴部 1/4	
図 29-23	17000407	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	瓦器	捏鉢	(29.6)	[2.3]	―	外 : ｵﾘｰﾌﾞ黒色 (5Y3/1)	内 : ｵﾘｰﾌﾞ黒色 (5Y3/1)			口縁部 1/8	
図 29-24	17000408	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	瓦器	碗	―	[2.7]	(6.9)	外 : 灰白色 (2.5Y8/1)	内 : 灰白色 (2.5Y8/1)			胴部～底部 1/4	
図 29-25	17000403	5A-1　SX50006 東西ﾍﾞﾙﾄ　4・5 層	磁器 (青磁)	碗	(16.7)	7.2	5.6	灰ｵﾘｰﾌﾞ (5Y5/2)	灰白色 (5Y5/2)	中国	13c 前	口縁部～胴部 7/8	
図 29-26	17000404	5A-1　SX50006 東西ﾍﾞﾙﾄ 4 層	土師器	皿	―	1.2	―	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)			口縁部～底部 一部	
図 29-27	17000402	5A-1　SX50006 南北ﾍﾞﾙﾄ 4a 層	陶器 (天目)	碗	―	[2.0]	―	黒色 (N1.5/)	灰色 (5Y5/1)	中国		口縁部 一部	
図 29-28	17000401	5A-1　SX50006 南北ﾍﾞﾙﾄ 4a 層	磁器 (白磁)	碗	(13.6)	[3.5]	―	透明	灰白色 (N8/)	中国	13c 後～ 14 初	口縁部～胴部 1/5	口禿げ
図 30-29	17000420	5A-1　SX50006 5 層	磁器 (染付)	碗	―	[1.6]	(4.3)	透明	白色	肥前	18c(前半 ?)	底部 1/4	
図 30-30	17000424	5A-1　SX50006 5 層	磁器 (白磁)	皿	11.4	3.1	6.5	透明	―	中国	13c 中～ 14c	完形	口禿げ
図 30-31	17000425	5A-1　SX50006 5 層	磁器 (白磁)	皿	11.3	3.2	6.3	透明	―	中国	13c 中～ 14c	完形	口禿げ
図 30-32	17000421	5A-1　SX50006 5 層	磁器 (青磁)	碗	(16.4)	6.4	5.9	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	灰白色 (10YR7/1)	中国	13c 前	口縁部～胴部 2/3	
図 30-33	17000422	5A-1　SX50006 5 層	磁器 (青磁)	碗	―	(6.2)	5.3	灰白色 (10Y7/1)	灰白色 (5Y8/1)	中国	13c 前	胴部の一部と底部	
図 30-34	17000428	5A-1　SX50006 5 層	土師器	土鍋	―	[4.2]	―	外 : 褐灰色 (10YR4/1)	内 : 暗灰黄色 (2.5Y4/2)			口縁部 一部	
図 30-35	17000429	5A-1　SX50006 5 層	須恵器 (東播系)	鉢	(32.0)	[5.3]	―	外 : 黄灰色 (2.5Y5/1)	内 : 黄灰色 (2.5Y5/1)			口縁部～胴上半部 一部	
図 30-36	17000412	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1　5 層	磁器 (青磁)	碗	―	[3.1]	(5.8)	ｵﾘｰﾌﾞ黄色 (5Y6/3)	灰白色 (2.5Y7/1)	中国		胴部～底部 1/2	
図 30-37	17000413	5A-1　SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1　5 層	磁器 (青磁)	碗	―	[3.1]	6.0	灰ｵﾘｰﾌﾞ色 (5Y5/3)	黄灰色 (2.5Y6/1)	中国		高台のみ	
図 30-38	17000418	5A-1　SX50006 東西ﾍﾞﾙﾄ　5 層	磁器 (白磁)	碗	(13.1)	[4.5]	―	灰白色 (7.5Y7/1)	灰白色 (7.5Y8/1)	中国	11c 末～ 12c 前	口縁部～胴部 1/4	口禿げ
図 30-39	17000419	5A-1　SX50006 東西ﾍﾞﾙﾄ　5 層	磁器 (白磁)	碗	―	[1.5]	(4.2)	透明	灰白色 (2.5Y8/2)	中国		底部 1/2	
図 30-40	17000414	5A-1　SX50006 南北ﾍﾞﾙﾄ　5 層	磁器 (白磁)	皿	―	[2.0]	―	灰ｵﾘｰﾌﾞ色 (5Y6/2)	灰白色 (5Y8/1)	中国	13c 中～ 14c	口縁部～胴部 一部	
図 30-41	17000415	5A-1　SX50006 南北ﾍﾞﾙﾄ　5 層	土師器	皿	―	1.6	―	外 : 橙色 (5YR7/6)	内 : 橙色 (5YR7/6)			口縁部～底部 一部	
図 30-42	17000416	5A-1　SX50006 南北ﾍﾞﾙﾄ　5 層	土師器	皿	(9.4)	1.0	[7.6]	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)			口縁部～底部 1/4	

表 12　小川内遺跡 5 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 30-43	17000417	5A-1　SX50006 南北ベルト　5 層	土師器	皿	−	2.4	−	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	−	−	口縁部～底部 一部	
図 30-44	17000423	5A-1　SX50006 トレンチ 2 6 層	土師器	皿	12.7	2.5	9.0	外 : 灰白色 (10YR8/2)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	−	−	完形	底面に穿孔
図 30-45	17000441	5A-1(5B) SB50202(P50182)	土師器	坏か	−	〔2.0〕	−	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/4)	−	−	口縁～胴上半部 一部	
図 30-46	17000442	5A-1 SB50202(P50183)	土師器	坏か	−	〔1.5〕	−	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/4)	−	−	口縁～胴上半部 一部	
図 30-47	17000443	5A-1 SB50202(P50185)	土師器	土鍋	−	〔4.0〕	−	外 : 黒褐色 (10YR3/1)	外 : 黒褐色 (10YR3/1)	−	−	口縁部 一部	
図 30-48	17000457	5A-1　SK50222	土師器	坏	(11.2)	〔2.8〕	−	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	−	−	口縁部～胴上半部 一部	
図 30-49	17000456	5A-1　SK50222	土師器	小皿	(9.3)	1.7	−	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	−	−	口縁部～底部 一部	
図 30-50	17000458	5A-1　SK50222	瓦器	捏鉢	−	〔2.7〕	−	外 : 灰白色 (10YR7/1)	外 : 灰白色 (10YR7/1)	−	−	口縁部 一部	
図 30-51	17000459	5A-1　SK50223	土師器	坏	−	〔2.2〕	(8.8)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	−	−	底部 一部	
図 42-1	17000440	5A-6(5B) SB50090(P50100)	土師器	皿	6.9	1.7	5.4	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	−	−	完形	
図 45-1	17000431	5A-7 SB50070(P50068)	磁器 (白磁か 染付)	皿	(13.9)	〔2.6〕	−	透明	灰白色 (2.5YR7/1)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～胴部 1/4	
図 45-2	17000430	5A-7 SB50070(P50068)	土師器	小皿	(9.7)	〔1.8〕	3.9	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	−	−	口縁部～底部 1/2	
図 45-3	17000439	5A-7　SK50073	磁器 (染付)	皿	−	〔1.8〕	−	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前	17c 後半～ 18c 初	胴部 一部	
図 45-4	17000448	5A-7　SK50102	陶器	皿	−	〔2.7〕	−	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	灰黄褐色 (10YR6/2)	福岡か肥前	17c 初	口縁部～胴上半部 一部	
図 45-5	17000451	5A-7　SK50102	磁器 (染付)	皿	−	〔1.5〕	−	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1640 ～ 1650	口縁部 一部	
図 45-6	17000452	5A-7　SK50102	土師器	坏	−	〔0.9〕	2.6	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	−	−	底部 一部	
図 45-7	17000454	5A-7　SK50102	土師器	坏か	−	〔1.9〕	(4.9)	外 : にぶい橙色 (7.5Y6/4)	内 : にぶい橙色 (7.5Y6/4)	−	−	胴下半部～底部 一部	
図 45-8	17000453	5A-7　SK50102	土師器	坏	−	〔1.3〕	(5.7)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	−	−	胴下半部～底部 一部	
図 45-9	17000437	5A-7　SK50105	陶器	皿	−	〔1.6〕	高台径 (3.9)	透明	灰白色 (2.5Y8/2)	肥前	18c 前半	胴下半部～高台部 一部	見込みに山水文
図 45-10	17000435	5A-7　SK50105	磁器 (白磁)	碗	−	〔1.5〕	(4.4)	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前	17c 末～ 18c 前半	胴下半部～高台部 一部	
図 45-11	17000436	5A-7　SK50105	磁器 (染付)	皿	−	〔2.4〕	−	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 頃	口縁部 一部	
図 45-12	17000594	5A-7 SJ50065	陶器	甕	19.3	29.3	18.2	褐灰色 (10YR4/1)	褐灰色 (10YR6/1)	肥前	17c 初 (1600 ～ 1630)	口縁部～底部 1/3	貝目
図 45-13	17000426	5A-7　SX50063	磁器 (白磁)	皿	−	〔1.6〕	−	透明	灰白色 (N8/)	中国	13c	口縁部 一部	
図 45-14	17000427	5A-7　SX50063	瓦器	鍋	−	〔3.7〕	−	外 : 灰色 (N5/)	内 : 灰色 (N5/)	−	−	口縁部 一部	
図 45-15	17000595	5A-7　P50075	陶器	碗	12.6	5.3	4.7	透明	灰白色 (10YR8/2)	肥前 (内野山窯跡窯)	17c 後半～	完形	蛇の目釉剥ぎ
図 51-1	17000596	5B-11　SK50230	陶器	擂鉢	−	〔2.2〕	(10.7)	にぶい赤褐色 (2.5YR5/3)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	福岡	17c 代	底部 一部	
図 51-2	17000460	5B-11　SJ50228	土師器	手焙り	−	〔15.4〕	27.0	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	−	−	胴部～底部 2/3	外面に赤色顔料
図 51-6	17000433	5B-12(5A) SA50236(P50233)	陶器	碗	−	〔2.4〕	−	青灰色 (10BG5/1)	灰色 (7.5Y6/1)	肥前	18c 前半か	口縁部～胴部 一部	
図 51-7	17000434	5B-12(5A) SA50236(P50234)	陶器	灯火皿	(14.6)	〔2.1〕	−	灰赤色 (2.5YR4/2)	黄灰色 (2.5Y6/1)	肥前	19c	口縁部～胴部 一部	
図 51-8	17000485	5B-12　SD50243 1 層	磁器 (染付)	碗	−	[5.1]	−	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後～ 19c 前	口縁部～胴部 一部	
図 51-9	17000486	5B-12　SD50243 1 層	磁器 (白磁)	鉢 (碗 ?)	−	[2.6]	(7.0)	透明	白色	肥前 (有田 ?)	17c 末～ 18c 初	高台部 1/8	
図 51-10	17000484	5B-12　SD50243 1 層	磁器 (白磁か 色絵)	瓶 (油壺 ?)	−	[2.1]	4.1	透明	白色	有田	17c 後	高台のみ	
図 51-11	17000599	5B-12　SD50243 2 層	磁器 (染付)	碗	(10.1)	5.5	4.3	透明	白色	肥前	18c 前	口縁～高台 1/4	外面 : 網目文 高台内「渦福」
図 51-12	17000600	5B-12　SD50243 2 層	磁器 (染付)	小丸碗	(6.0)	4.9	(3.2)	透明	白色	肥前	1820 ～ 1860	口縁部～高台 1/3	
図 51-13	17000432	5B-13(5A) SA50195(P50197)	土師器	小皿	8.6	1.7	5.0	外 : にぶい橙色 (5YR7/4)	内 : にぶい橙色 (5YR7/4)	−	−	口縁部～底部 2/3	
図 55-1	17000537	5B-14　SX50383 トレンチ 1　3 層	磁器 (染付)	碗	(10.0)	5.2	4.3	透明	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前 (波佐見系)	18c 後半	口縁部～高台部 2/3	
図 55-2	17000538	5B-14　SX50383 トレンチ 2　3 層	土師器	小皿	6.1	1.8	4.1	内 : 浅黄橙色 (7.5Y8/4)	内 : 灰白色 (10Y7/1)	−	−	口縁部～底部 5/6	
図 55-3	17000539	5B-14　SX50383 トレンチ 2　3 層	土師器	小皿	6.5	1.8	3.8	外 : 灰黄褐色 (10Y5/2)	内 : 灰黄褐色 (10Y5/2)	−	−	口縁部～底部 2/3	
図 55-4	17000542	5B-14　SX50383 トレンチ 2 3 層	瓦器	茶釜	14.9	〔12.8〕	−	外 : 黄灰色 (2.5Y4/1)	内 : 黄灰色 (2.5Y4/1)	−	−	口縁部～胴下半部 7/8	肩部に印刻文
図 55-5	17000543	5B-14　SX50383 トレンチ 2 3 層	瓦器	茶釜	(15.5)	〔15.2〕	−	外 : 灰色 (5Y5/1)	内 : 褐灰黄色 (2.5YR5/2)	−	−	口縁部～底部 1/3	
図 55-6	17000561	5B-14　SX50383 2・5 層	磁器 (染付)	合子	4.9	2.1	3.8	透明釉	白色	有田	1670 ～ 1690	完形	

表 12　小川内遺跡 5 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 55-7	17000531	5B-14　SX50383 3 層	陶器	皿	(18.3)	5.4	7.7	透明	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	唐津	18c 前半	胴下半部～底部　一部	
図 55-8	17000535	5B-14　SX50383 3 層	磁器 (染付)	碗	(7.7)	4.1	3.0	透明	灰白色	肥前	18c	口縁部～高台部 1/2	外面 : コンニャク印判
図 55-9	17000533	5B-14　SX50383 3 層	磁器 (染付)	碗	－	〔2.5〕	(4.6)	透明	白色	肥前	18c	胴下半部～高台部 1/4	
図 55-10	17000536	5B-14　SX50383 3 層	磁器 (染付)	碗	－	〔2.0〕	(4.3)	透明	白色	肥前	18c 前半	胴下半部～高台部 一部	
図 55-11	17000532	5B-14　SX50383 3 層	磁器 (染付)	皿	－	〔1.1〕	(10.0)	透明	白色	－	－	口縁部～高台部 2/3	内面 : 梅鉢文
図 55-12	17000534	5B-14　SX50383 3 層	磁器	紅皿	(6.5)	1.7	(3.2)	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～高台部 1/5	
図 55-13	17000540	5B-14　SX50383 ﾄﾚﾝﾁ 2 3 層	瓦器	土鍋	(37.3)	18.2	(27.0)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : 褐灰色 (10YR5/1)	－	－	口縁部～底部 1/2	
図 55-14	17000541	5B-14　SX50383 ﾄﾚﾝﾁ 2 3・4 層	瓦器	土鍋	(26.0)	12.1	(19.5)	外 : 灰黄褐色 (10YR5/2)	内 : 黄灰色 (2.5Y4/1)	－	－	口縁部～底部 1/2	
図 56-15	17000556	5B-14　SX50383 4 層	陶器	皿	－	〔1.9〕	(4.6)	透明	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	肥前	17c 末～ 18c 初	胴下半部～高台部 一部	蛇の目釉剥ぎ
図 56-16	17000554	5B-14　SX50383 4 層	陶器	皿	(13.3)	3.8	(3.9)	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	肥前	17c 後半頃～ 18c 初	口縁部～高台部 1/8	蛇の目釉剥ぎ 内面呉須絵
図 56-17	17000610	5B-14　SX50383 4 層	陶器	大皿	(36.1)	〔8.8〕	－	黄灰色 (2.5Y5/1)	赤褐色 (10R5/3)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～胴下半部 一部	内面 : 刷毛目文
図 56-18	17000547	5B-14　SX50383 4 層	陶器	鉢か皿	－	〔5.8〕	(10.2)	灰ｵﾘｰﾌﾞ色 (5Y5/3)	褐灰色 (10YR6/1)	肥前	17c 後半	胴下半部～高台部 一部	
図 56-19	17000558	5B-14　SX50383 4 層	陶器	擂鉢	－	〔6.6〕	(11.9)	－	にぶい橙色 (2.5YR6/4)	肥前	17c 後半	胴下半部～底部 一部	
図 56-20	17000557	5B-14　SX50383 4 層	陶器	火入れ	(12.7)	〔4.9〕	－	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～胴下半部 一部	
図 56-21	17000549	5B-14　SX50383 4 層	磁器 (染付)	小碗	(9.7)	〔3.8〕	－	透明	白色	肥前	1650 ～ 1660	口縁部～胴部 一部	
図 56-22	17000548	5B-14　SX50383 4 層	磁器 (染付)	碗	(10.2)	〔3.7〕	－	透明	白色	肥前	18c 後半頃	口縁部～胴下半部 1/6	
図 56-23	17000550	5B-14　SX50383 4 層	磁器 (色絵)	碗	－	〔4.8〕	4.2	透明	白色	－	1670 ～ 1700	胴下半部～高台部 一部	
図 56-24	17000553	5B-14　SX50383 4 層	磁器 (染付)	小坏	(6.3)	3.8	(2.9)	透明	白色	肥前	1630 ～ 1640	口縁部～高台部 1/4	
図 56-25	17000551	5B-14　SX50383 4 層	磁器 (白磁)	小坏	(7.4)	〔3.0〕	－	透明	白色	肥前	17c 後半	口縁部～胴下半部 1/8	
図 56-26	17000552	5B-14　SX50383 4 層	磁器 (白磁)	小坏	(6.6)	4.5	3.1	透明	白色	肥前	17c 後半	口縁部～高台部 1/3	
図 56-27	17000555	5B-14　SX50383 4 層	磁器	皿	－	〔2.4〕	(6.0)	透明	白色	朝鮮	16c	胴上半部～高台部 一部	胎土目
図 56-28	17000546	5B-14　SX50383 4 層	土師器	小皿	6.0	1.6	(4.0)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	－	－	口縁部～底部 2/3	
図 56-29	17000544	5B-14　SX50383 4 層	土師器	小皿	6.5	1.7	(3.2)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	－	口縁部～底部 1/4	
図 56-30	17000545	5B-14　SX50383 4 層	土師器	坏か	－	〔2.2〕	(5.3)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	－	口縁部～底部 1/4	
図 58-31	17000530	5B-14　SX50383 4・5 層	磁器 (染付)	碗	10.6	4.6	4.2	透明釉	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	肥前 (波佐見)	18c 後	完形	外面 : 梅と雪持笹
図 58-32	17000569	5B-14　SX50383 5 層	陶器	碗	－	[4.1]	－	灰褐色 (5YR4/3)	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	肥前	17c 後半～ 18c 初	胴上半部～高台部 1/4	
図 58-33	17000568	5B-14　SX50383 5 層	陶器	皿	(10.6)	4.3	(4.3)	透明釉	灰白色 (10YR8/1)	肥前 (内野山窯)	17c 末～ 18c 前	口縁部～高台部 1/4	蛇の目釉剥ぎ
図 58-34	17000560	5B-14　SX50383 5 層	磁器 (染付)	碗	－	[2.3]	(4.4)	透明釉	白色	肥前	17c 頃	胴下半部～高台部 一部	
図 58-35	17000563	5B-14　SX50383 5 層	磁器 (色絵)	碗	10.5	[3.9]	－	透明	白色	－	－	口縁部～胴下半部 1/6	
図 58-36	17000559	5B-14　SX50383 5 層	磁器 (染付)	皿	－	[1.5]	(6.6)	透明釉	白色	中国	16c 前半～中頃	高台部 1/4	見込みに獅子
図 58-37	17000562	5B-14　SX50383 5 層	磁器 (青磁)	瓶	－	[2.6]	4.7	明緑灰色 (10GY8/1)	白色	肥前	17c 後頃	胴下半部～高台部 一部	
図 58-38	17000566	5B-14　SX50383 5 層	土師器	皿	(6.8)	1.8	3.8	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/3)	－	－	口縁部～底部 1/2	
図 58-39	17000567	5B-14　SX50383 5 層	土師器	皿	(7.3)	1.1	4.8	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	－	－	口縁部～底部 2/3	
図 58-40	17000564	5B-14　SX50383 5 層	土師器	皿	(8.4)	1.5	(4.1)	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/3)	－	－	口縁部～底部 一部	
図 58-41	17000565	5B-14　SX50383 5 層	土師器	皿	－	[1.6]	(5.7)	外 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	－	－	胴上半部～底部 一部	
図 58-42	17000602	5B-14　SD50281 1 層	磁器 (染付)	碗	－	[3.0]	－	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後	胴部下半～高台 1/4	外面 : 二重網目文
図 58-43	17000601	5B-14　SD50281 1 層	磁器 (染付)	碗	－	[3.3]	4.4	透明	白色	肥前 (白石 ?)	18c ～ 19c 初	胴部下半～高台 1/3	見込みに岩波文
図 58-44	17000608	5B-14　SD50281 ﾄﾚﾝﾁ 3 層	陶器	擂鉢	－	[6.3]	－	黒褐色 (10YR3/2)	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	肥前	18c 後～幕末	口縁部～胴部 一部	
図 58-45	17000438	5B-14　SK50247	磁器 ?	皿	－	〔1.7〕	高台径 (5.6)	透明	灰白色 (10YR8/2)	中国 (福健省)	16c 後半～ 17c 初	高台部 一部	
図 58-46	17000446	5B-14　SK50248	陶器	碗	－	〔2.3〕	高台径 (4.6)	灰白色 (7.5Y7/1)	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	肥前 (岸岳)	1580 ～ 1594	胴下半部～高台部 一部	
図 58-47	17000455	5B-14　SK50248	瓦器	土鍋	－	〔3.5〕	－	外 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	内 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	－	－	口縁部 一部	
図 58-48	17000447	5B-14　SK50249	陶器	擂鉢	－	〔4.9〕	－	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	肥前	17c 前半	胴部 一部	

表 12　小川内遺跡 5 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 58-49	17000449	5B-14　SK50249	瓦器	鉢	―	〔3.9〕	―	外 : 黒褐色 (10YR3/1)	内 : 黒褐色 (10YR3/1)	―	―	口縁部 一部	
図 58-50	17000450	5B-14　SK50249	土師器	坏	(10.0)	〔2.1〕	―	外 : 灰白色 (10YR8/2)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	―	―	口縁部～胴上半部 一部	
図 58-51	17000461	5B-14　SK50253	土師器	坏か	―	〔0.8〕	(4.2)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	―	―	胴下半部～底部 一部	
図 58-52	17000475	5B-14　SK50278	磁器 (白磁)	蓋	―	〔0.75〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～幕末	口縁部 一部	
図 58-53	17000476	5B-14　SK50278	磁器 (白磁)	碗	―	〔3.25〕	―	透明	白色	肥前	18c 後半～ 19c 前半	口縁部～胴部 一部	
図 58-54	17000477	5B-14　SK50278	磁器 (染付)	皿	―	〔3.8〕	(10.0)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半	胴下半部～高台部 1/6	
図 63-55	17000487	5B-14　SK50287	陶器	碗	(12.5)	〔3.6〕	―	透明	灰黄色 (2.5Y7/2)	肥前	18c 前半	口縁部～胴部 1/6	
図 63-56	17000583	5B-14　SW50385 1 層	陶器	碗または皿	―	〔2.1〕	―	透明	灰黄色 (2.5Y8/2)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	胴下半部～高台部 一部	
図 63-57	17000584	5B-14　SW50385 1 層	陶器	皿	―	〔1.65〕	―	透明	灰黄色 (2.5Y7/2)	肥前	17c 末～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	
図 63-58	17000581	5B-14　SW50385 1 層	陶器	皿	―	〔2.9〕	―	透明	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	肥前	17c	口縁部～胴部 一部	
図 63-59	17000582	5B-14　SW50385 1 層	陶器	皿	―	〔2.0〕	―	灰褐色 (7.5YR4/2)	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	
図 63-60	17000586	5B-14　SW50385 1 層	陶器	擂鉢	―	〔6.7〕	(14.0)	―	にぶい橙色 (2.5YR6/4)	―	―	胴下半部～底部 一部	
図 63-61	17000587	5B-14　SW50385 1 層	陶器	擂鉢	―	〔6.3〕	(9.0)	―	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	肥前	17c 中～ 17c 末	胴下半部～底部 一部	
図 63-62	17000585	5B-14　SW50385 1 層	陶器	土瓶	―	〔3.55〕	―	透明	灰黄色 (2.5Y7/2)	関西系	19c	胴部～底部 一部	
図 63-63	17000570	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (染付)	碗	―	〔3.8〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半頃	口縁部～胴部 一部	
図 63-64	17000572	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (白磁)	碗	(8.5)	〔3.65〕	―	透明	白色	有田	18c 前半	口縁部～胴部 一部	口紅
図 63-65	17000571	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (染付)	碗か	―	〔1.55〕	(3.9)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 末～ 18c 前半	胴下半部～高台部 一部	高台内「大明」
図 63-66	17000573	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (染付)	碗	―	〔1.8〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前系	19c ～幕末	胴下半部～高台部 1/8	
図 63-67	17000577	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (染付)	小碗	(6.8)	〔5.1〕	(3.2)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1820 ～ 1860	口縁部～高台部 1/4	
図 63-68	17000575	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (白磁)	小坏	―	〔1.9〕	2.4	透明	白色	―	17c 後半～ 18c 前半	胴部～高台部 1/2	
図 63-69	17000576	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (白磁)	小坏	―	〔2.15〕	(2.1)	透明	灰白色 (N8/)	―	18c 後半～ 19c 前半	胴部～高台部 1/3	
図 63-70	17000578	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (染付)	皿	(14.0)	〔3.45〕	(8.3)	透明	灰白色 (5Y8/1)	肥前	17c 末～ 18c 前半	口縁部～高台部 1/4	
図 63-71	17000579	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (染付)	皿	―	〔1.75〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田)	18c 前半	胴部～高台部 一部	
図 63-72	17000580	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (色絵)	皿	―	〔2.75〕	(11.8)	透明	灰白色 (N8/)	―	17c 末～ 18c 初	胴下半部～高台部 一部	
図 63-73	17000574	5B-14　SW50385 1 層	磁器 (色絵)	鉢？	―	〔4.25〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田以外)	18c 後半～幕末	口縁部～胴部 一部	
図 64-74	17000590	5B-14　SW50385 1 層	土師器	小皿	―	〔0.45〕	(4.0)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	―	―	胴部～底部 1/4	
図 64-75	17000588	5B-14　SW50385 1 層	土師器	小皿	―	〔0.45〕	(4.4)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	―	―	胴部～底部 1/4	
図 64-76	17000589	5B-14　SW50385 1 層	土師器	小皿	―	〔0.7〕	(4.8)	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	―	―	胴部～底部 1/6	
図 64-77	17000592	5B-14　SW50385 1 層	瓦器	擂鉢	―	〔4.05〕	―	外 : 褐灰色 (10YR5/1)	内 : 褐灰色 (10YR5/1)	―	―	胴部 一部	
図 64-78	17000593	5B-14　SW50385 1 層	瓦器	土鍋？	―	〔3.65〕	(11.0)	外 : 黄灰色 (2.5Y4/1)	内 : 黄灰色 (2.5Y4/1)	―	―	胴下半部～底部 一部	
図 64-79	17000591	5B-14　SW50385 1 層	瓦器	土鍋	(28.0)	〔10.4〕	(22.7)	外 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	―	―	口縁部～底部 1/6	
図 64-80	17000483	5B-14　SE50270 1 層	磁器 (染付)	碗	―	[2.7]	(5.1)	透明	灰白色 (N8/)	肥前系	1820 ～ 1860	胴部下半～高台 1/4	見込みにハマ痕、岩波文
図 64-81	17000603	5B-14　SX50274	磁器 (染付)	小碗	7.8	3.8	2.9	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前	18c 前～ 18c 中	口縁部～胴部 2/3	外面 : コンニャク印判
図 64-82	17000604	5B-14　SX50274	磁器 (色絵)	碗	(8.5)	3.9	(3.9)	透明	灰白色 (N8/)	有田	19c 初	口縁部～高台 1/3	見込みに鯛文
図 64-83	17000605	5B-14　SX50274	磁器 (色絵)	碗	―	[2.2]	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前系	19c ～明治	口縁部～胴部 一部	
図 64-84	17000607	5B-14　SX50274	磁器 (白磁)	蓋物	(8.8)	[4.1]	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	江戸後期	口縁部～胴部 1/8	
図 64-85	17000606	5B-14　SX50274	磁器 (白磁)	皿	(18.6)	[2.9]	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c	口縁部～胴部 1/8	
図 64-86	17000609	5B-14　SJ50289 No.1	陶器	甕	―	〔9.2〕	(24.3)	―	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	肥前	18c ～ 19c	胴下半部～脚部 1/2	内面に尿石
図 64-87	17000616	5B-14　SX50383 1 層	磁器	皿	―	〔2.0〕	―	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前 (有田)	17c 末～ 18c 第 1 四半期	口縁部 一部	芙蓉手
図 64-88	17000617	5B-14　SX50383 2 層	磁器	皿	―	〔1.2〕	―	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前 (有田)	17c 末～ 18c 第 1 四半期	口縁部 一部	芙蓉手
図 69-1	17000492	5B-15　SK50310	磁器 (白磁)	小坏	(6.5)	〔2.5〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前系	江戸後期	口縁部～胴上半部 一部	
図 69-2	17000496	5B-15　SK50319	青磁	碗	―	〔1.9〕	―	青磁釉	灰白色 (2.5Y7/1)	中国	龍泉窯Ⅳ類	底部 一部	

表 12　小川内遺跡 5 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 69-3	17000497	5B-15　SK50319	瓦器	鍋	―	〔4.4〕	―	―	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	―	―	胴下半部 一部	
図 69-4	17000488	5B-16 SK50293	磁器 (染付)	碗	―	〔2.6〕	―	透明	灰白色 (7.5Y8/1)	肥前系	18c 後半～ 19c 前半	胴部 一部	
図 69-5	17000489	5B-15　SK50295 1 層	磁器 (色絵)	小碗？	(7.8)	〔2.5〕	―	透明	灰白色 (N8/)	―	18c 前半	口縁部～胴部 一部	
図 69-6	17000491	5B-16 SK50298	土師器	灯明皿	―	〔1.7〕	―	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)	―	―	口縁部～底部 一部	
図 69-7	17000490	5B-16 SK50298	磁器 (色絵)	うがい碗	(14.9)	〔4.2〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	
図 69-8	17000493	5B-16　SK50305	土師器	坏	(11.2)	〔1.7〕	―	外 : にぶい橙色 (5YR7/4)	内 : にぶい橙色 (5YR7/4)	―	―	口縁部～胴部 一部	
図 69-9	17000494	5B-16　SK50308	土師器	鍋	―	〔1.7〕	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	―	―	口縁部 一部	
図 69-10	17000495	5B-16　SK50311	陶器	瓶	―	〔4.6〕	―	透明	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前	18c 前半	胴部上半 一部	
図 71-1	17000462	5B-17　SK50268	陶器	擂鉢	―	〔3.1〕	―	褐色 (7.5YR4/3)	灰色 (5Y6/1)	福岡か肥前	江戸後期	底部 一部	
図 71-2	17000466	5B-17　SK50268	磁器	碗	(9.6)	〔3.7〕	―	透明	白色	肥前 (有田)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～胴上半部 1/8	
図 71-3	17000598	5B-17　SK50268	磁器 (染付)	碗	―	〔4.8〕	高台径 4.1	透明	白色	肥前 (波佐見系)	18c 後半	胴部～高台部 1/3	外面 : 二重網目文
図 71-4	17000465	5B-17　SK50268	磁器 (染付)	碗	―	〔2.6〕	―	透明	白色	肥前系	1820 ～ 1860	口縁部 一部	
図 71-5	17000464	5B-17　SK50268	磁器	皿	―	〔2.3〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～ 19c 前半	口縁部 一部	型打ち成型
図 71-6	17000597	5B-17　SK50268	磁器 (染付)	瓶	―	〔4.7〕	―	透明	白色	肥前	江戸後期	肩部 一部	
図 71-7	17000463	5B-17　SK50268	土師器か瓦器	?	―	2.1	―	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	―	―	口縁部 一部	
図 71-8	17000468	5B-17　SK50269	陶器	鉢	(13.6)	〔2.8〕	―	透明	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	肥前	18c	口縁部～胴上半部 一部	
図 71-9	17000467	5B-17　SK50269	陶器	香炉	―	〔2.4〕	―	明黄褐色 (10YR6/6)	にぶい橙色 (5YR6/4)	肥前	17c 後半頃	胴部 一部	
図 71-10	17000469	5B-17　SK50275	陶器	碗	―	〔2.1〕	(4.9)	灰釉 (透明)	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前	17c 末～ 18c 前半	胴下半部～高台部 一部	
図 71-11	17000470	5B-17　SK50275	陶器	袋物	―	〔2.9〕	―	外 : わら灰釉	橙色 (5YR6/6)	関西系	19c	胴部　一部	
図 71-12	17000472	5B-17　SK50275	磁器 (染付)	碗	(10.8)	〔4.1〕	―	透明	灰白色 (5Y7/1)	肥前	17c 末～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	
図 71-13	17000471	5B-17　SK50275	磁器 (染付)	小碗 (仏飯器 ?)	―	〔1.9〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前系	18c 後半～ 19c 初	口縁部～胴上半部 一部	
図 71-14	17000473	5B-17　SK50275	磁器 (染付)	段重	―	〔2.7〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	江戸後期	口縁部～胴部 一部	
図 71-15	17000474	5B-17　SK50277	磁器 (白磁)	皿？	―	〔2.7〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～ 19c	口縁部～胴部 一部	
図 71-16	17000478	5B-17　SK50279	陶器	碗	―	〔3.55〕	(4.2)	透明	灰褐色 (5YR4/2)	肥前	18c 前後	胴部～高台部 1/8	
図 71-17	17000479	5B-17　SK50279	陶器	火入？	―	〔3.65〕	―	オリーブ黄色 (5YR6/3)	灰色 (5Y6/1)	肥前	18c ～ 19c	口縁部～胴部 一部	
図 71-18	17000481	5B-17 SK50279	磁器 (染付)	碗	7.8	5.2	3.6	灰白色 (5Y8/1)	灰白色 (2.5Y8/2)	―	1780 ～ 1810	口縁部～高台部 2/3	外面 : 紅葉流水文
図 71-19	17000480	5B-17　SK50279	磁器 (染付)	皿	―	〔2.1〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (志田)	19c(幕末)	口縁部～胴部 一部	
図 71-20	17000482	5B-17　SX50280	磁器 (染付)	碗	―	[2.3]	―	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前系	18c 末～ 19c 前半	口縁部 一部	
図 72-21	17000854	5B-17　SW50001 ﾄﾚﾝﾁ 2 天端　5 層	磁器 (色絵)	碗	(9.6)	4.65	3.3	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1670 ～ 1700	胴下半部～高台部 1/2	西行法師うがい碗
図 72-22	17000508	5B-17 SW50001 ﾄﾚﾝﾁ 2 天端　5 層	磁器 (染付)	皿	―	〔2.1〕	7.6	透明	灰白色 (N8/)	肥前周辺 (有田以外)	1780 ～ 19c 第 1 四半記	胴下半部～高台部 1/2	
図 76-1	17000445	5B-18　SB50380 (P50339)	土師器	皿	6.6	1.5	4.0	外 : 灰白色 (10YR8/2)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	―	―	完形	
図 76-2	17000444	5B-18　SB50380 (P50339)	土師器 (燈明皿)	皿	(8.3)	1.7	(4.7)	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	―	―	完形	
図 76-3	17000529	5B-18　SB50380 (P50367) 1 層	磁器 (染付)	皿	―	[1.4]	(9.4)	透明釉	白色	肥前 (有田)	17c 後半～ 18c 初	高台部 一部	
図 76-4	17000527	5B-18　SB50380 (P50367) 1 層 No.2	土師器 (燈明皿)	皿	6.4	1.4	4.0	外 : 灰黄色 (2.5YR7/2)	内 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/3)	―	―	完形	
図 76-5	17000528	5B-18　SB50380 (P50367) 1 層	土師器	皿	(8.3)	1.8	(4.3)	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	―	―	口縁部～底部 一部	
図 76-6	17000505	5B-18　SK50325	陶器	擂鉢	―	〔3.8〕	(14.0)	鉄釉	にぶい橙色 (5YR6/3)	肥前	18c 後半～ 19c 前半	高台部 一部	
図 76-7	17000501	5B-18　SK50325	陶器	擂鉢	―	〔3.6〕	―	鉄釉	赤褐色 (10R5/4)	福岡か肥前	江戸後期	胴上半部 一部	
図 76-8	17000502	5B-18　SK50325	陶器	土瓶	―	〔3.4〕	―	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	福岡か熊本	江戸後期	胴下半部 一部	
図 76-9	17000499	5B-18　SK50325	磁器 (染付)	碗	―	〔4.4〕	―	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前系	1820 ～ 1860	胴部 一部	
図 76-10	17000506	5B-18　SK50325	磁器 (染付)	碗	―	〔3.4〕	(4.3)	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前 (長崎 ?)	1820 ～ 1860	胴下半部～高台部 1/4	外面 : 波濤文
図 76-11	17000500	5B-18　SK50325	磁器？	碗	―	〔2.0〕	―	透明	灰白色 (N8/)	関西系	―	胴下半部 一部	
図 76-12	17000498	5B-18　SK50325	磁器 (染付)	皿	―	〔2.3〕	―	透明	白色	有田	18c 前半	胴下半部 一部	

表 12　小川内遺跡 5 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 76-13	17000504	5B-18　SK50325	磁器 (白磁)	紅皿	4.2	1.5	1.3	透明	白色	肥前	18c 後半～幕末	口縁部～高台部 2/3	
図 76-14	17000503	5B-18　SK50325	磁器 (白磁)	皿	－	〔1.9〕	－	透明	灰白色 (10YR8/1)	肥前	18c 頃	口縁部 一部	
図 76-15	17000507	5B-18　SK50325	陶器か	風炉か	－	〔3.3〕	－	－	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	－	－	底部～脚部 一部	
図 76-16	17000524	5B-18 SK50365	陶器	大皿	－	〔7.05〕	－	透明	にぶい橙色 (2.5YR6/3)	肥前	18c 頃	胴部 一部	
図 76-17	17000523	5B-18 SK50365	陶器	瓶	－	〔7.45〕	11.0	－	橙色 (7.5YR7/6)	福岡か	18c ～ 19c	胴下半部～底部 1/4	
図 76-18	17000525	5B-18　SK50379	磁器 (染付)	皿	－	〔1.35〕	－	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～ 19c 初頭	口縁部 一部	
図 76-19	17000526	5B-18　SK50379	磁器 (染付)	皿	－	〔2.85〕	(8.2)	透明	灰白色 (2.5Y8/2)	肥前	18c 後半頃	胴下半部～高台部 一部	
図 76-20	17000611	5B-18　SK50384	磁器 (染付)	碗	(11.4)	〔5.45〕	(4.4)	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (波佐見系)	18c 後半	口縁部～高台部 1/6	
図 76-21	17000612	5B-18　SK50384	磁器 (染付)	碗	－	〔4.05〕	(3.8)	透明	灰白色 (N8/)	肥前系	1820 ～ 1860	胴下半部～高台部 1/6	見込みに「渦福」
図 76-22	17000613	5B-18　SK50384	磁器 (染付)	碗	－	〔4.2〕	(4.2)	透明	灰白色 (5Y8/1)	肥前系	1820 ～ 1860	胴下半部～高台部 1/6	見込みに 3 足ハマ痕
図 76-23	17000614	5B-18　SK50384	磁器 (染付)	碗	－	〔3.15〕	(3.8)	灰白色 (10Y8/1)	灰白色 (7.5Y8/)	肥前系	1820 ～ 1860	胴部～高台部 一部	見込みに 3 足ハマ痕
図 76-24	17000615	5B-18　SK50384	磁器 (染付)	蓋物	(12.1)	〔5.0〕	－	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～ 19c 前半	口縁部～胴部 一部	外面 : 宝珠文
図 78-25	17000513	5B-18　SX50344 1 層	磁器 (染付)	碗か	－	〔2.0〕	(3.7)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 末～ 19c 前半	胴下半部～高台部 一部	見込みにハマ痕
図 78-26	17000519	5B-18　SX50344 1 層	土師器	小皿	(7.7)	〔0.95〕	(5.6)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	－	口縁部～底部 1/3	底面糸切り後板置
図 78-27	17000518	5B-18　SX50344 1 層	土師器	小皿	(8.2)	〔1.3〕	6.0	外 : 灰黄色 (2.5Y7/2)	内 : 灰黄色 (2.5Y7/2)	－	－	口縁部～底部 2/3	底面糸切り後板置
図 78-28	17000522	5B-18　SX50344 1 層	土師器	小皿か	(8.8)	〔1.4〕	7.6	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	－	口縁部～底部 1/4	
図 78-29	17000521	5B-18　SX50344 1 層	土師器	小皿	－	〔0.8〕	5.9	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	－	－	胴部～底部 1/2	
図 78-30	17000520	5B-18　SX50344 1 層	土師器	小皿	－	〔0.75〕	(6.0)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	－	胴部～底部 1/4	底面糸切り後板置
図 78-31	17000517	5B-18　SX50344 1 層	東播系須恵器	鉢	－	〔3.6〕	－	外 : 灰色 (5Y6/1)	内 : 灰色 (5Y6/1)	－	－	口縁部～胴部 一部	
図 78-32	17000510	5B-18　SX50344 ﾄﾚﾝﾁ 2　1 層	磁器 (白磁)	皿	(9.9)	〔2.05〕	(5.8)	透明	灰白色 (N8/)	中国	－	口縁部～底部 1/4	口禿げ
図 78-33	17000511	5B-18　SX50344 ﾄﾚﾝﾁ 2　1 層	土師器	小皿	(7.7)	〔1.1〕	(6.0)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	－	口縁部～底部 1/6	
図 78-34	17000512	5B-18　SX50344 ﾄﾚﾝﾁ 2　1 層	土師器	皿	(9.0)	〔1.4〕	(6.9)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	－	口縁部～底部 一部	
図 78-35	17000516	5B-18　SX50344 2 層	東播系須恵器	鉢	(28.1)	〔6.2〕	－	外 : 灰色 (N6/)	内 : 灰色 (N6/)	東播系	－	口縁部～胴部 一部	
図 78-36	17000509	5B-18　SX50344	磁器 (染付)	皿	－	〔1.25〕	(9.8)	透明	灰白色 (7.5Y8/1)	肥前 (有田)	17c 末～ 18c 第 1 四半記	胴下半部～高台部 一部存	高台内ハリ支え痕
図 78-37	17000514	5B-18　SX50344 3 層	磁器 (染付)	小碗	(8.8)	〔3.6〕	－	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1820 ～ 1860	口縁部～胴部 一部	外面 : 山水文
図 78-38	17000515	5B-18　SX50344 3 層	磁器 (染付)	広東碗	(10.0)	〔2.55〕	－	透明	灰白色 (5Y8/1)	肥前	1780 ～ 19c 前半	口縁部～胴部 一部	

表 13　小川内遺跡 6 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 86-1	17000626	6-1 トレンチ 1 3 層	陶器	皿	(11.9)	[2.6]	—	オリーブ黄 (5Y8/4)	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前 (内野山系)	17c 第 4 四半期 ～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	内面銅緑釉、外面透明釉、焼成不良
図 86-2	17000624	6-1 トレンチ 1 3 層	磁器 (色絵)	蓋物	—	[4.6]	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田)	17c 後半？	口縁部～胴部上半部 一部	
図 86-3	17000717	6-1 トレンチ 1 3 層	磁器 (青花)	小碗	—	[1.2]	—	透明	灰白色 (N8/)	中国 (景徳鎮)	16c 末～ 17c 前	高台部 一部	
図 86-4	17000625	6-1 トレンチ 1 3 層	土師器	皿	—	[2.1]	3.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 4/3	
図 86-5	17000627	6-1 トレンチ 1 6 層	陶器	皿	—	[1.2]	4.2	暗オリーブ色 (7.5Y4/3)	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前	1590 ～ 1610	高台部 一部	灰釉　胎土目
図 86-6	17000629	6-1 トレンチ 1 6 層	磁器 (青花)	皿	—	[2.2]	—	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	中国 (漳州窯)	16c 後半	口縁部 一部	
図 86-7	17000805	6-1 SB60001 No.1 1 層	陶器	皿	(11.8)	2.9	(4.3)	暗オリーブ色 (5Y4/4)	灰色 (5Y5/1)	肥前	1600 ～ 1610	口縁部～高台部 2/5	灰釉
図 86-8	17000806	6-1 SB60001 No.1 1 層	陶器	皿	—	〔2.25〕	(4.8)	灰白色 (2.5Y7/1)	浅黄橙色 (10YR8/3)	肥前	1610 ～ 1630	胴下半部～高台部 1/2	砂目、藁灰釉
図 86-9	17000804	6-1 SB60001 No.1 1 層	磁器 (青花)	碗	—	〔2.25〕	—	透明	灰白色 (N8/)	中国	17c 前半	口縁部 一部	口縁内側に圏線
図 86-10	17000807	6-1 SB60001 No.7 1 層	陶器	碗	—	〔2.1〕	—	灰白色 (2.5Y7/1)	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前	1640 ～ 1650	口縁部～胴上半部 一部	
図 86-11	17000808	6-1 SB60001 No.7 3 層	陶器	鉢	—	〔3.45〕	—	灰色 (5Y6/1)	黄灰色 (2.5Y6/1)	肥前	1600 ～ 1630	口縁部 一部	灰釉
図 86-12	17000809	6-1 SB60001 No.12 1 層	磁器 (染付)	碗	—	〔4.05〕	(5.1)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1630 ～ 1650	胴下半部～高台部 1/3	
図 86-13	17000810	6-1 SK60003 1 層	磁器 (染付)	碗	—	〔2.9〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1650 ～ 1670	口縁部 一部	鋸歯状の網目文
図 86-14	17000622	6-1 SK60003 1 層	土師器	小皿 (灯明皿)	7.8	1.4	3.8	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 灰白色 (2.5Y8/2)	—	—	口縁部～底部 3/4	
図 86-15	1700812	6-1 SK60004 1 層	陶器	擂鉢	—	〔7.0〕	—	黒褐色 (5YR2/1)	暗赤灰色 (5R4/1)	肥前	17c 後半	口縁部から胴部 一部	
図 86-16	17000811	6-1 SK60004 1 層	磁器 (染付)	碗	—	〔2.7〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半	口縁部 一部	口縁内側に圏線、外側に二重圏線
図 86-17	17000623	6-1 SK60004 1 層	土師器	小皿 (灯明皿)	(7.4)	1.4	3.7	外 : 灰白色 (2.5Y8/2)	内 : 灰白色 (2.5Y8/2)	—	—	口縁部～底部 3/4	
図 86-18	17000814	6-1 P60006	陶器	皿	—	〔2.05〕	—	灰色 (7.5Y6/1)	黄灰色 (2.5Y6/1)	肥前	1590 ～ 1610	口縁部 一部	
図 86-19	17000813	6-1 P60006	磁器 (青花)	皿	—	〔2.0〕	4.8	透明	灰白色 (N8/)	中国 (景徳鎮)	1620 ～ 1640	胴部～高台部 2/3	蛇の目高台
図 86-20	17000815	6-1 P60014	陶器	皿	—	〔2.25〕	—	灰白色 (10YR7/1)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	肥前	1610 ～ 1630	口縁部 一部	藁灰釉
図 86-21	17000816	6-1 P60016	陶器	皿か	—	〔2.2〕	4.8	灰白色 (7.5Y7/1)	灰色 (N7/)	肥前	1610 ～ 1630	胴部下半～高台部 2/3	高台内施釉
図 92-1	17000639	6-2 トレンチ 1 34 層	磁器 (白磁)	紅皿	(4.6)	[1.4]	(1.4)	透明	白色	肥前	19c	口縁部～胴部 1/6	
図 92-2	17000637	6-2 トレンチ 1 34 層	磁器 (白磁)	皿	—	[2.6]	—	透明	灰白色 (2.5Y8/)	肥前 (白石)	19c 初～幕末	胴下半部～高台部 1/6	蛇の目釉剥ぎ
図 92-3	17000636	6-2 トレンチ 1 34 層	磁器 (染付)	碗	(10.6)	[4.0]	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (白石か)	19c 初～幕末	口縁部～胴上半部 1/6	
図 92-4	17000635	6-2 トレンチ 2 32 層	磁器 (染付)	碗	(11.6)	[4.3]	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	19c 初～幕末	口縁部～胴部 一部	外側面に丸文
図 92-5	17000817	6-2 SK60017 1 層	陶器	碗	—	〔2.4〕	(4.0)	黄褐色 (10YR5/6)	灰白色 (10YR8/2)	肥前 (内野山系)	17c 第 4 四半期 ～ 18c 前半	高台部 1/5	鉄釉
図 92-6	17000731	6-2 SK60017 1 層	陶器	擂鉢	—	[4.2]	—	灰褐色 (7.5YR4/2)	灰白色 (N4/)	肥前	18c	口縁部 一部	
図 92-7	17000634	6-2 SK60017 2 層	土師器	小皿	(7.8)	1.4	4.6	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 3/4	
図 92-8	17000683	6-2 SK60017 2 層	土師器	小皿	(8.0)	1.6	(4.9)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 1/6	
図 92-9	17000818	6-2 SK60017 3 層	陶器	碗	—	〔4.0〕	(4.7)	灰白色 (10YR8/2)	灰白色 (10YR8/2)	肥前	17c 後半～ 18c 初	胴部～高台部 1/5	
図 92-10	17000822	6-2 SK60018 1 層	陶器	皿	—	〔1.6〕	(4.4)	浅黄色 (2.5Y7/3)	灰黄色 (2.5Y7/2)	肥前	18c 前半	胴部下半部～高台部 1/3	蛇の目釉剥ぎ
図 92-11	17000824	6-2 SK60018 1 層	陶器	土瓶 (蓋)	8.95	3.3	かえり径 6.4	オリーブ黒色 (5Y3/2)	明褐灰色 (7.5YR7/2)	肥前	18c	ツマミ～返し 完形	
図 92-12	17000823	6-2 SK60018 1 層	陶器	土瓶 (身)	(9.6)	〔8.85〕	—	黒褐色 (2.5Y3/2)	明赤褐色 (2.5YR5/6)	肥前	18c	口縁部～胴上半部 1/4	
図 92-13	17000820	6-2 SK60018 1 層	磁器 (染付)	小碗	(6.9)	〔2.5〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1770 ～ 1810	口縁部～胴部上半部 一部	梵字文
図 92-14	17000819	6-2 SK60018 1 層	磁器 (染付)	碗	—	〔2.9〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～ 19c 初	胴部 一部	茶飲碗
図 92-15	17000821	6-2 SK60018 1 層	磁器 (染付)	皿	—	〔2.25〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 前半	口縁部～胴部 一部	口錆
図 95-1	17000638	6-3 トレンチ 3 8 層	陶器	皿	13.3	4.4	4.5	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	浅黄色 (2.5Y7/3)	肥前	1610 ～ 1640	口縁部～高台部 3/4	砂目
図 95-2	17000640	6-3 トレンチ 4 6 層	磁器 (染付)	碗	(6.5)	5.4	3.7	透明	灰白色 (5Y8/1)	肥前	1820 ～ 1860	口縁部～高台 1/2	外面に根引松文
図 95-3	17000641	6-3 トレンチ 4 7 層	磁器 (染付)	碗	8.0	5.7	3.7	透明	灰白色 (5Y8/1)	肥前 (白石)	19c 初～幕末	完形	稲と鳥文、焼成不良 同種個体他 1 点有
図 95-4	17000642	6-3 トレンチ 5 4 層	磁器 (染付)	碗	—	[3.5]	3.5	透明	白色	肥前	18c 後半	胴下半部～高台 2/3	見込に「寿」字文
図 95-5	17000643	6-3 トレンチ 5 4 層	磁器 (染付)	皿	—	[2.7]	4.3	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半	胴下半部～高台 1/3	蛇の目釉剥ぎ

表 13　小川内遺跡 6 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 95-6	17000630	6-3 トレンチ 5 5 層	磁器 (染付)	碗	(9.6)	4.8	(3.2)	透明	白色	肥前	18c 中～ 18c 末	口縁部～高台 1/4	外側面に若松文
図 95-7	17000631	6-3 トレンチ 6 4 層	磁器 (白磁)	小坏	(6.9)	3.9	2.8	透明	灰白色 (N8/)	肥前？	18 後半～ 19c 前半	口縁部～高台 1/8	
図 95-8	17000632	6-3 トレンチ 6 4 層	磁器 (染付)	皿	—	[1.9]	(12.3)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18 後半～ 19c	胴下半部～高台部 1/6	内面松文、外面唐草文
図 101-1	17000645	6-7 トレンチ 1 2 層	陶器	釜形陶器	—	[4.4]	(6.8)	灰黄色 (2.5Y6/2)	灰黄色 (2.5Y6/2)	肥前 (保四朗窯)	18 世紀前半	胴部下半部～高台部 1/3	道祖元焼
図 101-2	17000644	6-7 トレンチ 1 2 層	磁器 (白磁)	小鉢または皿	—	[3.1]	—	透明	白色	肥前 (有田)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	型打成形、口錆
図 101-3	17000646	6-7 トレンチ 2 1 層	磁器 (染付)	碗	—	[3.1]	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～ 19c 初	口縁部～胴部 一部	
図 101-4	17000656	6-7 トレンチ 2 4 層	陶器	皿	—	[2.5]	4.8	灰オリーブ色 (7.5Y5/3)	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前 (唐人古場窯)	16c 末～ 17c 初	胴部～高台部 1/3	灰釉、高台内施釉
図 101-5	17000657	6-7 トレンチ 2 4 層	陶器	皿	(27.4)	9.3	(9.3)	赤灰色 (2.5YR4/1)	灰褐色 (7.5Y6/2)	肥前	1590 ～ 1630	口縁部～高台 1/4	内外鉄釉、高台土見せ
図 101-6	17000654	6-7 トレンチ 2 4 層	磁器 (青花)	碗	(12.8)	[4.6]	—	透明	白色	中国 (景徳鎮)	16c 後半	口縁部～胴部 一部	
図 101-7	17000647	6-7 トレンチ 2 4 層	磁器 (染付)	椀	—	[3.6]	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半	胴下半部～高台部 一部	
図 101-8	17000655	6-7 トレンチ 2 4 層	磁器 (染付)	皿	(13.2)	3.8	5.6	透明	灰白色 (10Y8/1)	肥前	1610 ～ 1630	口縁部～高台部 1/2	
図 101-9	17000633	6-7 SB60019 No.3 2 層	土師器	小皿	(7.4)	1.7	(4.0)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	内 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 101-10	17000648	6-7 SB60019 No.3 2 層	土師器	小皿	—	[0.8]	(3.9)	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/3)	内 : にぶい黄橙色 (7.5YR7/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 101-11	17000649	6-7 SB60019 No.3 2 層	土師器	坏	—	2.1	—	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 3/5	
図 101-12	17000825	6-7 SB60019 No.4 2 層	磁器 (青磁)	碗	—	〔2.5〕	—	明緑灰色 (5G7/1)	灰白色 (N8/)	肥前	1680 ～ 1710	口縁部 一部	SB60019 No.4 の 1 層が接合
図 101-13	17000826	6-7 SB60019 No.6 1 層	磁器 (染付)	皿	13.5	4.1	(4.4)	明緑灰色 (7.5GY8/1)	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半	口縁部～高台部 2/3	蛇の目釉剥
図 101-14	17000827	6-7 SB60019 No.8 3 層	磁器	袋物	—	〔2.2〕	—	緑灰色 (7.5GY6/1)	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半	口縁部 一部	口縁部に青磁釉を流し掛け
図 101-15	17000828	6-7 SB60019 No.11 2 層	磁器 (白磁)	紅皿	—	〔1.2〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1680 ～ 1710	口縁部～胴部 一部	糸切細工
図 105-16	17000830	6-7 SB60020 No.1 1 層	陶器	瓶？	—	〔2.5〕	—	灰褐色 (7.5YR4/2)	灰色 (5Y6/1)	肥前	17c 後半～ 18c 初	頸部～肩部 一部	内外面鉄泥
図 105-17	17000829	6-7 SB60020 No.1 1 層	磁器 (染付)	手塩皿	—	〔1.7〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 前半	口縁部～高台部 一部	糸切細工。灯明皿として使用か
図 105-18	17000650	6-7 SB60020 No.1 1 層	土師器	小皿	6.0	1.4	3.5	外 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	内 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 105-19	17000831	6-7 SB60020 No.3 1 層	陶器	皿	—	〔1.85〕	—	透明 緑灰色 (10GY6/1)	灰白色 (2.5Y8/2)	肥前 (内野山系)	17c 後半	口縁部 一部	内面銅緑釉、外面透明釉
図 105-20	17000832	6-7 SB60020 No.13 1 層	陶器	鉢	—	〔2.1〕	—	褐色 (7.5YR4/3)	褐灰色 (5YR4/1)	肥前 (武雄)	17c 後半	口縁部 一部	
図 105-21	17000651	6-7 SB60021 No.9 1 層	土師器	坏か	(7.2)	1.7	(4.1)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 105-22	17000652	6-7 SB60021 No.10 1 層	土師器	小皿	(6.6)	1.5	(3.8)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 1/6	
図 105-23	17000833	6-7 SK60026	磁器 (染付)	小碗	—	〔4.1〕	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 前～ 18c 中	口縁部～胴部 一部	外側面にコンニャク印版
図 105-24	17000653	6-7 P60029	磁器 (白磁)	小坏	—	(2.5)	(1.8)	透明	灰白色 (2.5Y7/1)	肥前	18c 頃	胴部下半～高台部 1/3	
図 105-25	17000834	6-7 P60030	磁器 (青磁)	皿	—	〔2.35〕	(5.0)	明緑灰色 (5G7/1)	灰白色 (N8/)	肥前 (波佐見)	17c 後半	胴下半部～高台部 一部	蛇の目釉剥ぎ
図 105-26	17000835	6-7-2 P60101	陶器	擂鉢	—	〔4.2〕	—	黒褐色 (5YR3/1)	にぶい赤褐色 (5YR5/3)	肥前	17c 第 2 四半期～ 17c 第 3 四半期	口縁部 一部	
図 105-27	17000836	6-7-2 P60104	磁器 (染付)	皿	—	〔1.5〕	(7.8)	白っぽい透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 末～幕末	高台部 一部	蛇の目凹形高台
図 110-1	17000659	6-8 トレンチ 1 4 層	磁器 (染付)	小皿	(9.4)	2.4	4.8	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (波佐見)	18c 後半	口縁部～底部 1/2	松、梅文。裏銘崩れた「大明」
図 110-2	17000660	6-8 トレンチ 1 4 層	磁器 (染付)	小皿	(13.8)	3.8	(9.3)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半	口縁部～底部 1/6	竹文
図 110-3	17000661	6-8 トレンチ 1 4 層	土師器	小皿	(5.8)	1.2	(3.6)	外 : 淡黄色 (2.5Y8/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	口縁部～底部 1/2	
図 110-4	17000664	6-8 トレンチ 1 6 層	陶器	碗	(9.6)	[5.0]	—	透明	灰色 (5Y6/1)	肥前	18c 前半	口縁部～胴部 1/4	外側面に鉄絵で笹文
図 110-5	17000667	6-8 トレンチ 1 6 層	陶器	袋物 (瓶)	—	[6.6]	(7.8)	黒色 (2.5GY2/1)	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	肥前 (多久か)	18c 前半～ 18c 中頃	胴下半部～高台部 一部	外側面に鉄釉 (黒)
図 110-6	17000839	6-8 トレンチ 1 6 層	陶器	壺	—	〔27.2〕	(13.9)	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	にぶい赤褐色 (2.5YR5/3)	肥前 (武雄)	17c 後半～ 18c 初	肩部～底部 3/5	二彩手、松文
図 110-7	17000663	6-8 トレンチ 1 6 層	磁器 (染付)	広東碗	(11.4)	6.0	6.3	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (志田)	1780 ～ 1810	口縁部～底部 1/2	外菊文と葉　見込火炎宝珠
図 110-8	17000665	6-8 トレンチ 1 9 層	磁器 (染付)	碗	10.8	5.8	4.5	透明	白色	肥前	1820 ～ 1860	口縁部～高台部 1/4	端反碗、外側面牡丹文
図 110-9	17000666	6-8 トレンチ 1 9 層	磁器 (染付)	碗	(10.4)	6.2	4.4	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (白石か)	1820 ～ 1860	口縁部～高台部 1/3	端反碗、見込に三足ハマ跡
図 110-10	17000672	6-8 トレンチ 1 9 層	磁器 (染付)	蓋	(9.5)	2.9	—	透明	白	肥前	1820 ～ 1860	つまみ～口縁 1/2	8 とセット、墨弾き
図 110-11	17000670	6-8 トレンチ 1 9 層	磁器 (染付)	蓋	4.2 (ツマミ)	2.8	9.6	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前	1820 ～ 1860	つまみ～口縁 3/4	二重格子文
図 111-12	17000669	6-8 トレンチ 1 9 層	磁器 (染付)	皿	(22.0)	3.7	(11.4)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 第 4 四半期～ 19c 第 1 四半期	口縁部～高台部 1/7	内桜花文、外蘭文

表 13　小川内遺跡 6 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 111-13	17000668	6-8　ﾄﾚﾝﾁ 1　9 層	磁器 (染付)	皿	(21.0)	4.5	(7.1)	透明	灰白色 (N8/)	?	19c	口縁部～高台部 1/3	鉄釉で施文。蛇の目釉剥
図 111-14	17000662	6-8　ﾄﾚﾝﾁ 1 9 層	磁器 (色絵)	坏	―	[1.5]	2.6	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1840 ～ 1860	胴部～高台 2/3	三足ハマを色絵で隠す
図 111-15	17000671	6-8　ﾄﾚﾝﾁ 1 14 層	瓦器	火鉢	[9.9]	[15.5]	―	―	―	―	―	一部	
図 113-23	17000676	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	碗	(10.1)	4.8	(4.3)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 前半	口縁部～高台部 1/4	外側面二重網目文 内側面網目文
図 113-24	17000677	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	碗	(11.0)	5.5	(4.8)	透明	白	肥前	18c 前半	口縁部～高台部 1/4	外側面梅樹文
図 113-25	17000673	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	碗	(9.4)	4.8	(3.2)	透明	白	肥前	18c 前半～中頃	口縁部～高台部 1/2	外側面鼓文
図 113-26	17000679	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	碗	8.4	4.9	3.3	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田)	18c 前半	口縁部～高台部 4/5	二重網目文
図 113-27	17000684	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	小碗 (茶飲碗)	(7.8)	5.2	(3.4)	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (白石か)	18c 第 4 四半世紀～ 19c 初	口縁部～高台部 1/4	楼閣山水文？
図 113-28	17000685	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	碗	(10.1)	5.7	3.9	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1820 ～ 1860	口縁部～高台部 2/3	外側面葡萄文？ 見込み岩波文
図 113-29	17000838	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	碗	15.55	7.8	6.3	透明	灰白色 (N8/)	肥前	19c 初～幕末	口縁部～高台部 4/5	見込に岩波文、三足ハマ、外面に蝙蝠文
図 113-30	17000687	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	碗	―	[5.9]	4.0	透明	灰白色 (N8/)	肥前	明治・大正	口縁下～高台部 3/5	コバルト使用 見込に「一五」
図 113-31	17000689	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	広東碗	(11.7)	6.1	(6.6)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1780 ～ 19c 前半	口縁部～高台部 1/3	外側面山水文
図 113-32	17000688	6-8-2 9 層	磁器 (色絵)	小碗 (茶飲碗)	(8.4)	[5.3]	3.6	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 第 4 四半期～ 19c 第 1 四半期	口縁部～高台部 1/4	
図 113-33	17000693	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	皿	(12.6)	4.0	7.7	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (波佐見系)	18c 第 2 ～ 3 世紀	口縁部～高台部 1/2	見込コンニャク印五弁花
図 113-34	17000695	6-8-2 9 層 (造成土)	磁器 (染付)	皿	(14.3)	4.4	(9.5)	透明	灰白色 (5Y8/1)	肥前	19c 初～幕末	口縁部～高台部 1/2	蛇の目凹形高台、見込に帆掛け船
図 113-35	17000690	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	皿	(12.1)	3.1	(8.6)	透明	灰白色 (10Y8/2)	肥前 (白石か)	19c 初～幕末	口縁部～高台部 1/2	蛇の目凹形高台、3 足ハマ痕、口縁玉縁、見込五弁花文
図 113-36	17000678	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	皿	(12.6)	3.0	(7.6)	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 前半	口縁部～高台部 1/3	見込に五弁花
図 114-37	17000692	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	手塩皿	(9.7)	2.2	4.9	透明	白	肥前	18c 末～幕末	口縁部～高台部 3/4	型打ち成形、雪輪と水仙文
図 114-38	17000686	6-8-2 9 層	磁器 (白磁)	紅皿	4.6	1.6	1.3	透明	白	肥前	江戸後期	完形	
図 114-39	17000691	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	猪口	(9.8)	6.7	(6.2)	透明	白	肥前 (有田)	1670 ～ 1690	口縁部～高台部 1/7	松文
図 114-40	17000680	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	猪口	―	[4.7]	6.0	透明	白	肥前	1780 ～ 19c 第 1 四半記	胴下半部～高台 1/3	
図 114-41	17000675	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	仏飯器	―	[3.8]	4.1	透明	白	肥前	18c 前半頃	坏下半部～高台部 2/3	
図 114-42	17000698	6-8-2 9 層	磁器 (色絵)	仏飯器	―	[5.2]	3.9	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 後半～ 19c 前半	坏下半部～高台部 3/4	
図 114-43	17000700	6-8-2 9 層	磁器 (染付)	小瓶	―	[5.4]	2.6	透明	白	肥前	1640 ～ 17c 後半	胴部～高台部 1/2	外側面横縞
図 114-44	17000674	6-8-2 9 層	磁器 (白磁)	瓶	5.1	12.3	5.5	透明	白	肥前	18c 代 (後半か)	口縁部～底部 1/3	
図 114-45	17000681	6-8-2 9 層 (造成土)	磁器 (青磁)	碗	(7.0)	5.0	3.6	灰オリーブ色 (5Y6/2)	灰白色 (5Y7/1)	肥前	19c 頃	完形	
図 114-46	17000705	6-8-2 9 層	陶器	碗	11.5	4.8	4.3	透明	灰白色 (10Y8/2)	肥前	18c 前半	完形	京焼風陶器、鉄絵で楼閣山水文
図 114-47	17000694	6-8-2 9 層 (造成土)	陶器	皿	12.0	3.5	4.6	灰オリーブ色 (5Y6/4)	灰白色 (5Y8/1)	肥前 (内野山系)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～高台部 1/3	内面銅緑釉 外面透明釉
図 114-48	17000701	6-8-2 9 層	陶器	小皿	(11.4)	3.8	(4.6)	透明	浅橙黄色 (10YR8/3)	肥前 (内野山系)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～高台部 1/4	内外面透明釉
図 114-49	17000697	6-8-2 9 層 (造成土)	陶器	台付皿	―	[4.3]	―	透明	灰褐色 (2.5Y7/2)	肥前	17c 末～ 18c 前半	口縁部～台部 一部	
図 114-50	17000682	6-8-2 9 層	陶器	皿	(15.0)	3.6	(8.0)	透明	灰褐色 (7.5YR4/2)	肥前	18c 前	口縁部～高台部 1/6	蛇の目釉剥に泥しょう。花文。
図 114-51	17000696	6-8-2 9 層	陶器 (色絵)	皿	(11.4)	4.0	(3.8)	透明	浅橙黄色 (10YR8/3)	肥前	18c	口縁部～高台部 1/7	色絵、赤の花文、関西系
図 114-52	17000699	6-8-2 9 層 (造成土)	陶器	大皿	(53.0)	15.8	(19.2)	オリーブ黄色 (5Y6/3)	灰褐色 (10YR7/1)	肥前	19c	口縁部と底部分割	口縁部に鉄釉、藁灰釉掛け分け
図 115-53	1700841	6-8-2 9 層 (造成土)	陶器	鉢	(28.0)	〔6.65〕	―	褐色 (7.5Y4/4) 暗褐色 (10YR3/3) 黒色 (5YR1.7/1)	褐灰色 (7.5YR5/1)	肥前	17c 頃	口縁部～胴部 1/6	外側面褐釉、透明釉掛け分け、二彩手
図 115-54	17000703	6-8-2 9 層 (造成土)	陶器	鉢 (片口)	(24.0)	[8.7]	―	灰オリーブ色 (7.5Y6/2)	にぶい橙色 (7.5YR6/2)	肥前	17c 末～ 18c 前半	口縁部～胴部 1/4	外面刷毛目 内面灰釉
図 115-55	17000840	6-8-2 9 層	陶器	擂鉢	(38.3)	13.55	13.4	暗赤灰色 (2.5YR3/1)	赤色 (10R5/6)	肥前	18c 末～幕末	口縁部～高台部 1/2	内外面鉄泥
図 115-56	17000704	6-8-2 9 層	陶器	灯明皿	6.9	[1.5]	3.6	極暗赤褐色 (2.5YR2/2)	赤橙色 (10YR6/6)	肥前	18c ～ 19c	口縁部～底部 2/3	底部以外鉄釉塗布
図 115-57	17000621	6-8-2 9 層	陶器	瓶	―	[7.7]	9.9	灰オリーブ色 (5Y4/2)	褐灰色 (7.5YR5/1)	肥前	18c 前半	胴下半部～高台 1/3	
図 115-58	17000732	6-8-2 9 層 (造成土)	土師器	小皿	6.3	3.7	1.2	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	―	―	口縁部～底部　完形	
図 115-59	17000735	6-8-2 9 層	土師器	小皿	(6.4)	1.0	(4.6)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	―	―	口縁部～底部　1/4	
図 115-60	17000736	6-8-2 9 層	土師器	小皿	6.7	1.1	4.6	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	―	―	口縁部～底部　完形	

表 13　小川内遺跡 6 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 115-61	17000737	6-8-2 9 層	土師器	小皿	(6.4)	1.4	(4.0)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	口縁部～底部　1/4	
図 115-62	17000738	6-8-2 9 層	土師器	小皿	(6.5)	1.1	(4.5)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	口縁部～底部　1/4	
図 115-63	17000742	6-8-2 9 層	土師器	小皿 (灯明皿)	(7.2)	1.6	(4.2)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	完形	
図 115-64	17000709	6-8-2 12 層	磁器 (染付)	皿	—	[3.2]	(18.5)	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田)	17c 末～ 18c 初	胴部～高台部 一部	
図 115-65	17000708	6-8-2 12 層	陶器	小杯	(6.7)	3.5	3.4	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	灰白色 (2.5Y7/2)	肥前 (内野山系)	17c 末～ 18c 前	口縁部～高台部 1/3	鉄釉
図 115-66	17000707	6-8-2 12 層	陶器	台付皿	—	[5.7]	—	透明	黄灰色 (2.5Y6/1)	肥前	17c 末～ 18c 前	口縁部～高台部 一部	見込に染付有
図 116-67	17000702	6-8-2 12 層	陶器	皿	(24.2)	7.6	(10.0)	透明	暗赤灰色 (2.5YR3/1)	肥前 (武雄)	17c 後半～ 18c 初	口縁部～高台部 1/8	三島手
図 116-68	17000746	6-8-2 12 層	土師器	小皿	6.1	1.4	3.8	外 : にぶい橙色 (5YR7/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	口縁部～底部 2/3	
図 116-69	17000743	6-8-2 12 層	土師器	小皿	(6.7)	1.3	(4.6)	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/3)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/3)	—	—	口縁部～底部 1/4	
図 116-70	17000745	6-8-2 12 層	土師器	小皿	(6.9)	0.9	(4.0)	外 : 褐灰色 (10YR5/1)	内 : 褐灰色 (10YR5/1)	—	—	口縁部～底部 1/4	
図 116-71	17000744	6-8-2 12 層	土師器	小皿	(6.9)	1.7	(4.0)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 1/4	
図 116-72	17000837	6-8-2 P60109	陶器	碗	—	〔3.9〕	(5.7)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	浅黄橙色 (10YR8/3)	肥前	17c 後半頃	胴下半部～高台 1/2	呉器手碗
図 116-73	17000658	6-8-2 P60115	磁器 (白磁)	紅皿	—	[1.1]	—	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～胴部 一部	糸切り細工
図 119-1	17000713	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 4 層	陶器	碗	10.2	6.2	5.3	透明	灰白色 (2.5Y8/2)	肥前	1670 ～ 1690	口縁部～高台部 2/3	高台内に「清水」銘
図 119-2	17000714	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 4 層	陶器	皿	(13.7)	3.9	5.6	緑灰色 (5G6/1)	灰白色 (10YR8/2)	肥前 (内野山系)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～高台部 一部	蛇の目釉剥 銅緑釉
図 119-3	17000712	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 4 層	磁器 (染付)	皿	(15.2)	(9.9)	2.6	透明	灰白色 (10YR8/1)	肥前	1660 ～ 1670	口縁部～高台部 2/5	見込に花盆に花文
図 119-4	17000710	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 4 層	磁器 (染付)	皿	13.2	7.2	4.1	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前	18c 後半	完形	内側面に半菊花文 高台内に渦福
図 119-5	17000751	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 4 層	土師器	小皿	6.4	1.5	3.7	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 3/4	
図 119-6	17000750	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1　4 層	土師器	小皿	(9.0)	1.8	(5.5)	外 : 灰黄褐色 (10YR6/2)	内 : 灰褐色 (5YR4/2)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 119-7	17000749	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 4 層	土師器	坏	(8.6)	2.1	4.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 119-8	17000715	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	陶器	碗	12.0	6.6	4.7	緑灰色 (10G5/1)	橙色 (7.5YR8/2)	肥前 (内野山系)	17c 後半～ 18c 初	口縁部～高台部 4/5	銅緑釉
図 119-9	17000726	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	陶器	皿	(13.4)	3.8	4.6	透明	浅黄色 (10YR8/3)	肥前 (内野山系)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～高台部 2/3	
図 119-10	17000722	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	陶器	皿	(13.0)	3.4	4.6	緑オリーブ色 (7.5Y4/3)	灰黄色 (2.5Y7/2)	肥前 (内野山系か)	17c 末～ 18c 前半	口縁部～高台部 1/3	銅緑釉
図 120-11	17000763	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	(5.9)	1.9	(4.2)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 120-12	17000770	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	5.9	1.2	3.6	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	完形	
図 120-13	17000767	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.0	1.2	3.6	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	完形	
図 120-14	17000771	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	(6.0)	0.7	(4.0)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 1/4	
図 120-15	17000768	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	6.1	1.1	3.7	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	完形	
図 120-16	17000769	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	6.1	1.4	3.7	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 2/3	
図 120-17	17000766	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	6.2	1.6	3.3	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	完形	
図 120-18	17000777	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.2	1.3	2.4	外 : 灰黄色 (2.5Y7/2)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 2/3	
図 120-19	17000765	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	6.3	1.3	3.5	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	完形	
図 120-20	17000774	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	(6.3)	1.1	(4.1)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 120-21	17000764	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	6.4	1.3	3.2	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	—	—	口縁部～底部 1/4	
図 120-22	17000772	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	(6.4)	1.2	(4.0)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 120-23	17000775	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	(6.4)	1.3	(4.0)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	口縁部～底部 1/4	
図 120-24	17000747	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.4	1.3	3.7	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 2/3	
図 120-25	17000778	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿 (灯明皿)	(6.5)	1.9	4.2	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 3/4	
図 120-26	17000762	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	(6.6)	1.3	(3.6)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 橙色 (5YR6/6)	—	—	口縁部～底部 1/2	
図 120-27	17000776	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.6	1.5	3.7	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	口縁部～底部 2/3	
図 120-28	17000739	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿 (灯明皿)	7.9	1.7	5.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	完形	
図 120-29	17000759	6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 10 層	土師器	小皿	(8.4)	1.5	(5.5)	外 :: 灰白色 (2.5Y8/2)	内 : 灰白色 (2.5Y8/2)	—	—	口縁部～底部 1/2	

表 13　小川内遺跡 6 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 120-30	17000773	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	(8.4)	1.8	4.4	外 : 灰白色 (10YR8/2)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	—	—	口縁部～底部 2/3	
図 120-31	17000761	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	(8.6)	1.9	5.4	外 : 浅黄橙色 (7.5YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 4/5	
図 120-32	17000755	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	8.7	1.9	4.4	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	—	—	完形	
図 120-33	17000756	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	(9.0)	1.7	5.2	外 : 浅黄橙色 (7.5YR8/4)	内 : 橙色 (7.5YR8/4)	—	—	口縁部～底部 3/5	
図 120-34	17000757	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	9.1	2.1	4.6	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 3/5	
図 120-35	17000748	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	(9.1)	1.4	(4.6)	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	—	—	口縁部～底部 1/6	
図 120-36	17000760	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	(9.2)	2.0	6.0	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 3/4	
図 120-37	17000758	6-9 トレンチ 1 10 層	土師器	小皿	(9.6)	1.6	(5.5)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 120-38	17000779	6-9 トレンチ 1 13 層	土師器	小皿	(7.6)	1.8	(3.8)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 1/5	
図 120-39	17000842	6-9 4 層	磁器 (色絵)	碗	15.2	5.95	5.4	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 第 4 四半期～ 18c 第 1 四半期	口縁部～高台部 5/6	蛇の目釉剥うがい碗
図 120-40	17000706	6-9 4 層	磁器 (白磁)	小坏	5.7	3.7	2.6	透明	灰白色 (7.5Y8/1)	肥前	17c 頃	完形	
図 120-41	17000711	6-9 4 層	磁器 (染付)	皿	(27.6)	4.8	(16.0)	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田)	18c 第 3 四半期	口縁部～高台部 1/6	紅葉文
図 120-42	17000785	6-9-2 P60128	土師器	小皿	6.4	1.3	3.6	外 : 灰白色 (10YR8/2)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	—	—	口縁部～底部 2/3	
図 131-1	17000791	6-13 トレンチ 2 1 層	土師器	小皿	(9.2)	1.6	(4.8)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	口縁部～底部 1/2	
図 131-2	17000790	6-13 トレンチ 2 1 層	土師器	小皿	(9.2)	1.5	(7.0)	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 131-3	17000788	6-13 トレンチ 2 1 層	土師器	小皿	(8.0)	1.7	(5.0)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 131-4	17000789	6-13 トレンチ 2 1 層	土師器	小皿	6.0	1.4	3.6	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)	—	—	口縁部～底部 3/4	
図 131-5	17000792	6-13 トレンチ 2 2 層	土師器	小皿	(8.2)	1.6	(5.0)	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 131-6	17000728	6-13 7 層	磁器 (色絵)	坏	—	3.3	3.0	透明	灰白色 (5Y8/1)	肥前	1840 ～ 1860	胴上半部～高台部 1/3	
図 131-7	17000727	6-13 7 層	磁器	紅皿	(4.5)	2.0	1.5	透明	灰白色 (N8/)	肥前	19c 初～幕末	口縁部～高台部 1/3	
図 131-8	17000793	6-13 7 層	土師器	小皿	(7.0)	1.1	(4.4)	外 : 浅黄橙色 (7.5YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (7.5YR8/4)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 131-9	17000843	6-13 SB60036 No.7 1 層	陶器	皿	—	〔2.85〕	—	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	浅黄色 (2.5Y7/3)	肥前	17c 後半	口縁部～胴上半部 一部	口縁輪花
図 131-10	17000844	6-13 SB60036 No.10 1 層	磁器 (染付)	碗	—	〔3.05〕	高台径 (4.0)	灰白色 (5Y8/1)	灰白色 (2.5Y8/2)	肥前	1650 ～ 1660	胴下半部～高台部 1/4	
図 131-11	17000845	6-13 SB60038 No.3 1 層	陶器	擂鉢	—	〔7.25〕	—	灰褐色 (7.5YR4/2)	赤褐色 (10R4/3)	肥前	17c 後半	口縁部～胴部 一部	
図 131-12	17000780	6-13 SB60038 No.5 1 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.4	1.2	3.8	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	—	—	完形	
図 131-13	17000733	6-13 SD60047 1 層	磁器	紅皿	(6.3)	2.0	2.2	透明	灰白色 (N8/)	肥前	1850 ～ 1860	口縁部～高台部 1/2	
図 136-1	17000782	6-16 トレンチ 1 2 層	土師器	小皿 (灯明皿)	(8.2)	1.5	(5.5)	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 136-2	17000628	6-16 トレンチ 2 3 層	陶器	瓶	—	[25.1]	13.8	黒褐色 (10YR3/2)	にぶい橙色 (2.5YR6/4)	肥前	18c 頃	完形	
図 136-3	17000781	6-16 トレンチ 3 1 層	土師器	小皿	9.2	2.1	4.6	外 : 浅黄橙色 (7.5YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (7.5YR8/3)	—	—	完形	
図 136-4	17000729	6-16 トレンチ 4 4 層	陶器	皿	(12.8)	3.3	4.5	オリーブ黄色 (5Y6/3)	オリーブ灰色 (10Y5/2)	肥前 (内野山系)	17c 後半～ 18c 前半	口縁部～高台部 2/3	
図 136-5	17000716	6-16 トレンチ 4 4 層	磁器 (染付)	碗	(10.7)	6.0	4.7	透明	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前 (有田)	1690 ～ 18c 初	胴下半部～高台部 1/2	外網目文と桜花文
図 136-6	17000740	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	小皿 (灯明皿)	5.9	1.4	4.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	—	—	完形	
図 136-7	17000800	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.0	1.9	3.0	外 : にぶい黄色 (2.5Y6/3)	内 : 灰黄色 (2.5Y6/2)	—	—	完形	
図 136-8	17000741	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.2	1.5	3.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	—	—	口縁部～底部 1/2	
図 136-9	17000797	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	小皿	6.9	1.2	3.5	外 : 浅黄橙色 (7.5YR8/6)	内 : 浅黄橙色 (7.5YR8/6)	—	—	完形	
図 136-10	17000798	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	小皿	7.2	1.9	4.5	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	完形	
図 136-11	17000799	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	坏	8.0	1.6	4.4	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 黄橙橙色 (7.5YR7/8)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 136-12	17000801	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	坏	(8.6)	1.9	(3.8)	体部 : 橙色 (7.5YR7/6)	底部 : 暗灰黄色 (2.5Y5/2)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 136-13	17000795	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	小皿	(7.8)	4.5	4.3	外 : 褐灰色 (10YR5/1)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/2)	—	—	口縁部～底部 1/3	
図 136-14	17000796	6-16 トレンチ 4 4 層	土師器	小皿	—	[3.5]	3.9	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	—	—	底部 2/3	
図 136-15	17000730	6-16 トレンチ 4 5 層	磁器 (青花)	皿	(12.0)	3.2	(3.8)	灰白色 (2.5Y7/2)	浅黄橙色 (10YR8/3)	中国 (漳州窯)	16c 後半	口縁～高台 1/3	見込に人型寿字文
図 136-16	17000721	6-16 SK60057	土師器	小皿	8.8	1.9	5.3	外 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	内 : 浅黄色 (2.5Y7/3)	—	—	完形	

表 13　小川内遺跡 6 区出土遺物観察表 (土器・陶磁器)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		産地	時期	残存部 残存率	備考
					口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	釉薬	胎土				
図 136-17	17000852	6-16　SB60058 No.2　1 層	陶器	皿	(13.2)	〔2.65〕	―	灰白色 (2.5Y7/1)	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前	17c 後半	口縁部 一部	
図 136-18	17000725	6-16　SB60058 No.3　1 層	土師器	小皿	(9.2)	1.5	6.4	外 : 浅黄橙色 (7.5Y8/3)	内 : 浅黄橙色 (7.5Y8/3)	―	―	口縁部～底部 1/2	
図 136-19	17000851	6-16　SB60058 No.5　1 層	陶器	皿	(13.2)	〔3.0〕	―	淡黄色 (2.5Y8/3)	灰白色 (2.5Y8/2)	肥前	17c 後半	口縁部 一部	
図 136-20	17000853	6-16　SB60058 No.5　2 層	磁器 (染付)	碗	(10.6)	〔3.95〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	17c 後半	口縁部 一部	外側面に網目文
図 136-21	17000786	6-16　SB60058 No.6　2 層	土師器	小皿	(6.2)	1.3	3.2	外 : 灰白色 (10YR8/2)	内 : 灰白色 (10YR8/2)	―	―	口縁部～底部 2/3	
図 136-22	17000787	6-16　SB60058 No.6　2 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.1	1.4	3.1	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	―	―	完形	
図 136-23	17000724	6-16　SB60058 No.8　2 層	磁器 (染付)	碗	(9.0)	3.3	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c	口縁部～胴上半部 一部	
図 136-24	17000720	6-16　SB60058 No.9　1 層	磁器 (青化)	皿	(8.8)	2.6	(4.0)	透明	灰白色 (N8/)	中国 (漳州窯)	16c 後半～ 17c 初	口縁部～底部 1/4	
図 142-25	17000784	6-16　SD60055 1 層	土師器	小皿	5.7	0.9	3.4	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	―	―	口縁部～底部 2/3	
図 142-26	17000794	6-16　SD60055 1 層	土師器	小皿	6.0	1.5	3.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/4)	―	―	完形	
図 142-27	17000783	6-16　SD60055 1 層	土師器	小皿	(8.1)	1.3	(4.4)	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	―	―	口縁部～底部 1/8	
図 142-28	17000846	6-16　SX60048 2 層	磁器 (染付)	手塩皿		〔1.65〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 第 4 四半期～ 19c 初	高台部 一部	
図 142-29	17000847	6-16　SX60048 2 層	陶器	擂鉢	―	〔7.25〕	―	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	黄灰色 (2.5Y6/1)	岩見または 筑前	19c	胴下半部～高台部 一部	
図 142-30	17000848	6-16　SX60050 1 層	磁器 (染付)	広東碗	―	〔4.0〕	(6.6)	灰白色 (N8/)	灰白色 (2.5Y8/1)	肥前	1780 ～ 19c 前半	胴下半部～高台部 1/4	焼成不良
図 142-31	17000849	6-16　SX60050 1 層	磁器 (染付)	皿	―	〔2.4〕		透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 末～幕末	胴下半部～高台部 1/4	
図 142-32	17000850	6-16　SX60050 2 層	磁器 (染付)	小丸碗	(8.9)	〔5.4〕	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前系	18c 後半～ 1810	口縁部～胴部 一部	花文
図 148-1	17000753	6-17　ﾄﾚﾝﾁ 1 1 層	土師器	小皿 (灯明皿)	6.8	1.2	4.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	―	―	完形	
図 148-2	17000752	6-17　ﾄﾚﾝﾁ 1 1 層	土師器	小皿	6.9	1.2	4.0	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	―	―	口縁部～底部 2/3	
図 148-3	17000754	6-17　ﾄﾚﾝﾁ 1 1 層	土師器	小皿 (灯明皿)	7.4	1.2	4.2	外 : 灰白色 (2.5Y8/2)	内 : 灰白色 (2.5Y8/2)	―	―	口縁部～底部 2/3	
図 148-4	17000723	6-17　SB60080 No.1　1 層	磁器 (染付)	皿	―	[3.5]	―	透明	灰白色 (N8/)	肥前 (有田)	1670 ～ 18c 初	胴下半部～高台部 一部	
図 148-5	17000719	6-17　SB60080 No.4　1 層	磁器	皿	(10.6)	[2.0]	―	明オリーブ灰色 (2.5GY7/1)	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	中国 (漳州窯)	16c 後半～ 17c 初	口縁部～胴上半部 一部	口縁内外圏線
図 148-6	17000718	6-17　SA60081 No.3　1 層	陶器	碗		[4.0]	―	透明	浅黄色 (2.5Y8/3)	中国 (漳州窯)	16c 後半～ 17c 初	口縁部～胴上半部 一部	
図 148-7	17000734	6-17　SK60089 1 層	磁器 (染付)	皿	(13.2)	3.9	7.6	透明	灰白色 (N8/)	肥前	18c 第 2 ～ 3 四半世紀	口縁部～高台部 1/3	

表 14　小川内遺跡出土遺物観察表 (土製品)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 (復元値)、〔残存値〕			色調		備考
					器高 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	釉薬	胎土	
図 19-47	14000799	3　AO-33　造成土	土師器	焙烙				外 : 橙色 (7.5YR6/6)	内 : 橙色 (7.5YR6/6)	把手と焙烙の一部
図 42-2	17000865	5A-6　SE50135　1 層	色絵磁器	水滴	[7.6]	[4.4]	[0.6]	透明	灰白色 (5Y8/1)	俵を担ぐ童
図 42-3	17000864	5A-6　SE50135　1 層	白磁	人形	[6.4]	[4.2]	[1.6]	透明	灰白色 (2.5YR8/2)	天狗の顔 : 孔あり
図 46-16	17000861	5A-7　SK50102(SB50060)		土鈴	[2.0]	[1.3]	[1.2]	外 : 浅黄橙色 (7.5YR8/4)	内 : 浅黄橙色 (7.5YR8/4)	
図 46-17	17000855	5A-7　SB50070(P50068)		土鈴	[3.1]	[3.1]	[1.9]	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	
図 46-18	17000856	5A-7　SB50070(P50068)		土玉	1.3 ～ 1.4			外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	―	
図 46-19	17000857	5A-7　SB50070(P50069)		土鈴	[3.1]	[2.8]	[2.8]	外 : 褐灰色 (10YR4/1)	内 : 灰褐色 (5YR5/2)	
図 46-20	17000858	5A-7　SB50070(P50069)		土玉	1.2 ～ 1.7			外 : 褐灰色 (7.5YR4/1)	―	
図 46-21	17000863	5A-7　SB50060(P50120)		不明	[2.8]	[2.4]	[2.3]	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	―	馬か
図 65-89	17000869	5B-14　SD50281　1 層	白磁	戸車	(5.6)	(1.7)	1.1	透明	灰白色 (N8/)	
図 65-90	17000870	5B-14　SD50281　1 層		不明	[3.3]	[2.0]	[0.4]	外 : 浅黄橙色 (7.5YR8/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	鳩笛か
図 65-91	17000859	5B-14　SD50281　3 層		土玉	1.1 ～ 1.2			外 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	―	
図 65-92	17000862	5B-14 SX50274		鳩笛	[1.5]	[2.8]	[2.7]	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	尾 (歌口) のみ
図 65-93	17000866	5B-14 SX50274		人形	[2.1]	[2.2]	[0.8]	外 : にぶい橙色 (7.5YR6/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	顔のみ
図 72-23	17000868	5B-17 SK50275	土師器	焙烙	[7.7]	[3.2]	[1.4]	外 : にぶい黄橙色 (10YR5/3)	―	把手のみ
図 72-24	17000867	5B-17　SX50280		土鈴	[1.2]	[1.7]	―	外 : 橙色 (5YR6/6)	内 : 橙色 (5YR6/6)	
図 78-39	1700860	5B-18　P50348		土鈴	[2.5]	[2.5]	[2.1]	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	
図 105-28	17000879	6-7　ﾄﾚﾝﾁ 2　1 層		土鈴	[5.8]	[4.4]	[3.2]	外 : 橙色 (7.5YR7/6)	内 : 橙色 (7.5YR7/6)	
図 105-29	17000874	6-7　ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層		土鈴	[3.6]	[2.9]	[0.6]	外 : にぶい黄橙色 (10YR7/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	
図 105-30	17000871	6-7　SB60019　No.4　1 層		土鈴	[3.9]	[3.9]	[3.8]	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR5/3)	
図 121-43	17000875	6-9　ﾄﾚﾝﾁ 1　1 層		土鈴	[2.8]	[3.3]	[0.6]	外 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	内 : にぶい橙色 (7.5YR7/4)	
図 121-44	17000877	6-9　ﾄﾚﾝﾁ 1　10 層		土鈴	[6.2]	[3.5]	[3.3]	外 : 浅黄橙色 (10YR8/3)	内 : 浅黄橙色 (10YR5/3)	
図 121-45	17000878	6-9　ﾄﾚﾝﾁ 1　10 層		円盤状土製品	3.7	3.4	0.6	外 : にぶい黄橙色 (10YR6/4)	内 : にぶい黄橙色 (10YR7/3)	再加工品
図 121-46	17000872	6-9　検出面	陶器	窯道具 (ハマ)	1.4	5.1	―	上 : 灰黄橙色 (10YR6/2)	下 : にぶい黄橙色 (7.5YR6/4)	
図 142-33	17000873	6-16　ﾄﾚﾝﾁ 1　2 層	白磁	水滴	4.9	4.5	2.3	透明	灰白色 (N8/)	
図 142-34	17000876	6-16　SX60051　3 層	白磁	水滴	4.7	2.5	0.3	透明	灰白色 (N8/)	

表 15　小川内遺跡出土遺物観察表 (鉄製品)

図版番号	登録番号	出土遺構	器　種	寸法 (復元値)、〔残存値〕			重量 (g)	備　考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
図 31-52	17000885	5A-1　SX50006　南北ﾍﾞﾙﾄ　3 層	釘	〔3.9〕	0.7	0.7	3.9	頭部欠損
図 31-53	17000881	5A-1　SX50006　3 層	釘	〔5.1〕	1.0	0.4	8.5	頭部欠損
図 31-54	17000887	5A-1　SX50006　南北ﾍﾞﾙﾄ　4a 層	釘	〔5.2〕	0.6	0.6	7.1	頭部欠損
図 31-55	17000886	5A-1　SX50006　南北ﾍﾞﾙﾄ　4a 層	鑿か	〔9.9〕	1.4	1.3	27.4	
図 31-56	17000884	5A-1　SX50006　3 層	鉄滓	7.0	6.5	2.2	111.2	
図 31-57	17000893	5A-1　SX50006　南北ﾍﾞﾙﾄ　4b 層	鉄滓	6.6	3.8	2.0	40.0	
図 31-58	17000888	5A-1　SX50006　南北ﾍﾞﾙﾄ　4b 層	鉄滓	8.4	7.7	2.9	311.6	
図 31-59	17000882	5A-1　SX50006　ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	鉄滓	8.4	4.7	2.7	99.3	
図 31-60	17000880	5A-1　P50161	釘	〔3.3〕	0.8	0.4	3.0	頭部欠損
図 31-61	17000894	5A-1　P50209	鉄滓	4.2	3.6	2.2	30.5	
図 46-22	17000889	5A-7　SB50070(P50056)	鉄片	1.4	1.2	0.4	1.0	
図 46-23	17000890	5A-7　SB50070(P50068)	鉄片	1.9	1.0	0.8	1.1	
図 46-24	17000891	5A-7　SB50060(P50120)	鉄滓	7.7	6.3	2.5	81.6	
図 65-94	17000883	5B-14　SD50281 1 層	板状鉄製品	3.0	0.7	0.3	2.3	
図 69-11	17000895	5B-16　SK50308	鉄滓	5.0	3.7	2.5	39.4	
図 78-40	17000896	5B-18　SK50384	楔	6.7	1.6	0.6	29.6	
図 78-41	17000892	5B-18　SX50344　1 層	鉄滓	7.3	6.4	2.5	95.4	
図 87-22	17000897	6-1　ﾄﾚﾝﾁ 1　6 層	楔	4.3	1.7	0.7	11.9	
図 87-23	17000899	6-1　ﾄﾚﾝﾁ 1　6 層	鉄片	2.4	1.0	0.3	3.7	
図 116-74	17000900	6-8-2　P60115	釘	7.5	0.7	0.8	13.1	頭部欠損
図 121-47	17000901	6-9　ﾄﾚﾝﾁ 1　10 層	鎹？	6.9	0.8	0.8	19.2	
図 121-48	17000902	6-9　ﾄﾚﾝﾁ 1　10 層	鎹？	6.7	0.9	0.8	22.7	
図 121-49	17000903	6-9　ﾄﾚﾝﾁ 1　10 層	鎹？	7.3	0.9	0.9	27.3	
図 142-35	17000898	6-16　ﾄﾚﾝﾁ 1　1 層	板状鉄製品	5.6	1.5	0.6	12.3	
図 142-36	17000904	6-16　SX60051　1 層	鉄滓	9.3	5.2	4.2	150.3	

表 16　小川内遺跡出土遺物観察表 (青銅製品)

図版番号	登録番号	遺構	種別	寸法 (復元値)、〔残存値〕			重量 (g)	備　考
				長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
図 105-31	17000908	6-7　SK60026　1 層	煙管	1.7	1	2.5	2.3	雁首のみ
図 121-50	7000907	6-9　トレンチ 1　10 層	手鏡	11	1.3	0.2	29.4	
図 142-37	17000906	6-16　ﾄﾚﾝﾁ 4　4 層	毛抜き	7.4	0.9	0.2	8.4	
図 148-8	17000905	6-17　K60085　1 層	簪	10.2	1.1	0.2	3.9	

表 17　小川内遺跡出土遺物観察表 (銭貨)

図版番号	登録番号	遺構	種別		寸法 (復元値)、〔残存値〕			重量 (g)	備　考
					径 (cm)	厚さ (cm)	孔径		
図 65-95	17000910	5B-14　SX50383	銭貨	寛永通宝 (新寛永)	2.2 ～ 2.3	0.1	0.6	3.0	湯道部が残存
図 78-42	17000911	5B-18　P50367	銭貨	寛永通宝 (古寛永)	2.4	0.1	0.6	3.3	
図 78-43	17000909	5B-18　表採	銭貨	開元通宝	2.4	0.1	0.7	2.0	
図 92-16	17000923	6-2　28 層	銭貨	寛永通宝 (古寛永か)	2.3	0.1	0.6	2.4	
図 92-17	17000917	6-2　AK23　表土	銭貨	寛永通宝 (新寛永)	2.3	0.1	0.7	1.7	文銭
図 105-34	17000912	6-7-2　検出面	銭貨	寛永通宝 (新寛永)	2.3	0.1	0.7	2.8	
図 112-16	17000924	6-8　トレンチ 1　4 層	銭貨	寛永通宝 (古寛永)	2.2	0.1	0.7	1.8	2 枚癒着
図 116-75	17000915	6-8-2　12 層	銭貨	寛永通宝 (新寛永)	2.4	0.1	0.6	2.3	
図 116-76	17000919	6-8-2　12 層	銭貨	寛永通宝 (古寛永)	2.5	3.5	0.6	2.7	文銭、三枚癒着
図 116-77	17000920	6-8-2　12 層	銭貨	寛永通宝 (古寛永)	2.3	0.1	0.6	2	
図 116-78	17000921	6-8-2　12 層	銭貨	寛永通宝 (古寛永か)	2.5	0.1	0.7	9.3	
図 121-51	17000922	6-9　トレンチ 1　10 層	銭貨	寛永通宝 (古寛永)	2.5	0.1	0.6	2.4	
図 122-53	17000914	6-9-2　検出面	銭貨	寛永通宝 (新寛永)	2.5	0.1	0.6	1.5	
図 122-59	17000918	6-10　トレンチ 1　1 層	銭貨	寛永通宝 (新寛永)	2.4	0.1	0.6	2.1	
図 145-58	17000913	6-14　検出面	銭貨	寛永通宝 (新寛永)	2.3	0.1	0.6	2.7	小梅銭
図 148-9	17000916	6-17　検出面	銭貨	寛永通宝 (古寛永)	2.5	0.2	0.6	5.7	

表 18　小川内遺跡出土遺物観察表 (石器・石製品)

図版番号	登録番号	出土遺構	種別	器　種	寸法 (復元値)、〔残存値〕 長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
図 31-62	17000946	5A-1　SX5006　東西ﾍﾞﾙﾄ　3 層	両面加工	石鏃	1.18	1.08	0.25	0.3	
図 31-63	17000949	5A-1　SX5006　3 層　AL8	両面加工	石鏃	3.23	1.67	0.55	1.6	
図 31-64	17000944	5A-1　SX5006　ﾄﾚﾝﾁ 2　6 層　No.3	両面加工	石鏃	2.73	1.98	0.45	1.3	
図 31-65	17000955	5A-1　AK8　表土	両面加工	石鏃	〔1.3〕	1.92	0.3	0.8	先端欠。平基無茎鏃
図 31-66	17000945	5A-1　SX5006　ﾄﾚﾝﾁ 2　6 層　No.6	両面加工	石鏃	1.97	〔1.28〕	0.35	0.6	
図 31-67	17000948	5A-1　SX5006　南北ﾍﾞﾙﾄ　5 層	剥片	剥片	1.7	1.8	0.5	1.2	
図 31-68	17000943	5A-1　X5006　ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	剥片	剥片	2.08	2.15	0.75	2.2	表面風化
図 31-69	17000951	5A-1　SX5006　6 層　No.7	剥片	剥片	3.67	5.72	1	13.2	
図 31-70	17000950	5A-1　SX5006　6 層　No.8	剥片	剥片	5.66	3.05	1.1	9.2	表面下部左右縁辺と裏面下部左縁辺に微小剥離痕あり
図 31-71	17000947	5A-1　SX5006　東西ﾍﾞﾙﾄ　3 層	剥片	剥片	5.63	2.8	1.45	16.9	裏面に二次加工あり
図 32-72	17000952	5A-1　SX5006　3 層　AL8	縁部加工	石匙	11.3	7.58	2.2	163.3	
図 32-73	17000959	5A-1　SX50006　3 層	石製品	砥石	〔7.57〕	〔6〕	〔4〕	186.1	赤色・黒色化〔被熱)、表、両側面砥面
図 32-74	17000960	5A-1　SX50006　南北ﾍﾞﾙﾄ　4a 層	石製品	砥石	〔7.3〕	3.2	1.1	40	貫通孔〔両面より穿孔)、下面以外砥面、上、両側面は整形痕か。裏面に敲打痕残る
図 32-75	17000961	5A-1　SX50006　ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	石製品	砥石	〔7.45〕	〔6.4〕	4.1	242.2	黒色化部分あり、割れ以外全面砥面
図 42-4	17000966	5A-6(5B)　SK50340　2 層	石製品	砥石	〔7.9〕	3.95	2.8	152.7	鉄錆付着、下・左側面は折りとりか。表裏、右側面砥面。両側面と裏面にノミ痕多数。
図 46-25	17000957	5A-7　AO12　表土	剥片	剥片	3	〔2.14〕	0.4	1.8	石鏃の可能性あり
図 46-26	17000956	5A-7　AO13　表土	両面加工	石鏃	2.75	2.2	0.4	1.7	脚部の抉り深い
図 46-27	17000953	5A-7　SX50035	剥片	剥片	〔2.27〕	1.6	0.5	1.4	
図 46-28	17000962	5A-7　SD50125	石製品	砥石	〔4.9〕	〔7.9〕	〔1.85〕	81.9	表裏砥面、左右側面にも若干みられる
図 46-29	17000954	5A-10　AS-22　SK50145	剥片	剥片	〔2.09〕	〔1.65〕	0.48	1.1	
図 65-96	17000967	5B-14　SK50383　1 層	石製品	硯	〔9.25〕	6.86	1.2	128.5	波止から海にかけて残存
図 65-97	17000963	5B-14　SE50283　1 層	石製品	砥石	5.63	〔3.8〕	1.2	22.9	割れ面以外全面砥面〔上下両側面は整形痕か〕
図 65-98	17000964	5B-14　SE50270　1 層	石製品	砥石	〔10.4〕	〔7.25〕	2.2	159.7	黒色付着物、表、右側面砥面
図 65-99	17000965	5B-14　SE50283　1 層	石製品	砥石	8.08	4.67	2.3	92.5	全面砥面
図 72-25	17000958	5B-17　AJ12　SK50275	両面加工	石鏃	〔1.7〕	1.9	0.38	0.5	片脚先端欠
図 87-24	17000969	6-1　6 層〔造成土)	剥片	剥片	2.08	1.6	0.5	1.3	
図 87-25	17000972	6-1　6 層〔造成土)	石製品	硯	〔6〕	5.6	1.6	53.2	陸のみ残存
図 87-27	17000973	6-1　表土	石製品	砥石	8.55	4.78	2.1	110.9	黒色付着物、表裏、両側面砥面
図 92-18	17000974	6-2　表土	石製品	砥石	〔7.8〕	4.3	2	102.5	黒色付着物、表裏、右側面砥面、左側面にノミ痕
図 95-9	17000970	6-3　検出面	剥片	剥片	〔4.1〕	4.6	1	12.8	
図 95-10	17000975	6-3　検出面	石製品	硯	〔8.7〕	〔4.05〕	1.45	53.7	
図 105-32	17000976	6-7　検出面	石製品	砥石	〔11〕	5	1.25	70.1	下面欠。それ以外砥面
図 112-17	17000977	6-8　ﾄﾚﾝﾁ 1　4 層	石製品	砥石	〔3.72〕	〔3〕	〔1.5〕	19.8	表裏砥面、右側面整形、左側面、上下割れ
図 112-18	17000978	6-8　ﾄﾚﾝﾁ 1　6 層	石製品	砥石	〔2.55〕	〔2.5〕	0.4	2.6	破片
図 116-79	17000968	6-8-2　13 層〔裏込)	石核	石核	2.55	5.25	3	34	
図 116-80	17000979	6-8-2　9 層〔造成土)	石製品	硯	〔6.95〕	〔3.78〕	1.6	37.9	
図 116-81	17000971	6-8-3　検出面	剥片	剥片	2.4	1.73	0.7	2.7	ピエスとした設定
図 122-54	17000980	6-9-2　検出面	石製品	硯	〔4.7〕	〔4.35〕	2.2	63.4	
図 122-55	17000981	6-9-2　検出面	石製品	砥石	10.4	8.5	2.9	286.5	裏面に斑に黒色化、丁寧に整形した砥石ではない可能性あり。表裏面砥面。裏面下部は自然面もしくは整形痕が残る
図 131-14	17000986	6-13　ﾄﾚﾝﾁ 2　1 層	石製品	砥石	10.2	7.9	1.1	115.3	錆付着、表裏砥面、両側面は整形か
図 131-15	17000987	6-13　ﾄﾚﾝﾁ 2　1 層	石製品	砥石	〔4.45〕	〔2.8〕	〔1.2〕	22.8	表裏、右側面砥面〔裏面は整形痕を残す〕
図 131-16	17000982	6-13　1 層	石製品	硯	9.85	5.45	1.1	103.2	砥石転用。斑に黒色付着物
図 131-17	17000983	6-13　表土　石垣検出中	石製品	砥石	〔6.4〕	〔6.15〕	〔1.5〕	66.1	表裏、右側面砥面
図 142-38	17000990	6-16　ﾄﾚﾝﾁ 4　1 層	石製品	砥石	〔3〕	〔4〕	〔0.25〕	4	表裏砥面、右側面分割痕
図 142-39	17000991	6-16　ﾄﾚﾝﾁ 4　4 層	石製品	砥石	〔10.4〕	〔5.1〕	〔5.2〕	199.7	表裏、両側面砥面
図 143-42	17000992	6-16　SD6055　1 層	石製品	砥石	〔4.7〕	〔2.4〕	〔1.2〕	15	表裏砥面
図 143-45	17001013	6-16　SX60051　2 層	石製品	台座か	24.7	—	10.2	13.1	蓮華座 (8 花弁) か
図 144-46	17000985	6-16　SX60051　3 層	石製品	砥石	〔3.8〕	〔3.3〕	〔2.5〕	40.4	表裏、右側面砥面
図 144-47	17000984	6-16　SX60051　3 層	石製品	砥石	〔6.4〕	5.9	2.1	102.2	表裏、両側面と一部下面砥面
図 144-48	17001014	6-16　SX60051　3 層	石製品	不明	16.7	11.4	7.5	10.0	
図 144-49	17000988	6-16　SX60053　1 層	石製品	砥石	〔9.1〕	〔4〕	0.4	19	錆？付着。表裏と両側面の一部に砥面あり。表裏にある溝は折り取ろうとした痕跡か
図 144-50	17000994	6-16　検出面	石製品	砥石	10.6	4.9	2		
図 144-51	17000989	6-16　検出面	石製品	砥石	〔7.3〕	3.35	2.9	113	上面整形、下面欠。それ以外は砥面
図 144-52	17000993	6-16　検出面	石製品	砥石	7.4	6.8	2.5	129.1	下面やや欠、表裏砥面、右側面整形痕

表 19　小川内遺跡出土遺物観察表 (石臼)

図版番号	登録番号	出土遺構	器種		寸法 残存長 (cm)	残存幅 (cm)	厚さ (cm)	復元径 (cm)	臼径 (cm)	目の分割 (推定)	色調	残存率	備　考
図 42-5	17000995	5A-6　SE50135　1 層	石臼	下臼	20.8	11.0	8.2	30.0		6	褐灰色 (10YR6/1)	1/6	臼面にくぼみ (二次利用か)
図 42-6	17000997	5A-6　SE50135　2 層　No.3	石臼	上臼	20.5	28.8	9.1	33.4		―	黄灰色 (2.5Y6/1)	1/3	芯棒孔　挽き手打込孔
図 72-26	17000996	5B-17　SW50001　ﾄﾚﾝﾁ 4 天端　1 層	石臼	上臼	19.5	30.4	10.3	39.0		6	灰白色 (2.5Y7/1)	1/2	もの配り　芯棒孔　挽き手打込孔
図 87-26	17000998	6-1　造成土　6 層	石臼	上臼	24.6	13.3	7.0	30.0		6	褐灰色 (10YR6/1)	1/3	
図 105-33	17000999	6-7　ﾄﾚﾝﾁ 2　4 層	石臼	下臼	27.5	16.6	11.6	27.5	16.9	8	灰色 (5Y5/1)	1/2	受皿付　芯棒孔貫通
図 112-19	17001000	6-8　ﾄﾚﾝﾁ 1　6 層	石臼	上臼	30.3	16.0	10.2	32.0		6	灰白色 (2.5Y7/1)	1/3	もの配り
図 112-20	17001001	6-8　ﾄﾚﾝﾁ 1　6 層	石臼	上臼	19.2	16.2	9.7	32.0		6	灰白色 (10YR7/1)	1/4	もの配り　火を受ける
図 112-21	17001002	6-8　造成土　9 層	石臼	上臼	16.0	24.6	12.0	31.0		8	褐灰色 (10YR4/1)	1/4	挽き手打込孔
図 112-22	17001003	6-8　造成土　9 層	石臼	下臼	27.4	24.7	9.0	30.0		6	褐灰色 (10YR6/1)	1/2	芯棒孔
図 116-82	17001004	6-8-3　検出面	石臼	上臼	20.9	21.3	11.5	―		6	褐灰色 (10YR6/1)	1/3	挽き手打込孔　芯棒孔
図 121-52	17001005	6-9　ﾄﾚﾝﾁ 1　10 層	石臼	上臼	20.8	32.1	12.0	30.8		6	褐灰色 (2.5Y5/2)	1/2	もの配り　挽き手打込孔　芯棒孔
図 122-56	17001006	6-9-2　検出面	石臼	下臼	18.7	9.5	6.5	30.0	15.2	6	灰色 (5Y5/1)	1/3	受皿付
図 122-57	17001007	6-9-2　検出面	石臼	下臼	21.6	12.0	7.8	36.0	―	―	褐灰色 (10YR6/1)	1/3	受皿付
図 122-58	17001008	6-9-2　検出面	石臼	上臼	27.7	17.7	9.0	32.0		6	褐灰色 (10YR6/1)	1/3	もの配り　芯棒孔
図 143-40	17001011	6-16　ﾄﾚﾝﾁ 4　4 層	石臼	下臼	29.6	29.8	10.2	29.8		―	褐灰色 (10YR7/1)	完形	芯棒孔
図 143-41	17001012	6-16　ﾄﾚﾝﾁ 4　4 層	石臼	下臼	29.0	29.0	12.1	29.0		6	褐灰色 (10YR7/1)	完形	芯棒孔貫通　片減り
図 143-43	17001009	6-16　SX60050　1 層	石臼	上臼	18.0	11.2	8.1	30.0		6	褐灰色 (10YR6/1)	1/8	もの配り
図 143-44	17001010	6-16　SX60050　2 層	石臼	下臼	30.5	22.7	9.8	29.0		6	黄灰色 (2.5Y6/1)	2/3	芯棒孔貫通

表 20　小川内遺跡出土遺物観察表 (木製品)

図版番号	登録番号	遺構名		寸法 (復元値)、〔残存値〕 最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
図 51-3	17000925	5B-11　SK50231	桶底 (No.1/4)	53.2	〔12.3〕	3.3	―	接合部分は全体に欠損
図 51-4	17000926	5B-11　SK50231	桶底 (No.2/4)	76.8	〔13.5〕	3.45	―	木取見えず
図 51-5	17000927	5B-11　SK50231	桶底 (No.3/4)	77.1	〔14.65〕	3.5	―	
図 79-44	17000928	5B-18　SK50325	下駄	22.8	8.8	3.0	282.7	表面に足の指の圧痕あり。裏面に歯を形成する際に工具により出来た溝が歯の前後にみられる。
図 79-45	17000929	5B-18　SK50325	タモ柄か	17.5	19.5	1.05	26.4	
図 79-46	17000930	5B-18　SK50325	板材 No.1	25.3	〔19.6〕	2.25	684.0	
図 79-47	17000931	5B-18　SX50345	桶底	59.15	〔56.7〕	2.6	―	中央を木釘にて接合。木釘跡 3 力所 (2 本残存)
図 79-48	17000932	5B-18　SB50380(P50367)	櫛破片	〔2.9〕	〔3.7〕	1.0	2.6	木取見えず
図 79-49	17000932	5B-18　SB50380(P50367)	櫛破片	〔2.9〕	〔6.8〕	0.9	9.3	木取見えず
図 80-50	17000936	5B-18　SA50398	杭 2	〔18.0〕	〔16.5〕	13.85	―	下面に黒色の付着物あり
図 80-51	17000937	5B-18　SA50398	杭 3	〔14.85〕	〔13.5〕	12.45	―	
図 80-52	17000933	5B-18　SA50398	杭 4	〔25.4〕	〔13.7〕	10.7	―	上面に黒色の付着物あり
図 80-53	17000934	5B-18　SA50398	杭 8	〔38.5〕	〔13.1〕	11.5	―	
図 80-54	17000935	5B-18　SA50398	杭 9	〔36.7〕	〔14.0〕	11.9	―	
図 145-53	17000938	6-16　SB60058　No.1　2 層	漆器碗	―	口径 [12.8]	器高 〔8.0〕	61.4	木取見えず
図 145-54	17000939	6-16　SX60051　3 層	板 (墨書有)	〔13.85〕	〔7.25〕	0.9	80.2	「喜」の墨書あり
図 145-55	17000940	6-16　SX60051　3 層	コマ状木製品	4.65	径 [7.4]	―	32.0	径の 1/4 程残存。木取見えず
図 145-56	17000941	6-16　SX60051　3 層	栓状木製品	5.7	3.6	〔2.75〕	23.1	
図 145-57	17000942	6-16　SX60051　3 層	木槌 (頭のみ)	19.25	7.65	6.9	726.0	長方形の柄穴有

表 21　小川内小学校遺跡出土遺物観察表 (石器)

図版番号	登録番号	出土遺構	種別	器　種	寸法 (復元値)、〔残存値〕			重量 (g)	備考
					長軸 (cm)	短軸 (cm)	厚さ (cm)		
図 155-2	17001016	E-5 区 ﾄﾚﾝﾁ 5 取 No.6 7-a 層	石鏃	両面加工	2.34	1.9	0.35	1.5	
図 155-3	17001017	E-5 区 ﾄﾚﾝﾁ 6 取 No.7　基 9-a 層	石鏃	両面加工	2	〔1.7〕	0.35	0.7	脚欠
図 155-4	17001018	E-5 区　基 7-a 層　上面	剥片	剥片	1.4	2.32	0.7	1.3	
図 155-5	17001021	E-5 区 ﾄﾚﾝﾁ 6 取 No.8 基 9-a 層	剥片	縁部加工	2.3	3.14	0.6	3.6	
図 155-6	17001019	F-5 区 ﾄﾚﾝﾁ 4 基 9-a 層	剥片	剥片	1.54	1.22	0.28	0.4	
図 155-7	17001020	E-5 区 ﾄﾚﾝﾁ 5 基 4 層	剥片	剥片	3.3	2.65	0.85	5.4	
図 155-8	17001015	C-3 区　試掘坑 No.3 取 No.1 白 8 層	剥片	剥片	〔4.8〕	4.5	1.3	29.8	

写真図版

1. 五ケ山ダム (北から)　福岡県五ケ山ダム建設事務所提供

2. 五ケ山ダム (南から)　福岡県五ケ山ダム建設事務所提供

3. 小川内遺跡遠景 (南東から)

写真図版 2

1. 小川内遺跡遠景 (北西から)

2. 小川内遺跡調査前全景 (北から)

3. 小川内遺跡調査前全景

1. 小川内遺跡 3 区全景

2. 小川内遺跡 3 区炭窯 1

3. 小川内遺跡 3 区炭窯 2

写真図版 4

1. 小川内遺跡 4 区全景

2. 小川内遺跡 5A 区全景

3. 小川内遺跡 5B 区全景

1. 小川内遺跡　平坦面 5A-1 全景

2. 小川内遺跡　平坦面 5A-6・7 全景

3. 小川内遺跡　平坦面 5B-14 全景

写真図版 6

1. 小川内遺跡　平坦面 5B-18 全景

2. 小川内遺跡 6 区全景

3. 小川内遺跡 6 区西半全景

1. 小川内遺跡　平坦面 6-1 ～ 3 全景

2. 小川内遺跡　平坦面 6-7 ～ 10 全景

3. 小川内遺跡　平坦面 6-1 全景

写真図版 8

1. 小川内遺跡　平坦面 6-7 全景

2. 小川内遺跡 6 区東半全景

3. 小川内遺跡　平坦面 6-12 ～ 14 全景

1. 小川内遺跡　平坦面 6-16 全景

2. 小川内遺跡　平坦面 6-17 全景

3. 小川内遺跡全景 (合成)

写真図版 10

1. 3 区北側完掘状況 (東から)

2. 3 区完掘状況 (南東から)

3. 3 区完掘状況 (南東から)

4. 3 区中央付近完掘状況 (東から)

5. 3 区中央付近完掘状況 (東から)

6. 3 区中央付近完掘状況 (東から)

7. 3 区南側完掘状況 (東から)

8. 3 区南側完掘状況 (南東から)

1. 3 区 AP-33 区造成土ﾄﾚﾝﾁ（西から）

2. 3 区 .SW30001 西側 (北東から）

3. 3 区 SW30001 東側 (北西から）

4. 3 区 SW30001 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層 (西から）

5.3 区 SW30002 石垣

6. 3 区 SW30002 石垣

7. 3 区 SA30003 完掘状況 (東から）

8. 3 区 SD30008 完掘状況 (西から)

1. 3 区 SY30004・5・6 完掘状況 (西から)

2. 3 区 SY30004 検出状況 (北から)

3. 3 区 SY30004 床面検出状況 (北から)

4. 3 区 SY30004 煙道部断面 (東から)

5. 3 区 SY30004 灰原土層 (東から)

6. 3 区 SY30004 完掘状況 (北から)

7. 3 区 SY30005 検出状況 (北から)

8. 3 区 SY30005 完掘状況 (北から)

1. 3 区 SY30006 完掘状況 (北から)

2. 3 区 SY30006 土層 (東から)

3. 3 区 SY30006 煙道部断面 (東から)

4. 3 区 SY30007 (北から)

5. 3 区 SY30007 南北土層 (東から)

6. 3 区 SY30007 煙道部 (北から)

7. 3 区 SY30009 (北から)

8. 3 区 SY30009 南北土層 (東から)

写真図版 14

1. 3 区 SY30010 (北から）

2. 3 区 SY30010 煙道部 完掘状況 (北から）

3. 3 区 SY30010 南北土層 (東から）

4. 3 区 SY30010 東西土層 (北から）

5. 3 区 SX30011 完掘状況 (北から）

6.3 区作業風景

7. 3 区実測風景

8. 3 区全景 (北東から）

1. 大山祇神社石垣 A (北東から)

2. 大山祇神社石垣 B (北西から)

3. 大山祇神社石垣 C (南西から)

4. 大山祇神社石垣 E (北東から)

5. 大山祇神社石垣 F (北から)

6. 大山祇神社石垣 G・H (南から)

7. 大山祇神社石垣 I (東から)

8. 大山祇神社石垣 J (北から)

1. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 (南から)

2. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 a (西から)

3. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 b 検出 (東から)

4. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 b (西から)

5. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 c (西から)

6. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 1 断面 d (北から)

7. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 2 断面 a (南から)

8. 大山祇神社ﾄﾚﾝﾁ 2 断面 b (西から)

1. 4 区全景 (南東から)

2. 4 区東側完掘状況 (南西から)

3. 4 区東側完掘状況 (西から)

4. 4 区中央完掘状況 (北東から)

5. 4 区西側完掘状況 (南西から)

6. 4 区作業風景

7. 4 区作業風景

8. 4 区全景 (西から)

1. 平坦面 5A-1 SX50006 6 層上面完掘状況 (南から)

2. 平坦面 5A-1 SX50006_6 層上面完掘状況 (北から)

3. 平坦面 5A-1 SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 1 北壁 (南東から)

4. 平坦面 5A-1 SX50006 ﾄﾚﾝﾁ 2 西壁 (東から)

5. 平坦面 5A-1 SW50002 全景（南東から）

6. 平坦面 5A-1 SF50003 北側石垣（北から）

7. 平坦面 5A-1 SW50005 全景（南から）

8. 平坦面 5A-1 SB50202 完掘状況（北西から）

1. 平坦面 5A-1 SA50200・50201（北から）

2. 平坦面 5A-1 SK50031 土層断面（北から）

3. 平坦面 5A-1 SK50032 東西ﾍﾞﾙﾄ土層（北から）

4. 平坦面 5A-1 SK50033（西から）

5. 平坦面 5A-1 SD50148 土層断面（南から）

6. 平坦面 5A-1 作業風景

7. 平坦面 5A-3 AH・AI －6・7 検出状況（西から）

8. 平坦面 5A-4 SK50106 東西ﾍﾞﾙﾄ土層（南から）

1. 平坦面 5A-6 SB50090 (西から)

2. 平坦面 5A-6 SK50340 桶検出状況 (南から)

3. 平坦面 5A-6 SE50135 石組井戸 (北から)

4. 平坦面 5A-6 SE50135 井戸枠 (南から)

5. 平坦面 5A-7 SB50060（西から）

6. 平坦面 5A-7 SB50070（西から)

7. 平坦面 5A-7 SA50055 (東から)

8. 平坦面 5A-7 SJ50065 埋甕 (南から)

1. 平坦面 5A-7 SX50035 検出状況（東から）

2. 平坦面 5A-7 SX50035（南から）

3. 平坦面 5A-7 SE50030 石組井戸 (南から）

4. 平坦面 5A-7 SE50030 井戸枠（南から）

5. 平坦面 5B-11 AF-6 区遺構完掘状況（北から ）

6. 平坦面 5B-11 SK50231（東から）

7. 平坦面 5B-11 SJ50228（北から）

8. 平坦面 5B-11 AF-6･7 区ﾄﾚﾝﾁ西壁 (東から)

1. 平坦面 5B-12 SA50236 (北から)

2. 平坦面 5B-12 SD50243・244 (西から)

3. 平坦面 5B-12 SD50243 土層断面 (西から)

4. 平坦面 5B-12 SD50244 土層断面 (東から)

5. 平坦面 5B-13 AG-10 区検出状況 (南から)

6. 平坦面 5B-13 AG-10 区完掘状況 (南から)

7. 平坦面 5B-14 SW50385（東から）

8. 平坦面 5B-14 SW50386（南から）

1. 平坦面 5B-14 SX50383 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層（北から）

2. 平坦面 5B-14 SX50383 ﾄﾚﾝﾁ 2 東壁（南西から）

3. 平坦面 5B-14 SK50260 検出状況（南から）

4. 平坦面 5B-14 SK50284 炭化物検出状況（北から）

5. 平坦面 5B-14 SJ50262 埋甕（東から）

6. 平坦面 5B-14 SE50270（東から）

7. 平坦面 5B-14 SE50283（東から）

8. 平坦面 5B-14 SD50265・281（西から）

1. 平坦面 5B-15 SK50319 土層断面 (南から)

2. 平坦面 5B-15 SJ50296 土層断面 (西から)

3. 平坦面 5B-16 AN-14・15 区ﾄﾚﾝﾁ 2 土層 (東から)

4. 平坦面 5B-16 SD50290 土層断面 (東から)

5. 平坦面 5B-16 SK50295 炭化物検出状況 (東から)

6. 平坦面 5B-16 SJ50289 (南から)

7. 平坦面 5B-17 SW50001 全景（東から）

8. 平坦面 5B-17 SK50268 土層断面（北から）

1.1064_ 平坦面 5B-18 AP-17 区完掘状況（南西から）

2. 平坦面 5B-18 SB50380（西から）

3. 平坦面 5B-18 P50367 土層断面（南から）

4. 平坦面 5B-18 P50367 遺物出土状況（南から）

5. 平坦面 5B-18 SK50325 遺物出土状況（北から）

6. 平坦面 5B-18 SK50343（西から）

7. 平坦面 5B-18 SX50345 (南から)

8. 平坦面 5B-18 SX50344 南北ﾍﾞﾙﾄ土層 (東から)

1. 平坦面 5B-18 SX50344 東西ベルト土層 (南から)

2. 平坦面 5B-18 SA50398 (西から)

3. 平坦面 5B-18 SA50398 (北から)

4. 平坦面 5B-18 SA50398 杭 2 (東から)

5. 平坦面 5B-18 SA50398 杭 3 (東から)

6. 平坦面 5B-18 SA50398 杭 8 (北から)

7. 平坦面 5B-19 AR-20 区完掘状況 (西から)

8. 平坦面 5B-19 SE50312 (北から)

1. 平坦面 6-1 完掘状況 (南から)

2. 平坦面 6-1 ﾄﾚﾝﾁ 1 (西から)

3. 平坦面 6-1 ﾄﾚﾝﾁ 1 (西から)

4. 平坦面 6-1 SB60001 (西から)

5. 平坦面 6-1 SB60001 No.2 (北から)

6. 平坦面 6-1 SB60001 No.5(西から)

7. 平坦面 6-1 SB60001 No.7 (南から)

8. 平坦面 6-1 SA6002 (南から)

1. 平坦面 6-1 SK60003 (南から)

2. 平坦面 6-1 SK60003 礫除去後 (南から)

3. 平坦面 6-1 SK60004 (東から)

4. 平坦面 6-1 SK60005 土層断面 (南から)

5. 平坦面 6-1 石垣 (北から)

6. 平坦面 6-1 石垣 (北から)

7. 平坦面 6-1 石垣 (北から)

8. 平坦面 6-1 石垣 (北から)

1. 平坦面 6-2 完掘状況西側 (南から)

2. 平坦面 6-2 完掘状況 (北東から)

3. 平坦面 6-2 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (西から)

4. 平坦面 6-2 ﾄﾚﾝﾁ 2 土層断面 (南から)

5. 平坦面 6-2 ﾄﾚﾝﾁ 3 土層断面 (北西から)

6. 平坦面 6-2 ﾄﾚﾝﾁ 4 土層断面 (東から)

7. 平坦面 6-2 ﾄﾚﾝﾁ 5 土層断面 (東から)

8. 平坦面 6-2 ﾄﾚﾝﾁ 6 西壁土層断面 (東から)

1. 平坦面 6-2 ﾄﾚﾝﾁ 7 西壁土層断面 (東から)

2. 平坦面 6-2 SK60017 完掘状況 (東から)

3. 平坦面 6-2 SK60018 (東から)

4. 平坦面 6-2 暗渠 (北東から)

5. 平坦面 6-2 石垣 (北から)

6. 平坦面 6-2 石垣 (北から)

7. 平坦面 6-2 石垣 (北から)

8. 平坦面 6-2 石垣 (北から)

1. 平坦面 6-3 完掘状況 (西から)

2. 平坦面 6-3 完掘状況 (東から)

3. 平坦面 6-3 完掘状況 (西から)

4. 平坦面 6-3 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層断面 (北から)

5. 平坦面 6-3 ﾄﾚﾝﾁ 2 西壁土層断面（東から）

6. 平坦面 6-3 ﾄﾚﾝﾁ 3 北壁土層断面（南から)

7. 平坦面 6-3 ﾄﾚﾝﾁ 4 西壁土層断面（東から)

8. 平坦面 6-3 ﾄﾚﾝﾁ 5 北壁土層断面 (南から)

1. 平坦面 6-3 ﾄﾚﾝﾁ 6 南壁土層 (北から)

2. 平坦面 6- 3 石垣検出状況 (北から)

3. 平坦面 6- 3 石垣検出状況 (北から)

4. 平坦面 6- 3 石垣検出状況 (北から)

5. 平坦面 6-4 完掘状況 (西から)

6. 平坦面 6-5 完掘状況 (東から)

7. 平坦面 6-6 完掘状況 (南から)

8. 平坦面 6-6 石垣検出状況 (西から)

1. 平坦面 6-7 完掘状況 (東から)

2. 平坦面 6-7 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (南西から)

3. 平坦面 6-7 ﾄﾚﾝﾁ 2 東壁土層断面 (西から)

4. 平坦面 6-7 SB60019 ～ SB60022 (南から)

5. 平坦面 6-7 SB60019 (西から)

6. 平坦面 6-7 SB60019No.6 土層断面 (北から)

7. 平坦面 6-7 SB60020 (西から)

8. 平坦面 6-7 SB60021 (西から)

1. 平坦面 6-7 SB60022 (北から)

2. 平坦面 6-7 SK60026 (北から)

3. 平坦面 6-7 SK60031 (北から)

4. 平坦面 6-7 SK60032・33・34 (西から)

5. 平坦面 6-7 井戸 (東から)

6. 平坦面 6-7 石垣 (北東から)

7. 平坦面 6-7 石垣 (北東から)

8. 平坦面 6-7 石垣 (北東から)

1. 平坦面 6-8 完掘状況 (西から)

2. 平坦面 6-8-2 完掘状況 (南から)

3. 平坦面 6-8-3 完掘状況 (南から)

4. 平坦面 6-8 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (西から)

5. 平坦面 6-8 石垣 (北東から)

6. 平坦面 6-8 石垣 (北から)

7. 平坦面 6-8-2 SW60105 ～ 108 (北から)

8. 平坦面 6-8-2 SW60108 (北から)

1. 平坦面 6-8-2 SW60108 (西から)

2. 平坦面 6-8-2 SW60105 ～ 108 (北から)

3. 平坦面 6-8-2 SW60105・106 (北から)

4. 平坦面 6-8-2 SW60105・106 (北から)

5. 平坦面 6-8-2 SW60106 (南から)

6. 平坦面 6-8-2 SW60106 (北から)

7. 平坦面 6-8-3 SD60129 (北から)

8. 平坦面 6-8 井戸 (東から)

1. 平坦面 6-9 完掘状況 (北西から)

2. 平坦面 6-9 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (西から)

3. 平坦面 6-9-2 完掘状況 (西から)

4. 平坦面№ 6-9-2 SW60127 (東から)

5. 平坦面 6-10 完掘状況 (北から)

6. 平坦面 6-10 ﾄﾚﾝﾁ 1 東壁土層 (西から)

7. 平坦面 6-12 完掘状況 (北から)

8. 平坦面 6-12 SK60035 土層断面 (南から)

1. 平坦面 6-13 完掘状況 (南から)

2. 平坦面 6-13 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層断面 (北東から)

3. 平坦面 6-13 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層断面 (北から)

4. 平坦面 6-13 ﾄﾚﾝﾁ 2 南壁土層断面 (西から)

5. 平坦面 6-13 SB60036 (南から)

6. 平坦面 6-13 SB60037 (南から)

7. 平坦面 6-13 SB60038 (南から)

8. 平坦面 6-13 SB60038No.5 土層 (東から)

1. 平坦面 6-13 SD60042・46・47 (西から)

2. 平坦面 6-13 SD60045 土層断面 (北から)

3. 平坦面 6-13 SK60040 (南から)

4. 平坦面 6-13 SK60041 タガ痕跡 (東から)

5. 平坦面 6-13 SK60041 (東から)

6. 平坦面 6-13 SW60043・44 (東から)

7. 平坦面 6-13 SW60043・44 (南から)

8. 平坦面 6-13 SW60043・44 (北から)

1. 平坦面 6-14 完掘状況 (南から)

2. 平坦面 6-14 ﾄﾚﾝﾁ 2 (北から)

3. 平坦面 6-14 石垣 (東から)

4. 平坦面 6-14 石垣 (東から)

5. 平坦面 6-15 完掘状況 (東から)

6. 平坦面 6-15 ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層断面 (北から)

7. 平坦面 6-15 石垣 (東から)

8. 平坦面 6-15 石垣 (東から)

1. 平坦面 6-16 完掘状況 (西から)

2. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 1 土層断面 (南から)

3. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 2 東壁土層断面 (西から)

4. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 3 北壁土層断面 (南から)

5. 平坦面 6-16 ﾄﾚﾝﾁ 4 北壁土層断面 (南から)

6. 平坦面 6-16 SB60058 完掘状況 (北から)

7. 平坦面 6-16 SB60058 (東から)

8. 平坦面 6-16 SB60058No.1 椀出土状況 (南から)

1. 平坦面 6-16 SK60049 焼土検出状況 (南から)

2. 平坦面 6-16 SK60059 土層断面 (南から)

3. 平坦面 6-16 SX60048 検出状況 (南西から)

4. 平坦面 6-16 SX60048 完掘状況 (南から)

5. 平坦面 6-16 遺構完掘状況 (北から)

6. 平坦面 6-16 SX60050 (西から)

7. 平坦面 6-16 SX60050 石積状況 (東から)

8. 平坦面 6-16 SX60051 (西から)

1. 平坦面 6-17 完掘状況 (北から)

2. 平坦面 6-17 ﾄﾚﾝﾁ 1 東壁土層断面 (西から)

3. 平坦面 6-17 SB60080 (東から)

4. 平坦面 6-17 SB60080No.4 土層断面 (東から)

5. 平坦面 6-17 SK60083 桶材検出状況 (東から)

6. 平坦面 6-17 SK60085 桶材検出状況 (東から)

7. 平坦面 6-17 SK60089 (東から)

8. 平坦面 6-17 SJ60082 土層断面 (南西から)

1. 平坦面 6-17 SJ60084 (東から)

2. 平坦面 6-17 SX60088 (北から)

3. 平坦面 6-17 SX60088 (東から)

4. 平坦面 6-17 SX60088 土層断面 (北から)

5. 平坦面 6-17 SW60087 (西から)

6. 平坦面 6-17 SW60086 (東から)

7. 平坦面 6-17 SW60086 (東から)

8. 平坦面 6-17 SW60099 (東から)

図 30-31

図 30-44

図 30-32

図 51-2

図 55-4

図 55-5

図 64-79

図 120

小川内遺跡の出土遺物 (土器)

図 42-2 表　図 42-2 裏

図 42-3

図 142-33

図 142-34

図 46-21 前　図 46-21 横

図 65-92 上　図 65-92 横

図 65-93

図 121-45

図 121-46 裏

図 65-89

図 46-16

図 46-17

図 46-19

図 72-24

図 78-39

図 105-28

図 121-43

図 121-44

図 46-18

図 46-20

図 65-91

小川内遺跡の出土遺物 (土製品)

図 31-52・53・54・60、図 116-74

図 31-55

図 121-47・48・49

図 78-40、図 87-22

図 65-94、図 142-35

図 31-56

図 31-57

図 31-58

図 31-59

図 31-61

図 46-24

図 69-11

図 78-41

図 142-36

小川内遺跡の出土遺物 (鉄製品)

図 105-31

図 121-50

図 142-37

図 148-8

図 65-95

図 78-42

図 78-43

図 92-16

図 92-17 表

図 92-17 裏

図 105-34 表

図 112-16 表

図 112-16 裏

図 116-75

図 116-76 表

図 116-76 裏

図 116-77

図 116-78

図 121-51

図 122-53

図 122-59

図 145-58 表

図 145-58 裏

図 148-9

小川内遺跡の出土遺物 (青銅製品・銭貨)

図 31-62 ～ 66、図 46-26、図 72-25

図 31-67 ～ 71、図 46-25・27・29、図 87-24、図 95-9、図 116-81

図 32-72

図 116-79

図 65-96

図 87-25

図 95-10

図 116-80

図 122-54

図 131-16 表　図 131-16 裏

図 32-73

図 32-74

図 32-75

小川内遺跡の出土遺物 (石器・石製品)

図 42-4

図 46-28

図 65-97

図 65-98

図 65-99

図 87-27

図 92-18

図 105-32

図 112-17

図 112-18

図 122-55

図 131-14

図 131-15

図 131-17

図 142-38

図 142-39

図 143-42

図 144-46

図 144-47

図 144-49

図 144-50

図 144-51

図 144-52

小川内遺跡の出土遺物 (砥石)

図 42-5

図 42-6

図 72-26

図 87-26

図 105-33

図 112-19

図 112-20

図 112-21

図 112-22

図 116-82

図 121-52

図 122-56

図 122-57

図 122-58

図 143-40

図 143-41

図 143-43

図 143-44

図 143-45

図 144-48

小川内遺跡の出土遺物 (石臼・石製品)

図 51-3、4、5

図 79-44

図 79-45

図 79-46

図 79-47

図 79-48

図 79-49

図 80-50

図 80-51

図 80-52

図 80-53

図 80-54

図 145-53

図 145-57

図 145-54

図 145-55

図 145-56

小川内遺跡の出土遺物 (木製品)

1. 小川内小学校遺跡遠景 (北から)

2. 小川内小学校遺跡全景 (北東から)

3. 小川内小学校遺跡完掘状況 (東から)

1. 試掘坑 No.3 東壁土 (西から)

2. ﾄﾚﾝﾁ 1 北壁土層 (南から)

3. ﾄﾚﾝﾁ 1 南壁土層 (北から)

4. ﾄﾚﾝﾁ 2 南壁土層 (北から)

5. ﾄﾚﾝﾁ 3 完掘状況 (東から)

6. ﾄﾚﾝﾁ 4 拡張ﾄﾚﾝﾁ北壁土層 (南から)

7. ﾄﾚﾝﾁ 2・3 試掘抗 No.3 完掘状況 (西から)

8. 石垣検出状況 (北から)

1. 基 7-a 層上面遺構完掘状況 (東から)

2. ﾄﾚﾝﾁ 5 完掘状況 (東から)

3. ﾄﾚﾝﾁ 6 完掘状況 (北から)

4. ﾄﾚﾝﾁ 7 東壁土層断面 (西から)

5.D･E- 4・ 5 区完掘状況 (北から)

6. ﾄﾚﾝﾁ 4 ～ 7 完掘状況 (北から)

7. 小川内小学校遺跡の出土遺物 (図 155-1)

8. 小川内小学校遺跡の出土遺物 (図 155-2 ～ 8)

報 告 書 抄 録

ふりがな	おがわちいせき　おがわちしょうがっこういせき
書　　名	小川内遺跡Ⅱ・小川内小学校遺跡
副 書 名	福岡県営五ケ山ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第 220 集
編集機関	佐賀県教育委員会
所 在 地	〒 840-8570
	佐賀県佐賀市城内一丁目 1 番 59 号　電話番号 0952(25)-7233
発行年月日	西暦 2018(平成 30) 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おがわちいせき 小川内遺跡 おがわちしょうがっこういせき 小川内小学校遺跡	さがけんかんざきぐん 佐賀県神埼郡 よしのりちょう 吉野ヶ里町 まつくまあざまえだ 松隈字前田・ ふろうごうち 古小川内	41327	小川内遺跡 0001 小川内小学校遺跡 0002	33° 41′ 43″	130° 40′ 59″	2013 1101 ～ 2016 0303	小川内遺跡 21,565m² 小川内小学校遺跡 892m²	福岡県営 五ケ山ダム 建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
おがわちいせき 小川内遺跡 おがわちしょうがっこういせき 小川内小学校遺跡	集落跡	江戸時代	掘立柱建物、土坑、柵列、溝、井戸、炭窯、石垣	中国産陶磁器 土師器・瓦器・国産陶磁器 土製品 (鈴・鳩笛・水滴) 鉄製品 (釘・鉄滓) 青銅製品 (簪・手鏡・銭貨) 石製品 (硯・砥石・石臼) 木製品 (下駄・タモ・木槌・杭)	中・近世の集落跡

要約

小川内遺跡は中世及び江戸時代の集落跡であり、最終的景観は石垣構築による平坦面が階段状に連なる。調査の結果、建て替えを含む掘立柱建物15棟、水や貯蔵用とみられる桶埋設遺構や便所と見られる甕埋設遺構、井戸等を検出し、山内集落構造を明らかにできた。また、江戸時代の出土遺物においては17世紀後半から18世紀前半と18世紀後半から幕末の2つ画期が見られるが、その様相は大きく異なり居住者の性格が大きく変化した可能性が推定される。

小川内小学校遺跡は那珂川に開く山麓沖積地に位置し、谷地形の埋没に伴って縄文時代の遺物が２次堆積した遺跡である。また、近世以降は水田としての利用が推定される。

佐賀県文化財調査報告書　第 220 集

小川内遺跡Ⅱ・小川内小学校遺跡

- 福岡県営五ケ山ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

2018 年 3 月 31 日

編集・発行

佐賀県教育委員会

〒 840-8570　佐賀県佐賀市城内一丁目 1 番 59 号

TEL0952-25-7233

印　　刷

株式会社　三光

〒 848-0022　佐賀県伊万里市大坪町乙 4161-1